

令和元年度

墨田区一般廃棄物処理基本計画改定に向けた
基礎調査報告書

令和2年2月

墨田区

目次

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査	1
1.1 調査概要	1
1.1.1 調査の目的	1
1.1.2 調査対象	1
1.1.3 調査項目	1
1.1.4 調査期間	1
1.2 調査方法	1
1.2.1 調査地域及び調査実施日	1
1.2.2 調査方法	2
1.3 調査結果	5
1.3.1 燃やすごみ	5
1.3.2 燃やさないごみ	25
1.3.3 まとめ	41
2. 区民のごみ減量に対する意識調査	43
2.1 調査概要	43
2.1.1 調査の目的	43
2.1.2 調査内容	43
2.1.3 調査対象	43
2.1.4 調査期間	44
2.2 調査方法	44
2.3 調査結果	45
2.3.1 回答者の属性	45
2.3.2 問1 燃やすごみ、燃やさないごみの排出量	55
2.3.3 問2 資源物の排出方法	61
2.3.4 問3 ごみに関する情報の入手先	66
2.3.5 問4 区のごみ処理や情報公開に関する満足度	73
2.3.6 問5 ごみへの関心度	76
2.3.7 問6 ごみに関する行動	82
2.3.8 問7 食品ロスに関する認知度	88
2.3.9 問8 容器包装プラスチック分別収集への協力	97
2.3.10 問9 容器包装プラスチックの拠点回収への協力	101
2.3.11 問10 区の施策の認知度及び協力状況	105
2.3.12 問11 ごみの分別に関する問題	129

2.3.13 問 12	区のごみ、資源物収集頻度に関する満足度	143
2.3.14 問 13	区の施策に関する満足度	147
2.3.15 問 14	区の清潔さに関する満足度	150
2.3.16 問 15	自由意見	153
2.3.17	経年変化	159
2.3.18	まとめ	169
3.	事業所のごみ減量に対する意識調査	173
3.1	調査概要	173
3.1.1	調査の目的	173
3.1.2	調査内容	173
3.1.3	調査対象	174
3.1.4	調査期間	175
3.2	調査方法	175
3.3	調査結果	176
3.3.1	事業所の属性	176
3.3.2 問 1	ごみ集積所への排出有無	184
3.3.3 問 2	家庭ごみと事業系ごみの分別状況（住宅併設の事業所のみ回答）	188
3.3.4 問 3	一般廃棄物収集運搬許可業者に委託していない理由	192
3.3.5 問 4	食品ロス削減推進法の認知度	193
3.3.6 問 5	食品ロス削減策の実施状況	197
3.3.7 問 6	食品ロス削減策を実施していない理由	198
3.3.8 問 7	ごみの排出・分別状況及び排出量	199
3.3.9 問 8	廃プラスチックの排出方法についての理解度	223
3.3.10 問 9	ごみ排出量の変化に対する認識	227
3.3.11 問 10	ごみの減量化、資源化、分別に関する取り組みの実施状況	231
3.3.12 問 11	ごみの減量や資源化に取り組む理由	232
3.3.13 問 12	ごみの減量や資源化に取り組むうえでの問題点	242
3.3.14 問 13	ごみの減量化、資源化を検討している品目	252
3.3.15 問 14	ごみに関する情報の入手先	262
3.3.16 問 15	必要と考えている施策	272
3.3.17 問 16	自由意見（抜粋）	282
3.3.18 問 17	包装材、レジ袋等の使用状況（『小売店』『販売店』限定）	283
3.3.19 問 18	ごみの減量やリサイクルの取り組み（『小売店』『販売店』限定）	284
3.3.20	経年変化	288
3.3.21	まとめ	292

4. 河川のプラスチックごみ回収調査	297
4.1 調査概要	297
4.1.1 調査の目的	297
4.1.2 調査対象河川	297
4.1.3 調査項目	297
4.1.4 調査期間	297
4.2 調査方法	297
4.2.1 河川への網の設置	297
4.2.2 ごみの回収及び計量・記録	297
4.2.3 調査地点	297
4.3 調査結果	298
4.3.1 確認されたごみ	298
4.3.2 調査結果からの考察	299

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査

1.1 調査概要

1.1.1 調査の目的

実態調査は、墨田区内の家庭ごみ及び事業系から排出されるごみについて、組成等の排出状況を確認し、分別状況等の実態を把握することを目的として実施した。

1.1.2 調査対象

- (1) 家庭ごみにおける燃やすごみ
- (2) 家庭ごみにおける燃やさないごみ
- (3) 事業系ごみにおける燃やすごみ
- (4) 事業系ごみにおける燃やさないごみ

1.1.3 調査項目

- (1) 組成（湿重量）
- (2) 容積
- (3) 含水率

1.1.4 調査期間

自 2019年10月15日（火）

至 2019年10月28日（月）

1.2 調査方法

1.2.1 調査地域及び調査実施日

調査地域は、前回の調査地域（12地域）に、繁華街地域を1つ追加した13地域とした。また、調査は10月15日（火）～10月28日（月）の12日間（日曜日は除く）で実施した。調査地域及び調査実施日を表1.2.1に示す。

表 1.2.1 調査地域及び調査実施日

地域	要件	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
		第3曜日							第4曜日							
		火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
A 江東橋3	繁華街地域									不	可				可	
B 錦糸2	繁華街地域			可				可		不						
C 亀沢2	職住混在地域（観光拠点）			可		不		可								
D 業平1～3	職住混在地域（観光拠点）	可									不	可				
E 京島3	職住混在地域	可		不								可				
F 立花6	職住混在地域		可		不								可			
G 吾妻橋1	職住混在地域				可			不	可							
H 横川5	住居地域（集合住宅）		不								可				可	
I 文花3	住居地域（集合住宅）		可									不	可			
J 墨田5	住居地域（集積所）	不				可				可						
K 千歳3	住居地域（集積所）			可				可					不			
L 東向島6	住居地域（戸別偏在）					可			不	可						
M 向島4	住居地域（戸別偏在）				可				可						不	
サンプル数		3	3	4	3	3		4	3	4	3	3	3		3	

可：燃やすごみ 不：燃やさないごみ

1.2.2 調査方法

(1) 試料採取と運搬

墨田区の職員が調査対象地域のごみ集積所から試料を採取し、墨田清掃工場に搬入した。

(2) 搬入量の計測及び事業所名の記録

試料を袋のまま家庭ごみと事業系ごみに分け、重量を計測した。また、「事業所のごみ減量に対する意識調査」に活用するため、事業系ごみの有料ごみ処理券に記載されている事業所名を記録した。

(3) 縮分

家庭ごみの燃やすごみは重量 50～100kg 程度に、事業系ごみの燃やすごみは重量 50～100kg 程度に縮分を行った。また、燃やさないごみ（家庭ごみ、事業系ごみ共通）は、袋の状態に重量 50kg 程度に縮分を行った。

(4) 分類・組成調査

破袋して、組成分類項目別（小分類で 86 項目。表 1.2.2 及び表 1.2.3 を参照）に分類を行った後、組成分類項目毎に重量の計測、写真撮影を行った。なお、分類後に項目毎に容量を計量し、全体容量は項目毎の容量を合計することで算出を行った。

(5) 片付け・室内試験

分別後の燃やすごみはピットへ投入した。また、燃やさないごみはすみだ清掃事務所に搬入し、処分を行った。

また、家庭ごみの生ごみ及び生ごみ以外のごみをサンプルとして一部持ち帰り、室内試験によって含水率を測定した。測定は、24 時間後（自然乾燥後）と乾燥後（恒量を得るまで乾燥機を使用）の 2 回実施した。

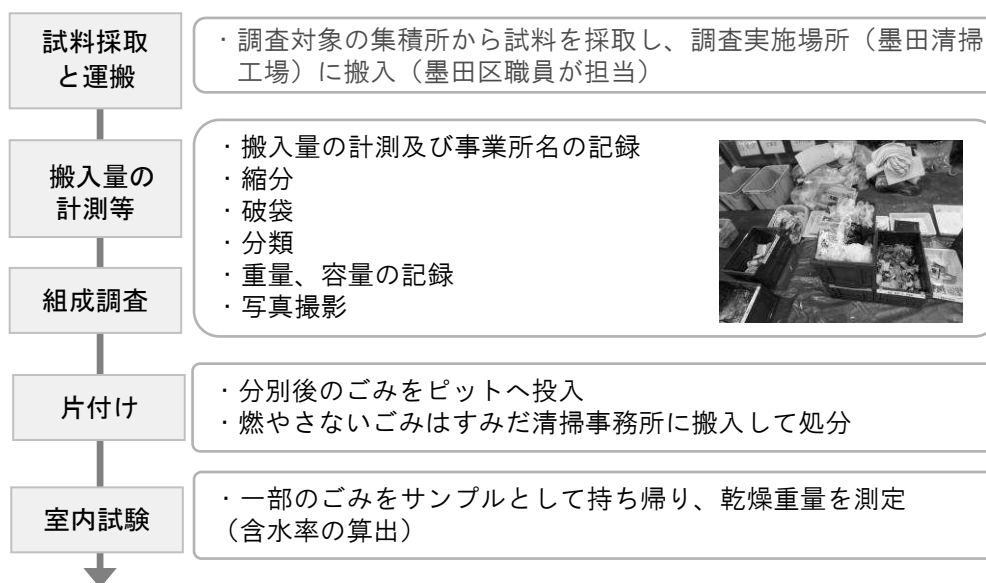


図 1.2.1 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査の実施フロー

表 1.2.2 組成分類項目 (1)

No.	大分類	中分類	小分類
1	紙類	新聞紙	新聞紙 (リサイクル可)
2			新聞紙 (リサイクル不可の状態)
3		チラシ	チラシ (リサイクル可)
4			チラシ (リサイクル不可の状態)
5		雑誌	雑誌
6		書籍	書籍
7		段ボール	容器包装対象
8			容器包装非対象
9		牛乳パック	容器包装対象
10			容器包装非対象
11		紙箱	紙箱
12		包装紙	包装紙
13		紙袋	紙袋
14		OA 用紙	シュレッド用紙
15			伝票・帳簿類
16			コピー用紙
17			その他の OA 用紙
18		紙おむつ	紙おむつ
19		その他紙類	その他紙類
20	厨芥類	生ごみ (食べ残し)	未開封の食料品
21		生ごみ (食べ残し以外)	残飯、野菜くず、茶殻等
22	繊維類	繊維類 (衣類、古布等)	衣類 (リサイクル可)
23			衣類 (リサイクル不可)
24	草木類	草木類	草木類
25	廃食油	廃食油	廃食油
26	プラスチック類	フィルム系	指定ごみ袋
27			レジ袋
28			その他 (容器包装対象)
29			その他 (容器包装非対象)
30		PET ボトル	食料用
31			飲料用
32			その他 PET ボトル (リサイクル不可)
33		その他の形状のボトル	食料用
34			飲料用
35			その他ボトル (リサイクル不可)
36		ボトルのキャップ	ボトルのキャップ
37		パック・カップ類	食料用
38			飲料用
39			その他パック・カップ類
40		食品トレイ	無色発泡樹脂
41			有色発泡樹脂
42			その他食品トレイ (リサイクル不可)
43		その他プラスチック類	その他 (容器包装対象)
44			その他 (容器包装非対象)

表 1.2.3 組成分類項目 (2)

No.	大分類	中分類	小分類	
45	ゴム・皮革類	ゴム・皮革類	ゴム・皮革類	
46	その他可燃物等	その他可燃物等	その他可燃物	
47			粗大系ごみ・適正処理困難物	
48	ガラス類	透明リターナブルビン (リサイクル可のビン)	飲料用	
49			食料用	
50		透明ワンウェイビン	飲料用	
51			食料用	
52			その他	
53		色付きリターナブルビン (リサイクル可のビン)	飲料用	
54			食料用	
55		色付きワンウェイビン	飲料用	
56			食料用	
57			その他	
58		割れたビン	割れたビン	
59		その他ガラス類	その他ガラス類	
60		金属類	鉄類	飲料用缶 (鉄)
61				食料用缶 (鉄)
62	カセット式ボンベ・スプレー缶			
63	その他の缶類			
64	調理用具 (なべ、やかん、フライパン)			
65	調理用具 (その他)			
66	その他 (鉄類)			
67	非鉄金属		飲料用缶 (アルミ)	
68			食料用缶 (アルミ)	
69			カセット式ボンベ・スプレー缶	
70			その他のアルミ缶	
71			調理用具 (なべ、やかん、フライパン)	
72			調理用具 (その他)	
73			その他 (非鉄金属)	
74	家電類	小型家電製品 (区が回収している 12 品目)	携帯電話	
75			コード類 (AC アダプタ含む)	
76			その他小型家電 (10 品目)	
77	小型家電製品以外の家電製品	小型家電製品以外の家電製品		
78	その他不燃物	陶磁器類	陶磁器類	
79		乾電池等	乾電池	
80			その他 (ボタン電池、バッテリー等)	
81		蛍光灯	蛍光灯	
82		水銀含有廃棄物	水銀含有廃棄物	
83		電球	電球	
84		傘	傘	
85		ライター	ライター	
86		その他 (不燃物)	金属とプラスチックの組み合わさった生活用品、おもちゃ等	

1.3 調査結果

家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査の結果を以下に示す。なお、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

1.3.1 燃やすごみ

(1) 湿重量（組成）

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

ごみの組成を大分類で見ると、厨芥類の占める割合が最も高く、全体の32.0%であった。次いで紙類が26.1%、プラスチック類が19.1%であり、この3分類で全体の約3/4を占めている。

ごみの組成を中分類で見ると、生ごみ（食べ残し以外）が占める割合が最も高く、30.4%であった。次いで、フィルム系のプラスチック類が10.7%、その他紙類が9.0%であった。

表 1.3.1 湿重量（組成）調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	10.3	34.1	23.5	25.2	36.4	32.1	30.6	26.4	25.4	29.7	24.1	26.5	18.0	26.1
厨芥類	66.0	27.7	33.6	33.3	21.9	19.2	14.0	24.1	25.8	35.2	42.3	31.6	29.7	32.0
繊維類	1.3	7.8	4.1	6.4	4.9	1.7	3.3	12.3	9.1	0.8	2.8	1.6	9.0	4.5
草木類	0.2	0.1	2.5	0.8	1.2	4.6	8.9	3.9	1.9	6.7	1.3	15.7	1.0	3.5
廃食油	0.0	4.3	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.5
プラスチック類	13.1	18.1	31.0	23.6	18.9	15.2	13.1	24.1	26.2	18.2	16.4	18.9	20.1	19.1
ゴム・皮革類	0.7	0.5	0.2	3.3	0.6	0.3	13.0	3.5	1.5	3.7	1.6	1.3	2.5	2.6
その他可燃物等	5.7	3.2	2.0	5.9	15.4	26.5	6.9	5.4	9.6	1.8	7.9	2.3	13.7	8.3
ガラス類	0.6	0.0	0.8	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.3	0.1	0.9	1.1	0.4
金属類	1.0	3.6	0.4	0.6	0.6	0.1	0.4	0.2	0.4	0.3	0.3	0.6	3.7	1.0
家電類	0.3	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	8.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.5	0.1	1.0
その他不燃物	0.8	0.3	1.7	0.3	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	3.3	3.0	0.2	1.1	1.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査

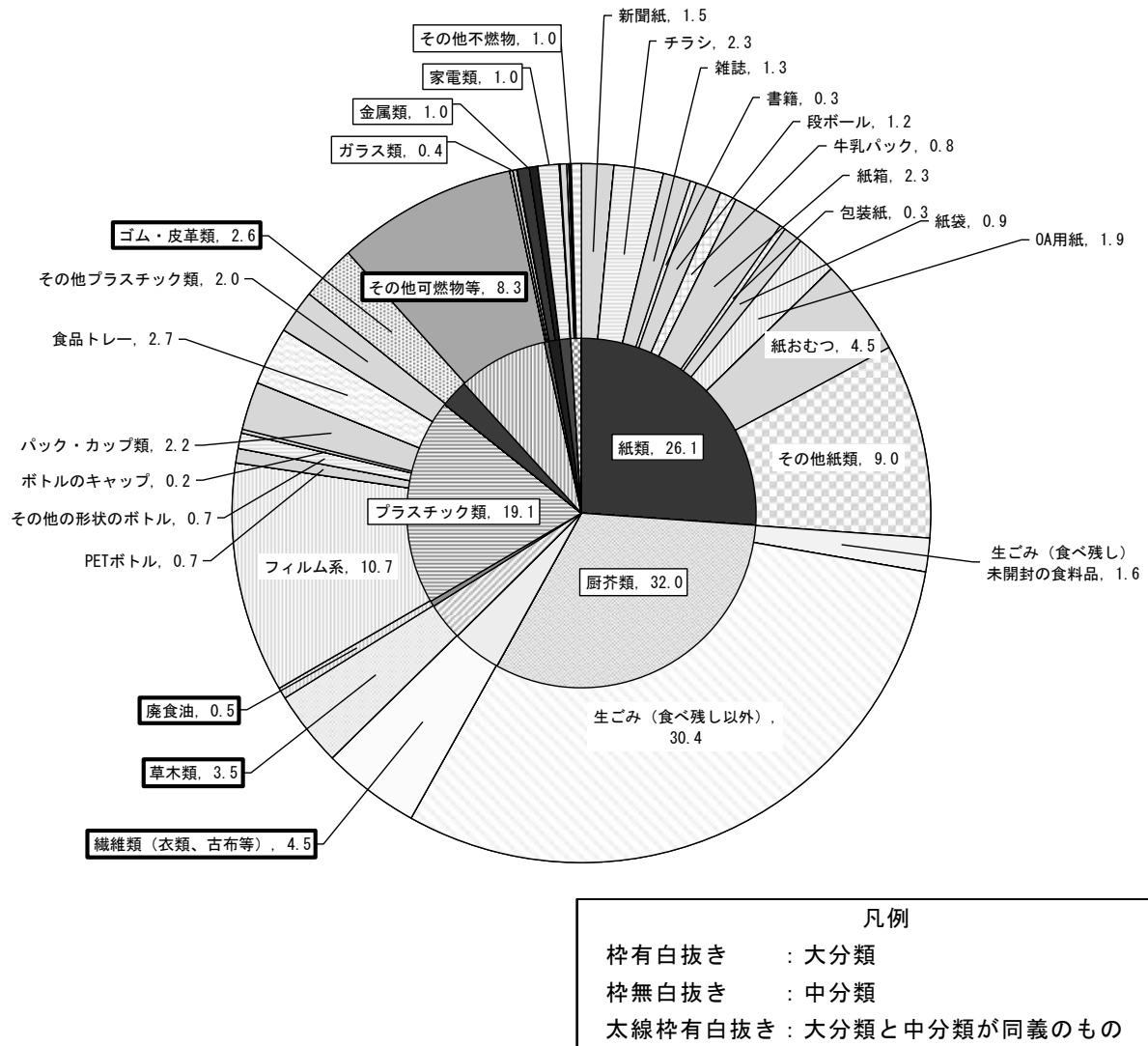


図 1.3.1 湿重量（組成）調査結果（燃やすごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

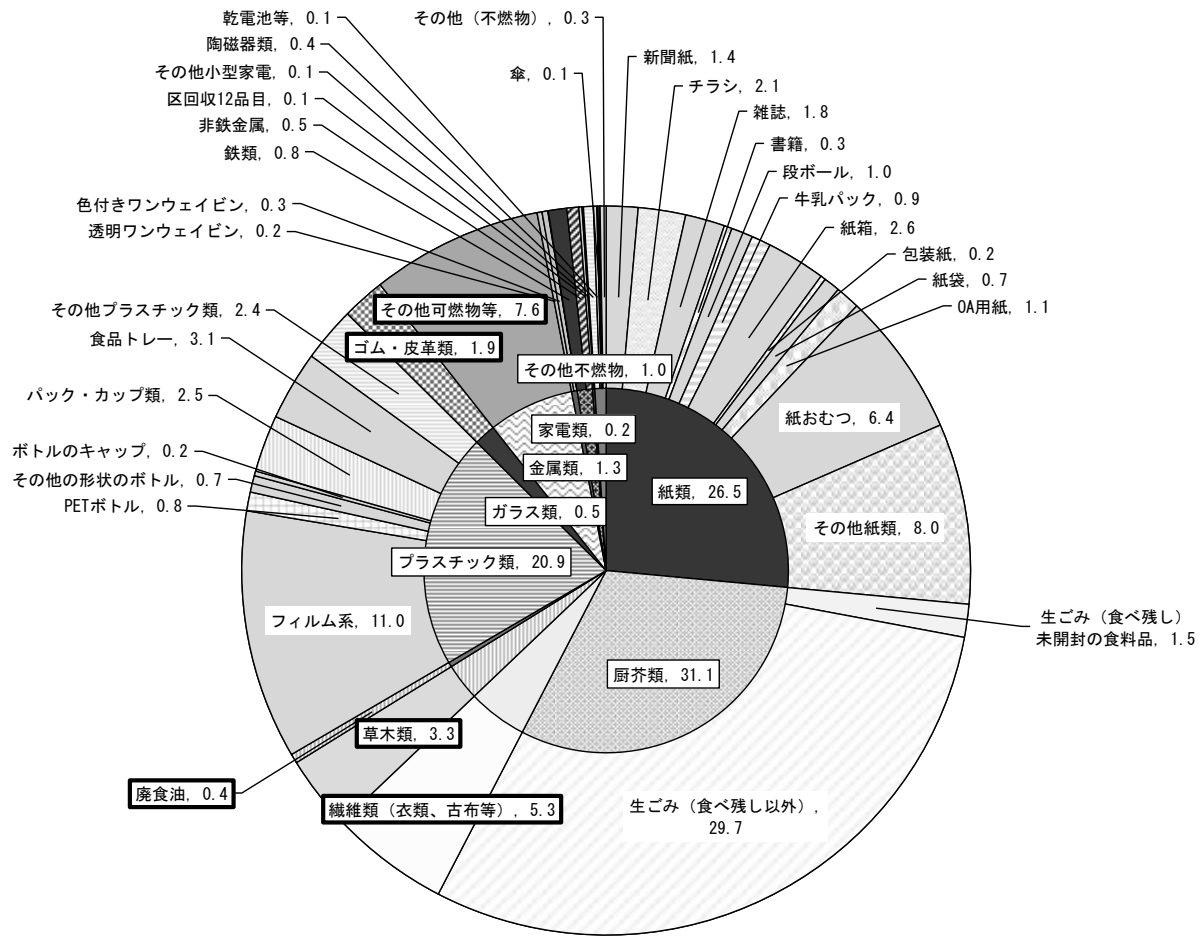
ごみの組成を大分類で見ると、厨芥類の占める割合が最も高く、全体の 31.1%であった。次いで紙類が 26.5%、プラスチック類が 20.9%であり、この 3 分類で全体の約 3/4 を占めている。

ごみの組成を中分類で見ると、生ごみ(食べ残し以外)が占める割合が最も高く、29.7%であった。次いで、フィルム系のプラスチック類が 11.0%、その他紙類が 8.0%であった。各地域の特徴については表 1.3.3 に示す。

表 1.3.2 湿重量(組成)調査結果(調査地域別)

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	(%)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	全体(平均)
地域特性	繁華街地域		職住混在地域(観光拠点)		職住混在地域			住居地域(集合住宅)		住居地域(集積所)		住居地域(戸別偏在)		
紙類	13.5	36.0	25.6	25.2	36.4	20.5	33.3	26.4	25.4	29.7	27.8	26.5	18.0	26.5
厨芥類	48.9	31.3	31.5	33.3	21.9	38.4	24.3	24.1	25.8	35.2	29.0	31.6	29.7	31.1
繊維類	2.2	0.8	7.7	6.4	4.9	2.1	6.5	12.3	9.1	0.8	5.2	1.6	9.0	5.3
草木類	0.4	0.2	0.7	0.8	1.2	9.1	0.5	3.9	1.9	6.7	0.4	15.7	1.0	3.3
廃食油	0.0	4.3	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4
プラスチック類	19.0	15.7	26.1	23.6	18.9	18.6	17.5	24.1	26.2	18.2	24.3	18.9	20.1	20.9
ゴム・皮革類	1.4	0.9	0.4	3.3	0.6	0.5	2.4	3.5	1.5	3.7	2.7	1.3	2.5	1.9
その他可燃物等	9.8	2.4	2.2	5.9	15.4	9.9	11.9	5.4	9.6	1.8	8.6	2.3	13.7	7.6
ガラス類	1.2	0.0	1.6	0.4	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.3	0.2	0.9	1.1	0.5
金属類	1.5	7.3	0.7	0.6	0.6	0.1	0.9	0.2	0.4	0.3	0.6	0.6	3.7	1.3
家電類	0.6	0.5	0.1	0.0	0.1	0.0	0.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.5	0.1	0.2
その他不燃物	1.5	0.6	3.1	0.3	0.0	0.8	1.2	0.0	0.0	3.3	0.7	0.2	1.1	1.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査



凡例	
枠有白抜き	: 大分類
枠無白抜き	: 中分類
太線枠有白抜き	: 大分類と中分類が同義のもの

図 1.3.2 湿重量(組成)調査結果(燃やすごみ:家庭ごみ)

表 1.3.3 各地域の特徴（燃やすごみ：家庭ごみ）

大分類	調査地域	地域特性	ごみ組成の特徴	
	全体		<p>厨芥類、紙類、プラスチック類の占める割合が高く、この3分類で全体の約3/4を占めている。</p> <p>ごみの組成を中分類で見ると、地域によって多少の差はあるが、厨芥類の中では生ごみ（食べ残し以外）が占める割合が最も高く、紙類では紙おむつとその他紙類、プラスチック類ではフィルム系プラスチック、その他可燃物等の占める割合が高い。</p>	
A	江東橋3	繁華街地域	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、厨芥類、金属類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 厨芥類の占める割合が平均より高い。
B	錦糸2			<ul style="list-style-type: none"> 紙類、金属類の占める割合が平均より高い。
C	亀沢2	職住混在地域 (観光拠点)	<ul style="list-style-type: none"> 厨芥類、繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。
D	業平1~3			<ul style="list-style-type: none"> 厨芥類、繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。
E	京島3	職住混在地域	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、厨芥類、草木類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
F	立花6			<ul style="list-style-type: none"> 厨芥類、草木類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
G	吾妻橋1			<ul style="list-style-type: none"> 紙類、繊維類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
H	横川5	住居地域 (集合住宅)	<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。
I	文花3			<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、プラスチック類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
J	墨田5	住居地域 (集積所)	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、厨芥類、プラスチック類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙類、厨芥類、草木類の占める割合が平均より高い。
K	千歳3			<ul style="list-style-type: none"> 紙類、プラスチック類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
L	東向島6	住居地域 (戸別偏在)	<ul style="list-style-type: none"> 草木類、その他可燃物等、ガラス類、金属類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 草木類、ガラス類の占める割合が平均より高い。
M	向島4			<ul style="list-style-type: none"> 繊維類、その他可燃物等、金属類、ガラス類の占める割合が平均より高い。

ウ) 事業系ごみ

ごみの組成を大分類で見ると、厨芥類の占める割合が最も高く、33.7%であった。次いで紙類が25.4%、プラスチック類が15.4%であった。

ごみの組成を中分類で見ると、生ごみ(食べ残し以外)が占める割合が最も高く、32.0%であった。次いで、その他紙類が11.1%、その他可燃物等が9.9%であった。

各地域の特徴については表1.3.5に示す。

表 1.3.4 湿重量(組成)調査結果(調査地域別)

大分類	調査地域						全体 (平均)
	A 江東橋3	B 錦糸2	C 亀沢2	F 立花6	G 吾妻橋1	K 千歳3	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)	職住混在地域		住居地域 (集積所)	
紙類	7.1	32.2	21.4	43.6	27.8	20.4	25.4
厨芥類	83.1	24.2	35.8	0.0	3.7	55.5	33.7
繊維類	0.4	14.9	0.6	1.3	0.2	0.3	3.0
草木類	0.0	0.0	4.3	0.0	17.3	2.1	3.9
廃食油	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
プラスチック類	7.1	20.5	35.9	11.8	8.7	8.6	15.4
ゴム・皮革類	0.1	0.0	0.0	0.0	23.6	0.4	4.0
その他可燃物等	1.6	3.9	1.7	43.2	2.0	7.2	9.9
ガラス類	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金属類	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
家電類	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	2.8
その他不燃物	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	5.3	0.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

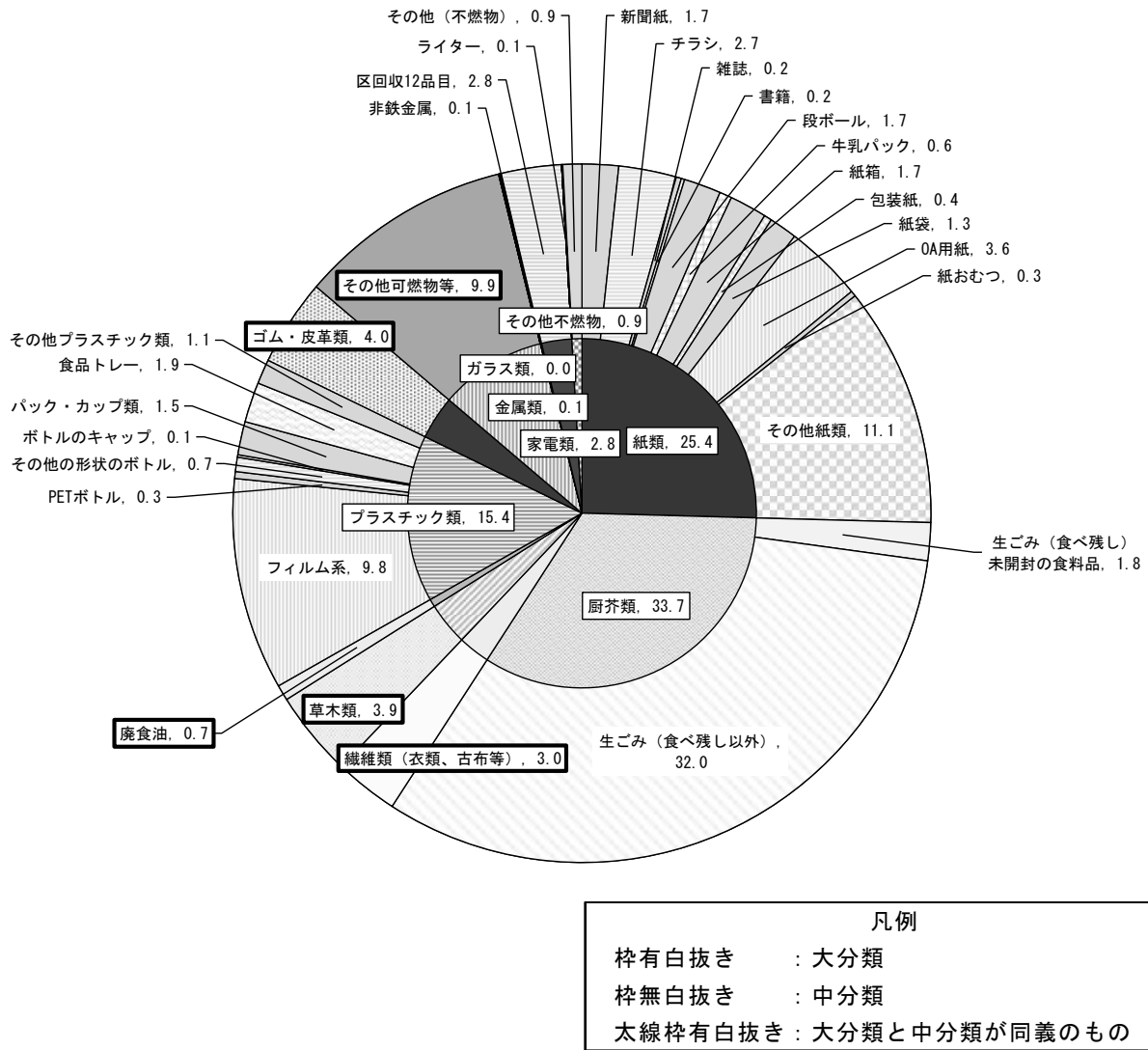


図 1.3.3 湿重量 (組成) 調査結果 (燃やすごみ: 事業系ごみ)

表 1.3.5 各地域の特徴（燃やすごみ：事業系ごみ）

大分類	調査地域	地域特性	ごみ組成の特徴	
	全体		厨芥類、紙類、その他可燃物等の占める割合が高い。 ごみの組成を中分類で見ると、地域によって多少の差はあるが、生ごみ（食べ残し以外）、その他可燃物等、フィルム系のプラスチック類の占める割合が高い。	
A	江東橋 3	繁華街地域	・地域によって占める割合が高い品目が異なる。	・厨芥類の占める割合が平均より高い。
B	錦糸 2			・紙類、繊維類、廃食油、プラスチック類の占める割合が平均より高い。
C	亀沢 2	職住混在地域 (観光拠点)	・プラスチック類の占める割合が平均より高い。	
F	立花 6	職住混在地域	・紙類の占める割合が平均より高い。	・紙類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。 ・その他可燃物等としては、紙とフィルムを貼り合わせた製品の切れ端のようなものがまとまって排出されていた。
G	吾妻橋 1			・紙類、草木類、ゴム・皮革類、家電類の占める割合が平均より高い。
K	千歳 3	住居地域 (集積所)	・厨芥類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。	

(2) 適正排出

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

適正に排出されているごみの割合は79.1%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、資源物が12.6%、粗大系ごみ・適正処理困難物が5.7%、集積所以外でリサイクルが可能なごみが1.4%、燃やさないごみが1.2%であった。

表 1.3.6 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	(%)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	全体(平均)
地域特性	繁華街地域		職住混在地域(観光拠点)		職住混在地域			住居地域(集合住宅)		住居地域(集積所)		住居地域(戸別偏在)		
燃やすごみ	87.9	71.9	83.9	87.9	72.3	65.2	68.2	84.1	79.6	84.3	79.8	87.0	76.0	79.1
燃やさないごみ	1.6	0.4	2.1	0.3	0.3	0.4	1.1	0.2	0.4	2.9	3.2	0.5	2.6	1.2
資源物	6.8	22.4	13.6	11.0	13.9	9.1	15.7	13.6	13.3	11.5	13.2	10.8	9.0	12.6
集積所回収以外でリサイクル	0.3	4.9	0.2	0.4	0.0	0.1	8.5	0.1	0.1	0.7	0.3	0.5	2.0	1.4
粗大系ごみ・適正処理困難物	3.4	0.4	0.2	0.4	13.5	25.3	6.5	2.0	6.6	0.5	3.6	1.2	10.4	5.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

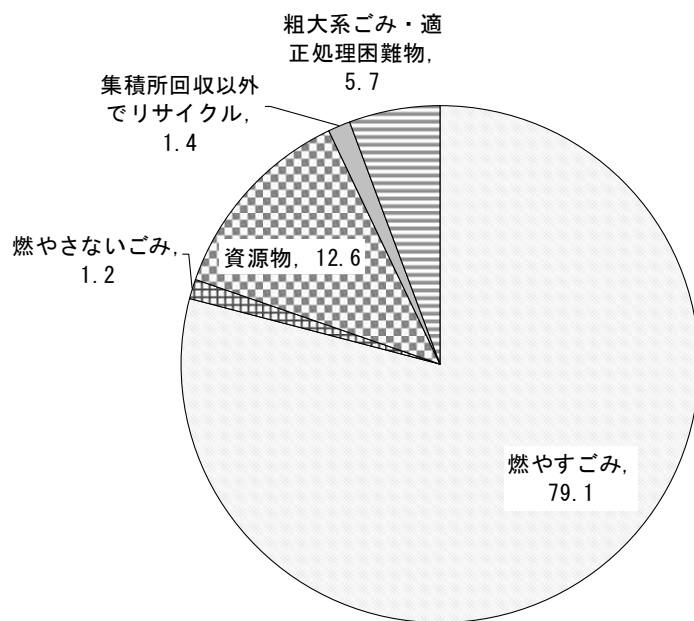


図 1.3.4 適正排出調査結果（燃やすごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

適正に排出されているごみの割合は78.8%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、資源物が13.6%、粗大系ごみ・適正処理困難物が5.3%、燃やさないごみが1.4%、集積所以外でリサイクルが可能なごみが0.9%であった。

表 1.3.7 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類 調査地域	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
燃やすごみ	79.4	76.2	77.9	87.9	72.3	81.8	65.3	84.1	79.6	84.3	72.8	87.0	76.0	78.8
燃やさないごみ	2.6	0.8	3.8	0.3	0.3	0.7	2.1	0.2	0.4	2.9	1.0	0.5	2.6	1.4
資源物	10.6	16.9	17.4	11.0	13.9	8.7	21.3	13.6	13.3	11.5	18.5	10.8	9.0	13.6
集積所回収以外で リサイクル	0.6	5.4	0.5	0.4	0.0	0.2	0.4	0.1	0.1	0.7	0.6	0.5	2.0	0.9
粗大系ごみ・適正 処理困難物	6.8	0.7	0.3	0.4	13.5	8.6	11.0	2.0	6.6	0.5	7.1	1.2	10.4	5.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

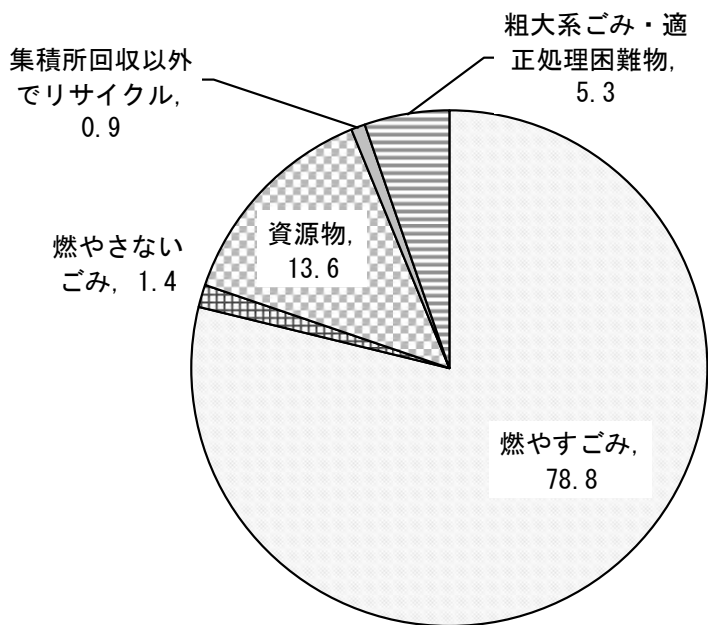


図 1.3.5 適正排出調査結果（燃やすごみ：家庭ごみ）

ウ) 事業系ごみ

適正に排出されているごみの割合は76.7%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、資源物が11.4%、粗大系ごみ・適正処理困難物が7.3%、集積所以外でリサイクルが3.5%、燃やさないごみが1.0%であった。

表 1.3.8 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	F	G	K	(%)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	立花6	吾妻橋1	千歳3	全体 (平均)
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)	職住混在地域		住居地域 (集積所)	
燃やすごみ	96.4	67.7	89.8	48.6	71.1	86.8	76.7
燃やさないごみ	0.5	0.0	0.4	0.0	0.0	5.3	1.0
資源物	3.0	28.0	9.8	9.4	10.2	7.9	11.4
集積所回収以外で リサイクル	0.0	4.4	0.0	0.0	16.7	0.0	3.5
粗大系ごみ・適正 処理困難物	0.0	0.0	0.0	42.0	1.9	0.0	7.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

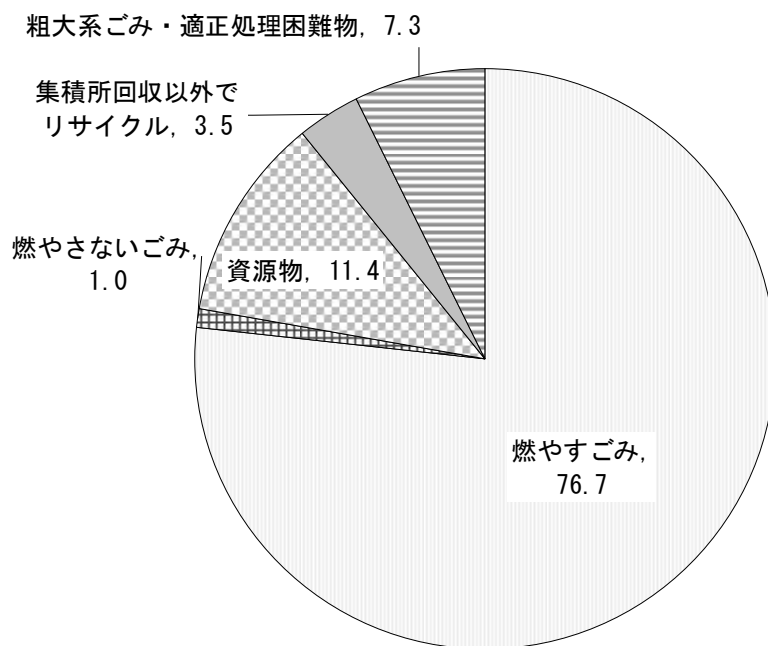


図 1.3.6 適正排出調査結果（燃やすごみ：事業系ごみ）

(3) 容積

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

ごみの容積を大分類で見ると、プラスチック類の占める割合が最も高く、全体の45.8%であった。次いで紙類が26.4%、厨芥類が11.3%であり、この3分類で全体の約3/4以上を占めている。

表 1.3.9 容積調査結果（調査地域別）

大分類	調査地域													全体 (平均)
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	19.9	31.9	26.7	27.0	29.0	34.4	23.3	26.7	23.1	28.6	20.1	29.2	26.1	26.4
厨芥類	34.9	10.9	9.4	6.1	5.2	4.5	4.7	5.9	6.2	9.2	17.8	8.0	9.5	11.3
繊維類	0.8	2.9	2.7	4.0	6.7	1.5	3.1	5.2	7.7	1.8	2.6	1.6	3.4	3.0
草木類	0.5	0.2	1.8	2.0	1.9	4.6	11.1	2.7	2.3	4.9	2.9	7.0	1.2	3.4
廃食油	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
プラスチック類	36.8	48.9	56.0	49.5	47.4	39.1	39.8	48.8	50.2	46.9	47.1	47.3	44.0	45.8
ゴム・皮革類	0.7	0.5	0.0	2.7	0.2	0.1	7.7	2.2	1.3	2.6	0.7	1.1	1.9	1.7
その他可燃物等	5.8	4.2	3.0	6.4	8.7	15.8	6.5	8.5	9.0	3.9	6.4	5.4	11.9	7.2
ガラス類	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.1
金属類	0.6	0.1	0.1	2.0	0.9	0.1	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1.3	0.4
家電類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3
その他不燃物	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	1.9	2.4	0.0	0.4	0.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

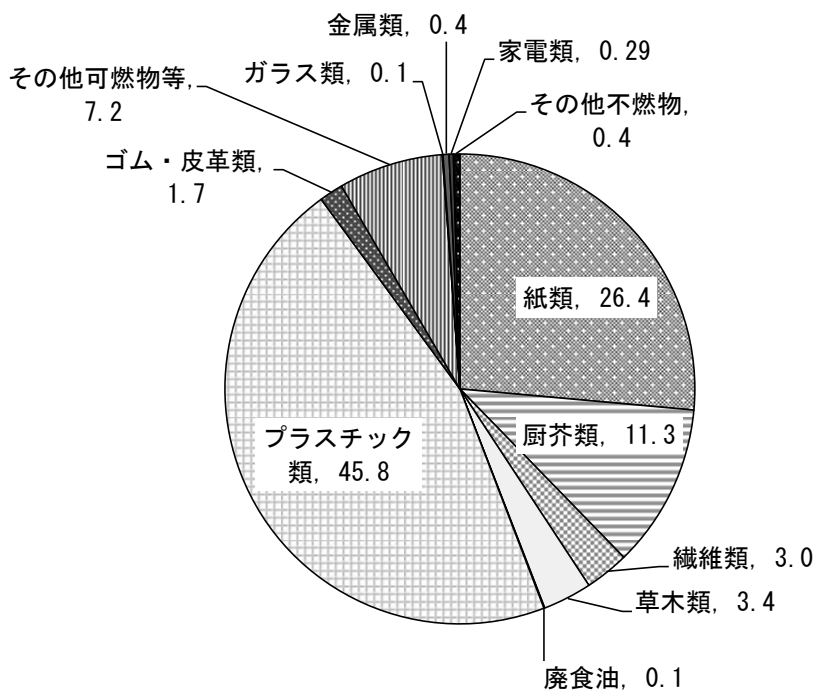


図 1.3.7 容積調査結果（燃やすごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

ごみの容積を大分類で見ると、プラスチック類の占める割合が最も高く、全体の49.1%であった。次いで紙類が26.7%、厨芥類が8.6%の順であった。

表 1.3.10 容積調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	21.9	30.9	28.2	27.0	29.0	24.8	29.9	26.7	23.1	28.6	21.1	29.2	26.1	26.7
厨芥類	16.2	12.4	8.1	6.1	5.2	8.9	7.4	5.9	6.2	9.2	8.2	8.0	9.5	8.6
繊維類	1.4	1.1	5.3	4.0	6.7	2.8	6.1	5.2	7.7	1.8	5.2	1.6	3.4	4.0
草木類	0.9	0.5	0.7	2.0	1.9	9.1	0.7	2.7	2.3	4.9	1.2	7.0	1.2	2.7
廃食油	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1
プラスチック類	49.7	48.0	52.8	49.5	47.4	50.0	45.4	48.8	50.2	46.9	57.8	47.3	44.0	49.1
ゴム・皮革類	1.3	0.9	0.0	2.7	0.2	0.3	1.9	2.2	1.3	2.6	1.3	1.1	1.9	1.4
その他可燃物等	7.8	5.3	3.9	6.4	8.7	4.0	5.9	8.5	9.0	3.9	4.8	5.4	11.9	6.6
ガラス類	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.1
金属類	0.5	0.2	0.2	2.0	0.9	0.1	1.3	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	1.3	0.5
家電類	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
その他不燃物	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.1	0.9	0.0	0.0	1.9	0.2	0.0	0.4	0.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

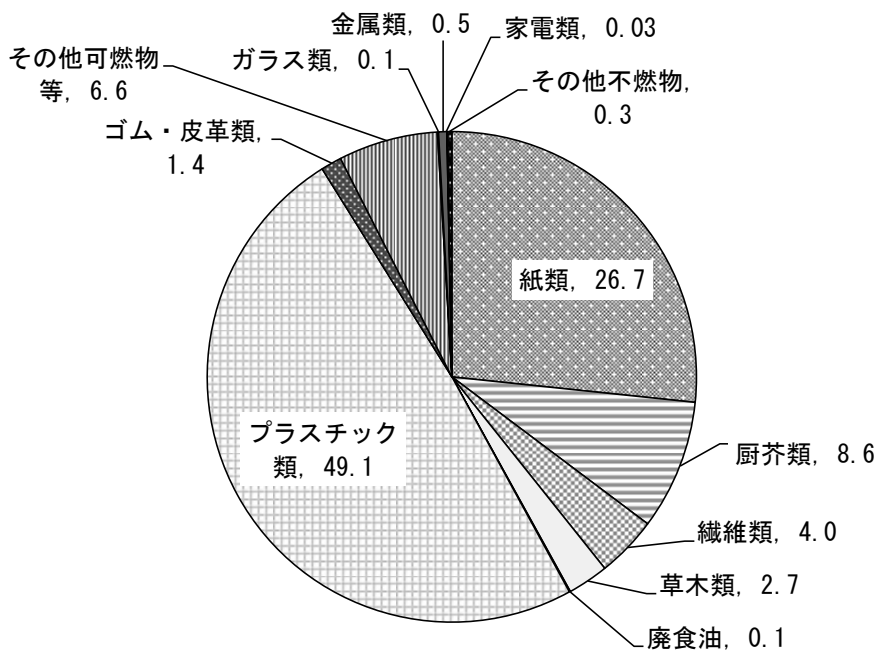


図 1.3.8 容積調査結果（燃やすごみ：家庭ごみ）

ウ) 事業系ごみ

ごみの容積を大分類で見ると、プラスチック類の占める割合が最も高く、全体の38.6%であった。次いで紙類が25.9%、厨芥類が17.2%の順であった。

表 1.3.11 容積調査結果（調査地域別）

大分類	調査地域						全体 (平均)
	A 江東橋3	B 錦糸2	C 亀沢2	F 立花6	G 吾妻橋1	K 千歳3	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)	職住混在地域		住居地域 (集積所)	
紙類	17.8	32.9	25.1	44.0	16.8	19.1	25.9
厨芥類	53.5	9.4	10.8	0.0	2.0	27.3	17.2
繊維類	0.2	4.8	0.1	0.2	0.0	0.1	0.9
草木類	0.0	0.0	2.8	0.0	21.5	4.5	4.8
廃食油	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	23.9	49.8	59.2	28.3	34.1	36.3	38.6
ゴム・皮革類	0.0	0.0	0.0	0.0	13.4	0.1	2.3
その他可燃物等	3.8	3.1	2.0	27.5	7.0	8.0	8.6
ガラス類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金属類	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
家電類	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	0.9
その他不燃物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

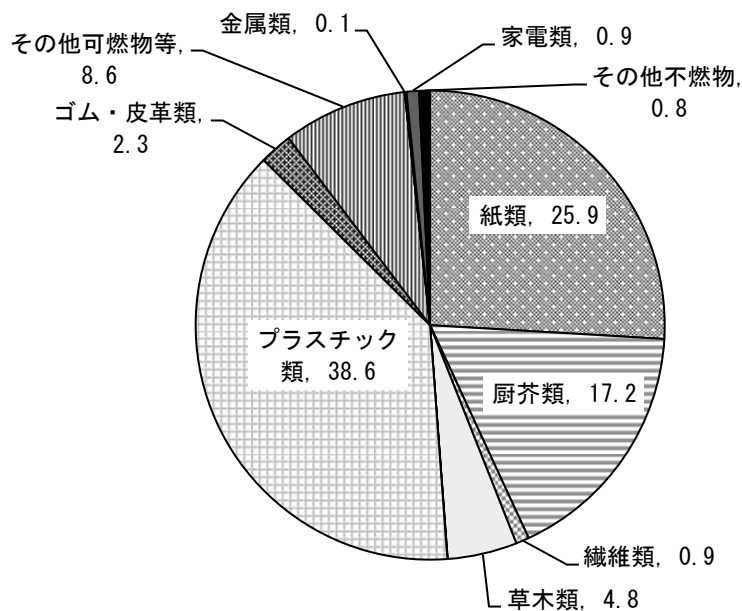


図 1.3.9 容積調査結果（燃やすごみ：事業系ごみ）

(4) 含水率（家庭ごみのみ）

ア) 生ごみ

生ごみの含水率をみると、全調査地域の平均で77.3%であった。

調査地域による特徴はみられず、概ね68%～87%の含水率となっている。

表 1.3.12 含水率（乾燥重量）調査結果（調査地域別）

調査地域	採取 (g)	乾燥後 (24時間後) (g)	乾燥後 (恒量を得るまで) (g)	固形分 (%)	減量分（含水率） (%)
亀沢2	706	570	207	29.3	70.7
	439	370	98	22.3	77.7
千歳3	739	600	135	18.3	81.7
	614	530	118	19.2	80.8
錦糸2	513	390	126	24.6	75.4
	449	380	118	26.3	73.7
横川5	738	590	149	20.2	79.8
	429	340	130	30.3	69.7
江東橋3	414	320	83	20.0	80.0
	542	440	111	20.5	79.5
吾妻橋1	443	350	114	25.7	74.3
	500	420	91	18.2	81.8
向島4	1,607	1,430	445	27.7	72.3
	347	270	64	18.4	81.6
京島3	1,081	930	145	13.4	86.6
	995	890	309	31.1	68.9
業平1～3	597	480	130	21.8	78.2
	570	430	122	21.4	78.6
墨田5	373	290	85	22.8	77.2
	546	480	124	22.7	77.3
東向島6	616	510	132	21.4	78.6
	484	420	90	18.6	81.4
立花6	484	370	87	18.0	82.0
	1,123	990	338	30.1	69.9
文花3	489	400	100	20.4	79.6
	674	550	182	27.0	73.0
全体（平均）	635	528	147	22.7	77.3

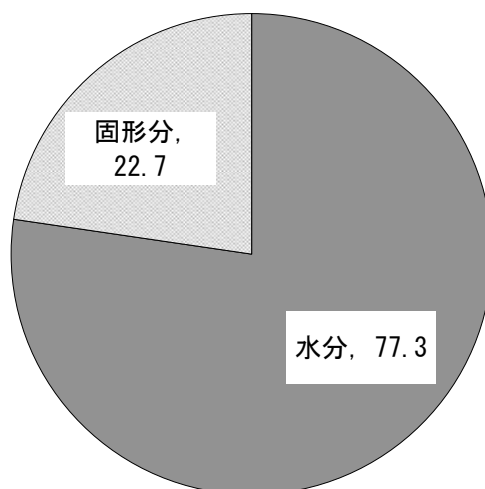


図 1.3.10 含水率調査結果（生ごみ：全体平均）

イ) 生ごみ以外

生ごみ以外のごみの含水率をみると、全調査地域の平均で27.8%であった。

調査結果をみると、調査地域によって結果が大きく異なっているほか、同じ調査地域内でも1回目と2回目の調査で結果に差が出る等、傾向はみられなかった。

表 1.3.13 含水率（乾燥重量）調査結果（調査地域別）

調査地域	採取 (g)	乾燥後 (24時間後) (g)	乾燥後 (恒量を得るまで) (g)	固形分 (%)	減量分（含水率） (%)
亀沢2	328	310	269	82.0	18.0
	211	190	158	74.9	25.1
千歳3	411	390	334	81.3	18.7
	497	460	337	67.8	32.2
錦糸2	166	160	153	92.2	7.8
	336	320	159	47.3	52.7
横川5	463	430	210	45.4	54.6
	328	310	260	79.3	20.7
江東橋3	216	190	152	70.4	29.6
	456	420	255	55.9	44.1
吾妻橋1	250	240	229	91.6	8.4
	192	190	173	90.1	9.9
向島4	389	350	237	60.9	39.1
	328	300	224	68.3	31.7
京島3	329	310	248	75.4	24.6
	554	540	488	88.1	11.9
業平1～3	274	240	199	72.6	27.4
	331	310	268	81.0	19.0
墨田5	308	280	212	68.8	31.2
	283	260	144	50.9	49.1
東向島6	202	180	131	64.9	35.1
	170	160	143	84.1	15.9
立花6	228	210	175	76.8	23.2
	494	460	385	77.9	22.1
文花3	253	240	218	86.2	13.8
	1,233	1,140	519	42.1	57.9
全体（平均）	355	330	242	72.2	27.8

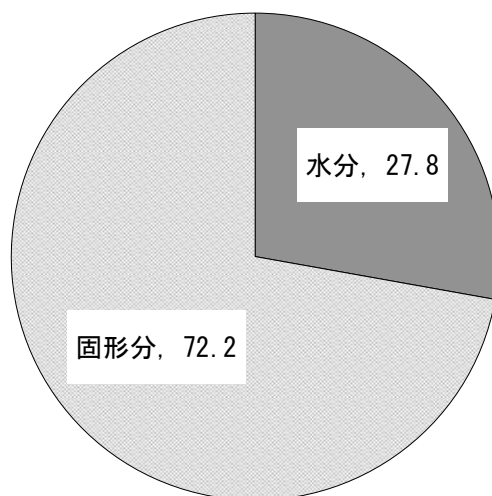


図 1.3.11 含水率調査結果（生ごみ以外：全体平均）

(5) 経年変化（家庭ごみと事業系ごみの合計）

ア) 湿重量

湿重量は、前回調査と比較して、厨芥類、繊維類、草木類、廃食油、その他可燃物等、ガラス類、金属類、家電類が増加しており、紙類、プラスチック類、ゴム・皮革類、その他不燃物は減少している。変化の大きい項目をみると、他の項目と比較して、紙類が減少し、厨芥類とその他可燃物等が増加している。

また、プラスチック類は、平成27年度の調査までは増加の傾向がみられていたが、今回の調査では減少に転じている。ただし、割合としては3番目に高い19.1%となっており、他の項目と比較して高い状態が続いている。

表 1.3.14 湿重量調査結果の経年変化

大分類	平成17年度	平成21年度	平成27年度	今回調査 (令和元年度)	前回との比較
紙類	32.9%	32.7%	35.4%	26.1%	9.3ポイント減
厨芥類	46.7%	30.7%	27.1%	32.0%	4.9ポイント増
繊維類	6.8%	5.4%	2.2%	4.5%	2.3ポイント増
草木類	7.5%	6.4%	2.6%	3.5%	0.9ポイント増
廃食油	0.0%	0.3%	0.0%	0.5%	0.5ポイント増
プラスチック類	3.6%	17.2%	22.6%	19.1%	3.5ポイント減
ゴム・皮革類	0.1%	0.6%	3.0%	2.6%	0.4ポイント減
その他可燃物等	1.4%	5.1%	3.7%	8.3%	4.6ポイント増
ガラス類	0.0%	0.6%	0.3%	0.4%	0.1ポイント増
金属類	0.1%	0.8%	0.2%	1.0%	0.8ポイント増
家電類	-	-	0.0%	1.0%	1.0ポイント増
その他不燃物	1.0%	0.3%	2.7%	1.0%	1.7ポイント減
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

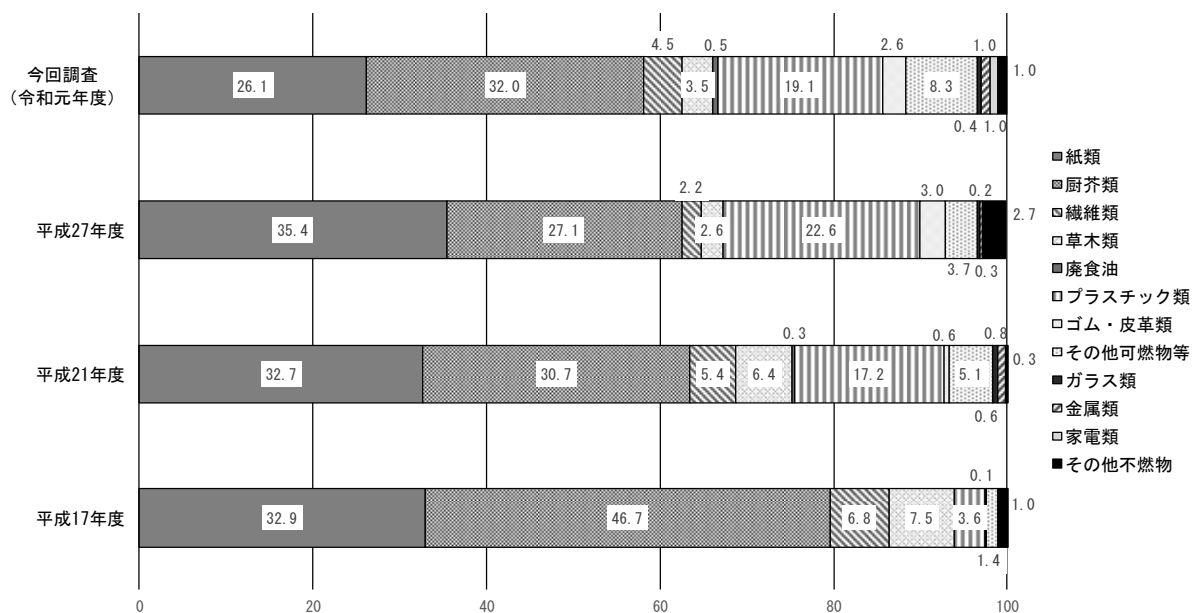


図 1.3.12 湿重量調査結果の経年変化

イ) 適正排出

適正に排出されているごみは 79.1%、適正に排出されていないごみは 20.9%となっており、適正排出の状況としては、前回調査と比較して 1.0 ポイントの減少となっている。

また、適正に排出されていないごみの内訳は、資源物が 12.6%、粗大系ごみ・適正処理困難物が 5.7%、集積所以外でリサイクルが 1.4%、燃やさないごみが 1.2%の順となっている。

項目別にみると、燃やさないごみ、集積所以外でリサイクル、粗大系ごみ・適正処理困難物が増加しており、燃やすごみ、資源物は減少している。

変化の大きい項目をみると、他の項目と比較して、粗大系ごみ・適正処理困難物が大きく増加し、資源物が大きく減少している。

表 1.3.15 適正排出調査結果の経年変化

項目	平成17年度	平成21年度	平成27年度	今回調査 (令和元年度)	前回との比較
燃やすごみ	72.8%	82.8%	80.1%	79.1%	1.0ポイント減
燃やさないごみ	2.6%	0.5%	1.0%	1.2%	0.2ポイント増
資源物	17.2%	13.7%	16.0%	12.6%	3.4ポイント減
集積所回収以外でリサイクル	6.4%	2.9%	0.4%	1.4%	1.0ポイント増
粗大系ごみ・適正処理困難物	1.0%	0.2%	2.5%	5.7%	3.2ポイント増
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

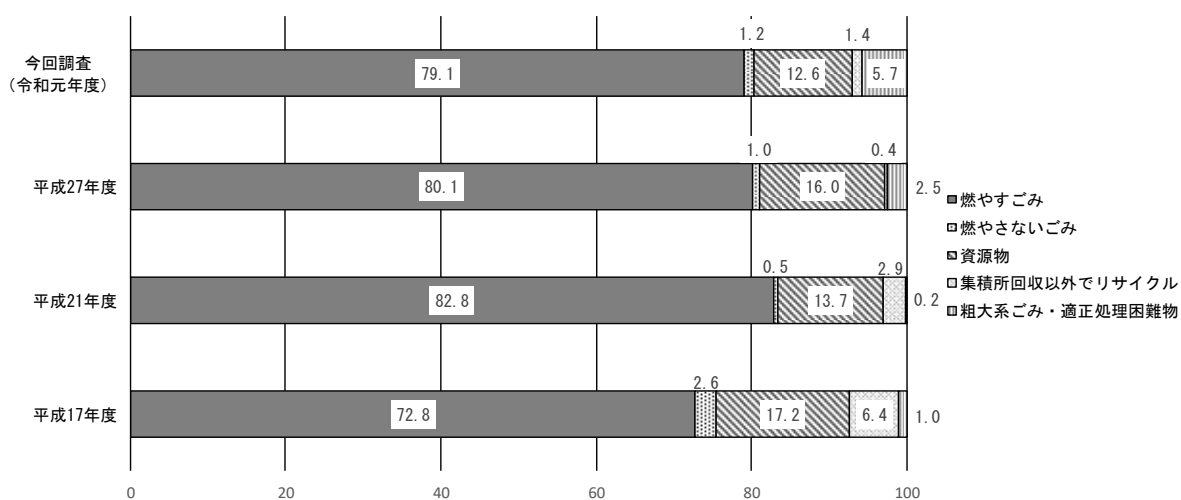


図 1.3.13 適正排出調査結果の経年変化

ウ) 含水率

a) 生ごみ

生ごみの含水率を各調査の平均で見ると、含水率は前回調査よりも減少しており、過去の調査結果と比較して最も低い77.3%であった。

地域別にみると、前回調査と比較が可能な12地域中、9地域で含水率は減少している。

表 1.3.16 含水率（乾燥重量）調査結果の経年変化（生ごみ）

地域		含水率 (%)					
		平成21年度		平成27年度		今回調査 (令和元年度)	
亀沢2	前半	-	-	86.7	84.6	70.7	74.2
	後半	-	-	82.4		77.7	
千歳3	前半	70.7	78.3	87.9	86.3	81.7	81.3
	後半	85.8		84.6		80.8	
錦糸2	前半	-	-	-	-	75.4	74.6
	後半	-	-	-	-	73.7	
横川5	前半	78.4	76.3	86.0	81.5	79.8	74.8
	後半	74.3		77.0		69.7	
江東橋3	前半	70.5	76.2	81.0	82.0	80.0	79.8
	後半	81.8		83.0		79.5	
吾妻橋1	前半	83.7	84.2	89.6	88.1	74.3	78.1
	後半	84.7		86.6		81.8	
向島4	前半	-	-	67.8	73.9	72.3	77.0
	後半	-	-	80.0		81.6	
京島3	前半	-	-	77.1	76.6	86.6	77.8
	後半	-	-	76.0		68.9	
業平1~3	前半	-	-	82.0	81.6	78.2	78.4
	後半	-	-	81.1		78.6	
墨田5	前半	-	-	72.6	80.2	77.2	77.3
	後半	-	-	87.8		77.3	
東向島6	前半	80.8	83.4	87.5	82.5	78.6	80.0
	後半	86.0		77.5		81.4	
立花6	前半	-	-	67.1	70.1	82.0	76.0
	後半	-	-	73.1		69.9	
文花3	前半	70.5	71.5	79.0	77.0	79.6	76.3
	後半	72.5		75.0		73.0	
全体（平均）		78.3		80.4		77.3	

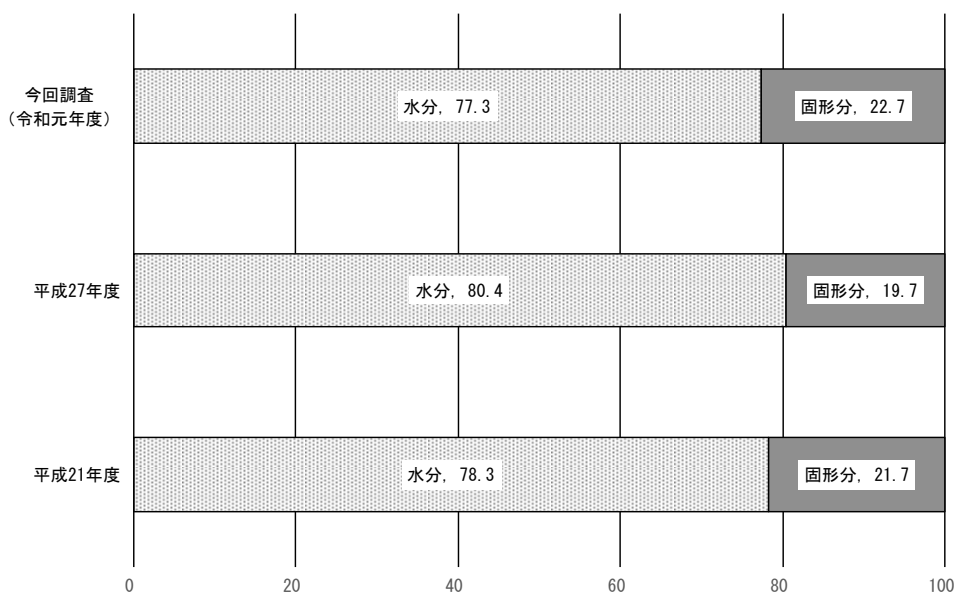


図 1.3.14 含水率（乾燥重量）調査結果の経年変化（生ごみ）

b) 生ごみ以外

生ごみ以外のごみの含水率を各調査の平均で見ると、含水率は前回調査よりも増加しており、過去の調査結果と比較して最も高い27.8%であった。

地域別にみると、前回調査と比較が可能な12地域中、9地域で含水率が増加している。

表 1.3.17 含水率（乾燥重量）調査結果の経年変化（生ごみ以外）

地域		含水率 (%)					
		平成21年度		平成27年度		今回調査 (令和元年度)	
亀沢2	前半	-	-	33.7	25.1	18.0	21.6
	後半	-	-	16.5		25.1	
千歳3	前半	14.6	15.2	10.6	14.1	18.7	25.5
	後半	15.8		17.5		32.2	
錦糸2	前半	-	-	-	-	7.8	30.3
	後半	-	-	-	-	52.7	
横川5	前半	15.4	16.4	17.0	17.5	54.6	37.7
	後半	17.4		18.0		20.7	
江東橋3	前半	15.1	14.7	24.0	23.1	29.6	36.9
	後半	14.3		22.1		44.1	
吾妻橋1	前半	15.0	14.7	19.5	24.6	8.4	9.2
	後半	14.4		29.6		9.9	
向島4	前半	-	-	16.2	21.9	39.1	35.4
	後半	-	-	27.5		31.7	
京島3	前半	-	-	18.1	16.6	24.6	18.3
	後半	-	-	15.0		11.9	
業平1~3	前半	-	-	21.0	22.6	27.4	23.2
	後半	-	-	24.1		19.0	
墨田5	前半	-	-	23.2	22.0	31.2	40.2
	後半	-	-	20.8		49.1	
東向島6	前半	14.4	15.2	22.8	31.7	35.1	25.5
	後半	16.1		40.5		15.9	
立花6	前半	-	-	25.1	22.5	23.2	22.7
	後半	-	-	19.9		22.1	
文花3	前半	14.3	14.5	17.1	21.1	13.8	35.9
	後半	14.8		25.1		57.9	
全体（平均）		15.1		21.9		27.8	

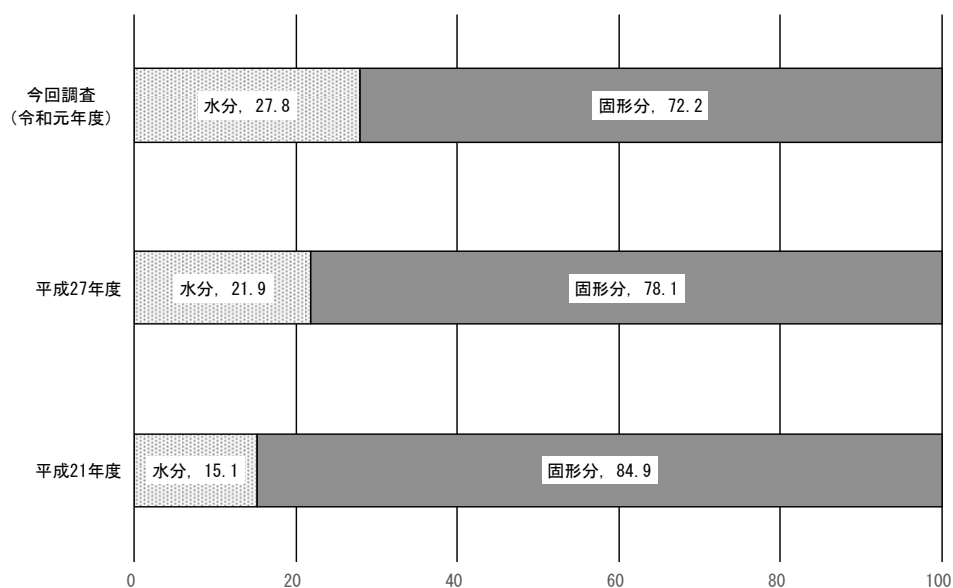


図 1.3.15 含水率（乾燥重量）調査結果の経年変化（生ごみ以外）

1.3.2 燃やさないごみ

(1) 湿重量（組成）

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

ごみの組成を大分類で見ると、その他不燃物の占める割合が最も高く、22.9%であった。次いで、その他可燃物等が20.0%、金属類が19.4%であった。

ごみの組成を中分類で見ると、その他可燃物等が占める割合が最も高く、20.0%であった。次いで、鉄類が14.7%、陶磁器類が12.5%であった。

表 1.3.18 湿重量（組成）調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	0.9	2.4	0.3	1.7	6.1	2.1	5.6	2.7	1.8	0.8	1.0	0.2	1.0	1.8
厨芥類	2.1	0.0	0.0	5.7	0.0	15.7	3.5	2.6	0.0	1.4	0.5	0.0	0.0	2.4
繊維類	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
草木類	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	10.9	4.6	6.6	3.0	8.2	3.0	11.7	7.2	4.3	8.4	6.9	10.7	3.7	7.0
ゴム・皮革類	1.1	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.0	8.1	0.2	0.0	0.6	0.0	1.0	0.8
その他可燃物等	21.3	28.4	12.1	21.3	29.4	9.0	16.9	26.7	14.8	40.8	3.2	16.2	12.9	20.0
ガラス類	25.9	12.0	18.4	43.7	17.2	11.7	34.6	9.5	18.2	6.3	6.9	10.3	11.2	18.2
金属類	19.6	16.7	24.5	8.9	10.7	19.5	14.7	8.3	15.9	19.9	42.1	17.8	20.8	19.4
家電類	4.2	7.7	2.1	0.7	8.1	1.7	3.1	9.7	16.3	1.9	19.4	12.9	12.7	7.4
その他不燃物	14.0	28.3	35.7	14.7	20.1	37.3	9.8	24.2	28.2	20.4	19.3	31.9	36.7	22.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

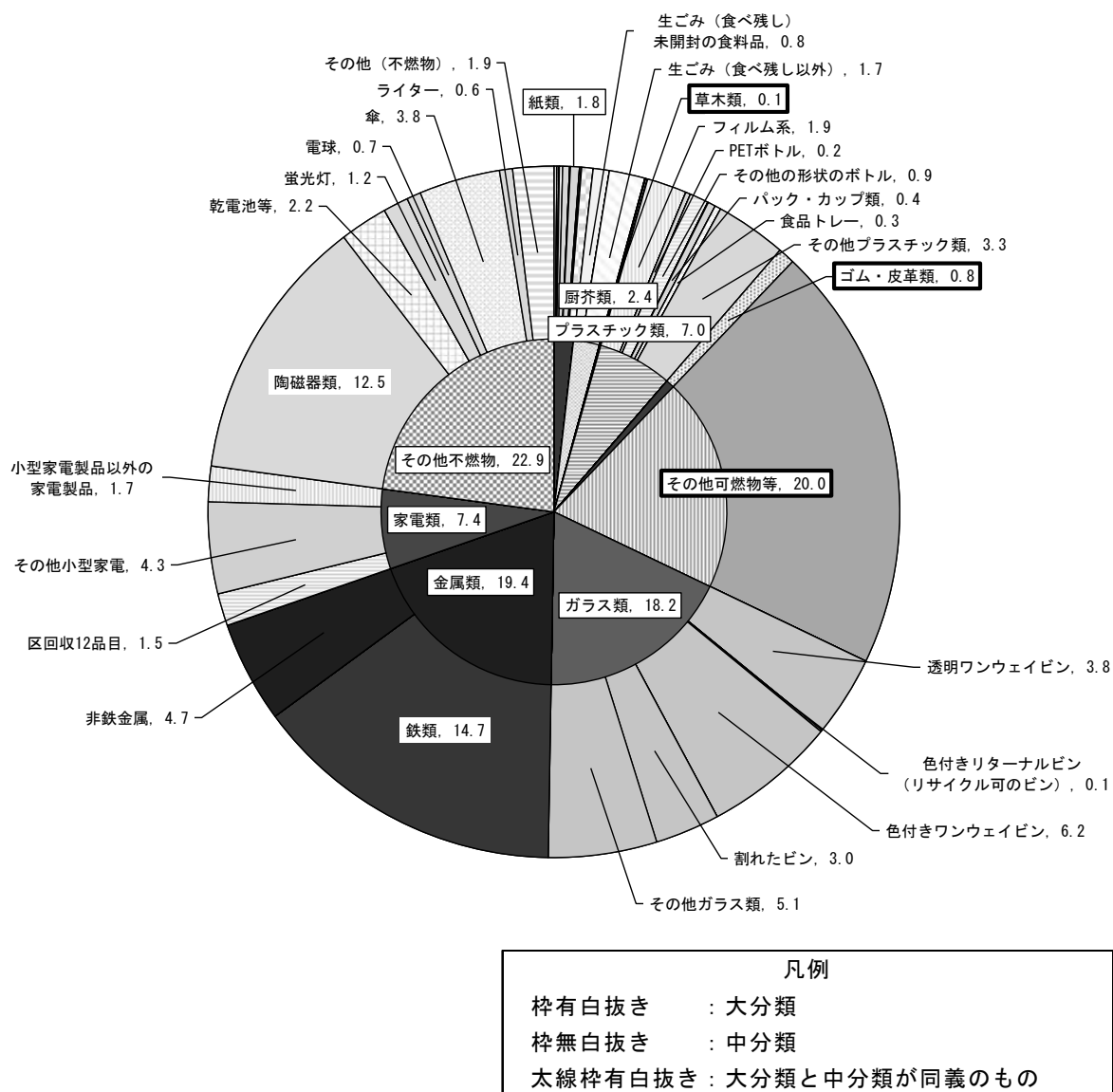


図 1.3.16 湿重量(組成)調査結果(燃やさないごみ:家庭ごみと事業系ごみの合計)

イ) 家庭ごみ

ごみの組成を大分類で見ると、その他不燃物の占める割合が最も高く、28.6%であった。次いでその他可燃物等が17.5%、金属類が16.8%であった。

ごみの組成を中分類で見ると、その他不燃物等が占める割合が最も高く、17.5%であった。次いで、陶磁器類が16.0%、鉄類が12.2%であった。

各地域の特徴については表1.3.20に示す。

表 1.3.19 湿重量調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	1.9	2.4	0.3	3.3	6.1	2.1	5.6	2.7	1.8	1.3	2.1	0.2	1.0	2.4
厨芥類	4.1	0.0	0.0	11.5	0.0	15.7	3.5	2.6	0.0	2.7	0.9	0.0	0.0	3.2
繊維類	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
草木類	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	8.9	4.6	6.6	5.9	8.2	3.0	11.7	7.2	4.3	15.7	9.8	10.7	3.7	7.7
ゴム・皮革類	0.3	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.0	8.1	0.2	0.0	1.1	0.0	1.0	0.9
その他可燃物等	12.7	28.4	12.1	30.4	29.4	9.0	16.9	26.7	14.8	11.0	6.5	16.2	12.9	17.5
ガラス類	25.0	12.0	18.4	10.3	17.2	11.7	34.6	9.5	18.2	12.6	13.8	10.3	11.2	15.8
金属類	16.6	16.7	24.5	10.9	10.7	19.5	14.7	8.3	15.9	21.2	20.7	17.8	20.8	16.8
家電類	5.8	7.7	2.1	0.1	8.1	1.7	3.1	9.7	16.3	3.9	9.0	12.9	12.7	7.2
その他不燃物	24.7	28.3	35.7	27.1	20.1	37.3	9.8	24.2	28.2	31.4	36.0	31.9	36.7	28.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査

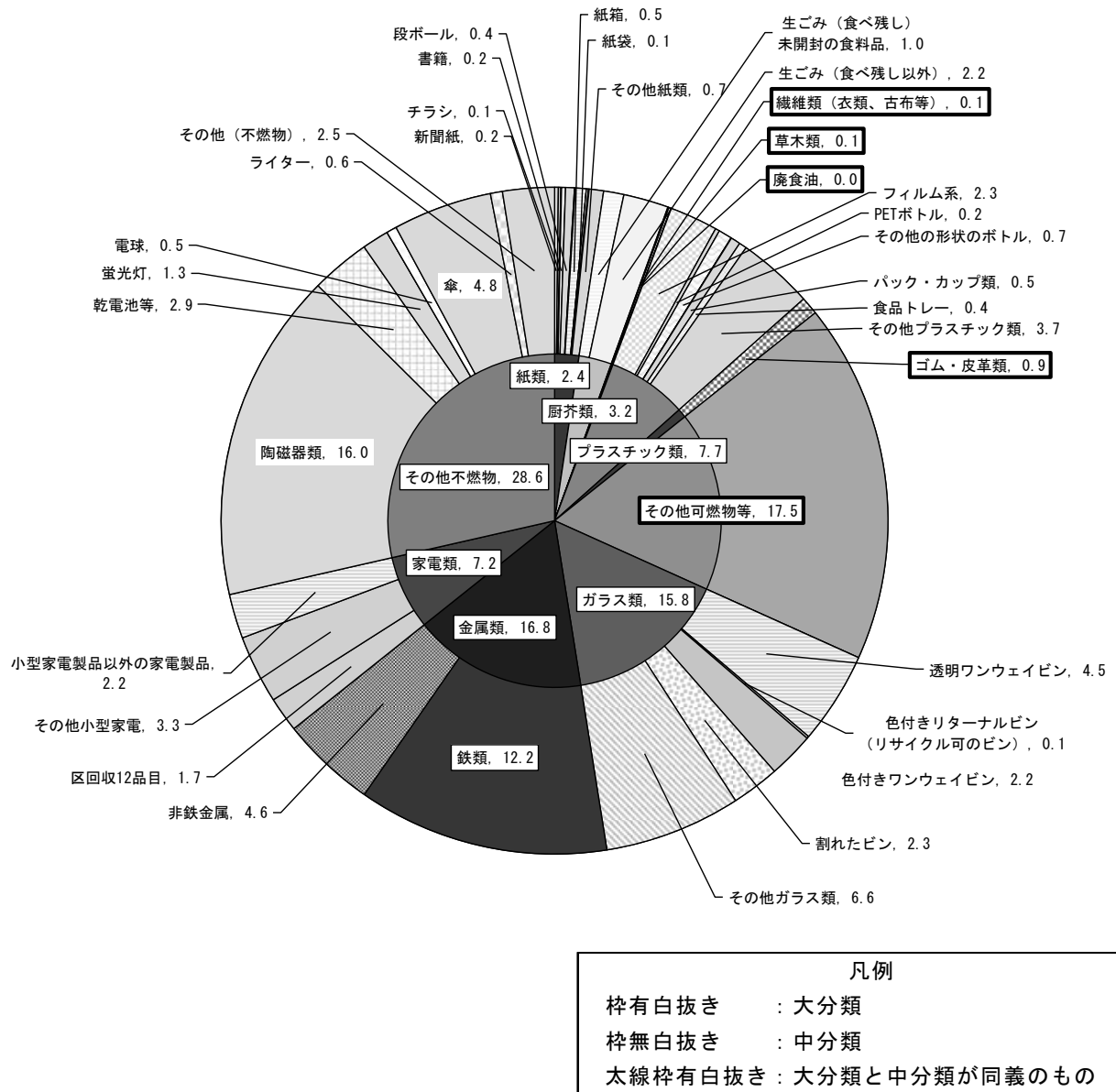


図 1.3.17 湿重量 (組成) 調査結果 (燃やさないごみ: 家庭ごみ)

表 1.3.20 各地域の特徴（燃やさないごみ：家庭ごみ）

大分類	調査地域	地域特性	ごみ組成の特徴	
	全体		<p>その他不燃物、その他可燃物等、金属類が占める割合が高い。 ごみの組成を中分類で見ると、その他可燃物等、その他不燃物中の陶磁器類、金属類中の鉄類の占める割合が高い。</p>	
A	江東橋 3	繁華街地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって占める割合が高い品目が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類、プラスチック類、ガラス類の占める割合が平均より高い。
B	錦糸 2			<ul style="list-style-type: none"> ・その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
C	亀沢 2	職住混在地域 (観光拠点)	<ul style="list-style-type: none"> ・その他可燃物等、その他不燃物の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス類、金属類、その他不燃物(乾電池等)の占める割合が平均より高い。
D	業平 1~3			<ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類、その他可燃物等の占める割合が平均より高い。
E	京島 3	職住混在地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって占める割合が高い品目が異なる。 ・事業系ごみが不適正排出されていた可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙類、プラスチック類、その他可燃物等、ガラス類の占める割合が平均より高い。
F	立花 6			<ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類、金属類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。 ・厨芥類は事業系ごみが不適正排出されていた可能性がある。
G	吾妻橋 1			<ul style="list-style-type: none"> ・紙類、プラスチック類、ガラス類の占める割合が平均より高い。
H	横川 5	住居地域 (集合住宅)	<ul style="list-style-type: none"> ・家電類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴム・皮革類、その他可燃物等、家電類の占める割合が平均より高い。
I	文花 3			<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス類、家電類の占める割合が平均より高い。
J	墨田 5	住居地域 (集積所)	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類、金属類の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類、金属類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。
K	千歳 3			<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類、金属類、家電類の占める割合が平均より高い。
L	東向島 6	住居地域 (戸別偏在)	<ul style="list-style-type: none"> ・金属類、家電類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類、金属類、家電類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。
M	向島 4			<ul style="list-style-type: none"> ・金属類、家電類、その他不燃物の占める割合が平均より高い。

ウ) 事業系ごみ

ごみの組成を大分類で見ると、その他可燃物等の占める割合が最も高く、28.2%であった。次いで金属類が27.9%、ガラス類が26.0%であった。

ごみの組成を中分類で見ると、その他可燃物等が占める割合が最も高く、28.2%であった。次いで、鉄類が22.8%、色付きワンウェイビンが19.2%であった。

各地域の特徴については表 1.3.22 に示す。

表 1.3.21 湿重量調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	D	J	K	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	業平1~3	墨田5	千歳3	
地域特性	繁華街地域	職住混在地域 (観光拠点)	住居地域 (集積所)		
紙類	0.0	0.0	0.3	0.0	0.1
厨芥類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
繊維類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
草木類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	12.8	0.2	1.0	4.1	4.5
ゴム・皮革類	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5
その他可燃物等	29.9	12.2	70.7	0.0	28.2
ガラス類	26.8	77.2	0.0	0.0	26.0
金属類	22.6	6.9	18.7	63.5	27.9
家電類	2.5	1.2	0.0	29.7	8.4
その他不燃物	3.4	2.2	9.3	2.7	4.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1. 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査

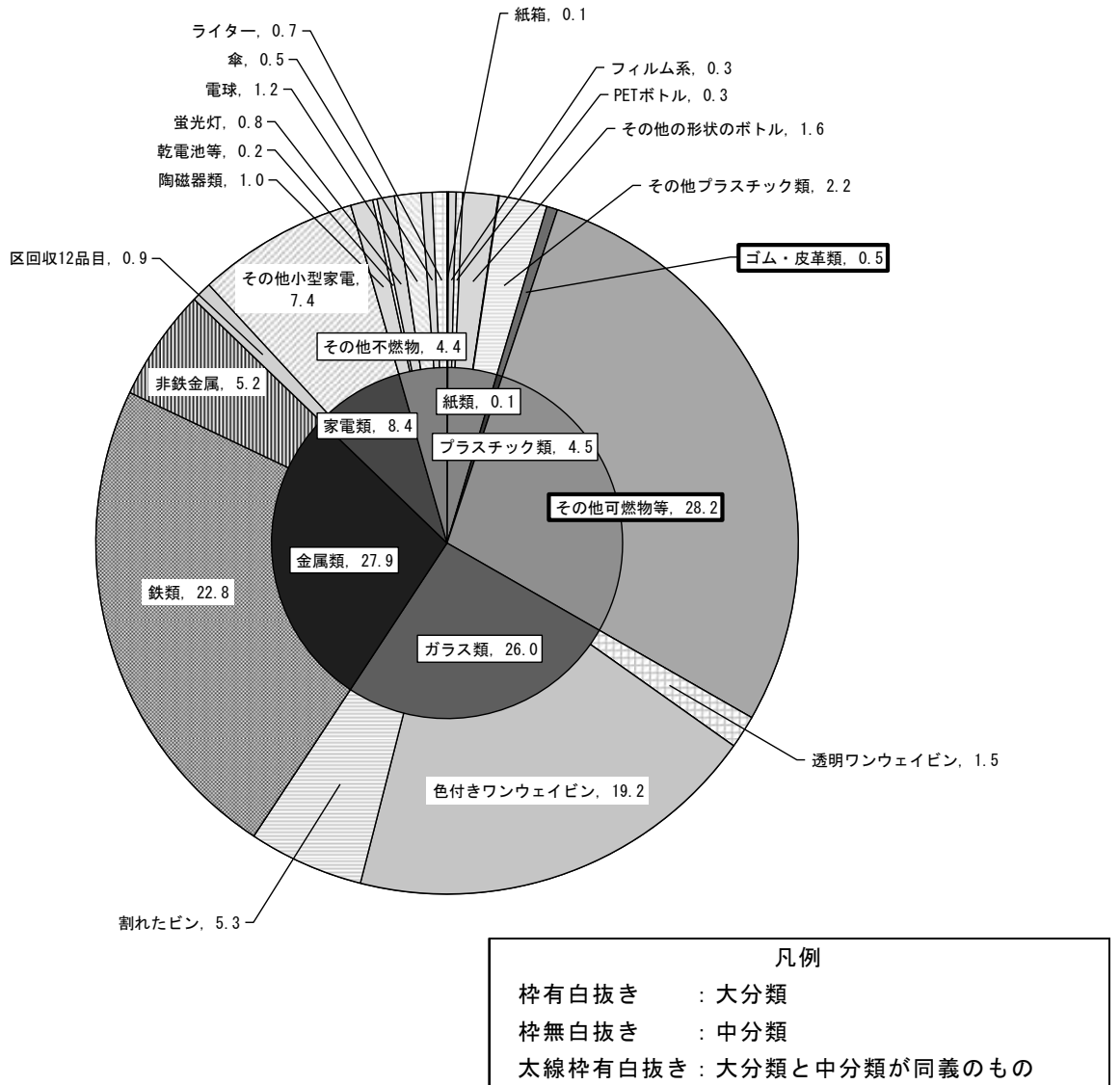


図 1.3.18 湿重量（組成）調査結果（燃やさないごみ：事業系ごみ）

表 1.3.22 各地域の特徴（燃やさないごみ：事業系ごみ）

大分類	調査地域	地域特性	ごみ組成の特徴	
	全体		<p>サンプル数が少なく、組成も地域によって偏りがあるが、平均で見るとその他可燃物等、金属類、ガラス類が占める割合が高い。</p> <p>ごみの組成を中分類で見ると、その他可燃物等、金属類中の鉄類、ガラス類中の色付きワンウェイビンが占める割合が高い。</p>	
A	江東橋 3	繁華街地域	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類の占める割合が平均値より高い。 	
D	業平 1~3	職住混在地域 (観光拠点)	<ul style="list-style-type: none"> ・色付きワンウェイビンの占める割合が非常に高い。 	
J	墨田 5	住居地域 (集積所)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって占める割合が高い品目が異なる。 ・家庭で不要となったその他可燃物等、金属類（空き缶、ボンベ等）、墨田区で回収していない小型家電が多く排出されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その他可燃物等の占める割合が平均値より高い。
K	千歳 3		<ul style="list-style-type: none"> ・金属類とその他小型家電で大部分が占められている。 	

(2) 適正排出

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

適正に排出されているごみの割合は50.1%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、粗大系ごみ・適正処理困難物が19.3%、資源物が13.6%、燃やすごみが10.7%、集積所以外でリサイクル可能なごみが6.4%であった。

表 1.3.23 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	(%)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	乗平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	全体 (平均)
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
燃やすごみ	11.8	4.4	7.1	9.6	7.9	19.8	19.5	20.5	5.2	10.1	8.4	9.7	5.1	10.7
燃やさないごみ	39.7	48.8	64.5	22.2	40.6	57.7	42.1	34.4	65.4	40.7	77.9	55.9	60.8	50.1
資源物	22.7	12.4	4.4	44.8	17.6	8.5	20.1	6.9	5.2	4.5	6.0	12.5	10.8	13.6
集積所回収以外で リサイクル	4.6	6.2	12.0	2.3	4.5	5.1	4.7	11.5	9.4	4.0	4.5	5.4	9.2	6.4
粗大系ごみ・適正 処理困難物	21.2	28.3	12.1	21.2	29.4	8.9	13.6	26.7	14.8	40.7	3.2	16.5	14.2	19.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

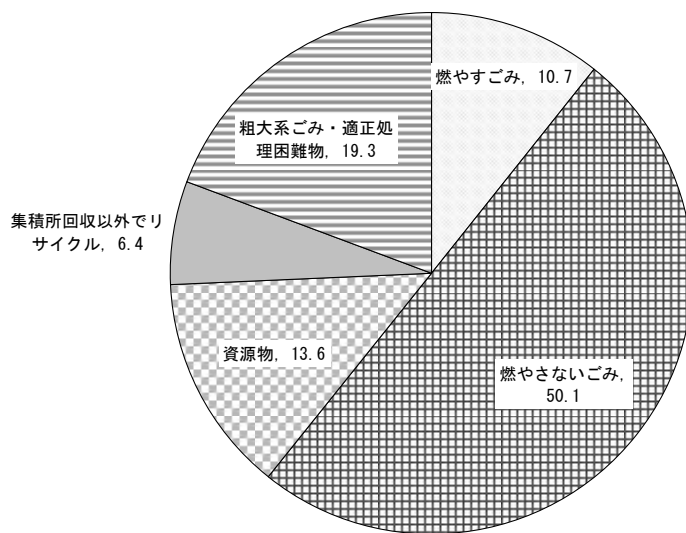


図 1.3.19 適正排出調査結果（燃やさないごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

適正に排出されているごみの割合は51.8%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、粗大系ごみ・適正処理困難物が17.3%、燃やすごみが12.6%、資源物が11.1%、集積所以外でリサイクル可能なごみが7.2%であった。

表 1.3.24 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
	調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
燃やすごみ	13.6	4.4	7.1	18.9	7.9	19.8	19.5	20.5	5.2	19.1	12.8	9.7	5.1	12.6
燃やさないごみ	54.2	48.8	64.5	36.0	40.6	57.7	42.1	34.4	65.4	53.4	59.9	55.9	60.8	51.8
資源物	13.0	12.4	4.4	12.3	17.6	8.5	20.1	6.9	5.2	8.8	11.9	12.5	10.8	11.1
集積所回収以外 でリサイクル	6.6	6.2	12.0	2.6	4.5	5.1	4.7	11.5	9.4	8.0	9.0	5.4	9.2	7.2
粗大系ごみ・適 正処理困難物	12.6	28.3	12.1	30.2	29.4	8.9	13.6	26.7	14.8	10.8	6.4	16.5	14.2	17.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

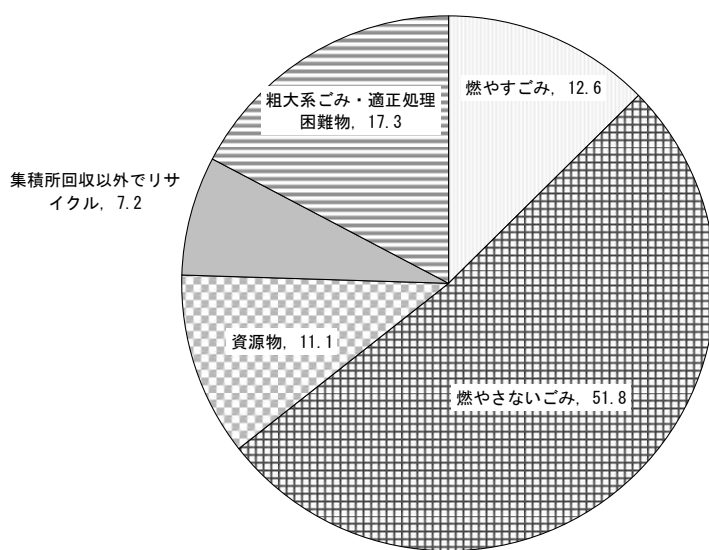


図 1.3.20 適正排出調査結果（燃やさないごみ：家庭ごみ）

ウ) 事業系ごみ

適正に排出されているごみの割合は 39.4%であった。

適正に排出されていないごみの内訳を割合が大きい順にみると、粗大系ごみ・適正処理困難物が 28.2%、資源物が 27.5%、燃やすごみが 3.8%、集積所以外でリサイクル可能なごみが 1.1%であった。

表 1.3.25 適正排出調査結果（調査地域別）

大分類	A	D	J	K	全体
	調査地域	業平1~3	墨田5	千歳3	
地域特性	江東橋3 繁華街地域	職住混在地域 (観光拠点)	住居地域 (集積所)		
燃やすごみ	9.9	0.2	1.0	4.1	3.8
燃やさないごみ	25.1	8.4	28.0	95.9	39.4
資源物	32.5	77.2	0.3	0.0	27.5
集積所回収以外でリサイクル	2.5	2.0	0.0	0.0	1.1
粗大系ごみ・適正処理困難物	29.9	12.2	70.7	0.0	28.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

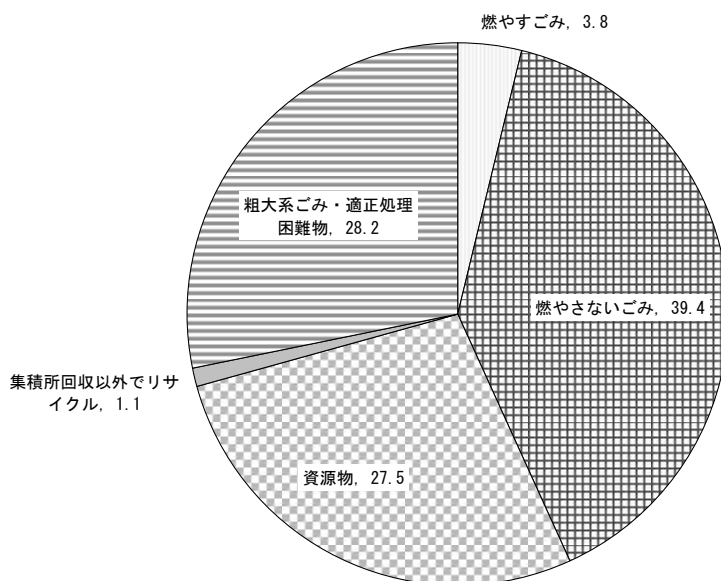


図 1.3.21 適正排出調査結果（燃やさないごみ：事業系ごみ）

(3) 容積

ア) 家庭ごみと事業系ごみの合計

ごみの容積を大分類でみると、金属類の占める割合が最も高く、全体の 30.4%であった。次いでプラスチック類が 22.4%、その他不燃物が 13.8%であった。

表 1.3.26 容積調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	向島4	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	1.2	3.3	3.6	2.0	8.5	5.9	6.9	13.9	12.9	7.4	3.7	1.6	9.5	5.6
厨芥類	0.1	0.0	0.0	2.3	3.4	5.7	2.7	4.9	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	1.3
繊維類	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
草木類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	32.4	12.0	23.7	9.9	28.2	20.6	37.8	32.3	19.0	28.4	11.0	25.9	17.2	22.4
ゴム・皮革類	0.4	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	3.7	0.2	0.0	0.2	0.0	0.9	0.4
その他可燃物等	10.9	25.5	10.9	4.6	24.1	7.4	7.6	12.3	12.8	17.7	2.2	8.8	9.8	11.2
ガラス類	5.1	10.4	5.2	38.1	11.7	6.8	12.2	4.1	7.7	2.7	4.3	2.6	8.6	10.0
金属類	29.7	20.1	31.6	31.0	11.7	30.3	29.2	11.0	15.2	29.3	58.0	46.9	25.3	30.4
家電類	6.8	9.7	1.2	0.1	3.8	0.3	1.5	1.5	16.8	1.9	8.4	2.1	8.1	4.7
その他不燃物	13.4	19.1	23.7	9.3	8.4	23.0	2.0	16.0	15.4	12.4	12.0	12.1	20.5	13.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

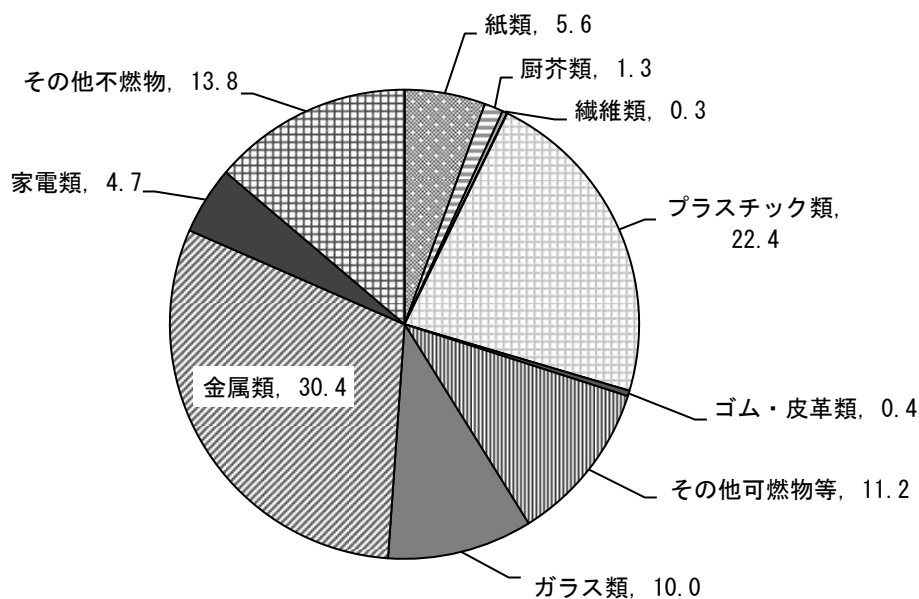


図 1.3.22 容積調査結果（燃やさないごみ：家庭ごみと事業系ごみの合計）

イ) 家庭ごみ

ごみの容積を大分類で見ると、金属類の占める割合が最も高く、全体の 25.6%であった。次いでプラスチック類が 22.4%、その他不燃物が 17.4%であった。

表 1.3.27 容積調査結果（調査地域別）

大分類	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	全体 (平均)
	調査地域	江東橋3	錦糸2	亀沢2	業平1~3	京島3	立花6	吾妻橋1	横川5	文花3	墨田5	千歳3	東向島6	
地域特性	繁華街地域		職住混在地域 (観光拠点)		職住混在地域			住居地域 (集合住宅)		住居地域 (集積所)		住居地域 (戸別偏在)		
紙類	2.3	3.3	3.6	4.0	8.5	5.9	6.9	13.9	12.9	13.1	7.4	1.6	9.5	7.1
厨芥類	0.1	0.0	0.0	4.5	3.4	5.7	2.7	4.9	0.0	0.2	0.3	0.0	0.1	1.7
繊維類	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
草木類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	16.5	12.0	23.7	19.5	28.2	20.6	37.8	32.3	19.0	20.5	18.0	25.9	17.2	22.4
ゴム・皮革類	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	3.7	0.2	0.0	0.4	0.0	0.9	0.4
その他可燃物等	8.5	25.5	10.9	9.2	24.1	7.4	7.6	12.3	12.8	8.3	4.3	8.8	9.8	11.5
ガラス類	9.0	10.4	5.2	10.4	11.7	6.8	12.2	4.1	7.7	5.3	8.7	2.6	8.6	7.9
金属類	25.5	20.1	31.6	28.9	11.7	30.3	29.2	11.0	15.2	27.8	29.1	46.9	25.3	25.6
家電類	11.4	9.7	1.2	0.1	3.8	0.3	1.5	1.5	16.8	3.8	10.2	2.1	8.1	5.4
その他不燃物	26.5	19.1	23.7	17.9	8.4	23.0	2.0	16.0	15.4	20.9	21.4	12.1	20.5	17.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

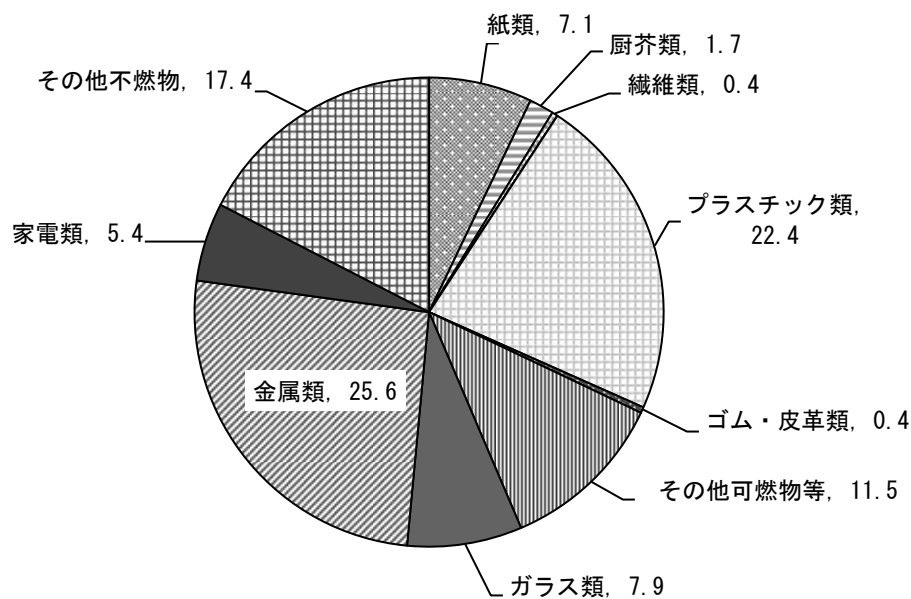


図 1.3.23 容積調査結果（燃やさないごみ：家庭ごみ）

ウ) 事業系ごみ

ごみの容積を大分類で見ると、金属類の占める割合が最も高く、全体の 46.2%であった。次いでプラスチック類が 22.2%、ガラス類が 16.8%であった。

表 1.3.28 容積調査結果（調査地域別）

(%)

大分類	A	D	J	K	全体 (平均)
調査地域	江東橋3	業平1~3	墨田5	千歳3	
地域特性	繁華街地域	職住混在地域 (観光拠点)	住居地域 (集積所)		
紙類	0.0	0.0	1.8	0.0	0.5
厨芥類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
繊維類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
草木類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃食油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック類	48.3	0.3	36.3	3.9	22.2
ゴム・皮革類	0.7	0.0	0.0	0.0	0.2
その他可燃物等	13.3	0.0	27.2	0.0	10.1
ガラス類	1.3	65.8	0.0	0.0	16.8
金属類	33.9	33.2	30.9	86.8	46.2
家電類	2.2	0.0	0.0	6.6	2.2
その他不燃物	0.4	0.7	3.8	2.6	1.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

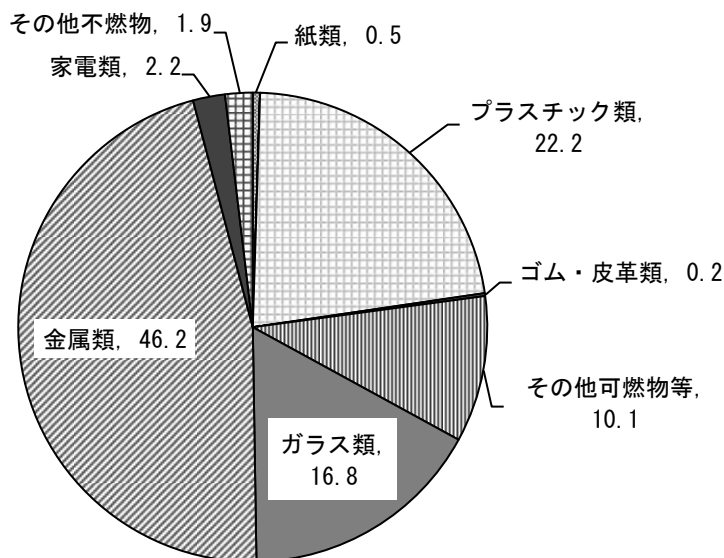


図 1.3.24 容積調査結果（燃やさないごみ：事業系ごみ）

(4) 経年変化

ア) 湿重量（組成）

紙類、厨芥類、その他可燃物等、家電類が増加しており、繊維類、草木類、プラスチック類、ゴム・皮革類、ガラス類、金属類、その他不燃物は減少している。廃食油は変化なしであった。

変化の大きい項目をみると、他の項目と比較して、その他可燃物等が大きく増加し、金属類が大きく減少している。

表 1.3.29 湿重量（組成）調査結果の経年変化

大分類	平成17年度	平成21年度	平成27年度	今回調査 (令和元年度)	前回との比較
紙類	3.3%	1.4%	1.2%	1.8%	0.6ポイント増
厨芥類	5.7%	0.2%	0.5%	2.4%	1.9ポイント増
繊維類	0.8%	0.6%	0.1%	0.0%	0.1ポイント減
草木類	0.8%	0.9%	0.8%	0.1%	0.7ポイント減
廃食油	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	変化なし
プラスチック類	49.0%	15.8%	8.6%	7.0%	1.6ポイント減
ゴム・皮革類	3.2%	0.9%	1.5%	0.8%	0.7ポイント減
その他可燃物等	2.3%	3.5%	0.6%	20.0%	19.4ポイント増
ガラス類	15.8%	16.5%	20.8%	18.2%	2.6ポイント減
金属類	11.2%	41.5%	32.1%	19.4%	12.7ポイント減
家電類	0.0%	0.0%	7.2%	7.4%	0.2ポイント増
その他不燃物	8.0%	18.8%	26.7%	22.9%	3.8ポイント減
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

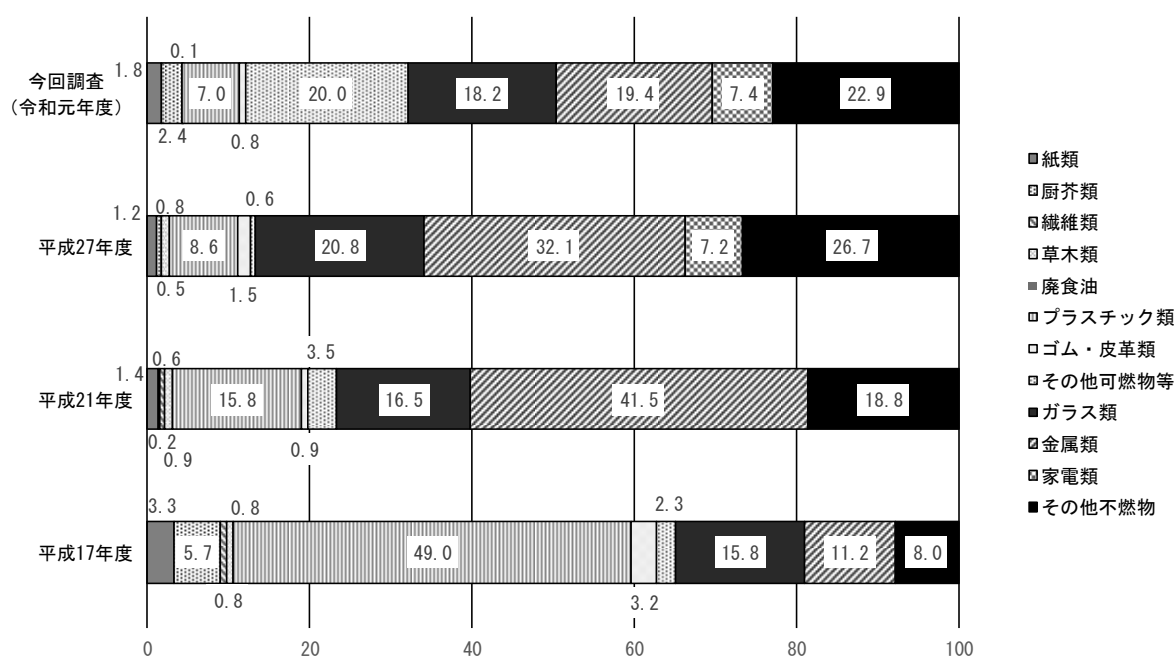


図 1.3.25 湿重量（組成）調査結果の経年変化

イ) 適正排出

適正に排出されているごみは 50.1%、適正に排出されていないごみは 49.9% となっており、適正排出の状況としては、前回調査と比較して 13.4 ポイントの減少となっている。

また、適正に排出されていないごみの内訳は、粗大系ごみ・適正処理困難物が 19.3%、資源物が 13.6%、燃やすごみが 10.7%、集積所回収以外でリサイクルが 6.4% の順となっており、粗大系ごみ・適正処理困難物の不適正排出が大きく増加している。

項目別にみると、集積所回収以外でリサイクル、粗大系ごみ・適正処理困難物が増加しており、燃やすごみ、燃やさないごみ、資源物は減少している。

変化の大きい項目をみると、他の項目と比較して、粗大系ごみ・適正処理困難物が大きく増加し、燃やさないごみが大きく減少している。

表 1.3.30 適正排出調査結果の経年変化

項目	平成17年度	平成21年度	平成27年度	今回調査 (令和元年度)	前回との比較
燃やすごみ	14.4%	22.1%	12.0%	10.7%	1.3ポイント減
燃やさないごみ	50.6%	60.8%	63.5%	50.1%	13.4ポイント減
資源物	30.1%	14.9%	17.0%	13.6%	3.4ポイント減
集積所回収以外でリサイクル	1.0%	1.1%	4.4%	6.4%	2.0ポイント増
粗大系ごみ・適正処理困難物	3.9%	1.2%	3.1%	19.3%	16.2ポイント増
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

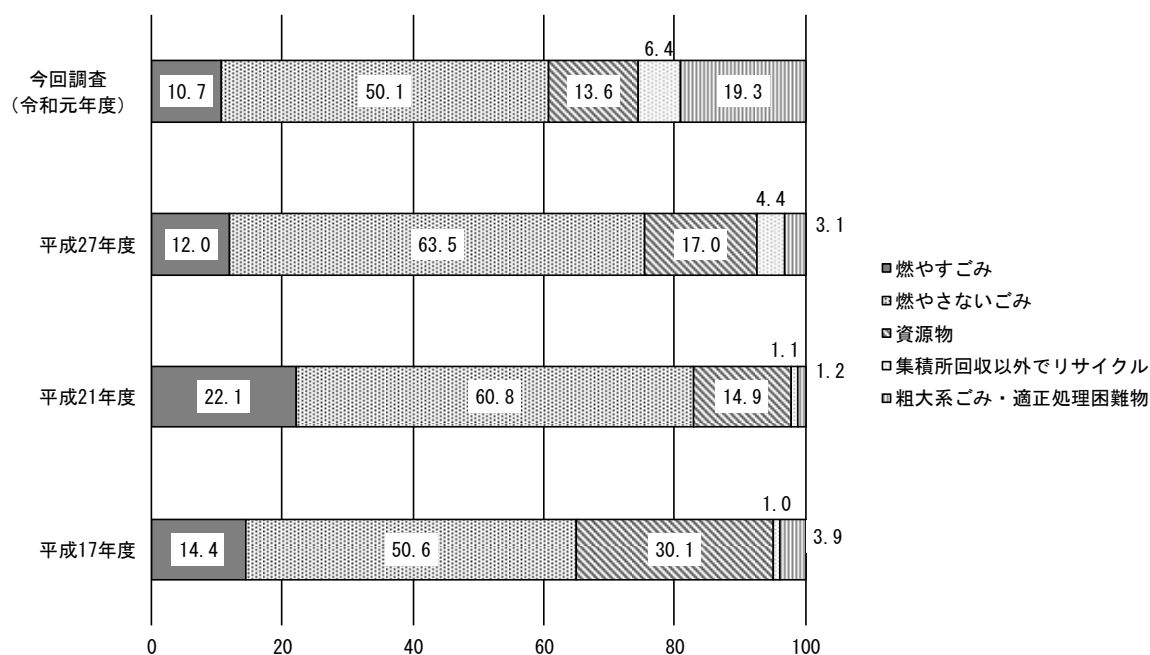


図 1.3.26 適正排出調査結果の経年変化

1.3.3 まとめ

(1) 燃やすごみ

ごみの組成を大分類で見ると、家庭ごみ、事業系ごみともに、厨芥類、紙類、プラスチック類の割合が高くなっている。また、中分類で見ると、家庭ごみ、事業系ごみともに、生ごみ（食べ残し以外）、フィルム系のプラスチック類、その他紙類、その他可燃物等の割合が高くなっている。各調査地域の調査結果を比較すると、地域によって多少の特徴はあるが、上記の傾向から大きく逸脱するほどの差異はみられなかった。

ごみの組成について経年変化をみると、前回調査と比較して紙類が大きく減少し、厨芥類とその他可燃物等が増加している。また、プラスチック類は、増加傾向から減少に転じているが、割合としては3番目に高い19.1%となっている。

適正排出についてみると、適正に排出されているごみの割合は、家庭ごみで78.8%、事業系ごみで76.7%であった。また、経年変化をみると、適正排出状況としては横ばいの傾向であり、粗大系ごみ・適正処理困難物の割合が増加し、資源物の割合が減少している。

容積についてみると、家庭ごみ、事業系ごみともに、プラスチック類、紙類、厨芥類の占める割合が高く、この3分類で全体の約3/4以上を占めている。

含水率について、生ごみの含水率は平均で77.3%、生ごみ以外の含水率は平均で27.8%であった。経年変化をみると、生ごみの含水率は過去の調査結果と比較して最も低い結果であった一方で、生ごみ以外のごみの含水率は過去の調査結果と比較して最も高い結果であった。

以上のことから、家庭ごみ、事業系ごみともに厨芥類、紙類、プラスチック類の割合が高くなっているため、これらの品目の発生抑制が区のごみ発生量の削減に大きく寄与するものと考えられる。なお、生ごみの含水率が減少していることから、区が推進している生ごみの水切り施策は一定の効果があるものと考えられるが、生ごみ以外のごみの含水率が増加していることから、新たな施策を検討していく必要があると考えられる。

表 1.3.31 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査結果の整理（燃やすごみ）

調査項目		調査結果の概要
湿重量 (組成)	大分類	家庭ごみ、事業系ごみともに、厨芥類、紙類、プラスチック類の占める割合が高い。
	中分類	家庭ごみ、事業系ごみともに、生ごみ（食べ残し以外）、フィルム系のプラスチック類、その他紙類、その他可燃物等の占める割合が高い。
適正排出		適正に排出されているごみの割合は、家庭ごみで78.8%、事業系ごみで76.7%であった。
容積		家庭ごみ、事業系ごみともに、プラスチック類、紙類、厨芥類の占める割合が高い。
含水率	生ごみ	全調査地域の平均で77.3%であった。
	生ごみ以外	全調査地域の平均で27.8%であった。
経年変化	湿重量 (組成)	厨芥類、繊維類、草木類、廃食油、その他可燃物等、ガラス類、家電類の割合が増加しており、紙類、プラスチック類、ゴム・皮革類、金属類、その他不燃物の割合は減少している。 特に、厨芥類の割合が大きく増加し、紙類の割合が大きく減少している。
	適正排出	不適正排出である粗大系ごみ・適正処理困難物が増加し、資源物が減少している。 適正排出の状況としては横ばいの傾向であった。
	含水率	生ごみの含水率は前回調査よりも減少しており、過去の調査結果と比較して最も低い結果であった。一方、生ごみ以外のごみの含水率は前回調査よりも増加しており、過去の調査結果と比較して最も高い結果であった。

(2) 燃やさないごみ

ごみの組成を大分類で見ると、家庭ごみ、事業系ごみともに、その他不燃物、金属類、その他可燃物等、ガラス類の占める割合が高くなっている。また、中分類で見ると、家庭ごみ、事業系ごみともに、その他可燃物等、陶磁器類、鉄類が占める割合が高くなっており、事業系ごみでは色付きワンウェイビンが占める割合が高い。各調査地域の調査結果を比較すると、家庭ごみは地域によって多少の特徴はあるが、上記の傾向から大きく逸脱するほどの差異はみられなかった。事業系ごみは、調査を実施した地域が4地域と少なく、調査結果にばらつきがみられた。

ごみの組成について経年変化をみると、他の項目と比較して、その他可燃物等の割合が大きく増加し、金属類の割合が大きく減少している。これは、その他可燃物等に含まれる粗大系ごみ・適正処理困難物の増加が大きく影響しているものと考えられる。

適正排出について、適正に排出されているごみの割合は、家庭ごみで51.8%、事業系ごみで39.4%と低い結果であった。経年変化をみると、他の項目と比較して、粗大系ごみ・適正処理困難物の割合が大きく増加しており、適正排出の状況としては悪化の傾向がみられた。

容積についてみると、家庭ごみ、事業系ごみともに、金属類、プラスチック類の割合が高い。また、家庭ごみではその他不燃物、事業系ごみではガラス類の占める割合がそれぞれ高くなっている。

以上のことから、粗大系ごみ・適正処理困難物が燃やさないごみとして不適正に排出されていることが示唆された。よって、区民及び事業者に対して、粗大系ごみ・適正処理困難物の適正排出を啓発・指導する施策を実施していく必要があると考えられる。

表 1.3.32 家庭ごみ及び事業系ごみ排出実態調査結果の整理（燃やさないごみ）

調査項目		調査結果の概要
湿重量 (組成)	大分類	家庭ごみ、事業系ごみともに、その他不燃物、金属類、その他可燃物等、ガラス類の占める割合が高い。
	中分類	家庭ごみ、事業系ごみともに、その他可燃物等、陶磁器類、鉄類が占める割合が高い。また、事業系ごみでは色付きワンウェイビンが占める割合が高い。
適正排出		適正に排出されているごみの割合は、家庭ごみで51.8%、事業系ごみで39.4%であった。
容積		家庭ごみでは、金属類、プラスチック類、その他不燃物の占める割合が高い。事業系ごみでは、金属類、プラスチック類、ガラス類の占める割合が高い。
経年変化	湿重量 (組成)	紙類、厨芥類、その他可燃物等、家電類が増加しており、繊維類、草木類、プラスチック類、ゴム・皮革類、ガラス類、金属類、その他不燃物は減少している。特に、その他可燃物等の割合が大きく増加し、金属類の割合が大きく減少している。
	適正排出	不適正排出である粗大系ごみ・適正処理困難物が増加し、適正排出の状況としては悪化の傾向がみられた。

2. 区民のごみ減量に対する意識調査

2.1 調査概要

2.1.1 調査の目的

区民のごみ減量に対する意識調査は、施策の効果や認知度、区民の意見等を把握し、区のごみ処理における課題の抽出や、施策の検討等に利用する基礎情報の取得を目的として実施した。

2.1.2 調査内容

墨田区民を対象とした意識調査は、これまでに2回（平成17年度及び平成21年度）実施されている。

今年度の意識調査においては、区が実施している施策の効果や認知度、経年の調査結果との比較、区のごみ処理における課題、区民の意見等を取得できる設問とした。

各設問のねらいを表2.1.1に示す。

表 2.1.1 各設問のねらい

設問	ねらい
問1	燃やすごみ排出量の把握、燃やさないごみ排出量の把握
問2	資源物の排出方法の把握
問3	ごみに関する情報の入手先の把握
問4	区のごみ処理や情報公開に関する満足度の把握
問5	ごみへの関心度の把握
問6	ごみに関する行動の把握
問7	食品ロスに関する認知度、取り組み意欲の把握 (区民への「食品ロス削減」の啓発を兼ねている)
問8	容器包装プラスチック分別収集への協力の把握
問9	容器包装プラスチックの拠点回収への協力の把握
問10	区の施策の認知度及び協力状況の把握
問11	ごみの分別に関する問題の把握
問12	区のごみ、資源物収集頻度に関する満足度の把握
問13	区の施策に関する満足度の把握
問14	区の清潔さに関する満足度の把握
問15	自由意見の収集

2.1.3 調査対象

調査対象は、墨田区が住民基本台帳（令和元年9月1日現在）から無作為に抽出（抽出方法：層化2段階無作為抽出法）した1,500人とした。

なお、抽出結果の詳細は資料編に掲載する。

2.1.4 調査期間

アンケートの発送	: 2019年10月30日(水)
アンケート回収期限	: 2019年11月18日(月)
お礼状の発送	: 2019年11月13日(水)
アンケートのとりまとめ・分析	: 2019年11月18日(月)～12月27日(金)

2.2 調査方法

調査の実施フローを図2.2.1に示す。

区民に対して、郵送によりアンケート用紙を配布し、返信された回答用紙についてデータ整理を行った。

また、回収率の向上を目的として、お礼状をアンケート発送の2週間後に実施した。

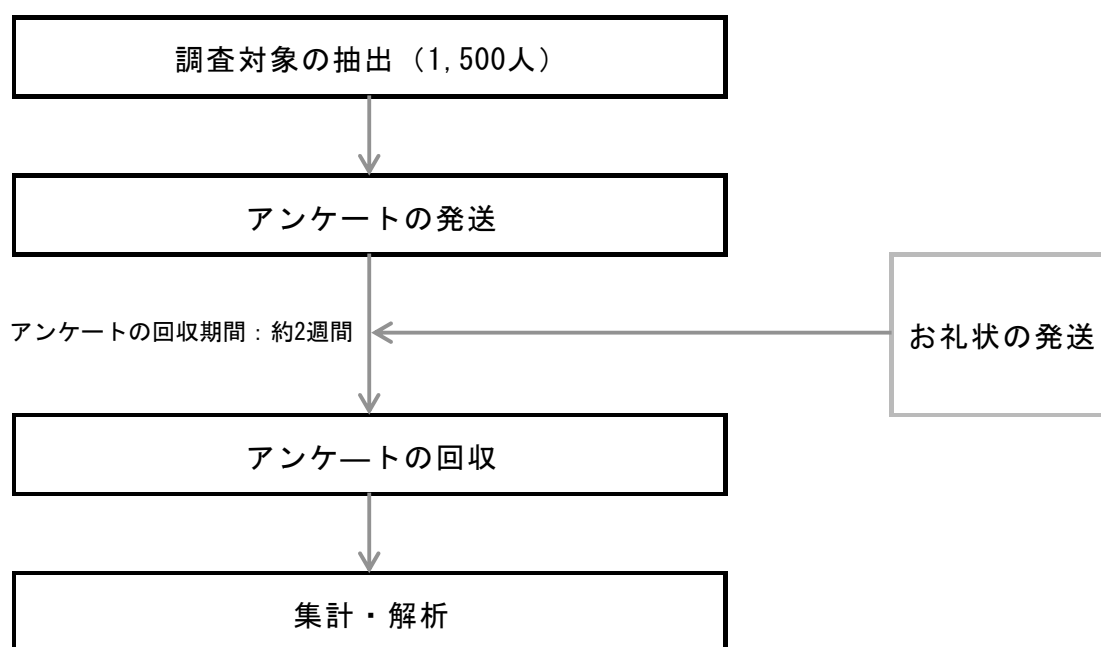


図 2.2.1 アンケートの実施フロー

表 2.2.1 アンケートの回収状況

項目	値	算出式
アンケート発送数	1,500	
無効数 (宛先不明等)	12	
有効数	1,488	(アンケート発送数) - (無効数)
アンケート回収数	606	
アンケート回収率	40.7%	(アンケート回収数) / (有効数)

2.3 調査結果

区民のごみ減量に対する意識調査の結果を以下に示す。なお、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

2.3.1 回答者の属性

(1) 居住地域

回答者の居住地域について、北部と南部で比較すると、北部が55.8%、南部が44.2%と、北部がやや多い結果となった。

表 2.3.1 居住地域別回答数

区分	町名	回答数	割合	回答数	割合
1. 北部	向島	38	6.3%	338	55.8%
	東向島	56	9.2%		
	堤通	11	1.8%		
	墨田	42	6.9%		
	押上	23	3.8%		
	京島	36	5.9%		
	文花	19	3.1%		
	八広	55	9.1%		
	立花	56	9.2%		
	東墨田	2	0.3%		
2. 南部	両国	15	2.5%	268	44.2%
	千歳	13	2.1%		
	緑	30	5.0%		
	立川	7	1.2%		
	菊川	16	2.6%		
	江東橋	20	3.3%		
	横網	1	0.2%		
	亀沢	21	3.5%		
	石原	15	2.5%		
	本所	18	3.0%		
	東駒形	16	2.6%		
	吾妻橋	17	2.8%		
	錦糸	15	2.5%		
	太平	25	4.1%		
	横川	17	2.8%		
	業平	22	3.6%		
合計		606	100.0%	606	100.0%

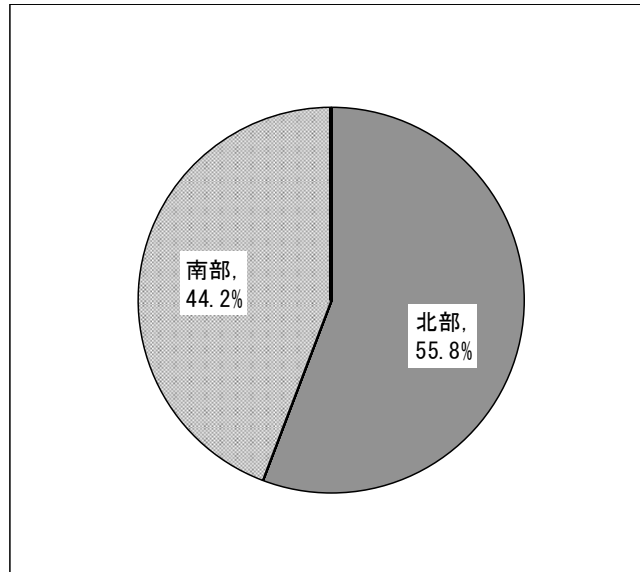


図 2.3.1 居住地域別回答数

(2) 性別

回答者の性別についてみると、男性が34.8%、女性が64.0%と、女性が約2/3を占める結果となった。

表 2.3.2 性別回答数

項目	回答数	割合
男性	211	34.8%
女性	388	64.0%
その他	2	0.3%
回答しない	5	0.8%
無回答	0	0.0%
合計	606	100%

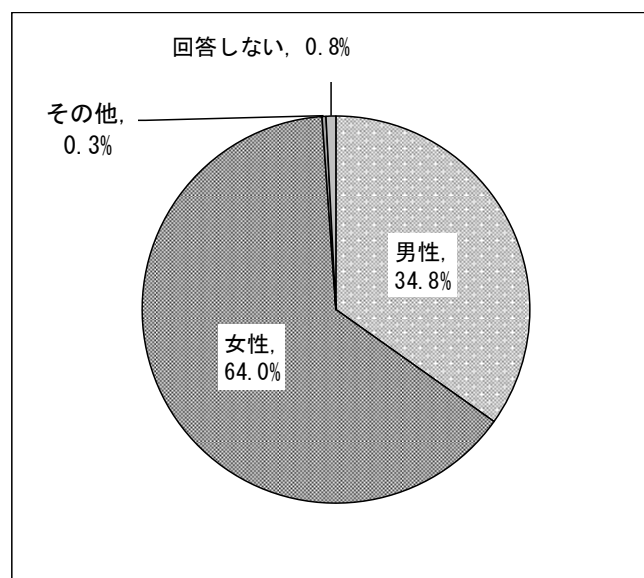


図 2.3.2 性別回答数

(3) 年代

回答者の年代についてみると、30代と40代が22.1%と最も多く、次いで50代が18.2%であった。また、20代が最も割合が少なく、9.7%であった。

表 2.3.3 年代別回答数

項目	回答数	割合
20代	59	9.7%
30代	134	22.1%
40代	134	22.1%
50代	110	18.2%
60代	77	12.7%
70代	92	15.2%
無回答	0	0.0%
合計	606	100%

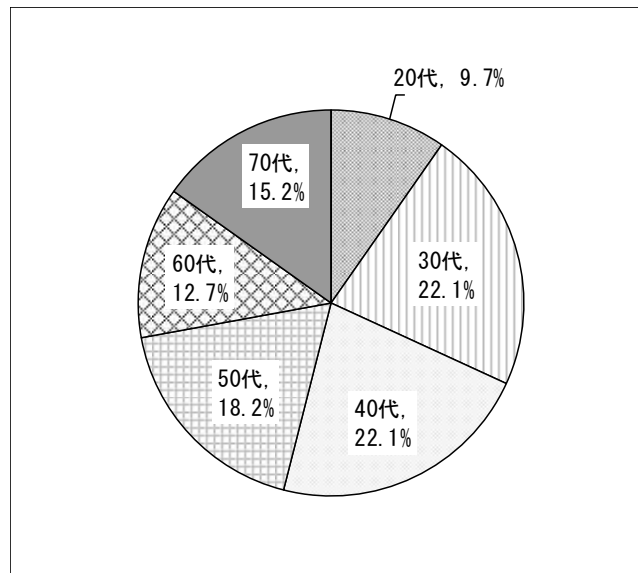


図 2.3.3 年代別回答数

(4) 世帯人数

回答者の世帯人数（回答者を含む）についてみると、2人が38.8%と最も割合が高く、次いで3人が23.8%、1人が23.1%の順であった。

表 2.3.4 世帯人数別回答数

項目	回答数	割合
1人	140	23.1%
2人	235	38.8%
3人	144	23.8%
4人	61	10.1%
5人	20	3.3%
6人以上	6	1.0%
無回答	0	0.0%
合計	606	100%

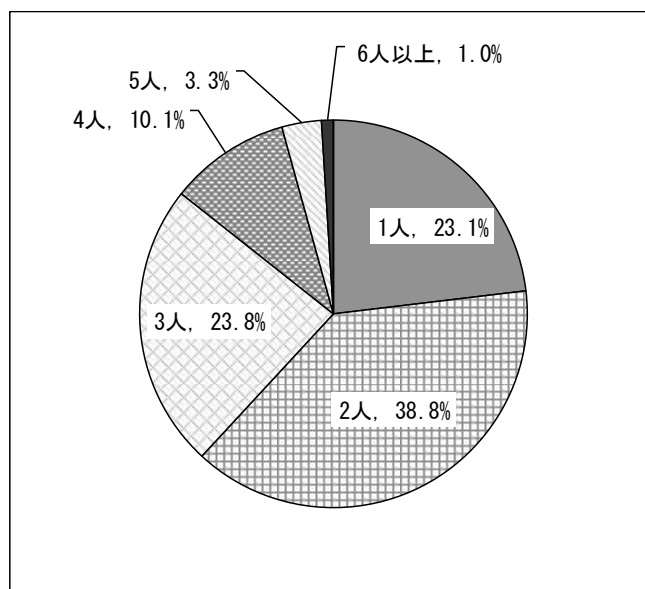


図 2.3.4 世帯人数別回答数

(5) 居住年数

回答者の居住年数についてみると、20年以上が35.0%と最も割合が高く、次いで3年以上～10年未満が23.9%、1年以上～3年未満が16.7%の順であった。

表 2.3.5 居住年数別回答数

項目	回答数	割合
1年未満	50	8.3%
1年以上～3年未満	101	16.7%
3年以上～10年未満	145	23.9%
10年以上～20年未満	97	16.0%
20年以上	212	35.0%
無回答	1	0.2%
合計	606	100%

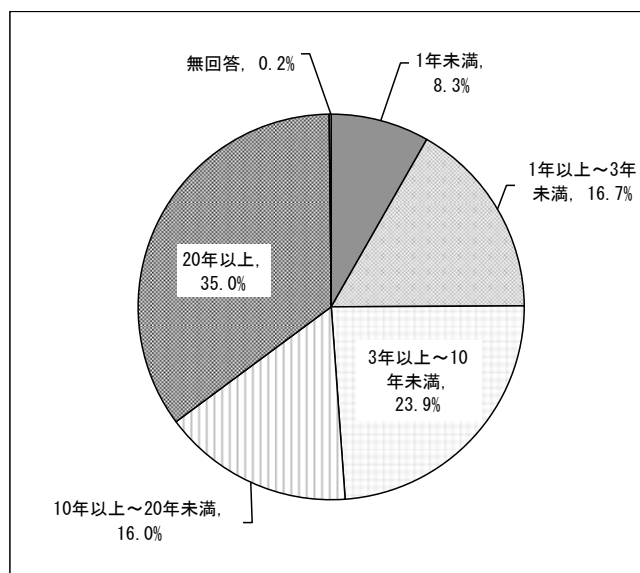


図 2.3.5 居住年数別回答数

(6) 居住形態

回答者の居住形態についてみると、ごみ集積所のある集合住宅（マンション・団地）が 58.6%と最も割合が高く、次いで戸建て住宅が 25.6%、ごみ集積所のない集合住宅（マンション・団地）が 12.2%の順であった。また、自宅兼事業所と回答した 12 人のごみの処分方法をみると、ごみ集積所に出しているが 75%を占めていた。

表 2.3.6 居住形態別回答数

項目	回答数	割合
戸建て住宅	155	25.6%
ごみ集積所のある集合住宅(マンション・団地)	355	58.6%
ごみ集積所のない集合住宅(マンション・団地)	74	12.2%
寮、官舎、下宿等	8	1.3%
自宅兼事業所	12	2.0%
無回答	2	0.3%
合計	606	100%

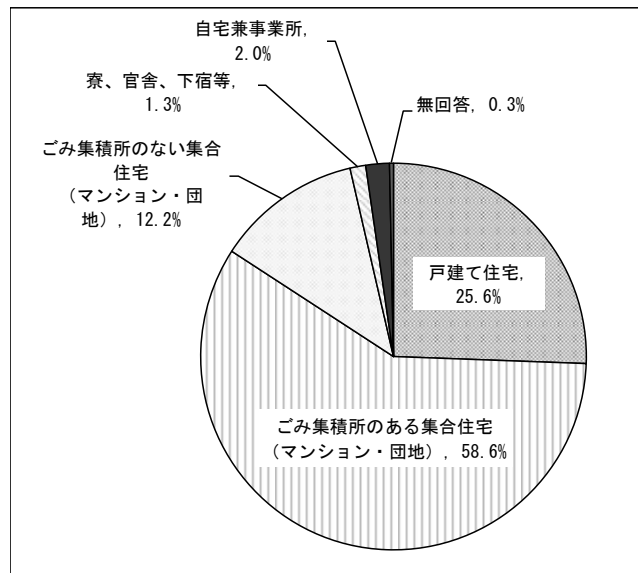


図 2.3.6 居住形態別回答数

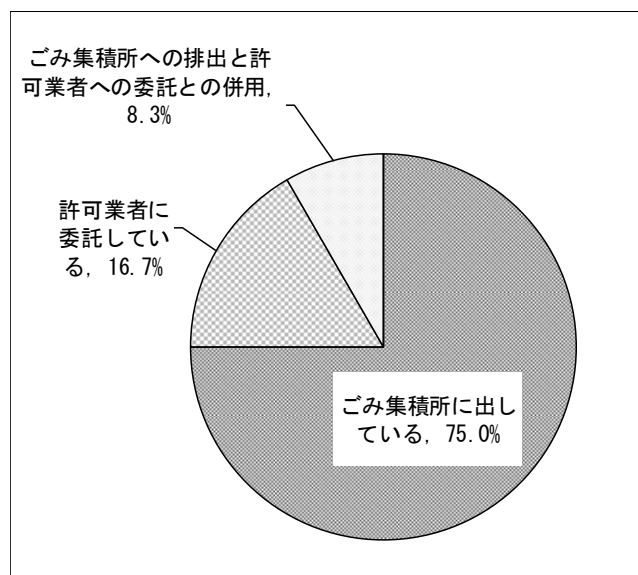


図 2.3.7 「自宅兼事業所」回答者のごみの処分方法

(7) 回答者の属性に関する経年変化

回答者の属性の経年変化は以下のとおりである。

性別についてみると、男性の回答者の割合が高くなっている。また、年代についてみると、60代の回答者の割合が低くなり、20代の回答者の割合が高くなっている。

世帯人数についてみると、4人以上の回答者の割合が低くなり、1人の回答者の割合が高くなっている。また、居住年数についてみると、20年以上の回答者の割合が低くなっている。

表 2.3.7 回答者属性の経年変化

属性項目	(%)		
	平成17年度	平成21年度	今回調査 (令和元年度)
(1) 居住地域			
北部	59.5	55.9	55.8
南部	40.4	41.1	44.2
無回答	0.1	3.0	0
(2) 性別			
男性	26.6	28.1	34.8
女性	73.0	69.0	64.0
その他	-	-	0.3
回答しない	-	-	0.8
無回答	0.5	2.9	0
(3) 年齢			
20代	7.2	6.4	9.7
30代	17.2	15.4	22.1
40代	14.7	17.7	22.1
50代	22.0	19.4	18.2
60代	38.7	38.9	12.7
70代	-	-	15.2
無回答	0.1	2.2	0
(4) 世帯人数			
1人	12.5	13.6	23.1
2人	29.0	32.4	38.8
3人	26.0	23.2	23.8
4人	19.4	18.9	10.1
5人	8.4	6.5	3.3
6人以上	4.1	3.0	1.0
無回答	0.7	2.4	0
(5) 居住年数			
1年未満	3.2	3.9	8.3
1年以上～3年未満	6.0	6.3	16.7
3年以上～10年未満	15.7	15.5	23.9
10年以上～20年未満	10.2	12.7	16.0
20年以上	64.5	59.4	35.0
無回答	0.3	2.2	0.2
(6) 居住形態			
戸建て住宅	47.1	42.8	25.6
ごみ集積所のある集合住宅 (マンション・団地)	35.5	39.4	58.6
ごみ集積所のない集合住宅 (マンション・団地)	13.6	13.8	12.2
寮、官舎、下宿等	3.4	1.5	1.3
自宅兼事業所	-	-	2.0
無回答	0.5	2.5	0.3

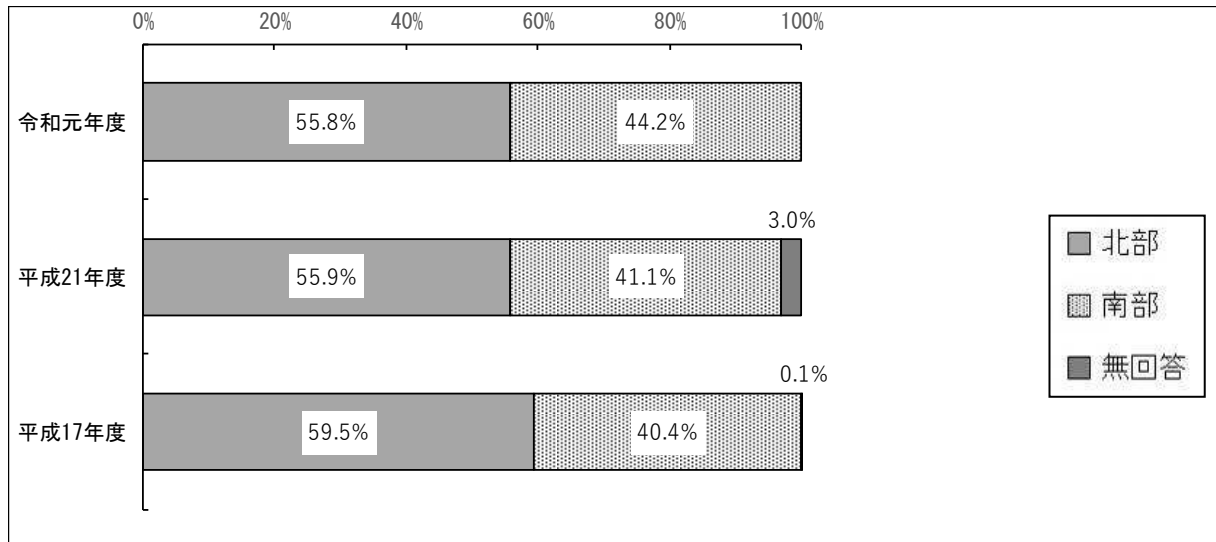


図 2.3.8 居住地域別回答数の経年変化

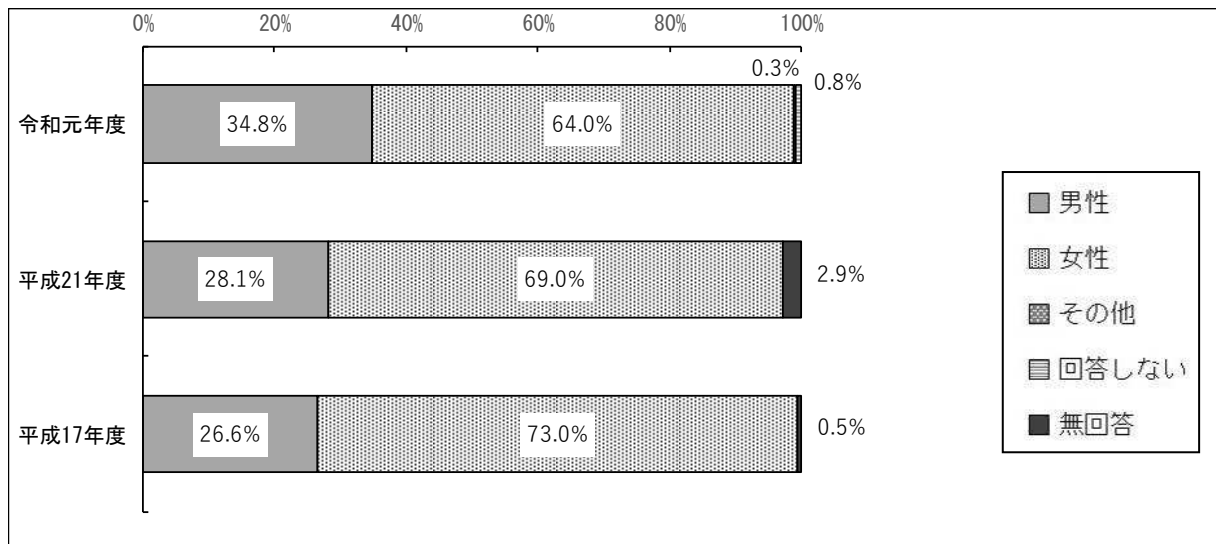


図 2.3.9 性別回答数の経年変化

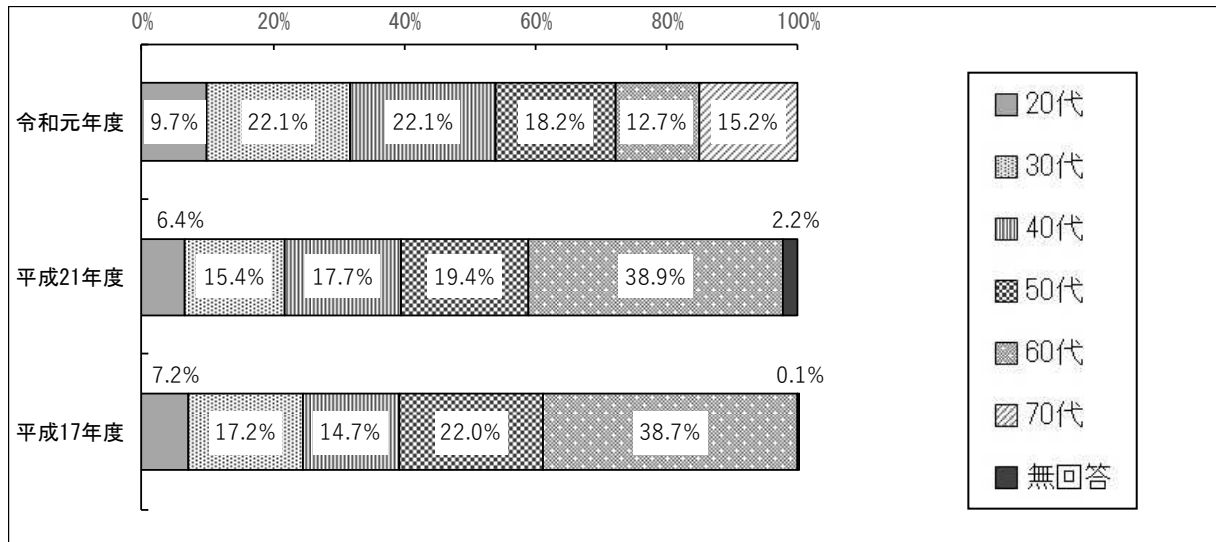


図 2.3.10 年代別回答数の経年変化

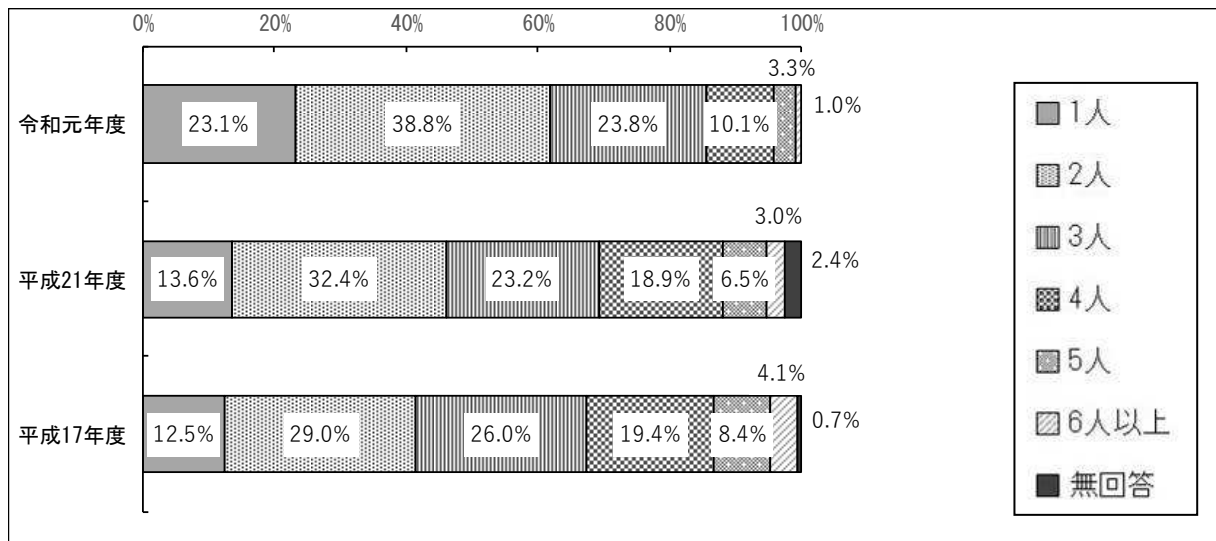


図 2.3.11 世帯人数別回答数の経年変化

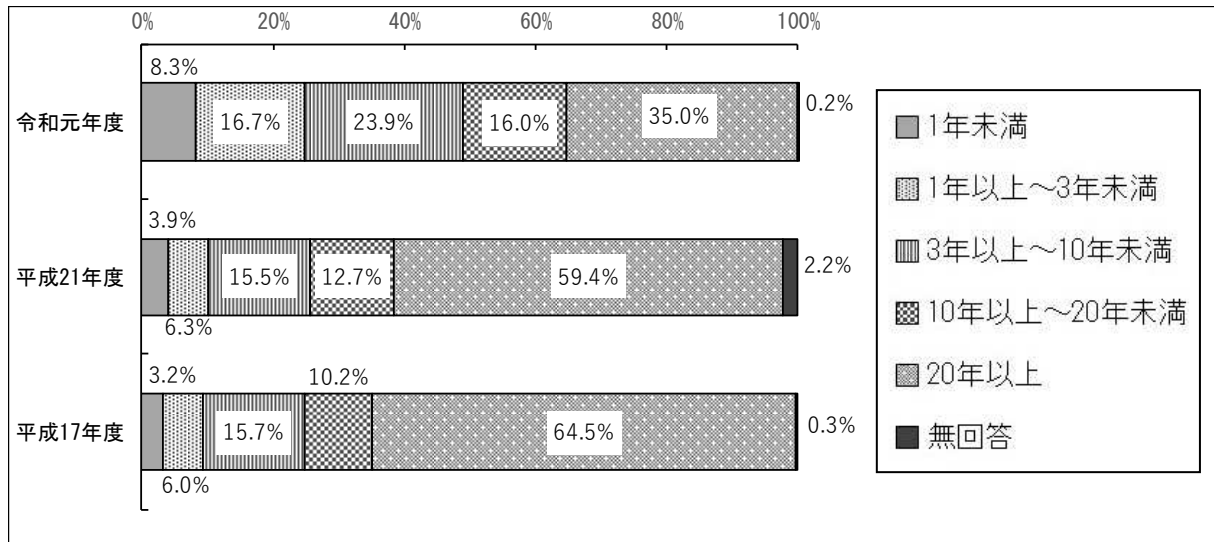


図 2.3.12 居住年数別回答数の経年変化

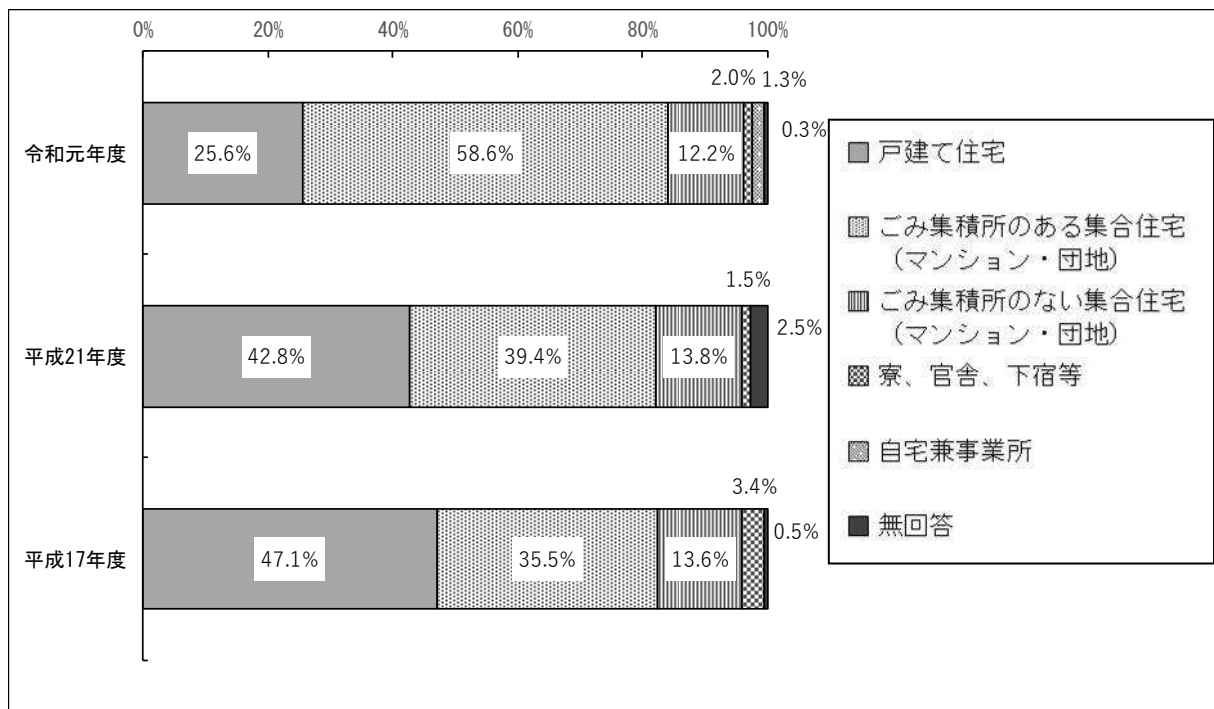


図 2.3.13 居住形態別回答数の経年変化

2.3.2 問1 燃やすごみ、燃やさないごみの排出量

(1) 燃やすごみの排出量

燃やすごみの排出量についてみると、1回に出すごみの量は、レジ袋大（約15L）で、「約1袋」が30.4%と最も割合が高く、次いで「約2袋」が24.4%、「約3袋」が23.8%の順であり、この3項目で3/4以上を占める結果であった。

表 2.3.8 燃やすごみの排出量

項目	回答数	割合
1.出さない	1	0.2%
2.約0.5袋	51	8.4%
3.約1袋	184	30.4%
4.約2袋	148	24.4%
5.約3袋	144	23.8%
6.約4袋	41	6.8%
7.約6袋	16	2.6%
無回答	21	3.5%
合計	606	100%

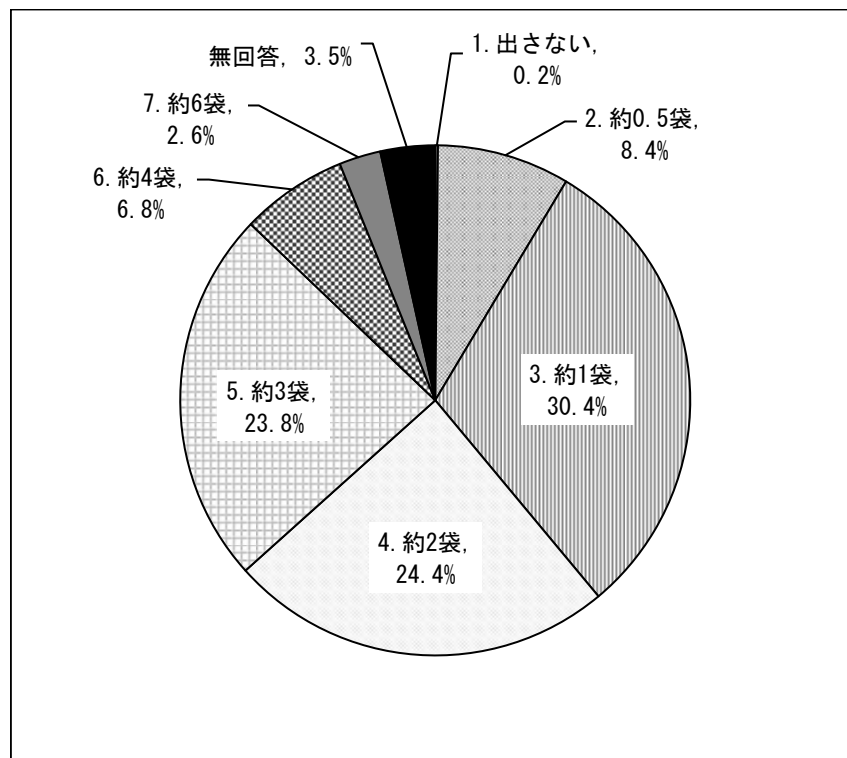


図 2.3.14 燃やすごみの排出量

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.15～図 2.3.19 に示す。

世帯人数が増加するにつれて排出量は増加するものと考えられるが、世帯人数が 5 人と回答した回答者の排出量は少なくなっている。

また、居住年数が長くなるほど排出量が多くなっている。

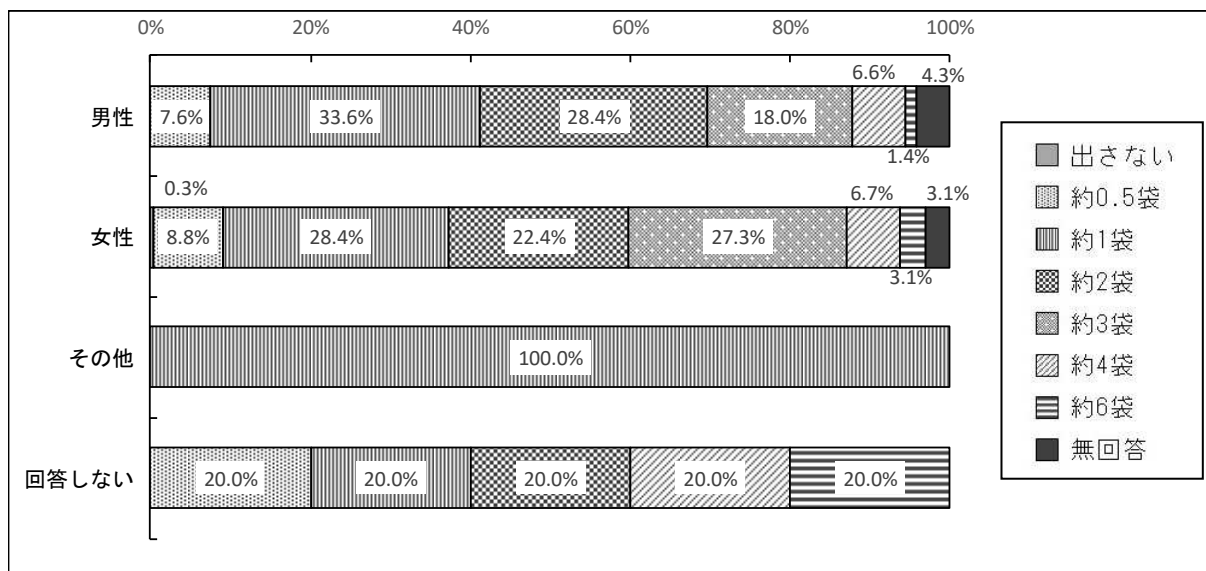


図 2.3.15 燃やすごみの排出量（性別）

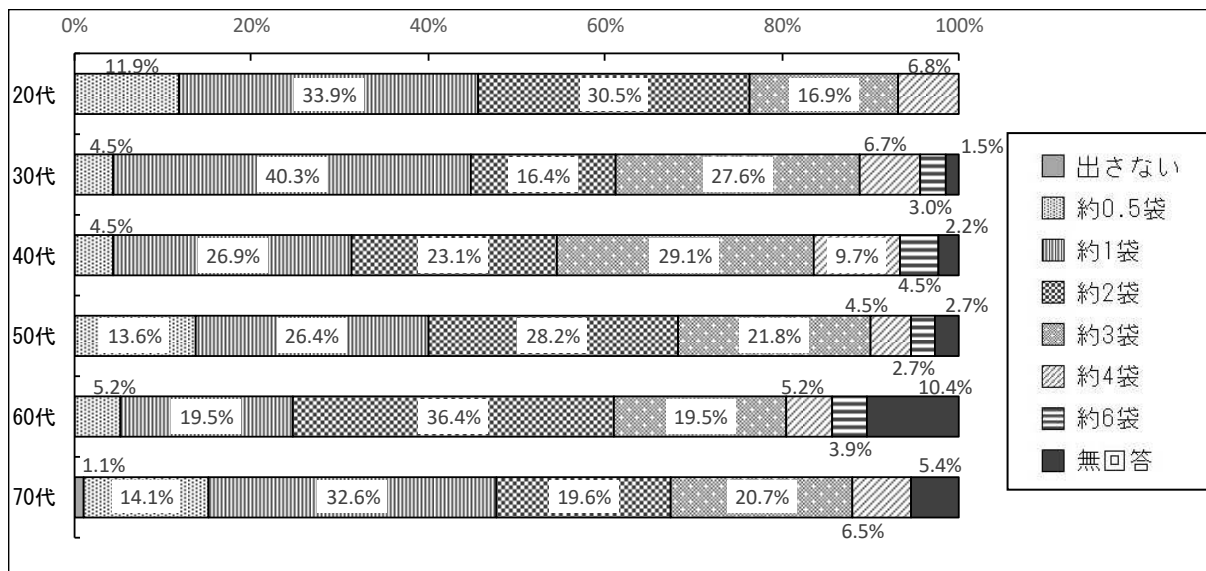


図 2.3.16 燃やすごみの排出量（年代別）

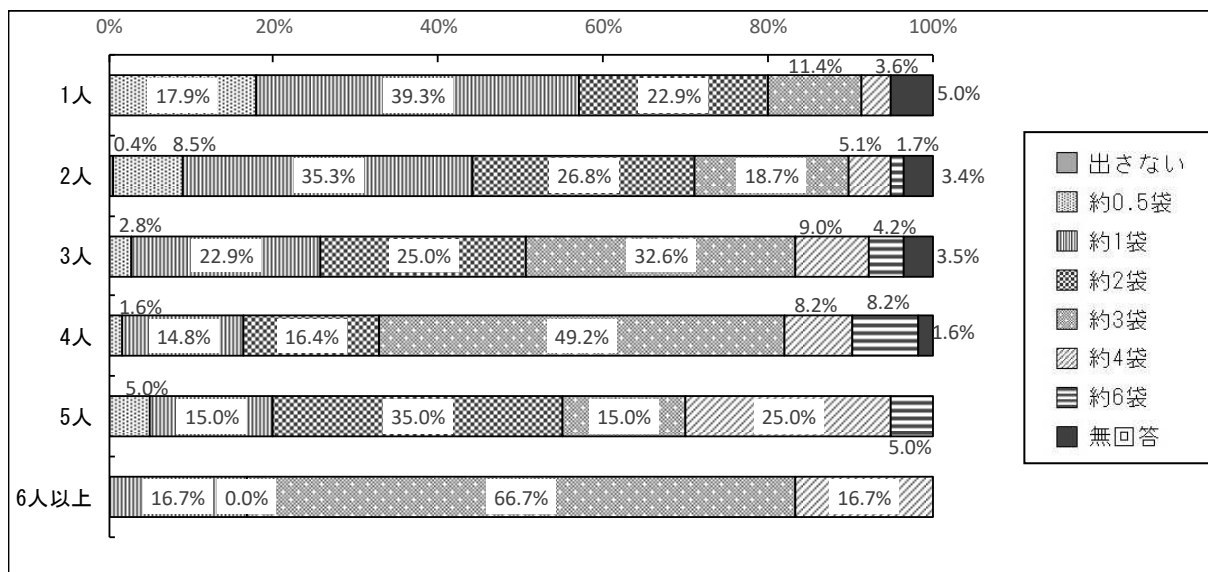


図 2.3.17 燃やすごみの排出量（世帯人数別）

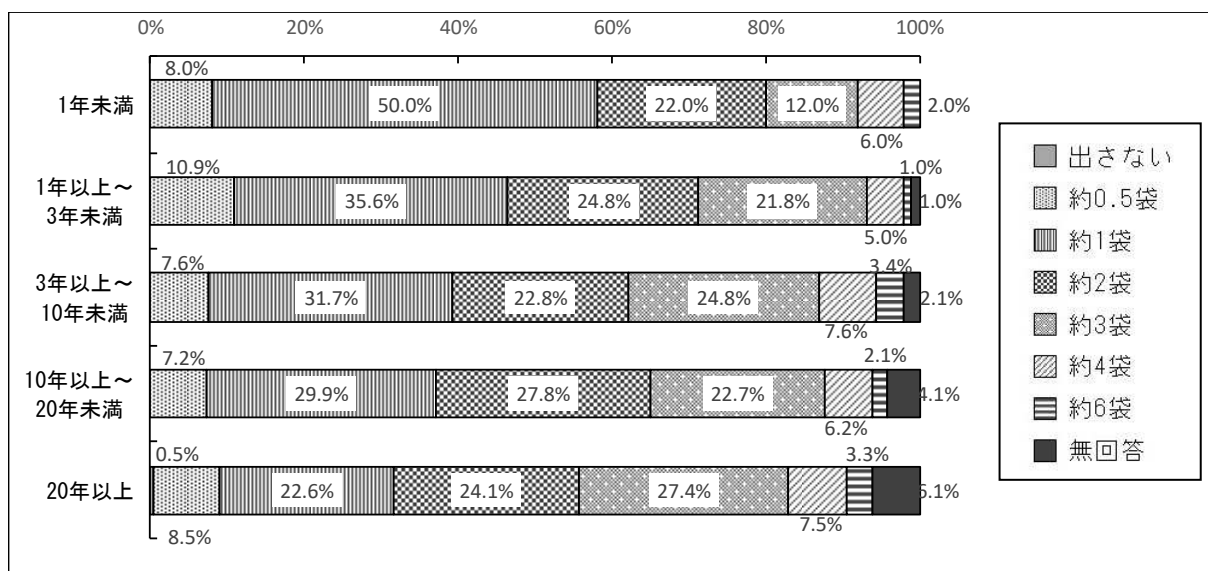


図 2.3.18 燃やすごみの排出量（居住年数別）

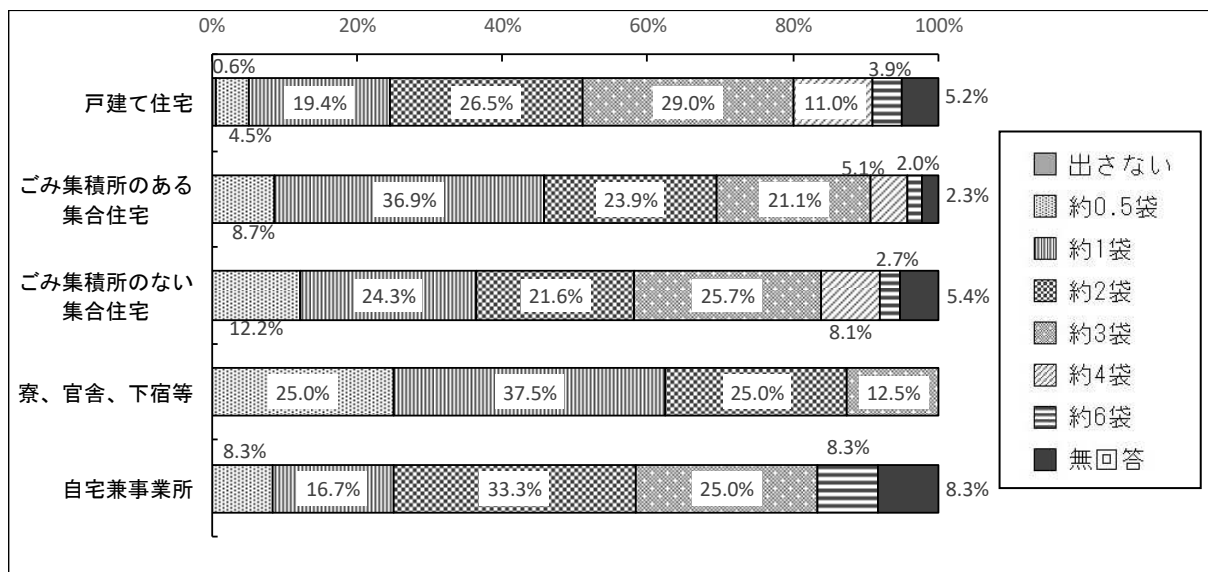


図 2.3.19 燃やすごみの排出量（居住形態別）

(2) 燃やさないごみの排出量

燃やさないごみの排出量についてみると、1回に出すごみの量は、レジ袋大（約15L）で、「約0.5袋」が55.9%と最も割合が高く、次いで「約1袋」が17.5%、「出さない」が15.2%の順であり、この3項目で80%以上を占める結果であった。

表 2.3.9 燃やさないごみの排出量

項目	回答数	割合
1.出さない	92	15.2%
2.約0.5袋	339	55.9%
3.約1袋	106	17.5%
4.約2袋	22	3.6%
5.約3袋	6	1.0%
6.約4袋	2	0.3%
7.約6袋	2	0.3%
無回答	37	6.1%
合計	606	100%

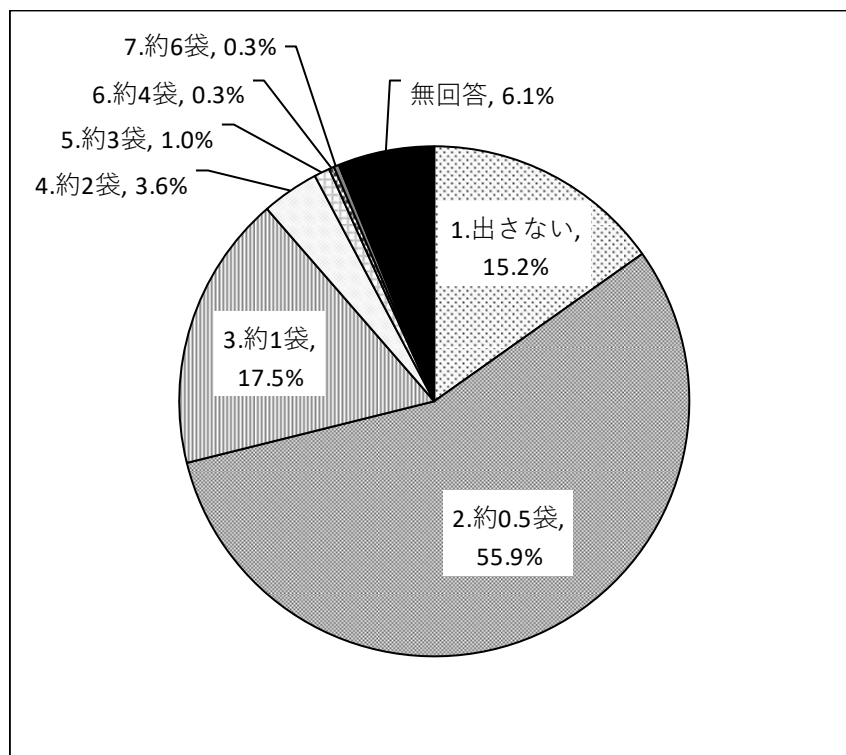


図 2.3.20 燃やさないごみの排出量

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.21～図 2.3.25 に示す。

世帯人数が増加するにつれて排出量も増加しているが、世帯人数が 5 人未満の回答者の中には、燃やさないごみを出さないと回答している回答者も一定数みられた。

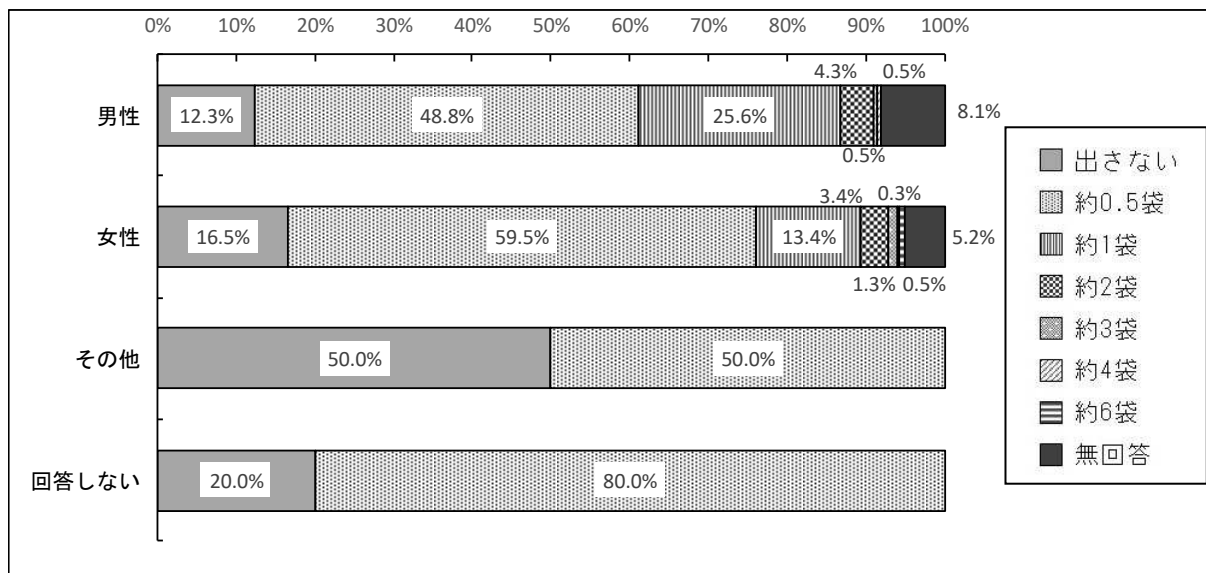


図 2.3.21 燃やさないごみの排出量（性別）

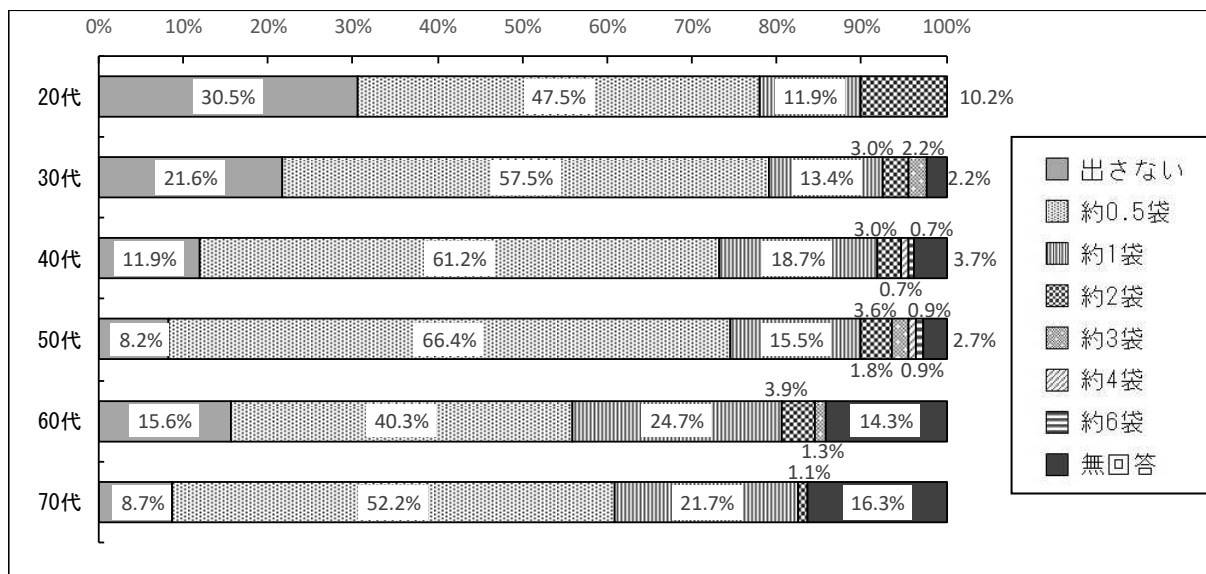


図 2.3.22 燃やさないごみの排出量（年代別）

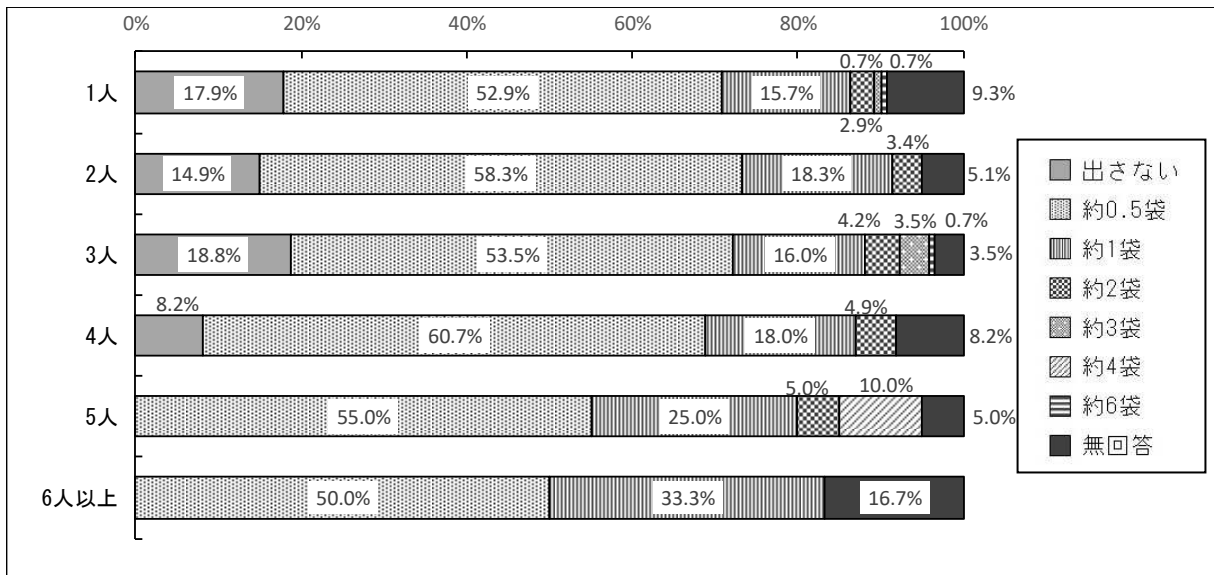


図 2.3.23 燃やさないごみの排出量（世帯人数別）

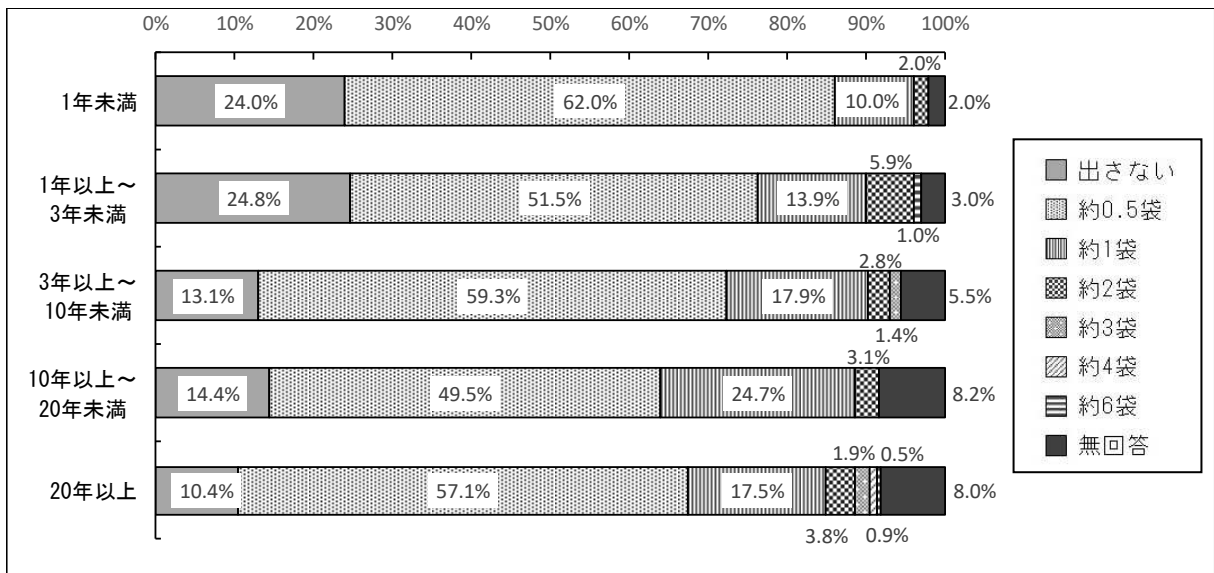


図 2.3.24 燃やさないごみの排出量（居住年数別）

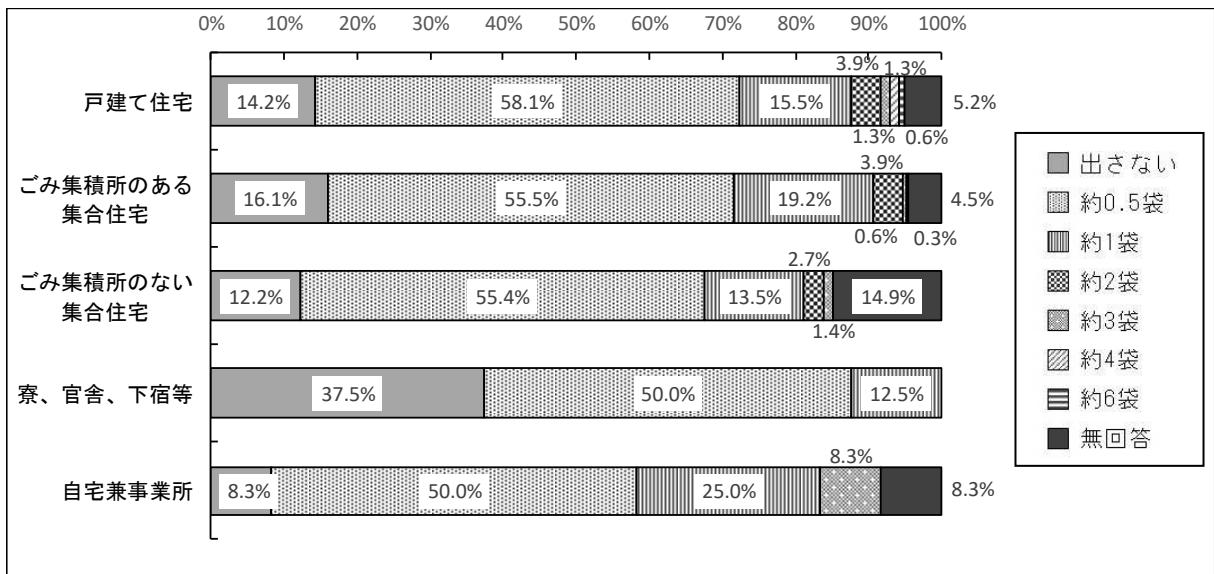


図 2.3.25 燃やさないごみの排出量（居住形態別）

2.3.3 問2 資源物の排出方法

(1) 新聞・雑誌・段ボール・紙パック・雑がみ

新聞・雑誌・段ボール・紙パック・雑がみの排出方法についてみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」が71.1%と最も割合が高く、次いで「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」が9.5%、「集団回収に出している。」が7.4%の順であった。

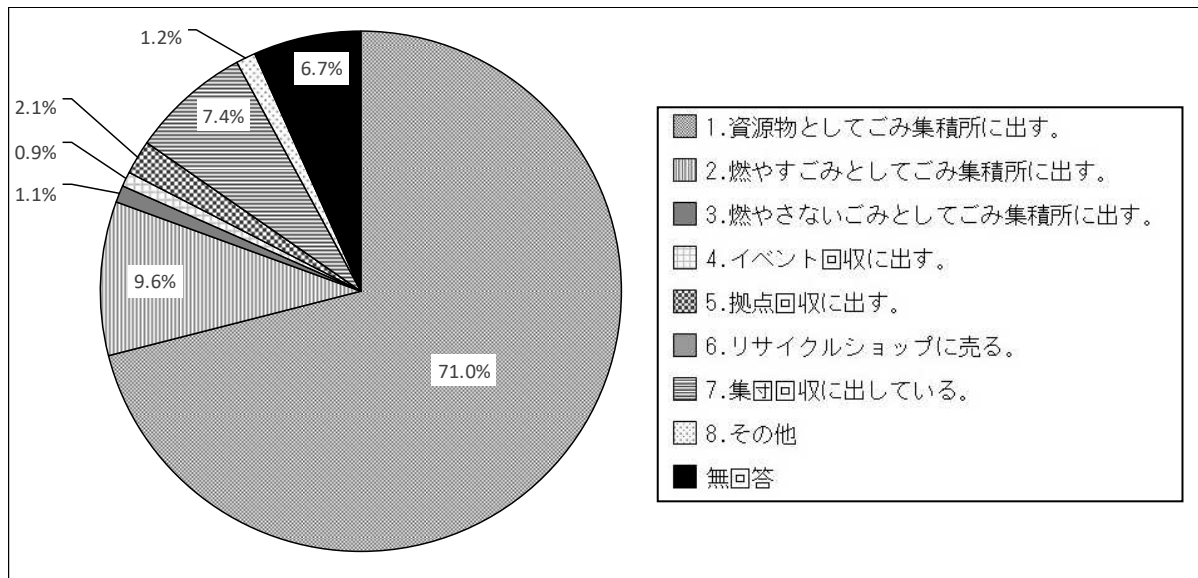


図 2.3.26 新聞・雑誌・段ボール・紙パック・雑がみの排出方法

(2) 缶

缶の排出方法についてみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」が74.4%と最も割合が高く、次いで「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」が8.9%、「集団回収に出している。」が4.5%の順であった。

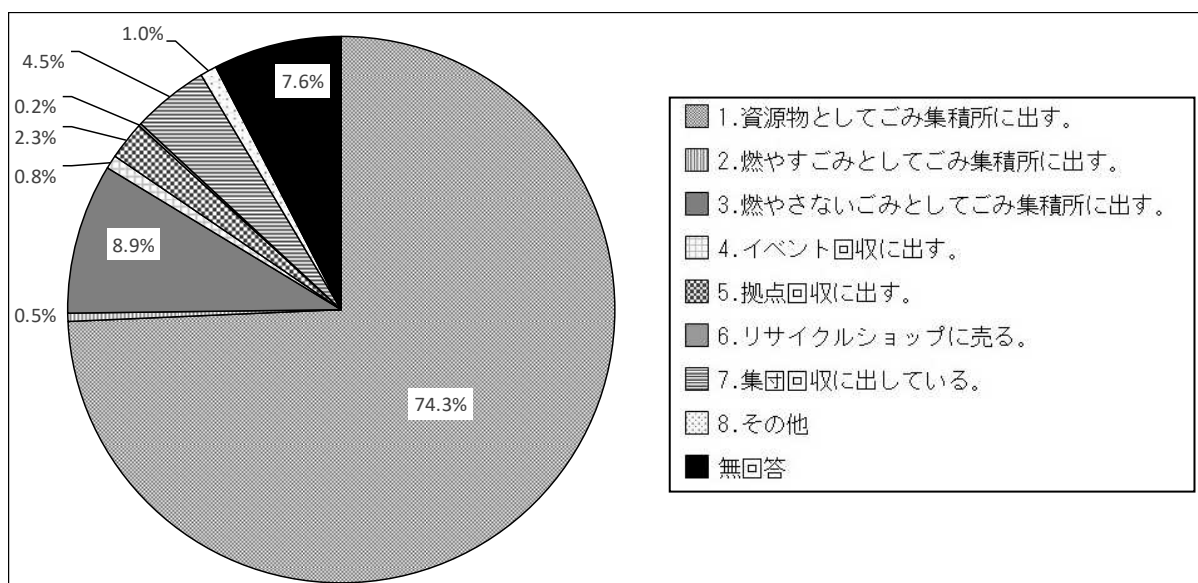


図 2.3.27 缶の排出方法

(3) びん

びんの排出方法についてみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」が76.0%と最も割合が高く、次いで「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」が8.3%、「集団回収に出している。」が3.4%の順であった。

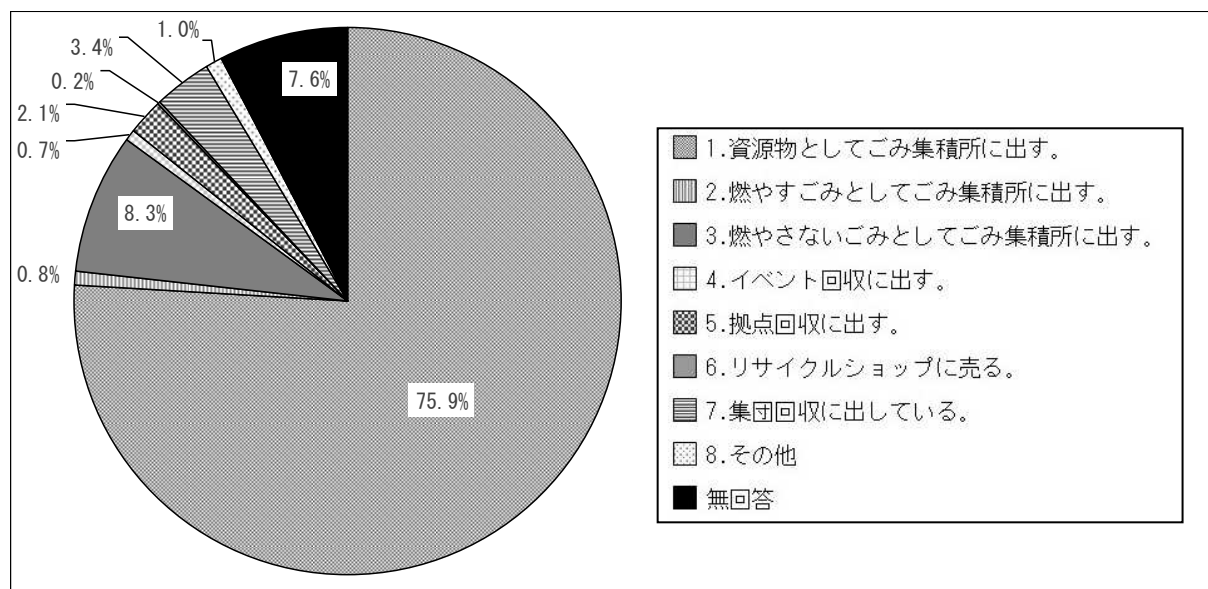


図 2.3.28 びんの排出方法

(4) ペットボトル

ペットボトルの排出方法についてみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」が74.7%と最も割合が高く、次いで「拠点回収に出す。」が5.0%、「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」、「集団回収に出している。」が3.6%の順であった。

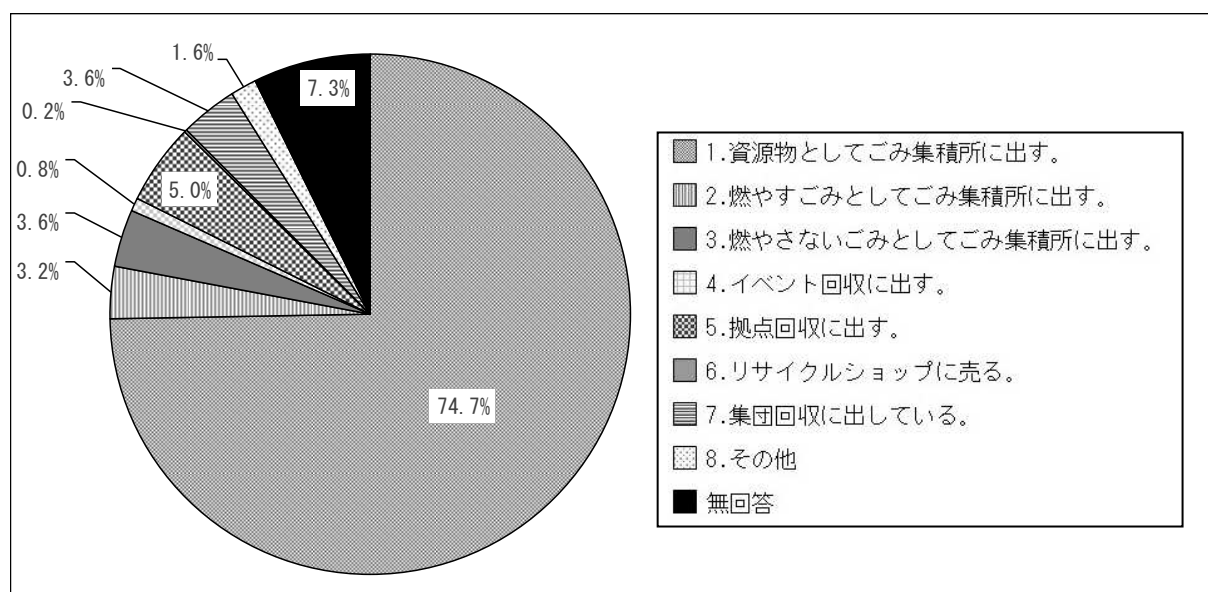


図 2.3.29 ペットボトルの排出方法

(5) 食品トレー

食品トレーの排出方法についてみると、「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」が39.8%と最も割合が高く、次いで「資源物としてごみ集積所に出す。」が37.3%、「拠点回収に出す。」が4.3%の順であった。

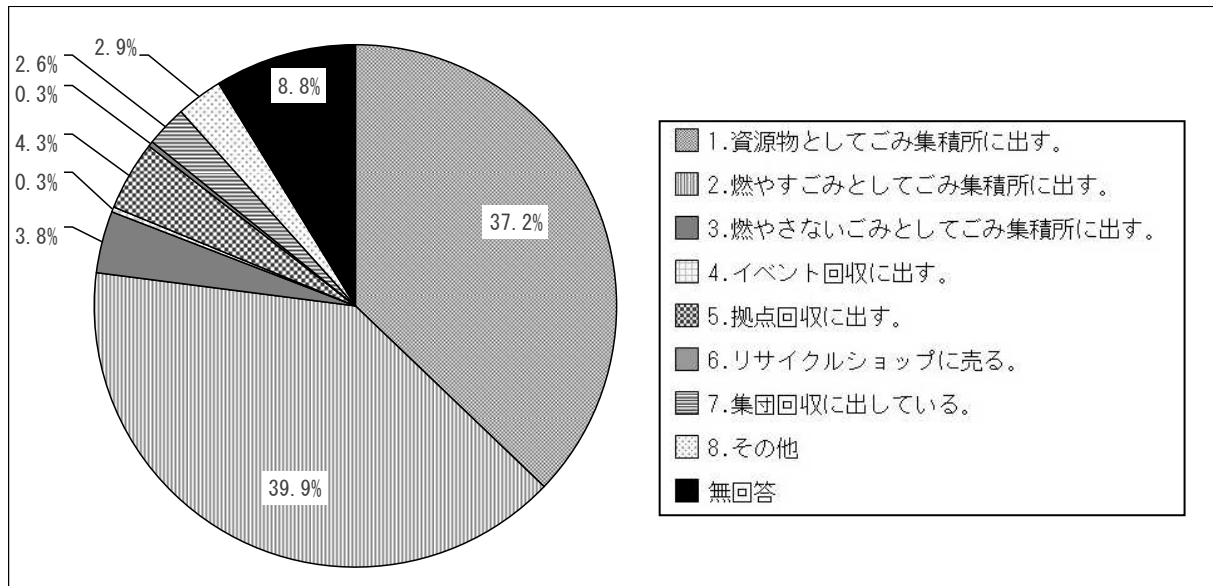


図 2.3.30 食品トレーの排出方法

(6) 古布、古着

古布、古着の排出方法についてみると、「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」が56.2%と最も割合が高く、次いで「リサイクルショップに売る。」が10.9%、「資源物としてごみ集積所に出す。」が6.8%の順であった。

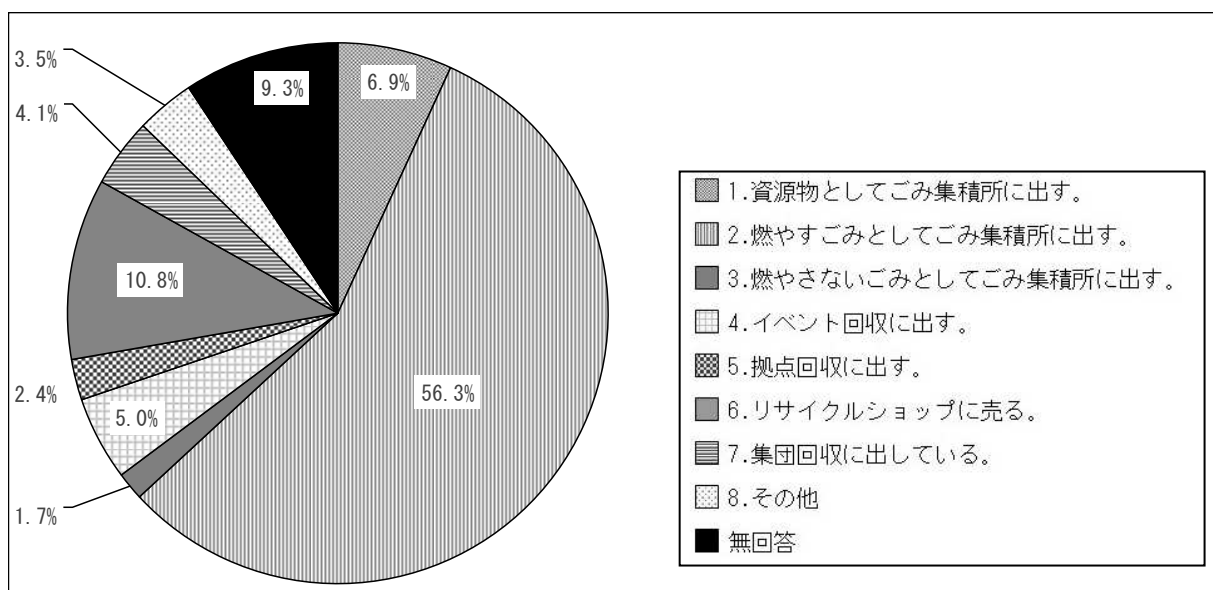


図 2.3.31 古布、古着の排出方法

(7) 金属製調理器具（鍋・やかん・フライパン）

金属製調理器具（鍋・やかん・フライパン）の排出方法についてみると、「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」が68.8%と最も割合が高く、次いで「資源物としてごみ集積所に出す。」が5.7%、
「その他」が3.3%の順であった。「その他」の回答としては、「ごみとして出したことがない。」等の回答がみられた。

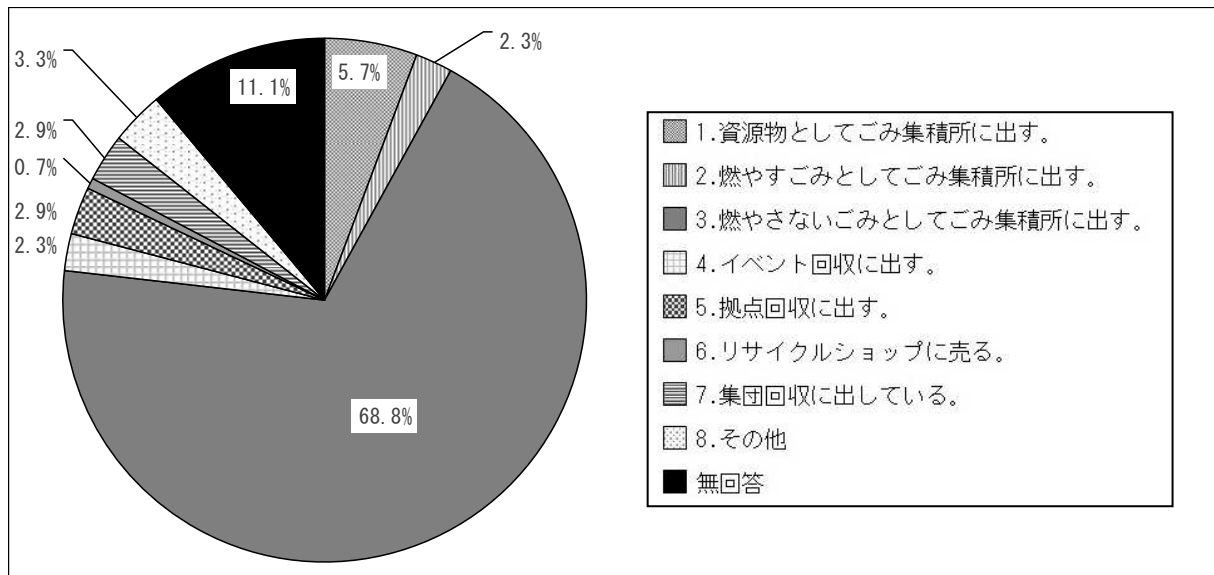


図 2.3.32 金属製調理器具（鍋・やかん・フライパン）の排出方法

(8) 乾電池

乾電池の排出方法についてみると、「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」が36.5%と最も割合が高く、次いで「拠点回収に出す。」が27.2%、「資源物としてごみ集積所に出す。」が10.6%の順であった。

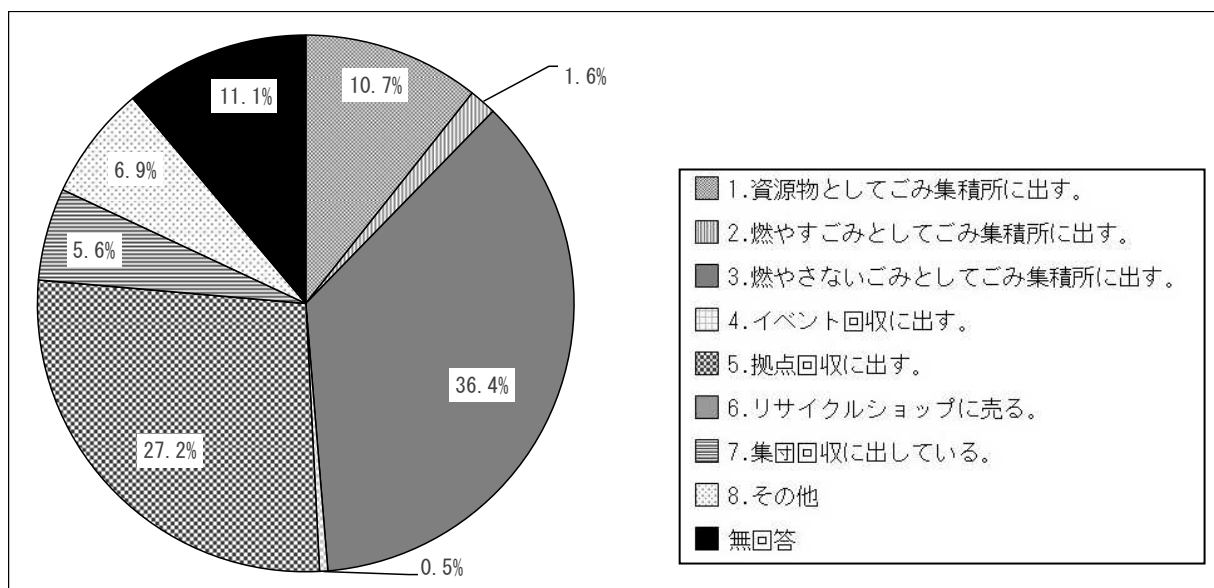


図 2.3.33 乾電池の排出方法

(9) 廃食油（天ぷら油等の食用油）

廃食油（天ぷら油等の食用油）の排出方法についてみると、「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」が46.6%と最も割合が高く、次いで「その他」が21.1%、「資源物としてごみ集積所に出す。」が4.6%の順であった。「その他」の回答としては、「油固化剤等で固めて捨てる」等の回答がみられた。

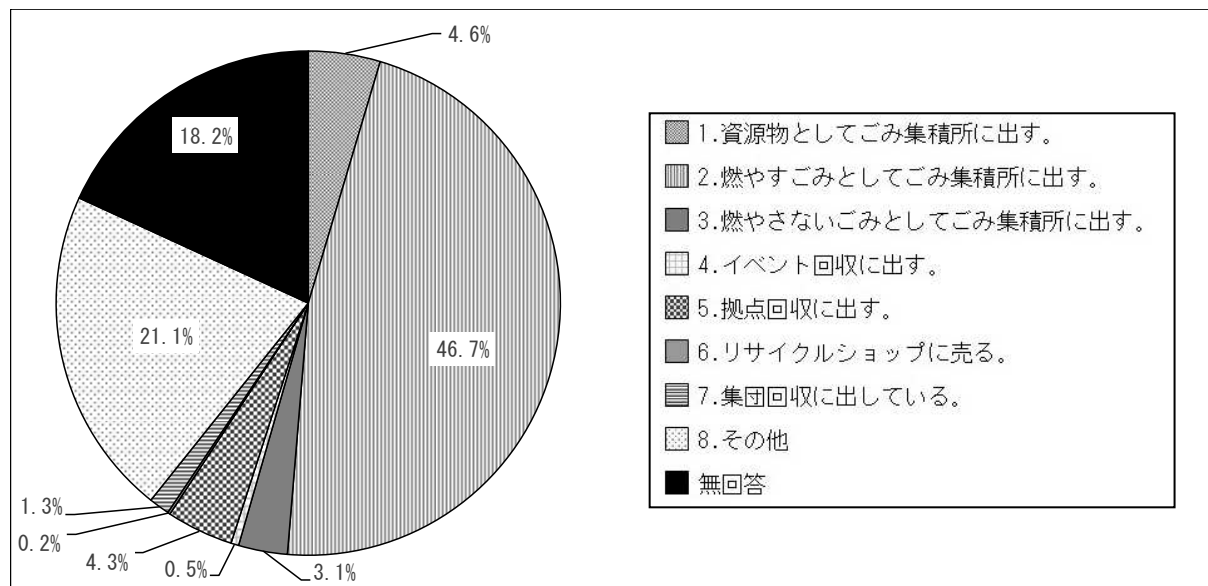


図 2.3.34 廃食油（天ぷら油等の食用油）の排出方法

(10) 小型家電

小型家電の排出方法についてみると、「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」が29.6%と最も割合が高く、次いで「その他」が17.4%、「拠点回収に出す。」が15.8%の順であった。「その他」の回答としては、「人に譲る」等の回答がみられた。

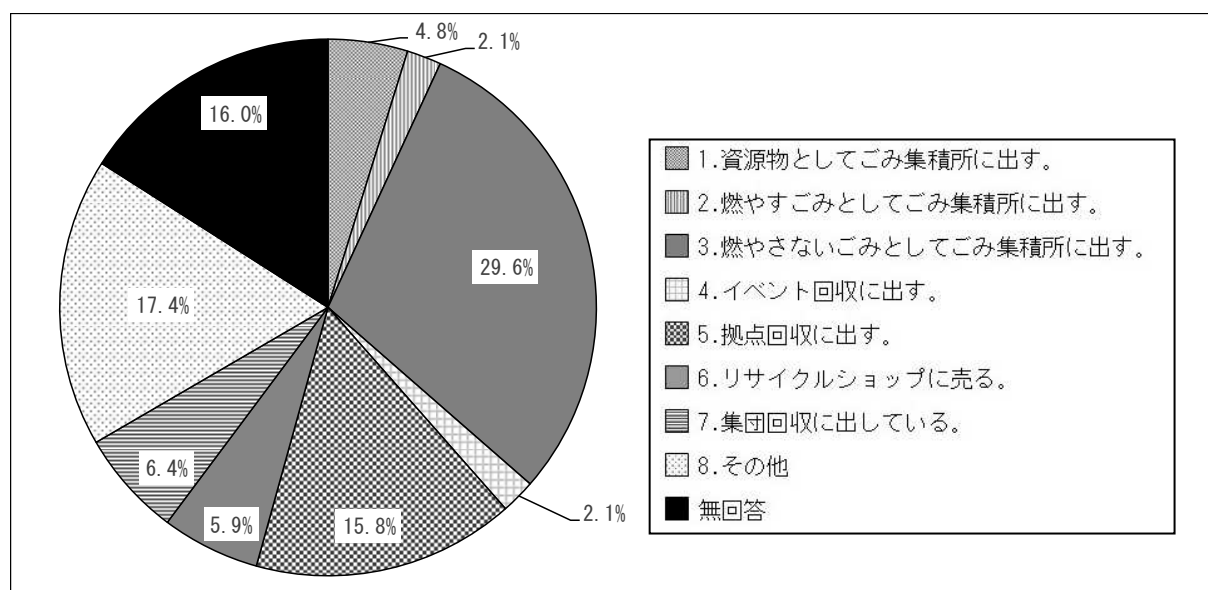


図 2.3.35 小型家電の排出方法

2.3.4 問3 ごみに関する情報の入手先

ごみに関する情報の入手先についてみると、「資源物とごみの分け方・出し方パンフレット」が47.5%と最も割合が高く、次いで「墨田区のホームページ(資源・ごみ・リサイクル関連のページ)」が43.4%、「資源物とごみの収集カレンダー」が42.6%の順であった。

表 2.3.10 ごみに関する情報の入手先

項目	回答数	割合
1. 墨田区のホームページ(資源・ごみ・リサイクル関連のページ)	263	43.4%
2. 墨田区のホームページ(チャットボット※案内キャラクター)	21	3.5%
3. すみだ区報	134	22.1%
4. 資源物とごみの収集カレンダー	258	42.6%
5. 資源物とごみの分け方・出し方パンフレット	288	47.5%
6. 東京二十三区清掃一部事務組合のホームページ	6	1.0%
7. その他	34	5.6%
無回答	5	0.8%
合計	1009	-

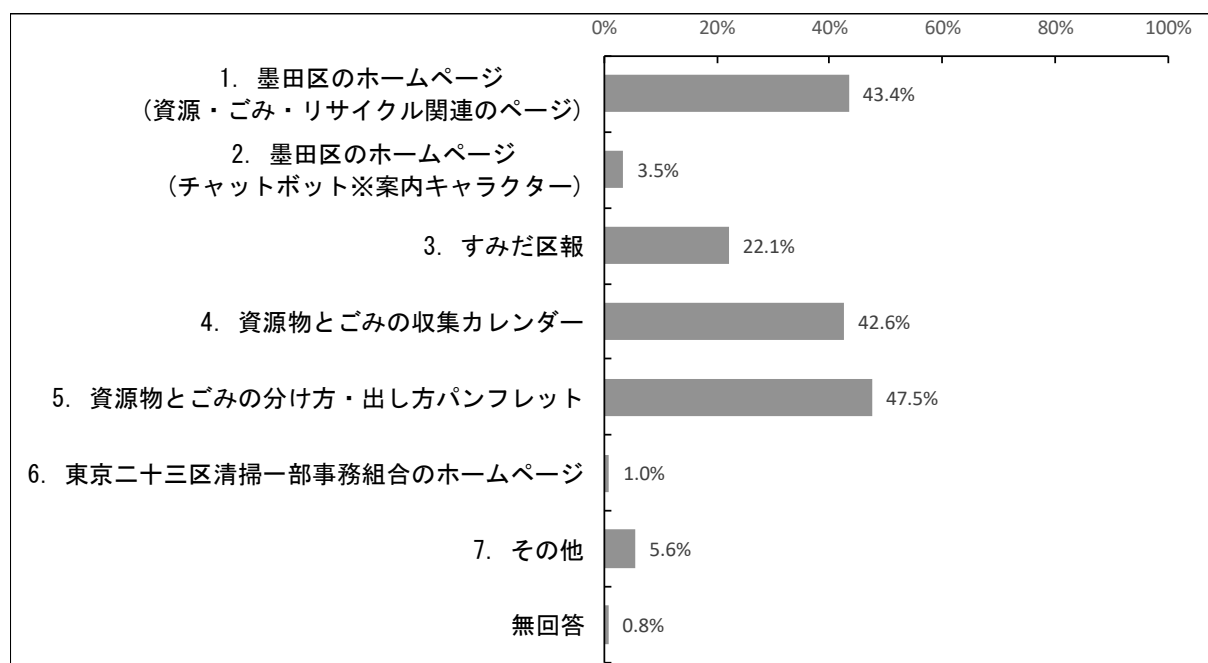


図 2.3.36 ごみに関する情報の入手先

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.37～図 2.3.41 に示す。

年代が上がるほど「資源物とごみの分け方・出し方パンフレット」、「すみだ区報」で情報を入手している回答者が多くなっている。また、居住年数が 10 年未満の回答者は「墨田区のホームページ」で情報を入手している割合が高くなっている。

「墨田区のホームページ(資源物・リサイクル関連のページ)」で情報を入手しているのは 30 代が最も多く、次いで 40 代、20 代の順となっている。

「資源物とごみの収集カレンダー」で情報を入手しているのは 50 代が最も多く、次いで 70 代、60 代の順となっている。

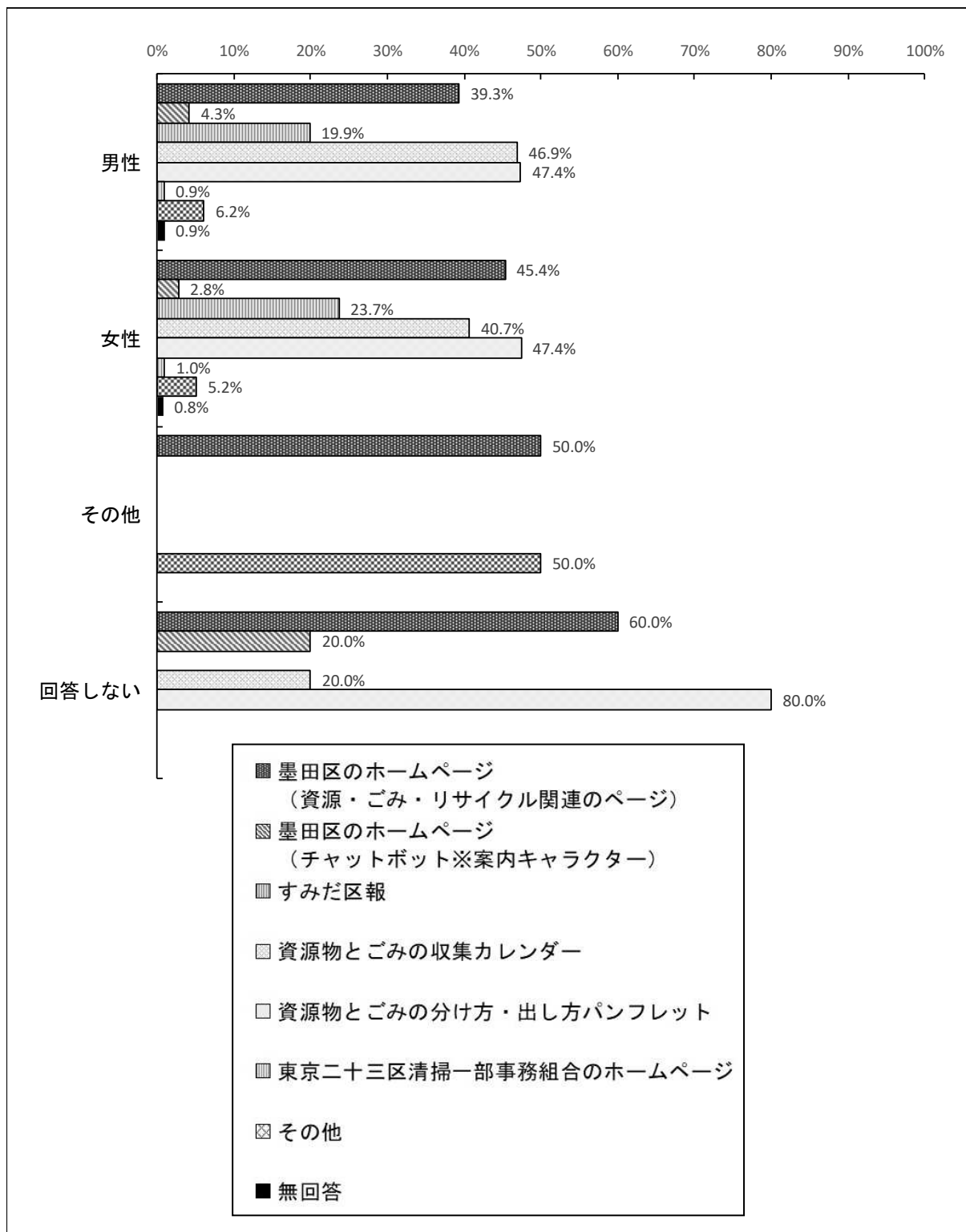


図 2.3.37 ごみに関する情報の入手先（性別）

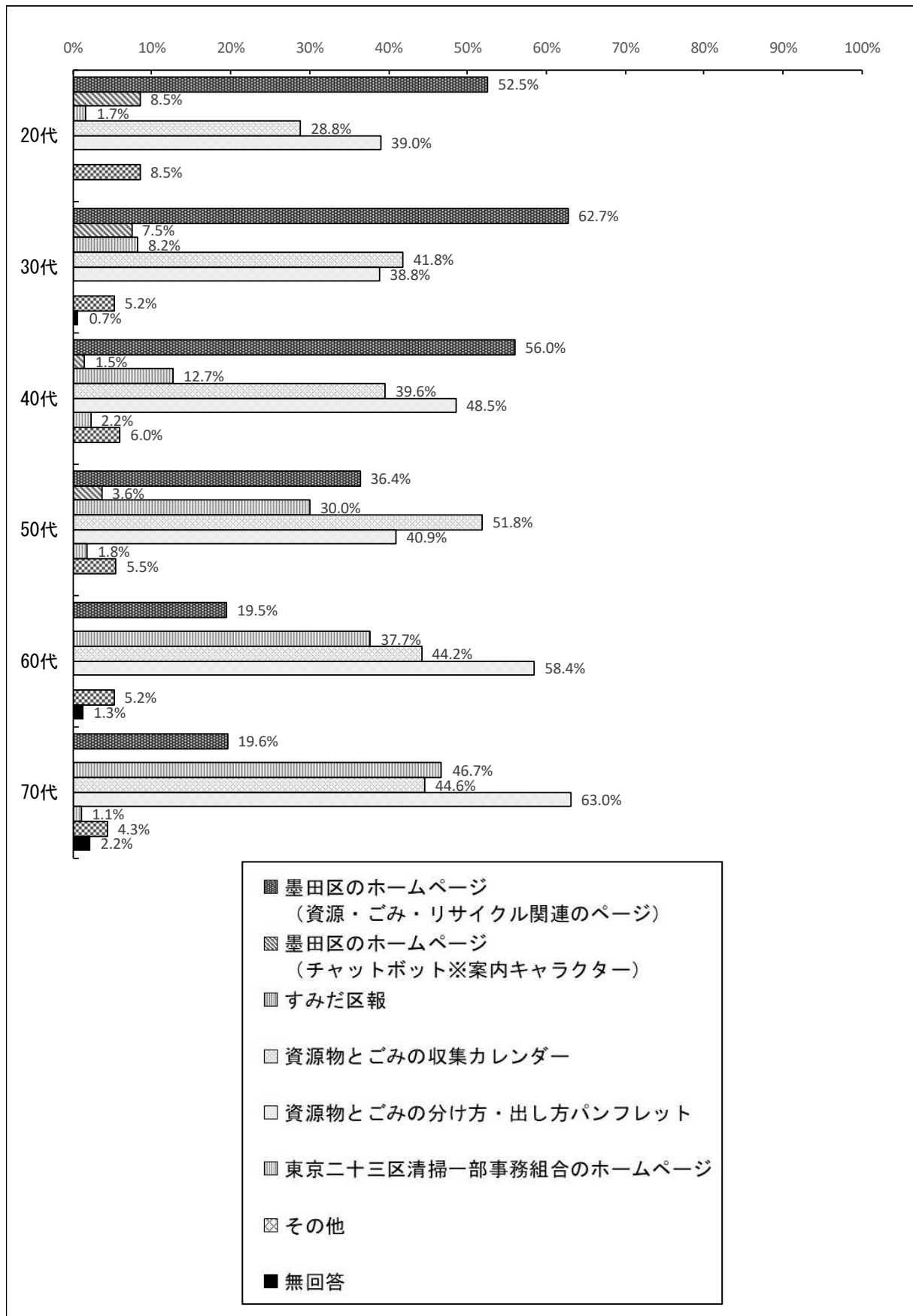


図 2.3.38 ごみに関する情報の入手先 (年代別)

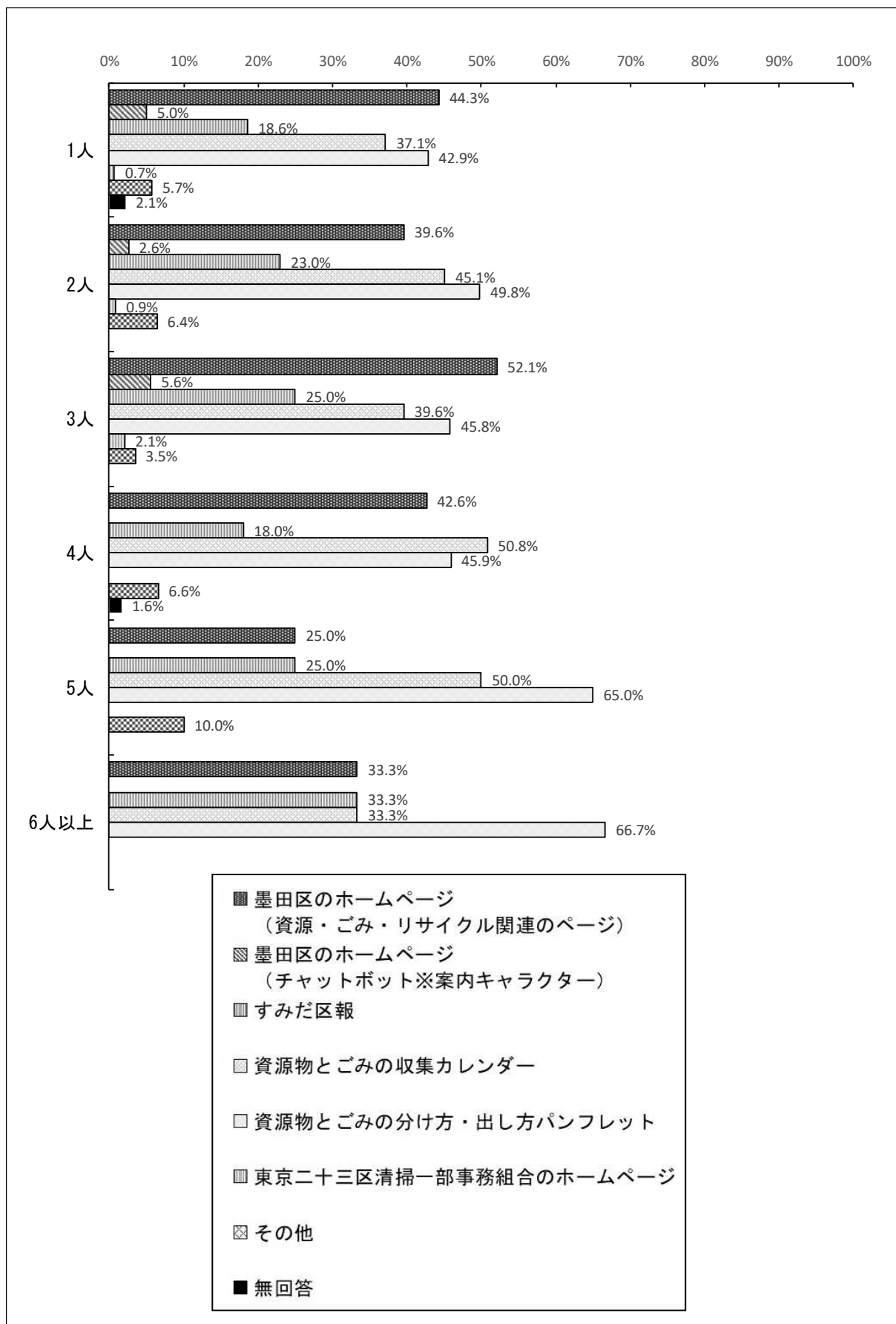


図 2.3.39 ごみに関する情報の入手先 (世帯人数別)

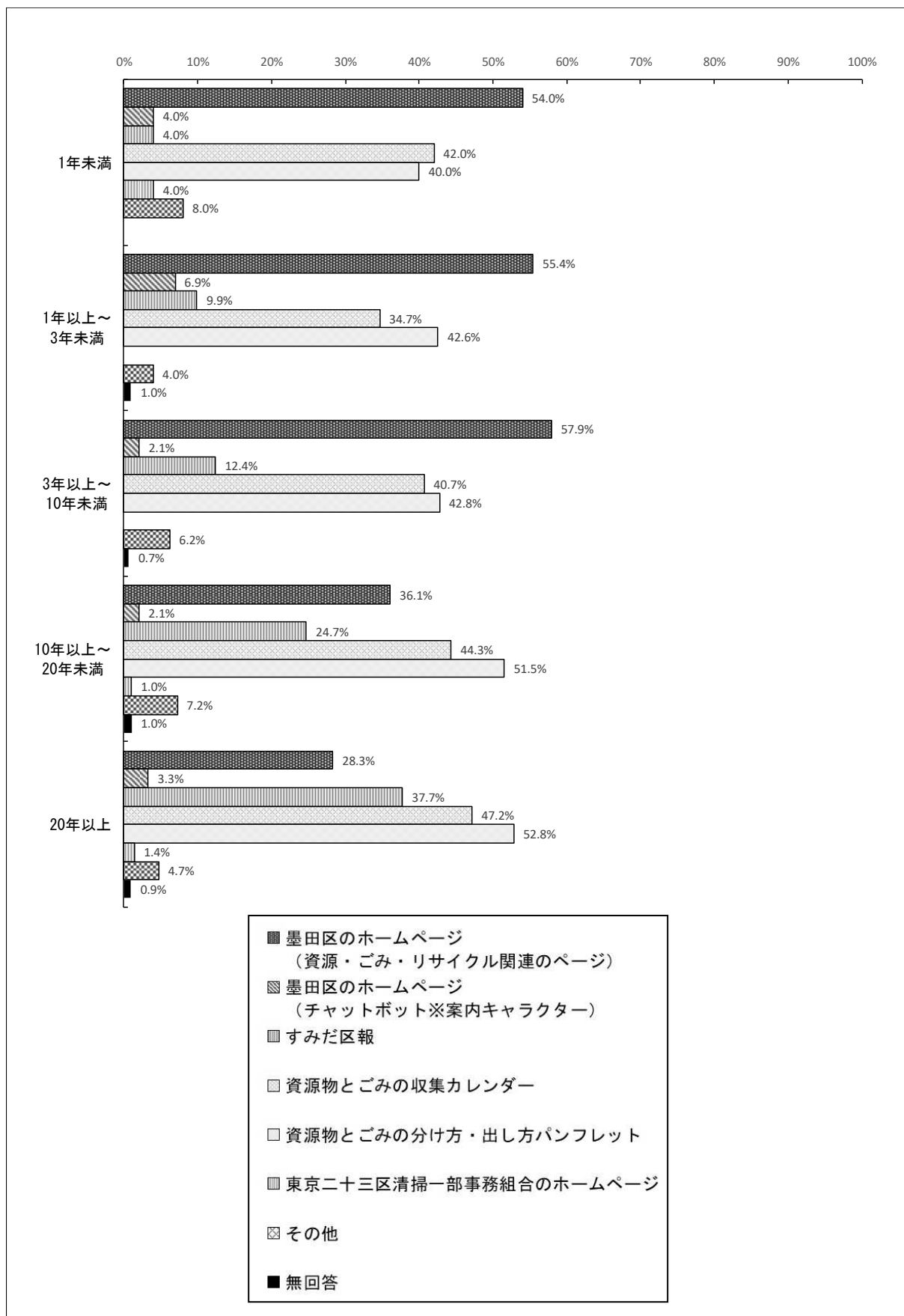


図 2.3.40 ごみに関する情報の入手先（居住年数別）

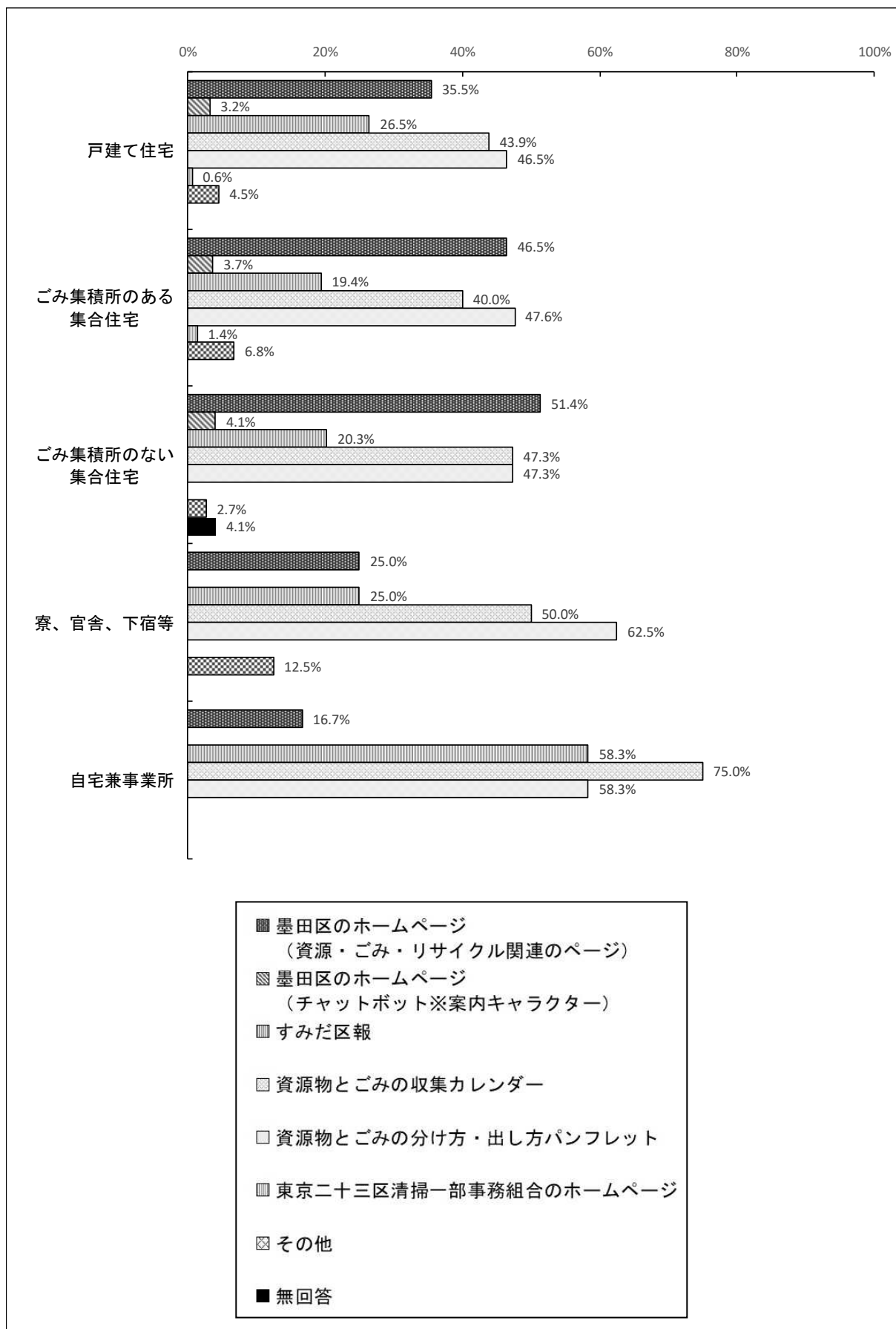


図 2.3.41 ごみに関する情報の入手先 (居住形態別)

2.3.5 問4 区のごみ処理や情報公開に関する満足度

区のごみ処理や情報公開に関する満足度についてみると、「満足しているか」という質問に対して、「どちらかといえばそう思う。」が35.1%と最も割合が高く、次いで「分からない。」が30.0%、「そう思う。」が19.0%の順であった。

表 2.3.11 区のごみ処理や情報公開に関する満足度

項目	回答数	割合
1.そう思う。	115	19.0%
2.どちらかといえばそう思う。	213	35.1%
3.どちらかといえばそう思わない。	53	8.7%
4.そう思わない。	35	5.8%
5.分からない。	182	30.0%
無回答	8	1.3%
合計	606	100%

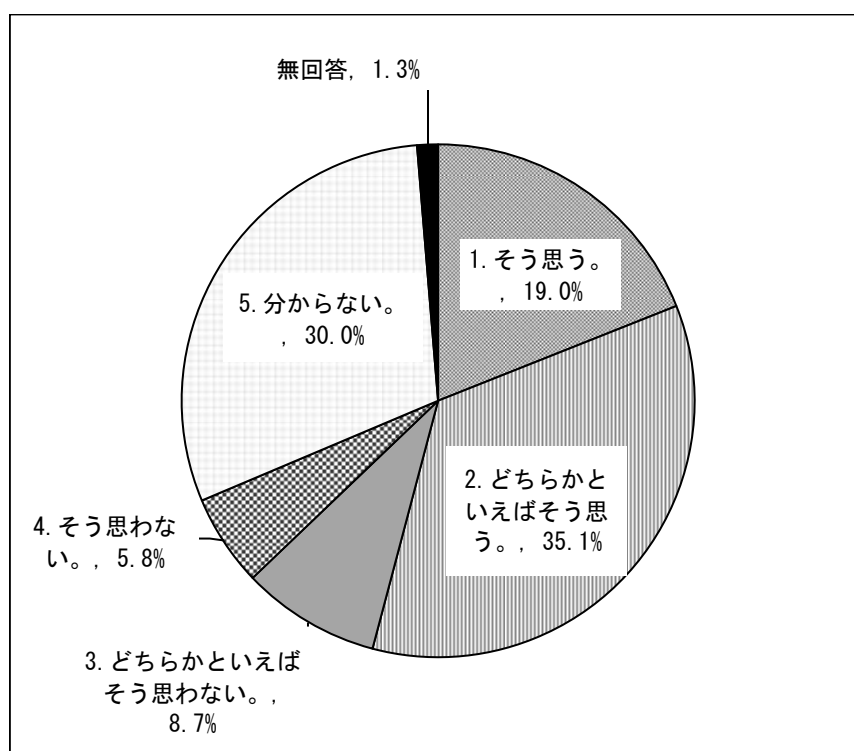


図 2.3.42 区のごみ処理や情報公開に関する満足度

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.43～図 2.3.47 に示す。

年代が上がるほど「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」とする回答者が多くなる傾向がみられるが、30代では「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」の合計が42.6%と、他の年代と比較して低くなっている。

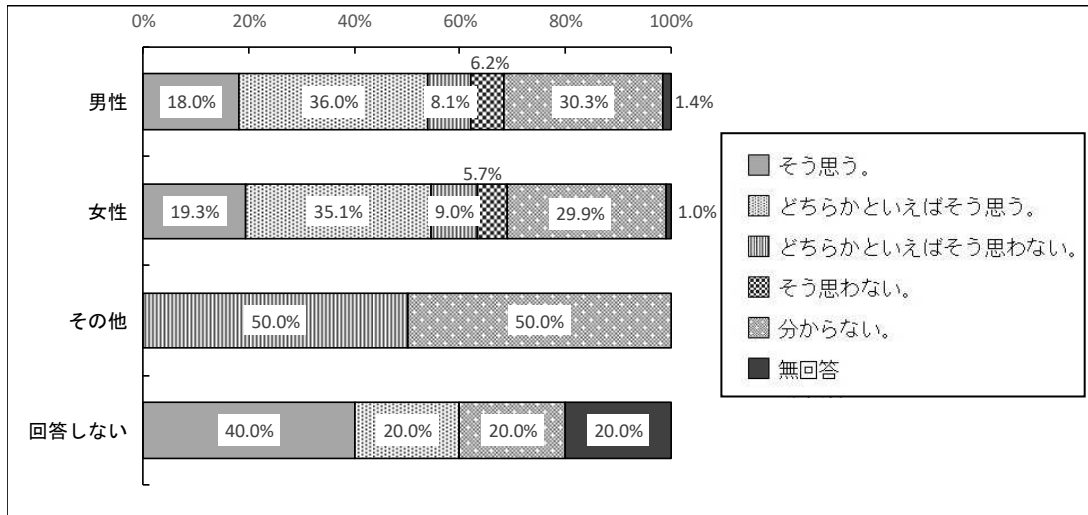


図 2.3.43 区のごみ処理や情報公開に関する満足度（性別）

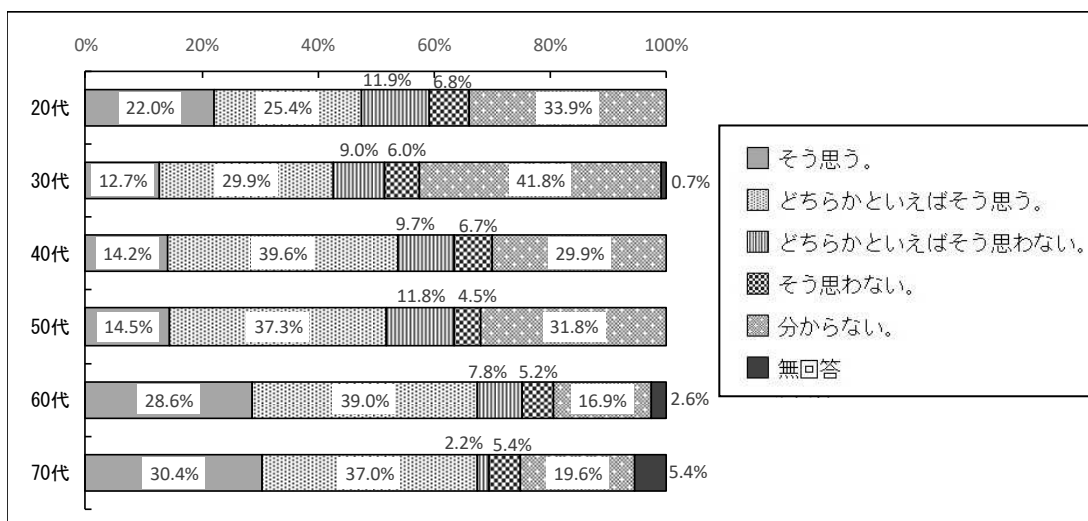


図 2.3.44 区のごみ処理や情報公開に関する満足度（年代別）

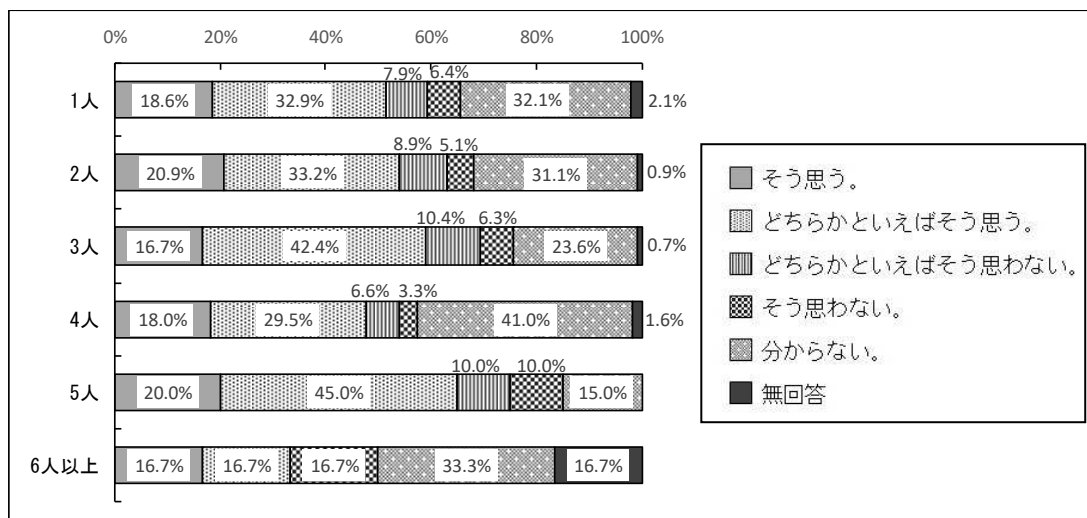


図 2.3.45 区のごみ処理や情報公開に関する満足度（世帯人数別）

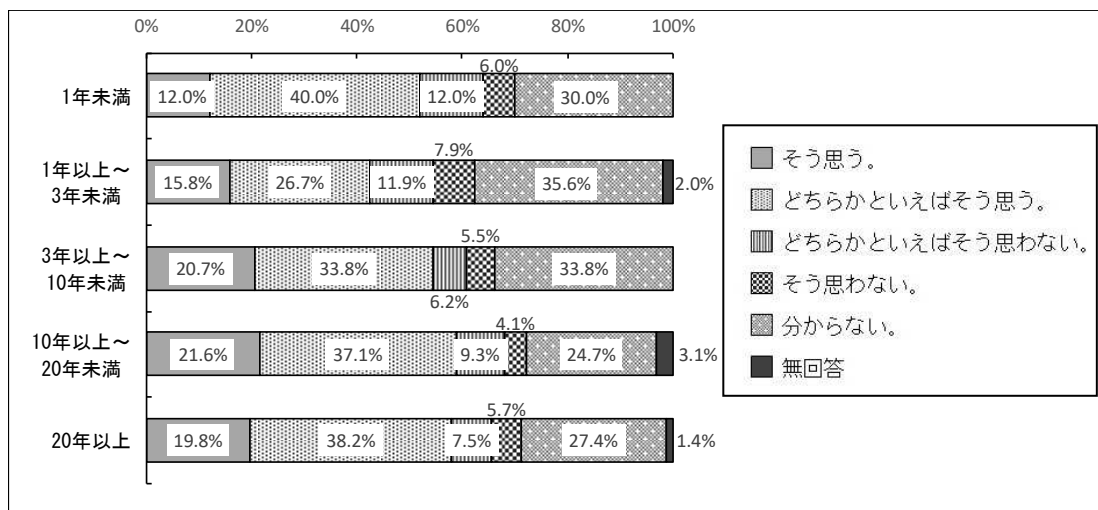


図 2.3.46 区のごみ処理や情報公開に関する満足度（居住年数別）

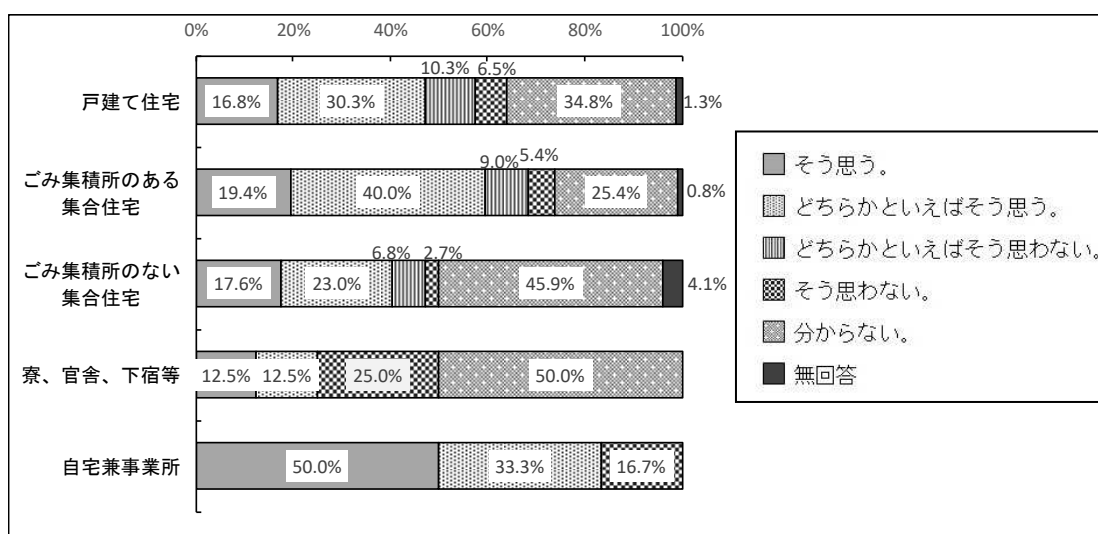


図 2.3.47 区のごみ処理や情報公開に関する満足度（居住形態別）

2.3.6 問5 ごみへの関心度

ごみへの関心度についてみると、「関心があり、普段からごみの減量や分別等を心がけて行動している。」が44.4%と最も割合が高く、次いで「関心があり、時々のごみの減量や分別等を心がけて行動している。」が35.0%と、この2項目で約80%を占めている。

表 2.3.12 ごみへの関心度

項目	回答数	割合
1. 関心があり、普段からごみの減量や分別等を心がけて行動している。	269	44.4%
2. 関心があり、時々のごみの減量や分別等を心がけて行動している。	212	35.0%
3. 関心はあるが、ごみの減量や分別等の方法が分からないので行動していない。	39	6.4%
4. 関心はあるが、ごみの減量や分別に手間がかかるので行動していない。	18	3.0%
5. どちらともいえない。	40	6.6%
6. 特に関心がない。	24	4.0%
無回答	4	0.7%
合計	606	100%

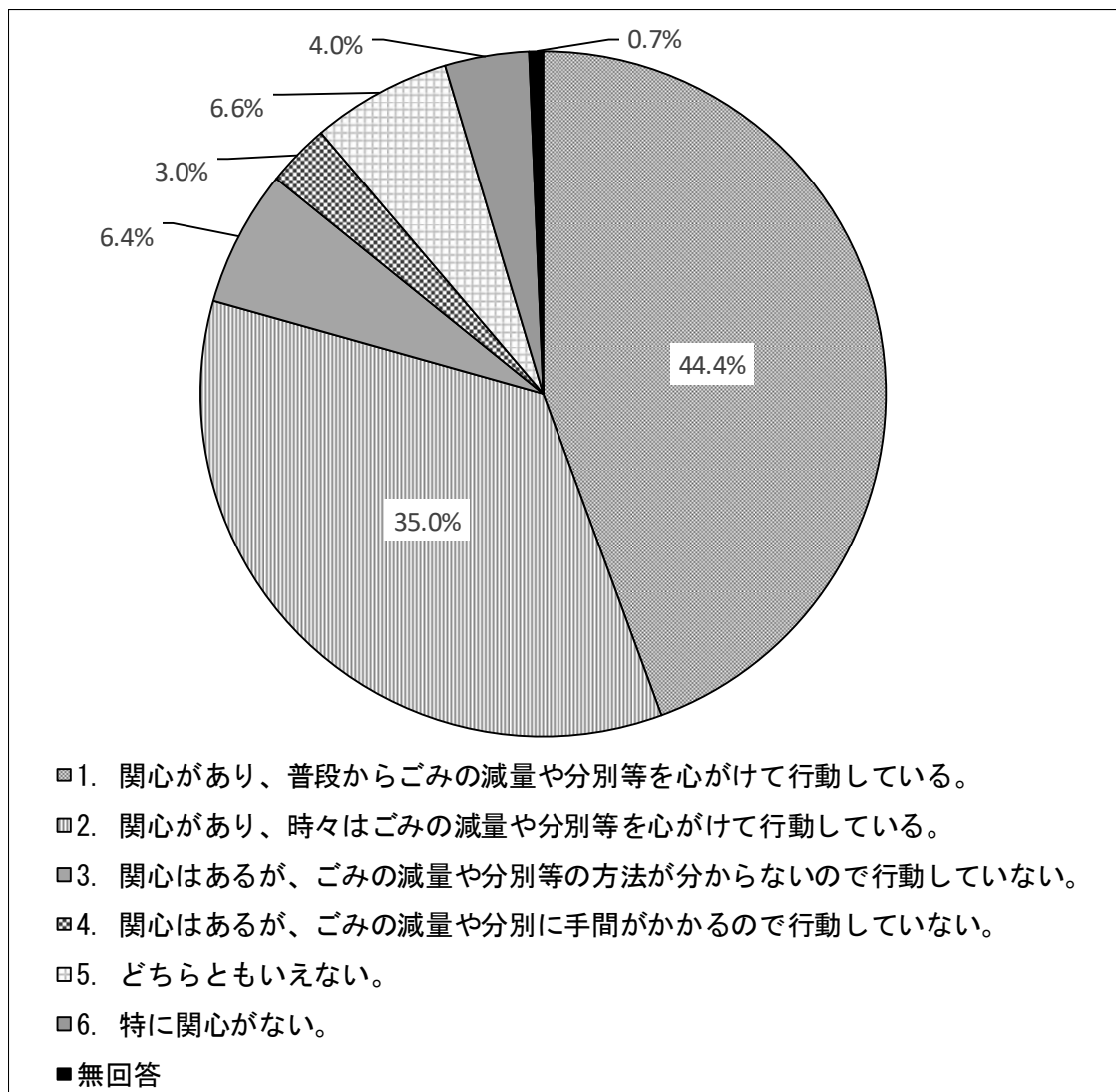


図 2.3.48 ごみへの関心度

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.49～図 2.3.53 に示す。

年代が上がるほど「関心があり、普段からごみの減量や分別等を心がけて行動している。」、「関心があり、時々のごみの減量や分別等を心がけて行動している。」とする回答者が多くなっている。

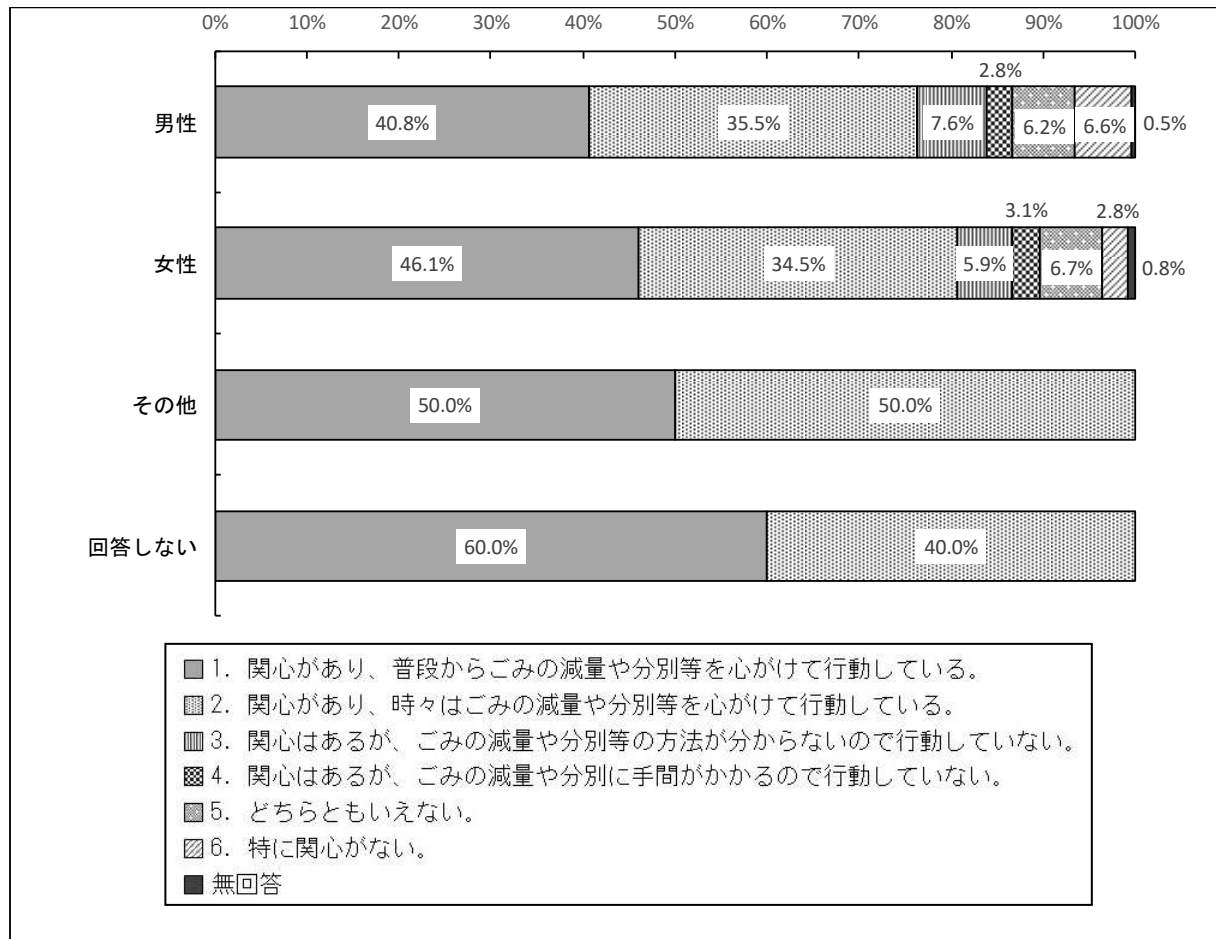


図 2.3.49 ごみへの関心度（性別）

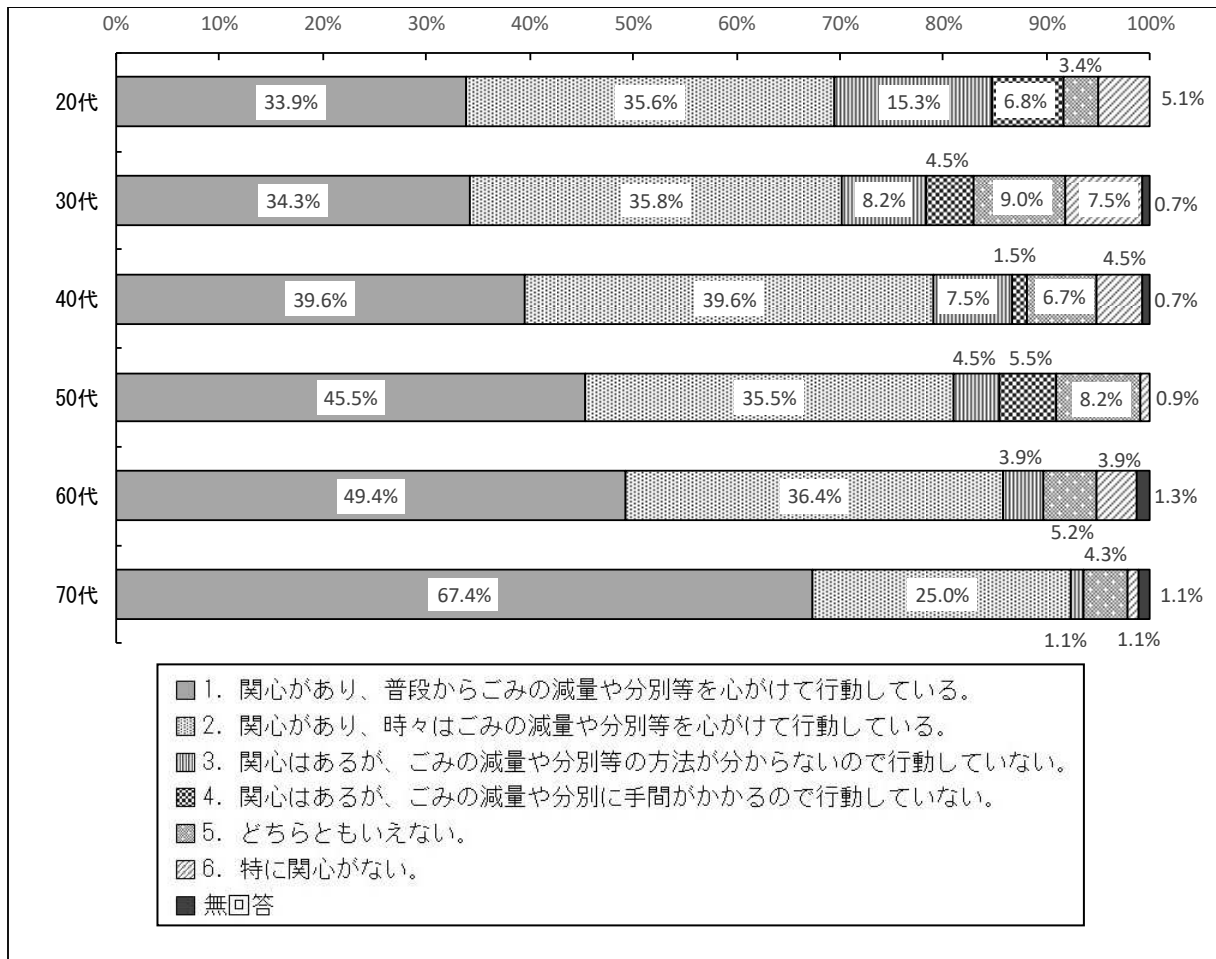


図 2.3.50 ごみへの関心度（年代別）

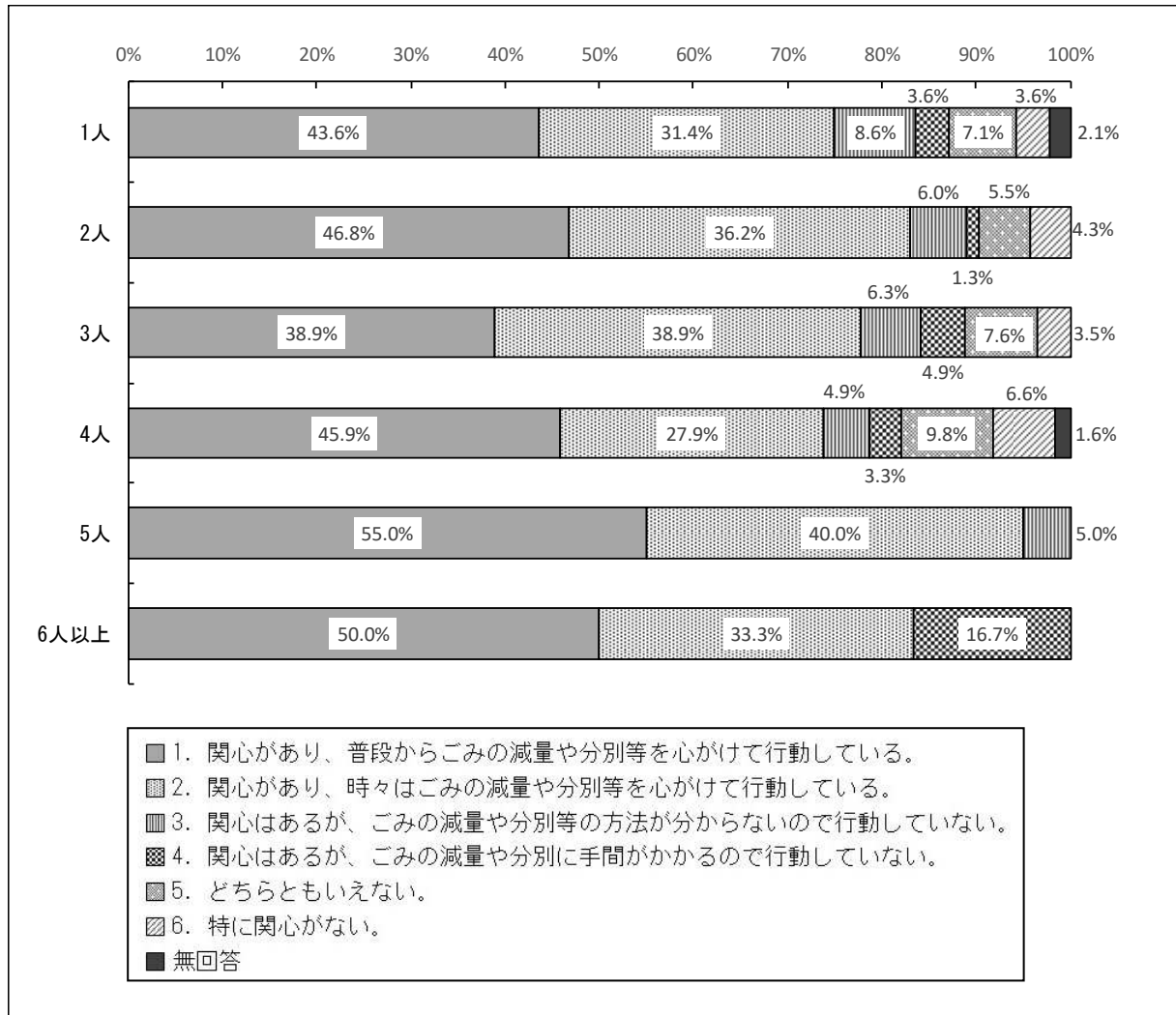


図 2.3.51 ごみへの関心度（世帯人数別）

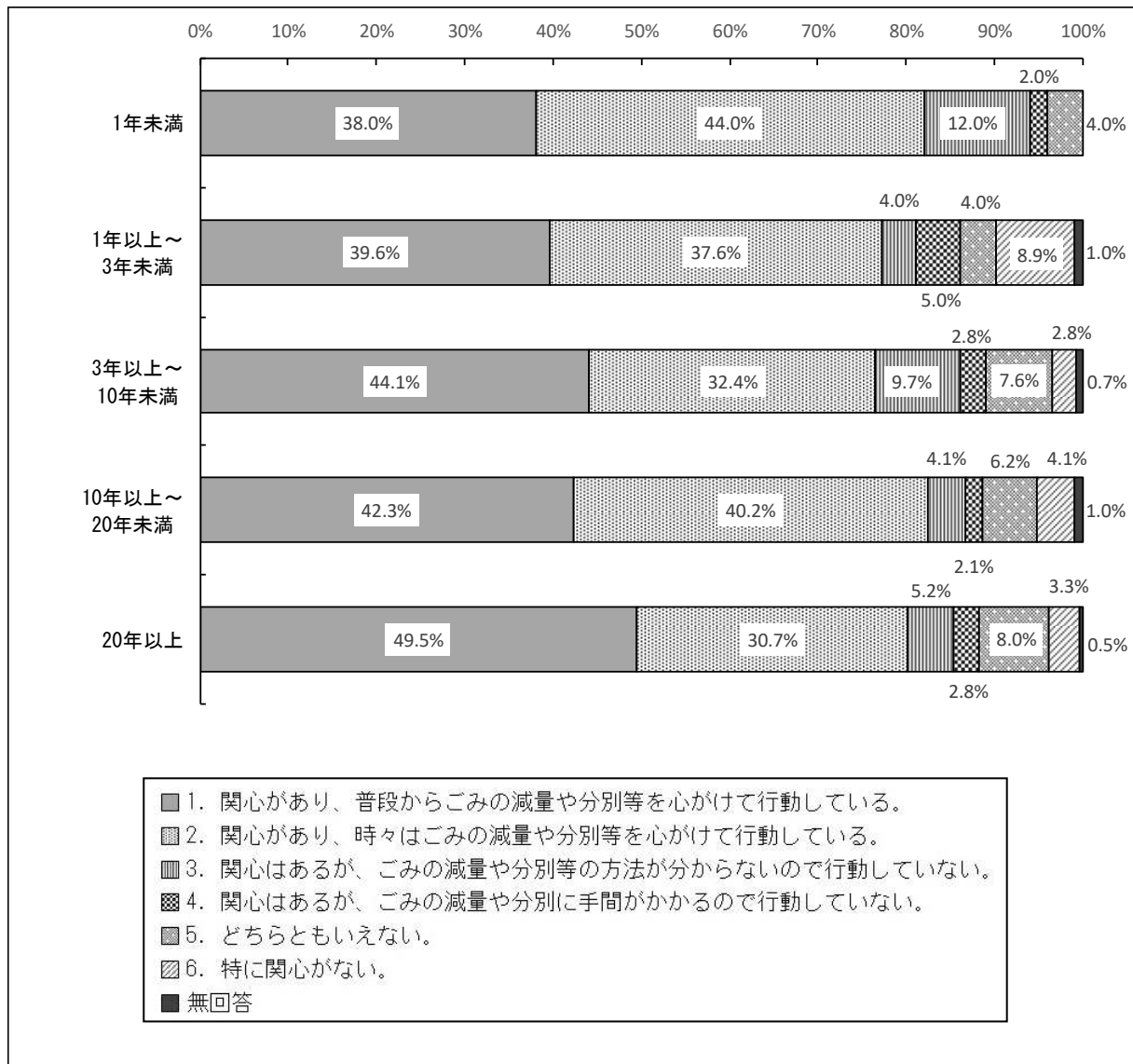


図 2.3.52 ごみへの関心度（居住年数別）

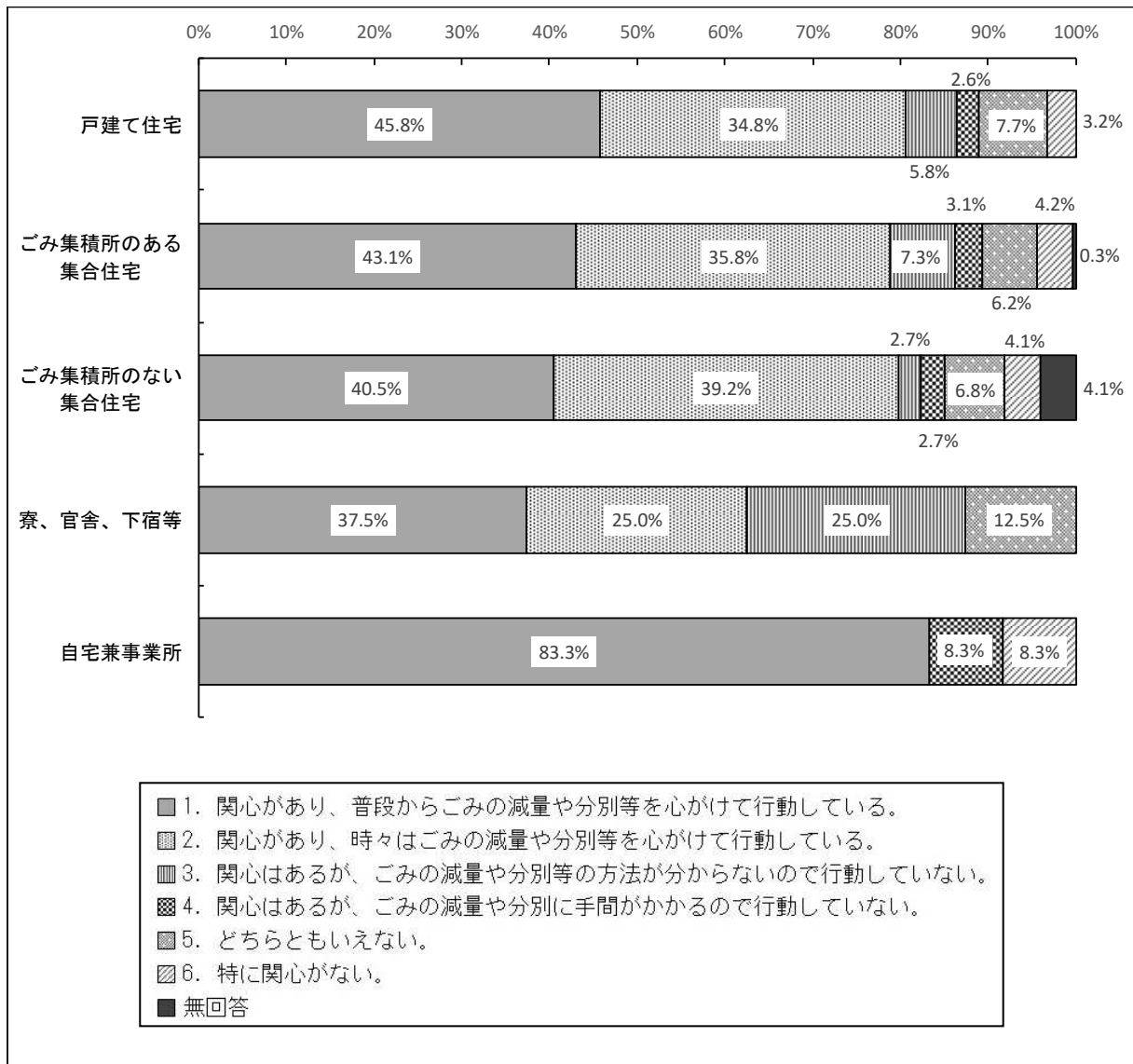


図 2.3.53 ごみへの関心度（居住形態別）

2.3.7 問6 ごみに関する行動

ごみに関する行動についてみると、「資源物とごみの分別をしている。」が79.9%と最も割合が高く、次いで「生ごみは水をよく切って出している。」が59.9%、「買い物袋を持参し、レジ袋はできるだけもらわない。」が55.1%の順となっている。

表 2.3.13 ごみに関する行動

項目	回答数	割合
1. 余分な物をなるべく購入しないようにしている。	282	46.5%
2. 使い捨ての容器や商品をなるべく使わない。(詰め替え商品を買う。)	304	50.2%
3. 買い物袋を持参し、レジ袋はできるだけもらわない。	334	55.1%
4. 過剰な包装は断る。	291	48.0%
5. はかり売りや少量売りの商品を買う。	65	10.7%
6. 故障してもなるべく修理して使う。	140	23.1%
7. リサイクルショップやフリーマーケットを積極的に利用する。	94	15.5%
8. リサイクル材料を使用した商品を優先して購入している。	32	5.3%
9. 生ごみは水をよく切って出している。	363	59.9%
10. 調理の際に、できるだけ食べ残しやごみが出ないように工夫している。	271	44.7%
11. 資源物とごみの分別をしている。	484	79.9%
12. 資源物の店頭回収、拠点回収、集団回収を利用している。	226	37.3%
13. 生ごみを生ごみ処理機等でたい肥化している。	11	1.8%
14. 区の実施するふれあい指導や出前講座等を受けて、ごみについて学んでいる。	1	0.2%
15. 特になし。	12	2.0%
16. その他	2	0.3%
無回答	10	1.7%
合計	2922	-

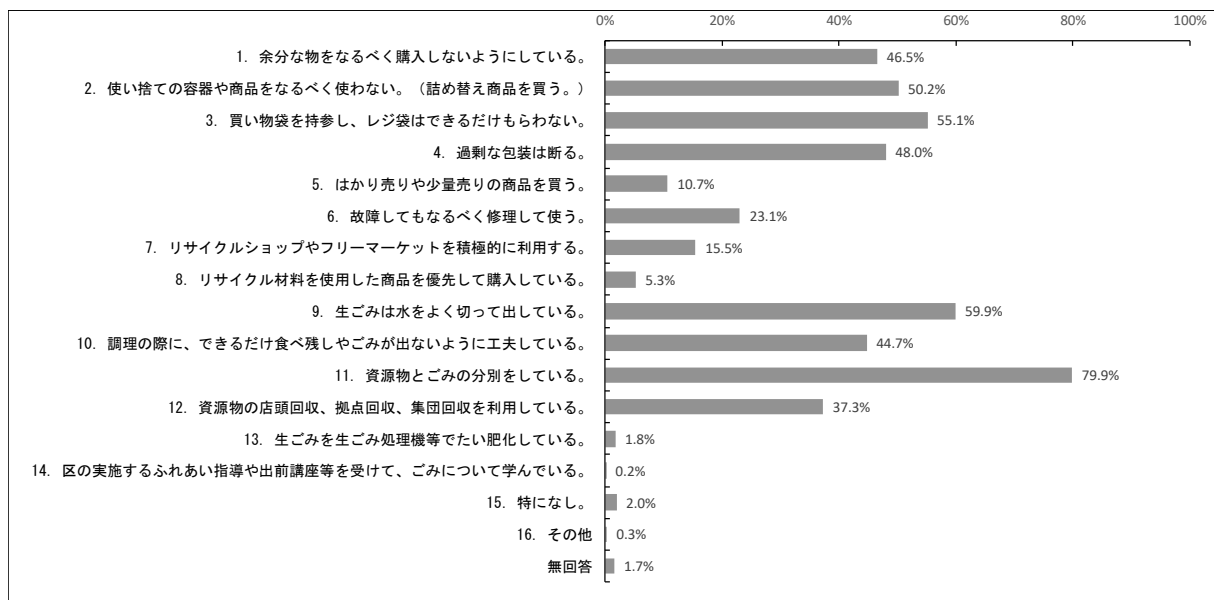


図 2.3.54 ごみに関する行動

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.55～図 2.3.59 に示す。

「資源物とごみの分別をしている。」はどの年代でも高い結果となっている。

また、年代が上がるほど「生ごみは水をよく切って出している。」とする回答者が多くなる傾向にあるが、30代は20代よりも「生ごみは水をよく切って出している。」とする回答者の割合が低くなっている。

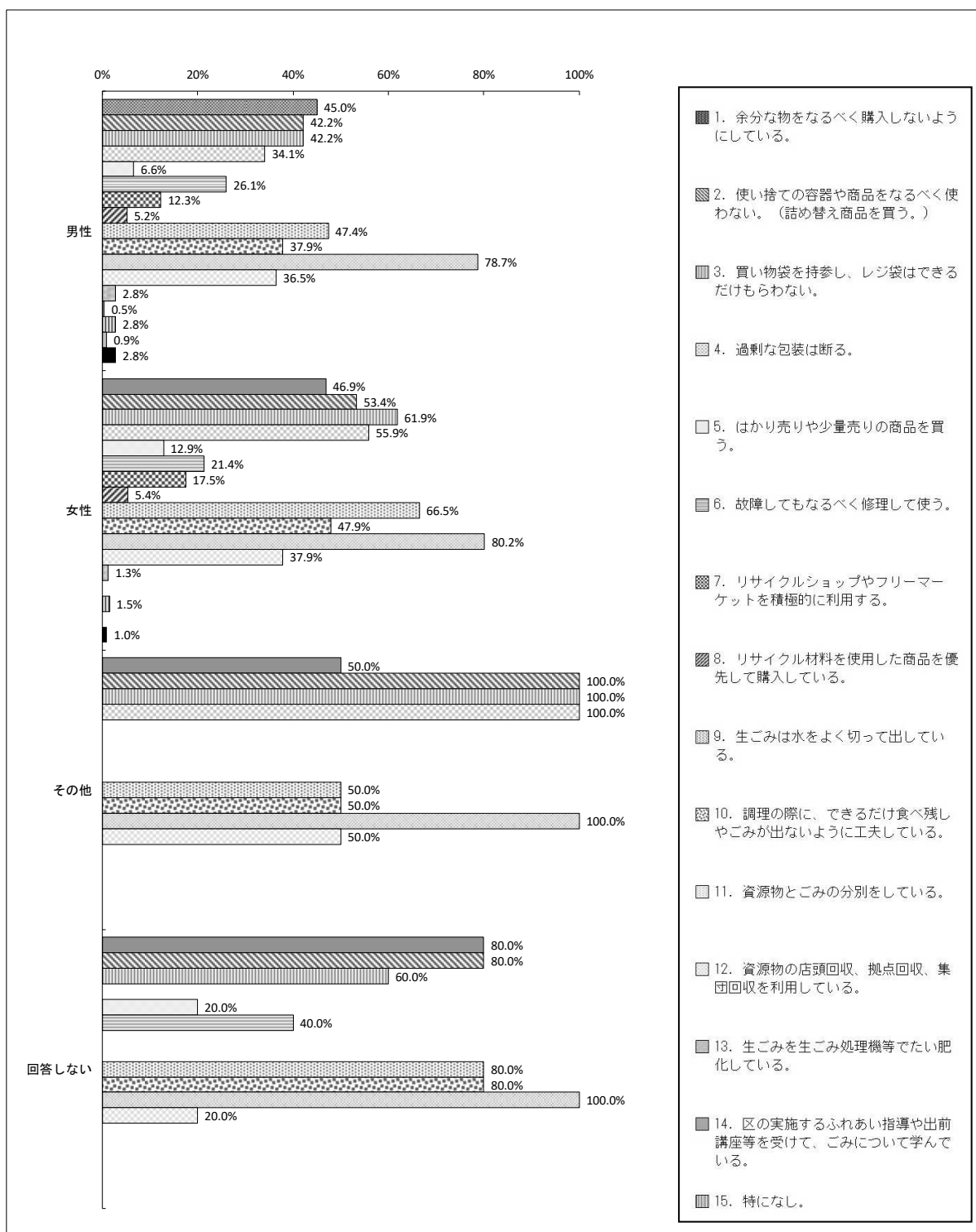


図 2.3.55 ごみに関する行動（性別）

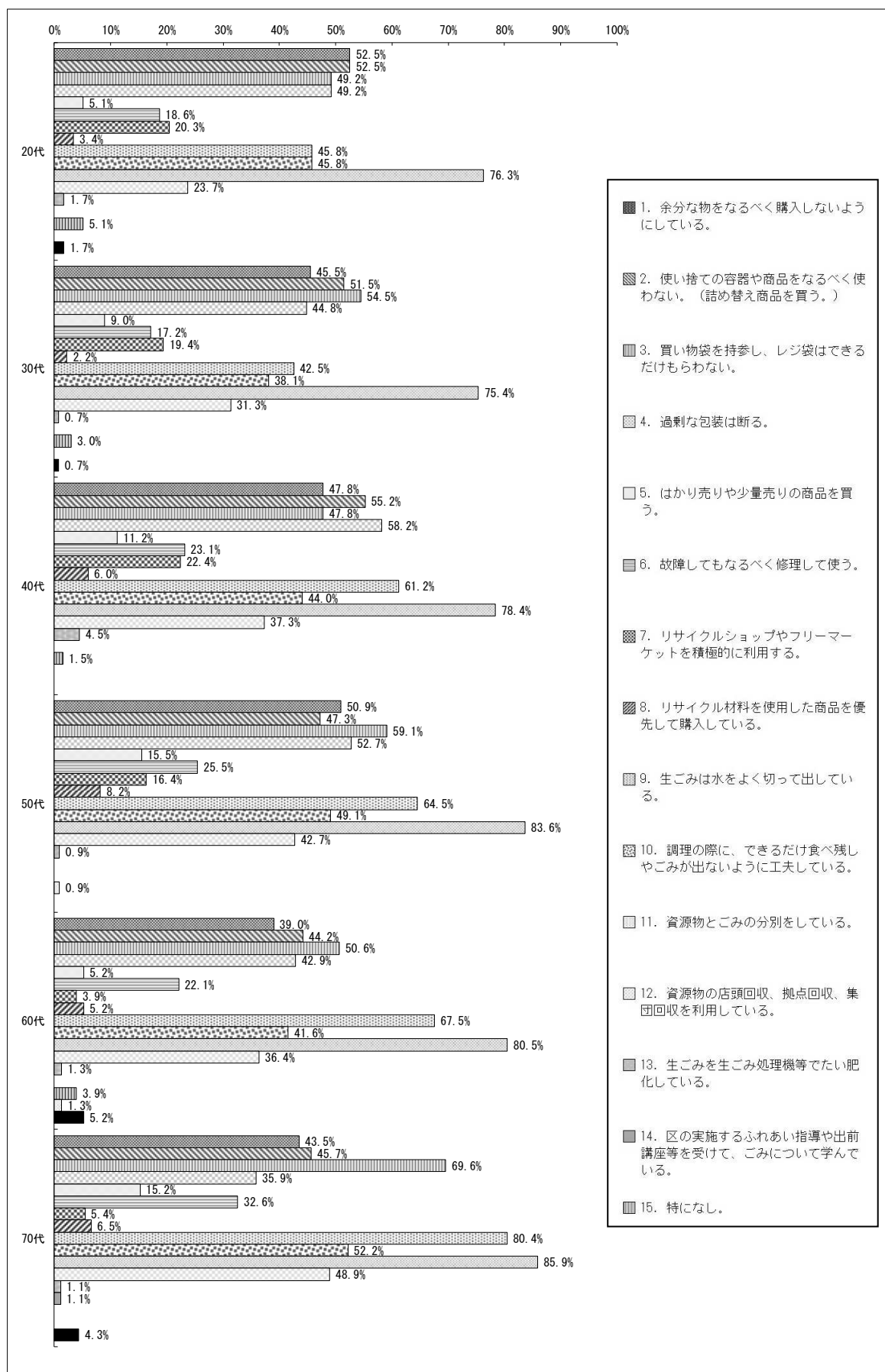


図 2.3.56 ごみに関する行動（年代別）

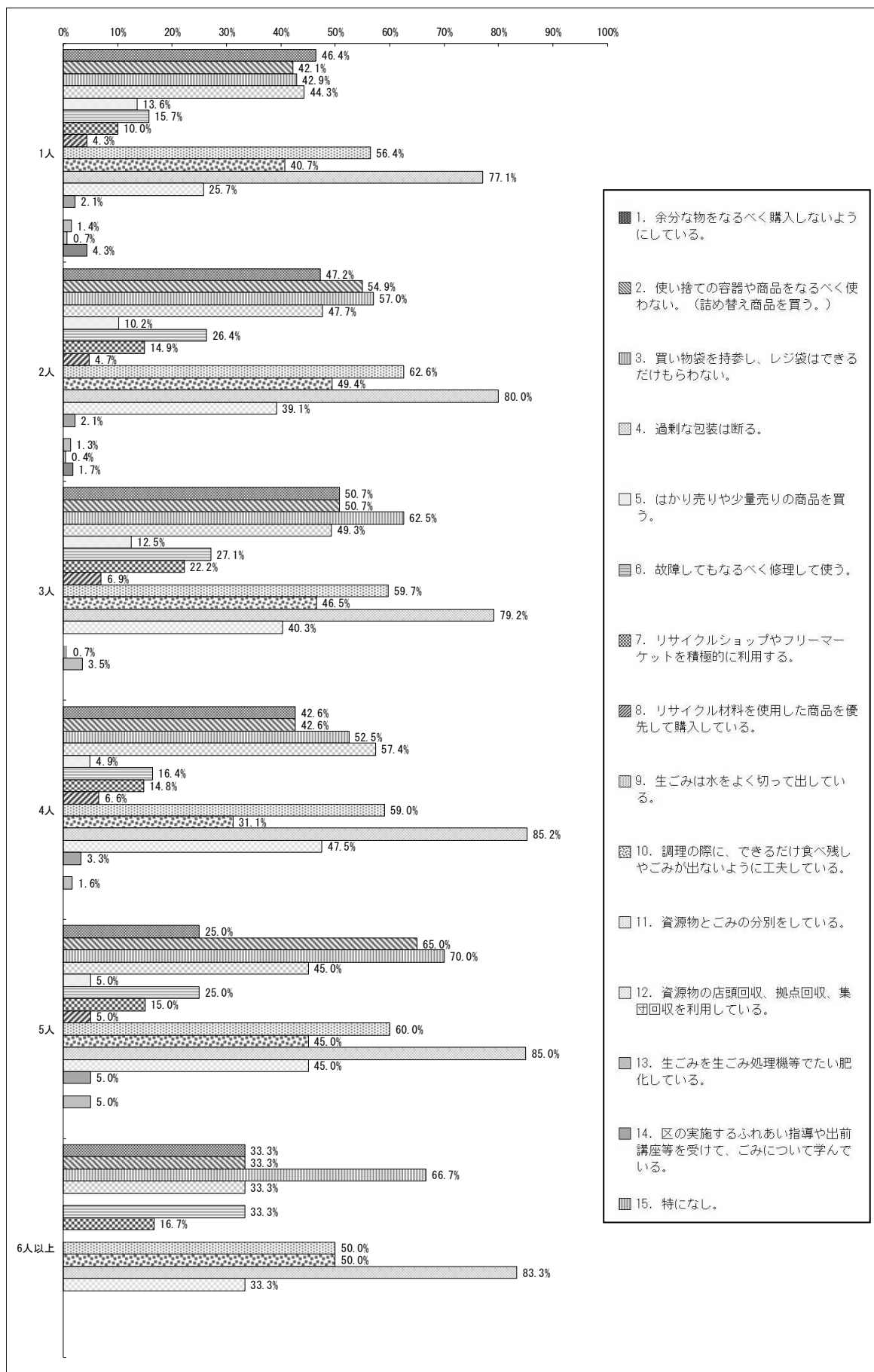


図 2.3.57 ごみに関する行動（世帯人数別）

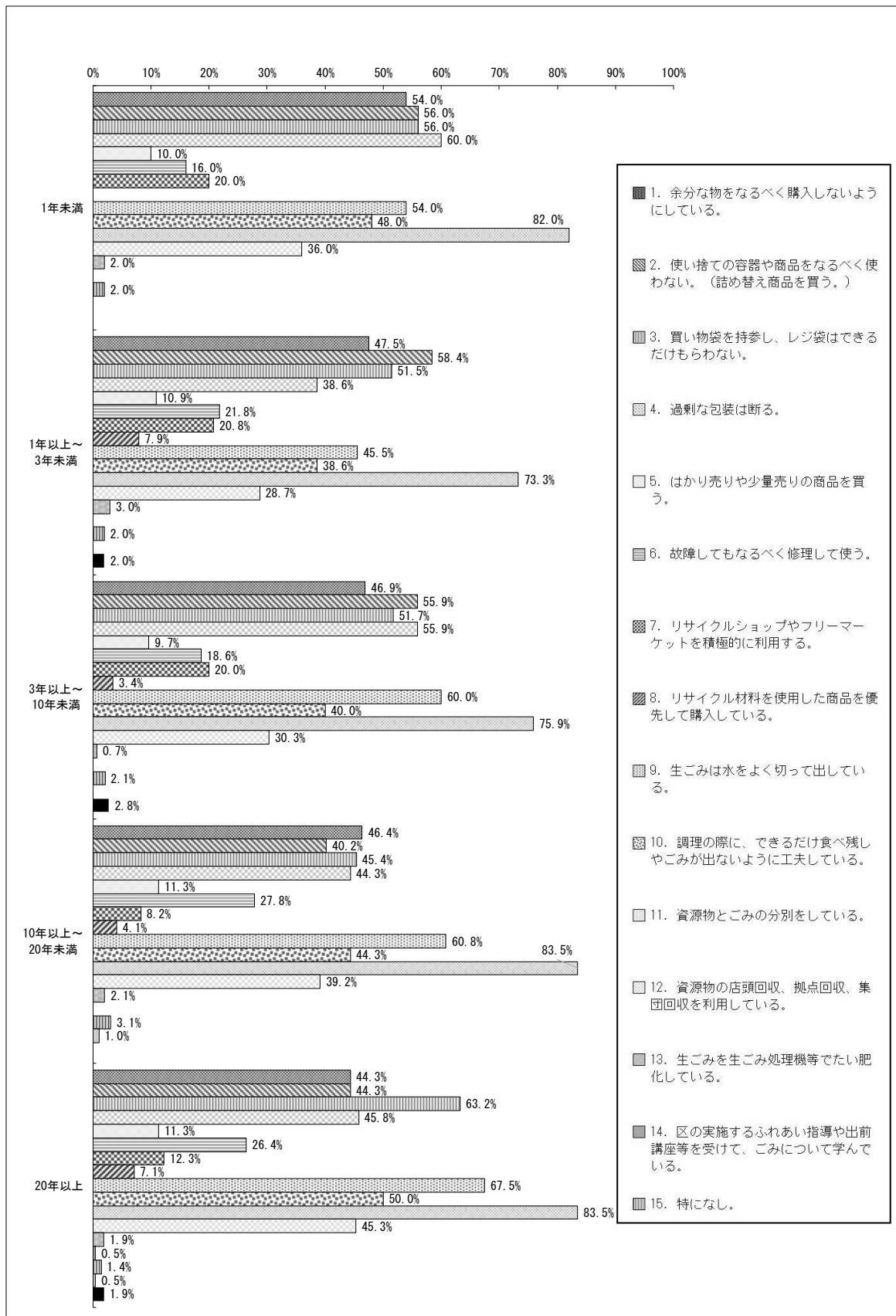


図 2.3.58 ごみに関する行動（居住年数別）

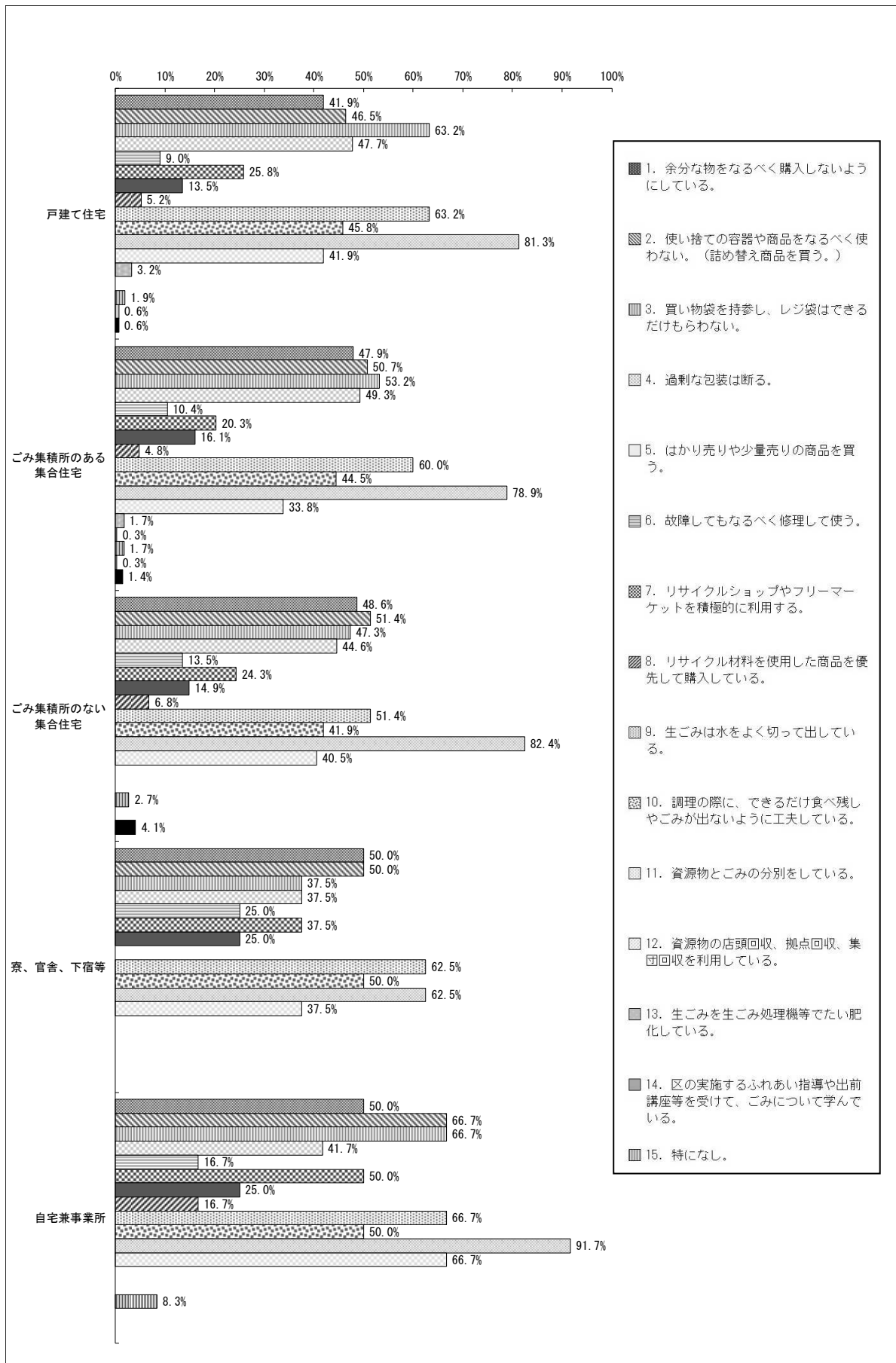


図 2.3.59 ごみに関する行動（居住形態別）

2.3.8 問7 食品ロスに関する認知度

(1) 食品ロスの定義の認知度

食品ロスの定義の認知度についてみると、正解である「本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食品」とした回答者は48.7%であった。

表 2.3.14 食品ロスの定義の認知度

項目	回答数	割合
1. 食卓にのぼった食品で、食べきらずに廃棄されたもの	29	4.8%
2. 賞味期限切れ等により使用・提供されず、手つかずのまま廃棄されたもの	235	38.8%
3. 食品調理の際に、不可食部分を除去する際に過剰に除去された過食部分	7	1.2%
4. 本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食品	295	48.7%
無回答	40	6.6%
合計	606	100%

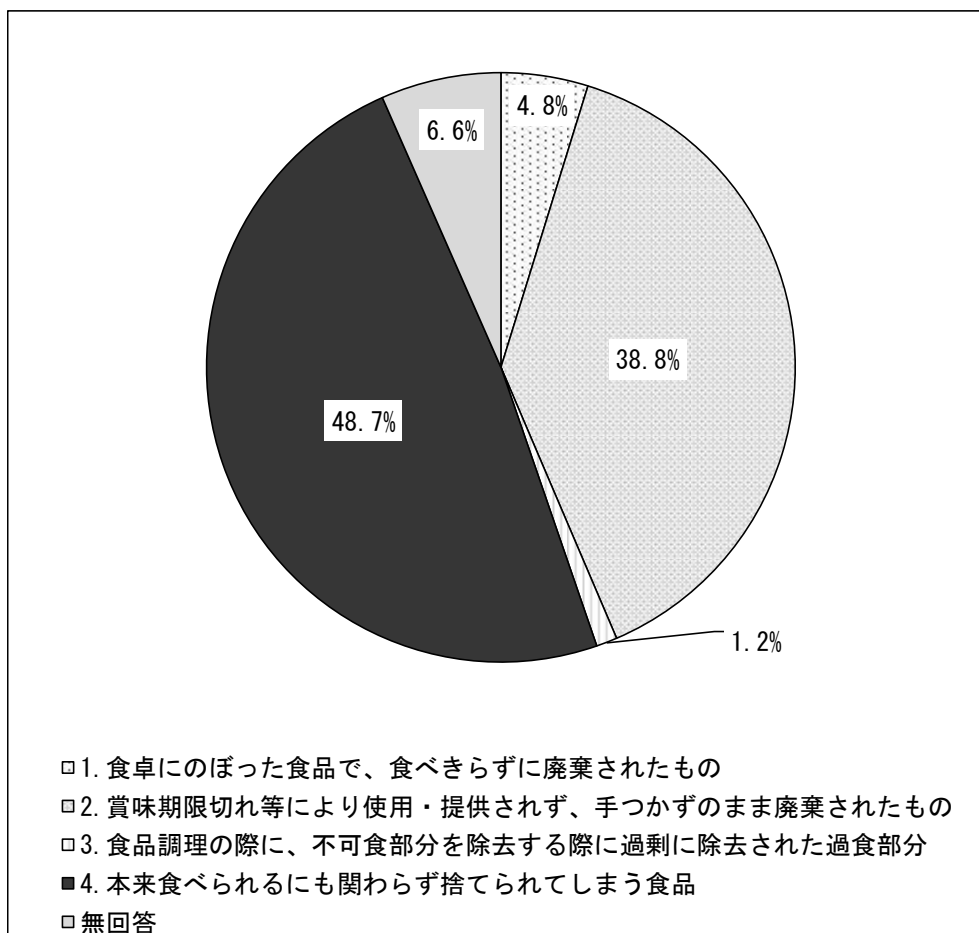


図 2.3.60 食品ロスの定義の認知度

(2) 食品ロス発生量の認知度

食品ロス発生量の認知度についてみると、正解である「お茶碗1杯分（約139g）」とした回答者は90.9%であった。

表 2.3.15 食品ロス発生量の認知度

	回答数	%
1.お茶碗1杯分(約139g)	551	90.9%
2.たまご(L)1個分(約60g)	28	4.6%
3.大さじ1杯(約15g)	7	1.2%
無回答	20	3.3%
合計	606	100%

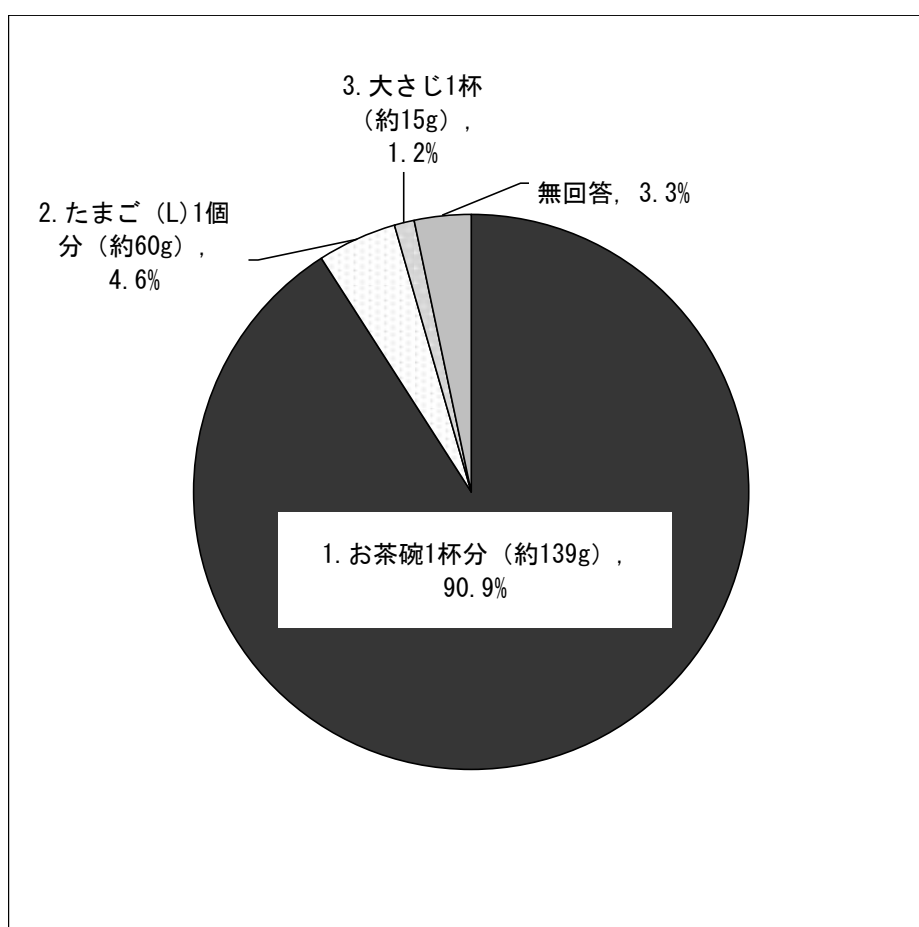


図 2.3.61 食品ロス発生量の認知度

(3) 食品ロスを減らすために取り組めること

食品ロスを減らすために取り組めることについてみると、「冷凍保存を活用する。」が64.9%と最も割合が高く、次いで「残さず食べるようにする。」が61.4%、「賞味期限」を過ぎてもすぐには捨てず、自分で食べられるかを判断する。」が56.3%の順となっている。

表 2.3.16 食品ロスを減らすために取り組めること

項目	回答数	割合
1. 料理を作りすぎないようにする。	323	53.3%
2. 残さず食べるようにする。	372	61.4%
3. 残った料理を別の料理に作り替える。	218	36.0%
4. 冷凍保存を活用する。	393	64.9%
5. 日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する。	333	55.0%
6. 「賞味期限」を過ぎてもすぐには捨てず、自分で食べられるかを判断する。	341	56.3%
7. 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する。	255	42.1%
8. 飲食店等で注文し過ぎない。	243	40.1%
9. フードドライブに協力する。	56	9.2%
10. 取り組めることはない。	3	0.5%
11. その他	16	2.6%
無回答	10	1.7%
合計	2563	-

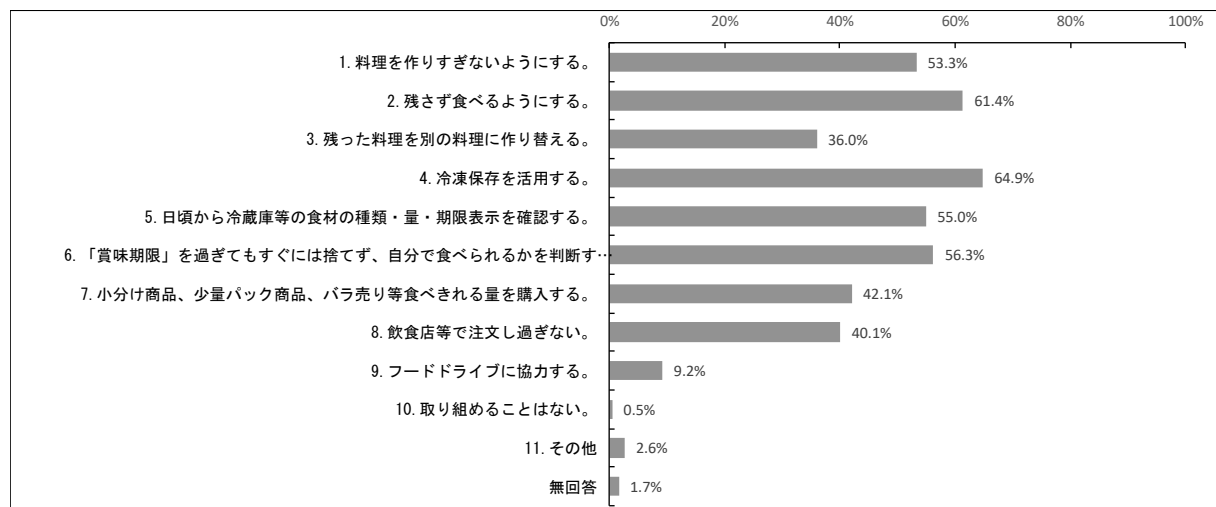


図 2.3.62 食品ロスを減らすために取り組めること

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.63～図 2.3.67 に示す。

「冷凍保存を活用する。」、「残さず食べるようにする。」、「賞味期限」を過ぎてもすぐには捨てず、自分で食べられるかを判断する。」はどの年代でも高くなっている。

また、年代が上がるほど「料理を作りすぎないようにする。」とする回答者が多くなっている。

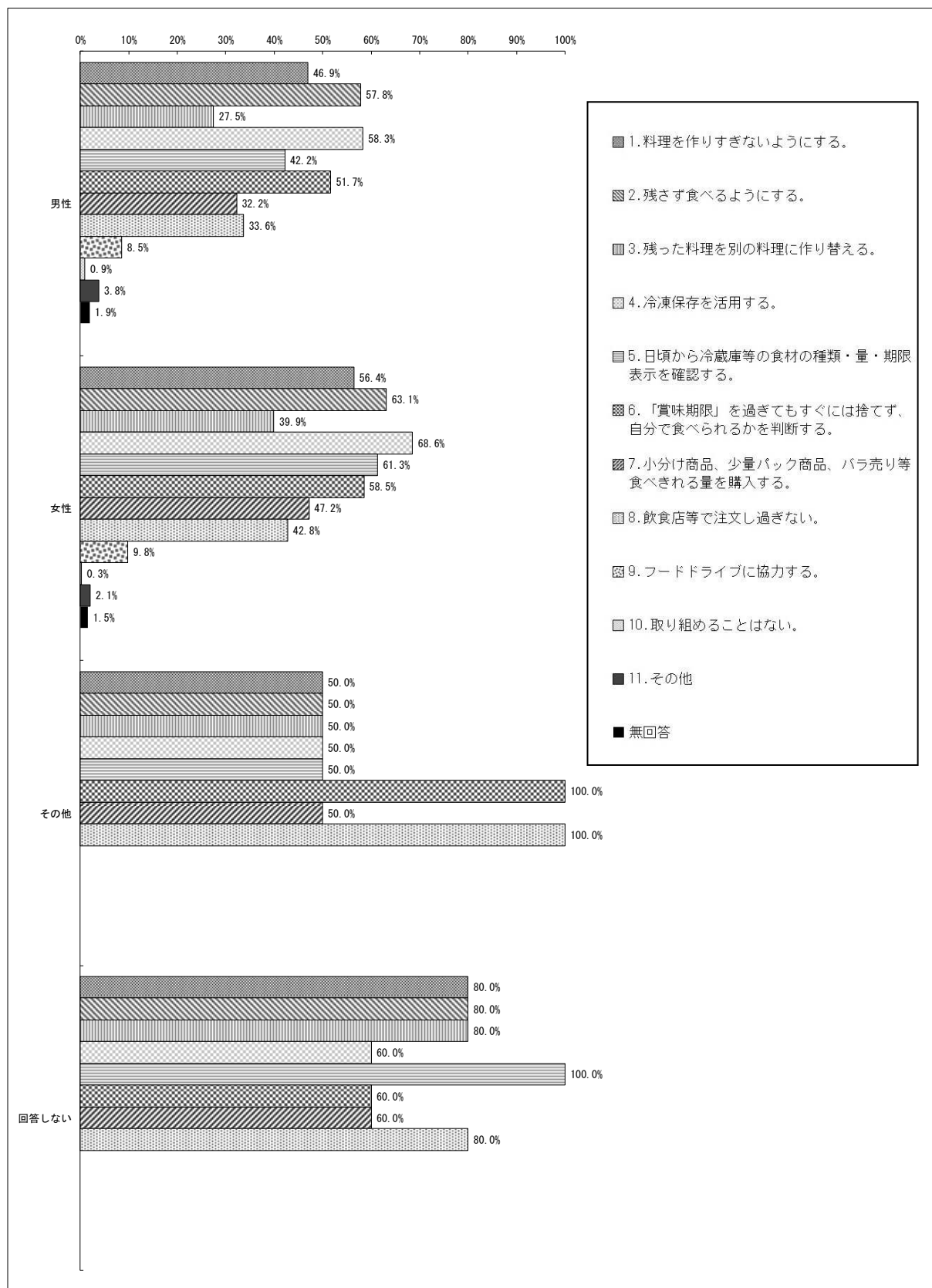


図 2.3.63 食品ロスを減らすために取り組めること（性別）

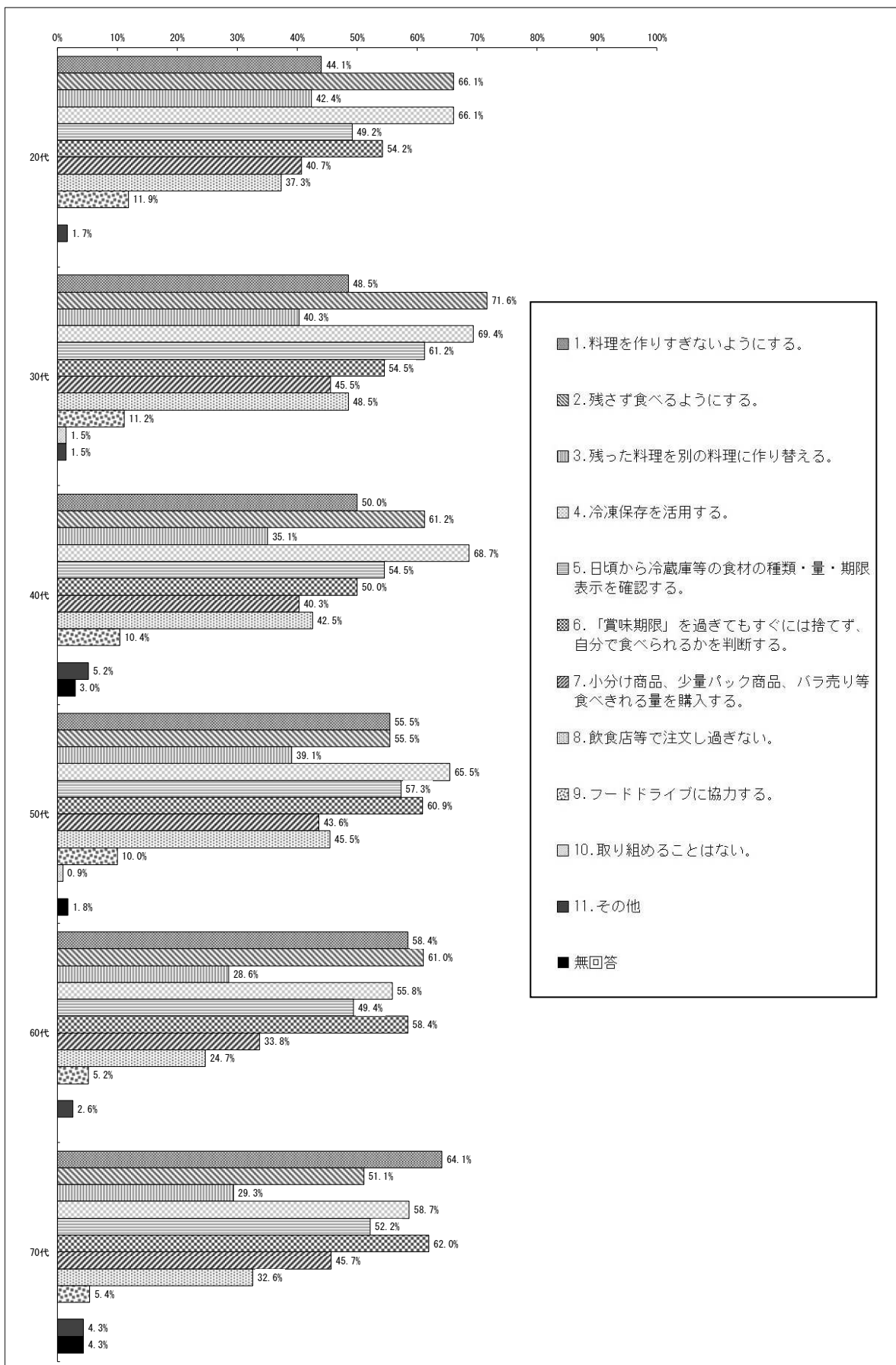


図 2.3.64 食品ロスを減らすために取り組めること（年代別）

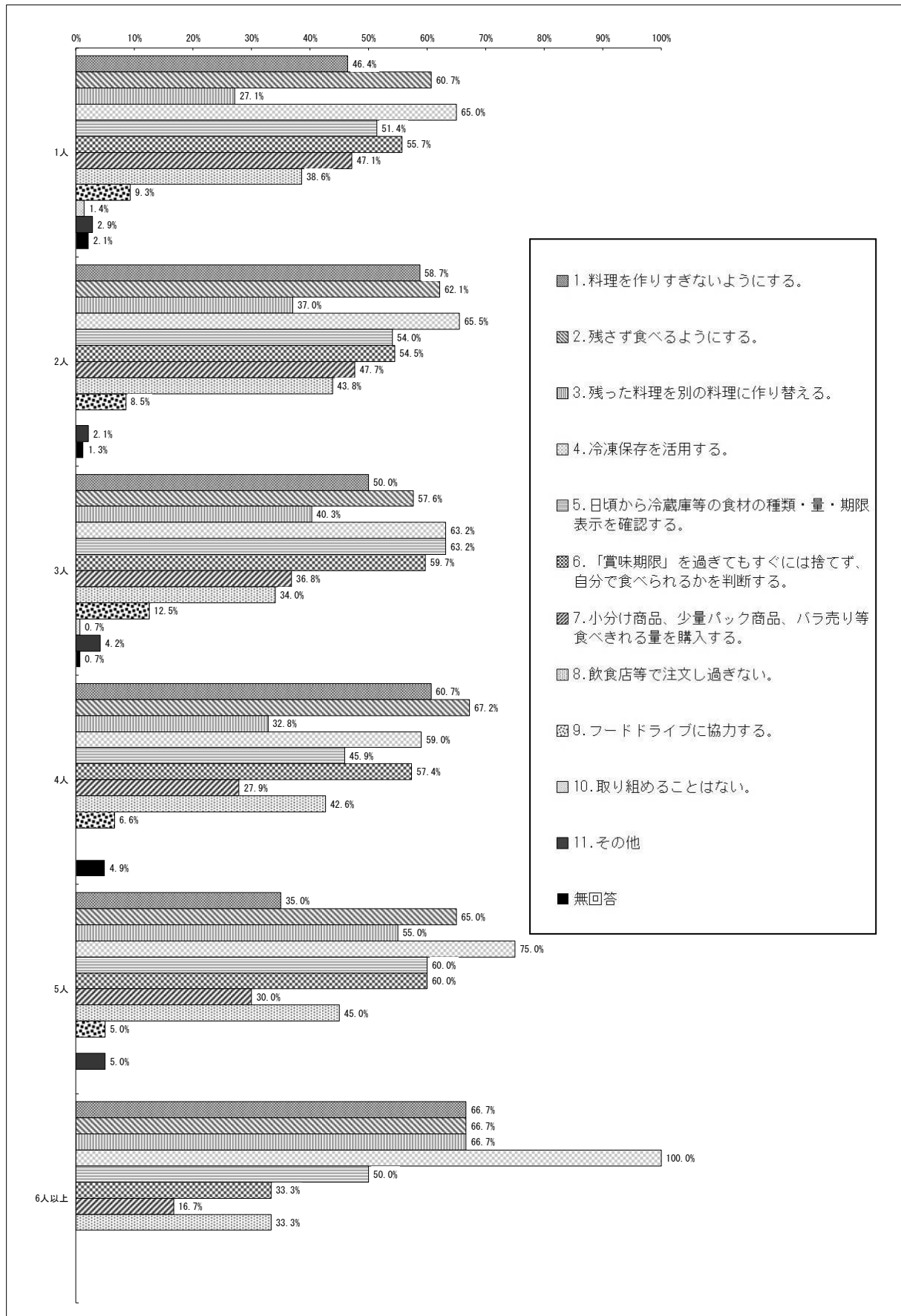


図 2.3.65 食品ロスを減らすために取り組めること（世帯人数別）

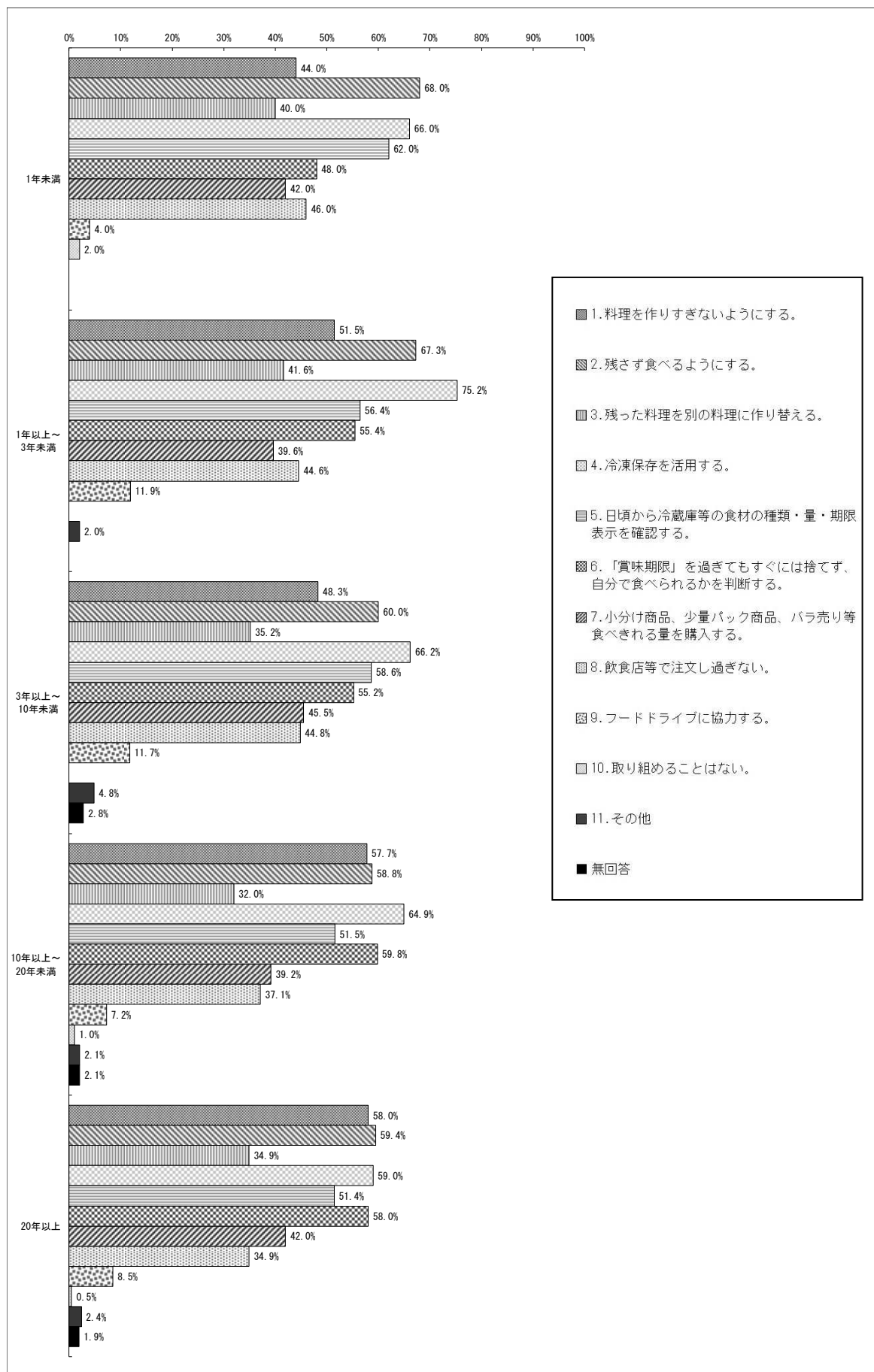


図 2.3.66 食品ロスを減らすために取り組めること（居住年数別）

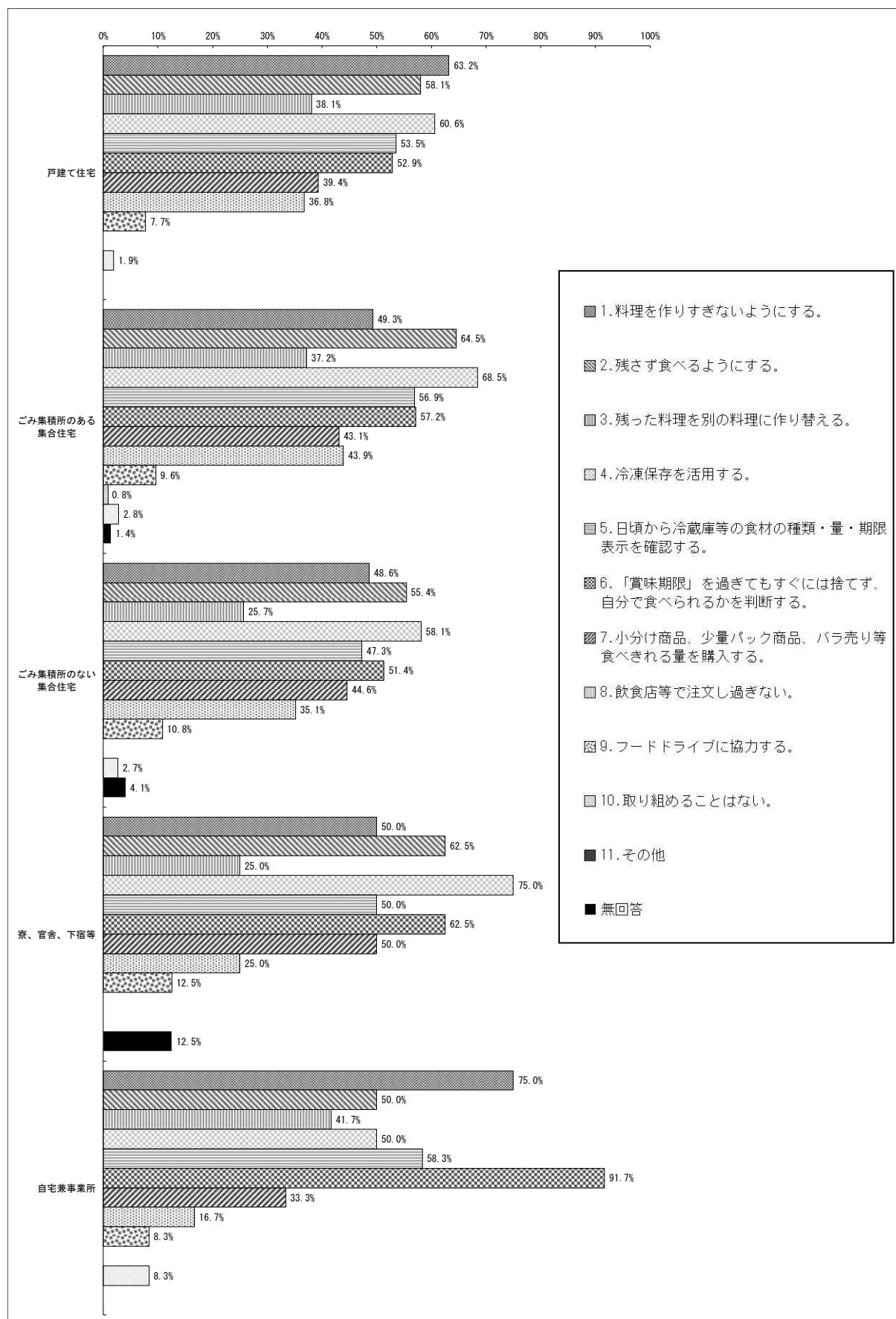


図 2.3.67 食品ロスを減らすために取り組めること（居住形態別）

2.3.9 問8 容器包装プラスチック分別収集への協力

容器包装プラスチック分別収集への協力についてみると、「できる範囲で協力したい。」が45.4%と最も割合が高く、次いで「積極的に分別に協力したい。」が43.1%と、この2項目で約90%となっている。

表 2.3.17 容器包装プラスチック分別収集への協力

項目	回答数	割合
1.積極的に分別に協力したい。	261	43.1%
2.できる範囲で協力したい。	275	45.4%
3.協力したくない。	29	4.8%
4.どちらともいえない。	23	3.8%
5.その他	9	1.5%
無回答	9	1.5%
合計	606	100%

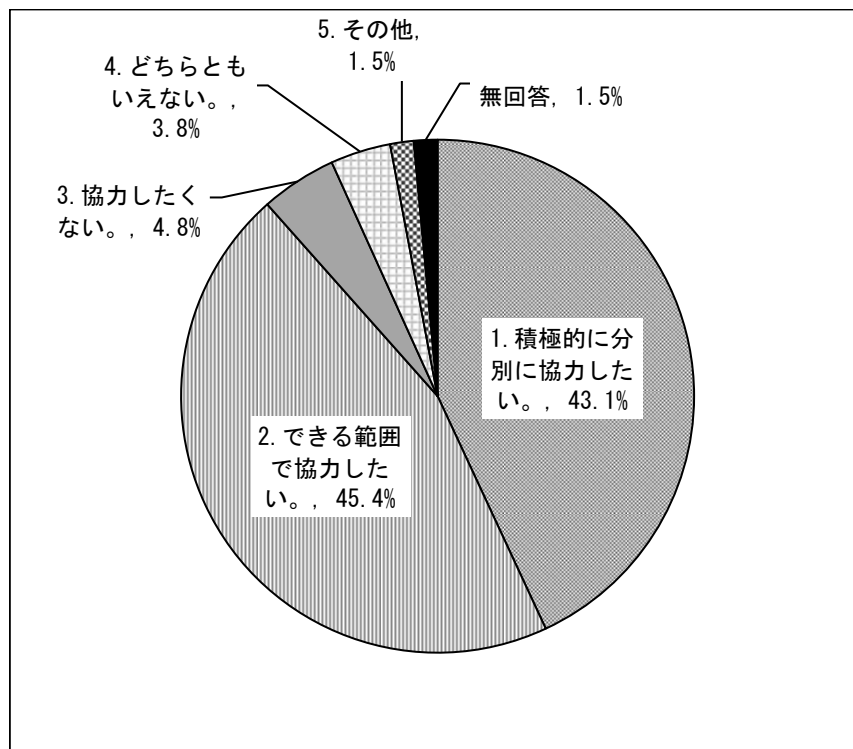


図 2.3.68 容器包装プラスチック分別収集への協力

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.69～図 2.3.73 に示す。

「積極的に分別に協力したい。」、「できる範囲で協力したい。」の合計が最も高いのは60代であったが、20代も比較的高くなっており、関心の高さが伺える。一方で、30代の「積極的に分別に協力したい。」、「できる範囲で協力したい。」の合計は80.6%と、他の年代と比較して低くなっている。

他の属性をみると、「ごみ集積所のない集合住宅」の回答者は、「できる範囲で協力したい。」、「積極的に分別に協力したい。」の合計が77.0%と低くなっている。

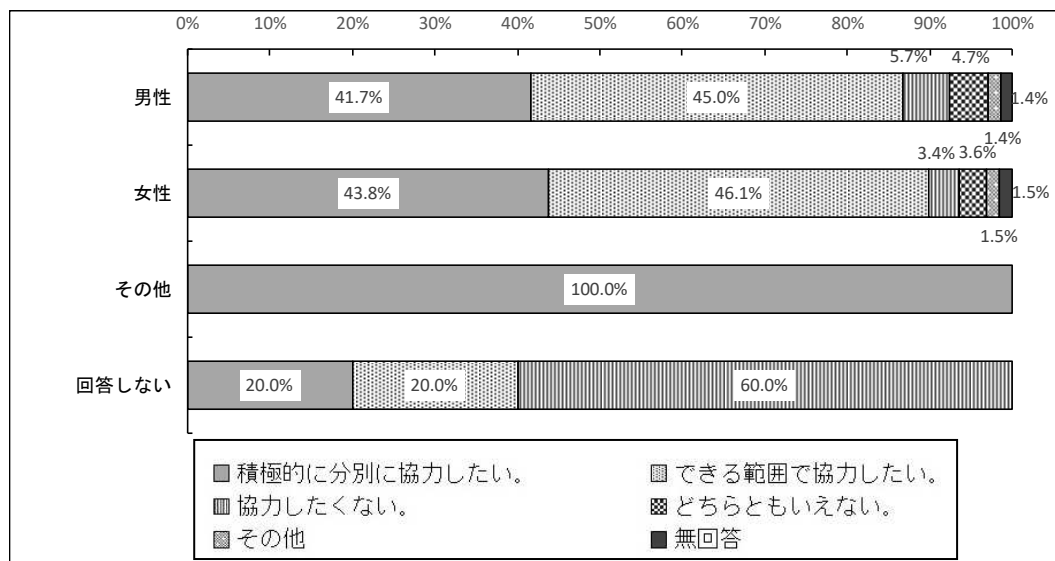


図 2.3.69 容器包装プラスチック分別収集への協力（性別）

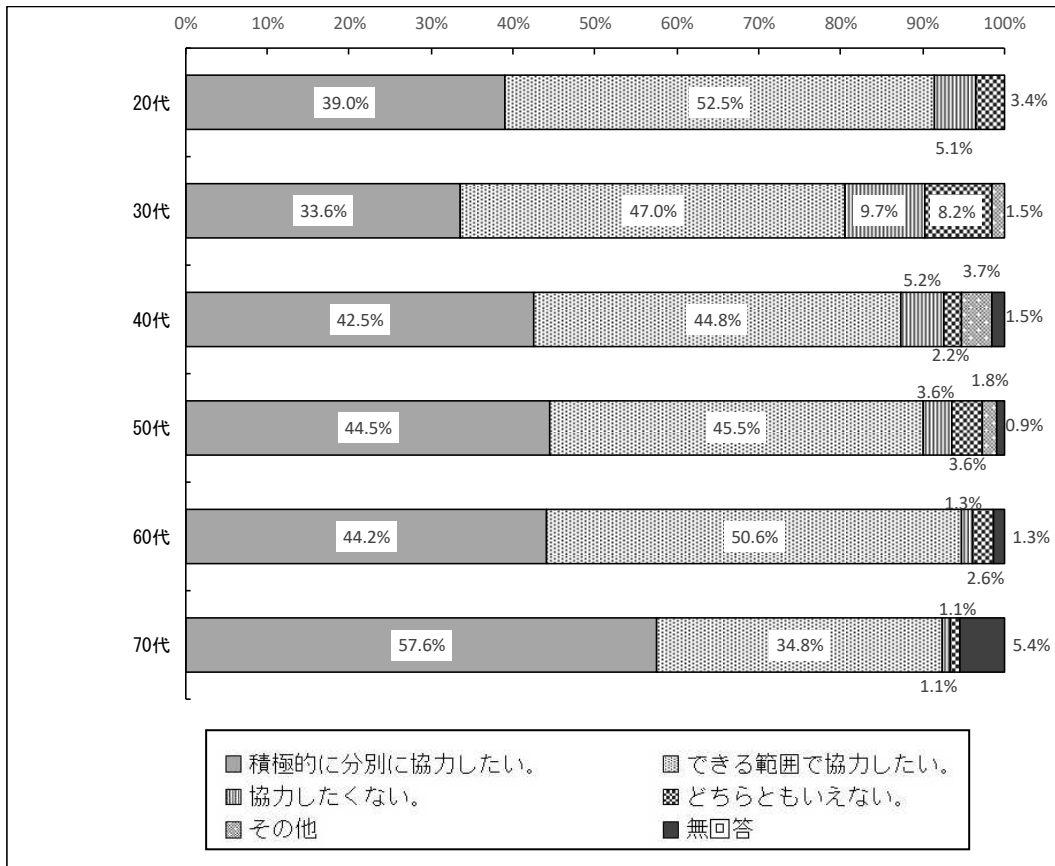


図 2.3.70 容器包装プラスチック分別収集への協力（年代別）

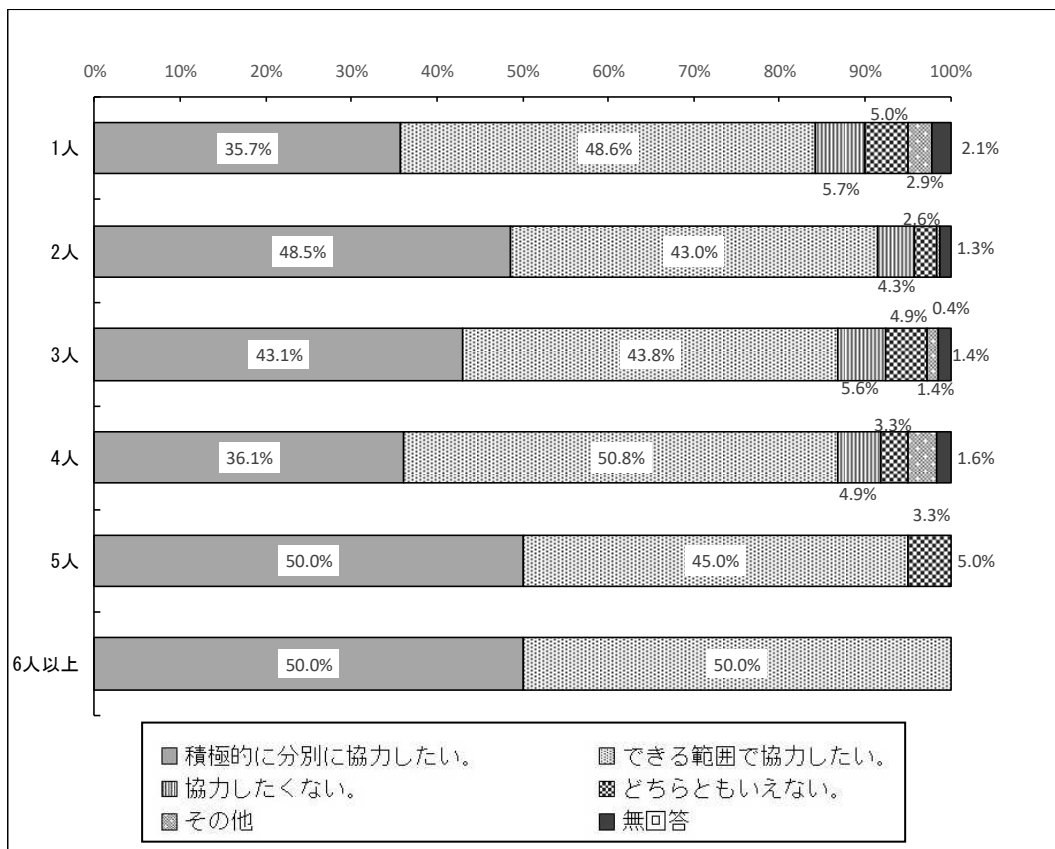


図 2.3.71 容器包装プラスチック分別収集への協力（世帯人数別）

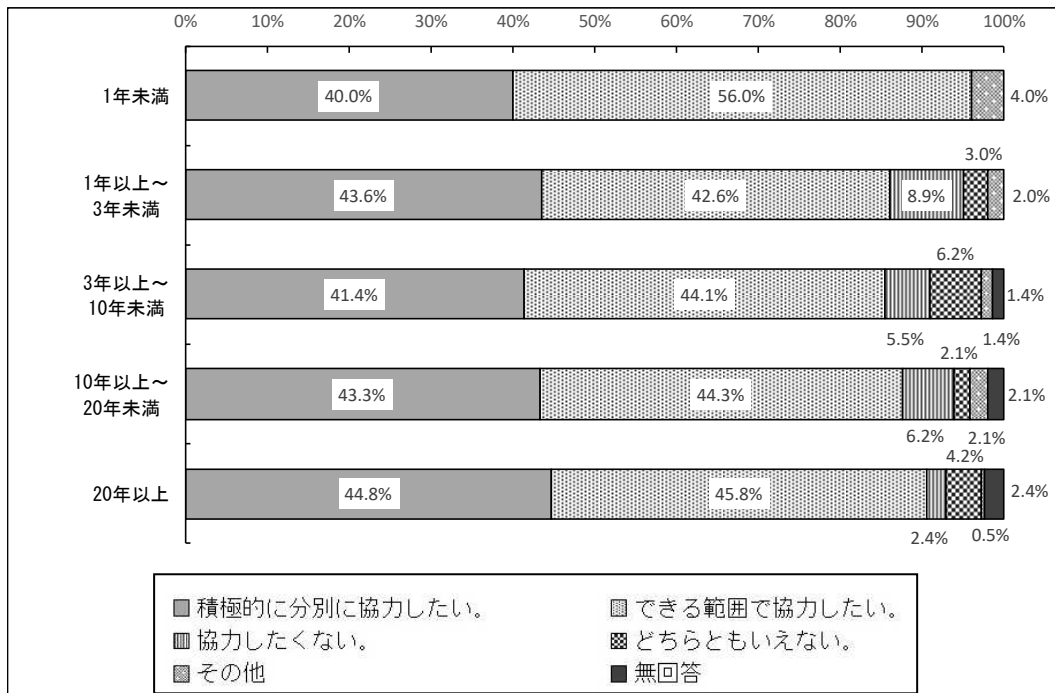


図 2.3.72 容器包装プラスチック分別収集への協力（居住年数別）

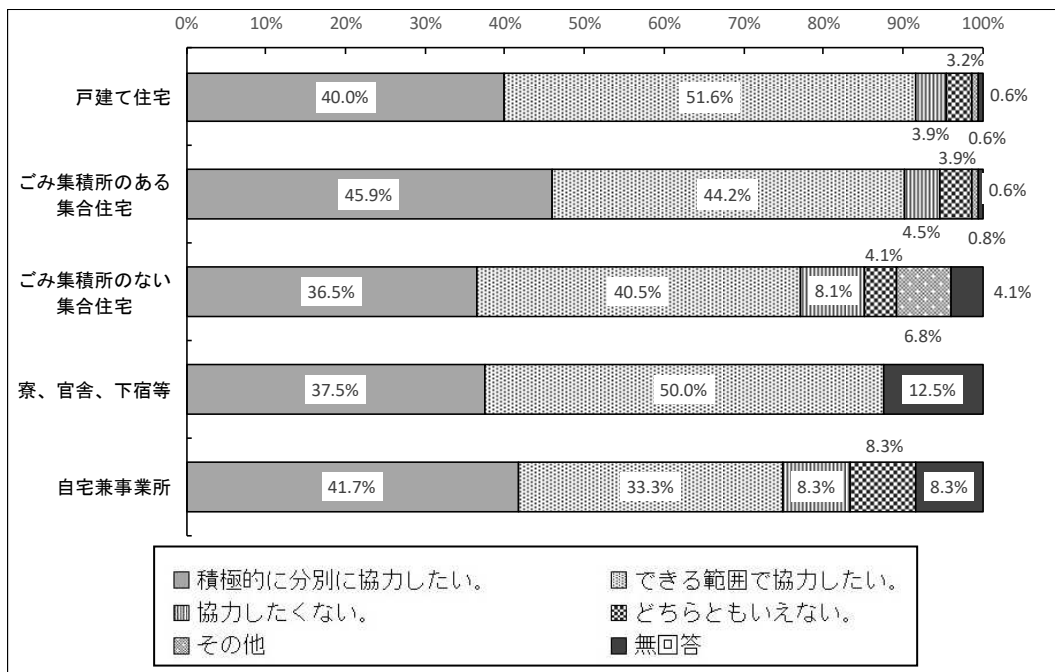


図 2.3.73 容器包装プラスチック分別収集への協力（居住形態別）

2.3.10 問9 容器包装プラスチックの拠点回収への協力

容器包装プラスチックの拠点回収への協力についてみると、「できる範囲で協力したい。」が43.9%と最も割合が高く、次いで「積極的に分別に協力したい。」が42.6%と、この2項目で80%以上となっている。

表 2.3.18 容器包装プラスチックの拠点回収への協力

項目	回答数	割合
1.積極的に分別に協力したい。	258	42.6%
2.できる範囲で協力したい。	266	43.9%
3.協力したくない。	34	5.6%
4.どちらともいえない。	27	4.5%
5.その他	14	2.3%
無回答	7	1.2%
合計	606	100%

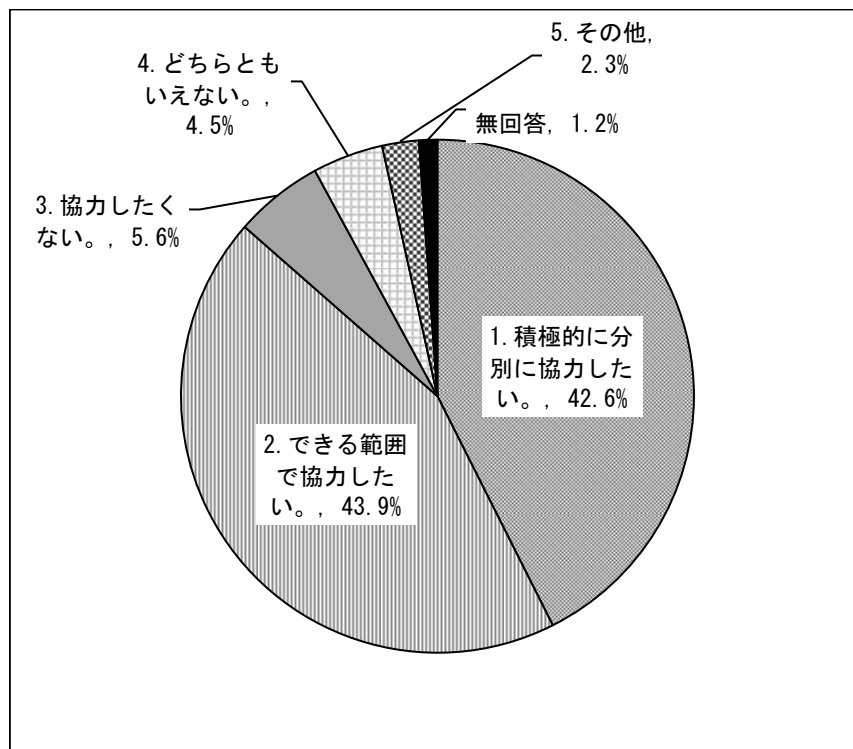


図 2.3.74 容器包装プラスチックの拠点回収への協力

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.75～図 2.3.79 に示す。

年代が高くなるほど「積極的に分別に協力したい。」、「できる範囲で協力したい。」の合計が高くなる傾向があり、最も高いのは60代であった。

他の属性をみると、「ごみ集積所のない集合住宅」の回答者は、「積極的に分別に協力したい。」、「できる範囲で協力したい。」の合計が77.0%と低くなっている。

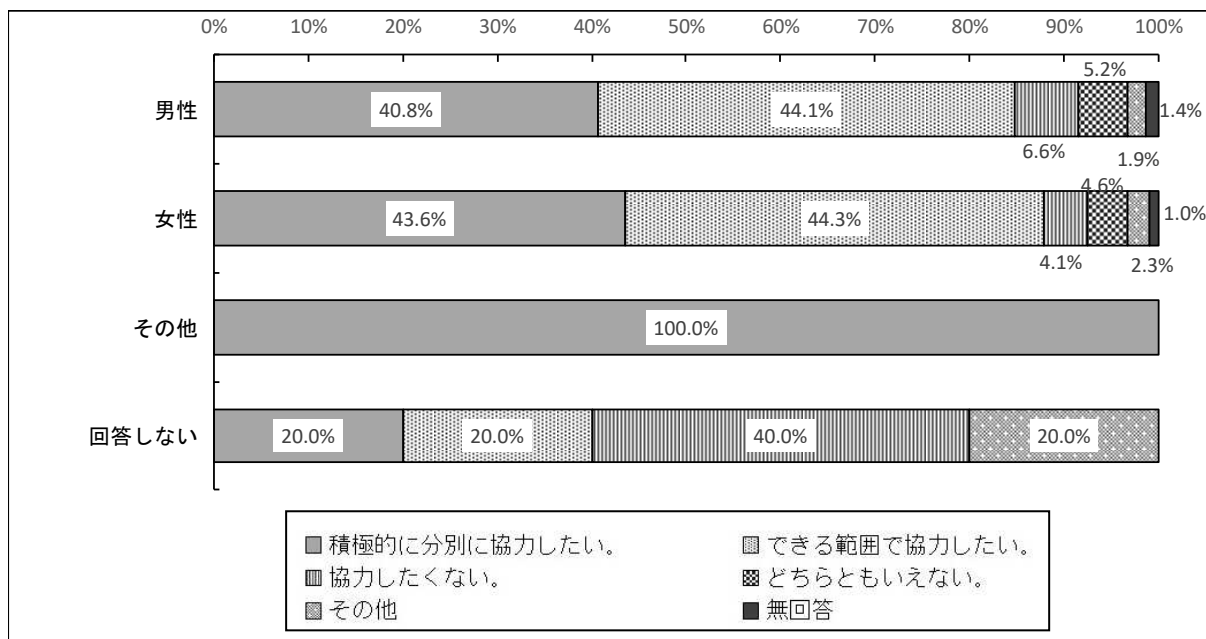


図 2.3.75 容器包装プラスチックの拠点回収への協力（性別）

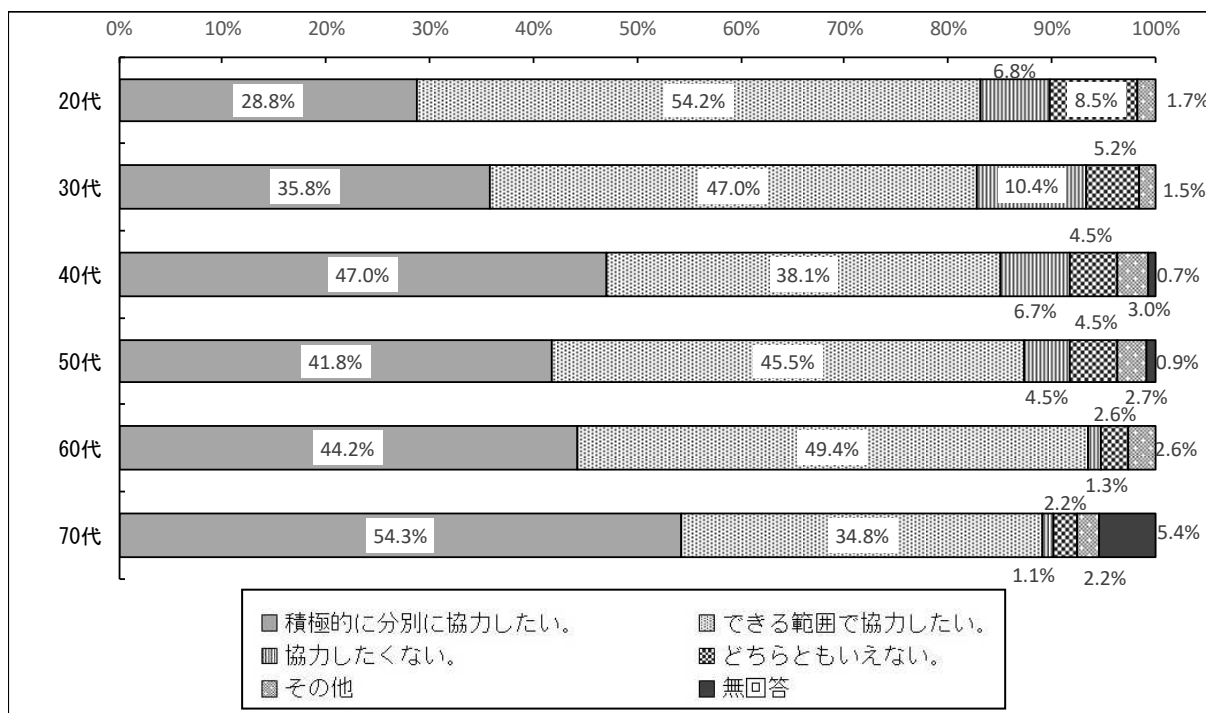


図 2.3.76 容器包装プラスチックの拠点回収への協力（年代別）

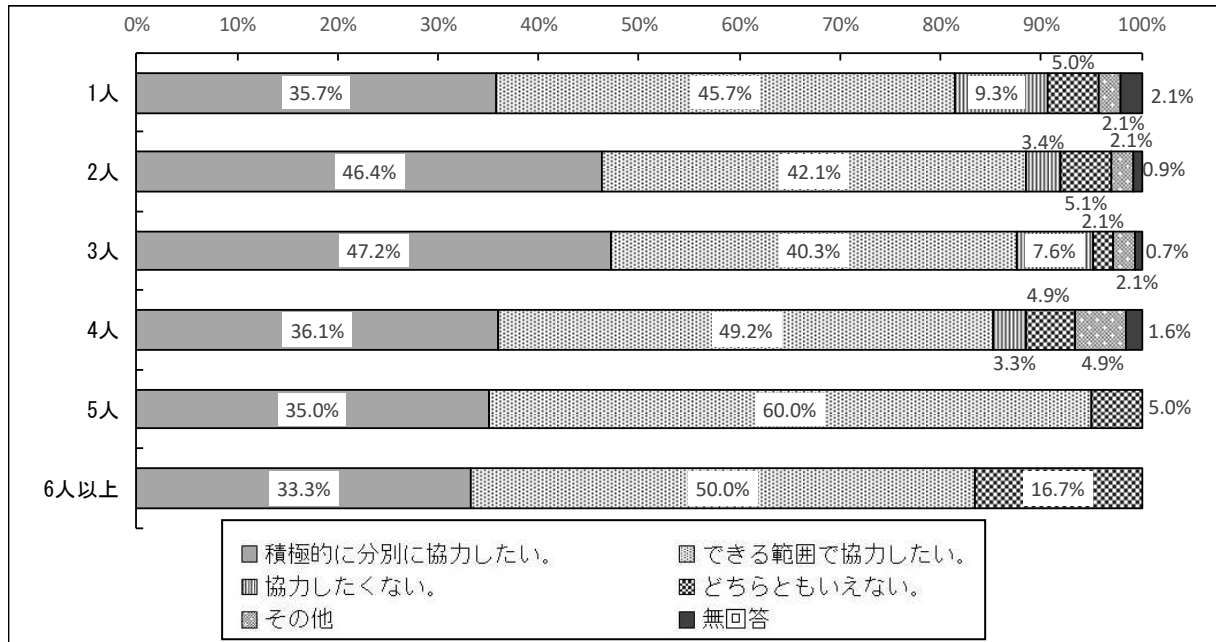


図 2.3.77 容器包装プラスチックの拠点回収への協力（世帯人数別）

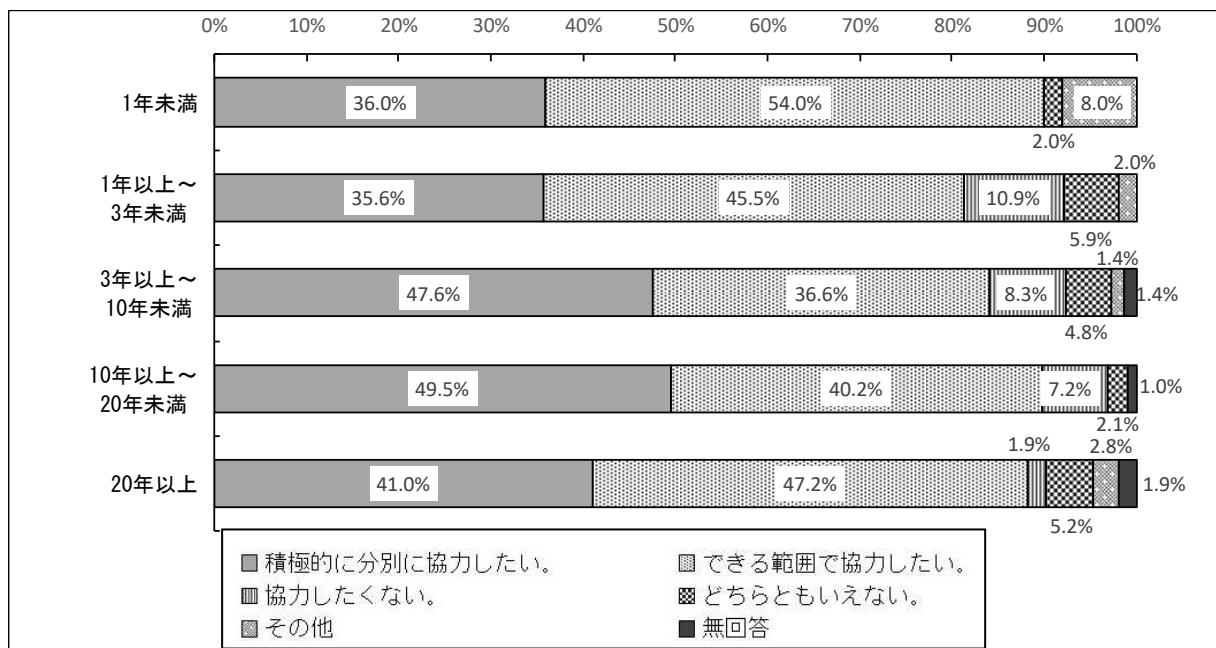


図 2.3.78 容器包装プラスチックの拠点回収への協力（居住年数別）

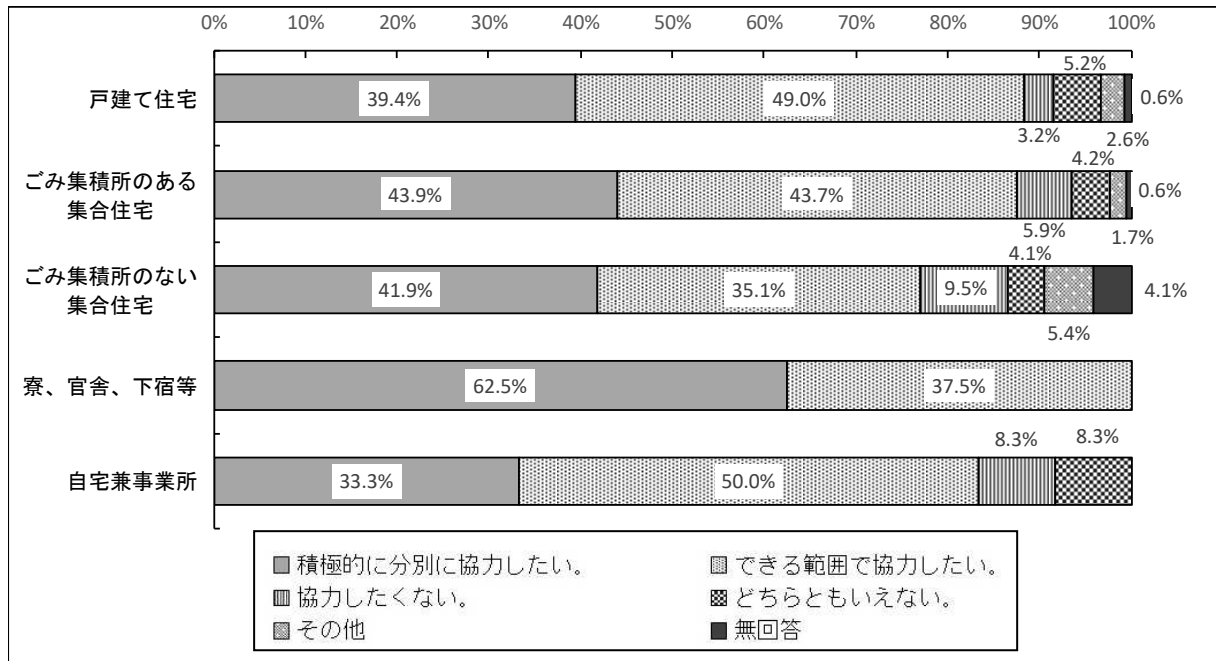


図 2.3.79 容器包装プラスチックの拠点回収への協力（居住形態別）

2.3.11 問10 区の施策の認知度及び協力状況

(1) 施策の認知度

区の施策の認知度についてみると、「生ごみの水切り励行」が26.6%と最も割合が高く、次いで「拠点回収の実施」が24.3%、「雑がみの資源物排出の協力強化」が22.3%の順であった。

表 2.3.19 区の施策の認知度

項目	回答数	割合
1. 生ごみの水切り励行	161	26.6%
2. 雑がみの資源物排出の協力強化	135	22.3%
3. ピックアップ回収の実施	78	12.9%
4. イベント回収の実施	119	19.6%
5. パソコンの無料回収事業	47	7.8%
6. 「すみだ独自の「R」づくり」推進	27	4.5%
7. 高齢者世帯等への収集施策	31	5.1%
8. 食品ロス削減に向けた啓発	33	5.4%
9. ICTを活用したごみに関する普及・啓発	27	4.5%
10. 拠点回収の実施	147	24.3%
11. 集団回収の実施	116	19.1%
12. 防鳥用ネットの貸し出し	70	11.6%
13. 資源物回収用コンテナ・ネットの貸し出し	83	13.7%
14. 「エコストア」の認定	9	1.5%
15. 家庭用生ごみ処理容器の購入あっせん	28	4.6%
16. フリーマーケット開催の案内	72	11.9%
17. 自転車のリユース・リサイクル	34	5.6%
合計	1217	-

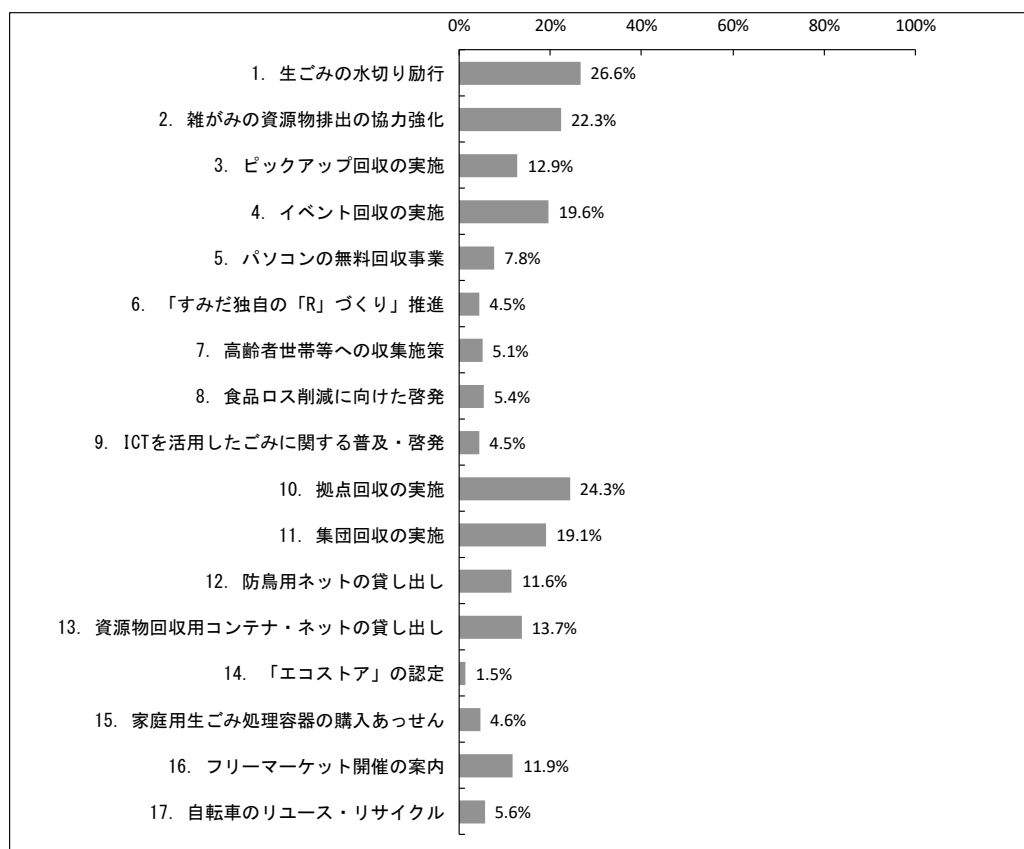


図 2.3.80 区の施策の認知度

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.81～図 2.3.85 に示す。

50 代以上では「生ごみの水切り励行」の認知度が 30%以上となっているが、40 代以下では 30%以下となっている。

「生ごみの水切り励行」、「拠点回収の実施」の認知度は 50 代で最も高くなっている。一方、20 代の施策の認知度は総じて低くなっている。

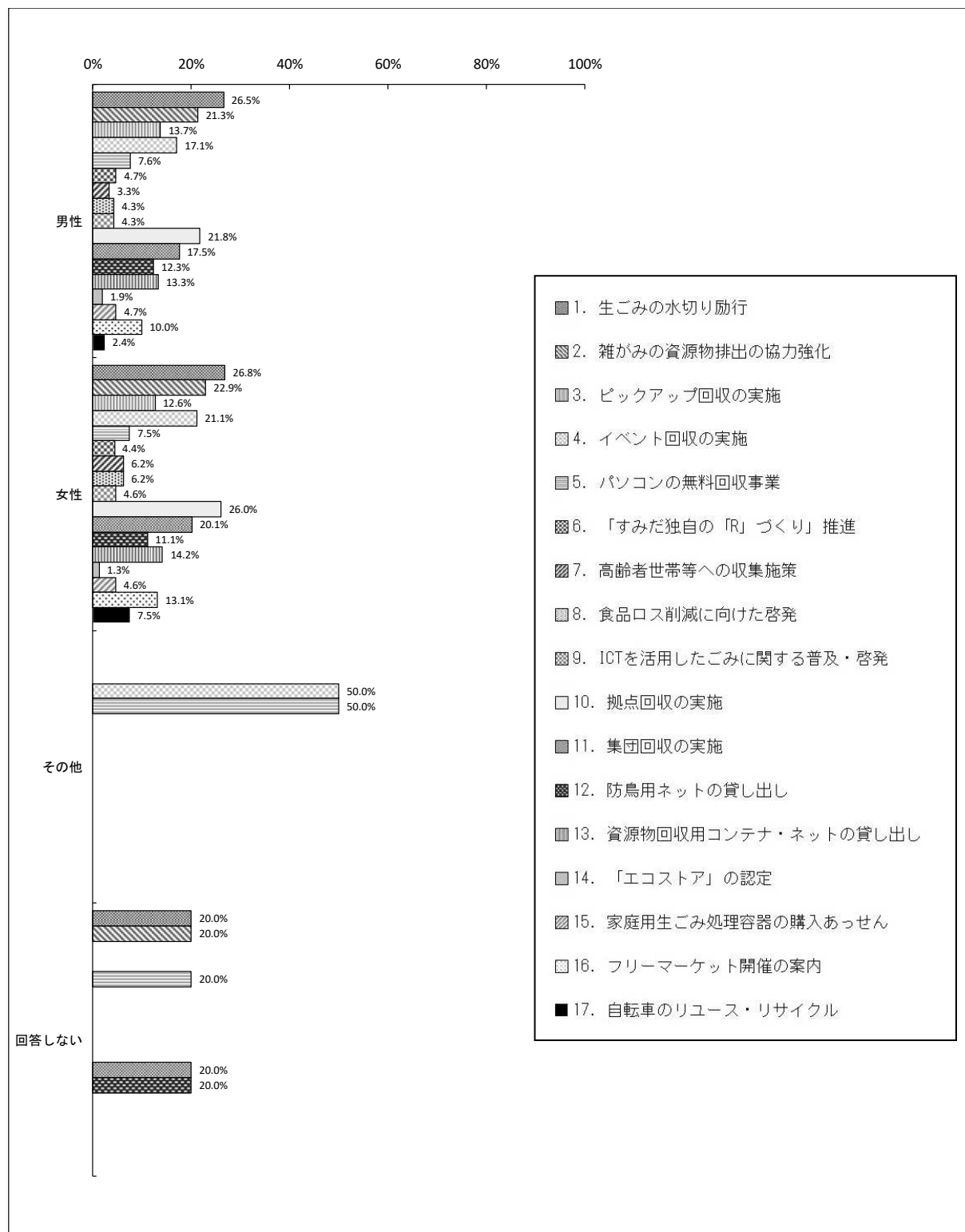


図 2.3.81 区の施策の認知度（性別）

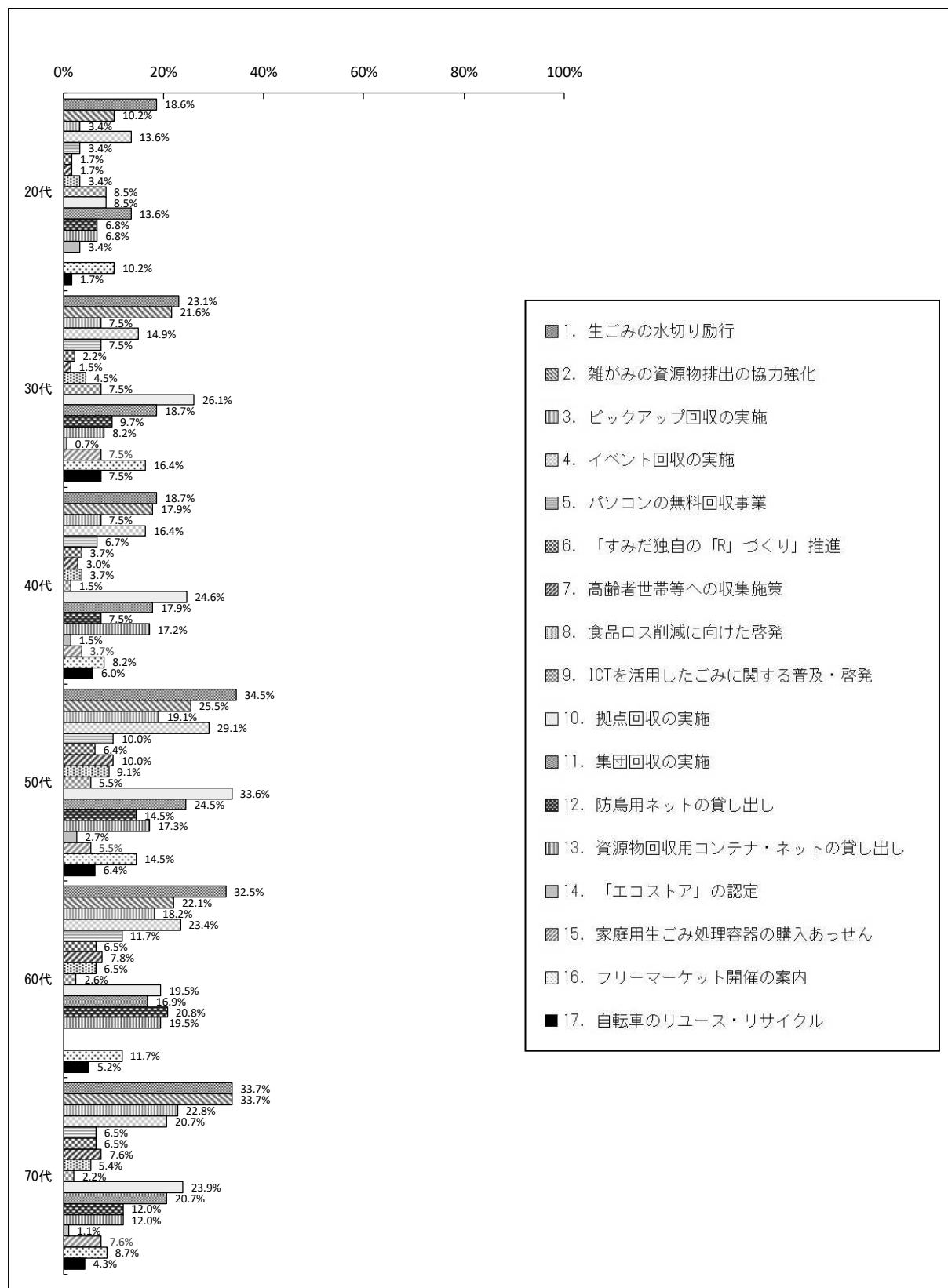


図 2.3.82 区の施策の認知度（年代別）

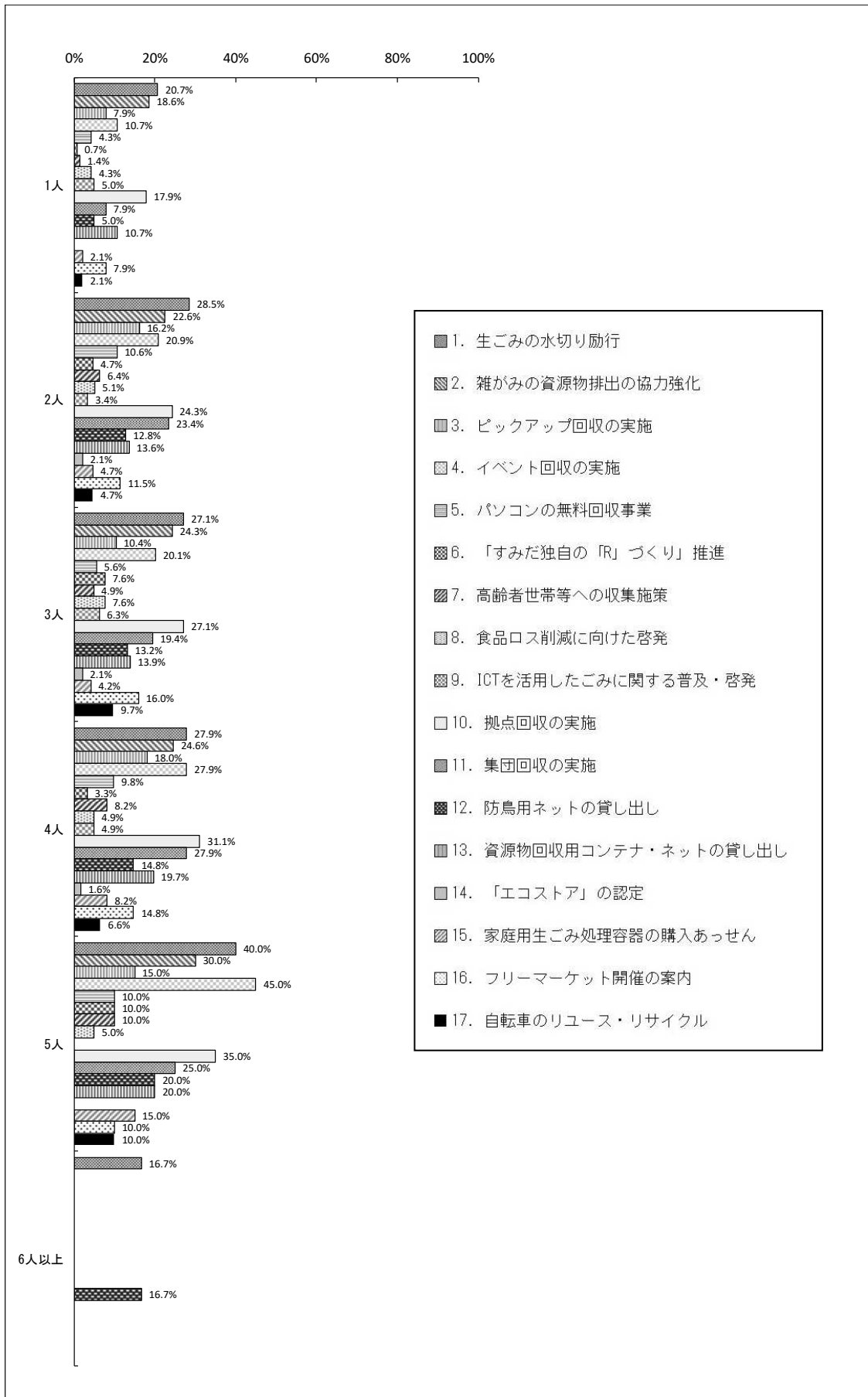


図 2.3.83 区の施策の認知度（世帯人数別）

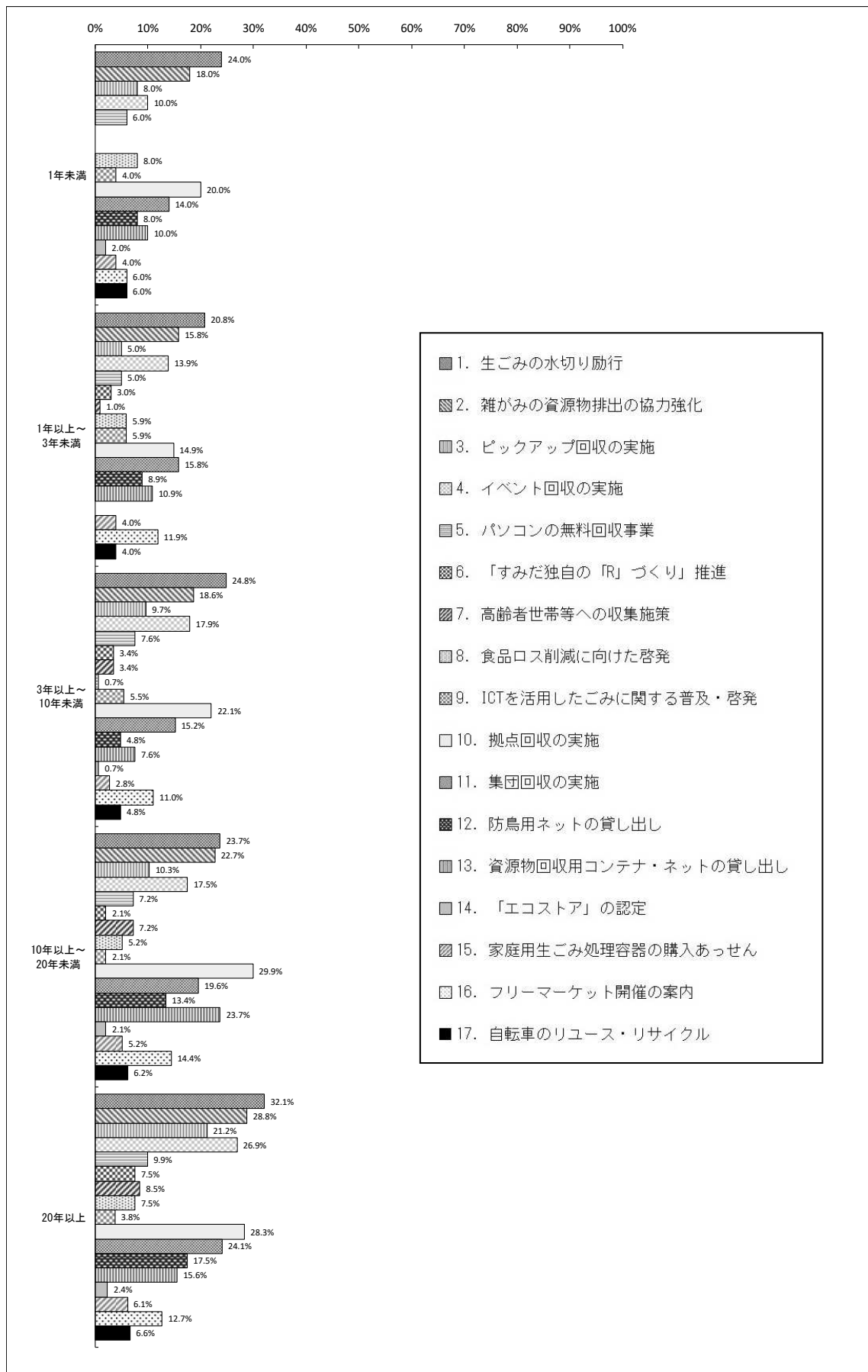


図 2.3.84 区の施策の認知度（居住年数別）

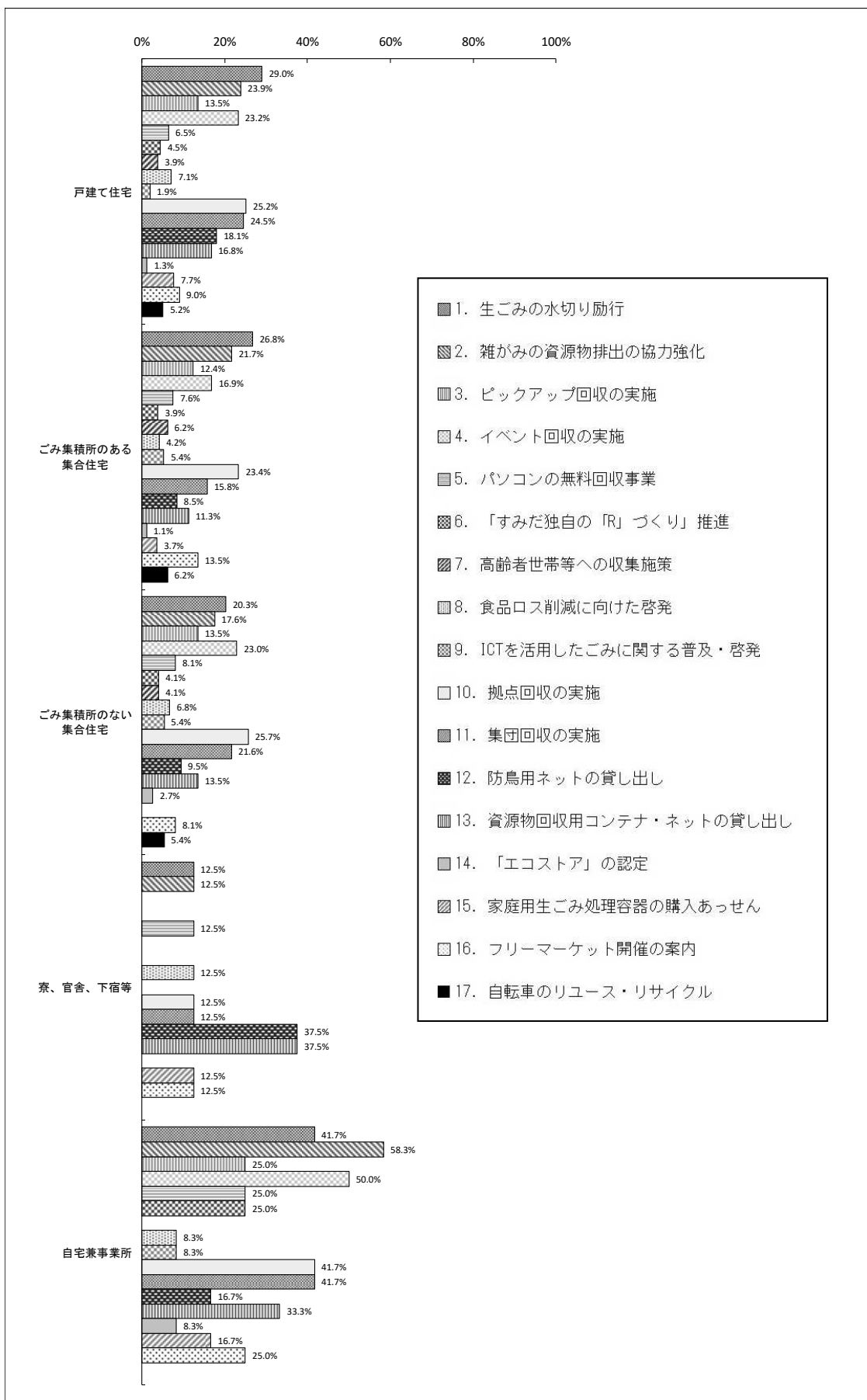


図 2.3.85 区の施策の認知度（居住形態別）

(2) 施策への協力

施策への協力についてみると、全体的に「無回答」の割合が高くなっている。

ア) 生ごみの水切り励行

生ごみの水切り励行への協力についてみると、「協力または利用している」が 54.8%と最も割合が高く、次いで「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が 19.6%、「協力または利用したことはないが、今後もしたくない」が 2.1%の順となっている。

表 2.3.20 生ごみの水切り励行への協力

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	332	54.8%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	119	19.6%
3. 協力または利用したことはないが、今後もしたくない	13	2.1%
4. その他	7	1.2%
無回答	135	22.3%
合計	606	100%

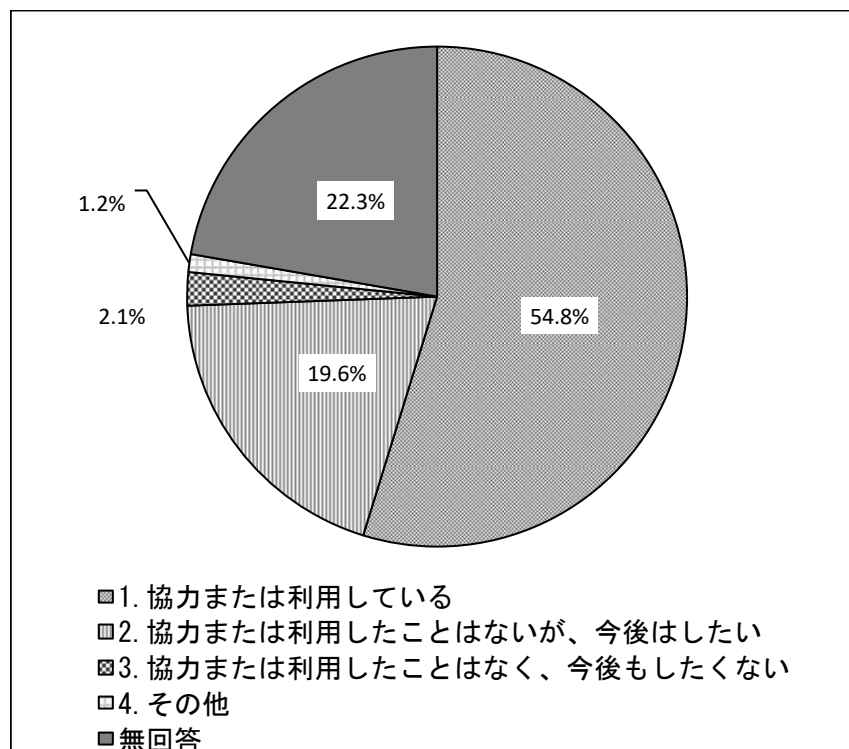


図 2.3.86 生ごみの水切り励行への協力

イ) 雑がみの資源物排出の協力強化

雑がみの資源物排出の協力強化への協力についてみると、「協力または利用している」が38.9%と最も割合が高く、次いで「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が31.8%、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が2.8%の順となっている。

表 2.3.21 雑がみの資源物排出の協力強化への協力

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	236	38.9%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	193	31.8%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	17	2.8%
4. その他	5	0.8%
無回答	155	25.6%
合計	606	100%

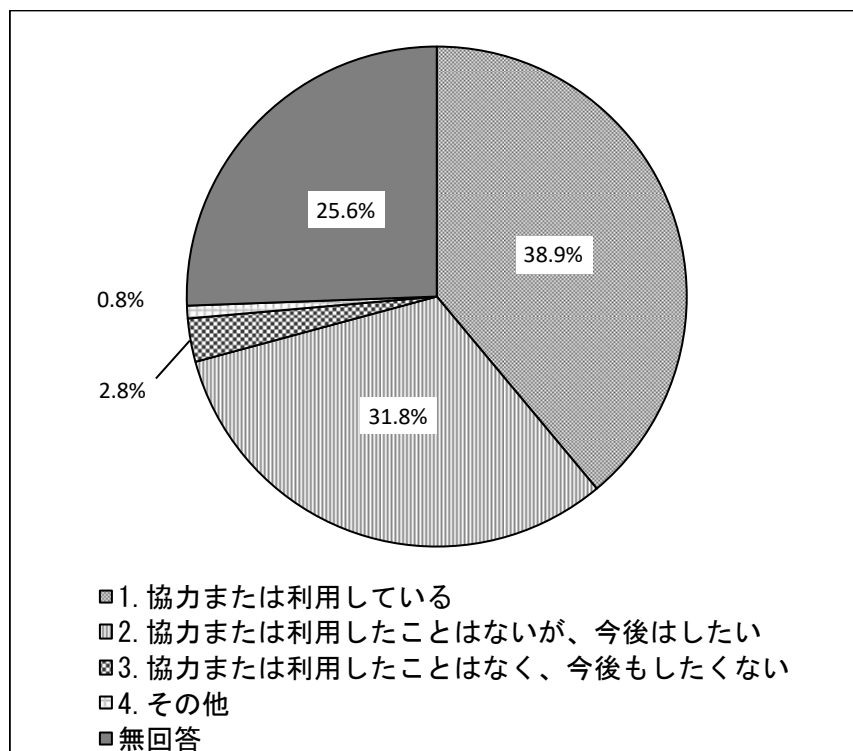


図 2.3.87 雑がみの資源物排出の協力強化への協力

ウ) ピックアップ回収の実施（不燃ごみから陶磁器・蛍光灯等を選別しリサイクルへ）

ピックアップ回収の実施への協力についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が43.7%と最も割合が高く、次いで「協力または利用している」が20.6%、「協力または利用したことはないが、今後もしたくない」が4.8%の順となっている。

表 2.3.22 ピックアップ回収の実施への協力

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	125	20.6%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	265	43.7%
3. 協力または利用したことはないが、今後もしたくない	29	4.8%
4. その他	5	0.8%
無回答	182	30.0%
合計	606	100%

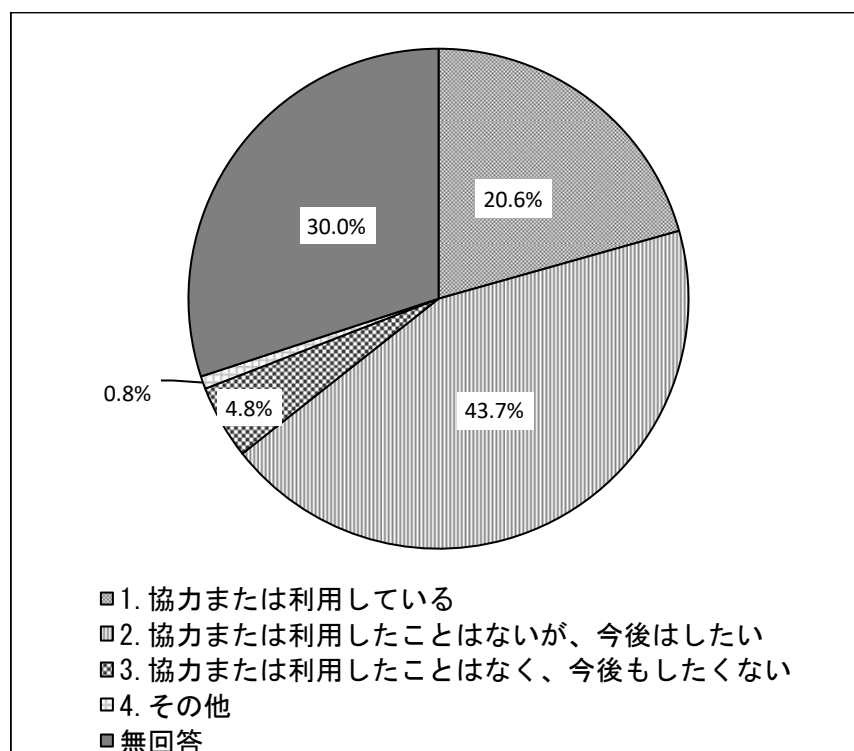


図 2.3.88 ピックアップ回収の実施への協力

エ) イベント回収の実施（古着や金属製調理器具の回収）

イベント回収の実施への協力・利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が47.5%と最も割合が高く、次いで「協力または利用している」が14.2%、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が8.4%の順となっている。

表 2.3.23 イベント回収の実施への協力・利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	86	14.2%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	288	47.5%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	51	8.4%
4. その他	8	1.3%
無回答	173	28.5%
合計	606	100%

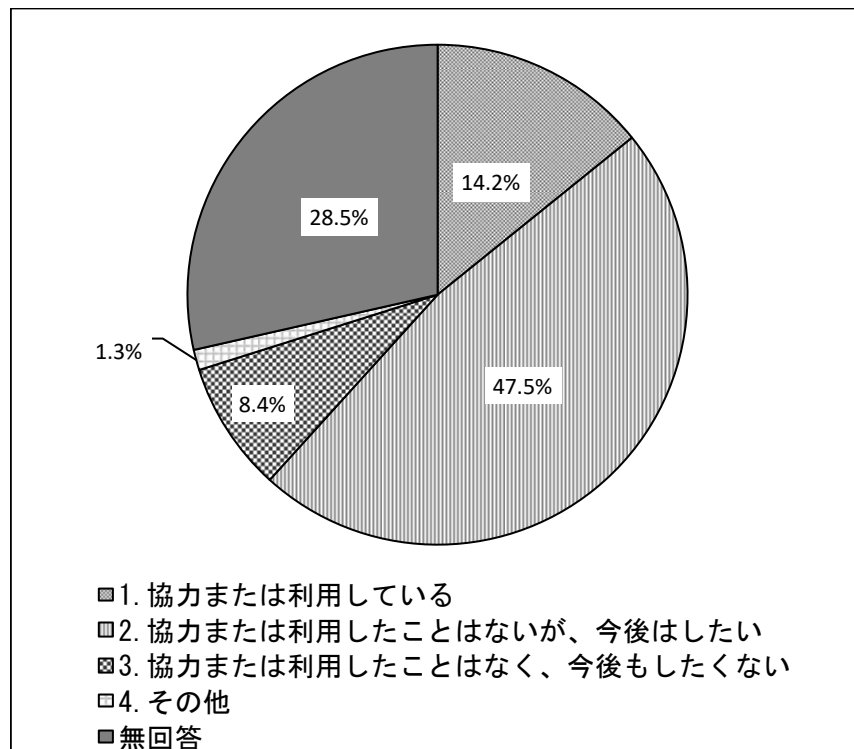


図 2.3.89 イベント回収の実施への協力・利用

オ) パソコンの無料回収事業

パソコンの無料回収事業への協力・利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が 53.5%と最も割合が高く、次いで「協力または利用したことはないが、今後もしたくない」が 6.4%、「協力または利用している」が 5.8%の順となっている。

表 2.3.24 パソコンの無料回収事業への協力・利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	35	5.8%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	324	53.5%
3. 協力または利用したことはないが、今後もしたくない	39	6.4%
4. その他	21	3.5%
無回答	187	30.9%
合計	606	100%

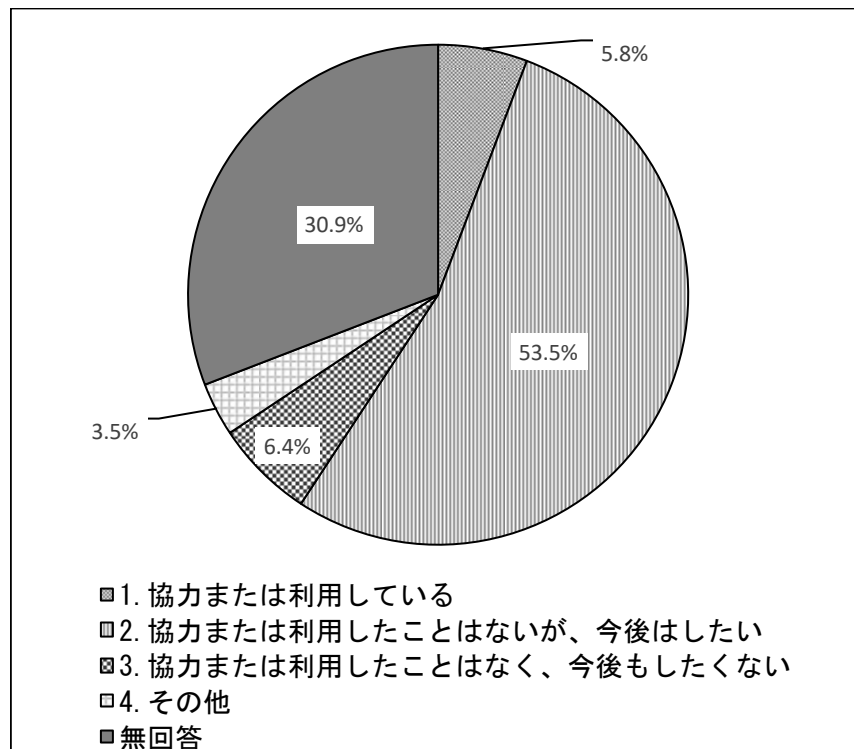


図 2.3.90 パソコンの無料回収事業への協力・利用

カ) 「すみだ独自の「R」づくり」推進

「すみだ独自の「R」づくり」推進への協力についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が46.7%と最も割合が高く、次いで「その他」が6.3%、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が5.1%の順となっており、施策の認知度は低いですが、協力したいという回答が多くなっている。

「その他」の回答としては、「知らなかった」という回答等がみられた。

表 2.3.25 「すみだ独自の「R」づくり」推進への協力

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	30	5.0%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	283	46.7%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	31	5.1%
4. その他	38	6.3%
無回答	224	37.0%
合計	606	100%

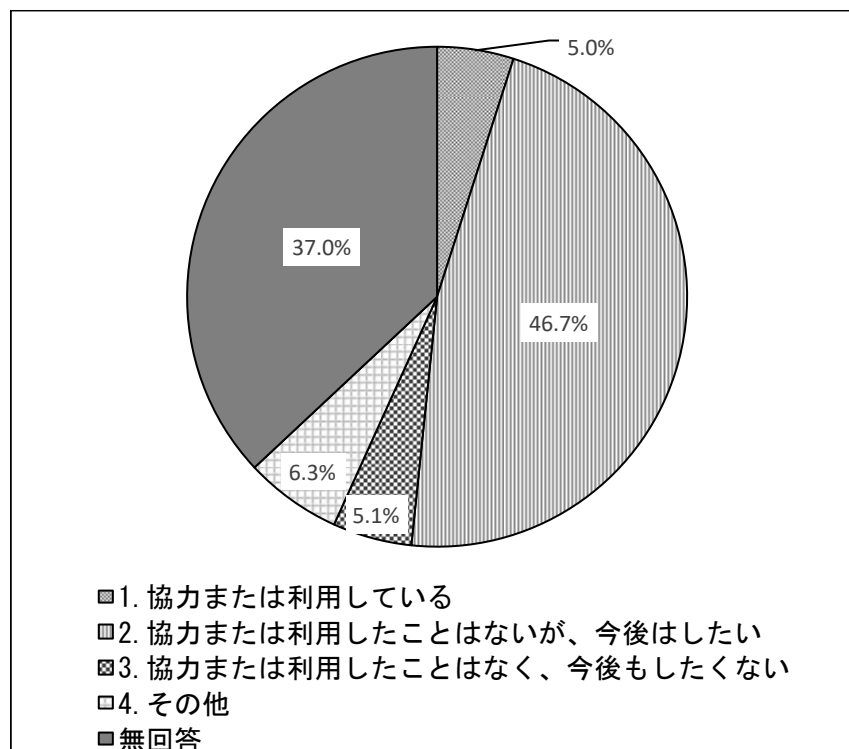


図 2.3.91 「すみだ独自の「R」づくり」推進への協力

キ) 高齢者世帯等への収集施策（ふれあい収集・粗大ごみ運びだし事業）

高齢者世帯等への収集施策への協力・利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が48.8%と最も割合が高く、次いで「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が10.4%、「その他」が4.1%の順となっている。

「その他」の回答としては、「知らなかった」という回答がみられた。

表 2.3.26 高齢者世帯等への収集施策への協力・利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	13	2.1%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	296	48.8%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	63	10.4%
4. その他	25	4.1%
無回答	209	34.5%
合計	606	100%

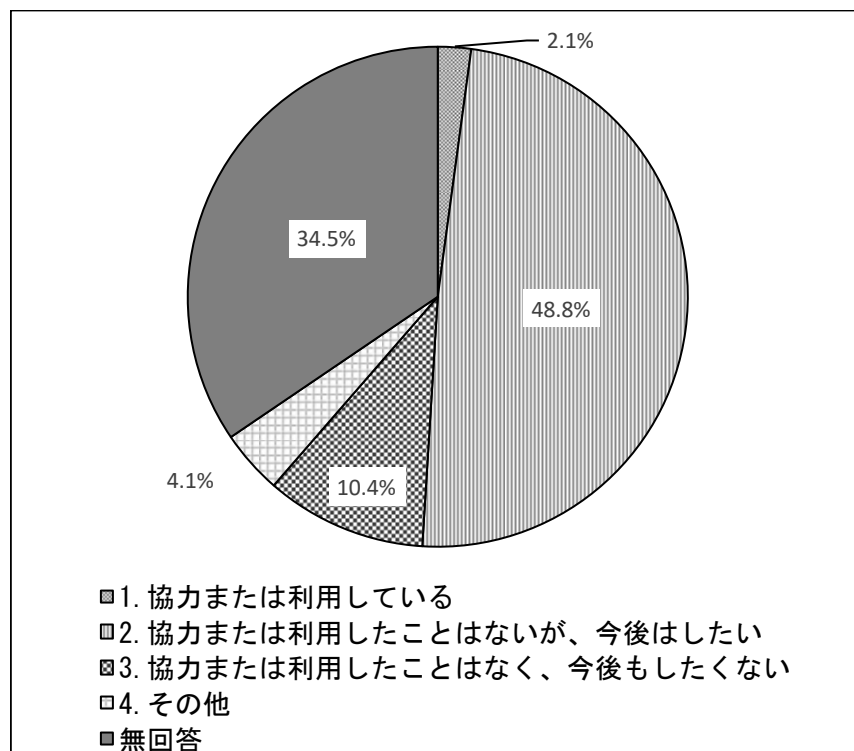


図 2.3.92 高齢者世帯等への収集施策への協力・利用

ク) 食品ロス削減に向けた啓発（フードドライブ、食べ切り推奨店の認定等）

食品ロス削減に向けた啓発への協力についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が 49.5%と最も割合が高く、次いで「協力または利用している」が 6.9%、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が 5.9%、の順となっている。

表 2.3.27 食品ロス削減に向けた啓発への協力

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	42	6.9%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	300	49.5%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	36	5.9%
4. その他	16	2.6%
無回答	212	35.0%
合計	606	100%

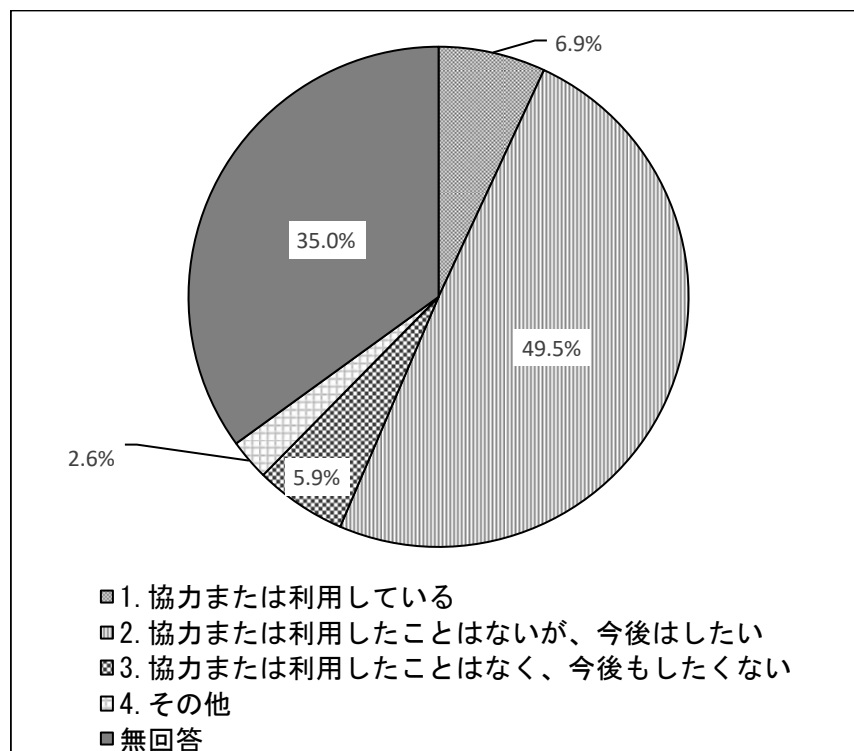


図 2.3.93 食品ロス削減に向けた啓発への協力

ケ) ICT を活用したごみに関する普及・啓発（チャットボット等）

ICT を活用したごみに関する普及・啓発（チャットボット等）の利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が 45.5%と最も割合が高く、次いで「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が 8.9%、「その他」が 5.8%の順となっている。

「その他」の回答としては、「知らなかった」という回答がみられた。

表 2.3.28 ICT を活用したごみに関する普及・啓発（チャットボット等）の利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	25	4.1%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	276	45.5%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	54	8.9%
4. その他	35	5.8%
無回答	216	35.6%
合計	606	100%

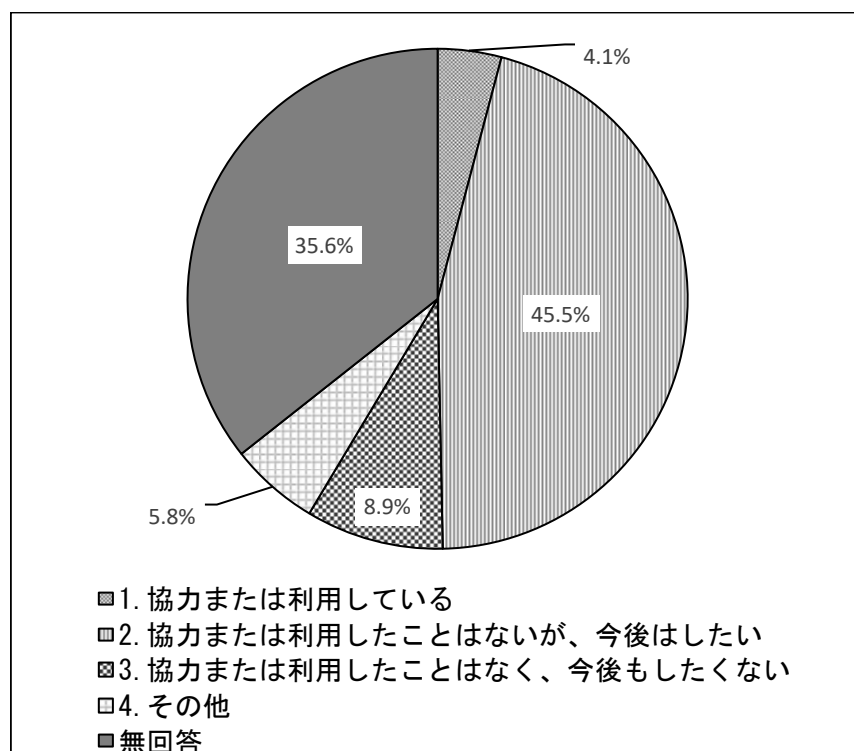


図 2.3.94 ICT を活用したごみに関する普及・啓発（チャットボット等）の利用

コ) 拠点回収の実施（乾電池や廃食油、小型家電等）

拠点回収の実施（乾電池や廃食油、小型家電等）への協力・利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が39.4%と最も割合が高く、次いで「協力または利用している」が27.6%、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が4.3%の順となっている。

表 2.3.29 拠点回収の実施（乾電池や廃食油、小型家電等）への協力・利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	167	27.6%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	239	39.4%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	26	4.3%
4. その他	8	1.3%
無回答	166	27.4%
合計	606	100%

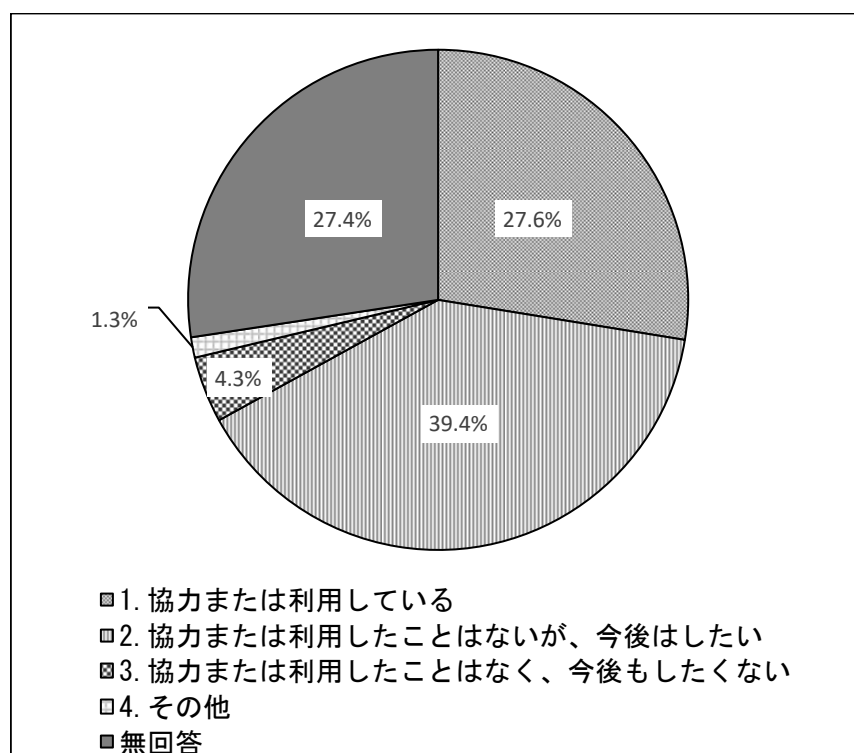


図 2.3.95 拠点回収の実施（乾電池や廃食油、小型家電等）への協力・利用

サ) 集団回収の実施

集団回収の実施への協力についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が35.0%と最も割合が高く、次いで「協力または利用している」が22.6%、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が7.3%の順となっている。

表 2.3.30 集団回収の実施への協力

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	137	22.6%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	212	35.0%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	44	7.3%
4. その他	19	3.1%
無回答	194	32.0%
合計	606	100%

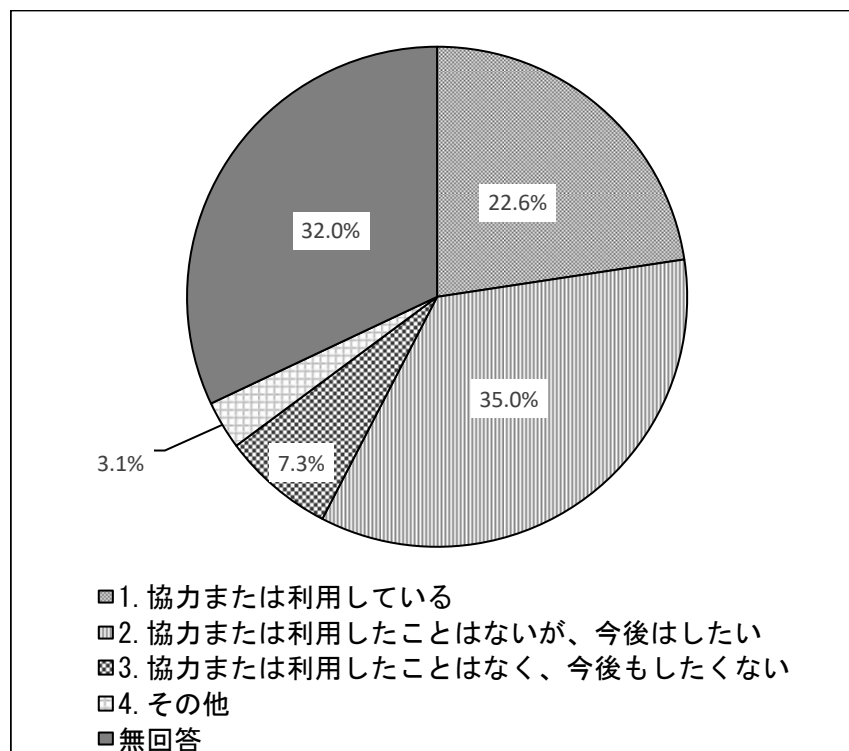


図 2.3.96 集団回収の実施への協力

シ) 防鳥用ネットの貸し出し

防鳥用ネットの貸し出しの利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が36.3%と最も割合が高く、次いで、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が14.4%、「協力または利用している」が10.2%の順となっている。

表 2.3.31 防鳥用ネットの貸し出しの利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	62	10.2%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	220	36.3%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	87	14.4%
4. その他	27	4.5%
無回答	210	34.7%
合計	606	100%

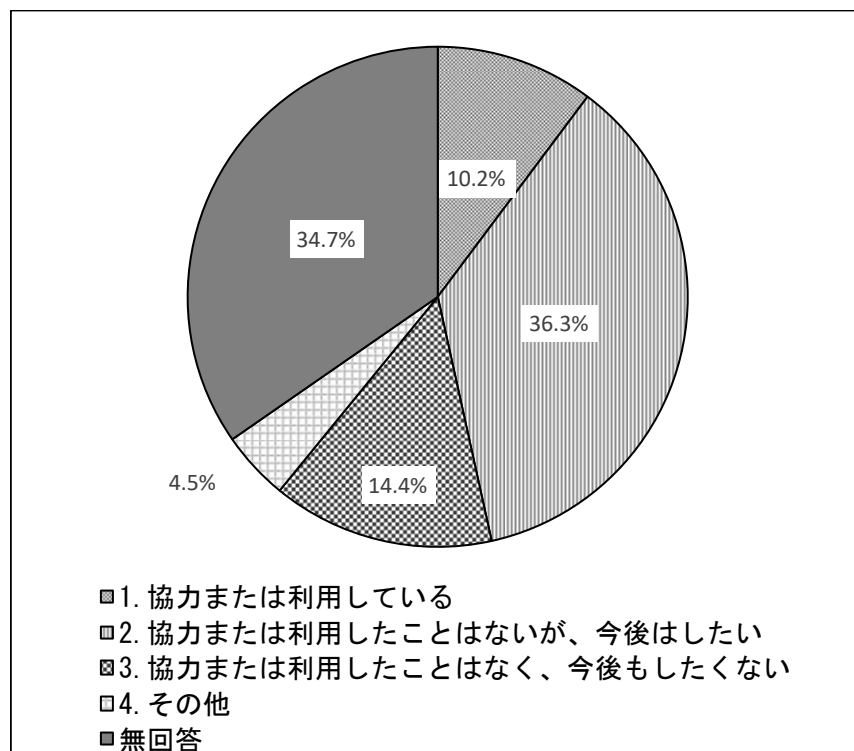


図 2.3.97 防鳥用ネットの貸し出しの利用

ス) 資源物回収用コンテナ・ネットの貸し出し

資源物回収用コンテナ・ネットの貸し出しの利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が 32.7%と最も割合が高く、次いで、「協力または利用している」が 19.5%、「協力または利用したことはないが、今後もしたくない」が 9.9%の順となっている。

表 2.3.32 資源物回収用コンテナ・ネットの貸し出しの利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	118	19.5%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	198	32.7%
3. 協力または利用したことはないが、今後もしたくない	60	9.9%
4. その他	19	3.1%
無回答	211	34.8%
合計	606	100%

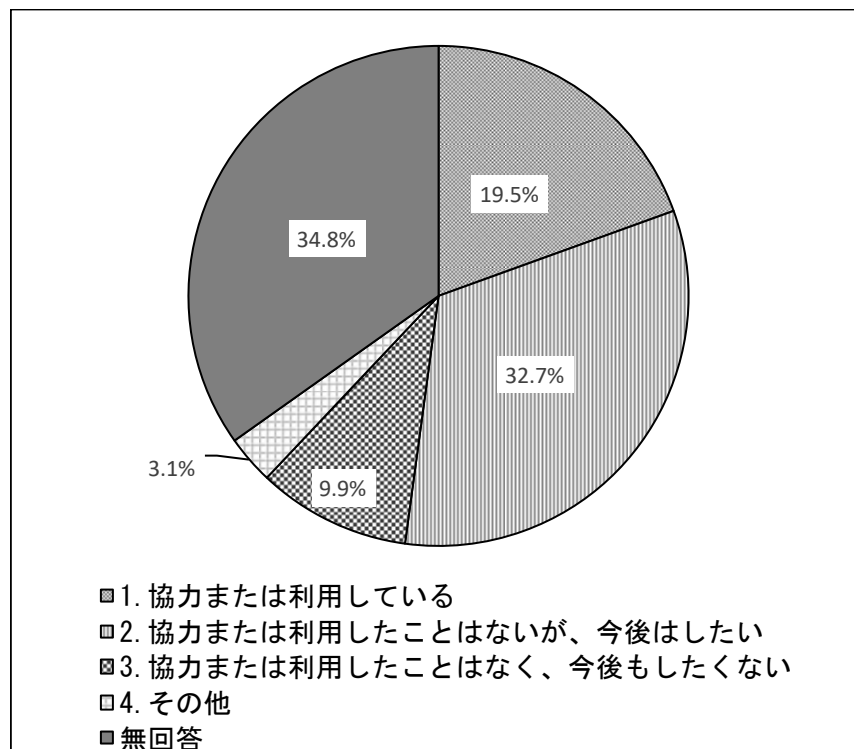


図 2.3.98 資源物回収用コンテナ・ネットの貸し出しの利用

セ) 「エコストア」の認定

「エコストア」の認定への協力・利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が45.5%と最も割合が高く、次いで、「協力または利用したことはないが、今後もしたくない」が9.4%、「その他」が5.6%の順となっている。

「その他」としては、「認定制度を知らなかった。」という回答がほとんどであった。

表 2.3.33 「エコストア」の認定への協力・利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	13	2.1%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	276	45.5%
3. 協力または利用したことはないが、今後もしたくない	57	9.4%
4. その他	34	5.6%
無回答	226	37.3%
合計	606	100%

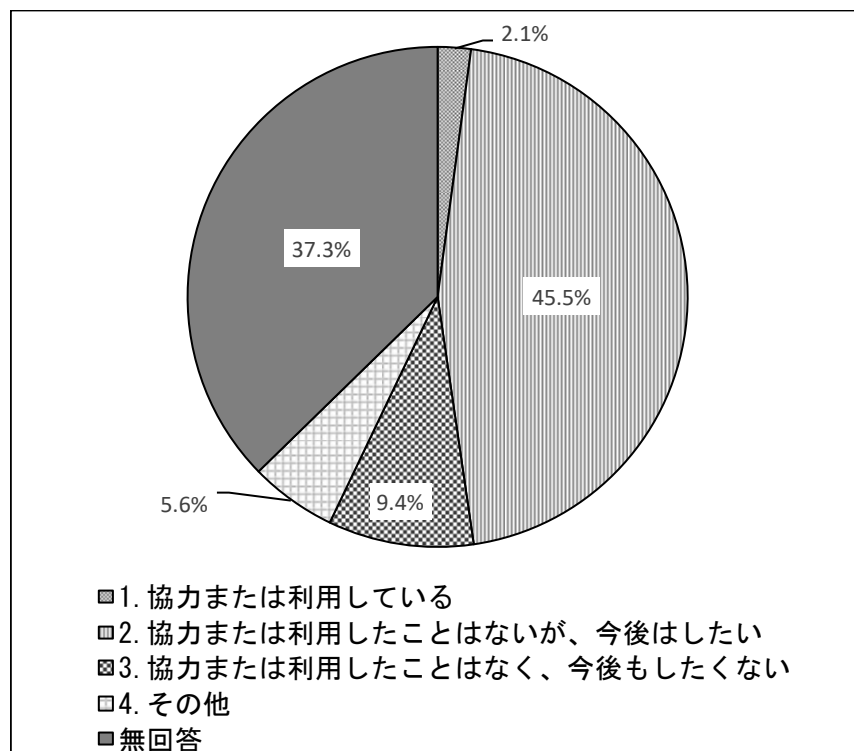


図 2.3.99 「エコストア」の認定への協力・利用

ソ) 家庭用生ごみ処理容器の購入あっせん

家庭用生ごみ処理容器の購入あっせんへの協力・利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が 37.6%と最も割合が高く、次いで、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が 21.8%、「その他」が 3.3%の順となっており、施策の認知度は低い、協力したいという回答が多くなっている。

「その他」の回答としては、「知らなかった」という回答等がみられた。

表 2.3.34 家庭用生ごみ処理容器の購入あっせんへの協力・利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	9	1.5%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	228	37.6%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	132	21.8%
4. その他	20	3.3%
無回答	217	35.8%
合計	606	100%

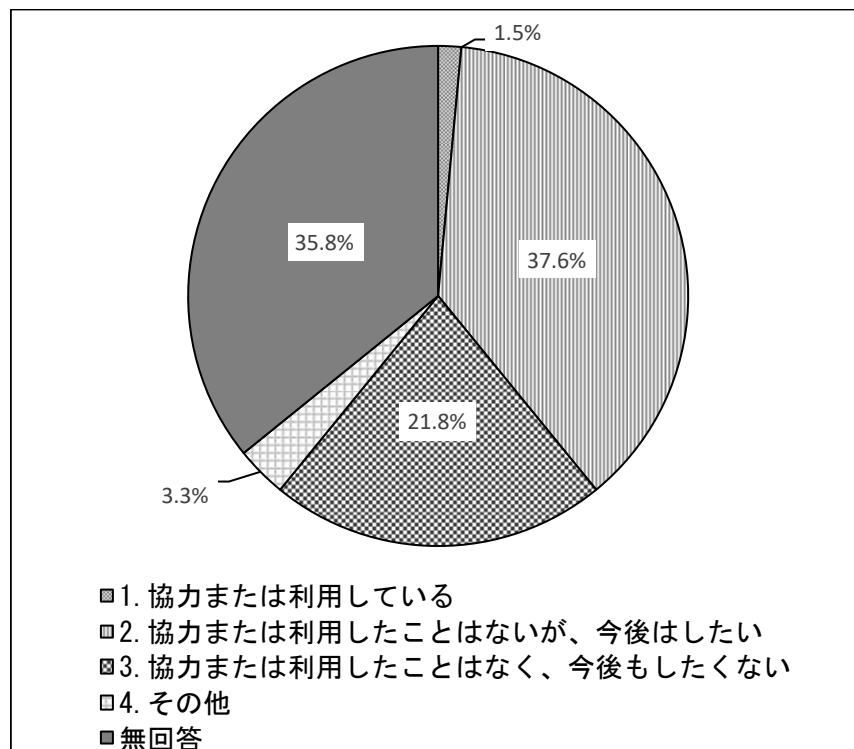


図 2.3.100 家庭用生ごみ処理容器の購入あっせんへの協力・利用

タ) フリーマーケット開催の案内

フリーマーケット開催の案内の協力・利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が 42.2%と最も割合が高く、次いで、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が 18.6%、「協力または利用している」が 5.3%の順となっている。

表 2.3.35 フリーマーケット開催の案内の協力・利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	32	5.3%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	256	42.2%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	113	18.6%
4. その他	9	1.5%
無回答	196	32.3%
合計	606	100%

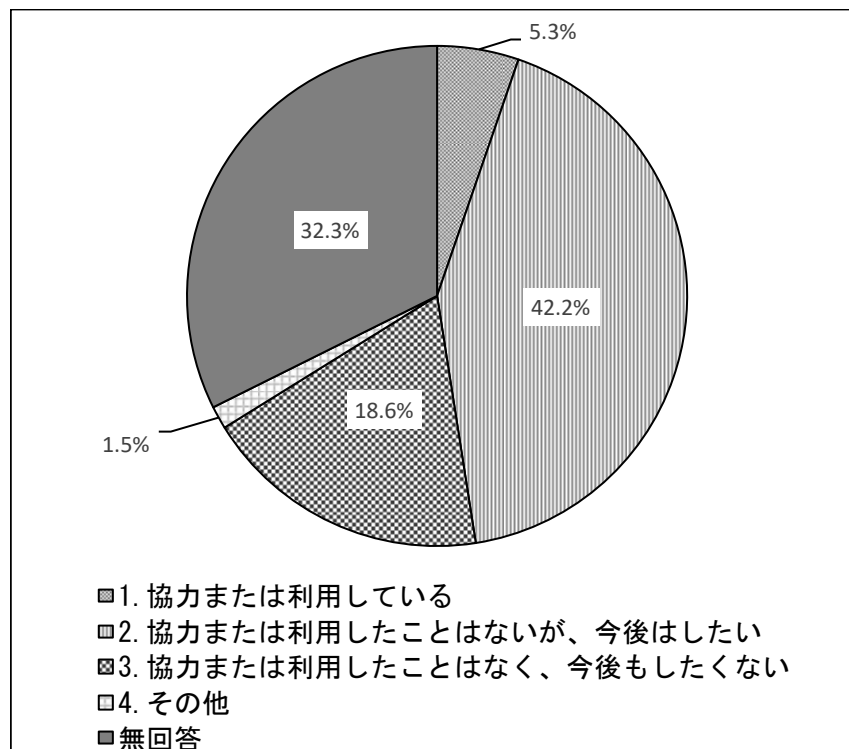


図 2.3.101 フリーマーケット開催の案内の協力・利用

チ) 自転車のリユース・リサイクル（海外供与）

自転車のリユース・リサイクル（海外供与）への協力・利用についてみると、「協力または利用したことはないが、今後はしたい」が 48.2%と最も割合が高く、次いで、「協力または利用したことはなく、今後もしたくない」が 11.4%、「協力または利用している」が 4.0%の順となっている。

表 2.3.36 自転車のリユース・リサイクル（海外供与）への協力・利用

項目	回答数	割合
1. 協力または利用している	24	4.0%
2. 協力または利用したことはないが、今後はしたい	292	48.2%
3. 協力または利用したことはなく、今後もしたくない	69	11.4%
4. その他	15	2.5%
無回答	206	34.0%
合計	606	100%

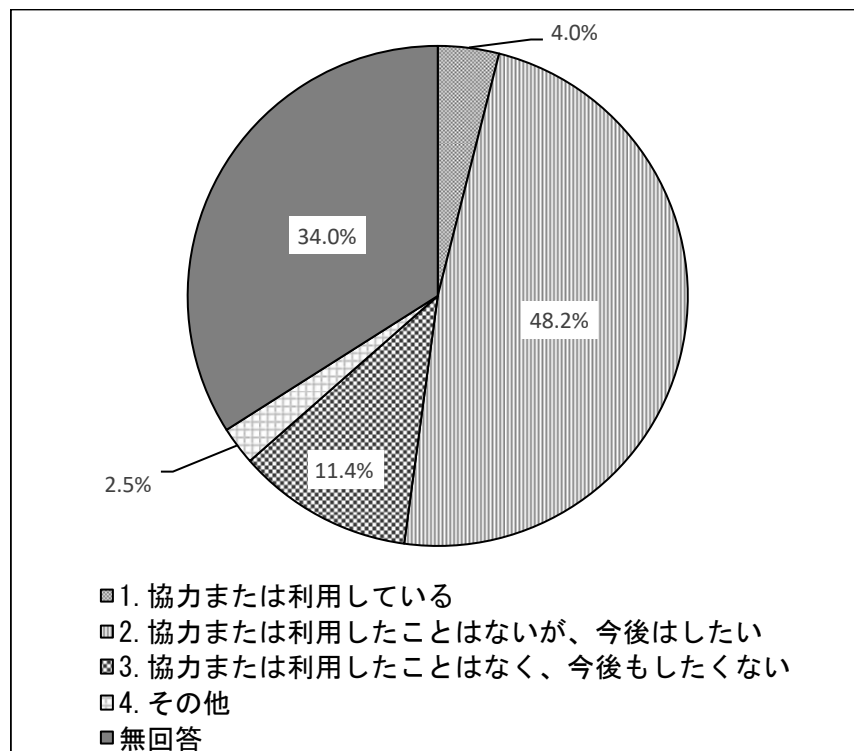


図 2.3.102 自転車のリユース・リサイクル（海外供与）への協力・利用

2.3.12 問11 ごみの分別に関する問題

(1) 燃やすごみ（生ごみ・プラスチック類を含む）

燃やすごみ（生ごみ・プラスチック類を含む）の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が91.3%と最も割合が高く、次いで「分別して出すのに手間がかかる。」が1.2%、「複数の素材があるため、分別できない。」が0.8%の順であった。

表 2.3.37 燃やすごみ（生ごみ・プラスチック類を含む）の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	553	91.3%
2. 分別区分が分からない。	3	0.5%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	7	1.2%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	5	0.8%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	1	0.2%
6. 保管しておく場所がない。	0	0.0%
7. ごみとして出していない。	0	0.0%
8. その他	2	0.3%
無回答	40	6.6%
合計	611	-

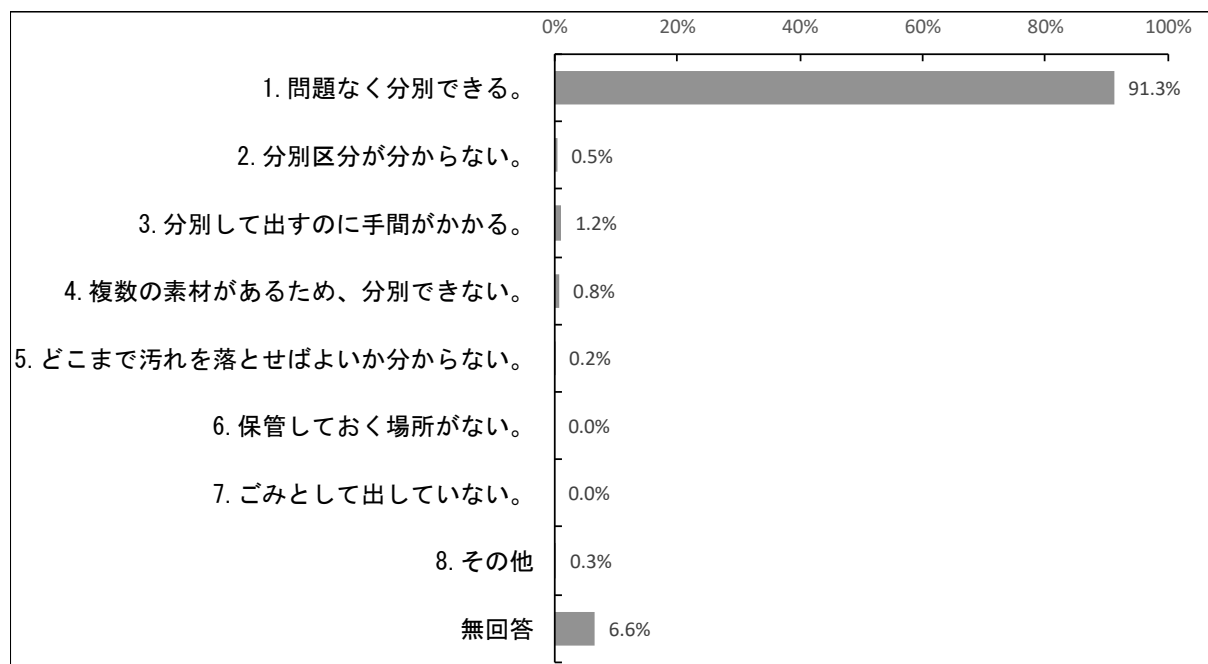


図 2.3.103 燃やすごみ（生ごみ・プラスチック類を含む）の分別に関する問題

(2) 燃やさないごみ

燃やさないごみの分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が75.6%と最も割合が高く、次いで「分別区分が分からない。」が11.7%、「複数の素材があるため、分別できない。」が3.1%の順であり、「分別区分が分からない。」の割合が他の項目と比較してやや高くなっている。

表 2.3.38 燃やさないごみの分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	458	75.6%
2. 分別区分が分からない。	71	11.7%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	13	2.1%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	19	3.1%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	1	0.2%
6. 保管しておく場所がない。	2	0.3%
7. ごみとして出していない。	2	0.3%
8. その他	2	0.3%
無回答	45	7.4%
合計	613	-

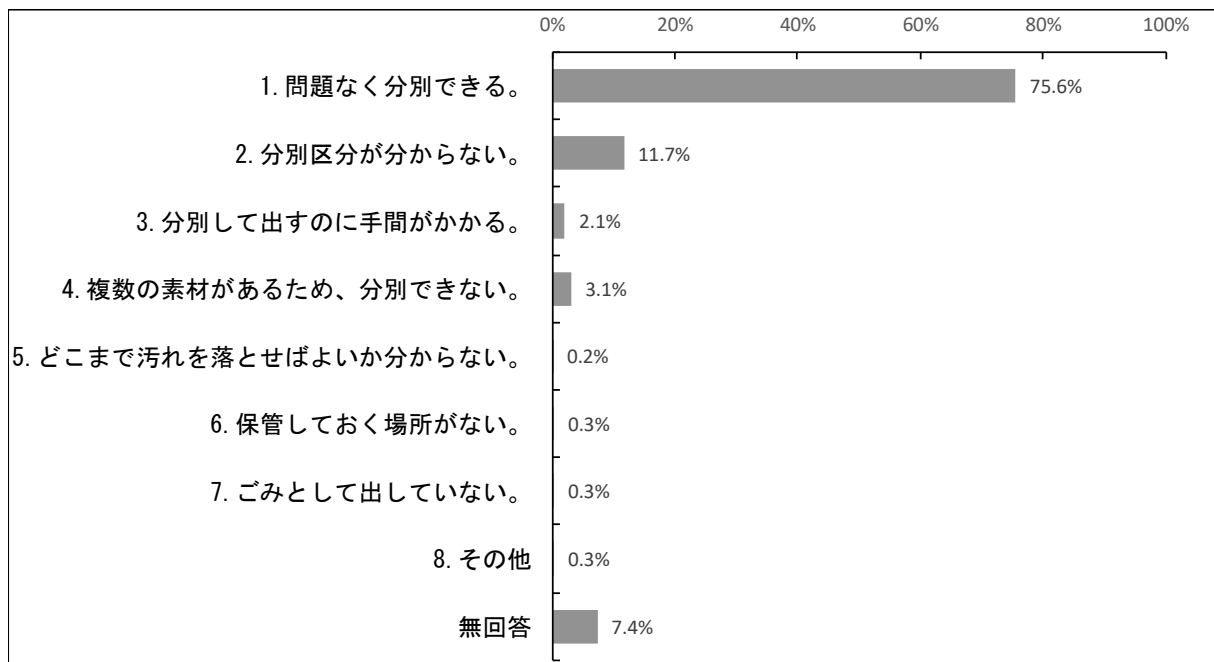


図 2.3.104 燃やさないごみの分別に関する問題

(3) 古紙（新聞・段ボール・紙パック・雑誌・雑がみ）

古紙（新聞・段ボール・紙パック・雑誌・雑がみ）の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が83.8%と最も割合が高く、次いで「分別して出すのに手間がかかる。」が7.8%、「分別区分が分からない。」が2.0%の順であった。

表 2.3.39 古紙（新聞・段ボール・紙パック・雑誌・雑がみ）の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	508	83.8%
2. 分別区分が分からない。	12	2.0%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	47	7.8%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	6	1.0%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	0	0.0%
6. 保管しておく場所がない。	3	0.5%
7. ごみとして出していない。	8	1.3%
8. その他	0	0.0%
無回答	41	6.8%
合計	625	-

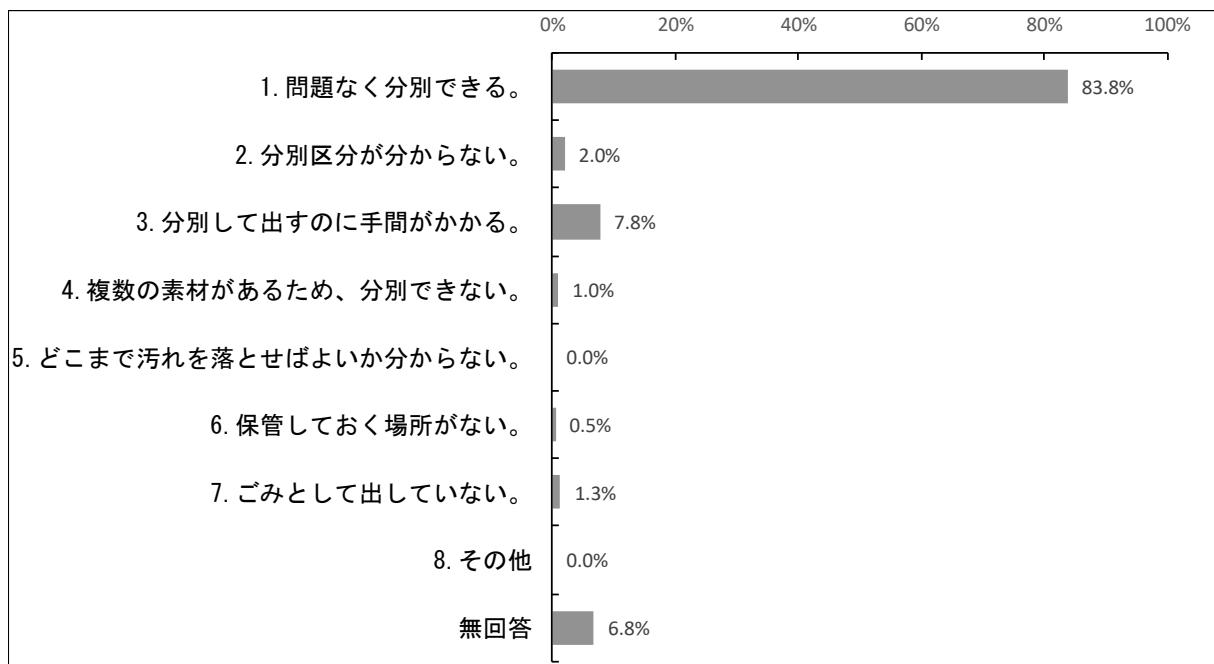


図 2.3.105 古紙（新聞・段ボール・紙パック・雑誌・雑がみ）の分別に関する問題

(4) 缶

缶の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が90.4%と最も割合が高く、次いで「分別して出すのに手間がかかる。」が2.1%、「どこまで汚れを落とせばよいか分からない。」が1.7%の順であった。

表 2.3.40 缶の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	548	90.4%
2. 分別区分が分からない。	2	0.3%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	13	2.1%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	1	0.2%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	10	1.7%
6. 保管しておく場所がない。	1	0.2%
7. ごみとして出していない。	6	1.0%
8. その他	0	0.0%
無回答	39	6.4%
合計	620	-

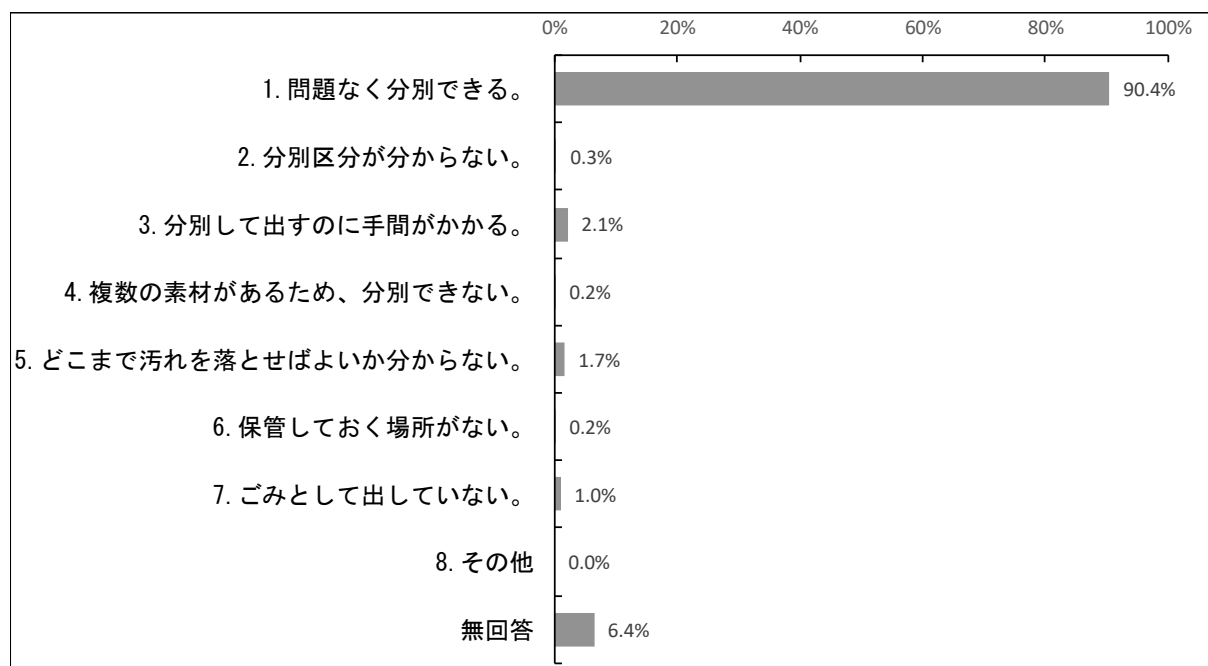


図 2.3.106 缶の分別に関する問題

(5) びん

びんの分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が89.8%と最も割合が高く、次いで「分別して出すのに手間がかかる。」が2.8%、「どこまで汚れを落とせばよいか分からない。」が2.1%の順であった。

表 2.3.41 びんの分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	544	89.8%
2. 分別区分が分からない。	2	0.3%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	17	2.8%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	1	0.2%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	13	2.1%
6. 保管しておく場所がない。	0	0.0%
7. ごみとして出していない。	5	0.8%
8. その他	1	0.2%
無回答	40	6.6%
合計	623	-

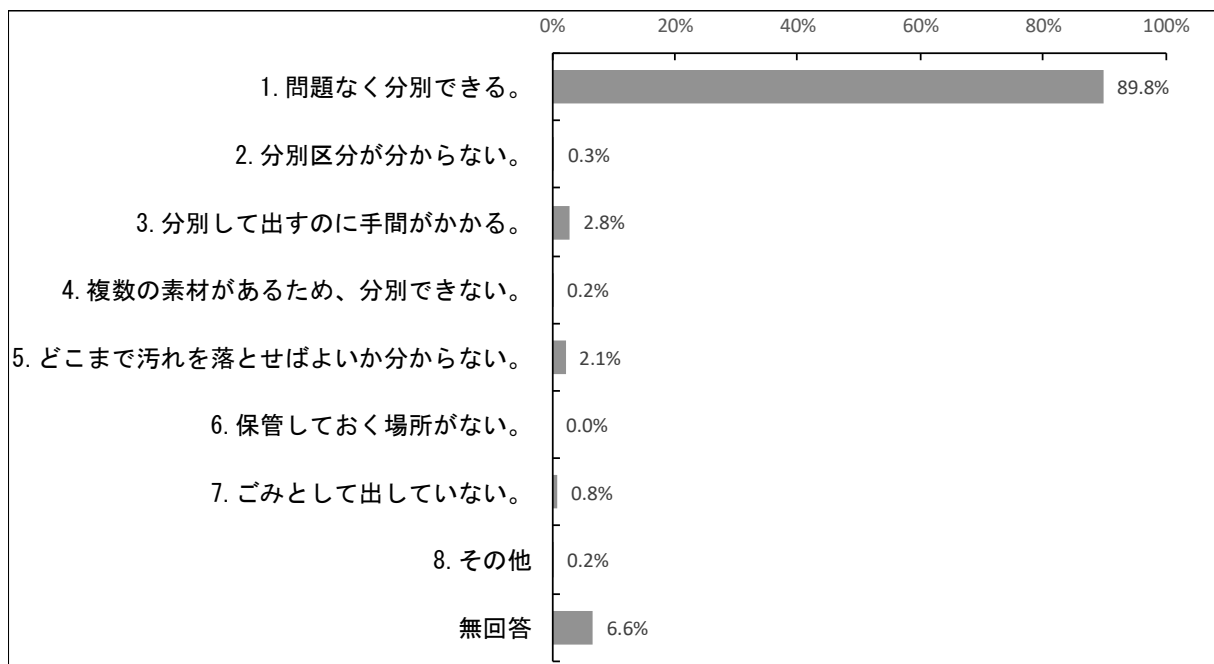


図 2.3.107 びんの分別に関する問題

(6) ペットボトル

ペットボトルの分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が89.8%と最も割合が高く、次いで「分別して出すのに手間がかかる。」が3.1%、「ごみとして出していない。」が1.3%の順であった。

表 2.3.42 ペットボトルの分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	544	89.8%
2. 分別区分が分からない。	2	0.3%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	19	3.1%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	1	0.2%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	7	1.2%
6. 保管しておく場所がない。	0	0.0%
7. ごみとして出していない。	8	1.3%
8. その他	1	0.2%
無回答	40	6.6%
合計	622	-

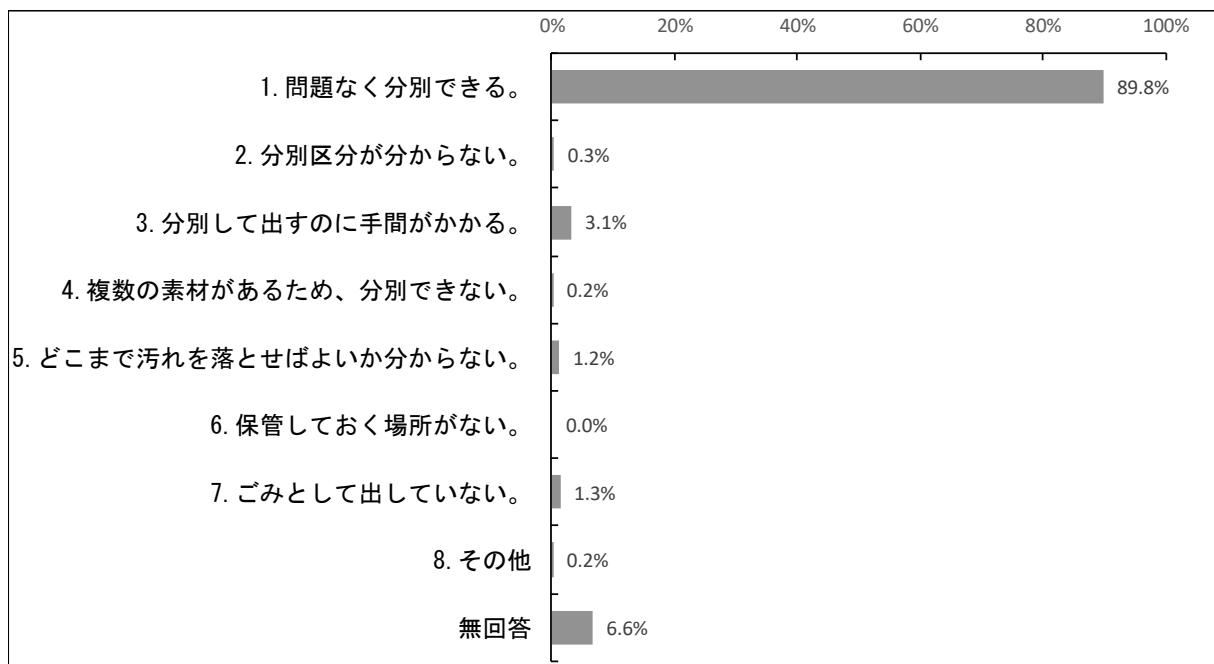


図 2.3.108 ペットボトルの分別に関する問題

(7) 食品トレー

食品トレーの分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が64.4%と最も割合が高く、次いで「分別して出すのに手間がかかる。」が16.2%、「分別区分が分からない。」が6.3%の順であった。

表 2.3.43 食品トレーの分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	390	64.4%
2. 分別区分が分からない。	38	6.3%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	98	16.2%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	9	1.5%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	31	5.1%
6. 保管しておく場所がない。	6	1.0%
7. ごみとして出していない。	14	2.3%
8. その他	7	1.2%
無回答	43	7.1%
合計	636	-

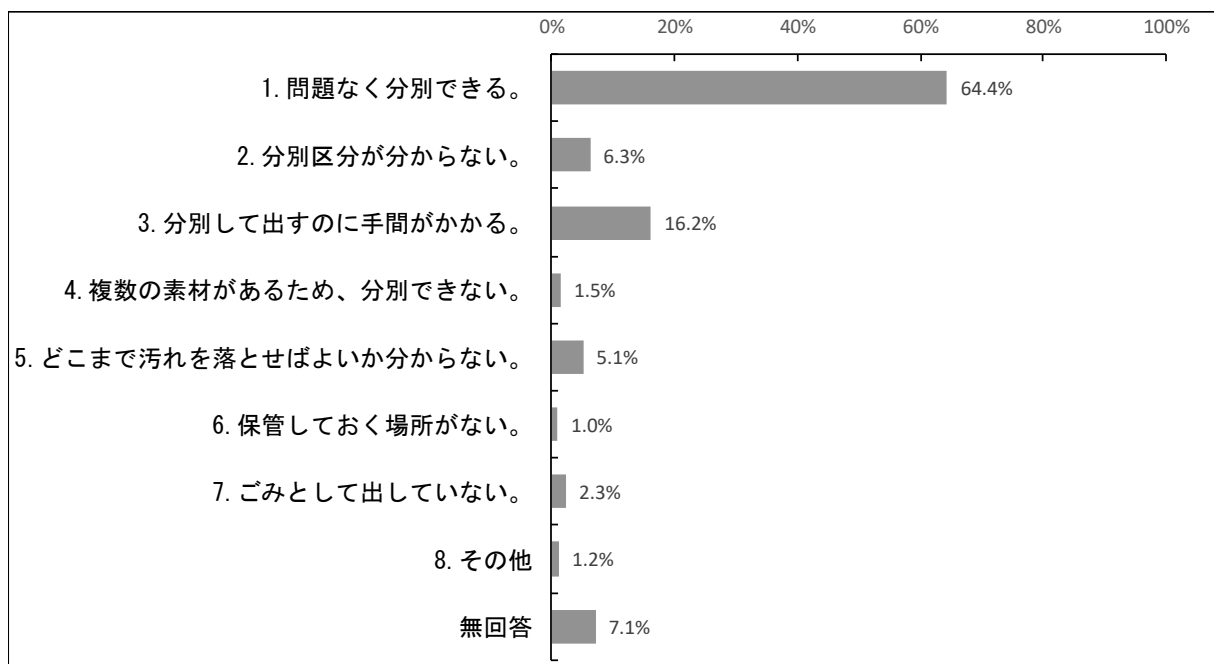


図 2.3.109 食品トレーの分別に関する問題

(8) 古布、古着

古布、古着の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が58.6%と最も割合が高く、次いで「分別区分が分からない。」が14.0%、「ごみとして出していない。」が7.3%の順であった。

表 2.3.44 古布、古着の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	355	58.6%
2. 分別区分が分からない。	85	14.0%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	26	4.3%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	17	2.8%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	7	1.2%
6. 保管しておく場所がない。	14	2.3%
7. ごみとして出していない。	44	7.3%
8. その他	15	2.5%
無回答	59	9.7%
合計	622	-

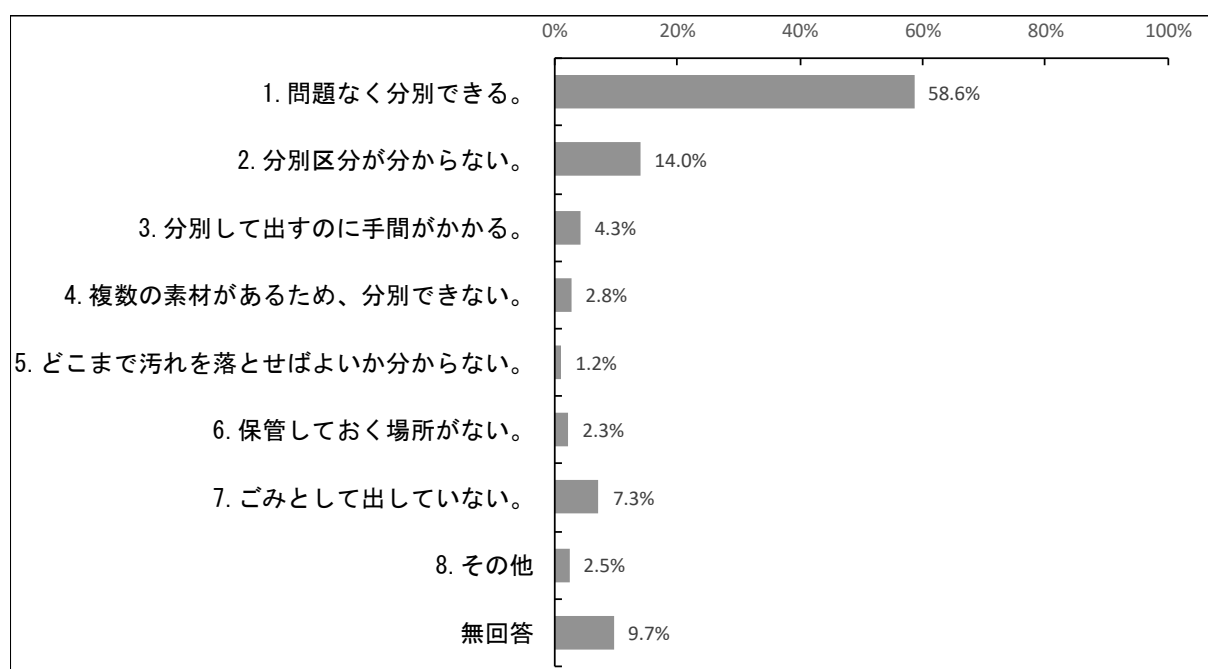


図 2.3.110 古布、古着の分別に関する問題

(9) 金属製調理器具（鍋・やかん・フライパン）

金属製調理器具（鍋・やかん・フライパン）の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が71.5%と最も割合が高く、次いで「分別区分が分からない。」が10.9%、「ごみとして出していない。」が5.0%の順であった。

表 2.3.45 金属製調理器具（鍋・やかん・フライパン）の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	433	71.5%
2. 分別区分が分からない。	66	10.9%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	6	1.0%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	15	2.5%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	1	0.2%
6. 保管しておく場所がない。	8	1.3%
7. ごみとして出していない。	30	5.0%
8. その他	5	0.8%
無回答	49	8.1%
合計	613	-

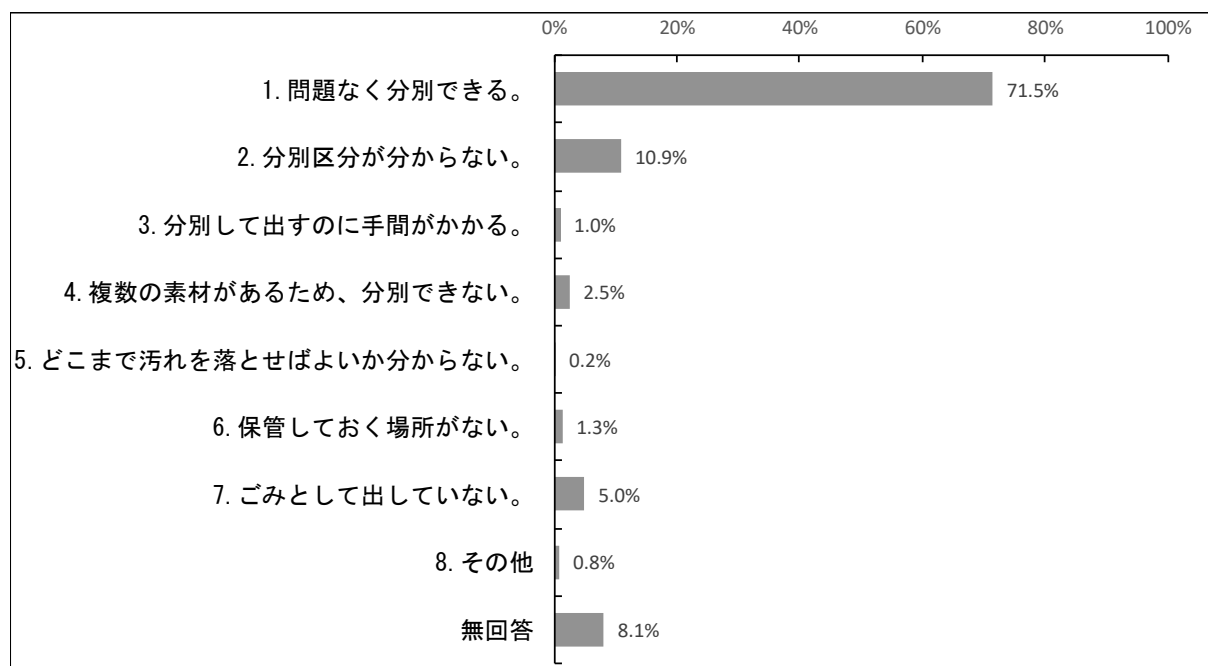


図 2.3.111 金属製調理器具（鍋・やかん・フライパン）の分別に関する問題

(10) 乾電池

乾電池の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が73.1%と最も割合が高く、次いで「分別区分が分からない。」が9.7%、「ごみとして出していない。」が5.6%の順であった。

表 2.3.46 乾電池の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	443	73.1%
2. 分別区分が分からない。	59	9.7%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	10	1.7%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	1	0.2%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	0	0.0%
6. 保管しておく場所がない。	6	1.0%
7. ごみとして出していない。	34	5.6%
8. その他	18	3.0%
無回答	47	7.8%
合計	618	-

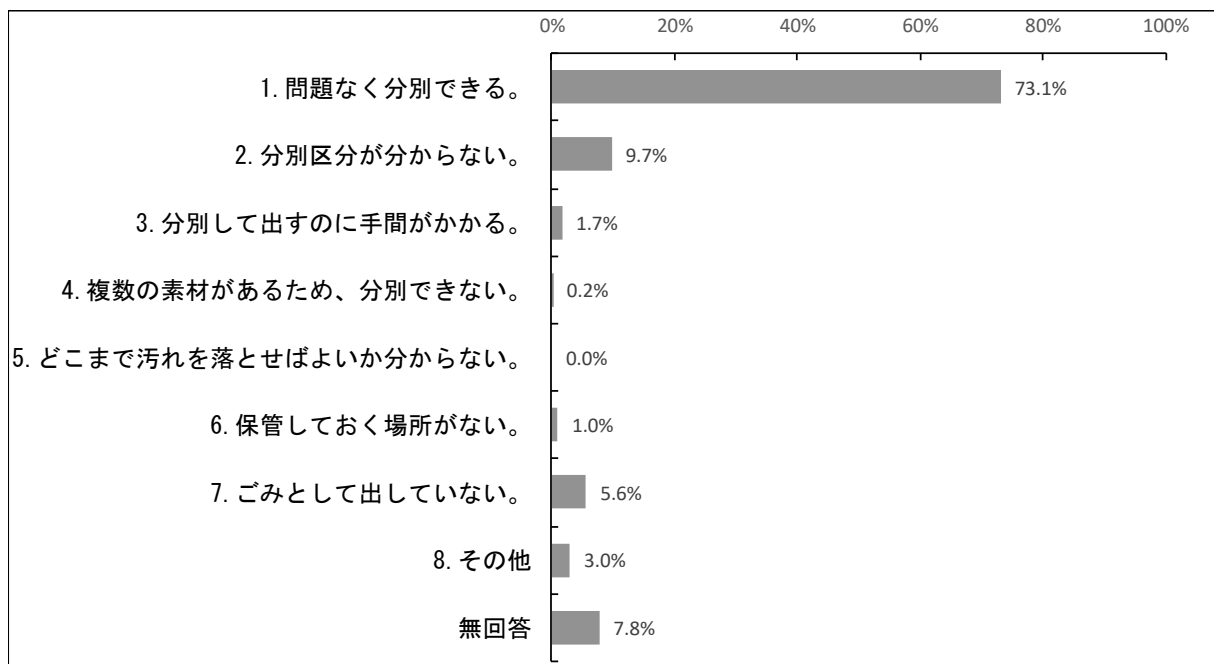


図 2.3.112 乾電池の分別に関する問題

(11) 廃食油（天ぷら油等の食用油）

廃食油（天ぷら油等の食用油）の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が45.0%と最も割合が高く、次いで「分別区分が分からない。」が14.4%、「ごみとして出していない。」が13.2%の順であり、他の項目と比較して「問題なく分別できる。」の割合が低くなっている。

表 2.3.47 廃食油（天ぷら油等の食用油）の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	273	45.0%
2. 分別区分が分からない。	87	14.4%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	47	7.8%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	2	0.3%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	5	0.8%
6. 保管しておく場所がない。	20	3.3%
7. ごみとして出していない。	80	13.2%
8. その他	38	6.3%
無回答	65	10.7%
合計	617	-

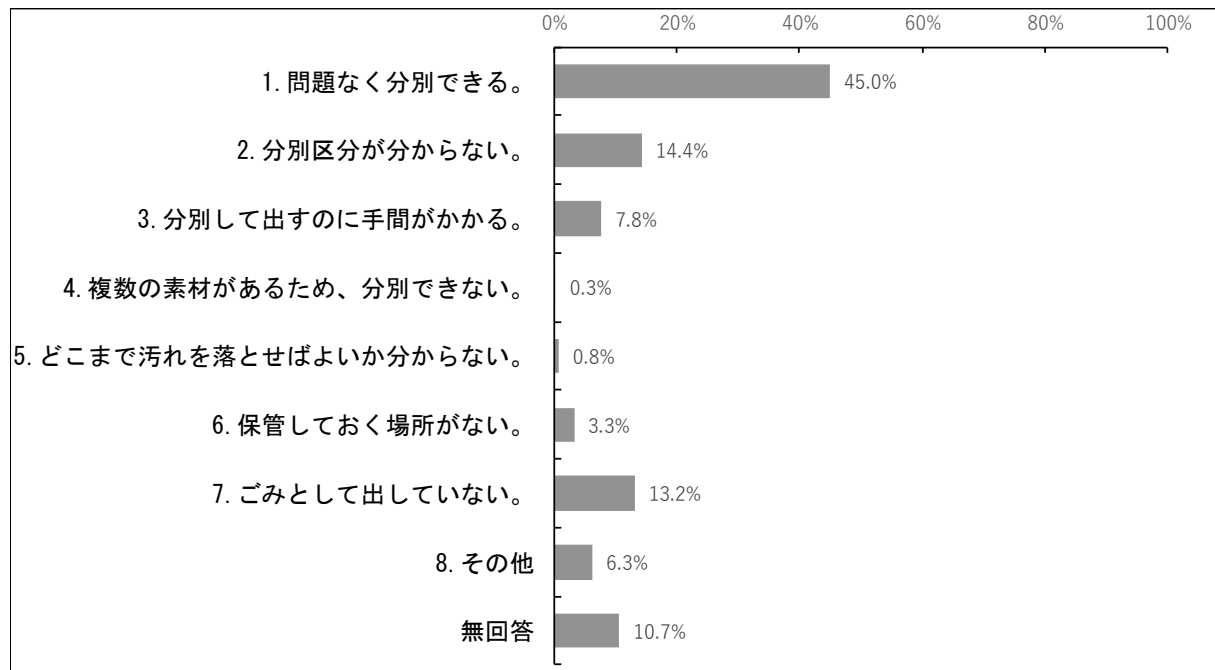


図 2.3.113 廃食油（天ぷら油等の食用油）の分別に関する問題

(12) 小型家電

小型家電の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が55.1%と最も割合が高く、次いで「分別区分が分からない。」が15.2%、「ごみとして出していない。」が13.0%の順であり、他の項目と比較して「問題なく分別できる。」の割合が低くなっている。

表 2.3.48 小型家電の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	334	55.1%
2. 分別区分が分からない。	92	15.2%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	10	1.7%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	17	2.8%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	0	0.0%
6. 保管しておく場所がない。	14	2.3%
7. ごみとして出していない。	79	13.0%
8. その他	21	3.5%
無回答	57	9.4%
合計	624	-

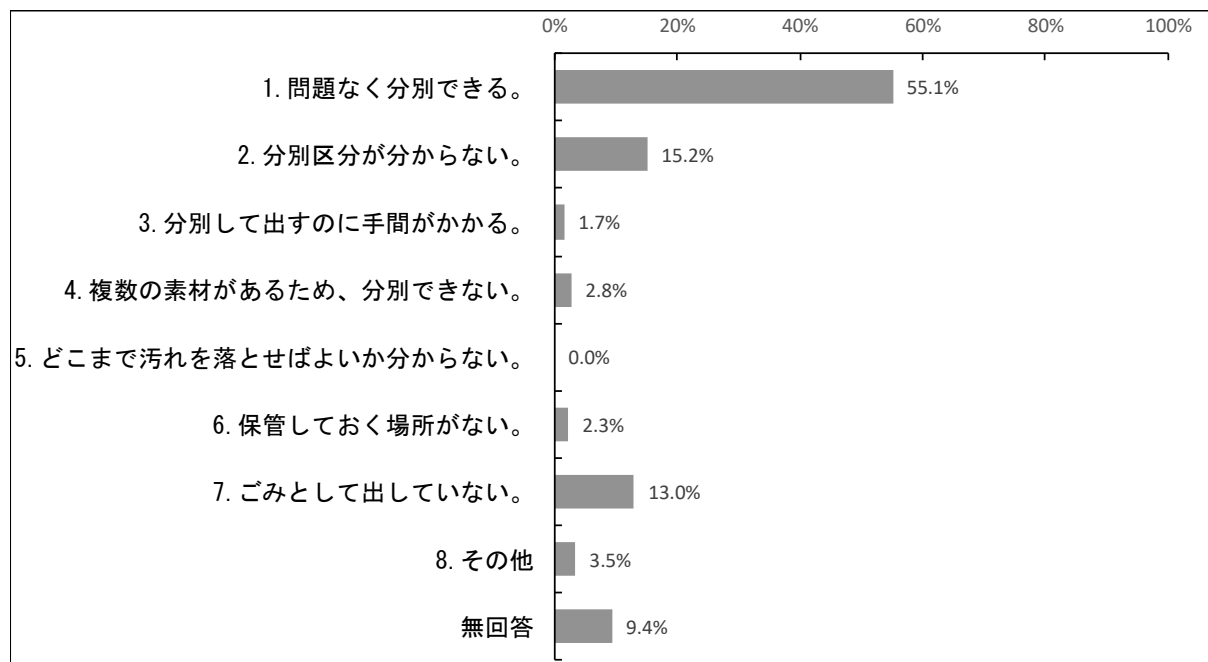


図 2.3.114 小型家電の分別に関する問題

(13) 粗大ごみ

粗大ごみの分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が70.6%と最も割合が高く、次いで「ごみとして出していない。」が8.3%、「分別区分が分からない。」が5.4%の順であった。

表 2.3.49 粗大ごみの分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	428	70.6%
2. 分別区分が分からない。	33	5.4%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	17	2.8%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	5	0.8%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	1	0.2%
6. 保管しておく場所がない。	19	3.1%
7. ごみとして出していない。	50	8.3%
8. その他	16	2.6%
無回答	50	8.3%
合計	619	-

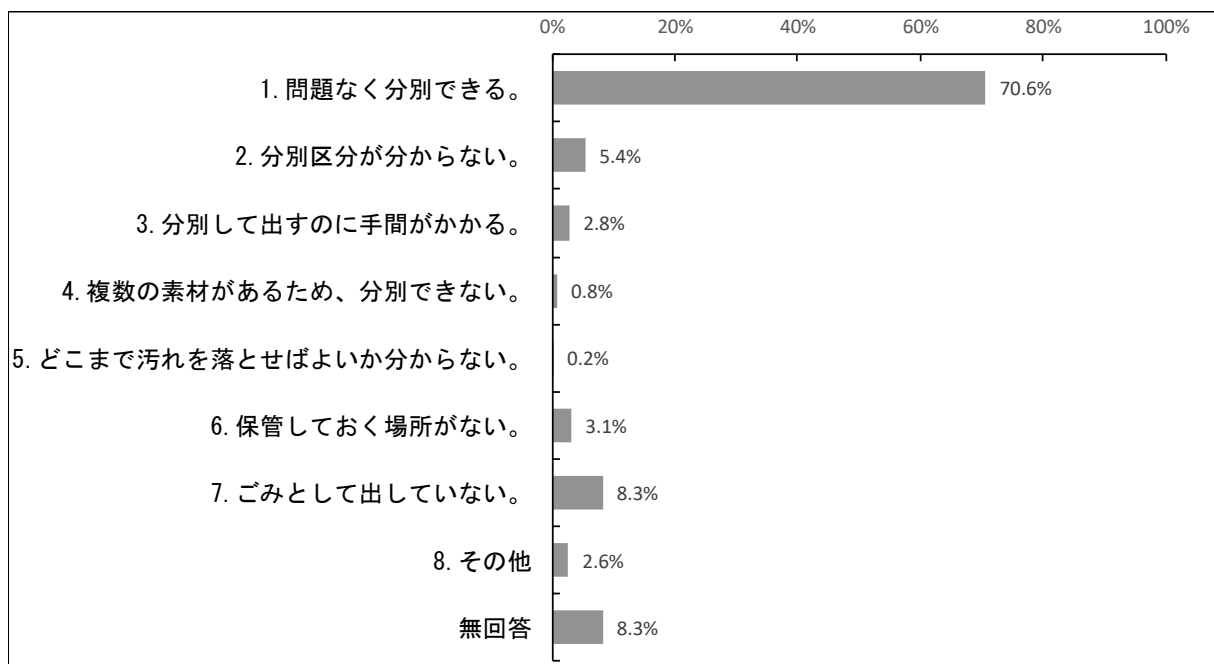


図 2.3.115 粗大ごみの分別に関する問題

(14) 家電リサイクル法対象品

家電リサイクル法対象品の分別に関する問題についてみると、「問題なく分別できる。」が59.1%と最も割合が高く、次いで「ごみとして出していない。」が16.2%、「その他」が5.6%の順であり、他の項目と比較して「問題なく分別できる。」の割合が低くなっている。

「その他」の回答としては、「新しい家電の購入時に引き取ってもらう」等の回答がみられた。

表 2.3.50 家電リサイクル法対象品の分別に関する問題

項目	回答数	割合
1. 問題なく分別できる。	358	59.1%
2. 分別区分が分からない。	32	5.3%
3. 分別して出すのに手間がかかる。	10	1.7%
4. 複数の素材があるため、分別できない。	3	0.5%
5. どこまで汚れを落とせばよいか分からない。	1	0.2%
6. 保管しておく場所がない。	17	2.8%
7. ごみとして出していない。	98	16.2%
8. その他	34	5.6%
無回答	65	10.7%
合計	618	-

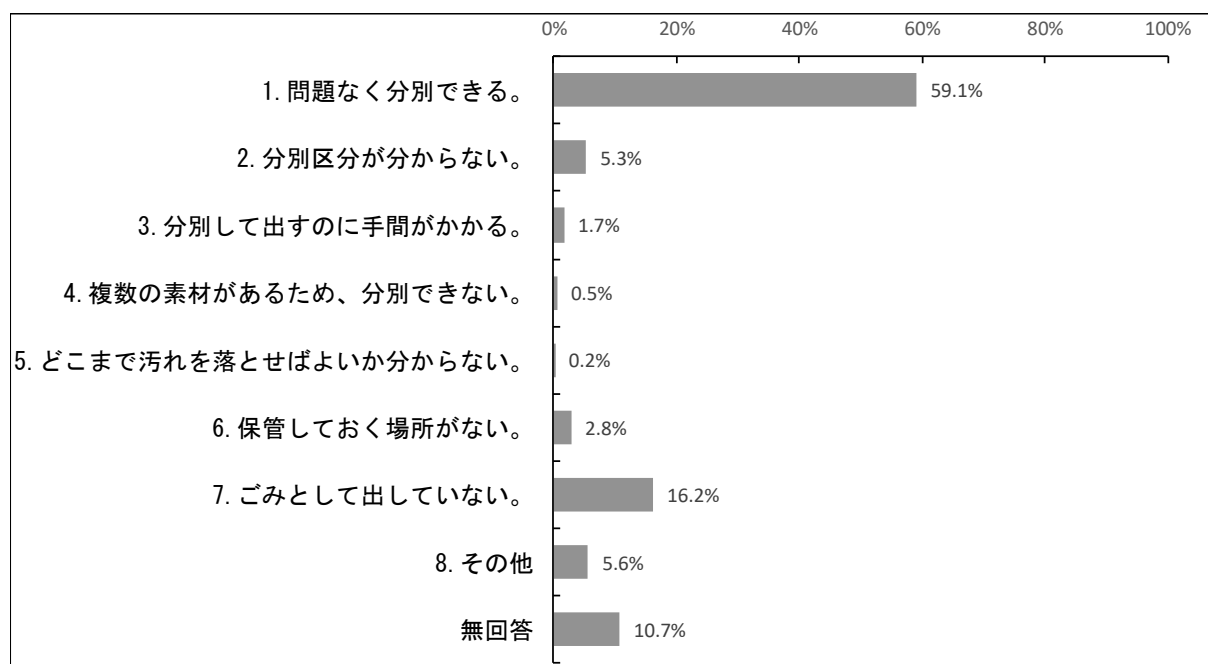


図 2.3.116 家電リサイクル法対象品の分別に関する問題

2.3.13 問12 区のごみ、資源物収集頻度に関する満足度

(1) 燃やすごみ

区の燃やすごみの収集頻度に関する満足度についてみると、「満足していますか」という質問に対して、「そう思う。」が74.3%と最も割合が高く、次いで「どちらかといえばそう思う。」が12.9%、「どちらかといえばそう思わない。」が3.0%、「どちらかといえばそう思わない。」が1.7%、「分からない。」が1.3%、「どちらかといえばそう思わない。」が3.0%の順であった。

表 2.3.51 区の燃やすごみの収集頻度に関する満足度

項目	回答数	割合
1.そう思う。	450	74.3%
2.どちらかといえばそう思う。	78	12.9%
3.どちらかといえばそう思わない。	18	3.0%
4.そう思わない。	10	1.7%
5.分からない。	8	1.3%
無回答	42	6.9%
合計	606	100%

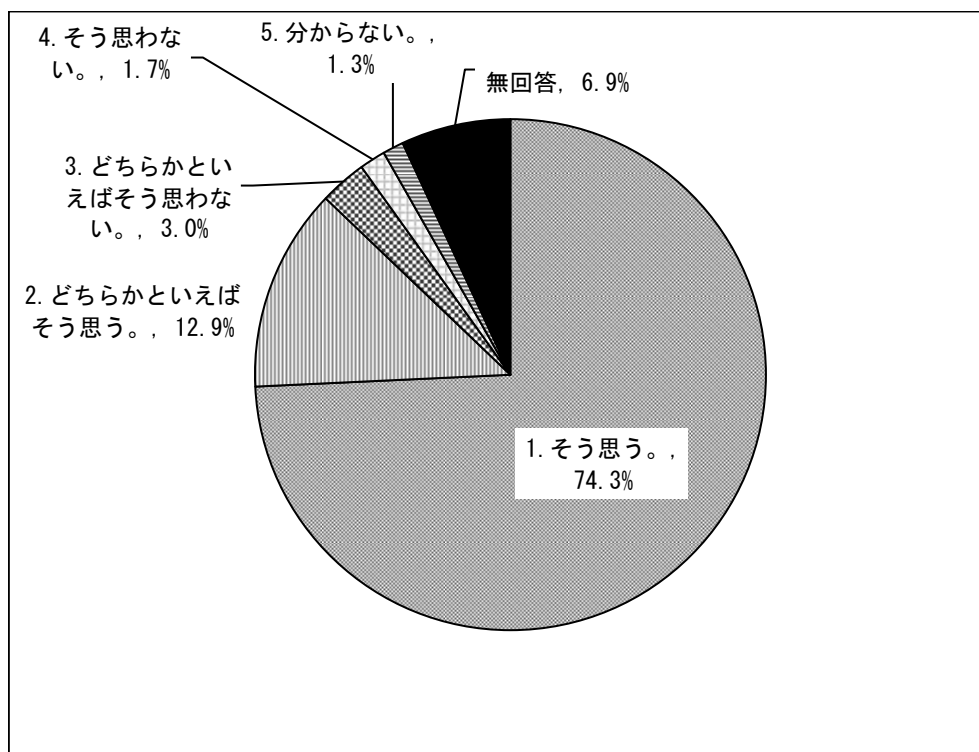


図 2.3.117 区の燃やすごみの収集頻度に関する満足度

(2) 燃やさないごみ

区の燃やさないごみの収集頻度に関する満足度についてみると、「満足していますか」という質問に対して、「そう思う。」が66.3%と最も割合が高く、次いで「どちらかといえばそう思う。」が17.8%、「どちらかといえばそう思わない。」が3.8%の順であった。

表 2.3.52 区の燃やさないごみの収集頻度に関する満足度

項目	回答数	割合
1.そう思う。	402	66.3%
2.どちらかといえばそう思う。	108	17.8%
3.どちらかといえばそう思わない。	23	3.8%
4.そう思わない。	10	1.7%
5.分からない。	19	3.1%
無回答	44	7.3%
合計	606	100%

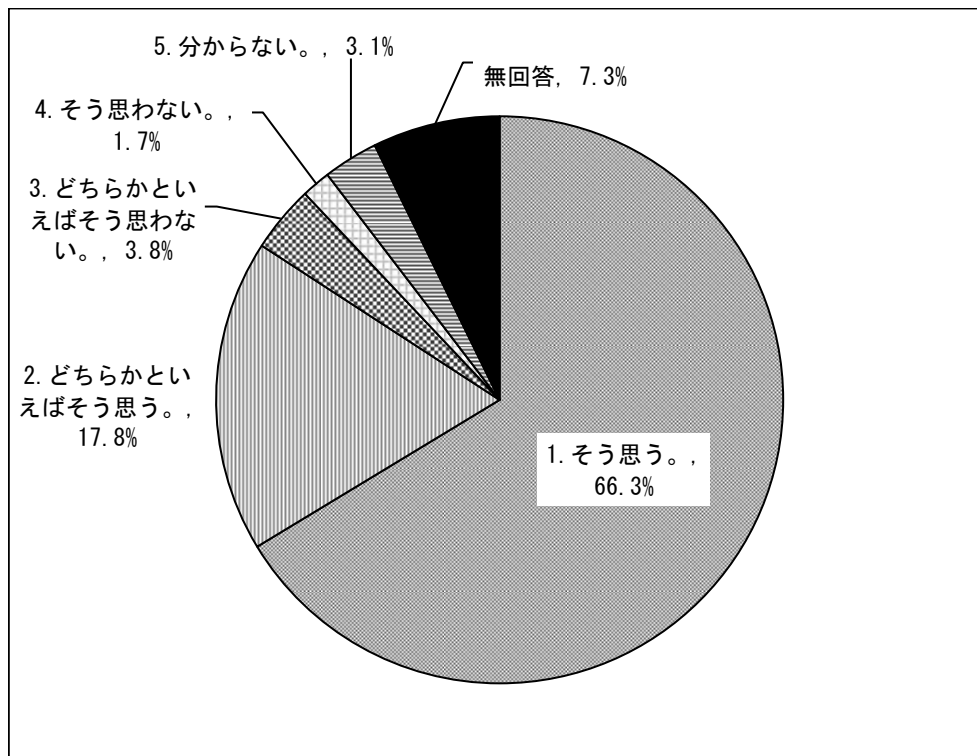


図 2.3.118 区の燃やさないごみの収集頻度に関する満足度

(3) 資源物

区の資源物の収集頻度に関する満足度についてみると、「満足していますか」という質問に対して、「そう思う。」が66.3%と最も割合が高く、次いで「どちらかといえばそう思う。」が16.8%、「どちらかといえばそう思わない。」が4.1%の順であった。

表 2.3.53 区の資源物の収集頻度に関する満足度

項目	回答数	割合
1.そう思う。	402	66.3%
2.どちらかといえばそう思う。	102	16.8%
3.どちらかといえばそう思わない。	25	4.1%
4.そう思わない。	14	2.3%
5.分からない。	22	3.6%
無回答	41	6.8%
合計	606	100%

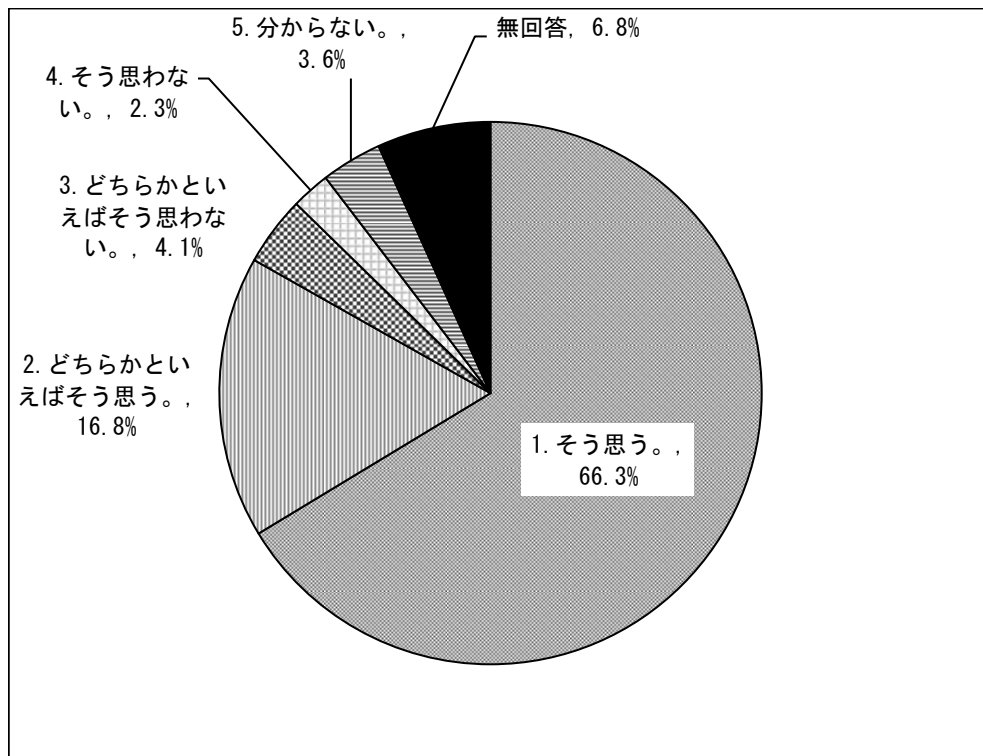


図 2.3.119 区の資源物の収集頻度に関する満足度

(4) 粗大ごみ

区の粗大ごみの収集に関する満足度についてみると、「満足していますか」という質問に対して、「そう思う。」が49.8%と最も割合が高く、次いで「どちらかといえばそう思う。」が19.6%、「分からない。」が9.2%の順であった。

表 2.3.54 区の粗大ごみの収集に関する満足度

項目	回答数	割合
1.そう思う。	302	49.8%
2.どちらかといえばそう思う。	119	19.6%
3.どちらかといえばそう思わない。	44	7.3%
4.そう思わない。	38	6.3%
5.分からない。	56	9.2%
無回答	47	7.8%
合計	606	100%

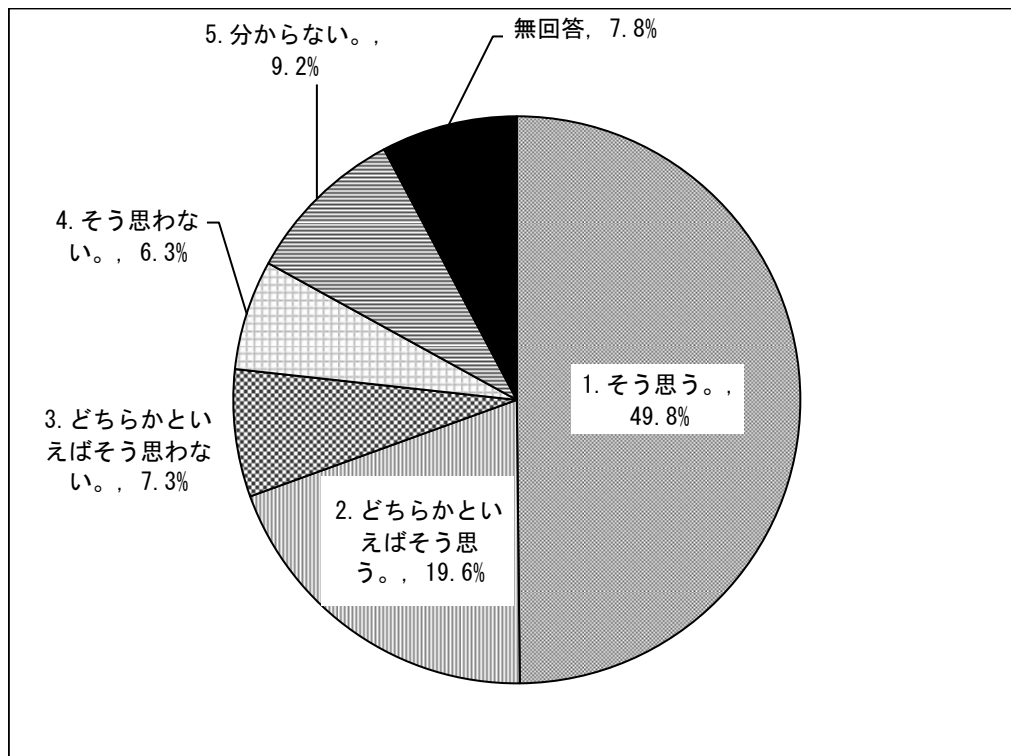


図 2.3.120 区の粗大ごみの収集に関する満足度

2.3.14 問13 区の施策に関する満足度

区の施策に関する満足度についてみると、「満足していますか」という質問に対して、「どちらかといえばそう思う。」が35.8%と最も割合が高く、次いで「分からない。」が32.5%、「そう思う。」が19.1%の順であり、「分からない。」の割合が他の満足度の項目と比較して高くなっている。

表 2.3.55 区の施策に関する満足度

項目	回答数	割合
1.そう思う。	116	19.1%
2.どちらかといえばそう思う。	217	35.8%
3.どちらかといえばそう思わない。	33	5.4%
4.そう思わない。	18	3.0%
5.分からない。	197	32.5%
無回答	25	4.1%
合計	606	100%

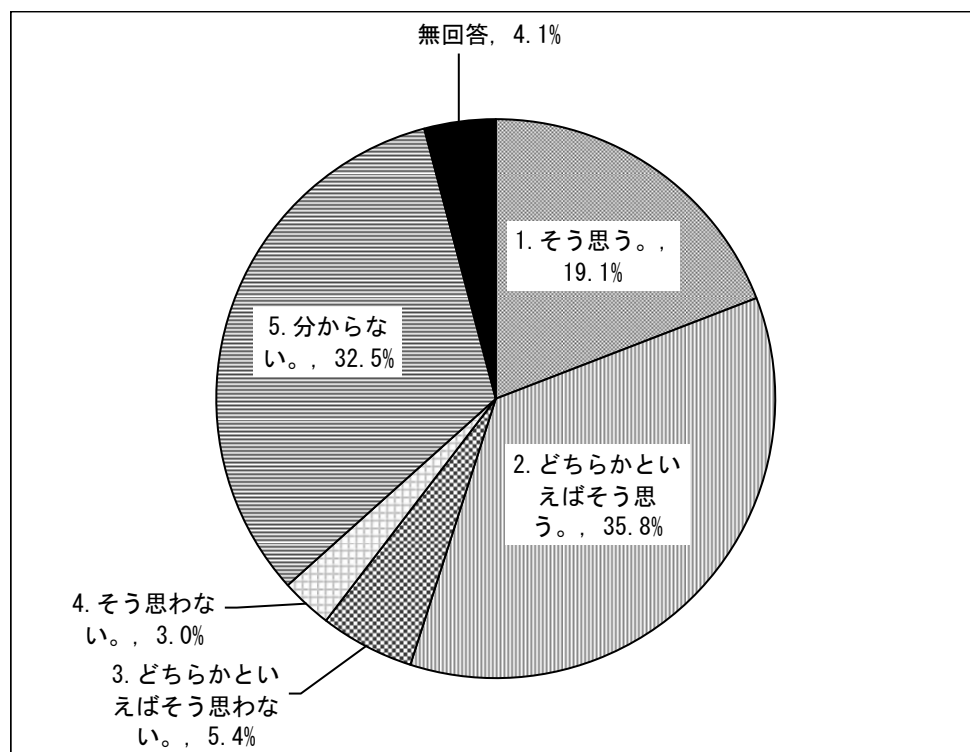


図 2.3.121 区の施策に関する満足度

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.122～図 2.3.126 に示す。

年代が上がるほど「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」とする回答者が多くなっている。一方、20代、30代では「分からない。」の割合が45%以上となっている。

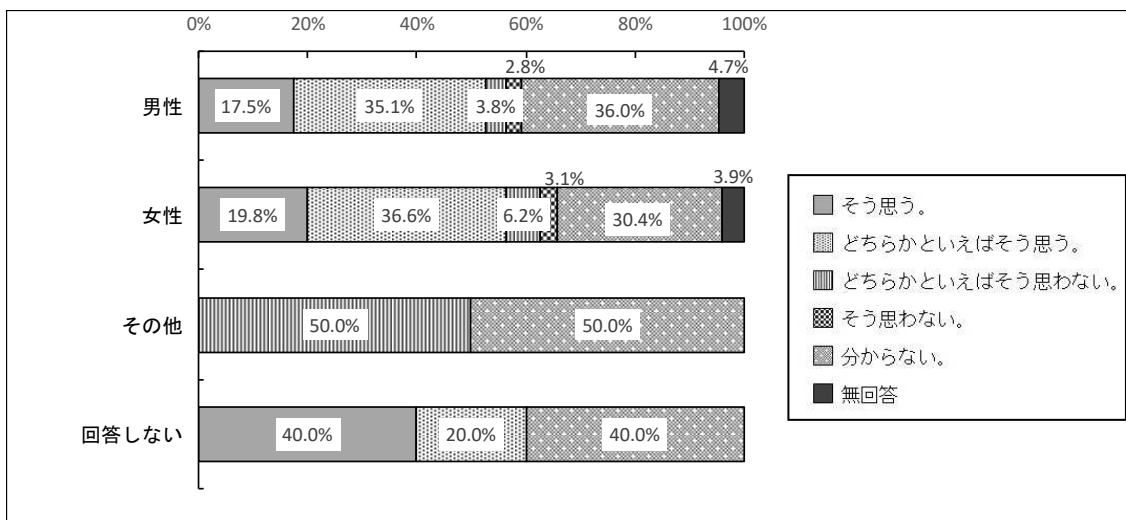


図 2.3.122 区の施策に関する満足度（性別）

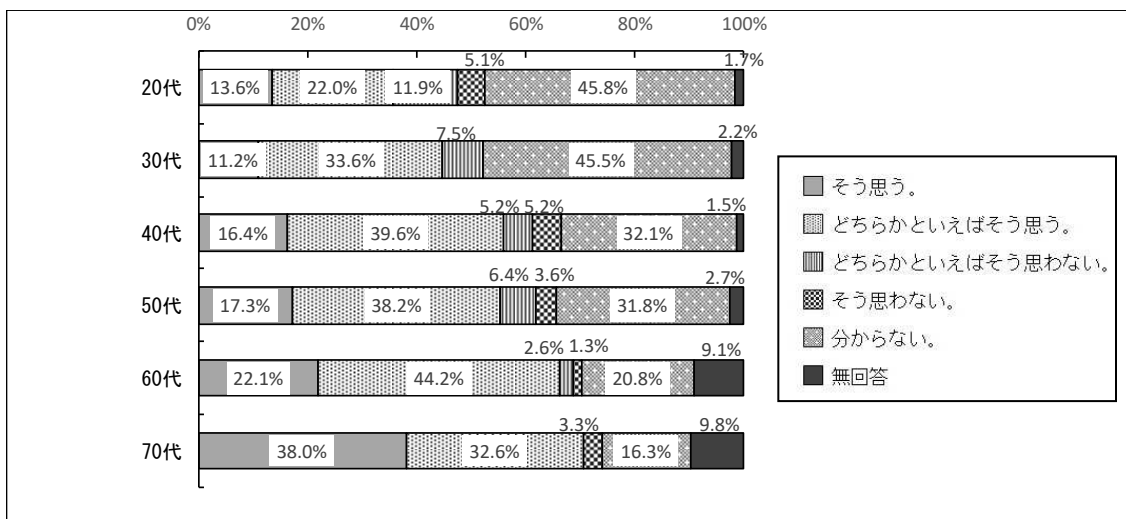


図 2.3.123 区の施策に関する満足度（年代別）

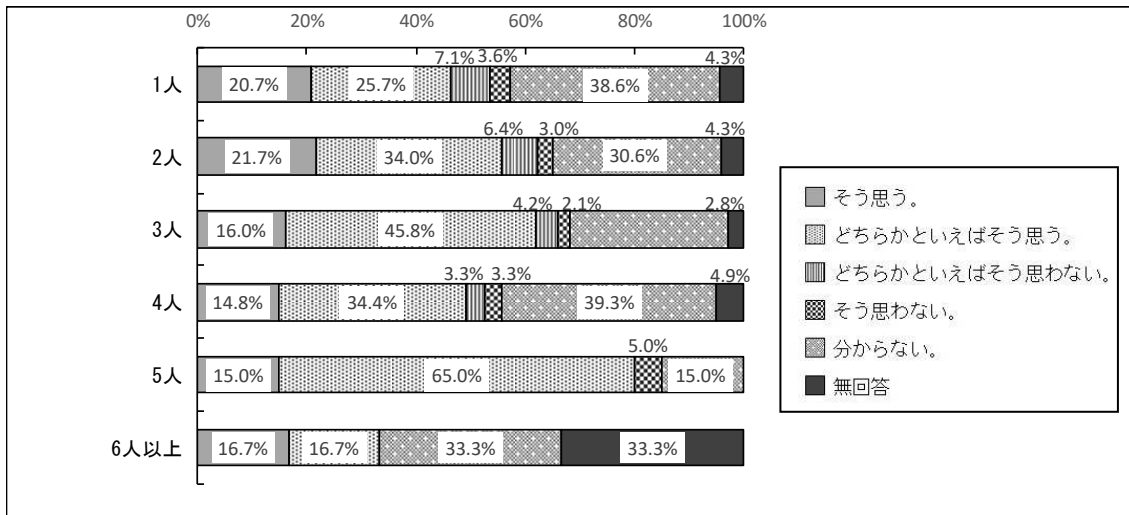


図 2.3.124 区の施策に関する満足度（世帯人数別）

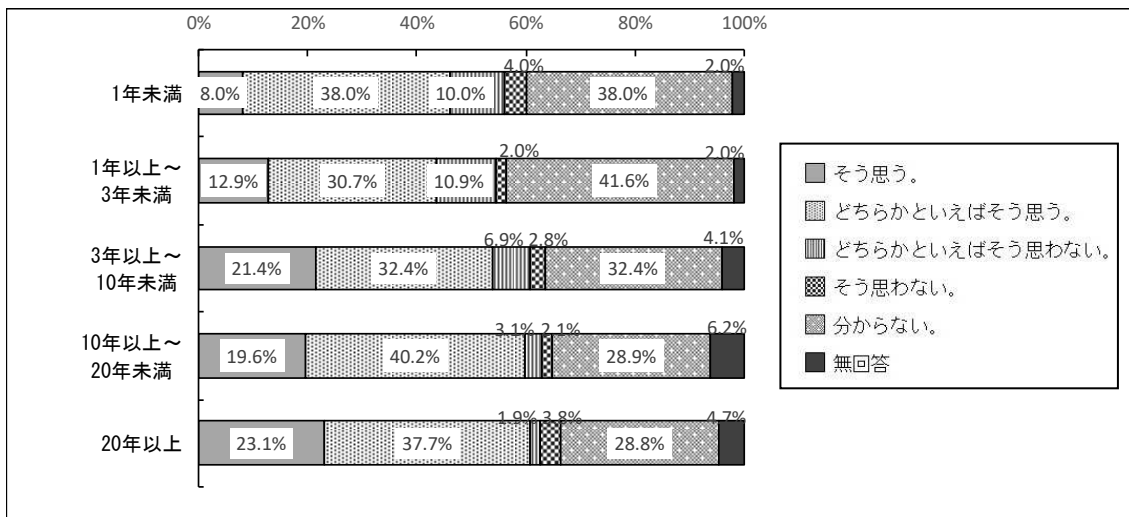


図 2.3.125 区の施策に関する満足度（居住年数別）

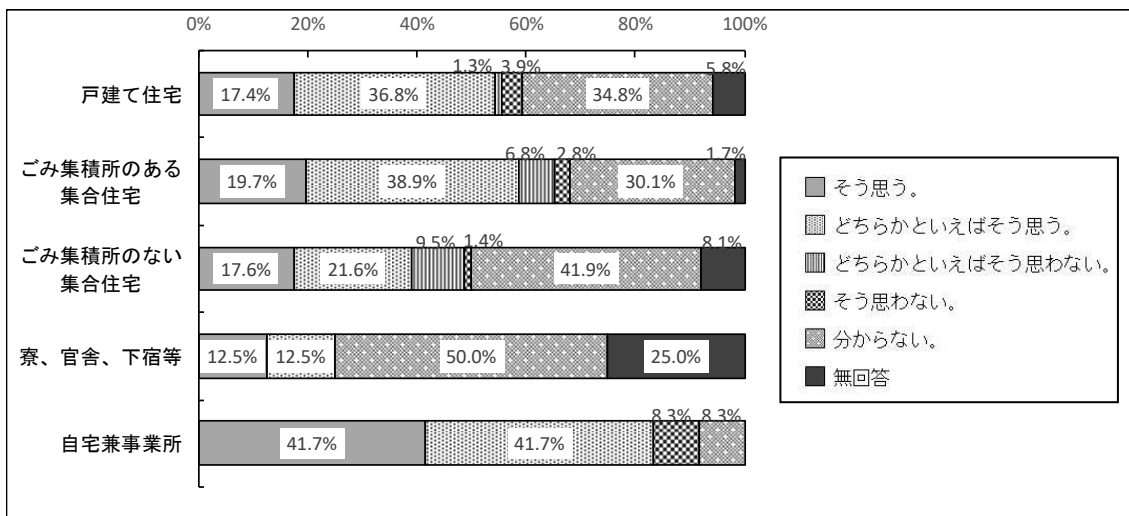


図 2.3.126 区の施策に関する満足度（居住形態別）

2.3.15 問14 区の清潔さに関する満足度

区の清潔さに関する満足度についてみると、「満足していますか」という質問に対して、「どちらかといえばそう思う。」が47.7%と最も割合が高く、次いで「そう思う。」が25.6%、「どちらかといえばそう思わない。」が9.6%の順であった。

表 2.3.56 区の清潔さに関する満足度

項目	回答数	割合
1.そう思う。	155	25.6%
2.どちらかといえばそう思う。	289	47.7%
3.どちらかといえばそう思わない。	58	9.6%
4.そう思わない。	51	8.4%
5.分からない。	30	5.0%
無回答	23	3.8%
合計	606	100%

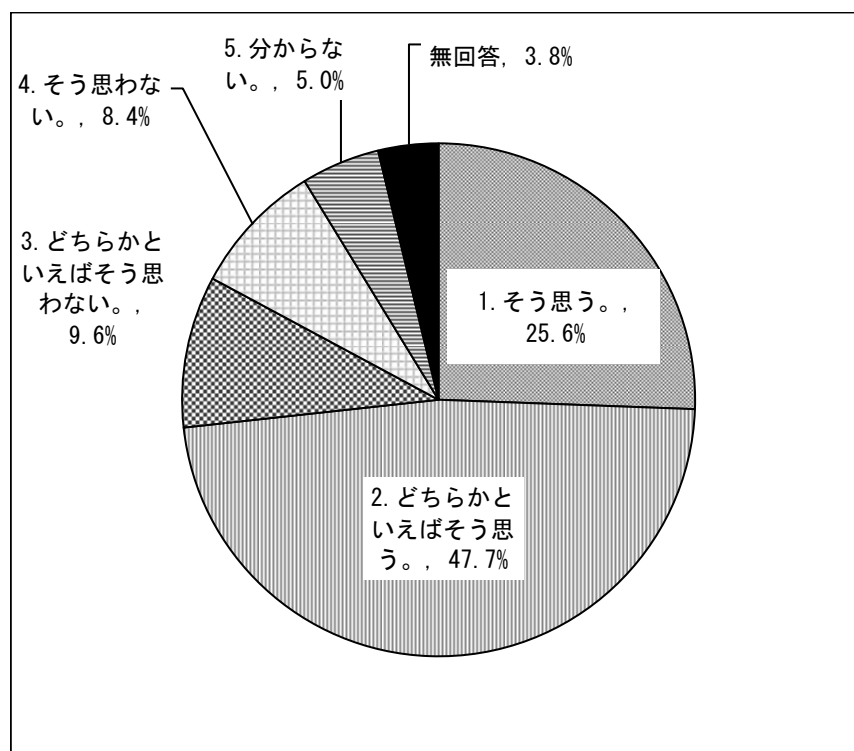


図 2.3.127 区の清潔さに関する満足度

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 2.3.128～図 2.3.132 に示す。

「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」とする回答者の割合が最も多いのは 40 代であった。

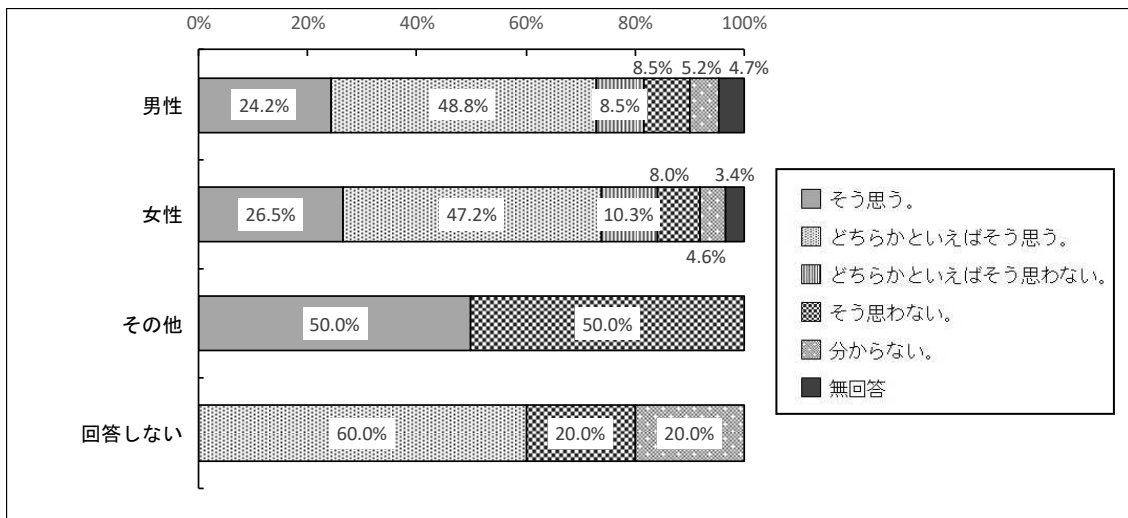


図 2.3.128 区の清潔さに関する満足度（性別）

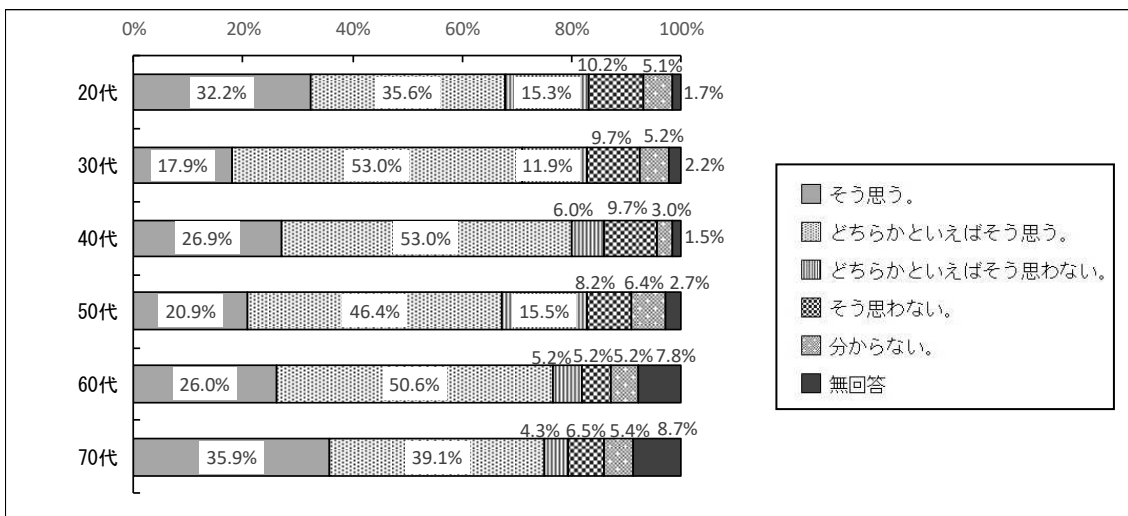


図 2.3.129 区の清潔さに関する満足度（年代別）

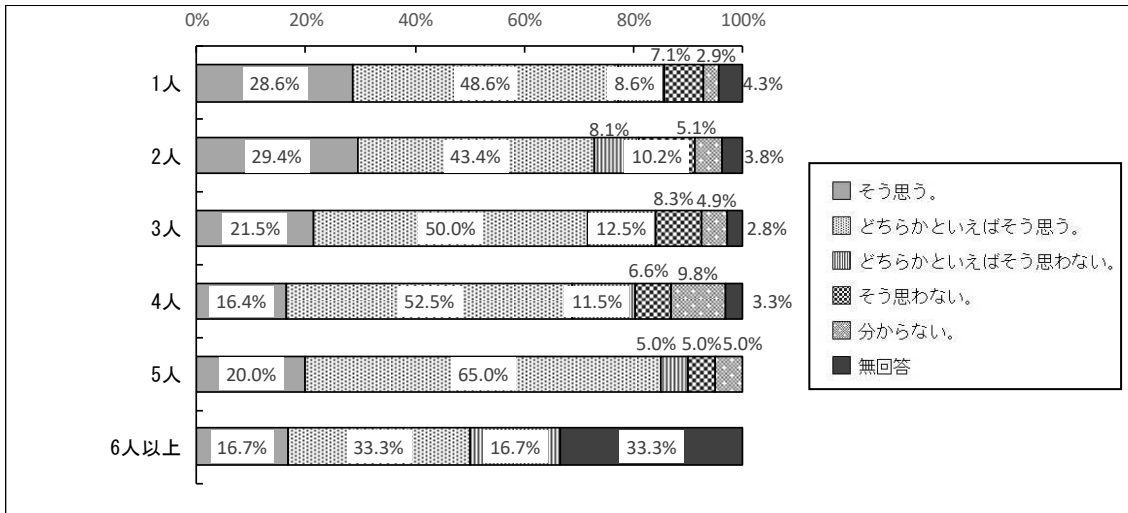


図 2.3.130 区の清潔さに関する満足度（世帯人数別）

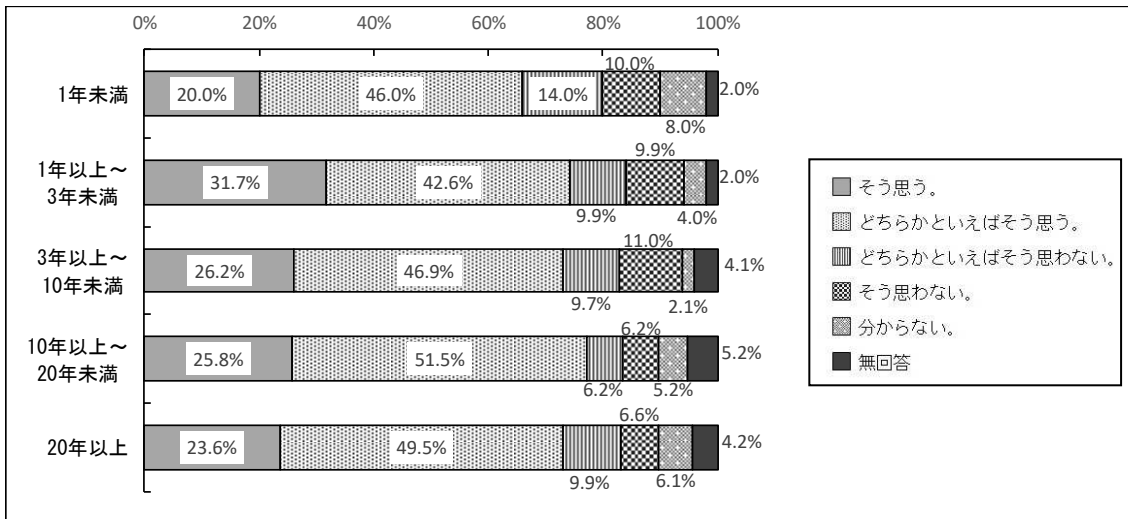


図 2.3.131 区の清潔さに関する満足度（居住年数別）

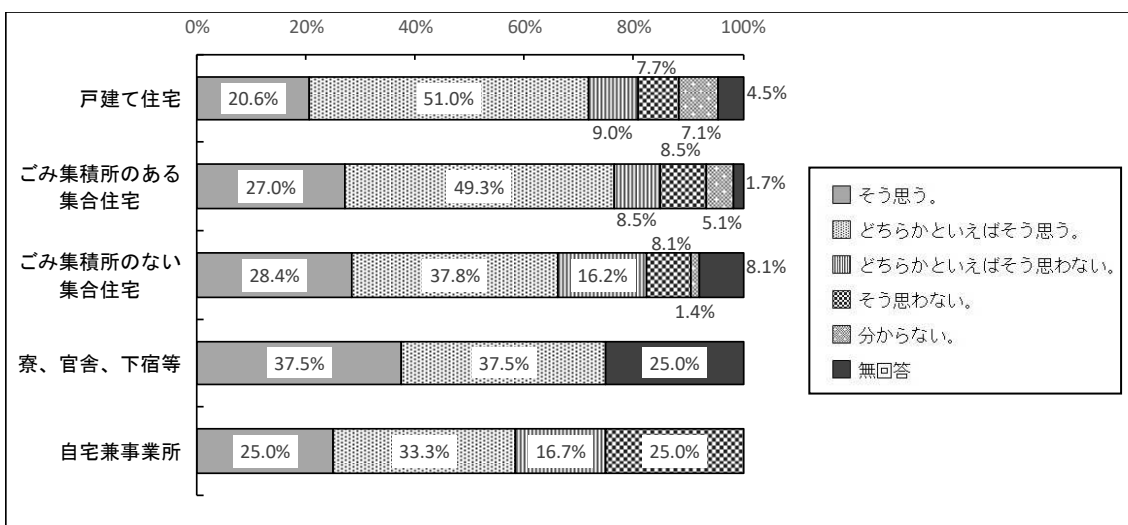


図 2.3.132 区の清潔さに関する満足度（居住形態別）

2.3.16 問 15 自由意見

自由意見について、記載内容を整理し、「(1) 区のごみ処理に対する意見」、「(2) 周辺環境に関する意見」、「(3) 店舗・企業に対しての意見」、「(4) 区のごみ処理に対する謝礼」、「(5) その他」に分類した。

また、「(1) 区のごみ処理に対する意見」については、内容によってさらに詳細な分類を行った。なお、明らかな誤字以外は、原文のまま掲載している。

(1) 区のごみ処理に対する意見

ア) 燃やすごみ、燃やさないごみの収集回数・体制・制度についての意見

- クリーンセンターの利便性の向上を求めます。物を持ち込めば（殆ど全て）受け取って頂けるなど。
- 昼過ぎ頃まで回収をしていないと、やはり気になる。ずっとごみが置いてあるには、火曜、金曜週 2 回あるので、収集場所ごみと回収同じくらいもう少し早い時間に回収していただけるとありがたいです。
- 燃えないゴミの回収日が少なく、出せない。
- 燃やすごみの収集日が水・土曜日なので、土日のごみが一番多く、水曜日までたいへん多くなってしまいます。月・木に変えてほしい。土曜日朝早くに集収にくるので、せっかくの休みの日に朝からいそがしいので遅い時間にしてほしい。水曜日は昼すぎにくるのに、すぐ近くの集収場所は土曜日が昼すぎだったりなので日にちを変更できないのであれば時間を年に何回かかえたりとかのくふうをしてほしいです。同じ区内でも他の日だったりもあるので不公平です。
- 燃やすごみが週に 2 回でなく 3 回にしてもらいたいです。
- 有料と一般の区分をもう少しはっきりしたほうが良いと思います。
- ベランダガーデニングやベランダ菜園をした際に土の処理にいつも困るので区で回収していただけると助かります。

イ) 資源物の収集回数・体制・制度についての意見

- 乾電池や廃油の廃棄が難（場所や回数が少ない）
- 古紙の回収をしているところを増やしてほしいです。
- イベント回収の頻度を増やしてほしい。
- 自分はずっと細かく分けたくてもマンションがやっていない。
- ペットボトルのキャップや牛乳パックや乾電池を資源物の日に回収箱（袋）があればいいと思います。
- 洋服のゴミなども、回収（資源の時）願いたいです。週 1or 月 2 ぐらいあると助かります。
- スーパーの店頭などに持参するのは手間がかかります。
- 着られなくなった服のリサイクルを区でやっているとお聞きしました。今後利用しようと思います。

ウ) プラスチックごみについての意見

- プラスチック製の物や、ビニール製の物、くつやかばんなども「燃やすごみ」に入っていてとても迷う。もう少し制限を作った方がいいのかとも思う。
- プラは分別した方が良くと思います。
- 燃やすごみとして収集されているプラスチック類は現在の方法を継続してほしい。
- プラスチックゴミを分けるようになると、ゴミ置場にそのコーナーなどを増やさなくてはいけない。家でもゴミ箱の数が増えるのでできれば分けてほしくない。負担がかなり増える。
- プラゴミの分別は可能なので、回収体制を整えて欲しい。
- 燃やすごみの対象プラスチック製品が多すぎる気がします。燃やしても問題がないからなのか。なるべく協力したいので、ペットボトルキャップ等は商業施設等の回収 BOX 等を利用するようにしています。
- 資源物の種類が増えたらもっと積極的に協力したいと思います。(プラやペットボトルキャップ回収など)
- プラスチックゴミが多すぎる。スーパーなどの販売の仕方を何とかできないか。

エ) 粗大ごみの収集回数・体制・制度についての意見

- 粗大ゴミは有料で構わないですが、巡回車を定期的にいただければさいわいです。
- 粗大ゴミシールの運用を見直して欲しい。ネット購入・回収時の持込みなど。
- 粗大ごみの申し込みにおいて、粗大ごみの対象になる品物の一覧をもう少し細分化してほしい。
- 粗大ごみを出すのに名前をシールに記入しなくてはいけないのは、個人情報的に好ましくない。
- 粗大ごみの予約から引取りまでの時間がかかりすぎる。
- 粗大ごみの指定日がかなり先の日しか指定できない。
- 大型のゴミに関しては、いつでも持っていけて(現地で待ってもよいので)予約しなくても持ち込めば良しとなれば、良いと思います。
- 墨田の持ち込み処理は予約が必要だが、実施される日までが長いし、いつでも持ち込める体制にすべきで「ゴミ券」も公の場で購入出来るスピード感が必要と考える。
- 大きな粗大ごみ(家具や家電)の廃棄時に、マンション一階まで運ぶことができない。安価でのサービスを提供していただきたい。
- かさやちょっと大きなフライパンのように、ちょっと大きいだけで粗大ごみになってしまうものを捨てるのがとても面倒。対処法が欲しい。

オ) ごみ集積所に関する意見

- 燃やすごみが道路に広がってしまい、通行の邪魔になってしまうことが懸念されます。
- 乾電池の回収ボックスがあったら便利だと思います。
- ビン、カン回収のコンテナが汚い。
- ネットを利用してない場所もあるため猫やカラスの被害が気になる。

- ごみ置き場がいつも荒れている所が複数ある。指導して欲しい。
- ごみ置き場の改築などでも多大な費用がかかっている。区の方で助成金を支給していただくなど、考えていただけると助かる。
- ゴミ集積所がない戸建、マンションでも利用できるゴミコンテナを設置してほしい。24時間出せるように。
- 近所の同じ集積所にゴミをだす住人の中に、集収日、内容物について全くルールを守らないで好き勝手に出す人がいる（同一人物かも）
- 近くの工事現場の人が、お弁当のカラをペットボトルと一緒にコンビニ袋に入れて、ゴミ置き場に何人もおいていく。
- マンションの住民にゴミ出しマナーが非常に悪い者がおり、迷惑に感じることもある。部屋番表示制にしても良いと思う。（マナーの悪い人（部屋）は指導、アドバイスを行うなど）
- 近所の人じゃない人がゴミを捨てに来る事がある。
- 通りすがりの人が集積所にゴミや缶などを捨てていくので困っています。

カ) 拠点回収に関する意見

- 乾電池の回収拠点がとおい。駅や販売店、デパートなどにも置いてほしい。
- ペットボトルキャップや食品トレーについては、近くのスーパーで資源として回収されており、時間があれば持参しています。
- 拠点回収として墨田区役所を利用している。案内図を見ても、回収場所が見つけれなかったの、記載(あるいは分かりやすく)してほしい。
- 鍋や古着等の拠点回収場所に駐車場がないのにどうやって持っていくのか。

キ) 啓発・広報についての意見

- 資源物の回収について、よごれたまま、中身の入ったままのビン・缶、ペットボトルなどそのまま出ている。知らないのか出し方が徹底されていない。学校で教えるとか、転入して来た家庭に指導するとか、1回は必ずゴミの分別方法を教えるようにしてほしい。
- 資源物の持ち去り、指定日以外の置き去りがどれだけの迷惑をかけているのかもっとわからせる必要がある。犯罪として徹底するべき。「だめですよ。」などの文章はもはや役に立っていない。
- 飲食店のゴミは匂うので、バケツに入れるなどの喚起をしてほしい。朝から通勤時に匂ってくると不快です。
- 資源物収集してくれるのは助かるが、容器など洗っていない人もいるので分別や洗い方、どこまで洗うかなどもわかりやすく知らせておくのはどうか。
- アンケートをみて知らなかったことも多かった（チャットボット、3R やエコストア）広報の方法があまりよくないのでは？と思った。
- 墨田区に引越してきた時にもらった分別パンフレットしか情報がない。時々何ゴミかがわからないものがあつた時はネット検索するが、イマイチ内容がわかりにくい。
- 墨田区の施策がわからないため、施策について教えてもらう場所が欲しい。

- 紙袋とか資源物になるのを最近知った。HP でしっかり周知してほしい。フードドライブ、エコストアも同じ。駅とかチラシおけばいいのに。
- 墨田区としてゴミに対する施策を行っている事をこのアンケートで始めて知った。協力できる事はしていこうと思う。
- 粗大ごみの分類表が少しわかりにくいです。もっと細かいとありがたいです。
- 私も基本的なことは分かっているつもりでしたが、このアンケートに答えに迷う点もあり、さっそく「すみにゃーる」にアクセスし、再度ゴミのことを知り、もっと協力できるようにしていきたいと思いました。
- 資源物の集積所回収について、回収された資源物がどのようにリサイクルされているか、何に生まれ変わるのか情報が欲しいです。
- 雑紙回収もどうやって出したらいいのか、詳しくわかりやすく、パンフレットで配布してほしいです。
- すでに行われているかもしれませんが、SNS (Twitter や LINE) や YouTube などを通じて案内したものがあるといいと思いました。
- あえて区の HP や冊子を見る機会はないので、SNS 等で若者にも分かりやすく取り組みを発信しても良いと思います。
- 何でもホームページって？パソコンやらない人にはぜんぜんわからない。世の中パソコンをやる人ばかりではない。
- 便利な施策が出来た時はマンションに張り紙してほしい。ゴミ置き場とか。冊子は基本的に読まない。
- 粗大ゴミと、もやさないゴミ、小型家電の違いがあいまい。
- 分別がわからなくてパンフレットやホームページを見ても書いてないものもあって困ったことがある。ラケットが確か出てなかった。

ク) 高齢化社会についての意見

- 特に年配の方などでは自ら持ち出し、指定の場所へ運ぶのは困難だと思うので持ち出しを手伝ってくれるサービスがあればいいと思う。
- 自宅はマンションですので集積所で分別して保管場所がありますので不便でなく清潔ですが、一軒屋さん（特に高齢者）が多い所ではそのつど分別に雨でも出なければならぬようですので、空地（公園）等にゴミステーションを設置する案などはどうでしょうか。
- 今は特に困っていることはないが、年をとってからの生活（ごみ）に不安がある。具体的にはわからないが田舎の両親を見ているととても不安をおぼえる。

ケ) 外国人の方についての意見

- スカイツリーが出来てから道端、マンションの駐輪場にゴミが捨てられている事が多くなった。自販機のゴミ箱が分別されておらず、何でも入れられている。よって、箱から飛びだして外へ落ちている。外国人へのマナーやルールのご案内をしてほしい。
- 日本人より外国人は分別の仕方が分からないと思う。もえるゴミとペットボトルが一緒

に入っている袋をよく見る。

- 近隣住人の外国人のゴミの選別ができていない。

(2) 周辺環境に関する意見

- 家の前がバス停なので、缶やペットボトル、食べ物の放置が多い。
- ごみの捨て方もそうですが、ゴミのポイ捨ても何とかした方が良いと思います。錦糸公園のゴミのポイ捨てが多いので非常に残念です。
- スカイツリーの側で仕事をしています。土・日は食べ物の容器等があちこちに。これからもっとふえるように思います。
- 犬猫の糞は本当に多い。他県から来たが、こんなに毎日見る物だと思っていなかった。
- 隅田川花火大会の時、道路にブルーシートを広げ飲食し、終了後そのままにしていく人や、ブルーシートで酒瓶・食べ残しを丸めて捨てていく人がいる。汚くて困っている。
- 空き家(放置の家)のまわり、ゴミで汚い。きちんと管理してほしい。
- たばこのポイ捨てが多く、家の前は自分のものではないのにひろっています。たまに火がついたままのものもあります。

(3) 店舗・企業に対する意見

- ゴミ削減にはスーパー等売る側の努力が必要。回収場所をもっと設置してほしい。
- プラスチック袋→紙袋にかえる施策をしてほしい。コストが多くかかるかもしれないが有料にすればよい。そうした取組のお店に「推奨の店」認定を与えてほしい。利用します。
- フードロス是一般家庭より企業の事業計画による事が大。
- 食品を扱っている店にもっとフードロスの推奨の意識を高めてもらいたい(近くのパン屋さんですと17時以降は30%offを取り入れるようになりました)。
- 食品トレーは金や銀が入っていると回収できないのですか？だったら金や銀を入れないように業者に働きかけてほしい。

(4) 区のごみ処理に対する謝礼

- いつもゴミの回収ありがとうございます。近くに温水プールがあって、ゴミをもやした熱で温水プールができていますと聞きました。夏のあつい中回収されている方々本当にありがとうございます。
- 墨田区はゴミの分別方法がわかりやすいので助かります。収集後もきれいになっていて助かります。(ゴミの取り残しが無い)
- 資源物の回収ボックスやネットの前日配付と当日の回収に、特にお仕事量の多さと大変さと感謝が尽きません。ありがとうございます。ゴミを出しやすく、ステーションも清潔です。
- 収集に関しては良くやってくれていると感謝しています。出す方の私たちの認識がないと出しているゴミを見ていつも感じています。
- 家の前まで回収に来てもらっていて助かっています。
- ごみの回収については、収集日にはすみやかに回収して下さり、大変助かっています。

ポイ捨てでもあまりみられず、きれいな街だと思っています。これからも保持できるよう協力したいと思います。

- 分別コンテナとネットの貸出しは非常に助かっている。

(5) その他

- 今ではなんでもレジ袋やゴミ袋に入れて捨てればよいので手軽です。しかし、これからのことを考えると、捨て方が変わるのではないかと思います。具体的にはわかりませんが、いつまでビニール袋に捨てられるかと思う時もあります。
- 私がごみを出している場所は、皆で協力しあい時間も守り、きちんと出しています。とてもうれしいです。
- マンションの管理人がごみの管理をしているので問題はないが、こういった仕事をしている人たちが、仕事がしやすい様に協力体制などがあればよいと思う。
- 1人暮らしだと頻度の少ないゴミ(燃えないゴミ、電池、食品トレイ)を保管しておくのが面倒なので、燃えるゴミと一緒に出してしまうこともあります。
- 家庭で仕分けしたゴミを最終的に一括で燃やしているような事になるのであれば、無駄なことはさせないで欲しいので協力したくない。仕分けする事で大きな効果があるのであれば協力したい。
- ペットボトルや食品トレイの回収には協力がいるがきれいにしてから出す手間やきれいにするための水(運搬のガソリン、CO2、回収ネット、回収ネットから風などでとばされたときのそれを再回収する手間など)を考えたとき本当にエコ活動が必要なのか疑問。ゴミとして一気にもやしてしまった方がいいのでは？その費用対効果の調査をしているのか？調査するためのお金がかかるならあえてやる必要がないかもしれないがざっくり計算してみても非効率的な気がする。
- 数年前に、ペットボトルをわざわざ洗ってリサイクルに出している事に疑問を感じ、問い合わせると、「100%リサイクルしており、燃やしたりはしていません。」と回答有り。ところがマスコミ発表では多量に燃やして処分している報告有り。そもそも中国へ輸出するにしてもリサイクル時に洗浄しているものを、コストをかけ家庭で綺麗に洗う必要も無い。
- 資源物をトラックが回収していたが、”すみだ区”のロゴがない。もしかして堂々と盗んでいたのかも？であれば残念なこと。もっと管理をしっかりしてほしい。
- 金属製の鍋を粗大ごみとしてマンション前に出していたところ、区の回収前に何者かに持っていかれてしまいました。
- 不法投棄禁止・防止の対策を強化して欲しい。防犯カメラの設置他。
- 自販機横のゴミ箱に家庭ごみが捨てられていることがある。
- 近所の外国飲食店が無分別に出しているので、清掃業者がいつもシールをはっている。
- 台風で飛んできたカーペットをうちが出さなきゃいかんのか？お金を払って。
- 空き家になってしまった家の、鉢植えなどが残されたままで景観が悪く、先日の台風の時に排水がうまくできずにあふれているところがあった。黒田区も浸水被害が起こるとハザードマップにもあるので、積極的に見回ってキレイにしてほしい。

2.3.17 経年変化

(1) ごみへの関心

ごみへの関心について経年変化をみると、平成21年度の調査時と質問内容及び回答の選択肢が多少変化しているが、「行動している。」と回答した割合は高くなっており、「どちらともいえない。」または「特に関心がない。」と回答した割合は低くなっている。

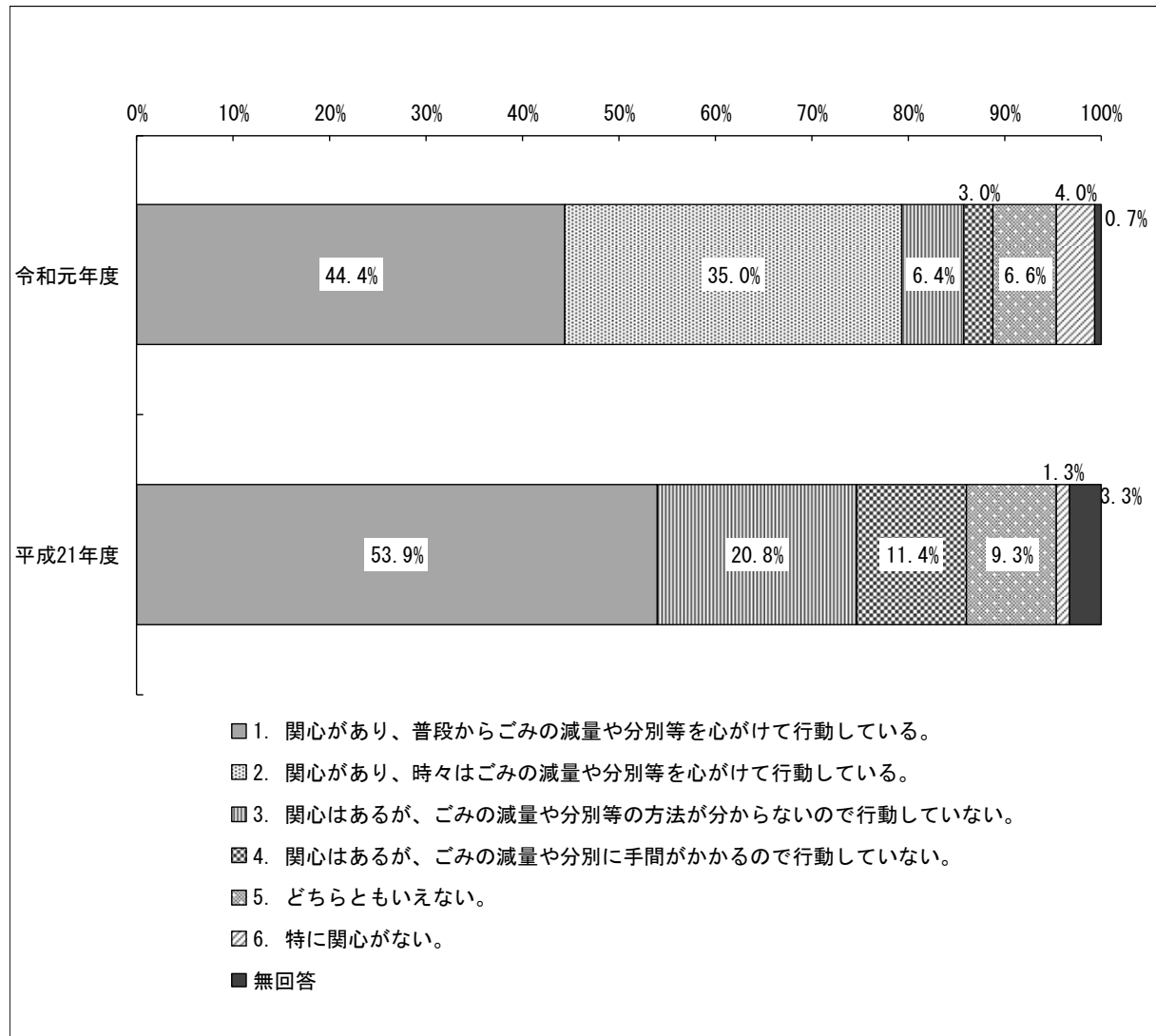


図 2.3.133 ごみへの関心についての経年変化

(2) ごみに関する行動

ごみに関する行動について経年変化をみると、平成17年度、平成21年度の調査時と質問内容及び回答の選択肢が多少変化しているが、「詰め替え商品の購入」、「買い物袋の持参」、「少量売り商品の購入」、「リサイクルショップやフリーマーケットの利用」の割合は高くなっている。

一方、「余分な購入を控える」、「過剰包装を断る」、「故障しても修理して使う」の割合は低くなっている。

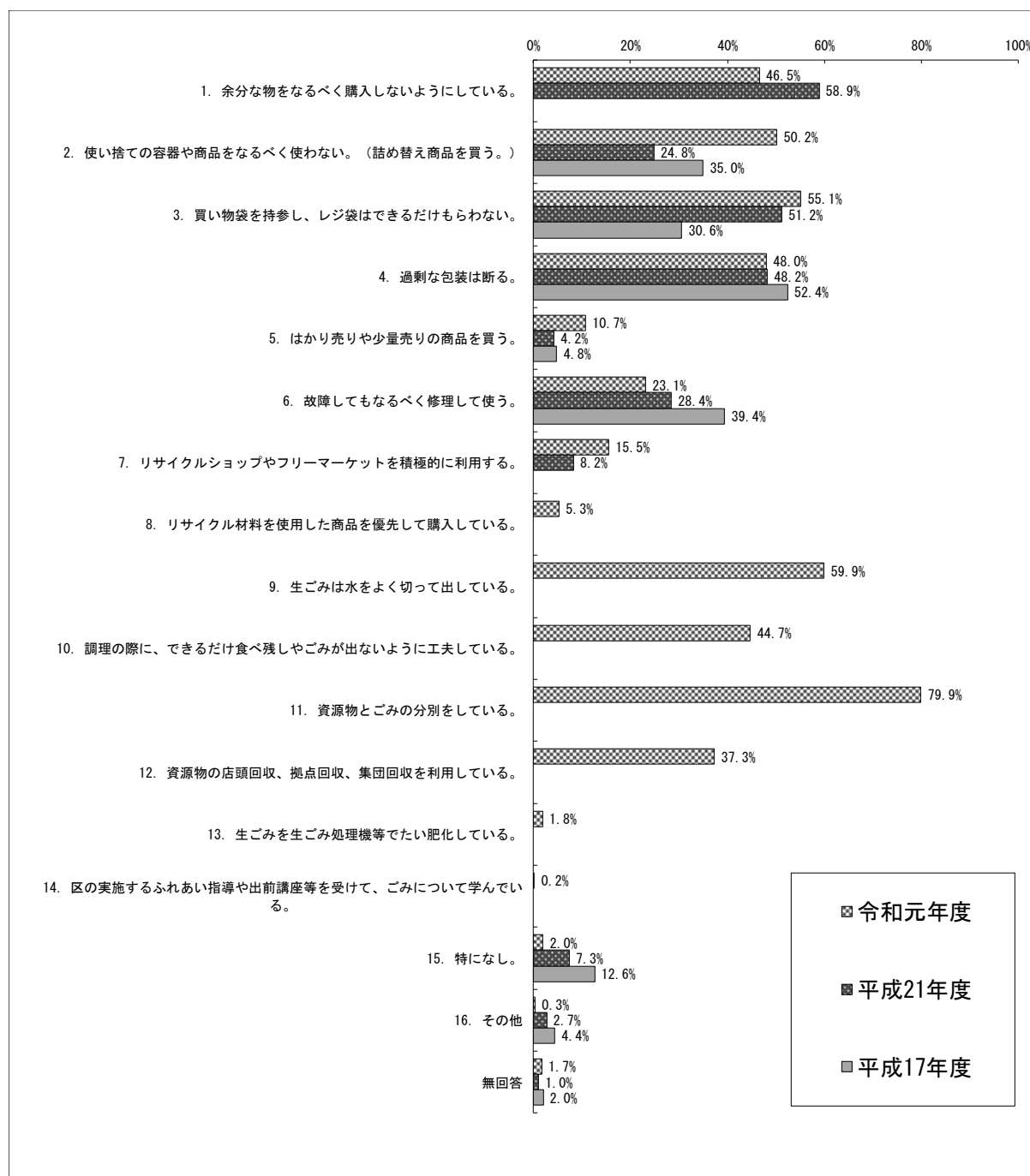
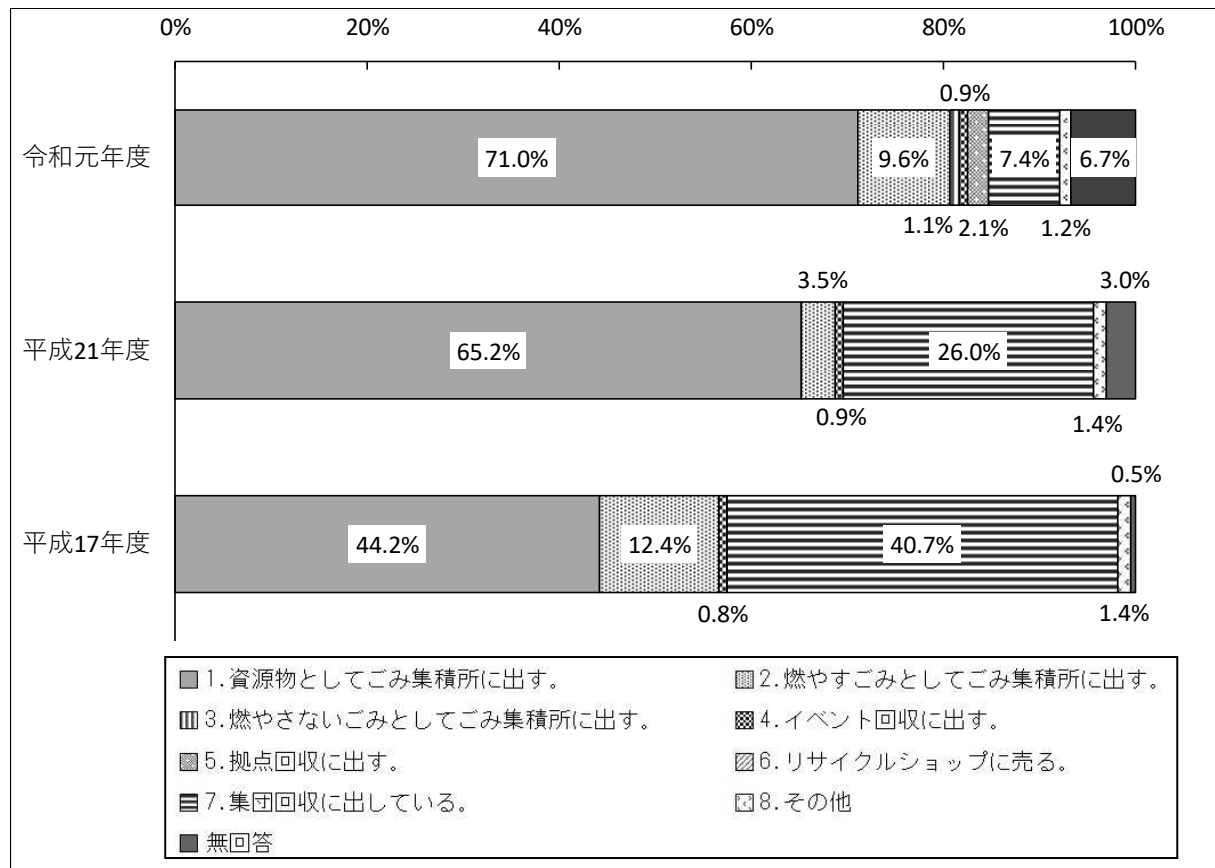


図 2.3.134 ごみに関する行動についての経年変化

(3) 資源物の排出方法

ア) 新聞・雑誌・段ボール等

新聞・雑誌・段ボール等の排出方法について経年変化をみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」の割合が高くなっている一方で、「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」の割合も高くなっている。また、「集団回収に出している。」の割合は低くなっている。

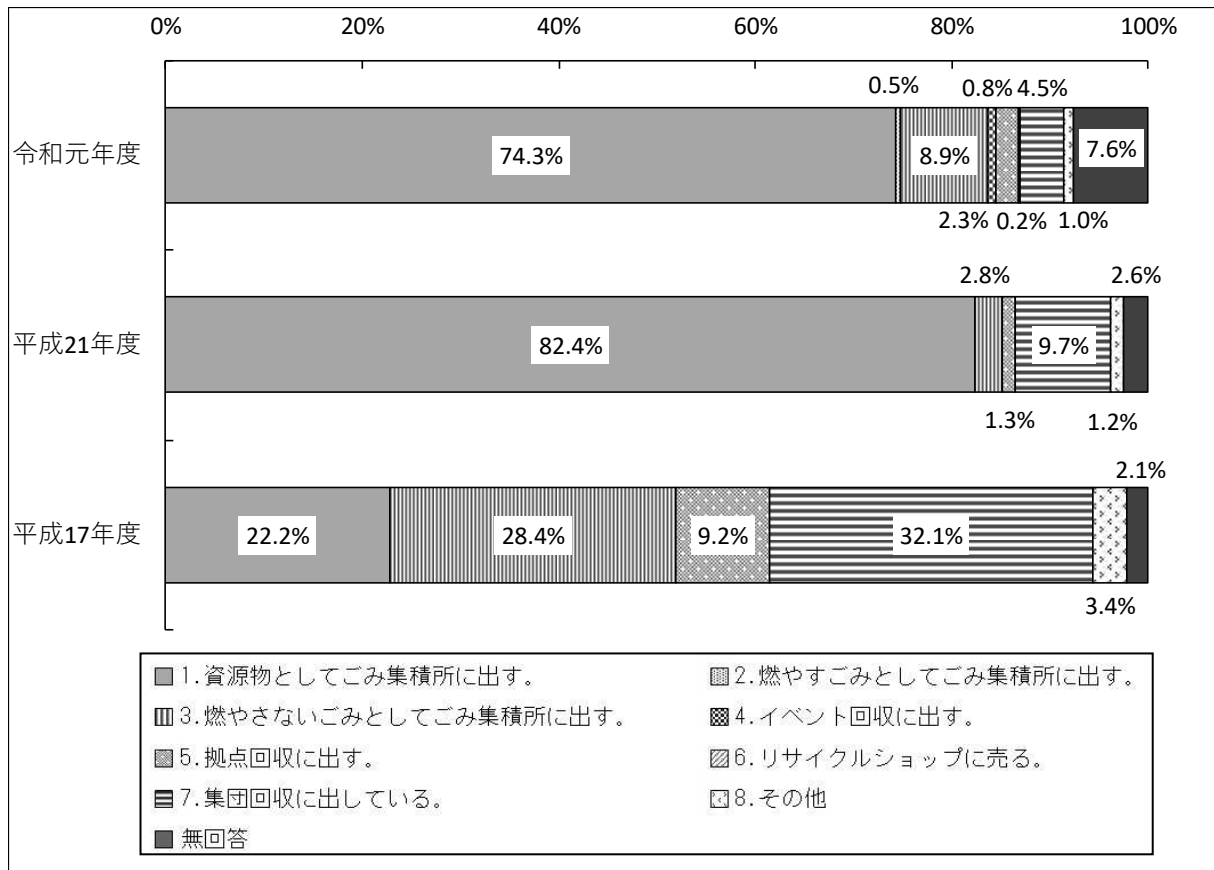


※前回調査の「古紙（新聞・雑誌・段ボール）」と、今回調査の「新聞・雑誌・段ボール・紙パック・雑がみ」で比較

図 2.3.135 新聞・雑誌・段ボール等の排出方法についての経年変化

イ) 缶

缶の排出方法について経年変化をみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」の割合が低くなり、「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」の割合が高くなっている。また、「集団回収に出している。」の割合は低くなっている。

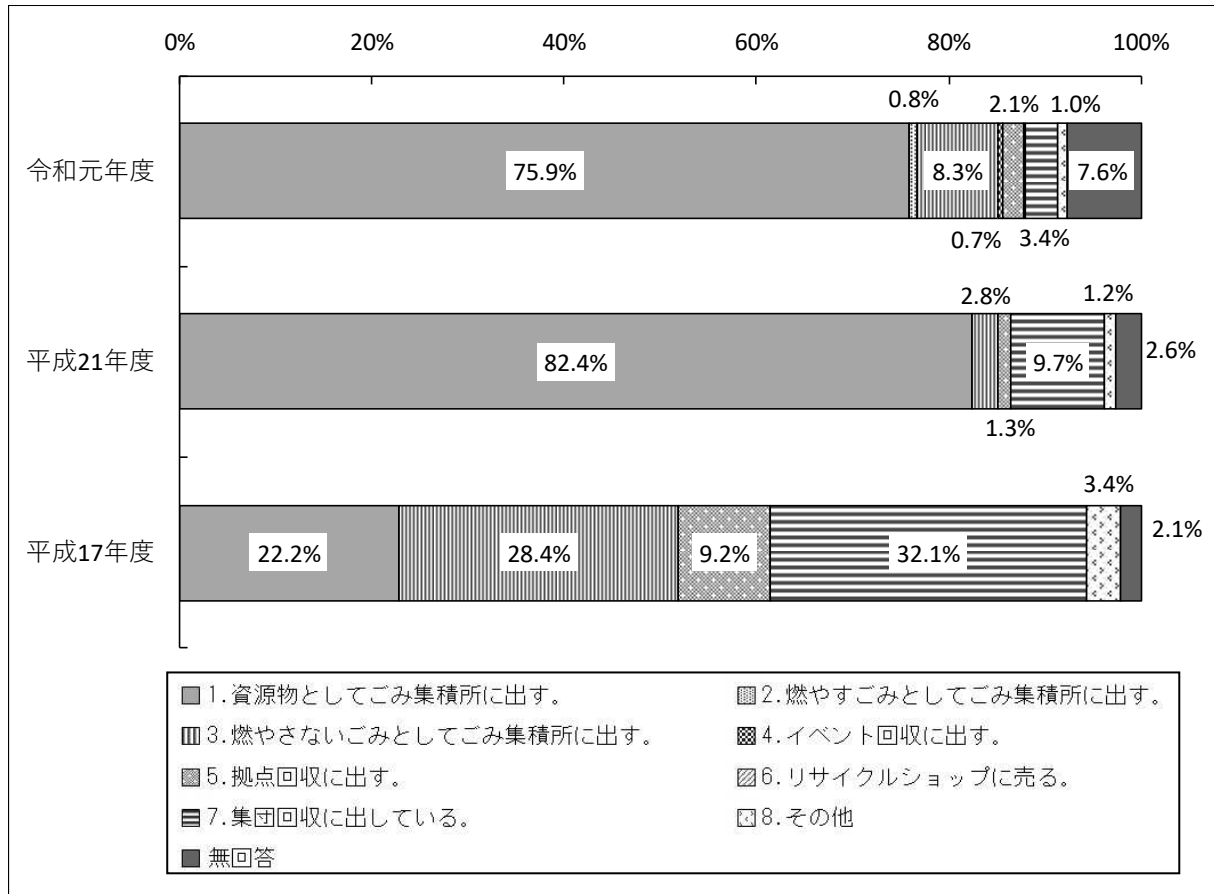


※前回調査の「びん・缶」と、今回調査の「缶」で比較

図 2.3.136 缶の排出方法についての経年変化

ウ) びん

びんの排出方法について経年変化をみると、前回調査と比較して「資源物としてごみ集積所に出す。」の割合が低くなり、「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」の割合が高くなっている。また、「集団回収に出している。」の割合は低くなっている。



※前回調査の「びん・缶」と、今回調査の「びん」で比較

図 2.3.137 びんの排出方法についての経年変化

エ) ペットボトル

ペットボトルの排出方法について経年変化をみると、今回の調査から「集団回収に出している。」の選択肢が追加されたが、割合は低くなっている。経年変化をみると、前回調査と比較して「資源物としてごみ集積所に出す。」の割合が低くなっている。

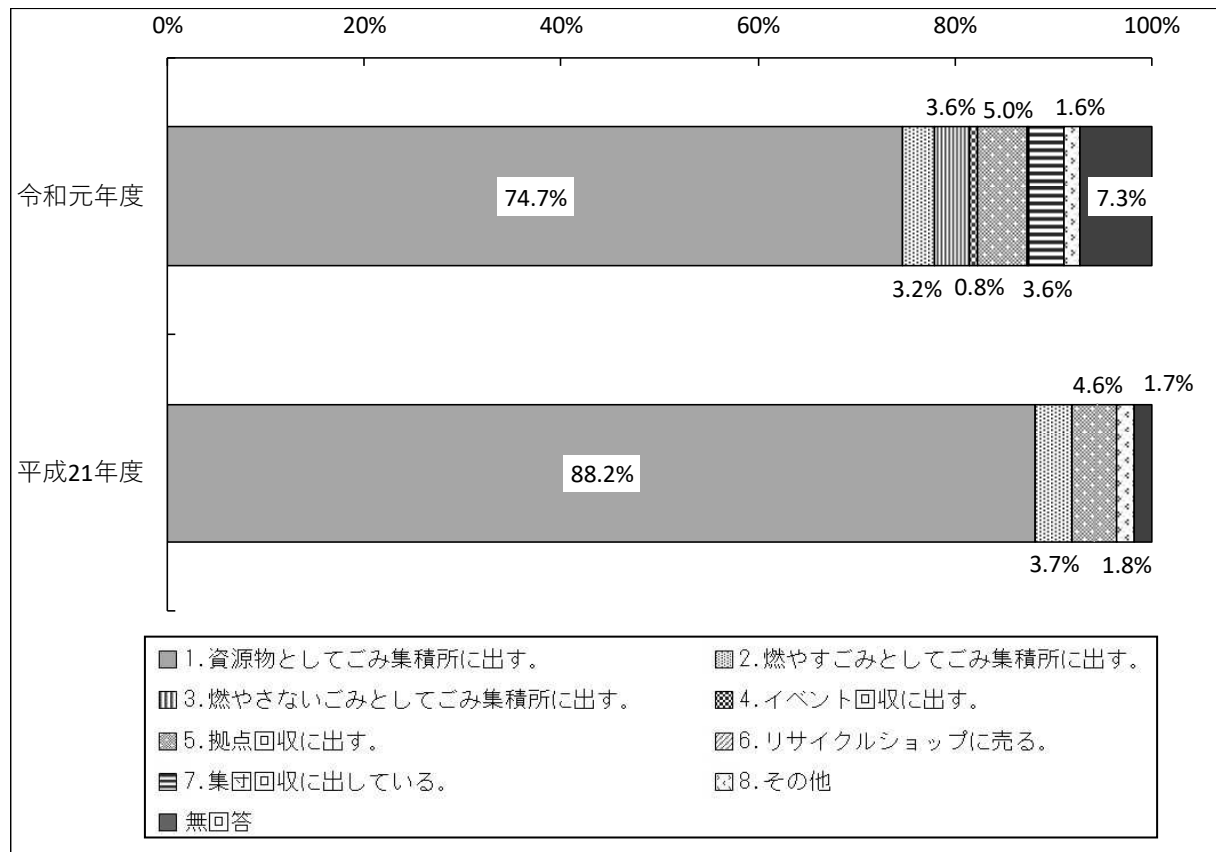


図 2.3.138 ペットボトルの排出方法についての経年変化

オ) 食品トレー

食品トレーの排出方法について経年変化をみると、今回の調査から「集団回収に出している。」の選択肢が追加されたが、割合は低くなっている。経年変化をみると、前回調査と比較して「資源物としてごみ集積所に出す。」「拠点回収に出す。」の割合が低くなり、「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」の割合が高くなっている。

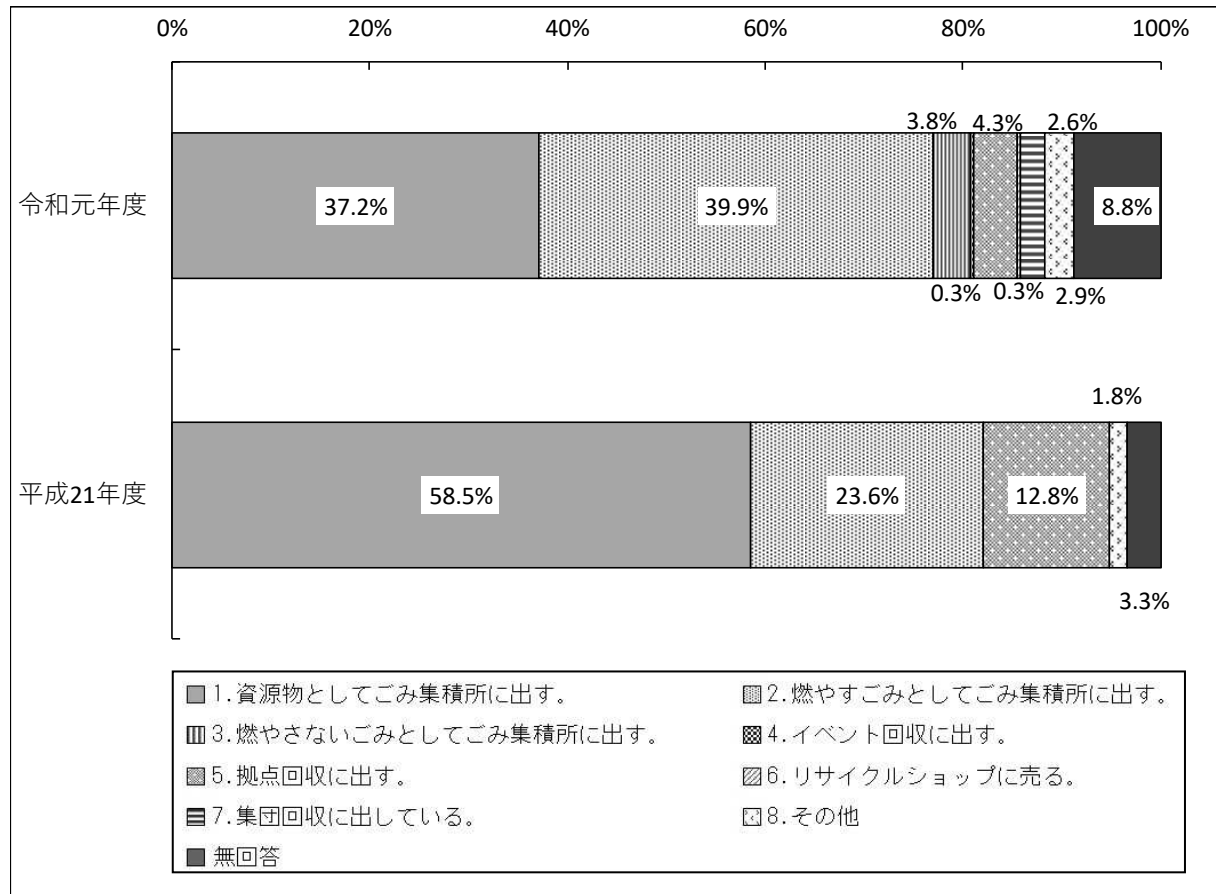


図 2.3.139 食品トレーの排出方法についての経年変化

カ) 古布、古着

古布、古着の排出方法について経年変化をみると、今回の調査から「資源物としてごみ集積所に出す。」「イベント回収に出す。」の選択肢が追加されたが、割合は低くなっている。経年変化をみると、前回調査と比較して「リサイクルショップに売る。」の割合が高くなっており、「集団回収に出している。」の割合は低くなっている。

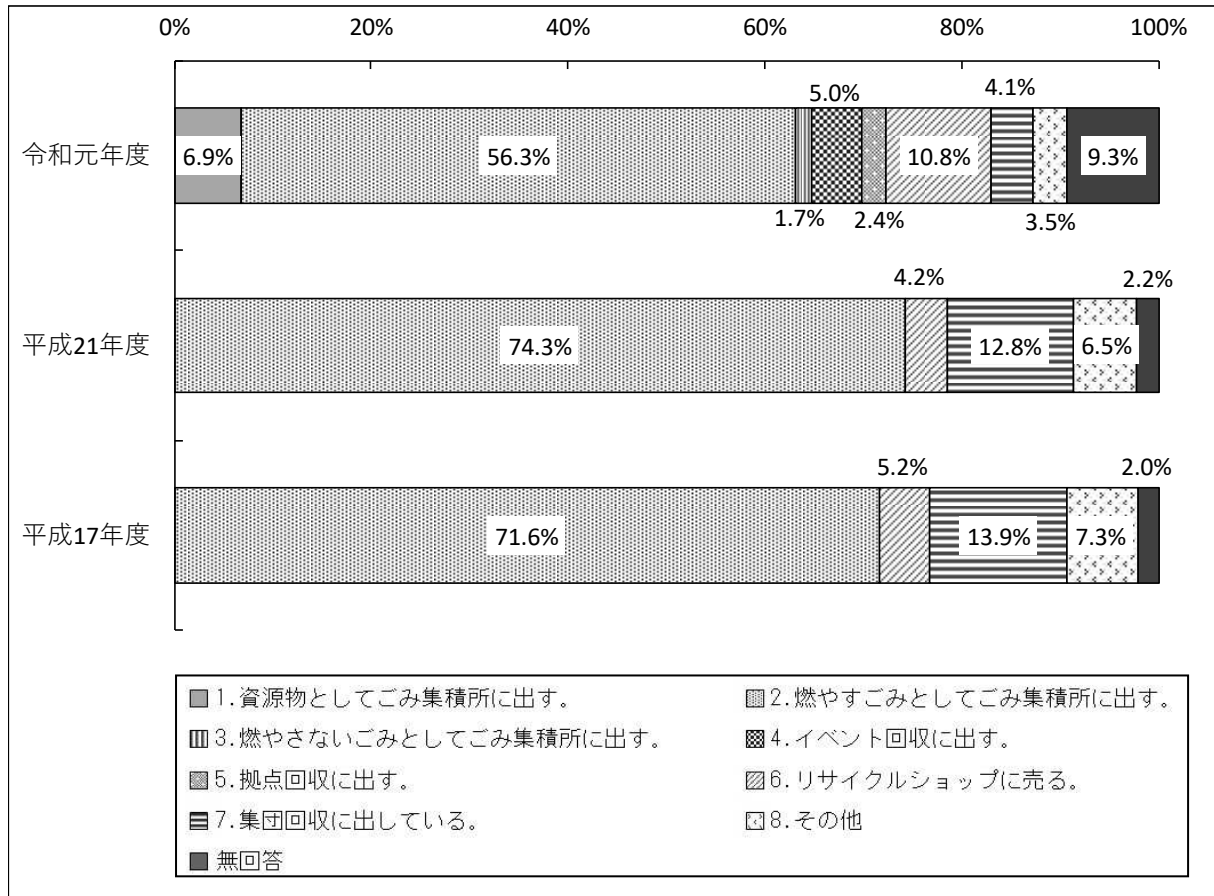


図 2.3.140 古布、古着の排出方法についての経年変化

キ) 乾電池

乾電池の排出方法について経年変化をみると、今回の調査から「集団回収に出している。」の選択肢が追加されたが、割合は低くなっている。経年変化をみると、「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」の割合が高くなっている。

なお、「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」との回答が1.6%みられた。

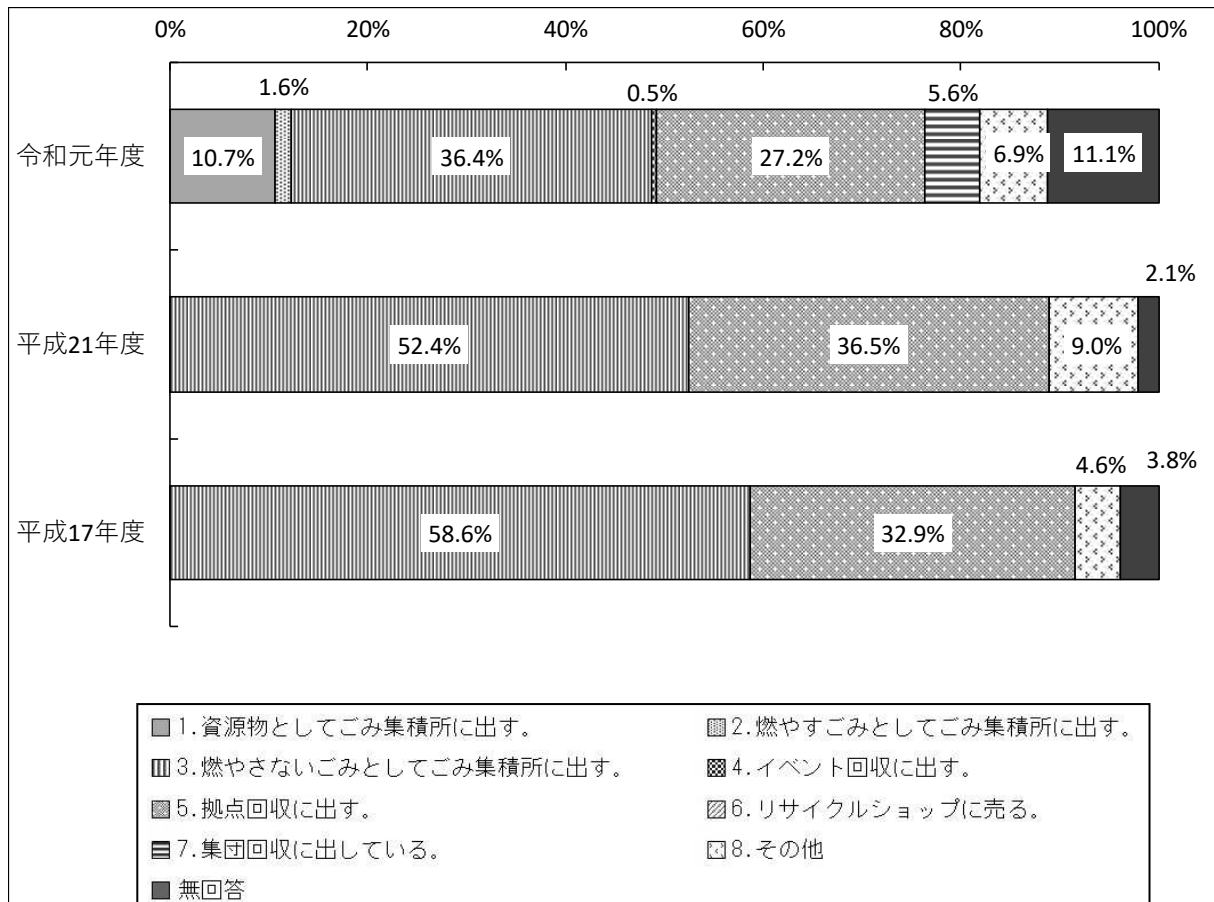


図 2.3.141 乾電池の排出方法についての経年変化

ク) 廃食油（天ぷら油等の食用油）

廃食油（天ぷら油等の食用油）の排出方法について経年変化をみると、今回の調査から「資源物としてごみ集積所に出す。」、「集団回収に出している。」の選択肢が追加されたが、割合は低くなっている。経年変化をみると、「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」の割合は低くなっている。

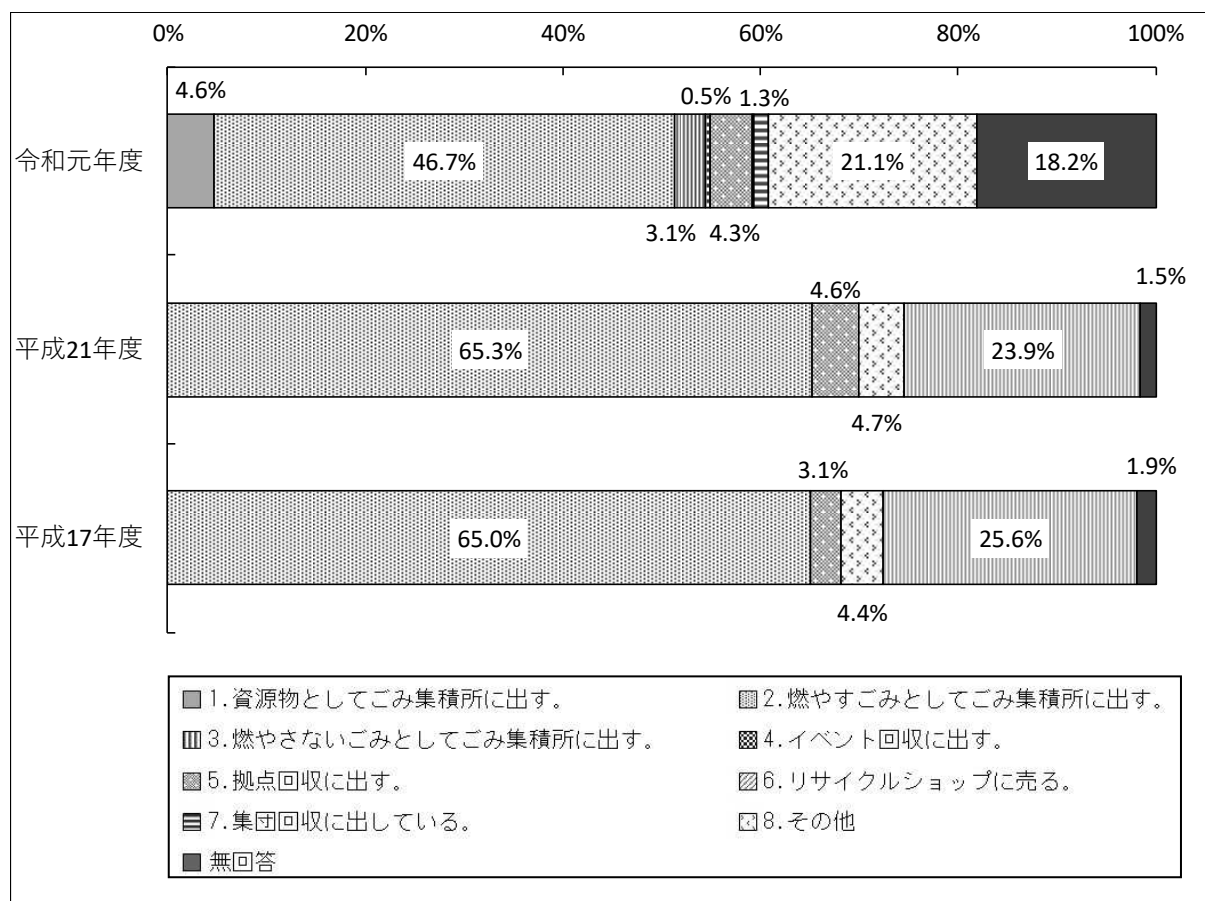


図 2.3.142 廃食油（天ぷら油等の食用油）の排出方法についての経年変化

2.3.18 まとめ

区民のごみ減量に対する意識調査結果の概要を表 2.3.57～表 2.3.59 に示す。また、特に重要と思われる結果について以下に整理し、調査結果から考えられる状況について考察する。

(1) 回答者の属性について

回答者の属性について経年変化をみると、「男性」の回答者の割合は増加しているが、過年度の調査結果同様、回答者の半数以上を「女性」が占めている。年代についてみると、「60代」の回答者の割合が低くなり、「20代」～「50代」の割合が高くなっている。また、世帯人数についてみると、「4人」以上の割合が低くなり、「1人」の割合が高くなっている。また、居住年数について、これまでは「20年以上」が半数以上を占めていたが、今回の調査では 35.0%と低くなっている。

(2) ごみに関する情報の入手先

ごみに関する情報の入手先についてみると、「資源物とごみの分け方・出し方パンフレット」が 47.5%、「墨田区のホームページ(資源・ごみ・リサイクル関連のページ)」が 43.4%、「資源物とごみの収集カレンダー」が 42.6%の順であった。年代が上がるほど「資源物とごみの分け方・出し方パンフレット」、「すみだ区報」で情報を入手している回答者が多くなっている。また、「墨田区のホームページ」で情報を入手しているのは 30代が最も多く、次いで 40代、20代の順となっているほか、「資源物とごみの収集カレンダー」で情報を入手しているのは 50代が最も多く、次いで 70代、60代の順となっている。なお、2018年7月から運用されている「墨田区のホームページ(チャットボット)」は 3.5%と低く、普及率を高めることが課題である。

また、区のごみ処理や情報公開に関する満足度についてみると、「どちらかといえばそう思う。」が 35.1%と、割合としては最も高かったが、次いで「分からない。」が 30.0%となっており、自由意見にも「区民への広報、周知の方法改善の要望・意見」の記載が 37件あることから、より効果的な区からの情報提供を検討していくことが、施策の認知度や情報公開に関する満足度を高めていくことに繋がるものと考えられる。

(3) 区の施策の認知度、満足度について

区の施策の認知度についてみると、「生ごみの水切り励行」、「拠点回収の実施」、「雑がみの資源物排出の協力強化」の順であった。なお、もっとも認知度が高かった「生ごみの水切り励行」でも認知度は 30%未満となっており、「20代」は総じて施策の認知度が低くなっている。

また、区の施策に関する満足度についてみると、「分からない。」の割合が 32.5%と、区のごみ処理や情報公開、清潔さに関する満足度を問う設問と比較して高くなっている。属性別にみると、年代が上がるほど「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」の割合が高くなっているが、20代、30代では「分からない。」の割合が高くなっている。

以上のことから、特に30代以下に対しては、区の施策の普及が十分ではないことが伺えるため、上記「(2) ごみに関する情報の入手先」の結果も踏まえながら施策の普及方法を検討していく必要があると考えられる。

(4) 粗大ごみについて

収集に関する満足度について、燃やすごみ、燃やさないごみ、資源物の満足度については「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」の合計が80%以上となっているが、粗大ごみの満足度については70%以下となっており、「そう思う。」の割合も49.8%と他の項目と比較して低くなっている。また、自由意見に「粗大ごみの処理方法改善の要望・意見」の記載が27件あることも、上記の結果を反映しているものと考えられる。

本報告書の「1. 家庭ごみ及び事業系ごみの排出実態調査」の結果より、粗大系ごみ・適正処理困難物が燃やさないごみとして不適正に排出されている状況がみられることから、上記の粗大ごみの収集方法への満足度の低さが燃やさないごみへの不適正排出に影響を与えていることが考えられる。

表 2.3.57 区民のごみ減量に対する意識調査結果の整理 (1)

項目	調査結果のまとめ
回答者の属性 (経年変化)	<ul style="list-style-type: none"> 性別について、経年変化で見ると男性の割合は増加しているが、回答者の割合は半数以上が女性となっている。 年代について、「60代」の回答者の割合が低くなり、「20代」～「50代」の割合が高くなっている。 世帯人数について、「4人」以上の割合が低くなり、「1人」の割合が高くなっている。 居住年数について、これまで半数以上を占めていた「20年以上」の割合が低くなっている。
燃やすごみ、燃やさないごみの排出量	<ul style="list-style-type: none"> 燃やすごみの排出量について、1回に出すごみの量は、レジ袋大(約15L)で、「約1袋～3袋」の回答者の割合が3/4以上を占める。 燃やさないごみの排出量について、1回に出すごみの量は、レジ袋大(約15L)で、「出さない～約1袋」の回答者の割合が80%以上を占める。
資源物の排出方法 (経年変化)	<ul style="list-style-type: none"> 廃食油以外の資源物について、「集団回収に出している。」の割合は低くなっている。 缶、びんの排出方法について、経年変化をみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」の割合が低くなり、「燃やさないごみとしてごみ集積所に出す。」の割合が高くなっている。 ペットボトル、食品トレーの排出方法について、経年変化をみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」の割合が低くなり、「燃やすごみとしてごみ集積所に出す。」の割合が高くなっている。 古布、古着の排出方法について、経年変化をみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」、「リサイクルショップに売る。」の割合が増加している。 廃食油の排出方法について、経年変化をみると、「資源物としてごみ集積所に出す。」、「集団回収に出している。」の選択肢が追加されたが、割合は低くなっている。
ごみに関する情報の入手先	<ul style="list-style-type: none"> 情報の入手先について、「資源物とごみの分け方・出し方パンフレット」、「墨田区のホームページ(資源物・リサイクル関連のページ)」、「資源物とごみの収集カレンダー」の順であった。 年代が上がるほど「資源物とごみの分け方・出し方パンフレット」、「すみだ区報」で情報を入手している回答者が多くなっている。 「墨田区のホームページ(資源物・リサイクル関連のページ)」で情報を入手しているのは30代が最も多く、次いで40代、20代の順となっている。 「資源物とごみの収集カレンダー」で情報を入手しているのは50代が最も多く、次いで60代、30代の順となっている。

表 2.3.58 区民のごみ減量に対する意識調査結果の整理 (2)

項目	調査結果のまとめ
区のごみ処理や情報公開に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> 区のごみ処理や情報公開に関する満足度について、「どちらかといえばそう思う。」、「分からない。」、「そう思う。」の順であった。 年代が上がるほど「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」の割合が高くなる傾向がみられるが、30代は他の年代と比較して低くなっている。 世帯人数が「4人」、居住年数が「1年以上～3年未満」、居住形態が「寮、官舎、下宿等」の回答者の満足度が低くなっている。
ごみに関する関心度	<ul style="list-style-type: none"> ごみへの関心度について、「関心があり、普段からごみの減量や分別等を心がけて行動している。」、「関心があり、時々のごみの減量や分別等を心がけて行動している。」の2項目で約80%を占めている。 年代が上がるほど「関心があり、普段からごみの減量や分別等を心がけて行動している。」、「関心があり、時々のごみの減量や分別等を心がけて行動している。」の割合が高くなっている。 経年変化をみると、「行動している。」の割合は高くなっており、「どちらともいえない。」または「特に関心がない。」の割合は低くなっている。
ごみに関する行動	<ul style="list-style-type: none"> ごみに関する行動について、「資源物とごみの分別をしている。」、「生ごみは水をよく切って出している。」、「買い物袋を持参し、レジ袋はできるだけもらわない。」の順となっている。 「資源物とごみの分別をしている。」はどの年代でも高い結果となっている。 年代が上がるほど「生ごみは水をよく切って出している。」の割合が高くなる傾向がみられるが、30代は20代よりも割合が低くなっている。 経年変化をみると、「詰め替え商品の購入」、「買い物袋の持参」、「少量売り商品の購入」、「リサイクルショップやフリーマーケットの利用」の割合は高くなっている一方、「余分な購入を控える」、「過剰包装を断る」、「故障しても修理して使う」の割合は低くなっている。
食品ロスに関する認知度、取り組み意欲	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロスの定義に関するクイズの正解率は48.7%であった。また、食品ロス発生量に関するクイズの正解率は90.9%であった。 食品ロスを減らすために取り組めることについて、「冷凍保存を活用する。」、「残さず食べるようにする。」、「賞味期限を過ぎてもすぐには捨てず、自分で食べられるかを判断する。」の順となっている。 年代が上がるほど「料理を作りすぎないようにする。」の割合が高くなっている。
容器包装プラスチック分別収集への協力度	<ul style="list-style-type: none"> 容器包装プラスチック分別収集への協力について、「積極的に分別に協力したい。」、「できる範囲で協力したい。」の2項目で約90%となっている。 「積極的に分別に協力したい。」、「できる範囲で協力したい。」の合計が最も高いのは60代であり、30代は他の年代と比較して低くなっている。 「ごみ集積所のない集合住宅」の回答者は、「積極的に分別に協力したい。」、「できる範囲で協力したい。」の割合が低くなっている。
容器包装プラスチックの拠点回収への協力度	<ul style="list-style-type: none"> 容器包装プラスチックの拠点回収への協力について、「できる範囲で協力したい。」、「積極的に分別に協力したい。」の2項目で80%以上となっている。 年代が高くなるほど「できる範囲で協力したい。」、「積極的に分別に協力したい。」の割合が高くなる傾向がみられ、60代が最も高くなっている。 「ごみ集積所のない集合住宅」の回答者は、「できる範囲で協力したい。」、「積極的に分別に協力したい。」の割合が低くなっている。
区の施策の認知度及び協力状況	<ul style="list-style-type: none"> 区の施策の認知度について、「生ごみの水切り励行」、「拠点回収の実施」、「雑がみの資源物排出の協力強化」の順であった。 施策への協力について、全体的に「無回答」の割合が高くなっている。 50代以上では「生ごみの水切り励行」の認知度が30%以上となっているが、40代以下では30%以下となっている。 「生ごみの水切り励行」、「拠点回収の実施」の認知度は50代が最も高い。一方、20代は総じて施策の認知度が低くなっている。

表 2.3.59 区民のごみ減量に対する意識調査結果の整理 (3)

項目	調査結果のまとめ
ごみの分別に関する問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題なく分別できる。」の割合が低い品目は、「食品トレー」、「古布、古着」、「廃食油」、「小型家電」、「家電リサイクル法対象品」であった。 ・「分別区分が分からない。」の割合が高い品目は、「燃やさないごみ」、「古紙（新聞・段ボール・紙パック・雑誌・雑がみ）」、「食品トレー」、「古布、古着」、「金属製調理器具（鍋・やかん・フライパン）」、「乾電池」、「廃食油」、「小型家電」、「粗大ごみ」であった。 ・「分別して出すのに手間がかかる。」の割合が高い品目は、「燃やすごみ（生ごみ・プラスチック類を含む）」、「古紙（新聞・段ボール・紙パック・雑誌・雑がみ）」、「缶」、「びん」、「ペットボトル」、「食品トレー」であった。 ・「複数の素材があるため、分別できない。」の割合が高い品目は、「燃やすごみ（生ごみ・プラスチック類を含む）」、「燃やさないごみ」であった。 ・「どこまで汚れを落とせばよいか分からない。」の割合が高い品目は、「缶」、「びん」であった。
区のごみ、資源物収集頻度に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・燃やすごみ、燃やさないごみ、資源物の収集頻度に関する満足度について、「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」の合計が80%以上となっているが、粗大ごみの収集に関する満足度は、70%以下となっており、「そう思う。」の割合も49.8%と低くなっている。
区の施策に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・区の施策に関する満足度について、「どちらかといえばそう思う。」、「分からない。」、「そう思う。」の順であった。 ・年代が上がるほど「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」の割合が高くなっているが、20代、30代では「分からない。」の割合が高くなっている。 ・世帯人数が「4人」、居住年数が「1年以上～3年未満」、居住形態が「ごみ集積所のない集合住宅」及び「寮、官舎、下宿等」に該当する回答者の満足度が低くなっている。
区の清潔さに関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・区の清潔さに関する満足度について、「どちらかといえばそう思う。」、「そう思う。」、「どちらかといえばそう思わない。」の順であった。 ・「そう思う。」、「どちらかといえばそう思う。」の割合が最も高いのは「40代」であり、最も低いのは「50代」であった。
自由意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「区民への広報、周知の方法改善の要望・意見」(37件) ・「区のごみ、資源物の収集方法への要望・意見」(32件) ・「区民への啓発・指導（ごみ出しマナーが悪い人への指導を含む）の要望・意見」(31件) ・「粗大ごみの処理方法改善の要望・意見」(27件) ・「区のごみ、資源物の分別区分（プラスチックごみ回収の要望を含む）への要望・意見」(20件) <p>※件数は重複を含む。</p>

3. 事業所のごみ減量に対する意識調査

3.1 調査概要

3.1.1 調査の目的

事業所のごみ減量に対する意識調査は、事業所のごみの排出状況や意見等を把握し、家庭ごみと事業系ごみの割合の検証や区のごみ処理における課題の抽出、施策の検討等に利用する基礎情報の取得を目的として実施した。

3.1.2 調査内容

墨田区内の事業所を対象とした意識調査は、区民を対象とした意識調査と同様、これまでに2回（平成16年度及び平成21年度）実施されている。

今年度の意識調査は、主に行政収集を行っている事業所を対象として実施し、家庭ごみと事業系ごみ及び一般廃棄物と産業廃棄物の分別状況等を確認する設問としている。

各設問のねらいを表3.1.1に示す。

表 3.1.1 各設問のねらい

設問	ねらい
問1	ごみ集積所への排出有無の確認
問2	家庭ごみと事業系ごみの分別状況の把握
問3	一般廃棄物収集運搬許可業者に委託していない理由の把握
問4	食品ロス削減推進法の認知度の把握
問5	食品ロス削減策の実施状況の把握
問6	食品ロス削減策を実施していない理由の把握
問7	ごみの排出・分別状況及び排出量の把握
問8	廃プラスチックが産業廃棄物に分類されることについての理解度の把握
問9	ごみ排出量の変化に対する認識の把握
問10	ごみの減量化、資源化、分別に関する取り組みの実施状況の把握
問11	ごみの減量や資源化に取り組む理由の把握
問12	ごみの減量や資源化に取り組むうえでの問題点の把握
問13	ごみの減量化、資源化を検討している品目の把握
問14	ごみに関する情報の入手先の把握
問15	必要と考えている施策の把握
問16	自由意見の収集
問17	包装材、レジ袋等の使用状況の把握（『小売店』『販売店』限定）
問18	ごみの減量やリサイクルの取り組みの把握（『小売店』『販売店』限定）

3.1.3 調査対象

今年度の意識調査は、主に行政収集を行っている事業所を対象として実施した。調査対象事業所の抽出方法は以下のとおりである。

- ① 「主に行政収集を行っている事業所」の特徴として、事業規模が小さいことが挙げられることから、入手した企業情報から中小企業を抽出して調査対象とした。中小企業の定義は中小企業基本法によるものとし、資本金の額が一定額以下（業種によって異なる）または常時使用する従業員の数が一定数以下（業種によって異なる）の企業とした。
- ② 特定の業種の企業に偏ってアンケートが発送されることを避けるため、墨田区における各業種の事業所数及びその割合を把握し、発送予定枚数である1,000件にその割合を乗じることで、各業種への発送枚数を決定した。なお、業種の分類は、日本標準産業分類の大分類としている。
- ③ ①で抽出した中小企業から、②で決定した各業種への発送枚数分の企業を抽出して調査対象とした。ただし、②で決定した発送枚数分の中小企業が抽出できない業種（医療・福祉等）については、入手した企業情報の中から無作為抽出を行って不足数を補填した。
- ④ 上記の1,000件に加えて、事業系ごみ排出実態調査時に、有料ごみ処理券に社名が記載されていた事業所については、調査対象とした。（11件）

表 3.1.2 調査対象事業所の内訳（抽出による1,000件）

分類	事業所数※	割合	アンケート 発送数
農業・林業	0	0%	0
漁業	0	0%	0
鉱業・採石業・砂利採取業	0	0%	0
建設業	931	6.0%	60
製造業	3,129	20.2%	202
電気・ガス・熱供給・水道業	4	0.03%	1
情報通信業	176	1.1%	11
運輸業・郵便業	267	1.7%	17
卸売業・小売業	4,197	27.1%	271
金融業・保険業	181	1.2%	12
不動産業・物品賃貸業	1,106	7.1%	71
学術研究・専門・技術サービス業	559	3.6%	36
宿泊業・飲食サービス業	1,990	12.8%	128
生活関連サービス業・娯楽業	923	6.0%	60
教育、学習支援業	292	1.9%	19
医療・福祉	994	6.4%	64
複合サービス業	38	0.2%	2
サービス業（他に分類されないもの）	705	4.6%	46
合計	15,492	100%	1,000

※墨田区勢概要 2018 より

3.1.4 調査期間

アンケートの発送	: 2019年10月30日(水)
アンケート回収期限	: 2019年11月18日(月)
お礼状の発送	: 2019年11月13日(水)
アンケートのとりまとめ・分析	: 2019年11月18日(月)～12月27日(金)

3.2 調査方法

調査の実施フローを図3.2.1に示す。

各事業所に対して、郵送によりアンケートを配布し、返信された回答用紙についてデータ整理を行った。

また、回収率の向上を目的として、お礼状をアンケートの発送の2週間後に実施した。

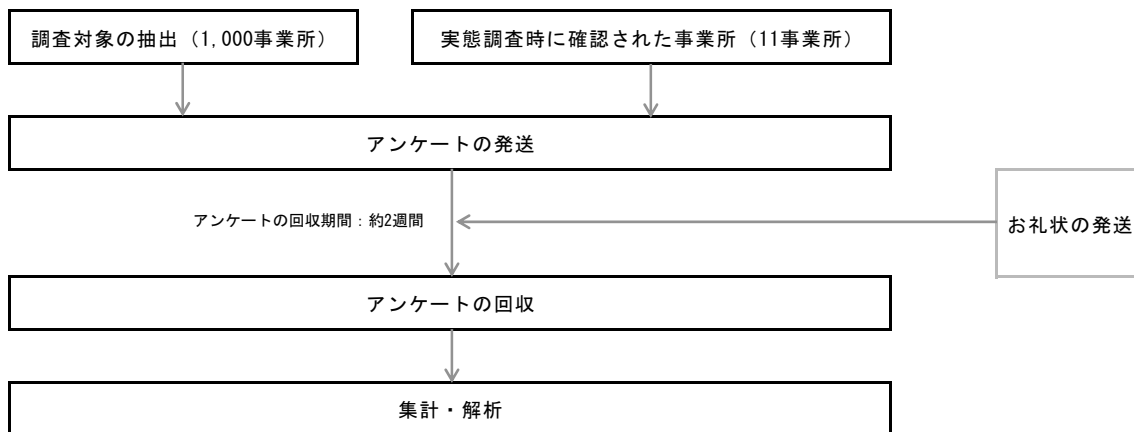


図 3.2.1 アンケートの実施フロー

表 3.2.1 アンケートの回収状況

項目	値	算出式
アンケート発送数	1,011	
無効数 (宛先不明等)	32	
有効数	979	(アンケート発送数) - (無効数)
アンケート回収数	378	
アンケート回収率	38.6%	(アンケート回収数) / (有効数)

3.3 調査結果

事業所のごみ減量に対する意識調査の結果を以下に示す。なお、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

3.3.1 事業所の属性

(1) 業種

回答のあった事業所の業種についてみると、「卸売業、小売業」が25.4%と最も多く、次いで「製造業」が23.3%、「医療、福祉」と「サービス業（他に分類されないもの）」が10.8%の順であった。また、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「複合サービス事業」、「公務」の事業所からの回答はなかった。

表 3.3.1 業種別回答数

項目	回答数	割合
建設業	26	6.9%
製造業	88	23.3%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%
情報通信業	7	1.9%
運輸業、郵便業	5	1.3%
卸売業、小売業	96	25.4%
金融業、保険業	2	0.5%
不動産業、物品賃貸業	14	3.7%
学術研究、専門・技術サービス業	8	2.1%
宿泊業、飲食サービス業	25	6.6%
生活関連サービス業、娯楽業	8	2.1%
教育、学習支援業	4	1.1%
医療、福祉	41	10.8%
複合サービス事業	0	0.0%
サービス業（他に分類されないもの）	41	10.8%
公務	0	0.0%
無回答	13	3.4%
合計	378	100%

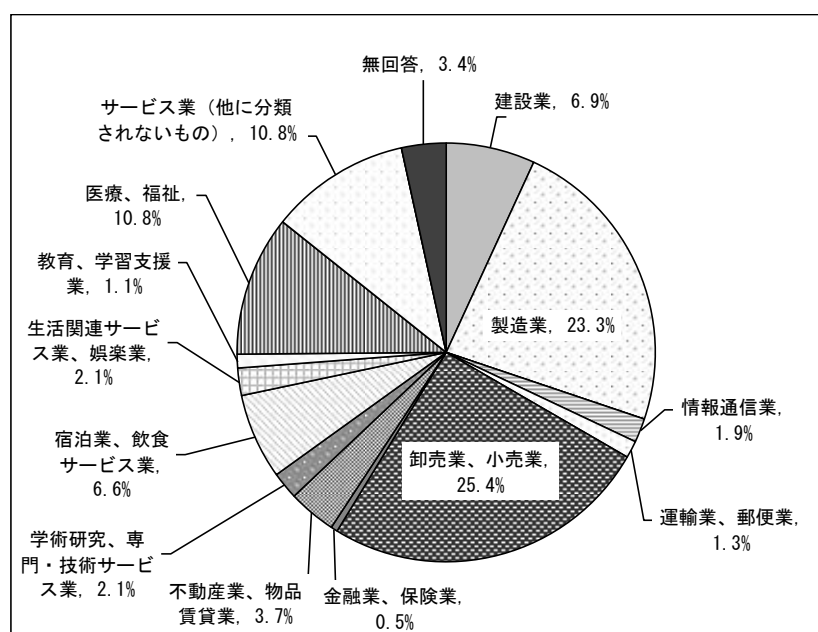


図 3.3.1 業種別回答数

(2) 事業形態

回答のあった事業所の事業形態についてみると、「事務所・営業所」が55.3%と最も多く、次いで「工場・作業所」が9.5%、「病院・医療機関」が8.7%の順であった。

表 3.3.2 事業形態別回答数

項目	回答数	割合
販売店、店舗	25	6.6%
飲食店	20	5.3%
事務所・営業所	209	55.3%
工場・作業所	36	9.5%
倉庫・配送センター	1	0.3%
ホテル・旅館	7	1.9%
学校・保育所・学習施設	4	1.1%
病院・医療機関	33	8.7%
映画館、劇場、娯楽施設等	2	0.5%
その他	13	3.4%
無回答	28	7.4%
合計	378	100%

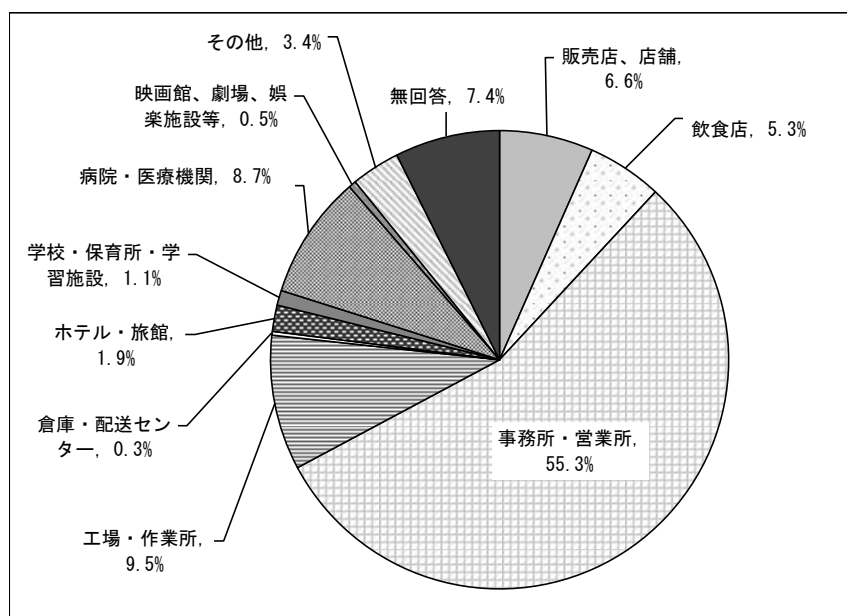


図 3.3.2 事業形態別回答数

(3) 従業員数

回答のあった事業所の従業員数についてみると、「1～4人」が25.9%と最も多く、次いで「5～9人」が25.1%、「10～19人」が18.8%の順であった。

表 3.3.3 従業員数別回答数

項目	回答数	割合
1～4人	98	25.9%
5～9人	95	25.1%
10～19人	71	18.8%
20～29人	38	10.1%
30～49人	30	7.9%
50～99人	26	6.9%
100～199人	9	2.4%
200～299人	1	0.3%
300人以上	5	1.3%
無回答	5	1.3%
合計	378	100%

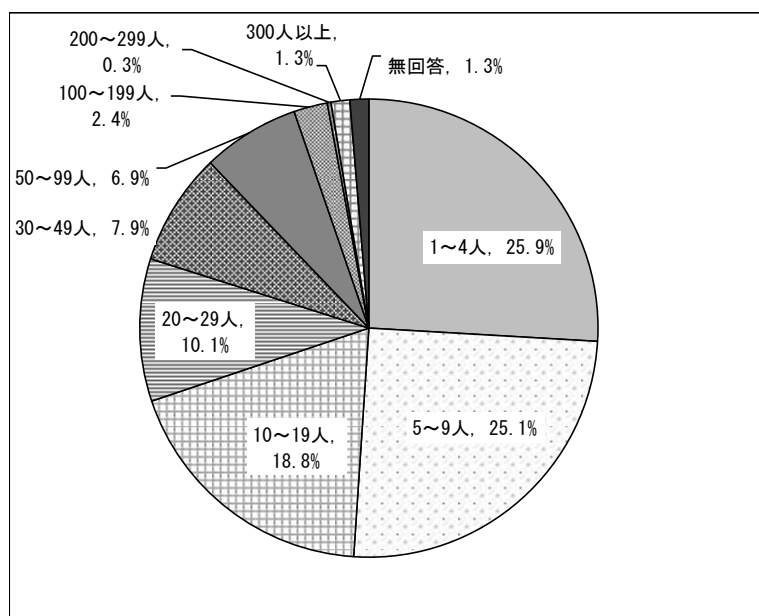


図 3.3.3 従業員数別回答数

(4) 事業所の形態

回答のあった事業所の形態についてみると、「ビル等に入居」が40.5%と最も多く、次いで「単独事業所」が35.4%、「戸建て住宅と兼用」が14.3%の順であった。

表 3.3.4 事業所の形態別回答数

項目	回答数	割合
戸建て住宅と兼用	54	14.3%
共同住宅と兼用	30	7.9%
単独事業所	134	35.4%
ビル等に入居	153	40.5%
無回答	7	1.9%
合計	378	100%

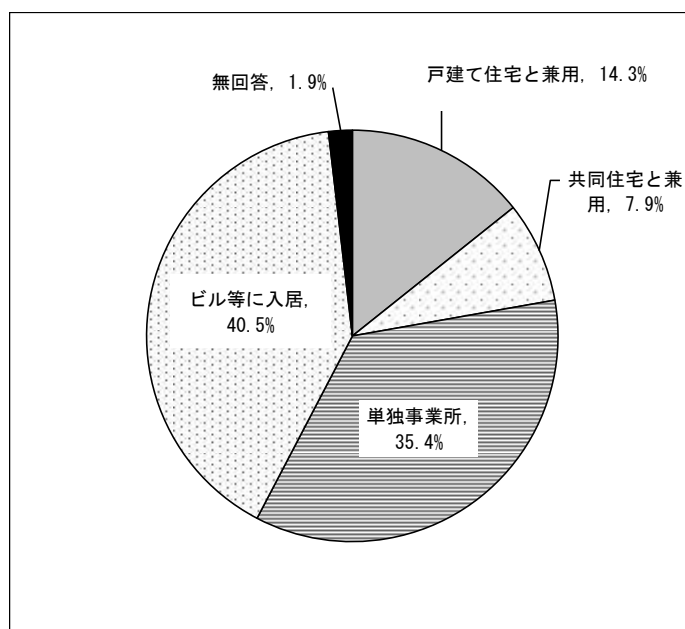


図 3.3.4 事業所の形態別回答数

(5) 墨田区内での営業年数

回答のあった事業所の墨田区内での営業年数についてみると、「20年以上」が56.1%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」が16.9%、「5年以上10年未満」が15.6%の順であった。

表 3.3.5 墨田区内での営業年数別回答数

項目	回答数	割合
1年未満	4	1.1%
1年以上5年未満	35	9.3%
5年以上10年未満	59	15.6%
10年以上20年未満	64	16.9%
20年以上	212	56.1%
無回答	4	1.1%
合計	378	100%

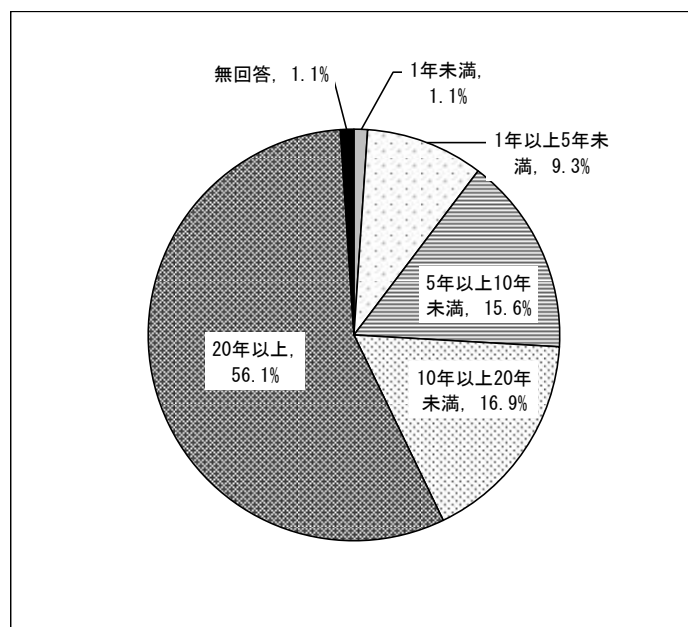


図 3.3.5 墨田区内での営業年数別回答数

(6) 事業所の属性に関する経年変化

回答者の属性の経年変化は以下のとおりである。

事業形態についてみると、「販売店、店舗」、「工場、作業所」の割合が低くなり、「事務所・営業所」の割合が高くなっている。また、従業員数についてみると、抽出条件を反映して、30人未満の事業所の割合が高くなっている。

事業所の形態についてみると、「ビル等に入居」の割合が高くなっている。また、墨田区内での営業年数についてみると、20年以上の割合が半数以上となっている。

表 3.3.6 回答者属性の経年変化

属性項目	平成16年度	平成21年度	今回調査 (令和元年度)
(%)			
(1) 業種			
建設業	10.6	7.4	6.9
製造業	25.3	21.9	23.3
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	0
情報通信業	-	-	1.9
運輸業、郵便業	-	-	1.3
卸売業、小売業	25.4	23.1	25.4
金融業、保険業	-	-	0.5
不動産業、物品賃貸業	-	-	3.7
学術研究、専門・技術サービス業	-	-	2.1
宿泊業、飲食サービス業	6.8	7.0	6.6
生活関連サービス業、娯楽業	-	-	2.1
教育、学習支援業	-	-	1.1
医療、福祉	-	-	10.8
複合サービス事業	-	-	0
サービス業(他に分類されないもの)	-	-	10.8
公務	-	-	0
その他	29.4	32.6	-
無回答	2.4	7.9	3.4
(2) 事業形態			
販売店、店舗	-	16.7	6.6
飲食店	-	7.9	5.3
事務所・営業所	-	37.8	55.3
工場・作業所	-	15.1	9.5
倉庫・配送センター	-	1.4	0.3
ホテル・旅館	-	-	1.9
学校・保育所・学習施設	-	-	1.1
病院・医療機関	-	-	8.7
映画館、劇場、娯楽施設等	-	-	0.5
その他	-	9.4	3.4
無回答	-	11.8	7.4
(3) 従業員数(非正規従業員含む)			
1~4人	33.1	45.8	25.9
5~9人	21.3	14.7	25.1
10~19人	26.2	12.9	18.8
20~29人			10.1
30~49人			7.9
50~99人			6.9
100~199人			2.4
200~299人			0.3
300人以上	-	-	1.3
無回答	1.2	4.1	1.3
(4) 事業所の形態			
戸建住宅と兼用	-	36.3	14.3
共同住宅と兼用	-	13.6	7.9
単独事業所	-	28.4	35.4
ビル等に入居	-	16.6	40.5
無回答	-	5.3	1.9
(5) 墨田区内での営業年数			
1年未満	-	-	1.1
1年以上5年未満	-	-	9.3
5年以上10年未満	-	-	15.6
10年以上20年未満	-	-	16.9
20年以上	-	-	56.1
無回答	-	-	1.1

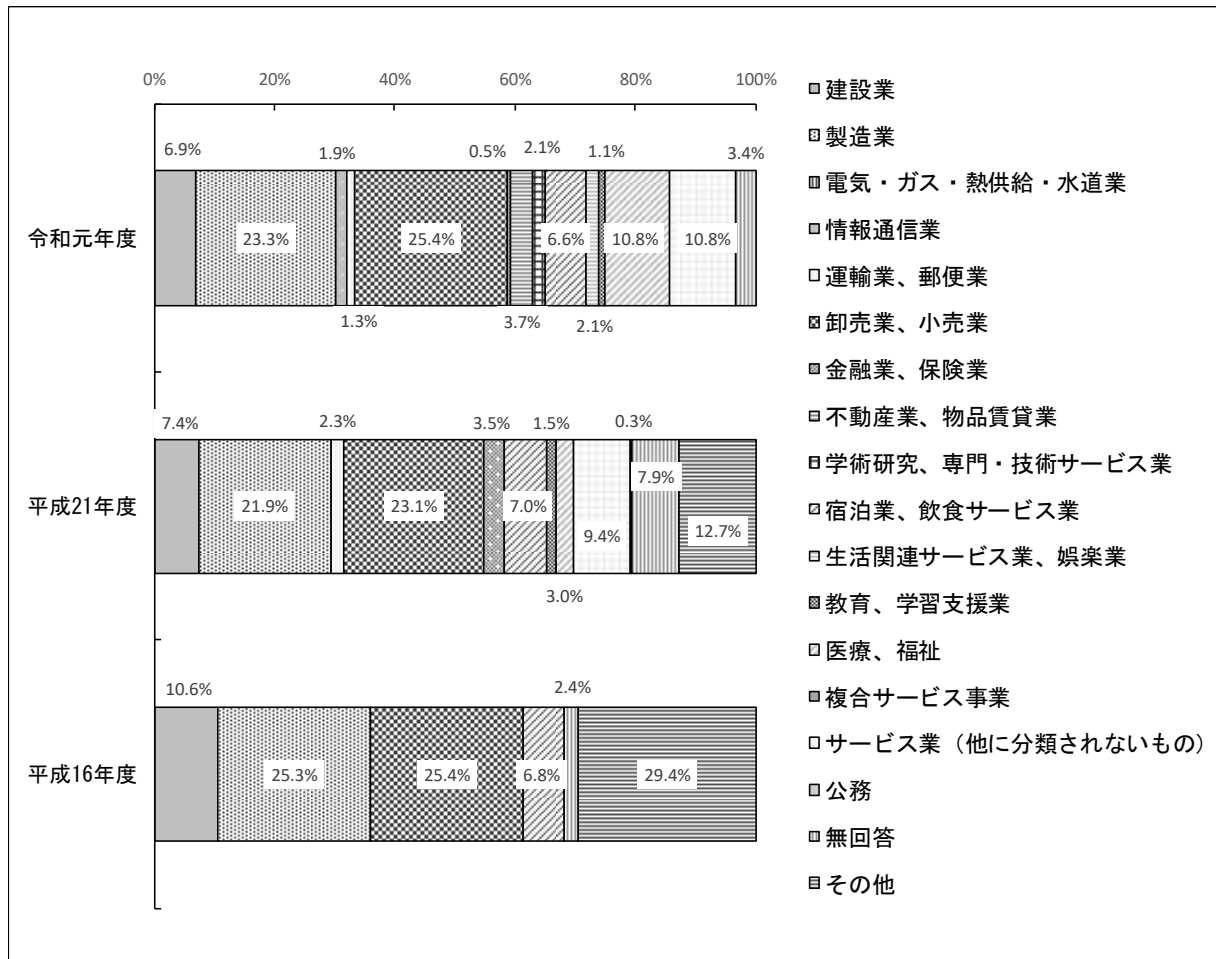


図 3.3.6 回答者属性の経年変化（業種別）

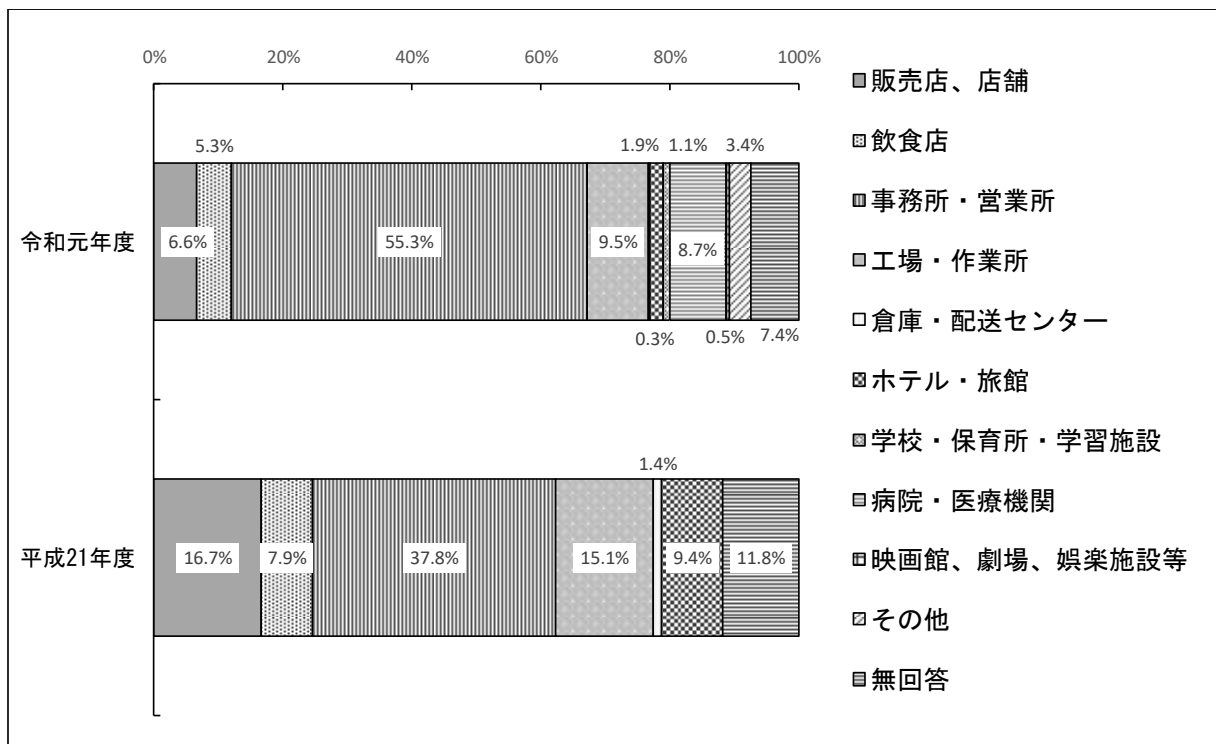


図 3.3.7 回答者属性の経年変化（事業形態別）

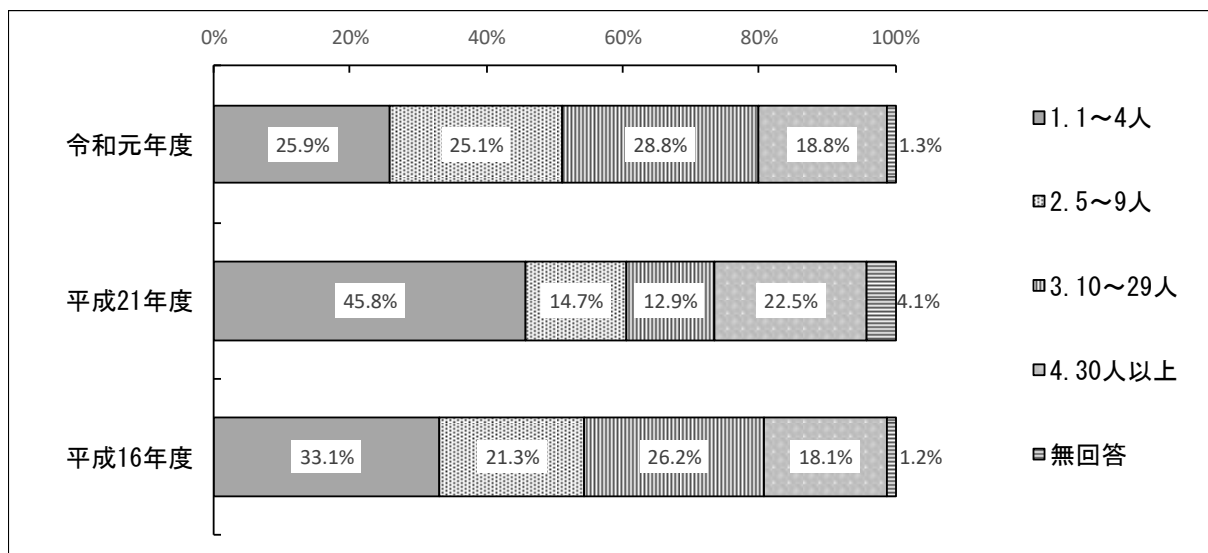


図 3.3.8 回答者属性の経年変化（従業員数別）

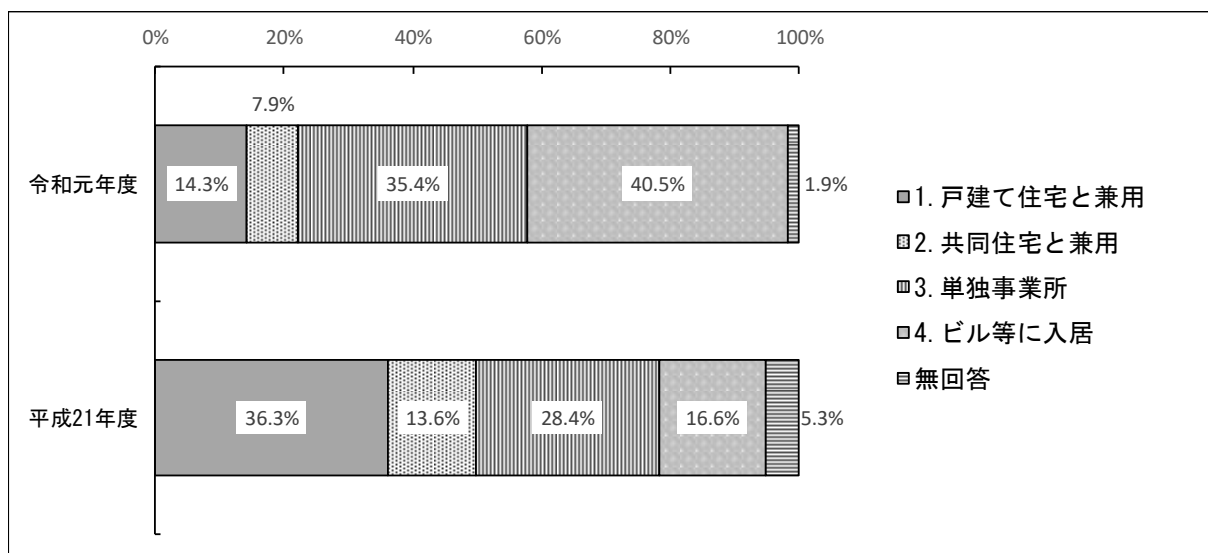


図 3.3.9 回答者属性の経年変化（事業所の形態別）

3.3.2 問1 ごみ集積所への排出有無

ごみ集積所への排出有無についてみると、「出している」と回答した事業所が 60.3%、「出していない」と回答した事業所が 36.5%であった。

表 3.3.7 ごみ集積所への排出有無

項目	回答数	割合
1.出している。	228	60.3%
2.出していない。	138	36.5%
3.分からない。	3	0.8%
無回答	9	2.4%
合計	378	100%

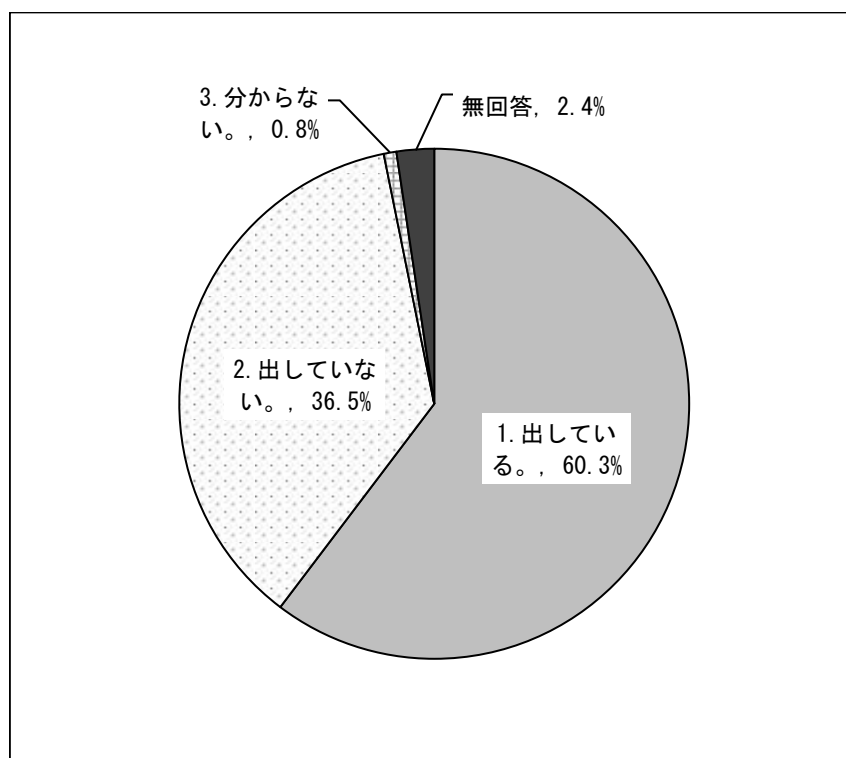


図 3.3.10 ごみ集積所への排出有無

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.11～図 3.3.15 に示す。

「金融業、保険業」以外の業種の事業所は、ごみ集積所へごみを排出している。一方、従業員が 200 人以上の事業所ではごみ集積所へごみを排出していない結果となった。

また、墨田区内での営業年数が 1 年未満の事業所は、ごみ集積所へごみを排出している割合が低くなっている。

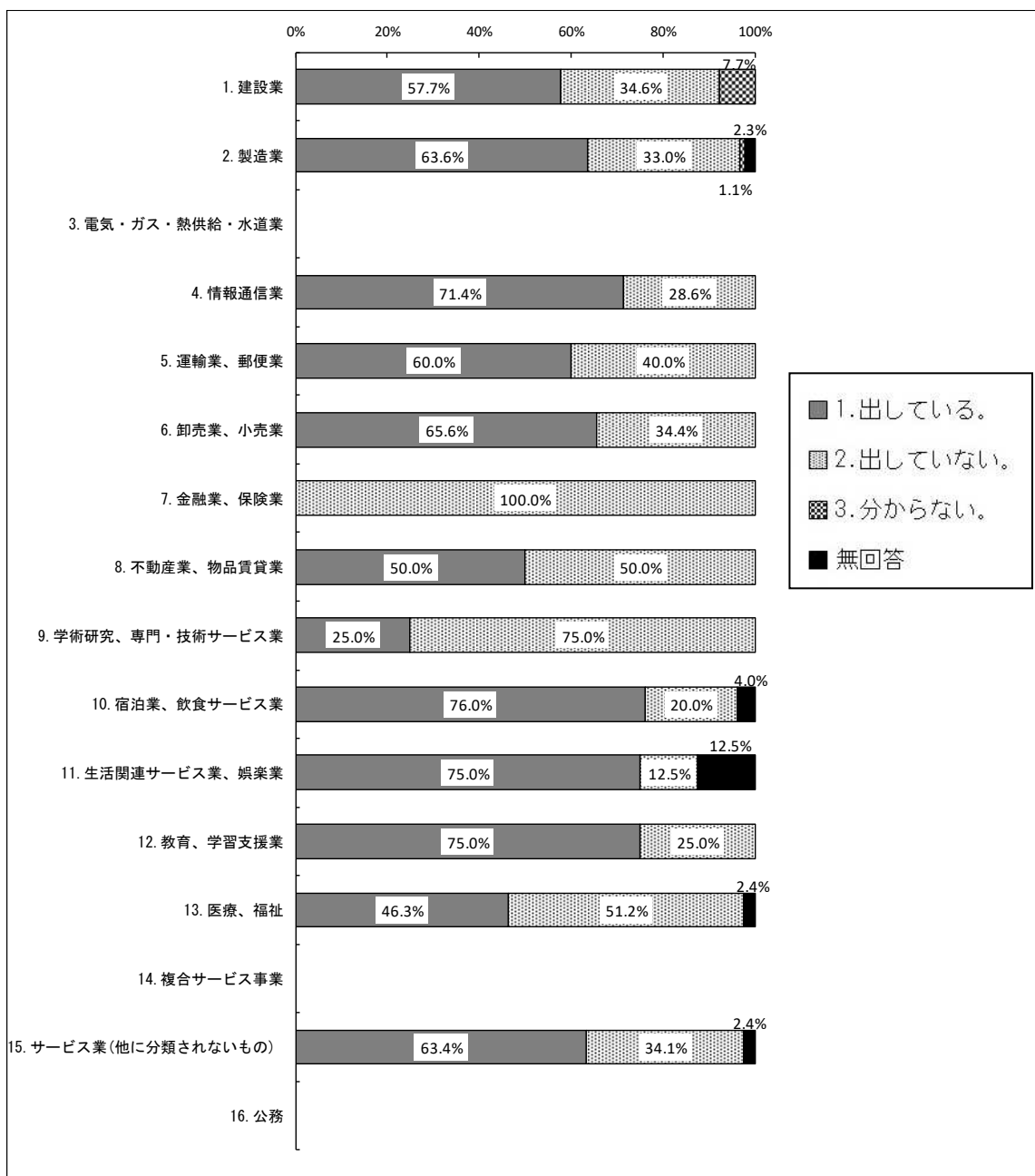


図 3.3.11 ごみ集積所への排出有無（業種別）

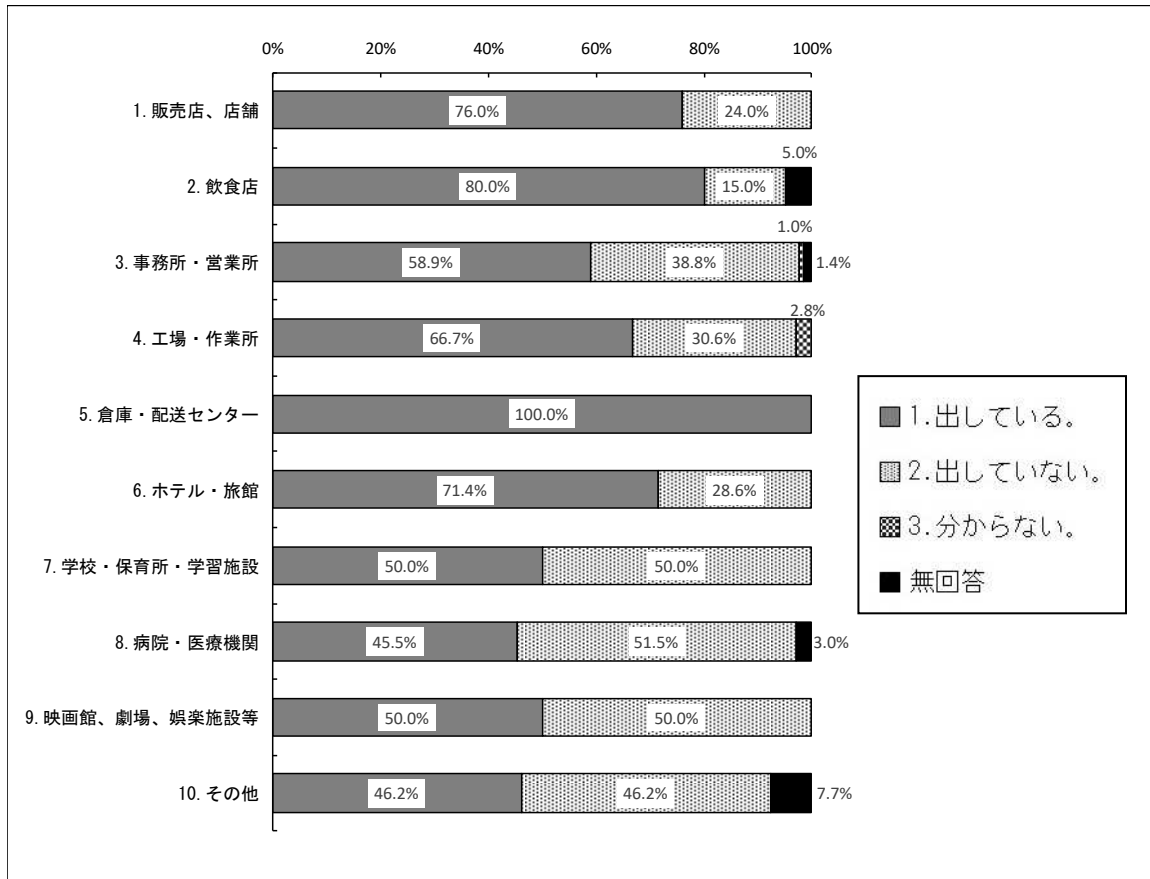


図 3.3.12 ごみ集積所への排出有無（事業形態別）

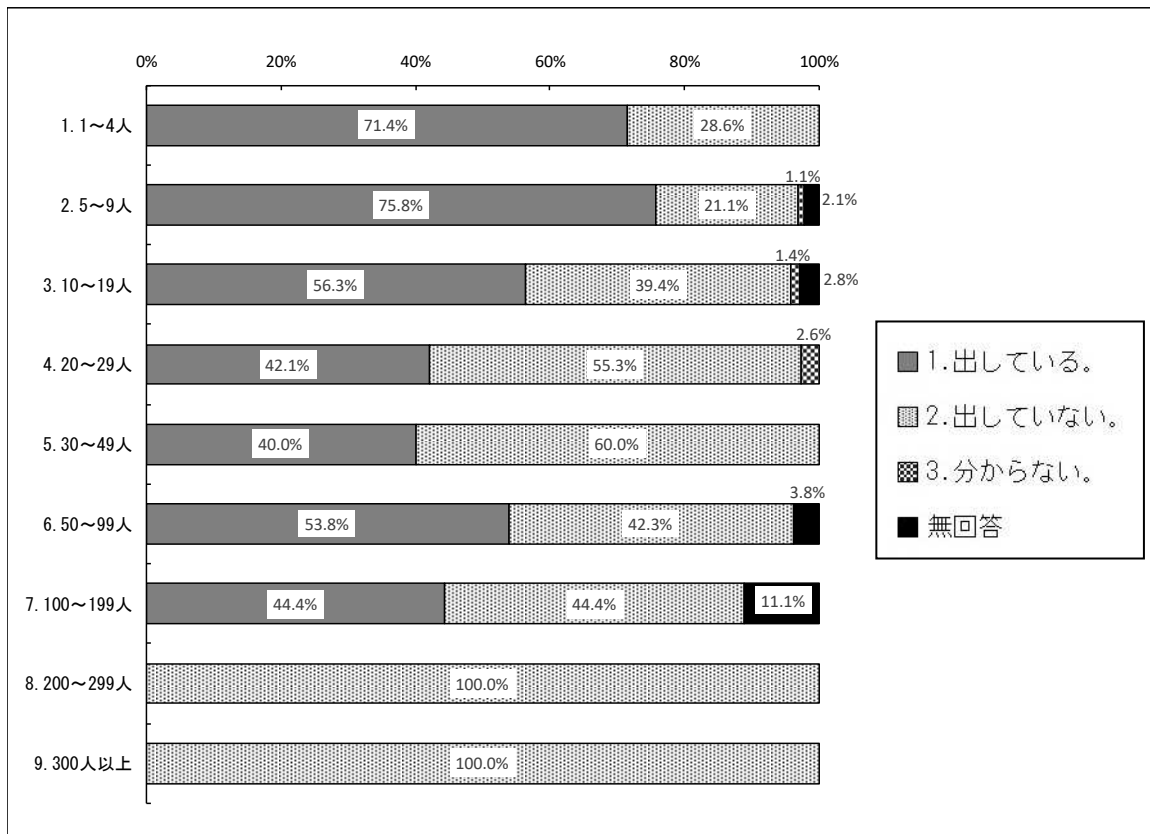


図 3.3.13 ごみ集積所への排出有無（従業員数別）

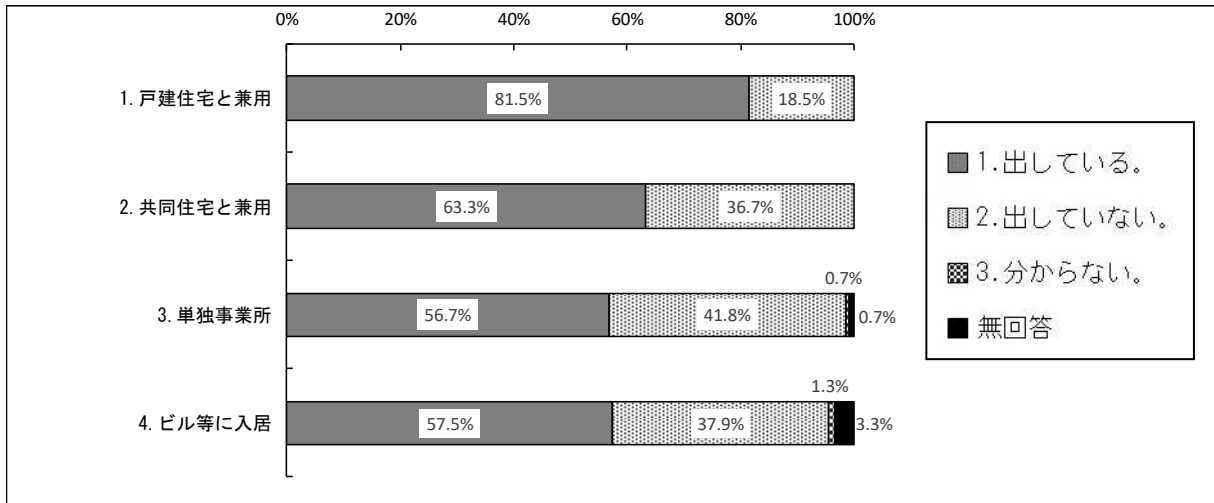


図 3.3.14 ごみ集積所への排出有無（事業所の形態別）

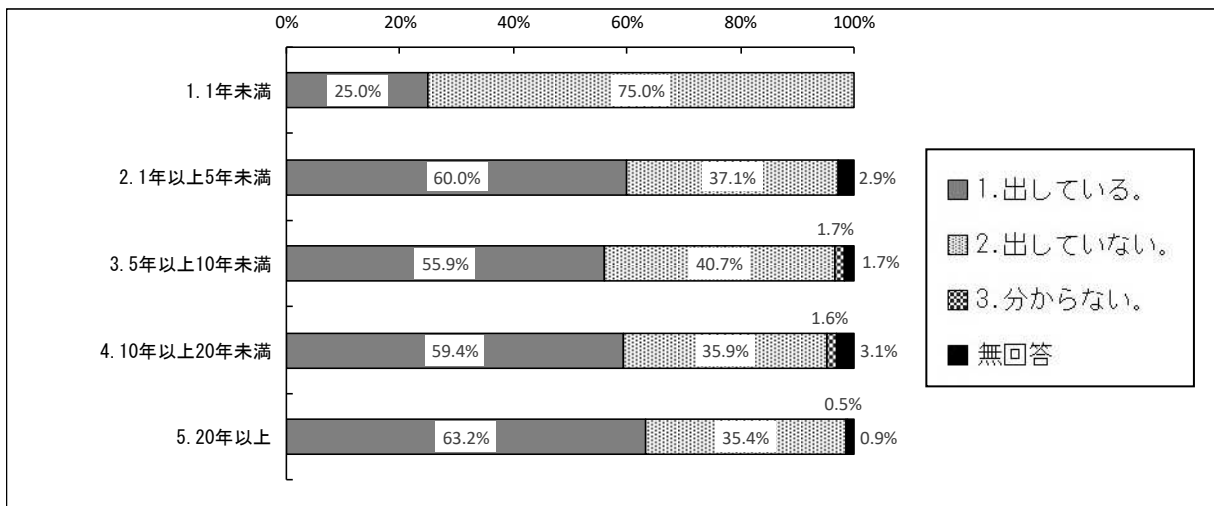


図 3.3.15 ごみ集積所への排出有無（墨田区内での営業年数別）

3.3.3 問2 家庭ごみと事業系ごみの分別状況（住宅併設の事業所のみ回答）

住宅併設の事業所の、家庭ごみと事業系ごみの分別状況についてみると、「分別している。」と回答した事業所が82.5%、「だいたい分別している。」と回答した事業所が7.5%であった。一方、「分別していない。」と回答した事業所が10.0%であった。

表 3.3.8 住宅併設の事業所の家庭ごみと事業系ごみの分別状況

項目	回答数	割合
1.分別している。	66	82.5%
2.だいたい分別している。	6	7.5%
3.分別していない。	8	10.0%
4.分からない。	0	0.0%
合計	80	100%

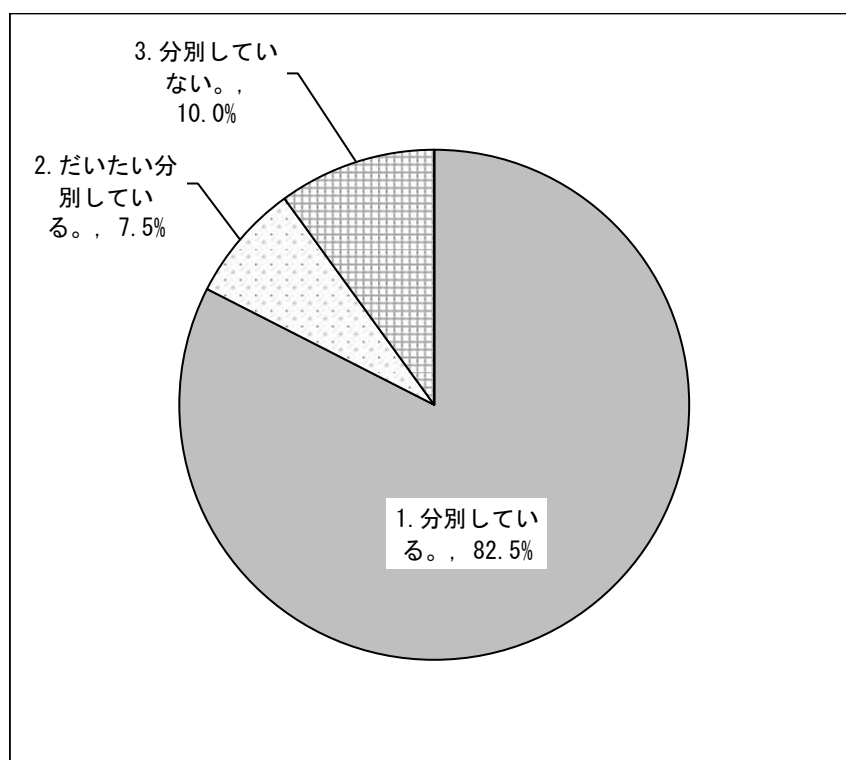


図 3.3.16 住宅併設の事業所の家庭ごみと事業系ごみの分別状況

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.17～図 3.3.21 に示す。

業種でみると、「飲食店」が「分別している。」の割合が低く、「分別していない。」の割合が高い。

墨田区内での営業年数でみると、「5年以上10年未満」が「分別している。」の割合が低く、「分別していない。」の割合が高い。

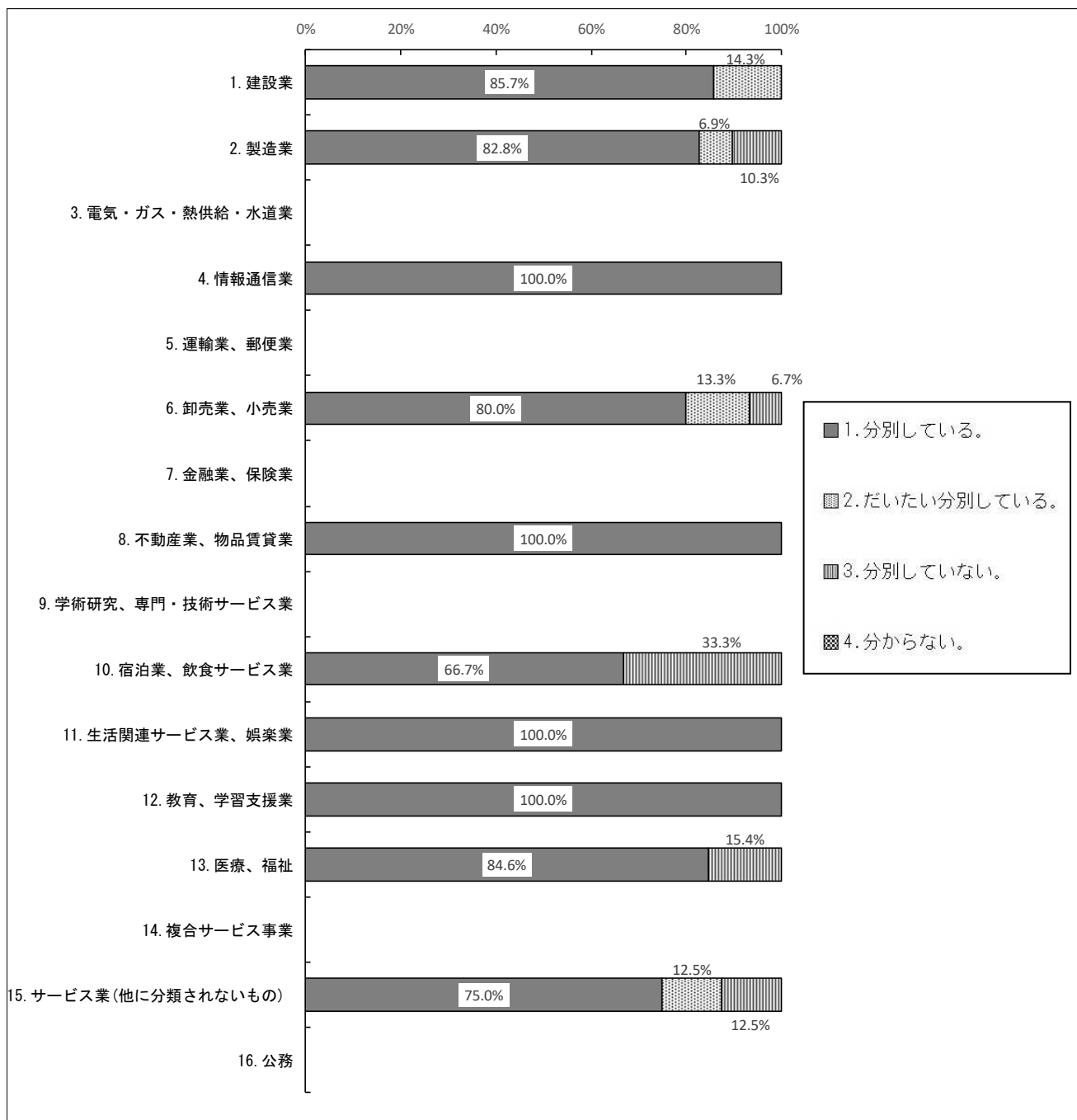


図 3.3.17 住宅併設の事業所の家庭ごみと事業系ごみの分別状況（業種別）

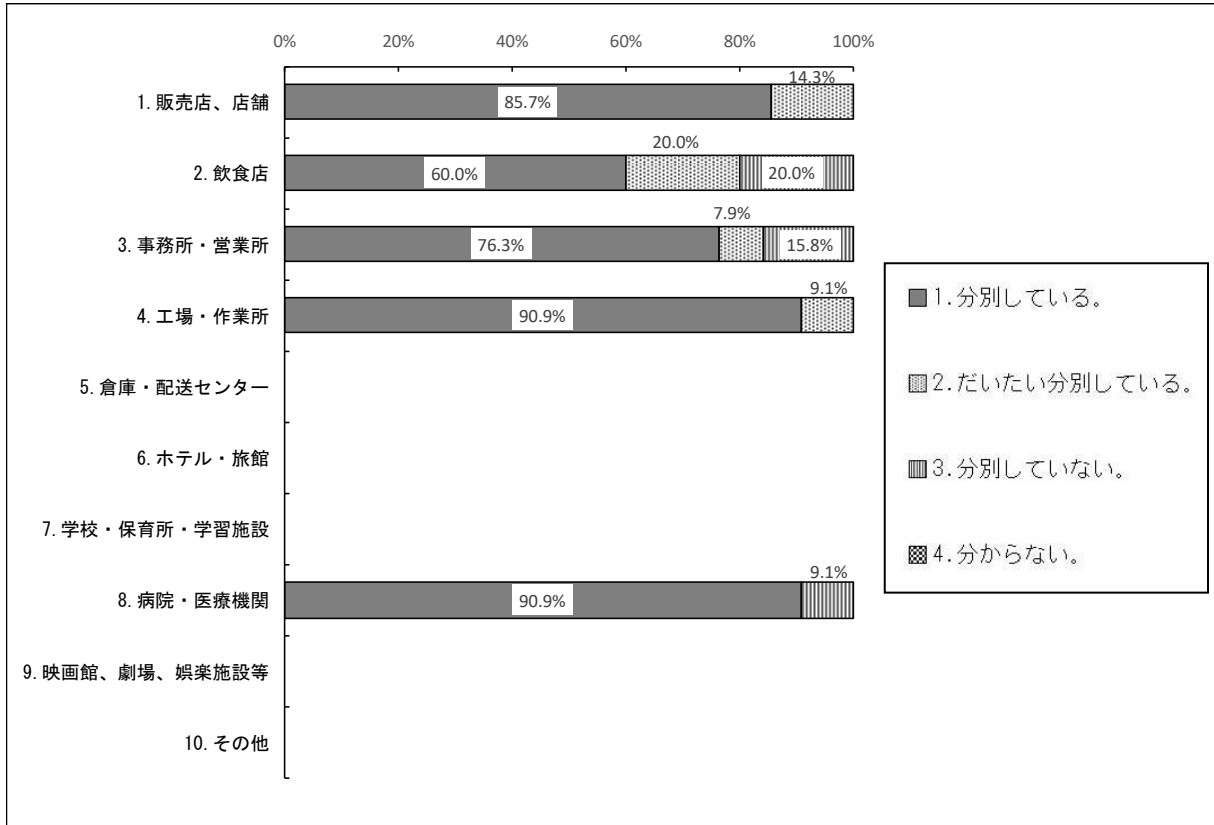


図 3.3.18 住宅併設の事業所の家庭ごみと事業系ごみの分別状況（事業形態別）

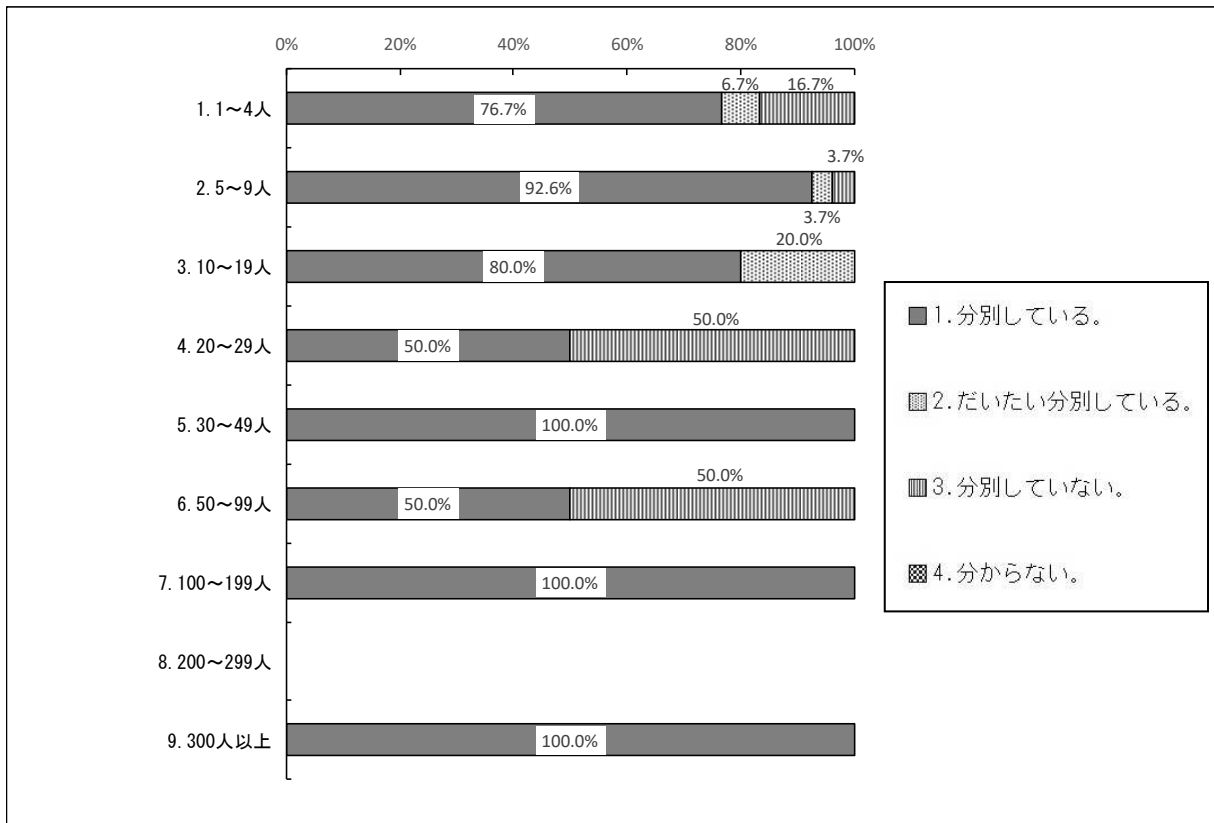


図 3.3.19 住宅併設の事業所の家庭ごみと事業系ごみの分別状況（従業員数別）

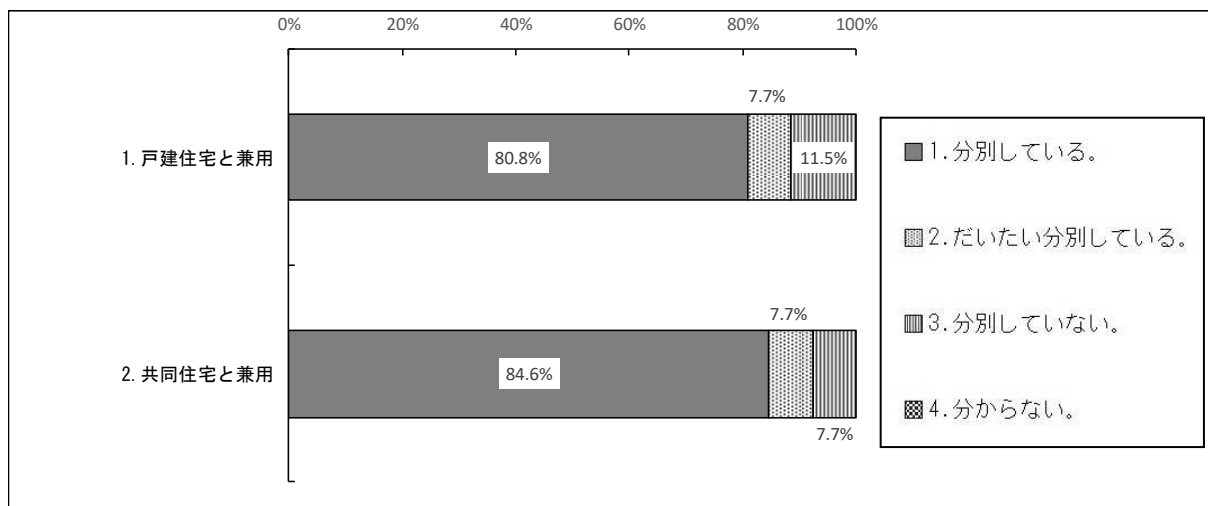


図 3.3.20 住宅併設の事業所の家庭ごみと事業系ごみの分別状況（事業所の形態別）

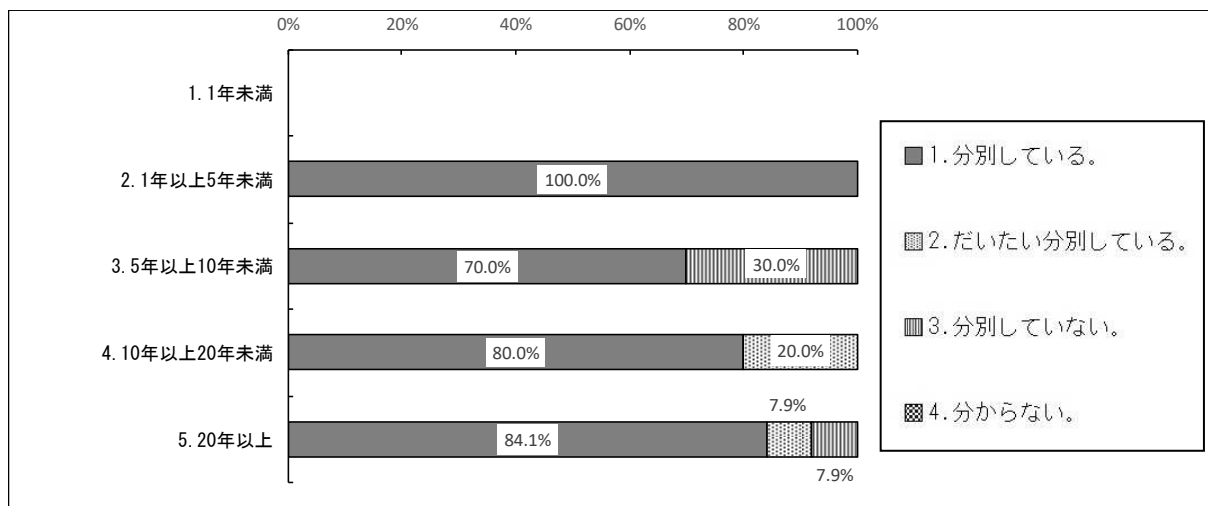


図 3.3.21 住宅併設の事業所の家庭ごみと事業系ごみの分別状況（墨田区内での営業年数別）

3.3.4 問3 一般廃棄物収集運搬許可業者に委託していない理由

一般廃棄物収集運搬許可業者にごみの収集を委託していない理由についてみると、「区の収集（ごみ集積所）に出しているから。」と回答した事業所が45.2%と最も割合が高く、次いで「ほとんどごみが出ないから。」と回答した事業所が33.3%であり、この2項目で約80%を占めている。

表 3.3.9 一般廃棄物収集運搬許可業者にごみの収集を委託していない理由

項目	回答数	割合
1.ほとんどごみが出ないから。	73	33.3%
2.値段が高いから。	11	5.0%
3.一般廃棄物処理業者がよく分からないから。	6	2.7%
4.自社で清掃工場に運んでいるから。	5	2.3%
5.区の収集（ごみ集積所）に出しているから。	99	45.2%
6.親会社や関連会社が処理しているから。	10	4.6%
7.その他	15	6.8%
合計	219	-

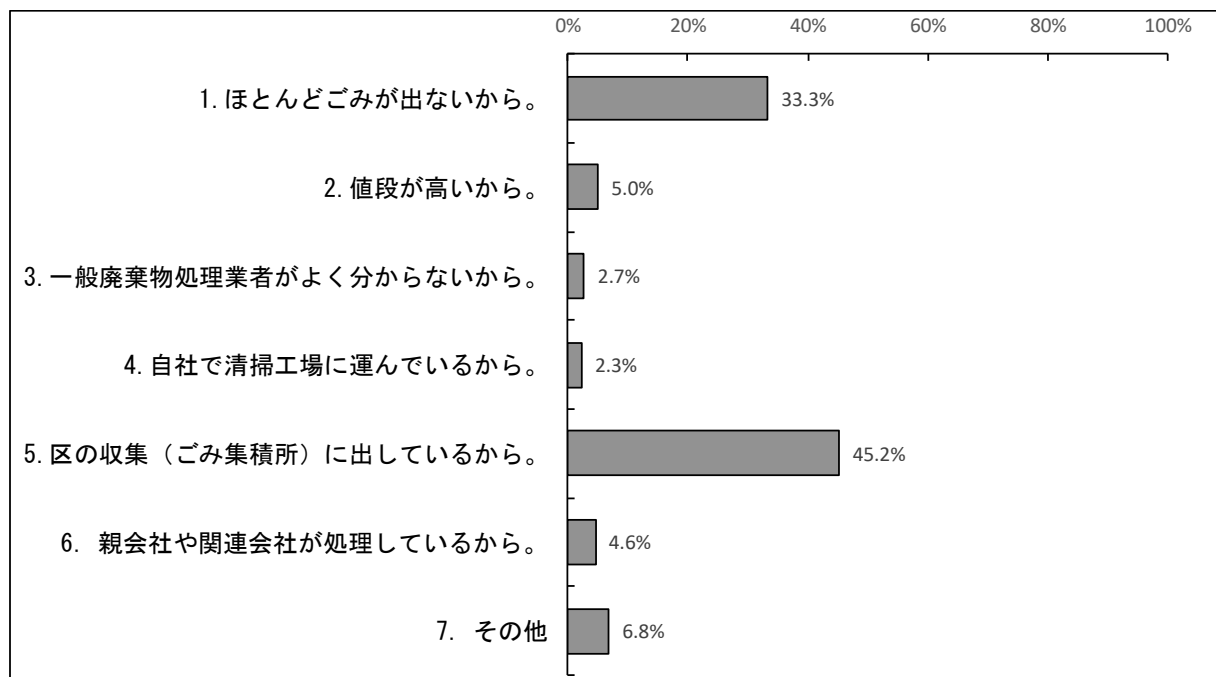


図 3.3.22 一般廃棄物収集運搬許可業者にごみの収集を委託していない理由

3.3.5 問4 食品ロス削減推進法の認知度

食品ロス削減推進法の認知度についてみると、「知っているが内容はよく分からない。」と回答した事業所が 50.5%と最も割合が高く、次いで「知らない。」と回答した事業所が 31.5%であった。一方、「十分理解している。」と回答した事業所は 14.3%であった。

表 3.3.10 食品ロス削減推進法の認知度

項目	回答数	割合
1.十分理解している。	54	14.3%
2.知っているが内容はよく分からない。	191	50.5%
3.知らない。	119	31.5%
無回答	14	3.7%
合計	378	100%

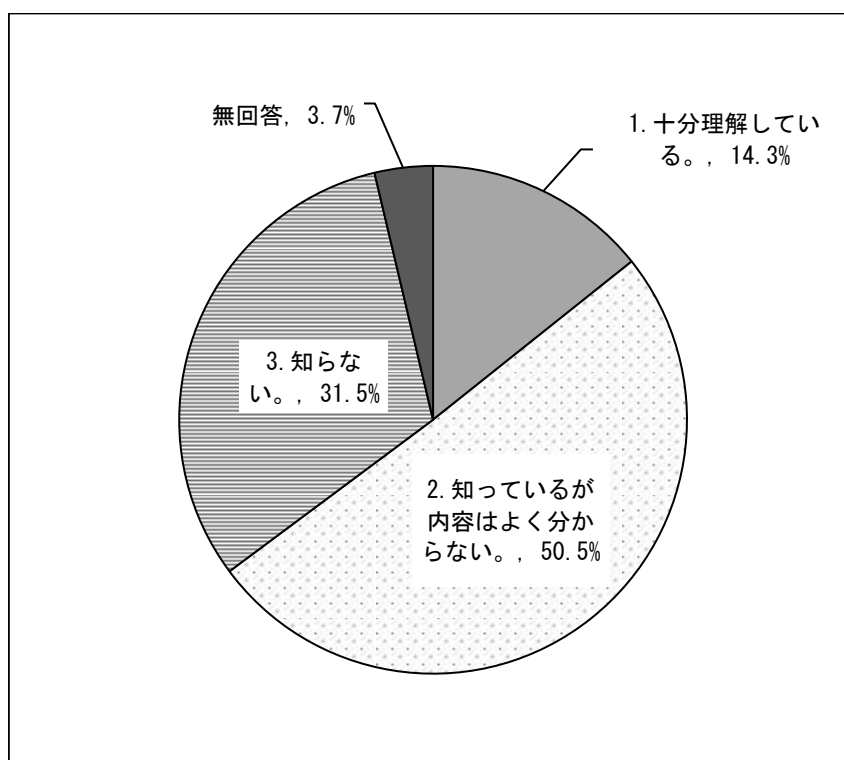


図 3.3.23 食品ロス削減推進法の認知度

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.24～図 3.3.28 に示す。

業種について、食品ロス削減推進法に関連する「宿泊業、飲食サービス業」である事業所をみると、「知らない。」と回答した事業所が 24.0%存在している。

また、事業形態について、「飲食店」をみると、「知らない。」と回答した事業所が 15.0%存在している。また、「学校・保育所・学習施設」については、「知らない。」と回答した事業所が 75.0%と高くなっており、食品ロス削減推進法の認知度が低いことが伺える。

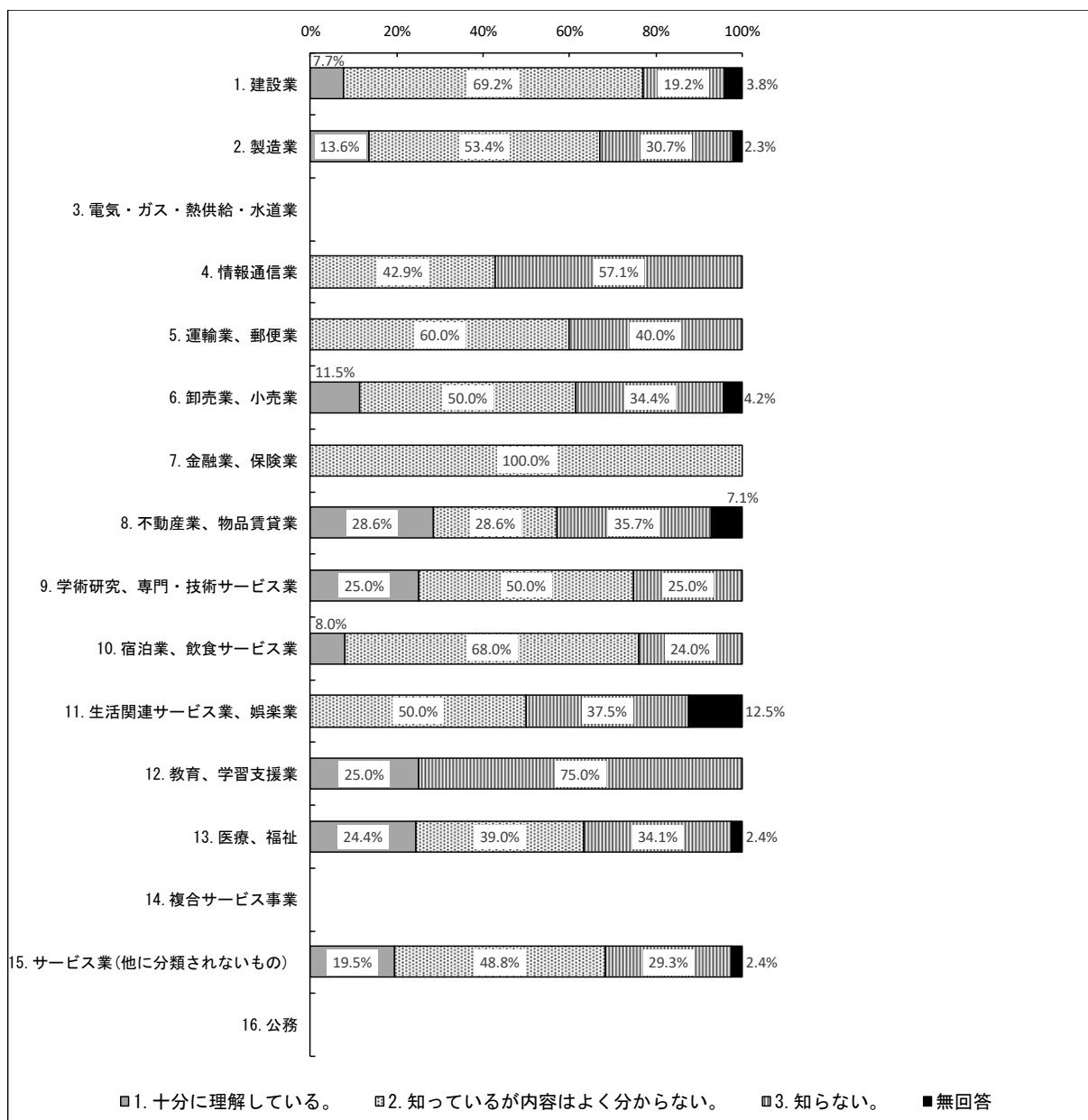


図 3.3.24 食品ロス削減推進法の認知度（業種別）

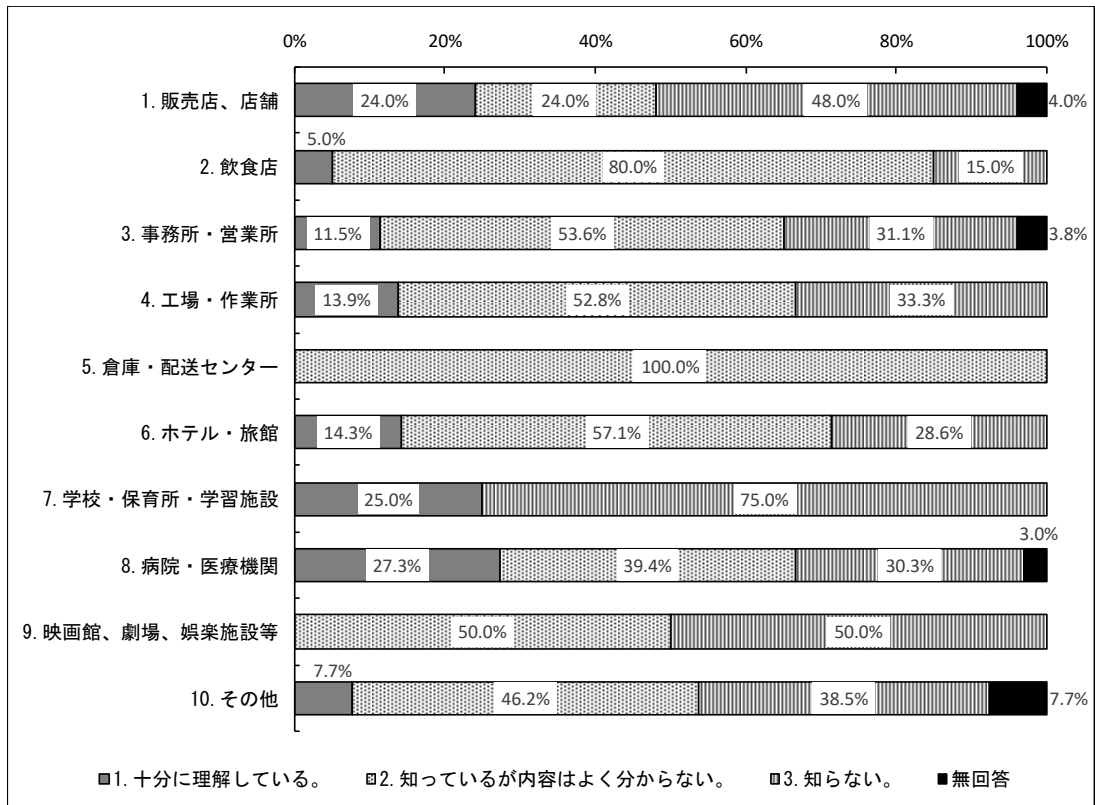


図 3.3.25 食品ロス削減推進法の認知度（事業形態別）

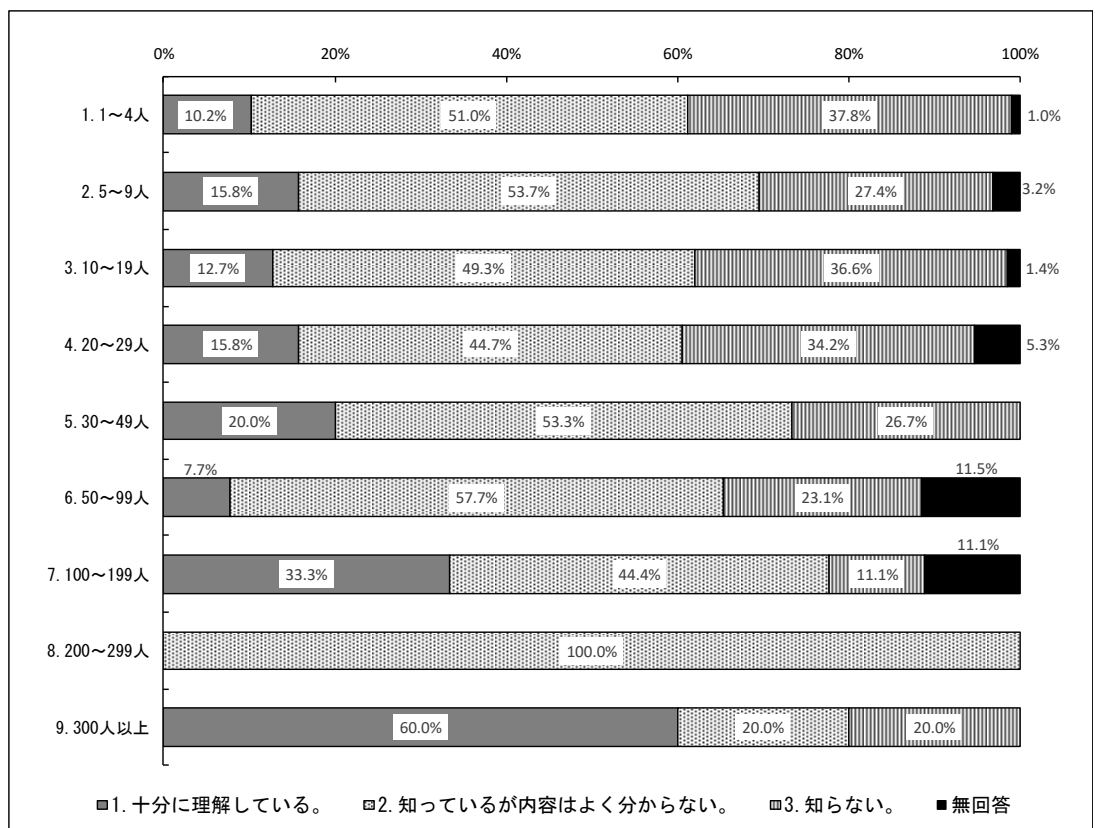


図 3.3.26 食品ロス削減推進法の認知度（従業員数別）

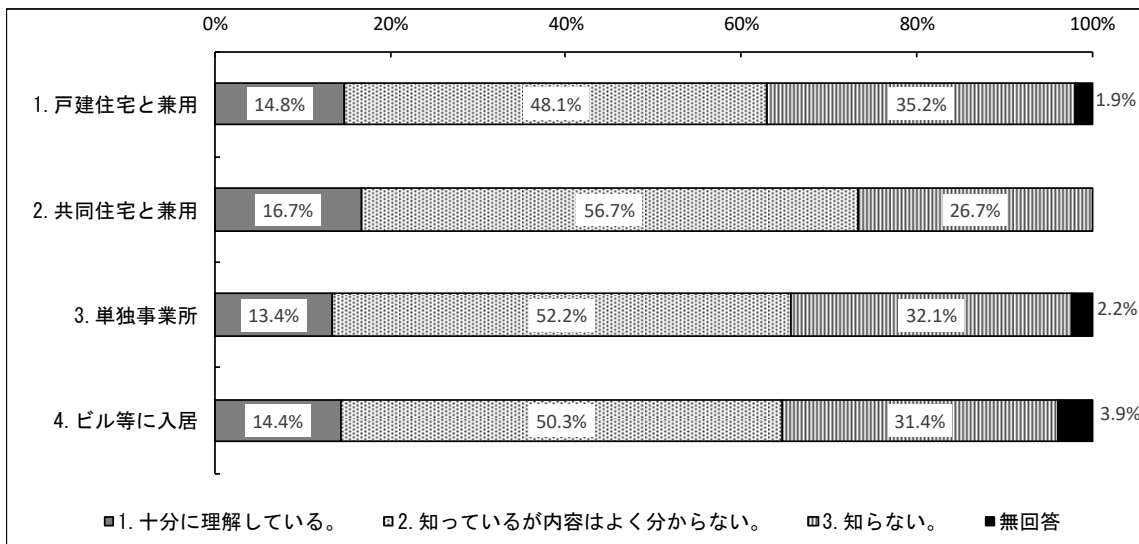


図 3.3.27 食品ロス削減推進法の認知度（事業所の形態別）

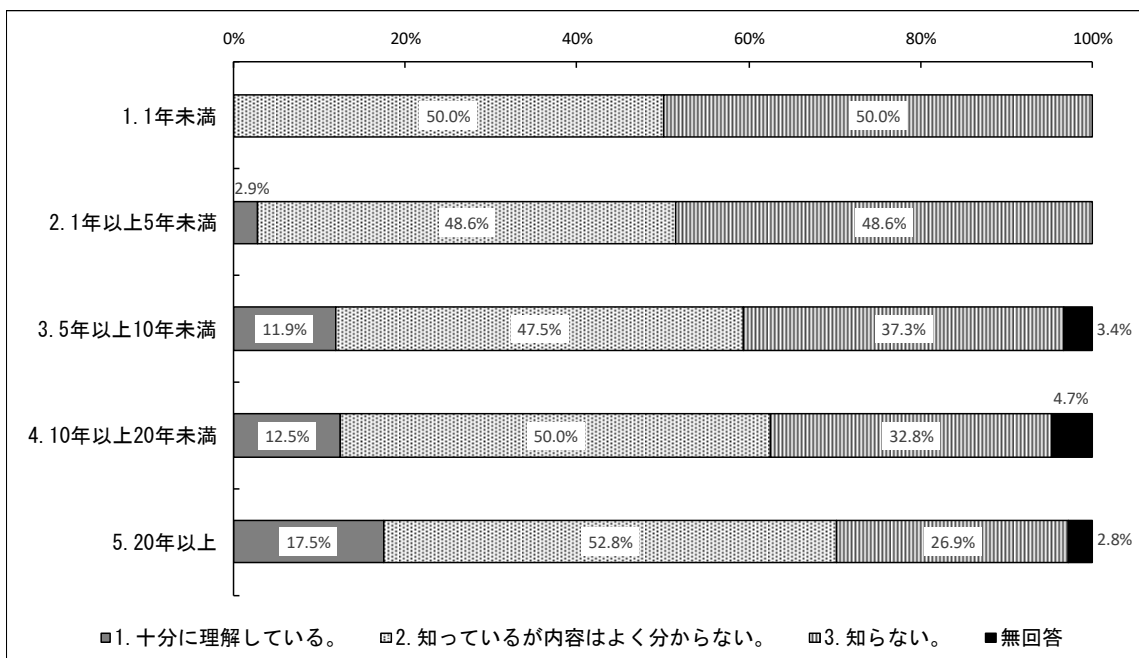


図 3.3.28 食品ロス削減推進法の認知度（墨田区内での営業年数別）

3.3.6 問5 食品ロス削減策の実施状況

食品ロス削減策の実施状況についてみると、「特に実施していない」と回答した事業所が66.1%と最も割合が高く、次いで「その他」と回答した事業所が12.2%、「少量（小盛）商品・メニュー提供」と回答した事業所が6.1%であった。

「その他」の回答としては、「余分に買い物しない」、「商品の冷凍保存」等が挙げられた。

表 3.3.11 食品ロス削減策の実施状況

項目	回答数	割合
1.少量（小盛）商品・メニュー提供	23	6.1%
2.食べきり推奨店の登録	1	0.3%
3.ドギーバック（食べ残しの持ち帰り容器）の提供	11	2.9%
4.3010（さんまるいちまる）運動の奨励	10	2.6%
5.端切れ等の発生抑制	9	2.4%
6.端切れ等の有効活用	13	3.4%
7.その他	46	12.2%
8.特に実施していない	250	66.1%
無回答	46	12.2%
合計	409	-

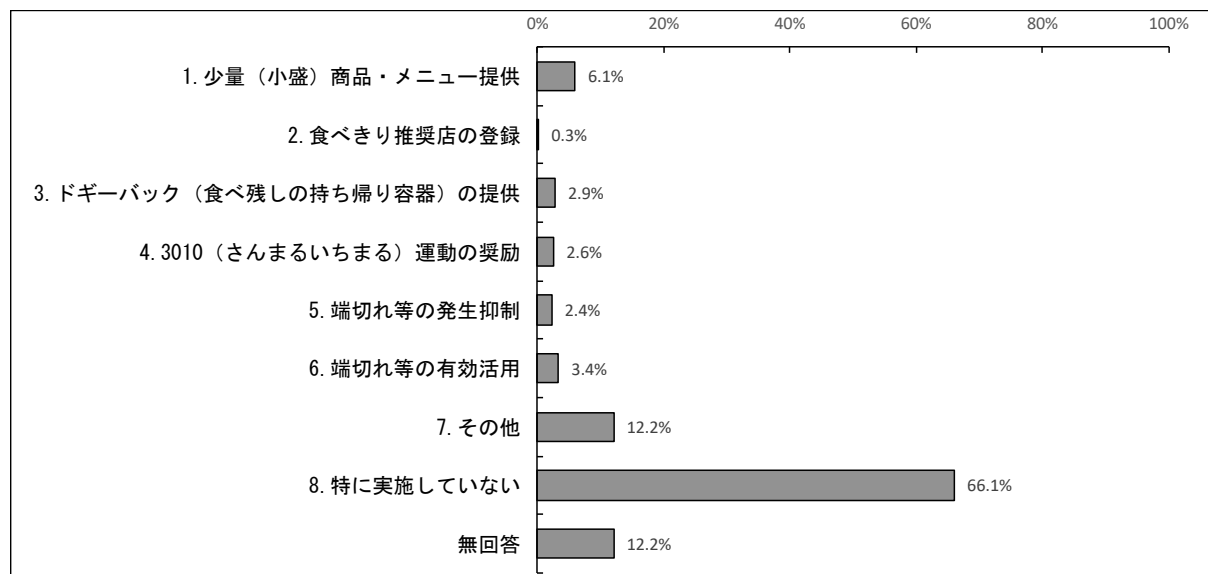


図 3.3.29 食品ロス削減策の実施状況

3.3.7 問6 食品ロス削減策を実施していない理由

食品ロス削減策を実施していない理由についてみると、「食品ロスが発生しない」と回答した事業所が 81.6%と大部分を占めており、次いで「実施するメリットがない」と回答した事業所が 3.2%、「衛生面での安全が確保できない」と回答した事業所が 2.4%であった。

表 3.3.12 食品ロス削減策を実施していない理由

項目	回答数	割合
1.顧客が望んでいないと感じているから	2	0.8%
2.経営トップの意向	0	0.0%
3.衛生面での安全が確保できない	6	2.4%
4.分別が困難	3	1.2%
5.設備等が不足している	4	1.6%
6.社員の意識が低い	3	1.2%
7.実施するメリットがない	8	3.2%
8.食品ロスが発生しない	204	81.6%
9.その他	38	15.2%
合計	268	-

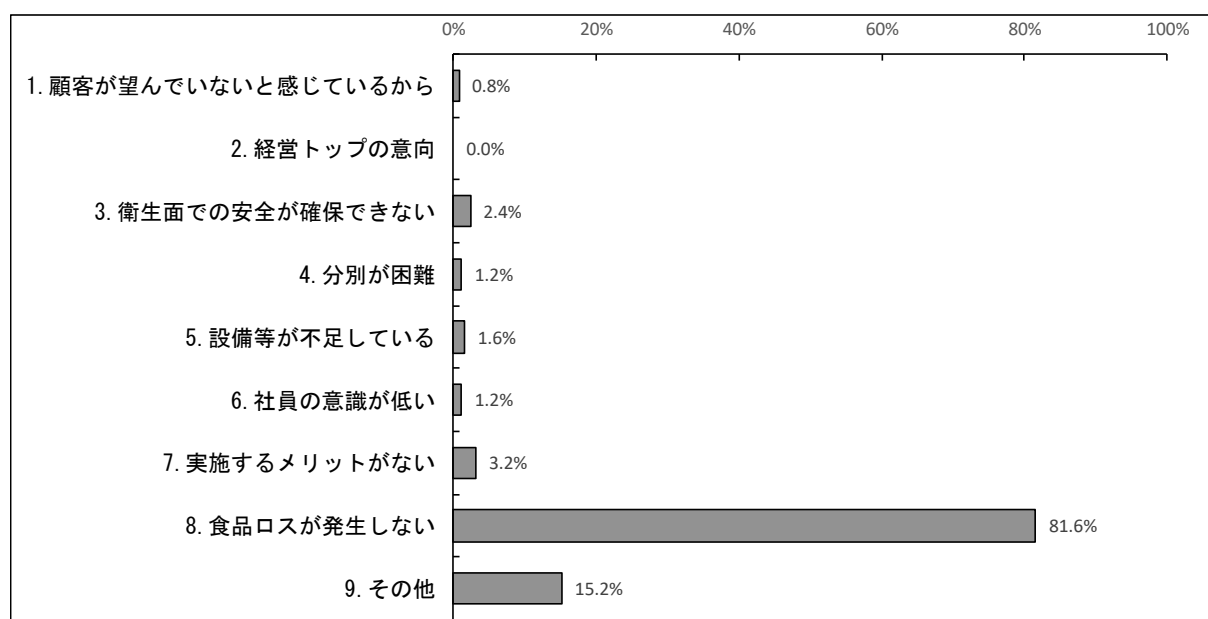


図 3.3.30 食品ロス削減策を実施していない理由

3.3.8 問7 ごみの排出・分別状況及び排出量

(1) 燃やすごみ

ア) 排出・分別状況

燃やすごみの排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。」が41.5%と最も割合が高く、次いで「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。」が19.3%、「建物の管理会社に任せているので分からない。」が6.9%であった。

表 3.3.13 燃やすごみの排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	91	27	12	9	2	9	7	157	41.5%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	16	10	4	2	7	24	10	73	19.3%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	0	0	0	0	0	1	1	2	0.5%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	5	4	0	0	0	3	7	19	5.0%
8.リサイクル業者に売却している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	1	0	0	0	1	0	0	2	0.5%
11.納入業者(販売者)が回収している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	1	1	0	0	0	0	0	2	0.5%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	7	3	2	1	3	7	3	26	6.9%
14.発生しない。	0	0	0	0	0	0	2	2	0.5%
無回答	13	14	13	3	4	12	33	92	24.3%
合計								378	100%

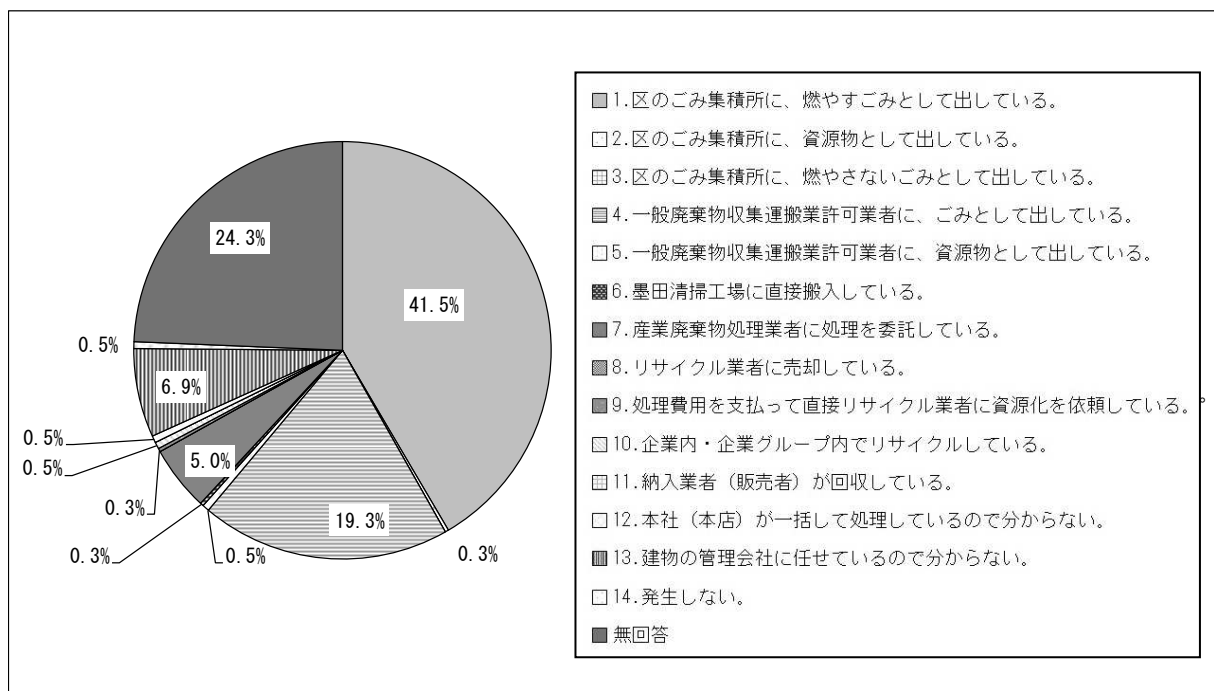


図 3.3.31 燃やすごみの排出・分別状況

イ) 排出量

燃やすごみの排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が35.7%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が15.6%、「5袋以上」と回答した事業所が14.8%の順であった。

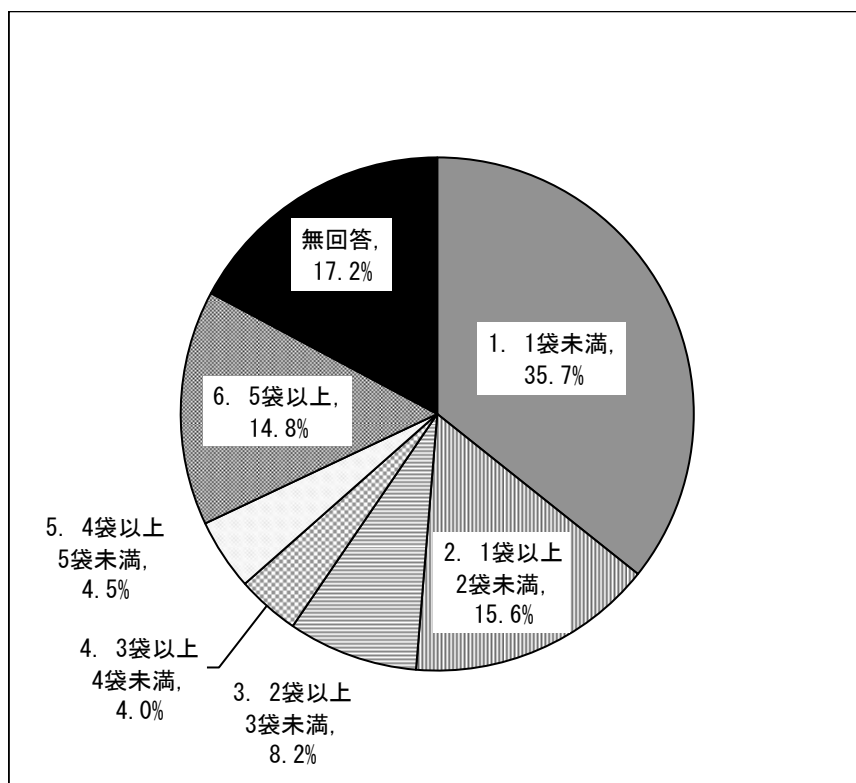


図 3.3.32 燃やすごみの排出量

(2) 生ごみ

ア) 排出・分別状況

生ごみの排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。」が15.1%と最も割合が高く、次いで「発生しない。」が13.5%、「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。」が11.6%の順であった。

表 3.3.14 生ごみの排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	42	3	3	1	0	1	7	57	15.1%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	18	7	1	1	1	7	9	44	11.6%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	0	0	0	0	0	1	1	2	0.5%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	5	0	0	0	0	1	6	12	3.2%
8.リサイクル業者に売却している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
11.納入業者(販売者)が回収している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	9	0	0	0	1	4	3	17	4.5%
14.発生しない。	10	0	0	0	0	0	41	51	13.5%
無回答	36	4	3	0	0	2	146	191	50.5%
合計								378	100%

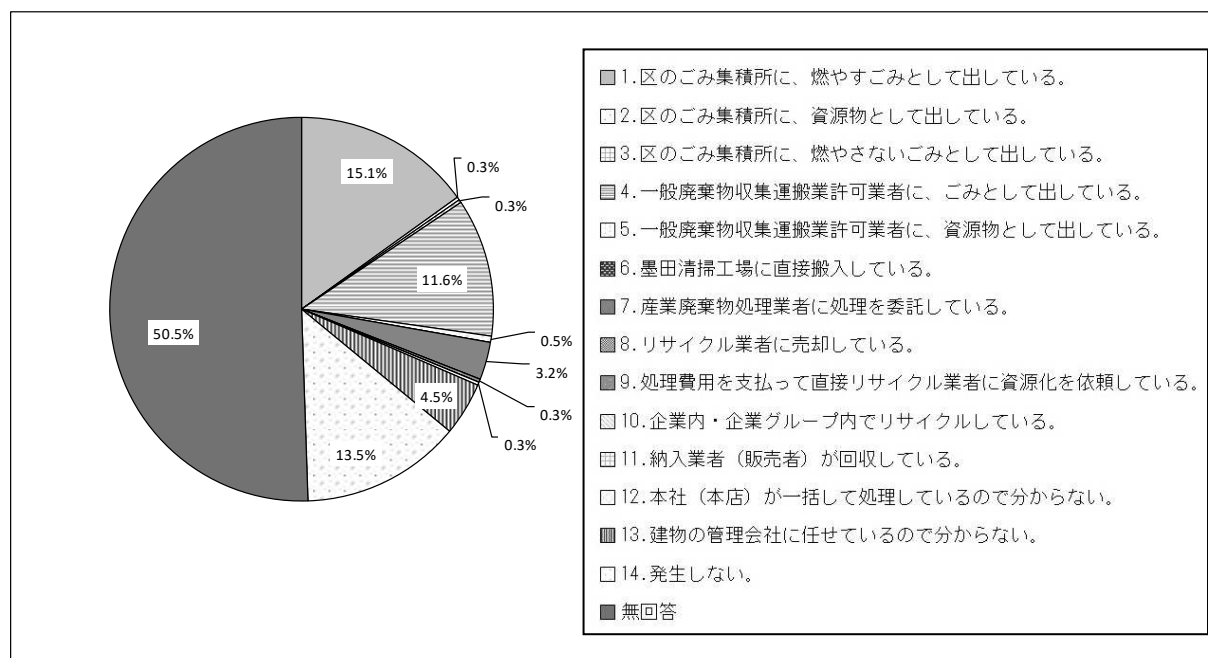


図 3.3.33 生ごみの排出・分別状況

イ) 排出量

生ごみの排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が32.3%と最も割合が高く、次いで「5袋以上」と回答した事業所が4.2%、「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が3.7%の順であった。

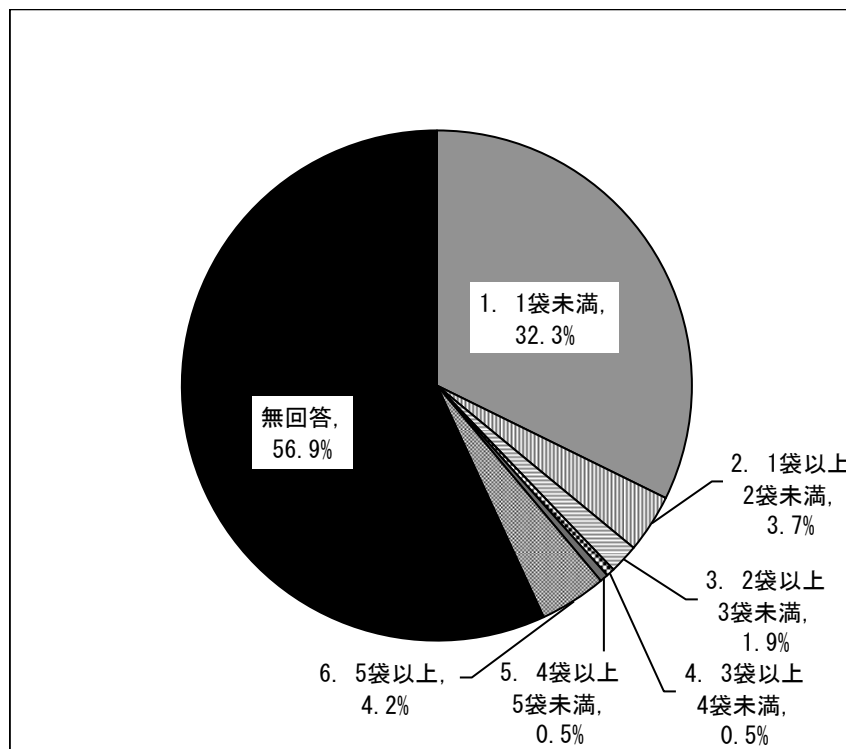


図 3.3.34 生ごみの排出量

(3) 新聞

ア) 排出・分別状況

新聞の排出・分別状況についてみると、「発生しない。」が12.7%と最も割合が高く、次いで、「区のごみ集積所に、資源物として出している。」が11.9%、「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。」が5.8%の順であった。

表 3.3.15 新聞の排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)						無回答	回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上			
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	6	0	0	0	0	0	1	7	1.9%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	33	1	0	0	0	0	11	45	11.9%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	17	0	0	0	0	0	2	19	5.0%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	15	0	0	0	0	0	7	22	5.8%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	2	0	0	0	0	0	7	9	2.4%
8.リサイクル業者に売却している。	6	0	0	0	0	0	7	13	3.4%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	3	0	0	0	0	0	0	3	0.8%
11.納入業者(販売者)が回収している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	6	0	0	0	0	0	7	13	3.4%
14.発生しない。	11	0	0	0	0	0	37	48	12.7%
無回答	42	3	0	0	0	0	153	198	52.4%
合計								378	100%

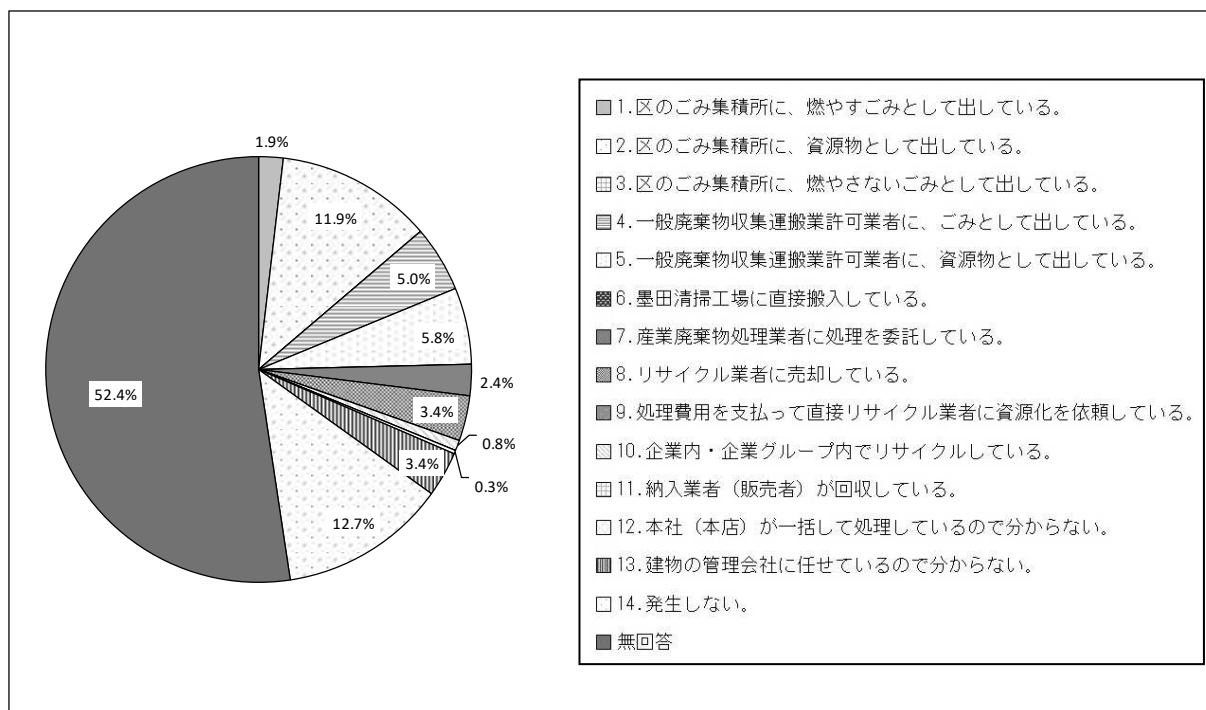


図 3.3.35 新聞の排出・分別状況

イ) 排出量

新聞の排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が37.7%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が1.1%であった。

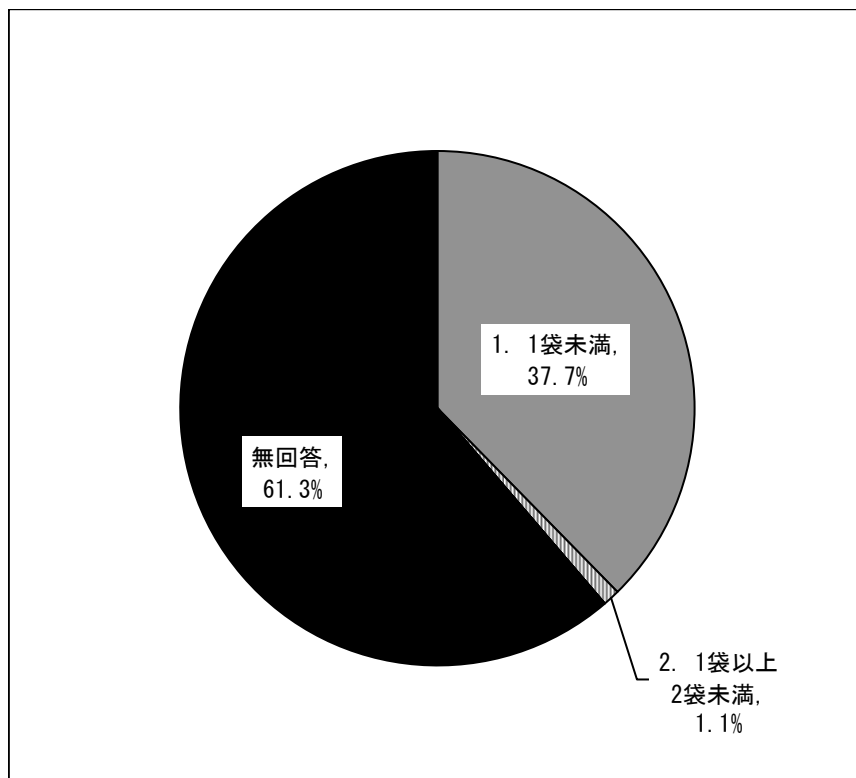


図 3.3.36 新聞の排出量

(4) 雑誌

ア) 排出・分別状況

雑誌の排出・分別状況についてみると、「発生しない。」が11.1%と最も割合が高く、次いで、「区のごみ集積所に、資源物として出している。」が10.6%、「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。」、「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。」がともに5.3%の順であった。

表 3.3.16 雑誌の排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	5	0	0	0	0	0	1	6	1.6%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	27	0	0	0	0	0	13	40	10.6%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	16	0	0	0	0	0	4	20	5.3%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	12	1	0	0	0	0	7	20	5.3%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	2	0	0	0	0	0	7	9	2.4%
8.リサイクル業者に売却している。	5	0	0	0	0	0	7	12	3.2%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	2	0	0	0	0	0	0	2	0.5%
11.納入業者(販売者)が回収している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	7	0	0	0	0	0	5	12	3.2%
14.発生しない。	9	0	0	0	0	0	33	42	11.1%
無回答	38	1	1	0	0	0	172	212	56.1%
合計								378	100%

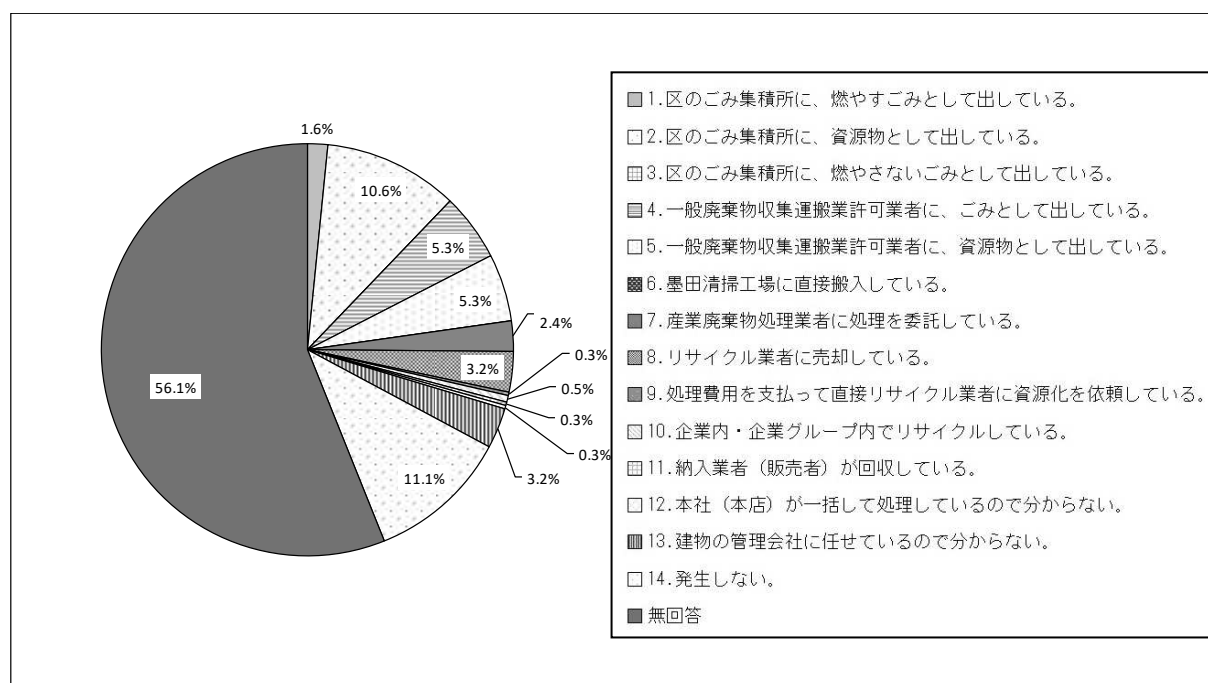


図 3.3.37 雑誌の排出・分別状況

イ) 排出量

雑誌の排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が33.3%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が0.5%であった。

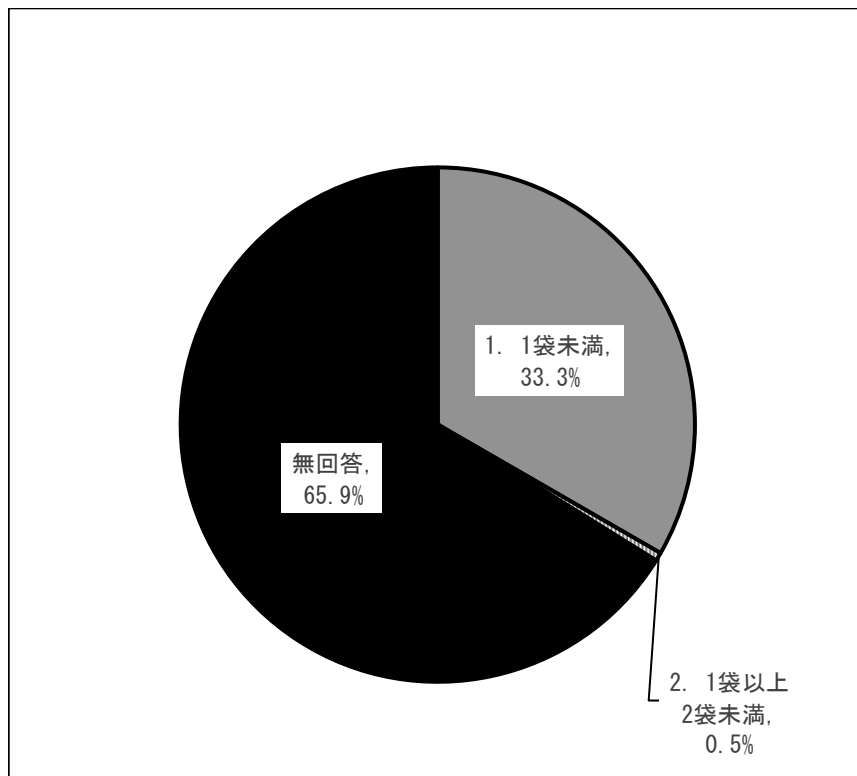


図 3.3.38 雑誌の排出量

(5) 紙パック

ア) 排出・分別状況

紙パックの排出・分別状況についてみると、「発生しない。」が 16.7%と最も割合が高く、次いで、「一般廃棄物収集運搬許可業者に、ごみとして出している。」が 6.3%、「区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。」が 3.7%の順であった。

表 3.3.17 紙パックの排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)						無回答	回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上			
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	11	0	0	0	0	0	3	14	3.7%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	9	0	0	0	0	0	4	13	3.4%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
4.一般廃棄物収集運搬許可業者に、ごみとして出している。	16	0	0	0	0	0	8	24	6.3%
5.一般廃棄物収集運搬許可業者に、資源物として出している。	4	1	0	0	0	0	2	7	1.9%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	0	0	1	0	0	0	7	8	2.1%
8.リサイクル業者に売却している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
11.納入業者(販売者)が回収している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	5	0	0	0	0	0	6	11	2.9%
14.発生しない。	11	0	0	0	0	0	52	63	16.7%
無回答	39	0	0	1	0	0	194	234	61.9%
合計								378	100%

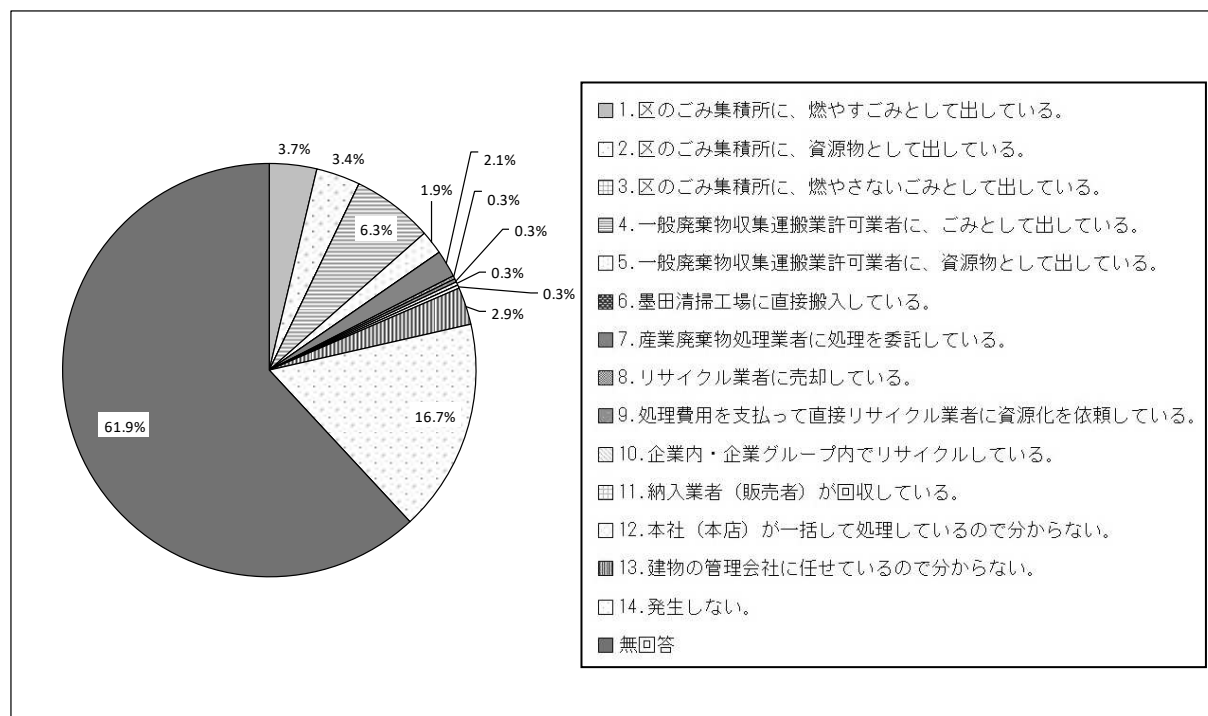


図 3.3.39 紙パックの排出・分別状況

イ) 排出量

紙パックの排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が26.2%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と、「2袋以上3袋未満」と回答した事業所がともに0.3%であった。

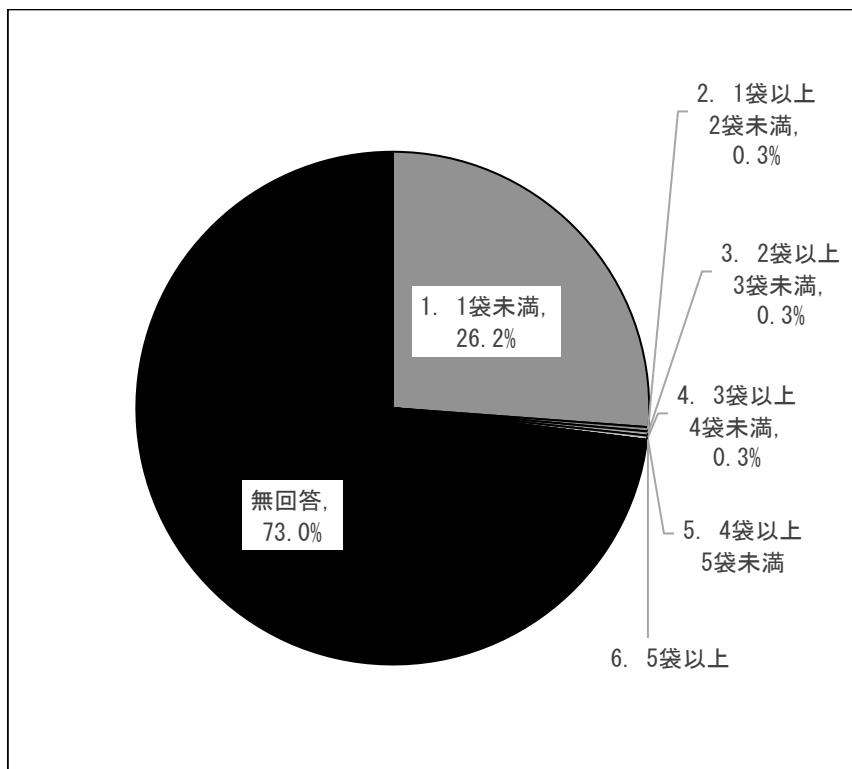


図 3.3.40 紙パックの排出量

(6) 雑がみ

ア) 排出・分別状況

雑がみの排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。」が9.3%と最も割合が高く、次いで「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。」が8.7%、「区のごみ集積所に、資源物として出している。」が6.1%の順であった。

表 3.3.18 雑がみの排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	26	0	2	0	0	0	7	35	9.3%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	14	0	0	0	1	0	8	23	6.1%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	14	3	0	0	5	2	9	33	8.7%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	12	1	0	0	0	1	5	19	5.0%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	4	1	0	0	0	1	9	15	4.0%
8.リサイクル業者に売却している。	5	0	0	0	0	1	3	9	2.4%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	1	0	0	0	0	0	1	2	0.5%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	2	0	0	0	0	0	1	3	0.8%
11.納入業者(販売者)が回収している。	0	0	0	1	0	0	1	2	0.5%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	2	0	0	0	0	0	0	2	0.5%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	5	1	0	0	1	0	7	14	3.7%
14.発生しない。	4	0	0	0	0	0	18	22	5.8%
無回答	29	4	1	0	1	0	164	199	52.6%
合計								378	100%

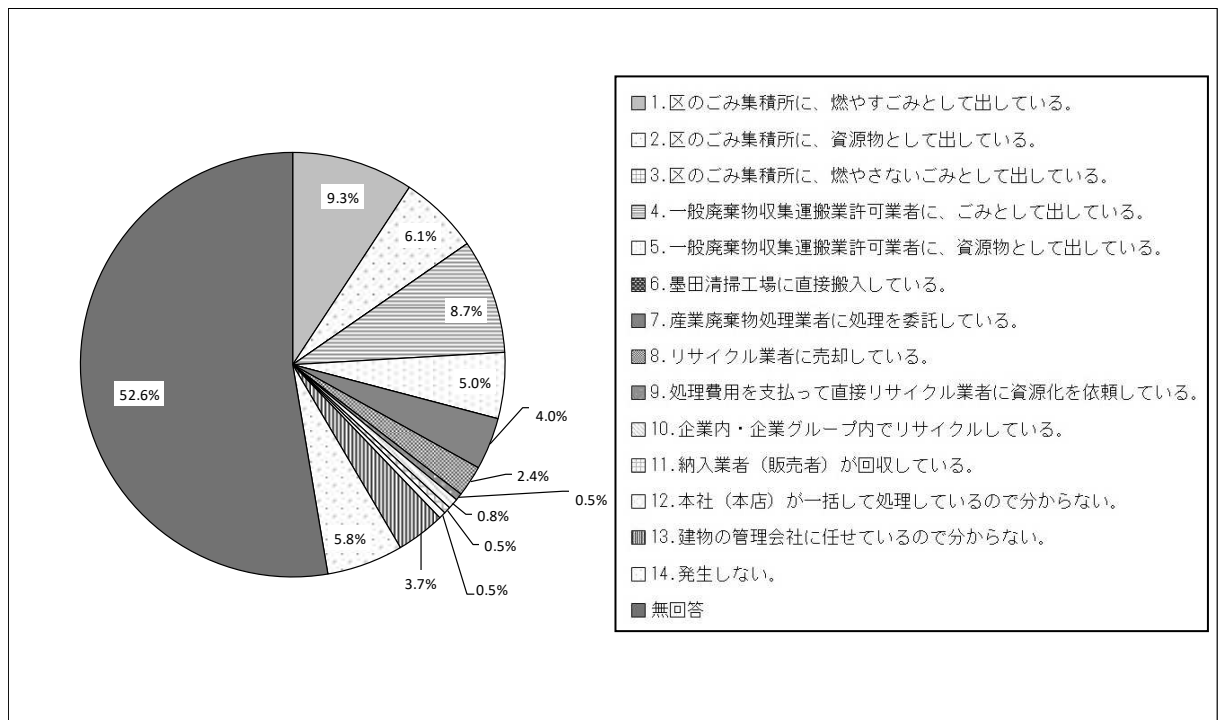


図 3.3.41 雑がみの排出・分別状況

イ) 排出量

雑がみの排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が31.2%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が2.6%、「4袋以上5袋未満」と回答した事業所が2.1%の順であった。

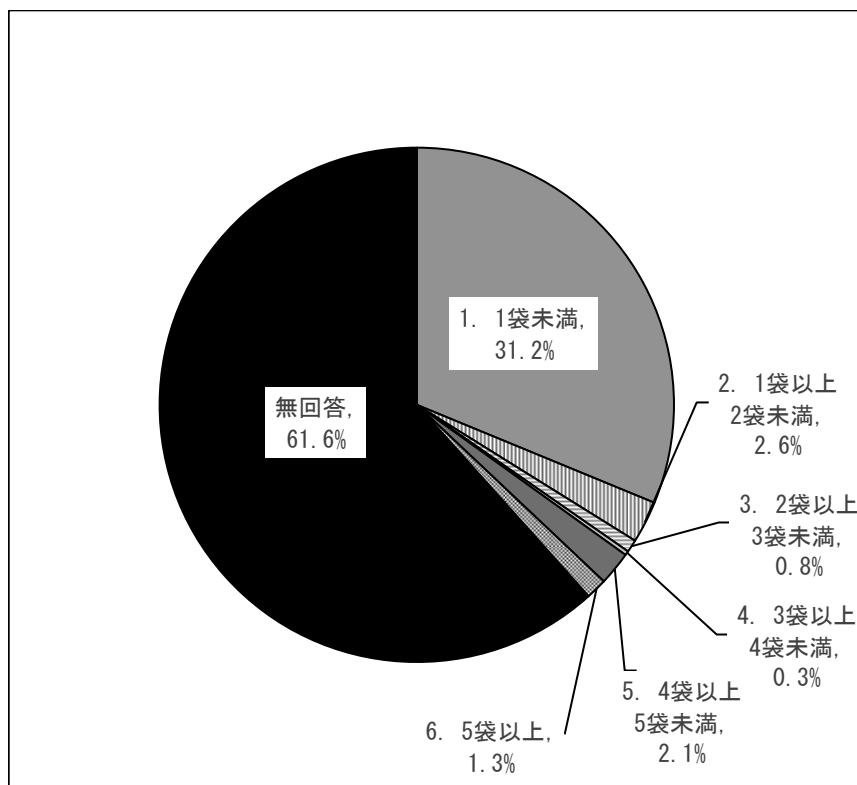


図 3.3.42 雑がみの排出量

(7) 段ボール

ア) 排出・分別状況

段ボールの排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、資源物として出している。」が 17.7%と最も割合が高く、次いで「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。」が 13.5%、「建物の管理会社に任せているので分からない。」が 6.1%の順であった。

表 3.3.19 段ボールの排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	6	1	0	0	0	0	0	7	1.9%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	46	3	1	1	1	0	15	67	17.7%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	11	2	0	0	2	4	3	22	5.8%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	19	2	3	1	2	9	15	51	13.5%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	3	1	1	0	1	1	9	16	4.2%
8.リサイクル業者に売却している。	5	0	0	0	2	3	9	19	5.0%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	2	0	0	0	0	0	1	3	0.8%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	1	0	0	0	1	0	1	3	0.8%
11.納入業者(販売者)が回収している。	0	0	0	0	0	0	2	2	0.5%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	2	0	0	0	0	0	0	2	0.5%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	10	2	1	0	0	3	7	23	6.1%
14.発生しない。	3	0	0	0	0	0	7	10	2.6%
無回答	25	16	2	1	0	3	106	153	40.5%
合計								378	100%

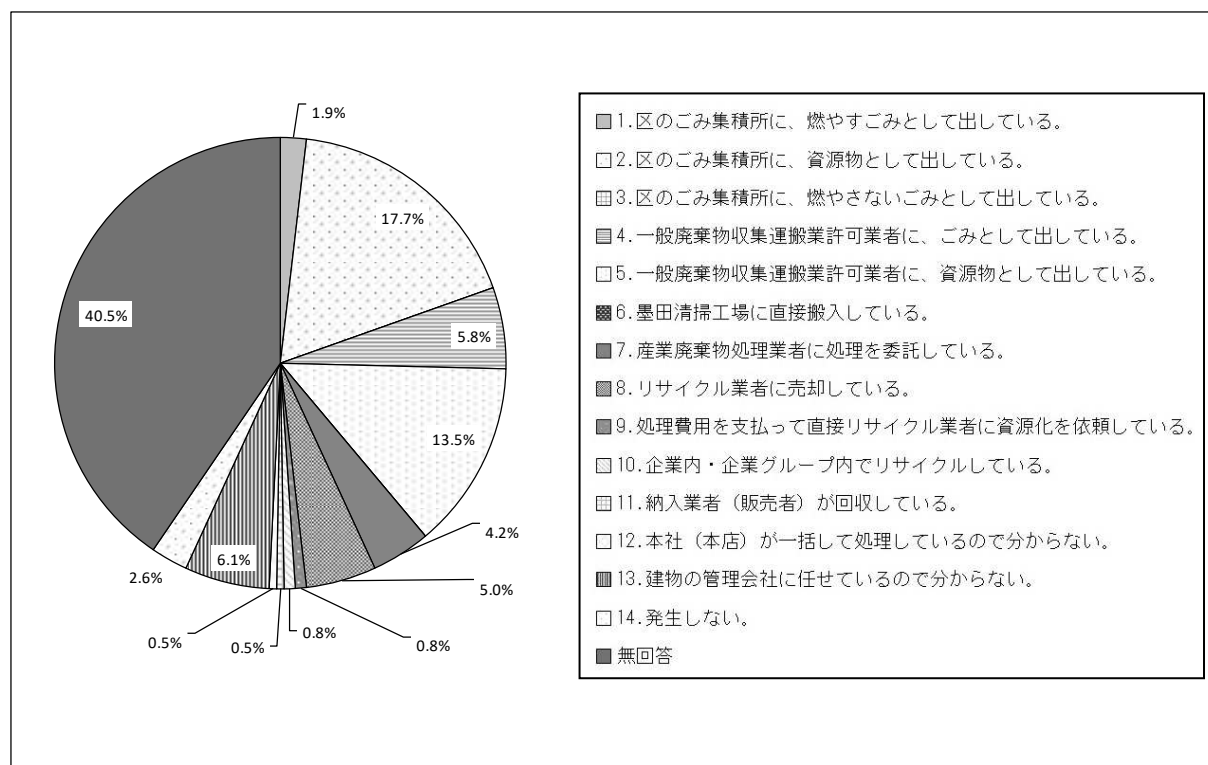


図 3.3.43 段ボールの排出・分別状況

イ) 排出量

段ボールの排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が35.2%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が7.1%、「5袋以上」と回答した事業所が6.1%の順であった。

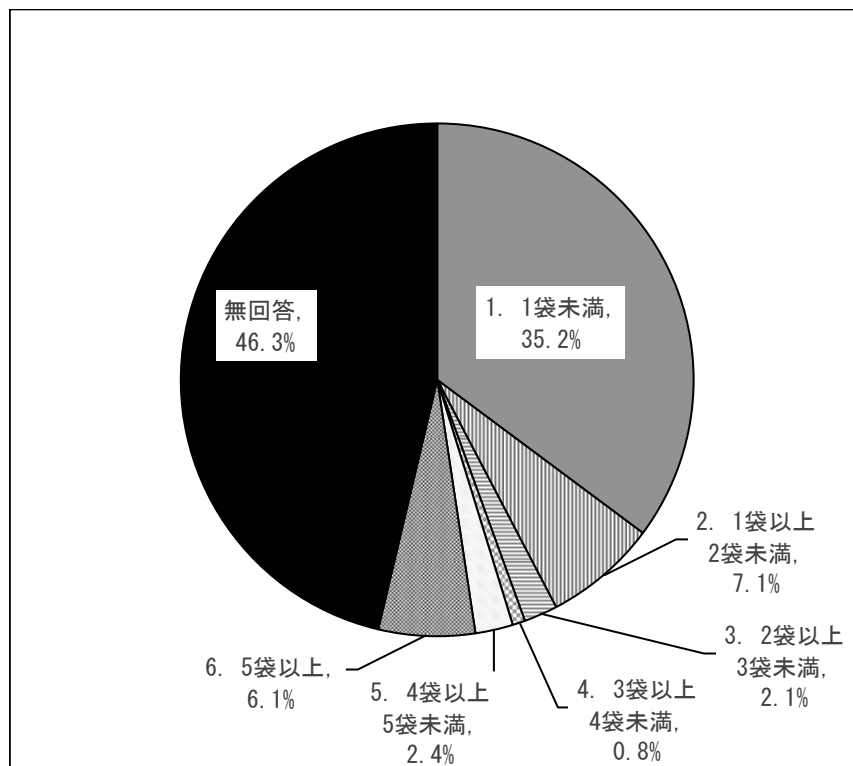


図 3.3.44 段ボールの排出量

(8) 缶

ア) 排出・分別状況

缶の排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、資源物として出している。」が 20.1%と最も割合が高く、次いで「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。」が 6.1%、「発生しない。」が 5.8%の順であった。

表 3.3.20 缶の排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)						無回答	回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上			
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	8	0	0	0	0	0	0	8	2.1%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	54	1	1	0	0	0	20	76	20.1%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	2	0	0	0	0	0	1	3	0.8%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	11	3	1	0	0	2	6	23	6.1%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	10	2	0	0	0	2	5	19	5.0%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	4	2	0	0	0	0	7	13	3.4%
8.リサイクル業者に売却している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	1	0	0	0	1	0	1	3	0.8%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	2	0	0	0	0	0	0	2	0.5%
11.納入業者(販売者)が回収している。	5	2	3	0	0	0	9	19	5.0%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	2	0	0	0	0	0	0	2	0.5%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	8	2	0	1	1	0	9	21	5.6%
14.発生しない。	5	0	0	0	0	0	17	22	5.8%
無回答	34	5	0	0	1	0	126	166	43.9%
合計								378	100%

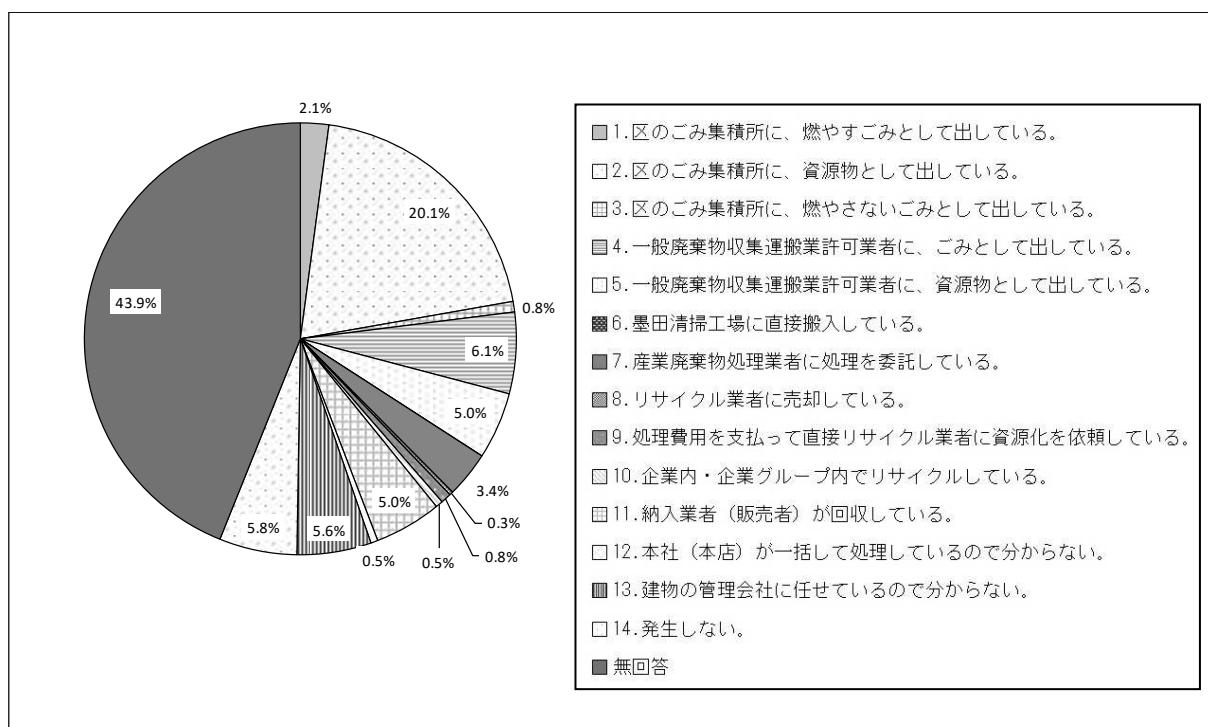


図 3.3.45 缶の排出・分別状況

イ) 排出量

缶の排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が38.9%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が4.5%、「2袋以上3袋未満」と回答した事業所が1.3%の順であった。

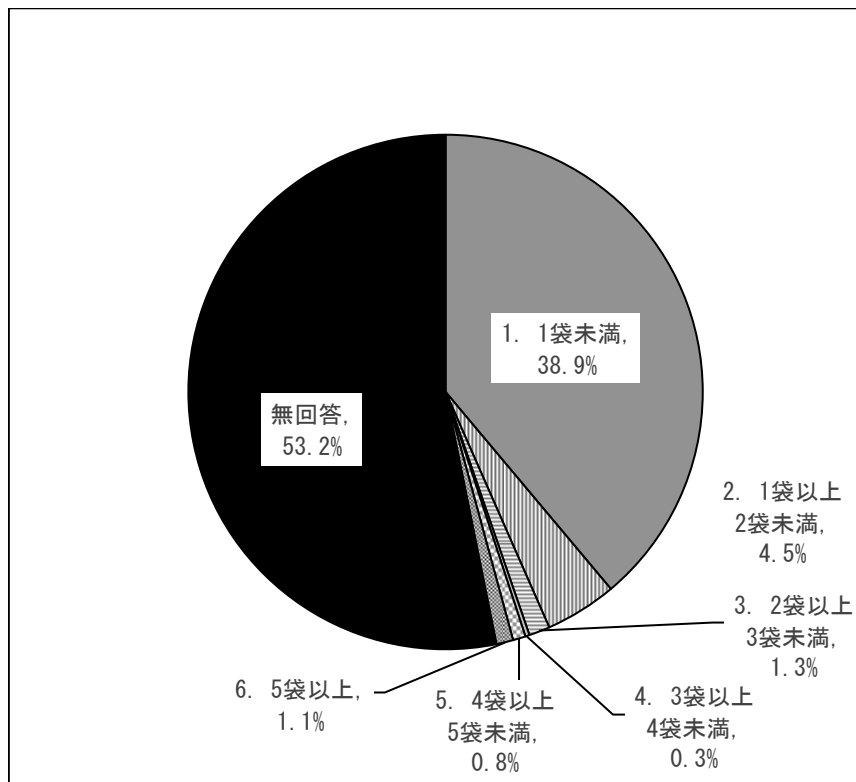


図 3.3.46 缶の排出量

(9) びん

ア) 排出・分別状況

びんの排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、資源物として出している。」が16.4%と最も割合が高く、次いで「発生しない。」が7.7%、「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。」、「建物の管理会社に任せているので分からない。」がともに5.3%の順であった。

表 3.3.21 びんの排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1. 1袋未満	2. 1袋以上 2袋未満	3. 2袋以上 3袋未満	4. 3袋以上 4袋未満	5. 4袋以上 5袋未満	6. 5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	7	0	0	0	0	0	0	7	1.9%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	42	1	0	0	0	0	19	62	16.4%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	1	0	0	0	0	0	2	3	0.8%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	14	0	0	0	0	1	5	20	5.3%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	12	0	1	0	0	0	6	19	5.0%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	7	1	0	0	0	0	7	15	4.0%
8.リサイクル業者に売却している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	1	0	0	0	1	0	1	3	0.8%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
11.納入業者(販売者)が回収している。	7	2	0	0	0	0	9	18	4.8%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	10	1	0	1	2	0	6	20	5.3%
14.発生しない。	6	0	0	0	0	0	23	29	7.7%
無回答	36	3	0	0	1	0	139	179	47.4%
合計								378	100%

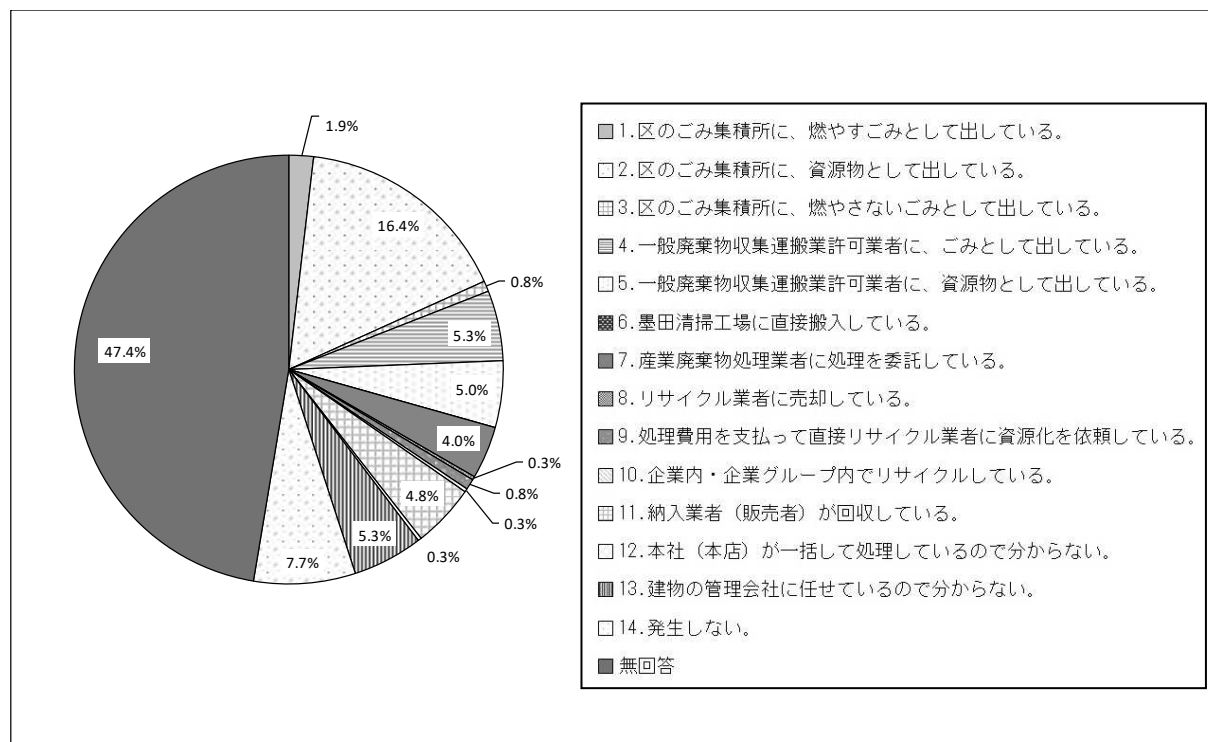


図 3.3.47 びんの排出・分別状況

イ) 排出量

びんの排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が38.6%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が2.1%、「4袋以上5袋未満」と回答した事業所が1.1%の順であった。

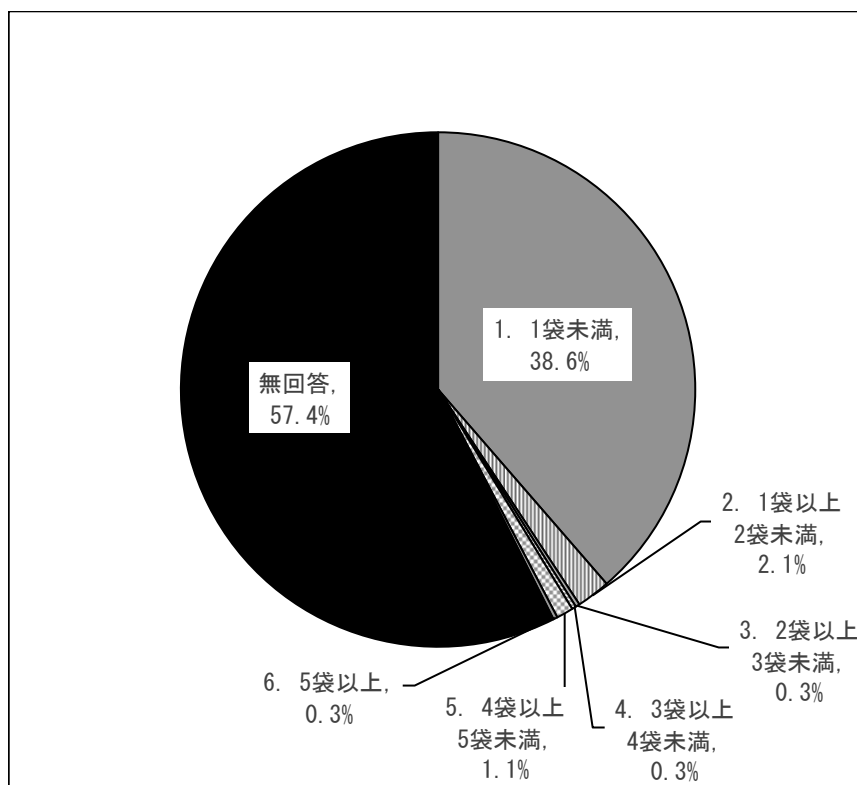


図 3.3.48 びんの排出量

(10) ペットボトル

ア) 排出・分別状況

ペットボトルの排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、資源物として出している。」が 24.3%と最も割合が高く、次いで「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。」、「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。」がともに 6.6%の順であった。

表 3.3.22 ペットボトルの排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1袋未満	1袋以上 2袋未満	2袋以上 3袋未満	3袋以上 4袋未満	4袋以上 5袋未満	5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	8	0	0	0	0	0	0	8	2.1%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	70	3	1	0	0	0	18	92	24.3%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	11	3	2	0	1	2	6	25	6.6%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	15	0	0	0	0	2	8	25	6.6%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	3	1	0	0	2	0	6	12	3.2%
8.リサイクル業者に売却している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	1	0	0	0	0	0	2	3	0.8%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	1	1	0	0	0	0	0	2	0.5%
11.納入業者(販売者)が回収している。	5	3	1	1	1	0	9	20	5.3%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	2	0	0	0	0	0	0	2	0.5%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	11	2	0	1	1	1	7	23	6.1%
14.発生しない。	3	0	0	0	0	0	17	20	5.3%
無回答	32	7	3				2	100	38.1%
合計								378	100%

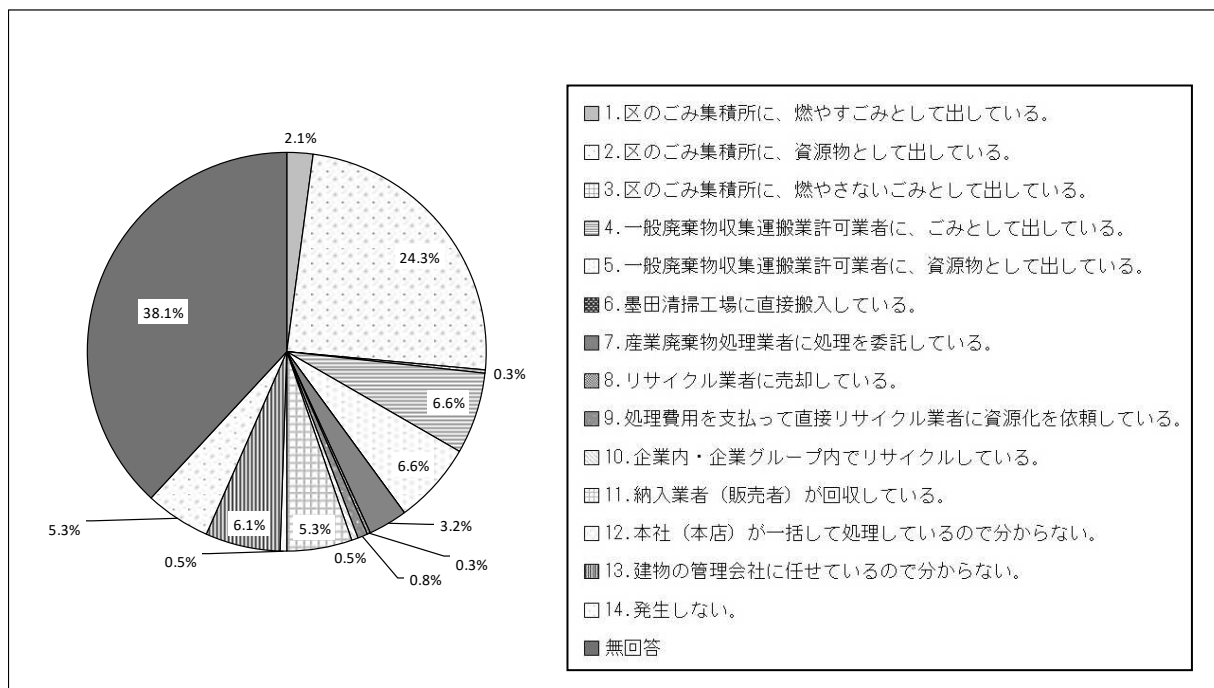


図 3.3.49 ペットボトルの排出・分別状況

イ) 排出量

ペットボトルの排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が43.4%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が5.3%、「2袋以上3袋未満」、「5袋以上」と回答した事業所がともに1.9%の順であった。

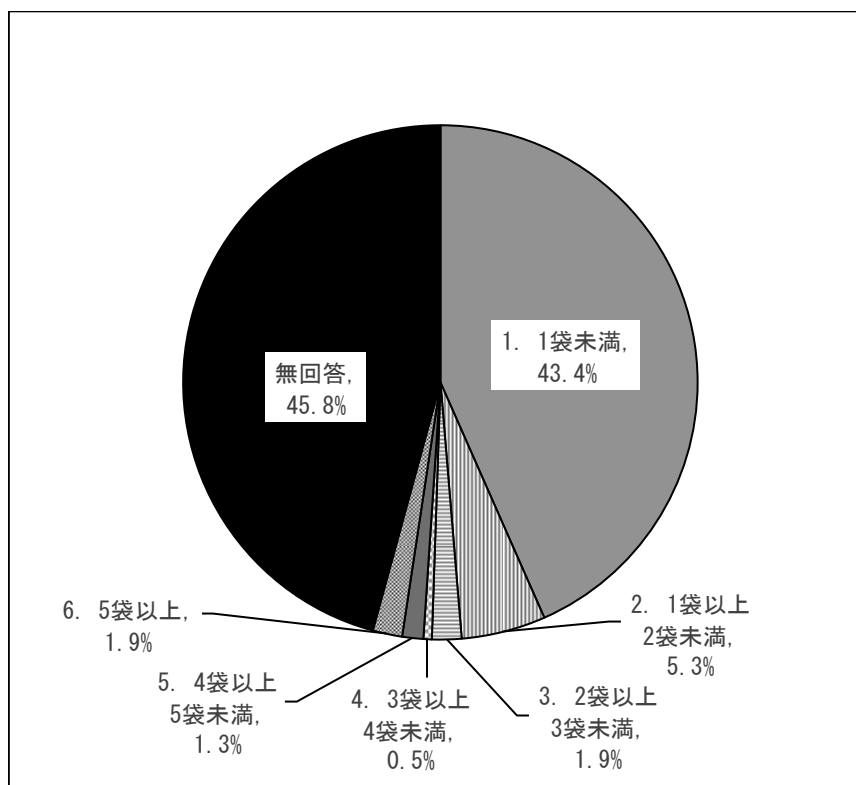


図 3.3.50 ペットボトルの排出量

(11) 燃やさないごみ

ア) 排出・分別状況

燃やさないごみの排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。」が 14.3%と最も割合が高く、次いで「一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。」が 11.4%、「産業廃棄物処理業者に処理を委託している。」が 8.2%の順であった。

表 3.3.23 燃やさないごみの排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1袋未満	1袋以上 2袋未満	2袋以上 3袋未満	3袋以上 4袋未満	4袋以上 5袋未満	5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	4	0	0	0	0	0	2	6	1.6%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	4	0	0	0	0	0	5	9	2.4%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	39	2	1	0	0	0	12	54	14.3%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	17	2	1	5	2	6	10	43	11.4%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	4	0	1	1	0	1	2	9	2.4%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	7	5	0	0	0	3	16	31	8.2%
8.リサイクル業者に売却している。	0	0	0	0	0	0	1	1	0.3%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
11.納入業者(販売者)が回収している。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	1	0	0	0	0	0	0	1	0.3%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	10	1	2	0	0	3	8	24	6.3%
14.発生しない。	3	0	0	0	0	0	16	19	5.0%
無回答	35	3	1	1	0	2	135	177	46.8%
合計								378	100%

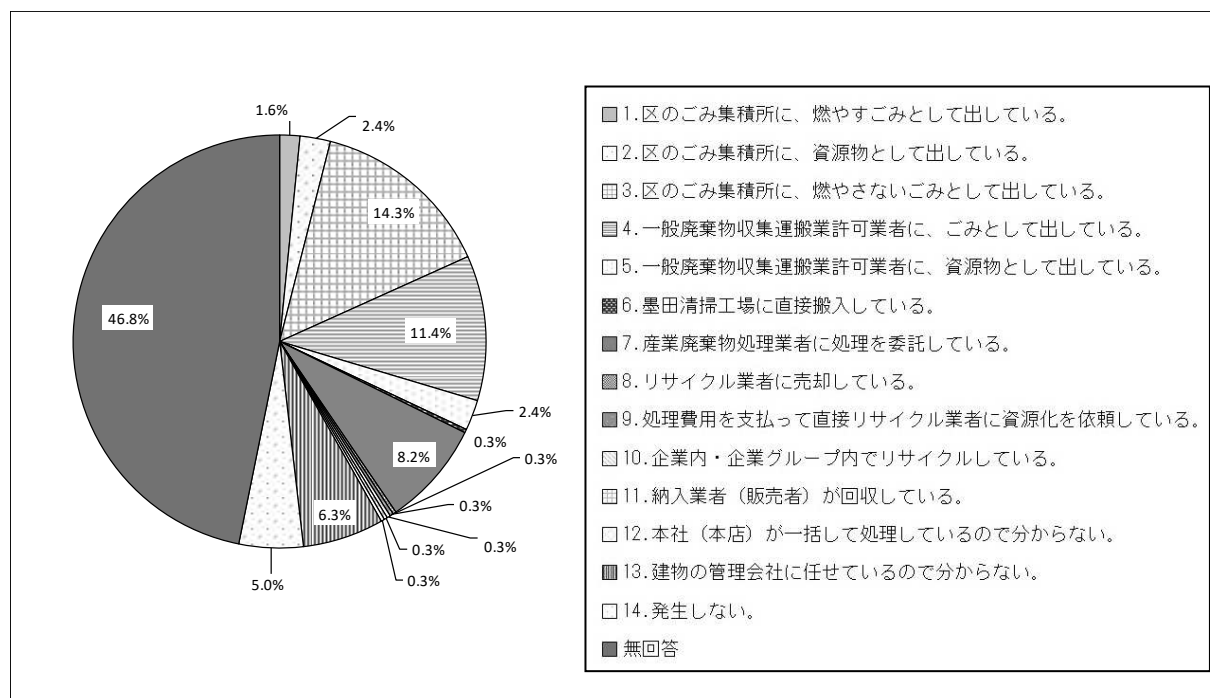


図 3.3.51 燃やさないごみの排出・分別状況

イ) 排出量

燃やさないごみの排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が33.6%と最も割合が高く、次いで「5袋以上」と回答した事業所が4.0%、「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が3.4%の順であった。

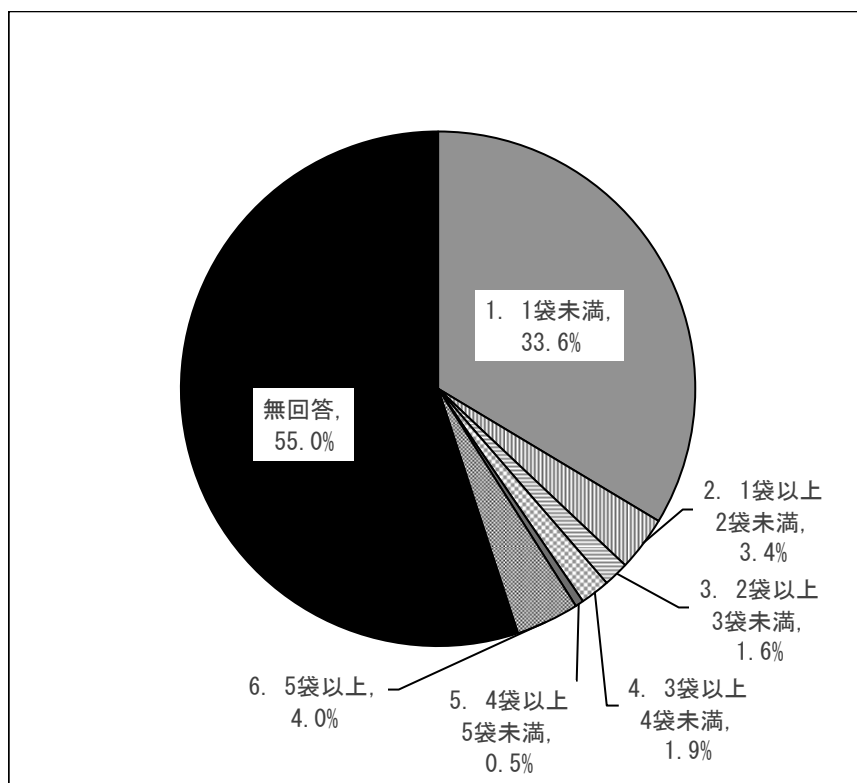


図 3.3.52 燃やさないごみの排出量

(12) 蛍光灯

ア) 排出・分別状況

蛍光灯の排出・分別状況についてみると、「区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。」が9.0%と最も割合が高く、次いで「産業廃棄物処理業者に処理を委託している。」が8.5%、「発生しない。」が7.7%の順であった。

表 3.3.24 蛍光灯の排出・分別状況

項目	排出量(袋数:1袋=45L換算)							回答数	割合
	1袋未満	1袋以上 2袋未満	2袋以上 3袋未満	3袋以上 4袋未満	4袋以上 5袋未満	5袋以上	無回答		
1.区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。	4	0	0	0	0	0	1	5	1.3%
2.区のごみ集積所に、資源物として出している。	1	0	0	0	0	0	3	4	1.1%
3.区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。	23	0	0	0	0	0	11	34	9.0%
4.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、ごみとして出している。	12	0	0	0	0	0	8	20	5.3%
5.一般廃棄物収集運搬業許可業者に、資源物として出している。	3	0	0	0	0	0	1	4	1.1%
6.墨田清掃工場に直接搬入している。	0	0	0	0	0	0	2	2	0.5%
7.産業廃棄物処理業者に処理を委託している。	11	3	0	0	1	0	17	32	8.5%
8.リサイクル業者に売却している。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
9.処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している。	1	0	0	0	0	0	2	3	0.8%
10.企業内・企業グループ内でリサイクルしている。	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
11.納入業者(販売者)が回収している。	1	0	0	0	0	0	6	7	1.9%
12.本社(本店)が一括して処理しているので分からない。	2	0	0	0	0	0	1	3	0.8%
13.建物の管理会社に任せているので分からない。	6	0	0	0	0	0	9	15	4.0%
14.発生しない。	5	0	0	0	0	0	24	29	7.7%
無回答	34	0	0	0	0	0	186	220	58.2%
合計								378	100%

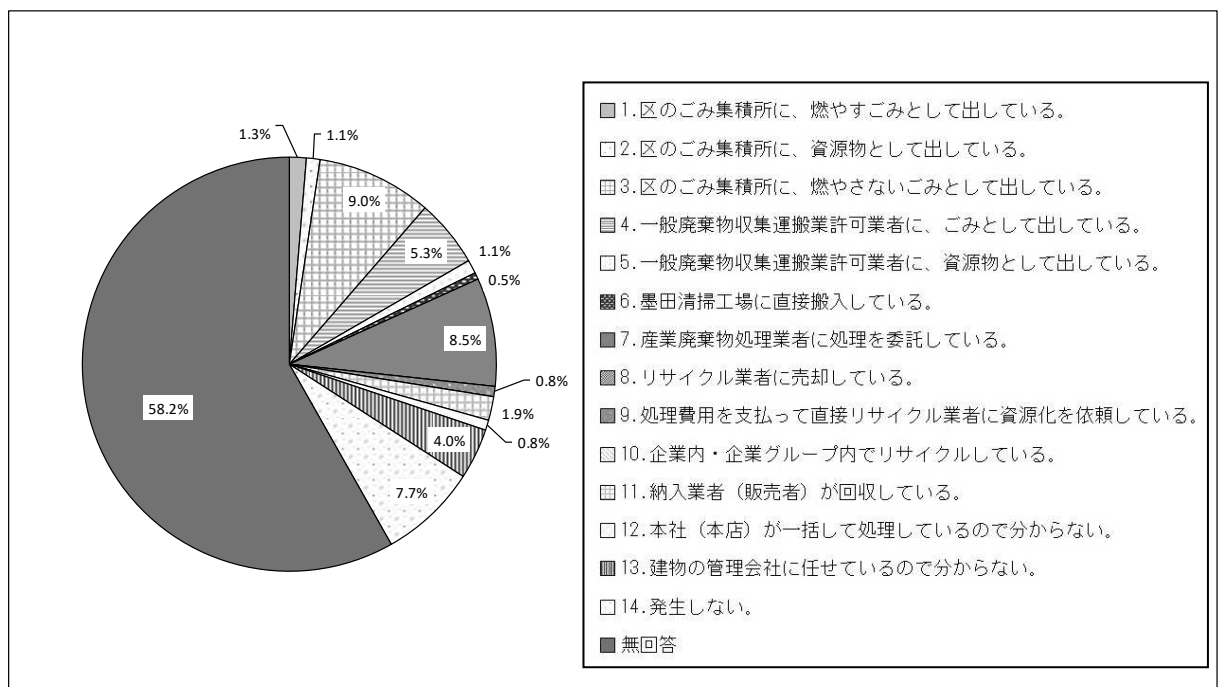


図 3.3.53 蛍光灯の排出・分別状況

イ) 排出量

蛍光灯の排出量についてみると、「1袋未満」と回答した事業所が27.2%と最も割合が高く、次いで「1袋以上2袋未満」と回答した事業所が0.8%、「4袋以上5袋未満」と回答した事業所が0.3%の順であった。

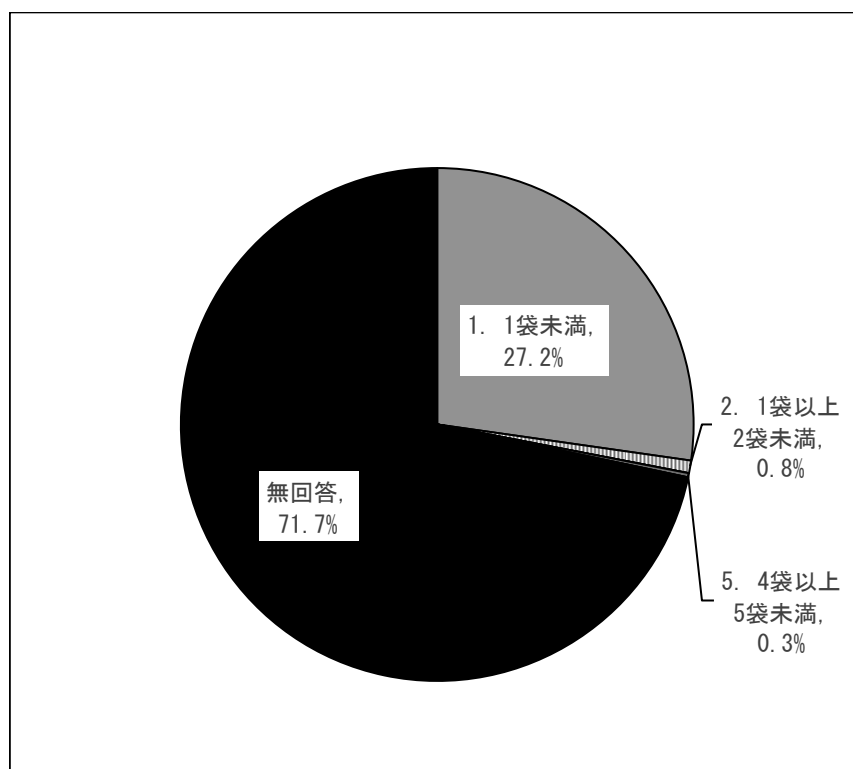


図 3.3.54 蛍光灯の排出量

3.3.9 問8 廃プラスチックの排出方法についての理解度

廃プラスチックの排出方法についての理解度についてみると、「知っていた。」が55.0%、「知らなかった。」が41.8%であった。

表 3.3.25 廃プラスチックの排出方法についての理解度

項目	回答数	割合
1.知っていた。	208	55.0%
2.知らなかった。	158	41.8%
無回答	12	3.2%
合計	378	100%

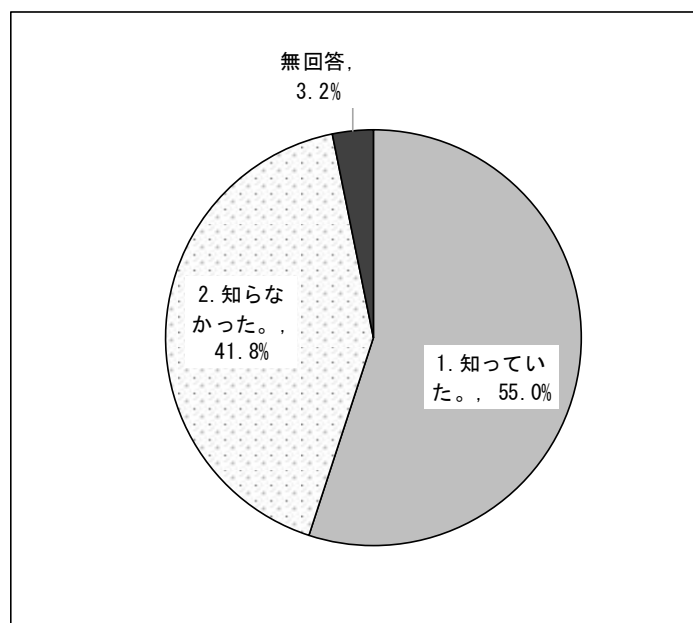


図 3.3.55 廃プラスチックの排出方法についての理解度

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.56～図 3.3.60 に示す。

業種や事業形態別では業種によってばらつきがみられるが、従業員数が多い事業所及び墨田区での営業年数が長い事業所ほど「知っていた。」の割合が高くなっている。

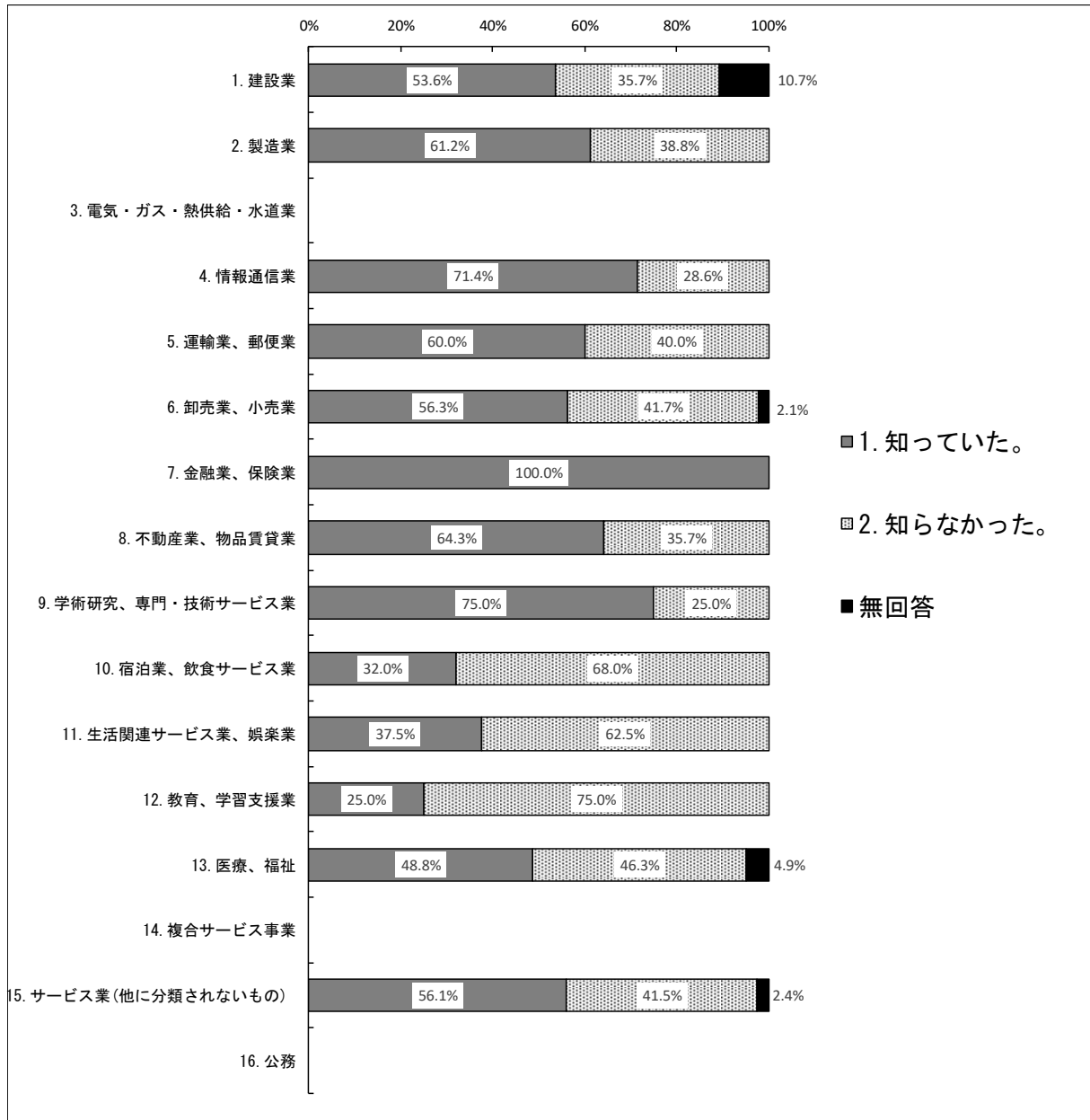


図 3.3.56 廃プラスチックの排出方法についての理解度（業種別）

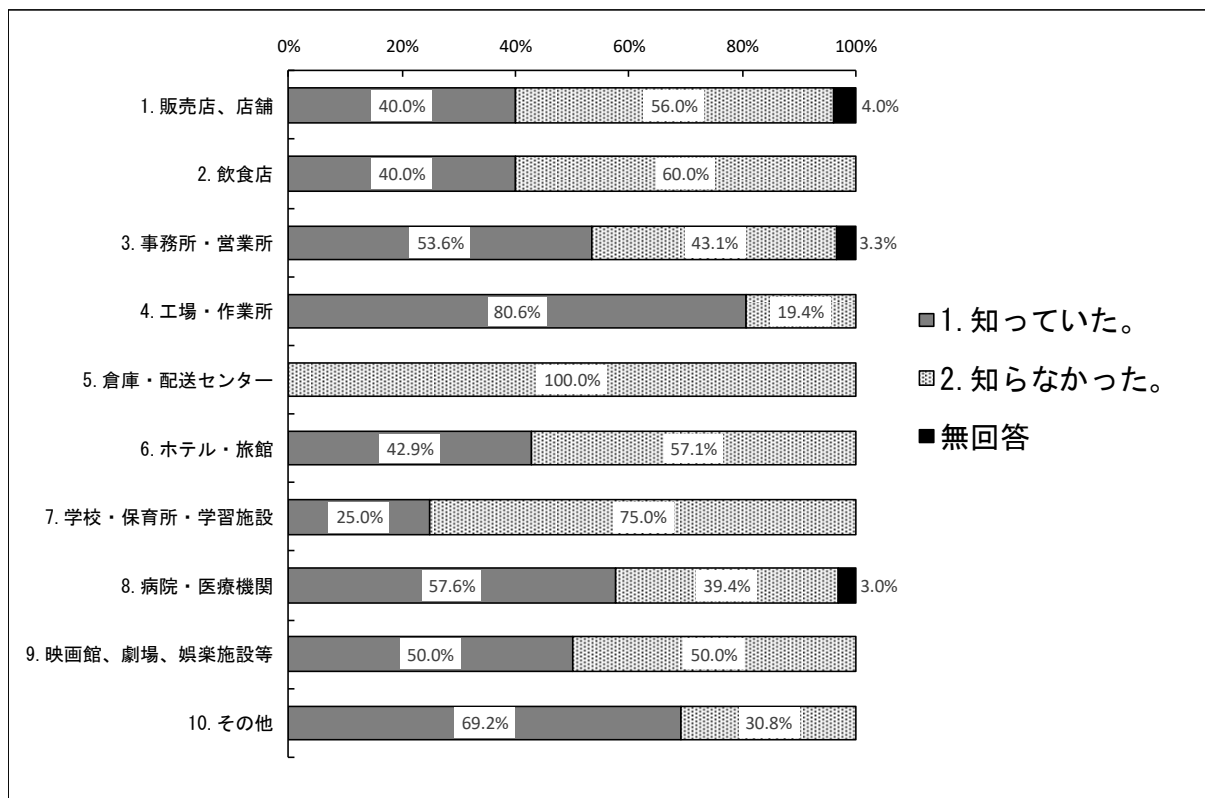


図 3.3.57 廃プラスチックの排出方法についての理解度（事業形態別）

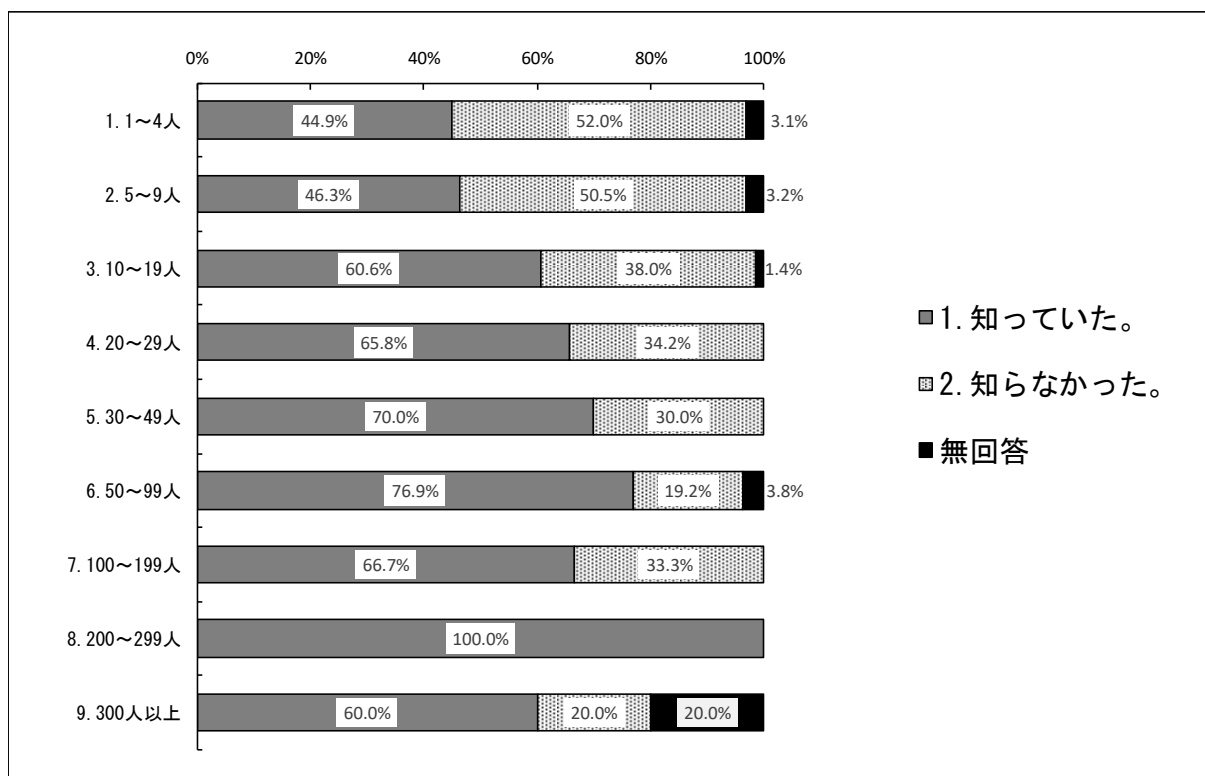


図 3.3.58 廃プラスチックの排出方法についての理解度（従業員数別）

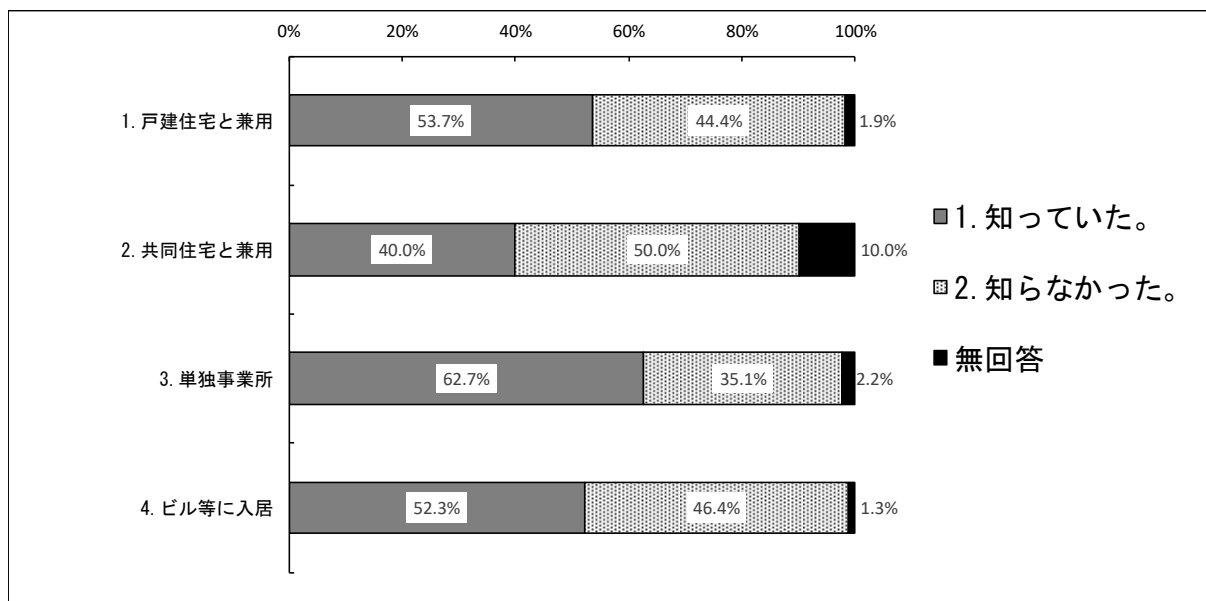


図 3.3.59 廃プラスチックの排出方法についての理解度（事業所の形態別）

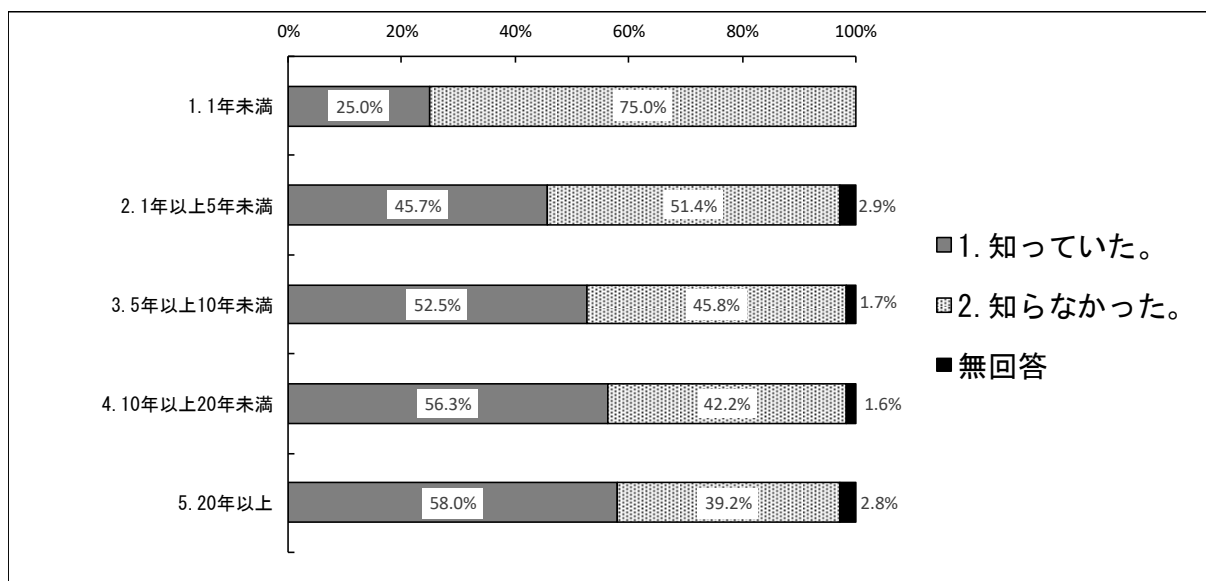


図 3.3.60 廃プラスチックの排出方法についての理解度（墨田区内での営業年数別）

3.3.10 問9 ごみ排出量の変化に対する認識

ごみ排出量の変化に対する認識についてみると、「やや減っている。」が47.6%と最も割合が高く、次いで「やや増えている。」が21.7%、「減っている。」が20.6%の順であり、「増えている。」と回答した事業所は2.9%であった。

表 3.3.26 ごみ排出量の変化に対する認識

項目	回答数	割合
1.増えている。	11	2.9%
2.やや増えている。	82	21.7%
3.やや減っている。	180	47.6%
4.減っている。	78	20.6%
無回答	27	7.1%
合計	378	100%

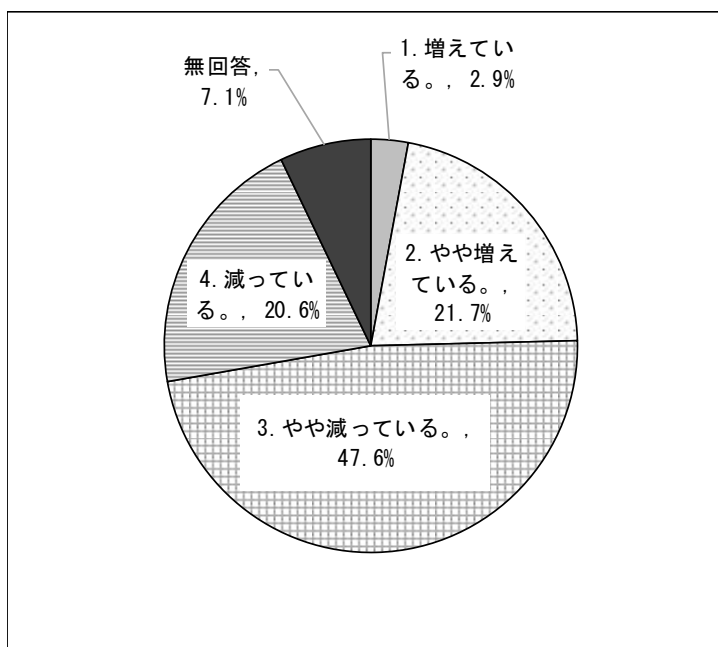


図 3.3.61 ごみ排出量の変化に対する認識

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.62～図 3.3.66 に示す。

全体的に「やや減っている。」「減っている。」の割合が高くなっているが、業種では「金融業、保険業」、事業形態では「ホテル、旅館」については、「増えている。」「やや増えている。」の割合が高くなっている。

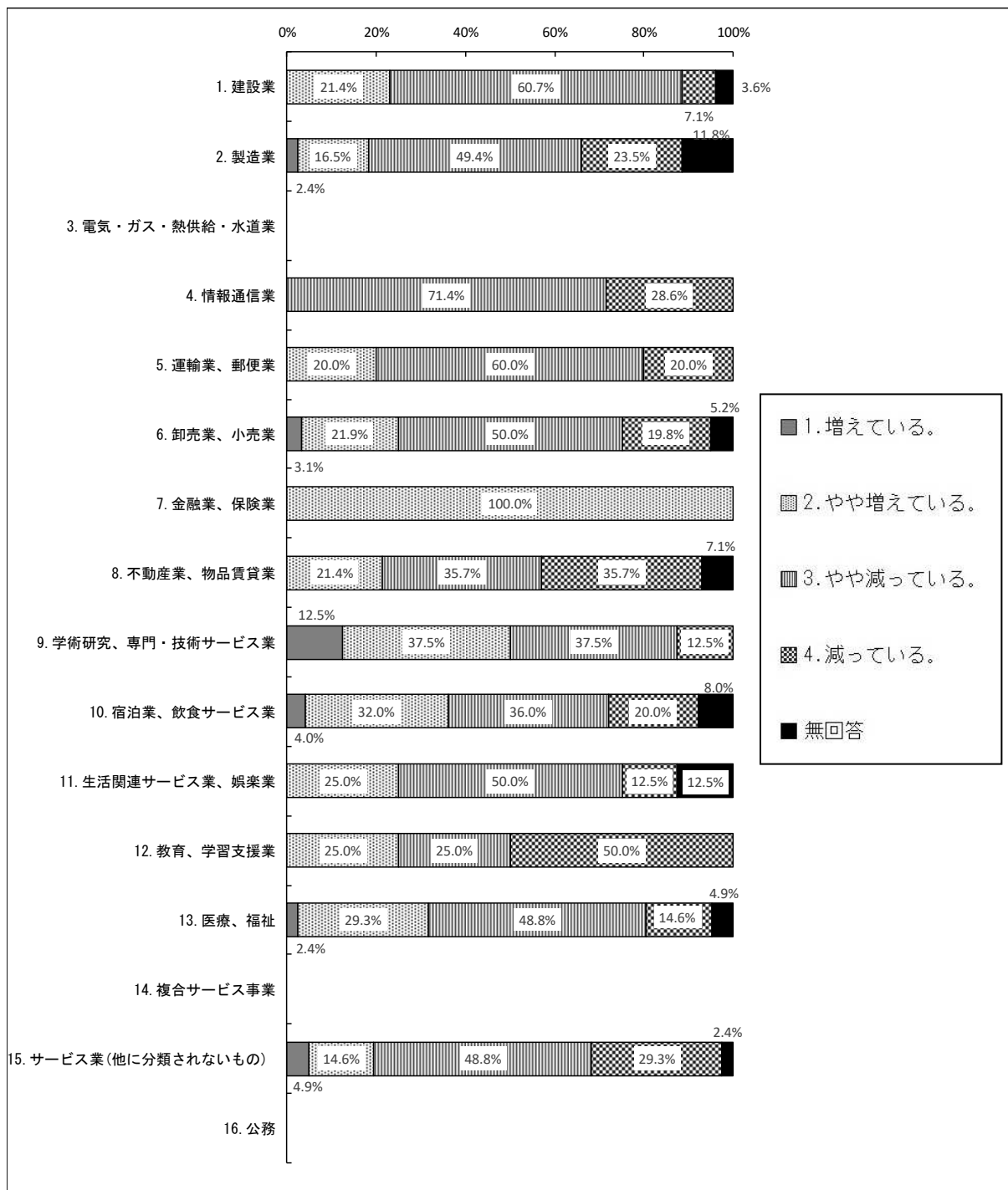


図 3.3.62 ごみ排出量の変化に対する認識（業種別）

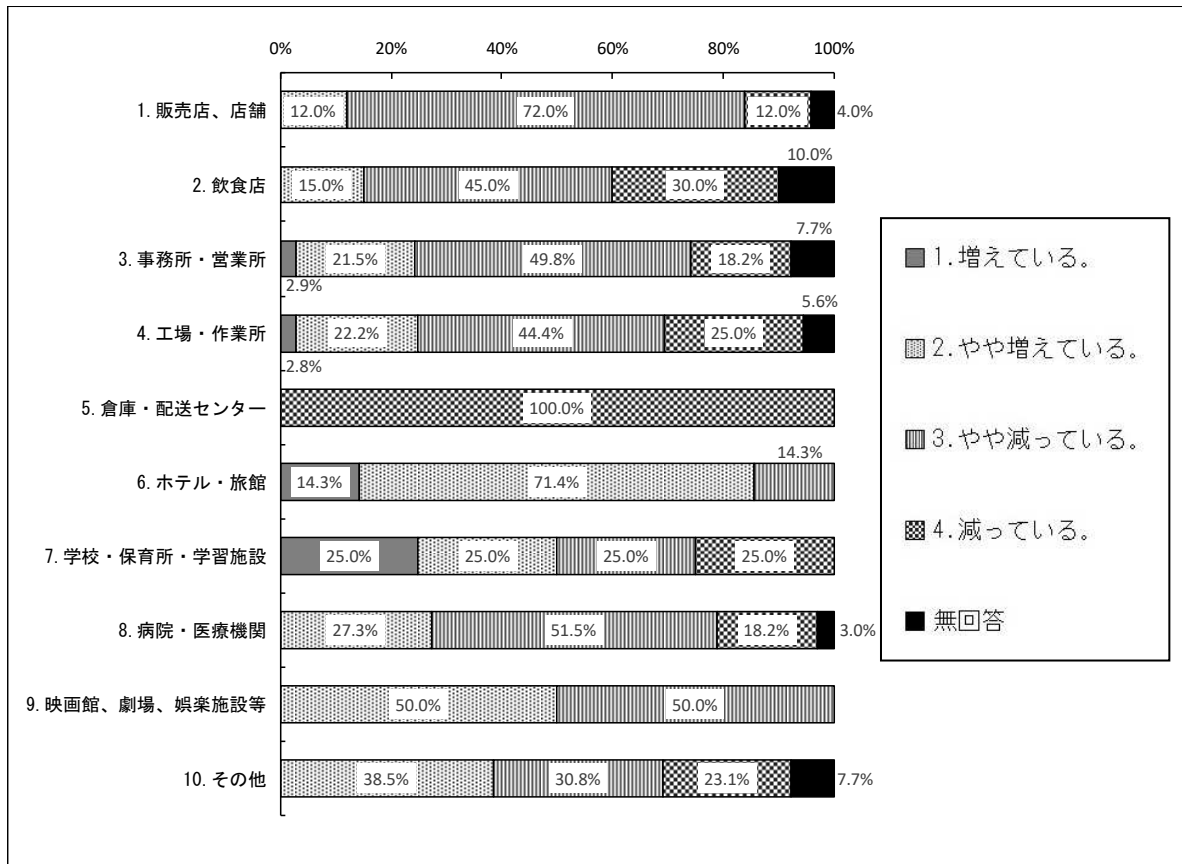


図 3.3.63 ごみ排出量の変化に対する認識（事業形態別）

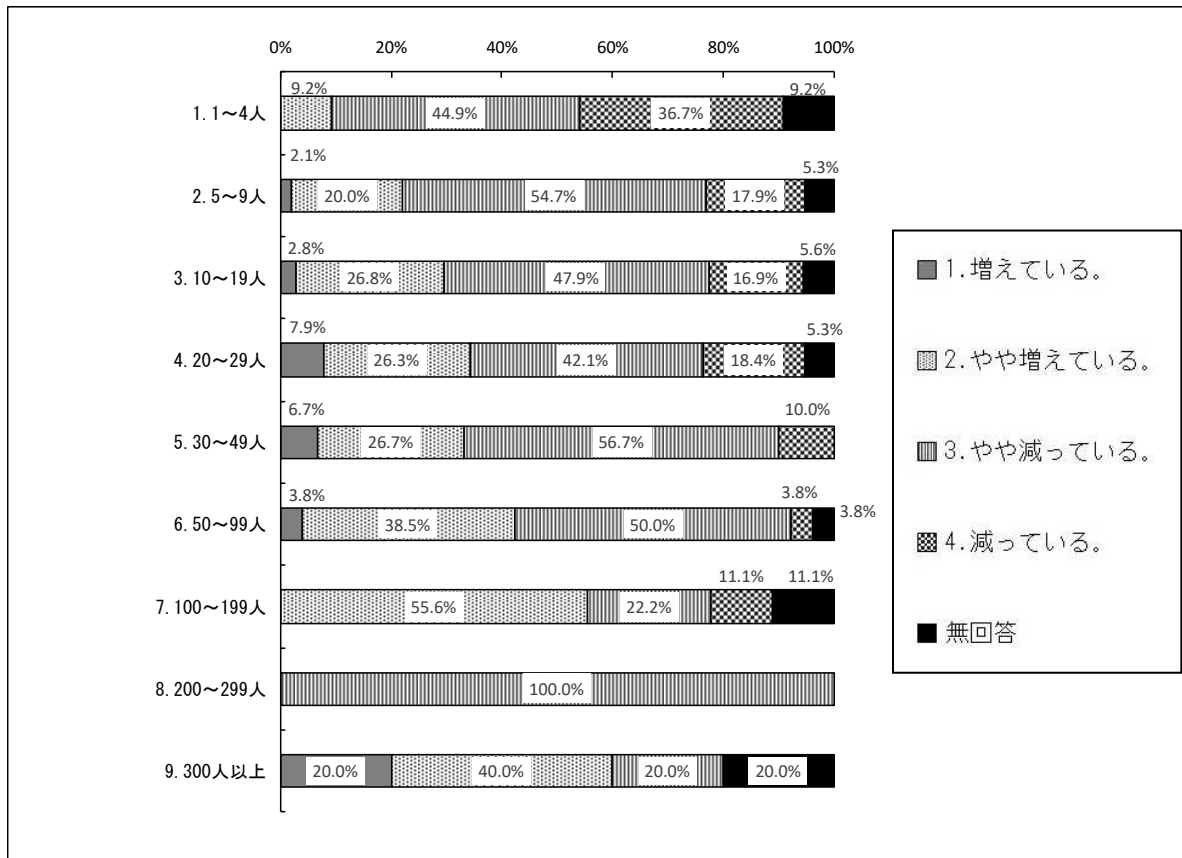


図 3.3.64 ごみ排出量の変化に対する認識（従業員数別）

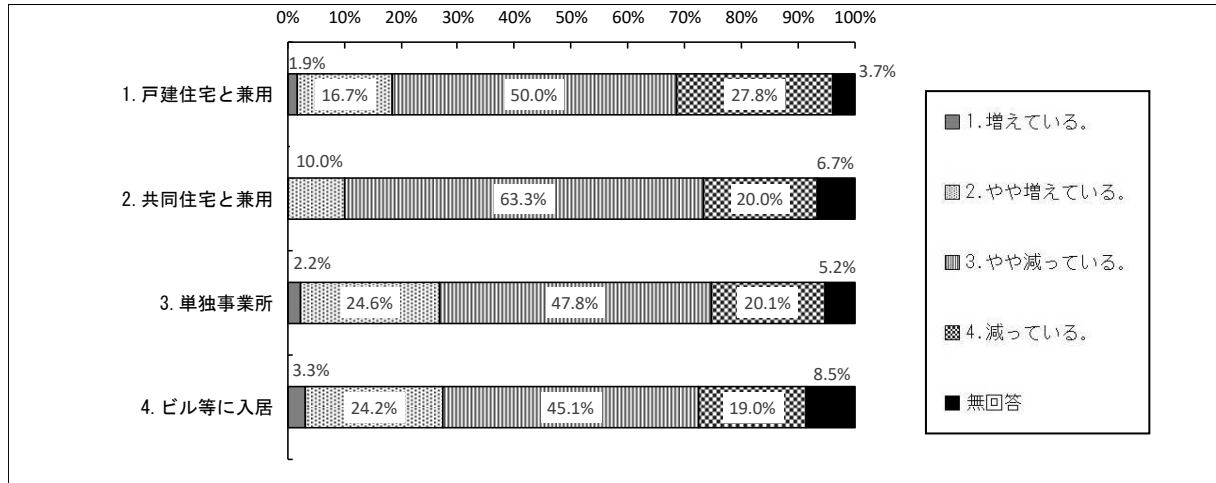


図 3.3.65 ごみ排出量の変化に対する認識（事業所の形態別）

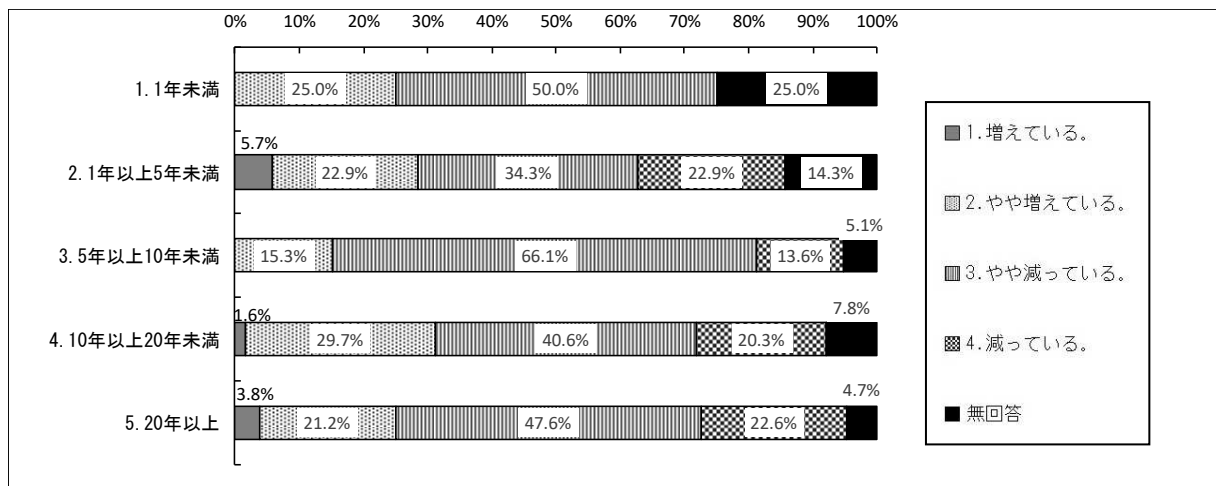


図 3.3.66 ごみ排出量の変化に対する認識（墨田区内での営業年数別）

3.3.11 問10 ごみの減量化、資源化、分別に関する取り組みの実施状況

ごみの減量や分別に関する取り組みの実施状況についてみると、「書類のペーパーレス化に努めている。」が51.3%と最も割合が高く、次いで「缶やびんの分別回収箱を設置している。」が48.4%、「古紙回収箱を設置している。」が27.2%の順であった。

表 3.3.27 ごみの減量や分別に関する取り組みの実施状況

項目	回答数	割合
1. 減量目標を定めて、ごみの減量に取り組んでいる。	29	7.7%
2. ごみの減量化や資源化を事業所内に呼びかけている。	36	9.5%
3. ごみの減量化や資源化を推進する部署や担当者を設置している。	17	4.5%
4. ごみの減量化や資源化のマニュアルを作成している。	12	3.2%
5. ごみに関する検討委員会や組織を設置している。	2	0.5%
6. 取引先や納入業者に簡易包装等の省資源化や通い箱の使用を依頼している。	38	10.1%
7. 書類のペーパーレス化に努めている。	194	51.3%
8. 古紙回収箱を設置している。	103	27.2%
9. 缶やびんの分別回収箱を設置している。	183	48.4%
10. 周辺の事業所と協働して古紙を資源化している。	22	5.8%
11. 排出するごみや資源物の計量を行っている。	22	5.8%
12. 紙コップ等使い捨て製品の使用削減に努めている。	64	16.9%
13. 再生紙等再生用品の使用に努めている。	101	26.7%
14. 特に取り組んでいない。	55	14.6%
15. その他	20	5.3%
無回答	10	2.6%
合計	908	-

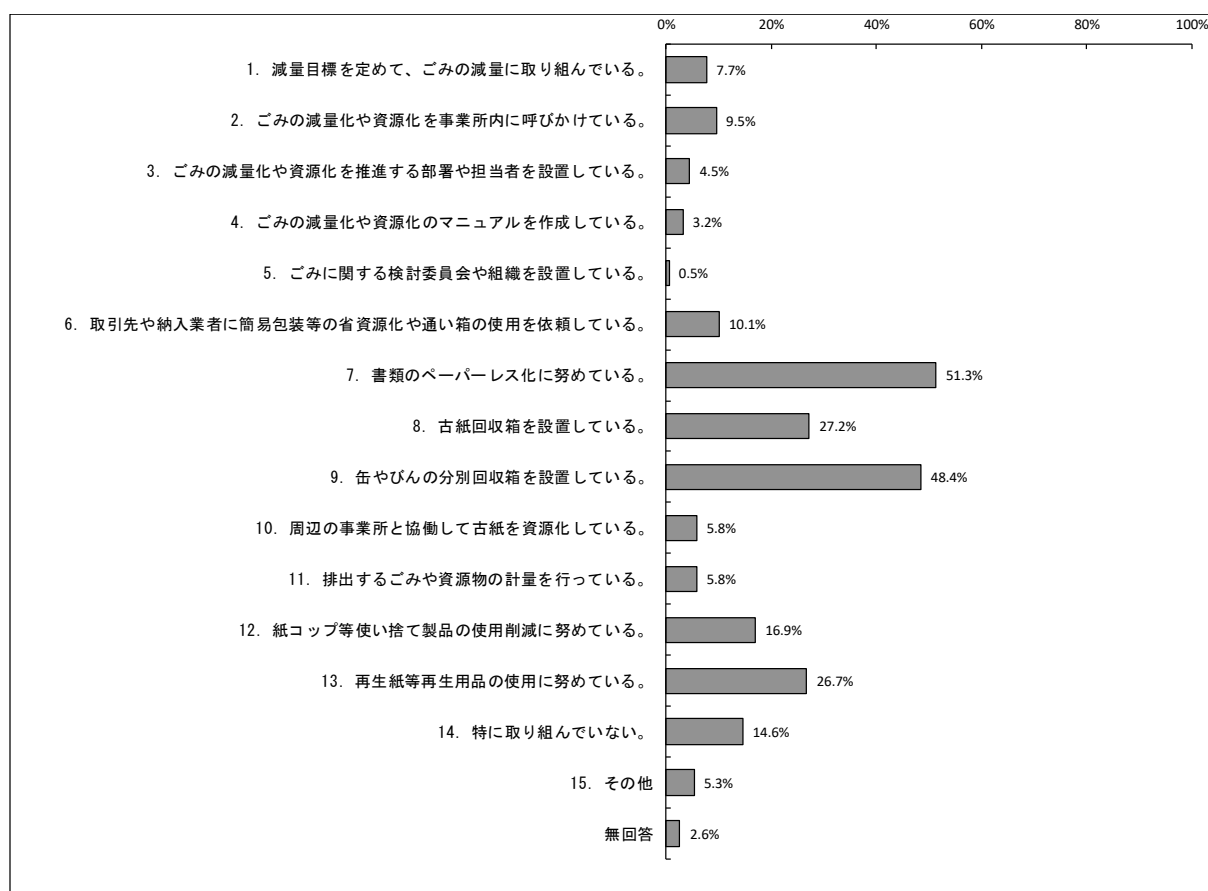


図 3.3.67 ごみの減量や分別に関する取り組みの実施状況

3.3.12 問11 ごみの減量や資源化に取り組む理由

ごみの減量や資源化に取り組む理由についてみると、「ごみを減らすことでコスト削減につながるため。」が61.1%と最も割合が高く、次いで「会社の社会的責任を果たすため。」が47.4%、「法律で定められているため。」が12.7%の順であった。

表 3.3.28 ごみの減量や資源化に取り組む理由

項目	回答数	割合
1. ごみを減らすことでコスト削減につながるため。	231	61.1%
2. 会社の社会的責任を果たすため。	179	47.4%
3. 会社の宣伝やイメージアップを図るため。	10	2.6%
4. ISO14001等の認証を取得している(または取得したい)ため。	18	4.8%
5. 法律で定められているため。	48	12.7%
6. 会社全体で規定されているため。	26	6.9%
7. その他	16	4.2%
無回答	41	10.8%
合計	569	-

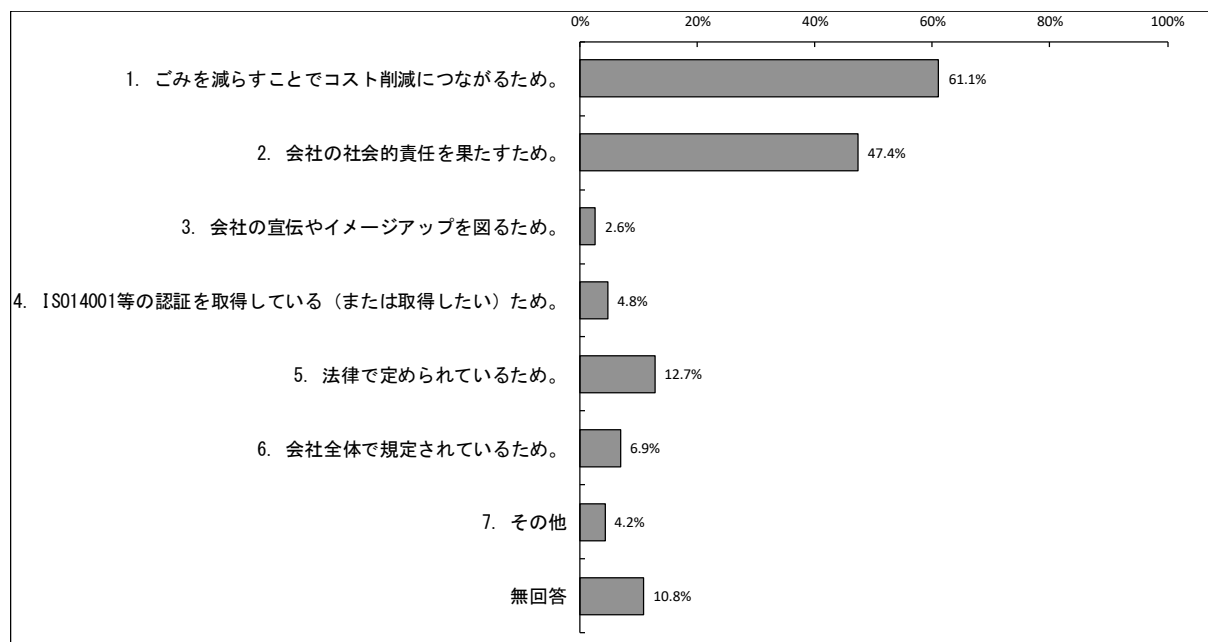


図 3.3.68 ごみの減量や資源化に取り組む理由

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.69～図 3.3.73 に示す。

ほとんどの業種、事業形態で、属性を問わず、「ごみを減らすことでコスト削減につながるため。」が最も大きな理由となっている。

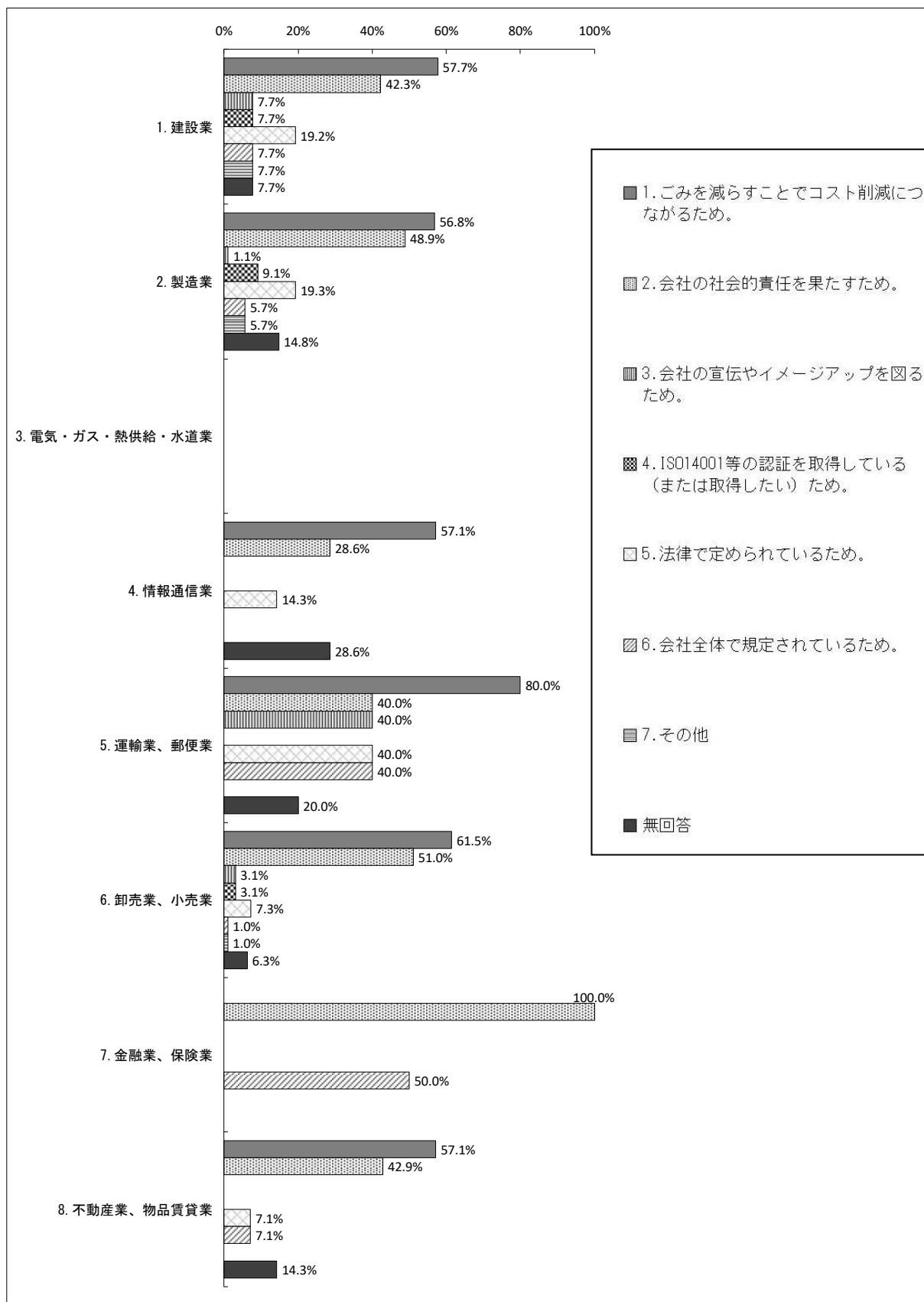


図 3.3.69 (1) ごみの減量や資源化に取り組む理由 (業種別)

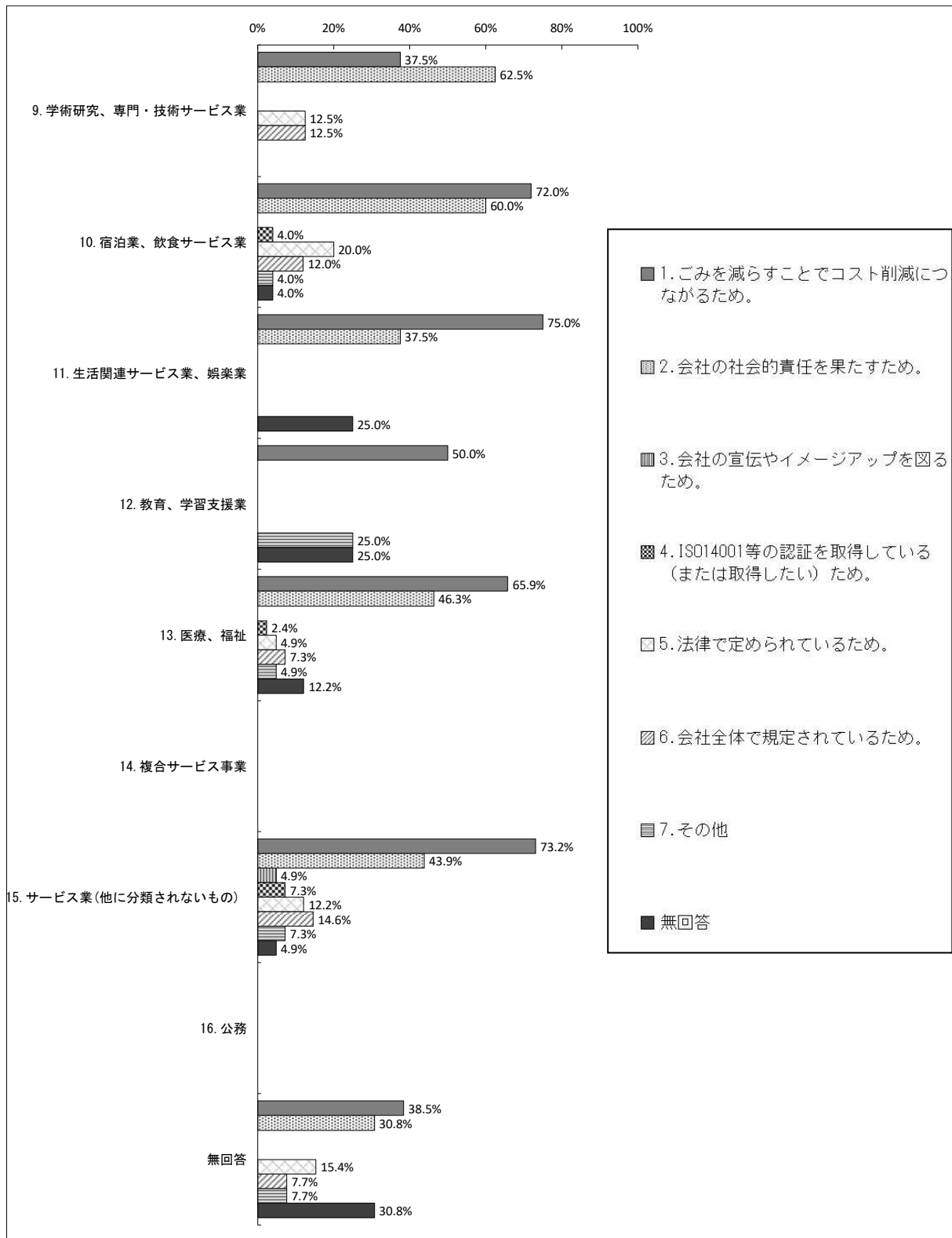


図 3.3.69 (2) ごみの減量や資源化に取り組む理由 (業種別)

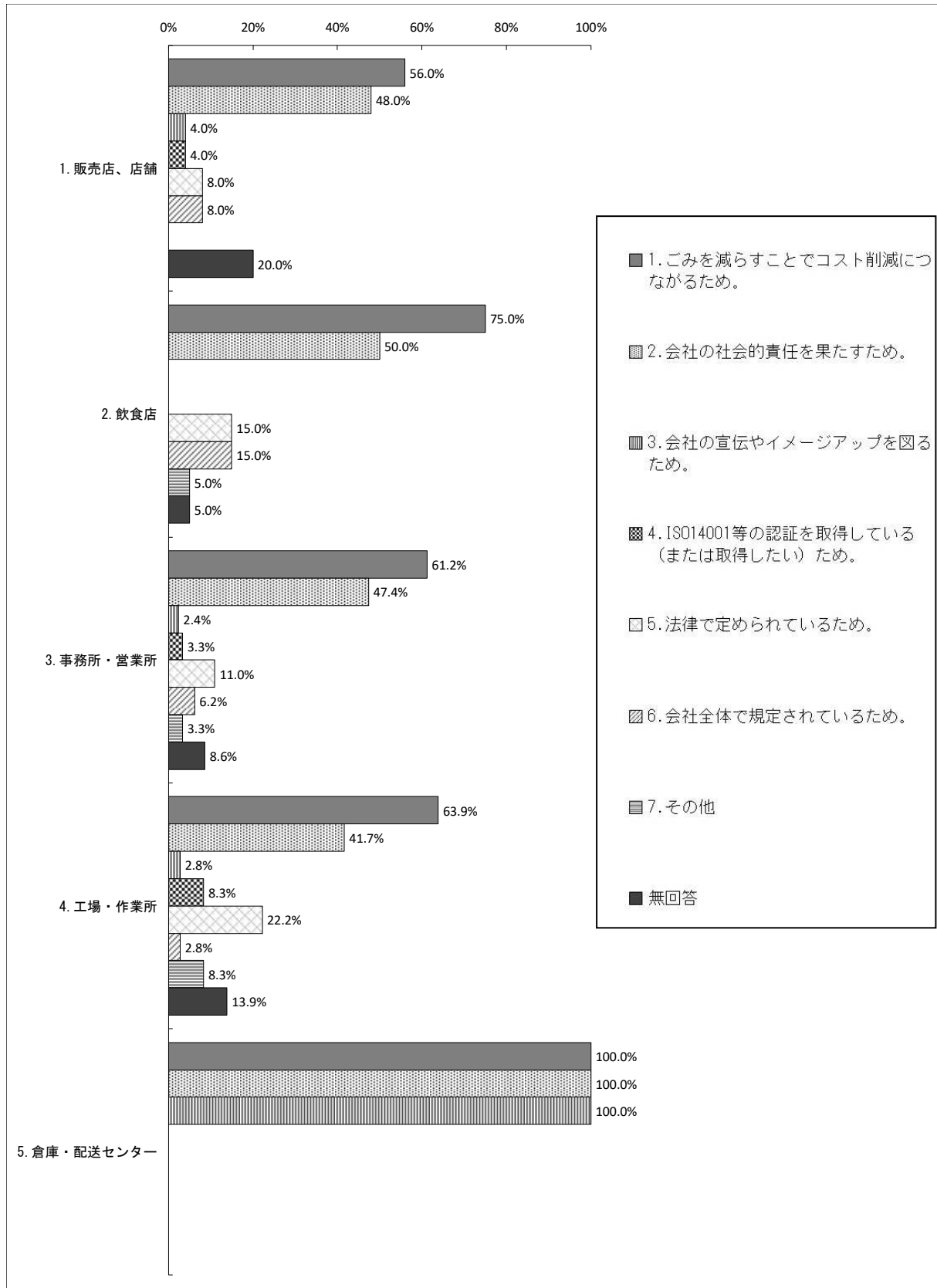


図 3.3.70 (1) ごみの減量や資源化に取り組む理由 (事業形態別)

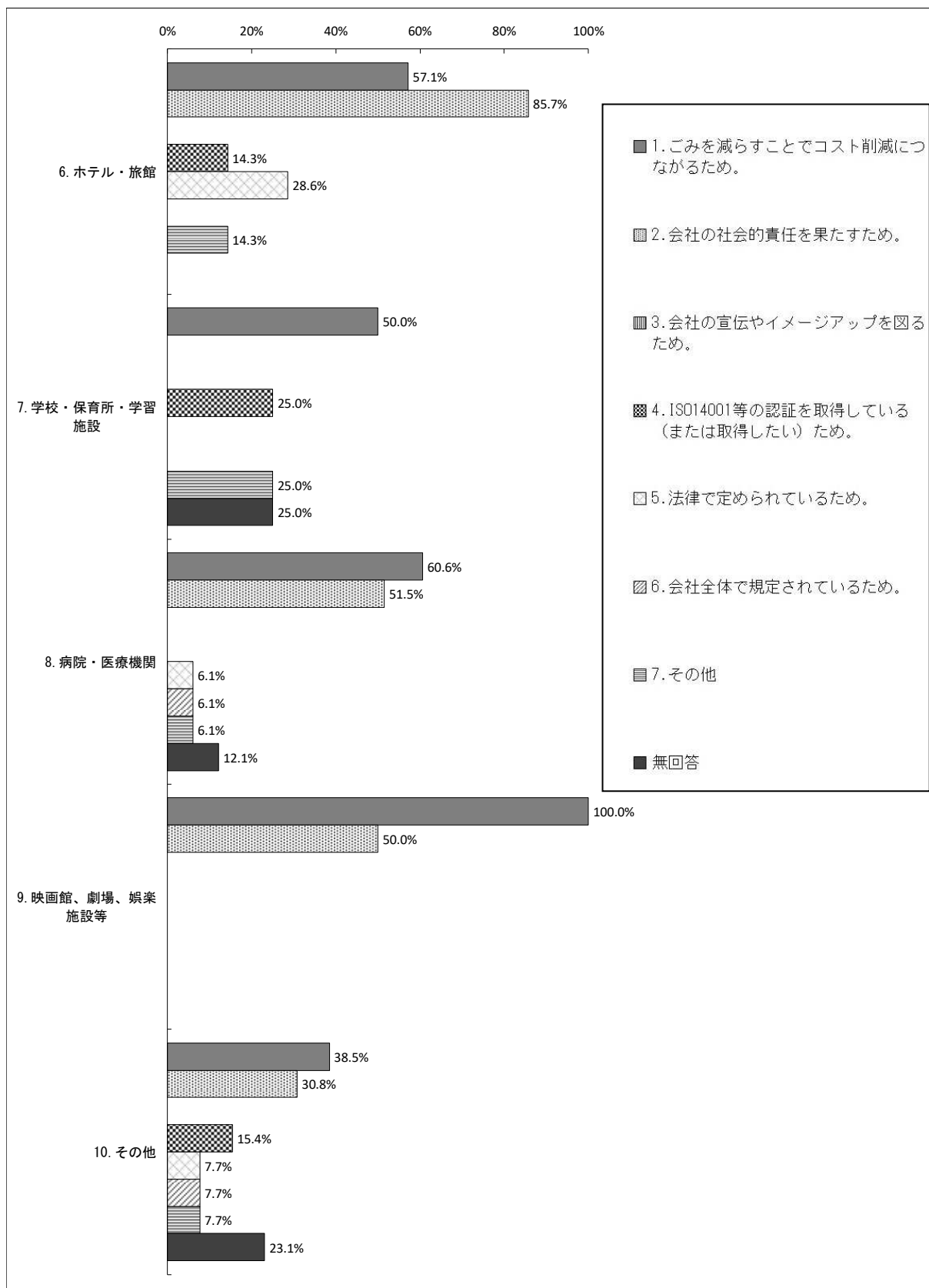


図 3.3.70 (2) ごみの減量や資源化に取り組む理由 (事業形態別)

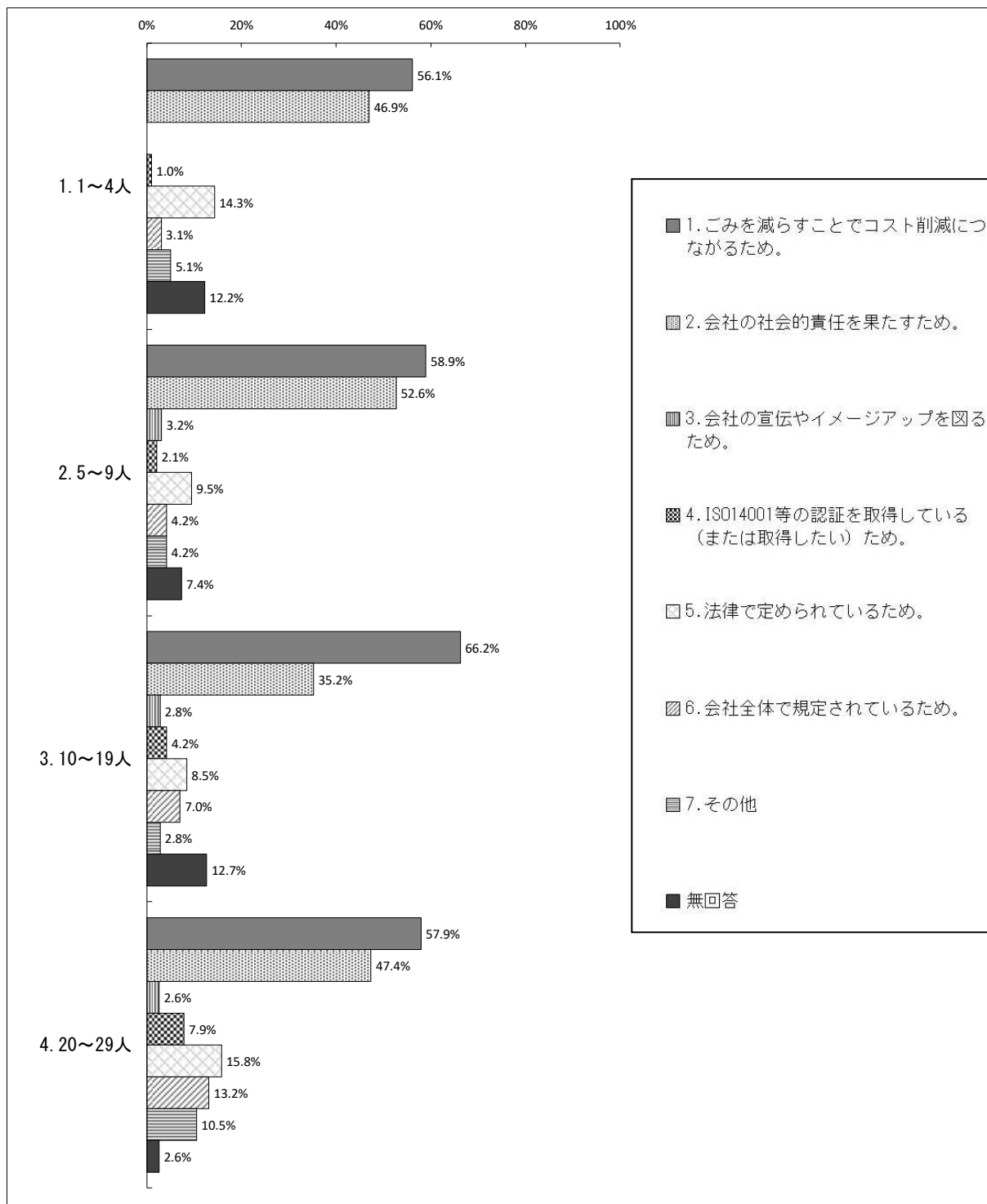


図 3.3.71 (1) ごみの減量や資源化に取り組む理由 (従業員数別)

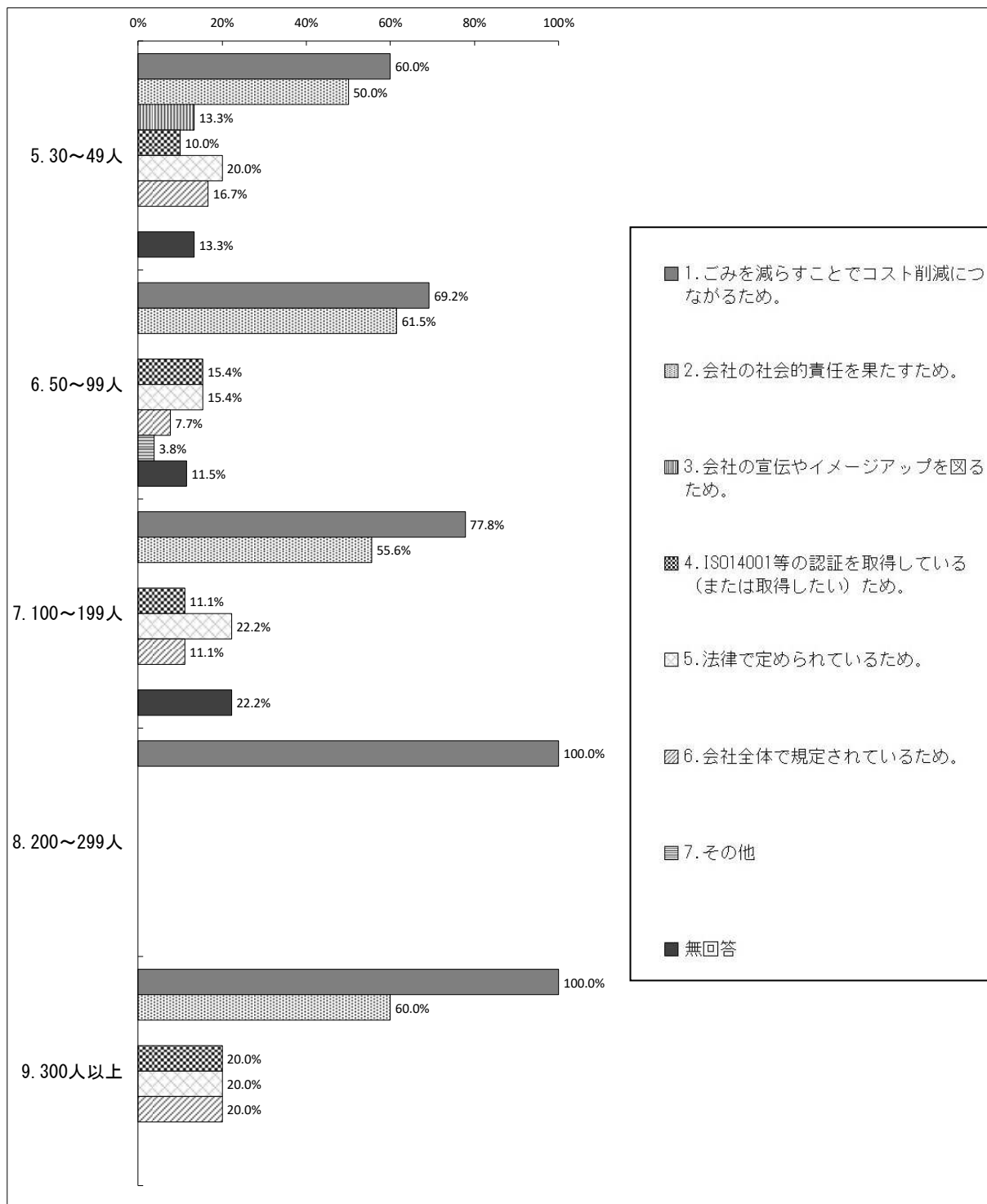


図 3.3.71 (2) ごみの減量や資源化に取り組む理由（従業員数別）

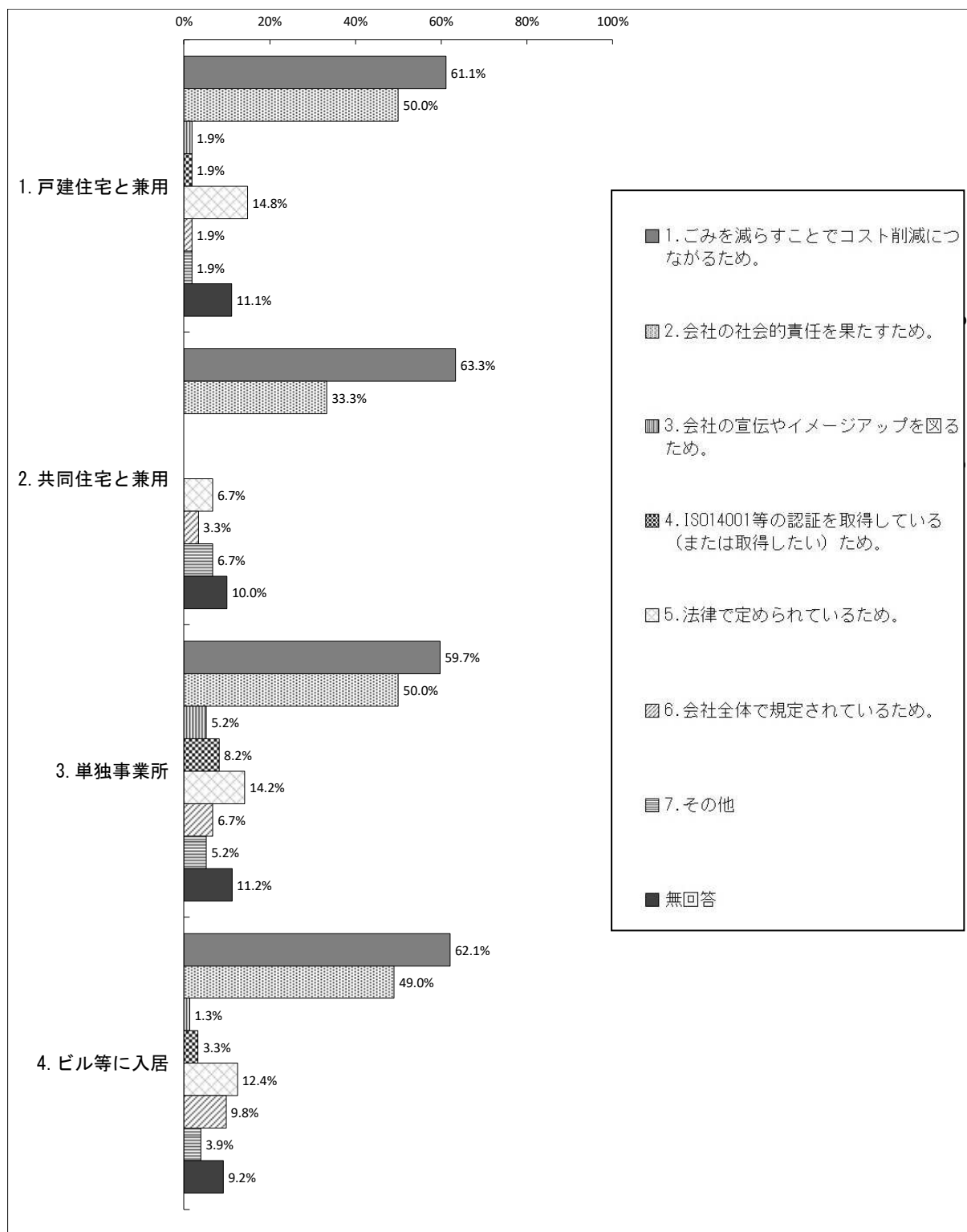


図 3.3.72 ごみの減量や資源化に取り組む理由（事業所の形態別）

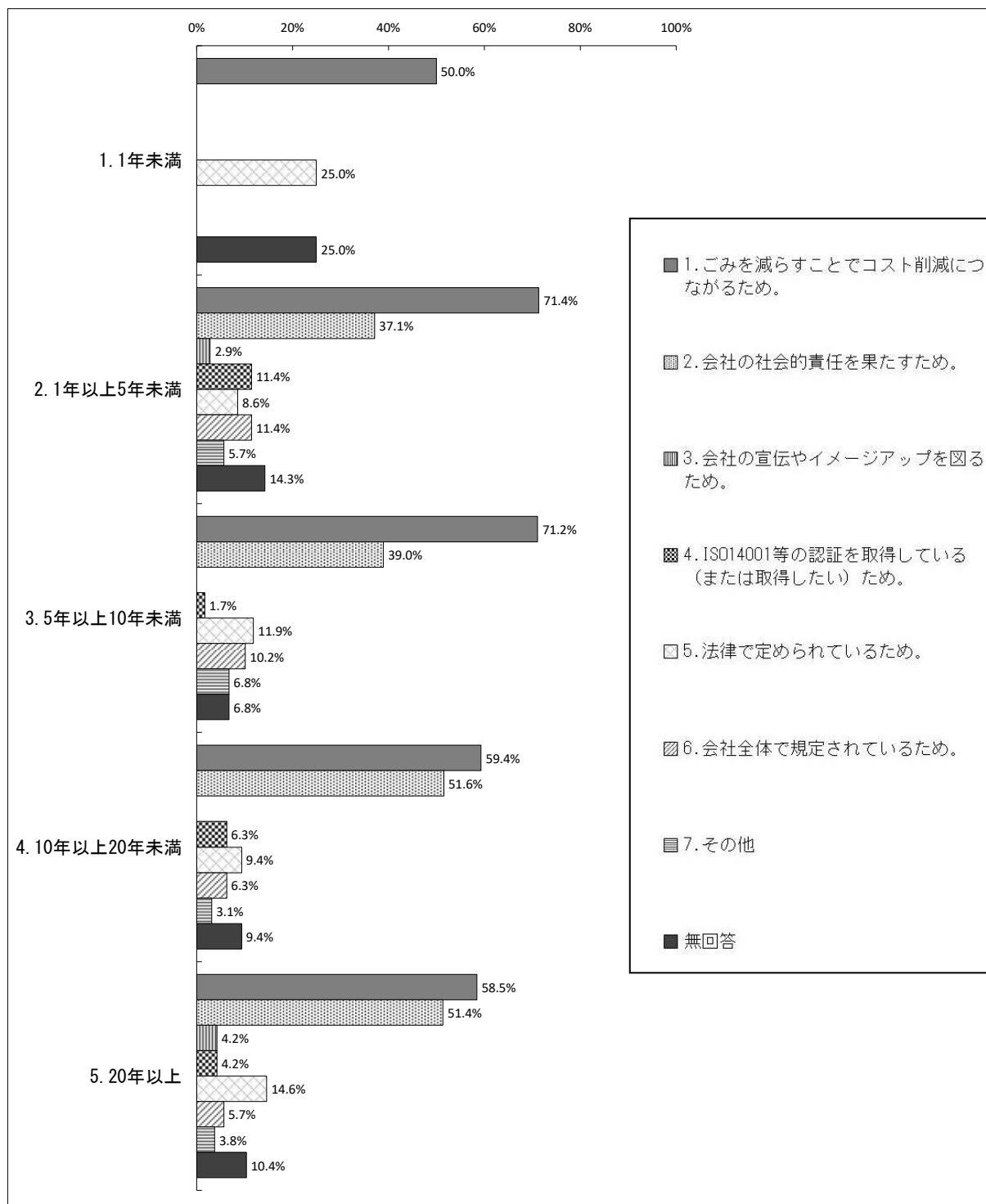


図 3.3.73 ごみの減量や資源化に取り組む理由（墨田区内での営業年数別）

3.3.13 問12 ごみの減量や資源化に取り組むうえでの問題点

ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点についてみると、「特に問題ない。」が39.7%と最も割合が高く、次いで「資源化できるものが出ない、または発生量が少ない。」が22.2%、「資源物を保管しておく場所がない。」が15.9%の順であった。

表 3.3.29 ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点

項目	回答数	割合
1. 資源物を保管しておく場所がない。	60	15.9%
2. 資源物やリサイクル可能な不用品の引渡し先(回収業者)が分からない。	18	4.8%
3. 従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい。	32	8.5%
4. 資源化できるものが出ない、または発生量が少ない。	84	22.2%
5. ごみの減量化、分別に人手がかかる。	24	6.3%
6. 機密書類が多く、リサイクルが難しい。	45	11.9%
7. 産業廃棄物との区別が難しい。	28	7.4%
8. 分別や排出方法のルールが分からない、理解しにくい。	14	3.7%
9. ごみ処理について質問や相談する窓口(区)が分からない。	8	2.1%
10. 特に問題ない。	150	39.7%
11. その他	9	2.4%
無回答	27	7.1%
合計	499	-

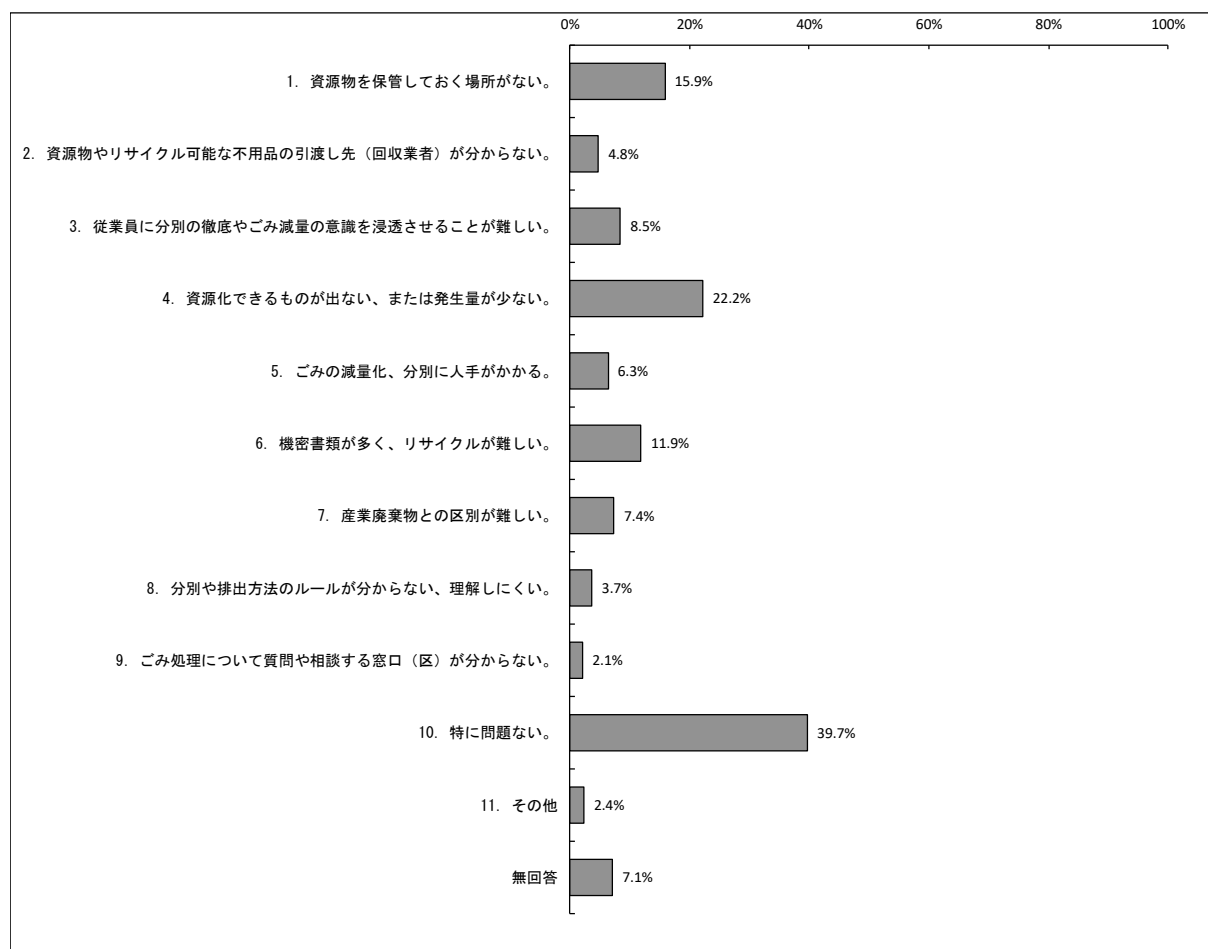


図 3.3.74 ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.75～図 3.3.79 に示す。

全体的に「特に問題ない。」の割合が高いが、事業所の形態が「共同住宅と兼用」である事業所については、他の属性と比較して「特に問題ない。」の割合が低くなっている。

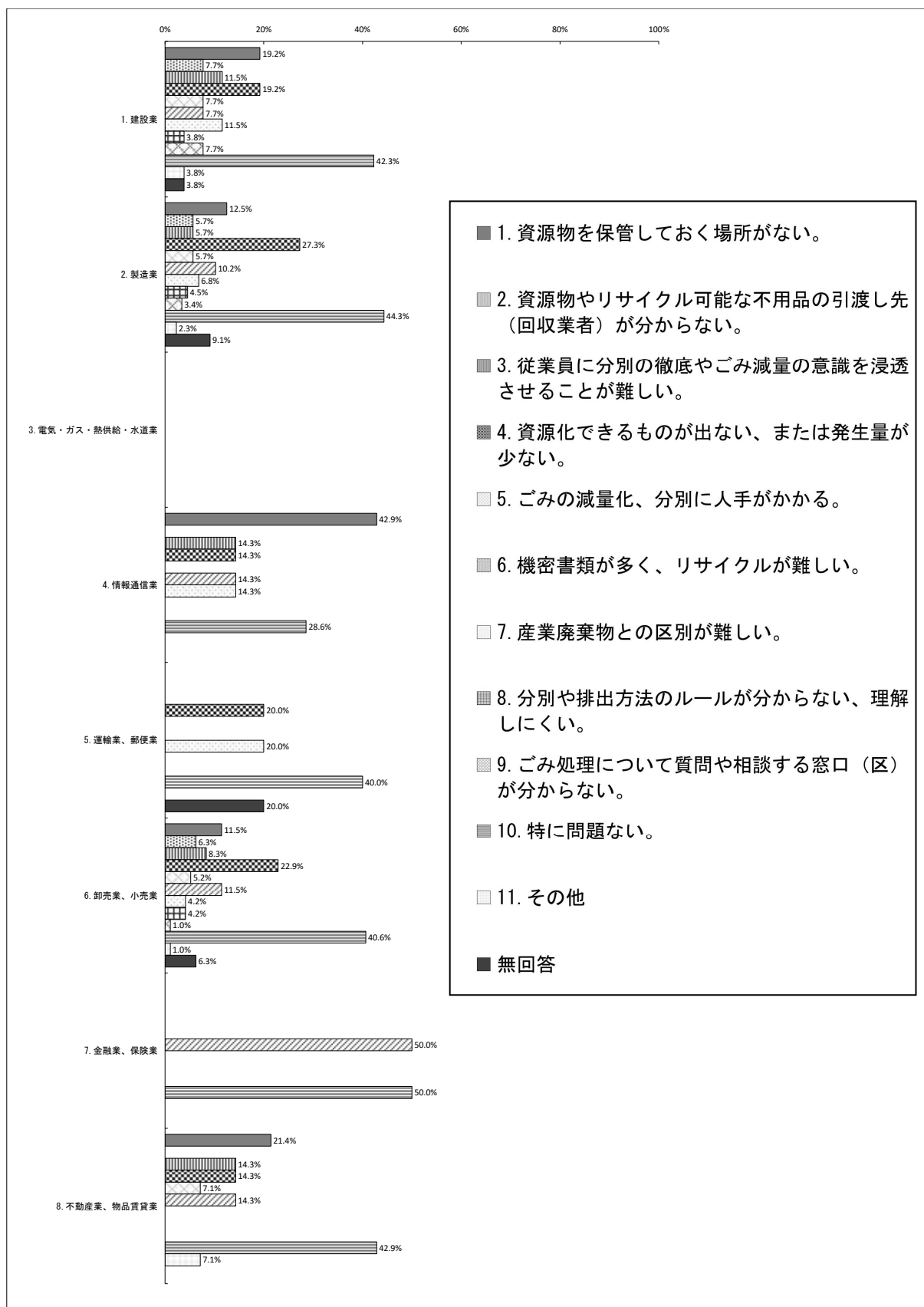


図 3.3.75 (1) ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点（業種別）

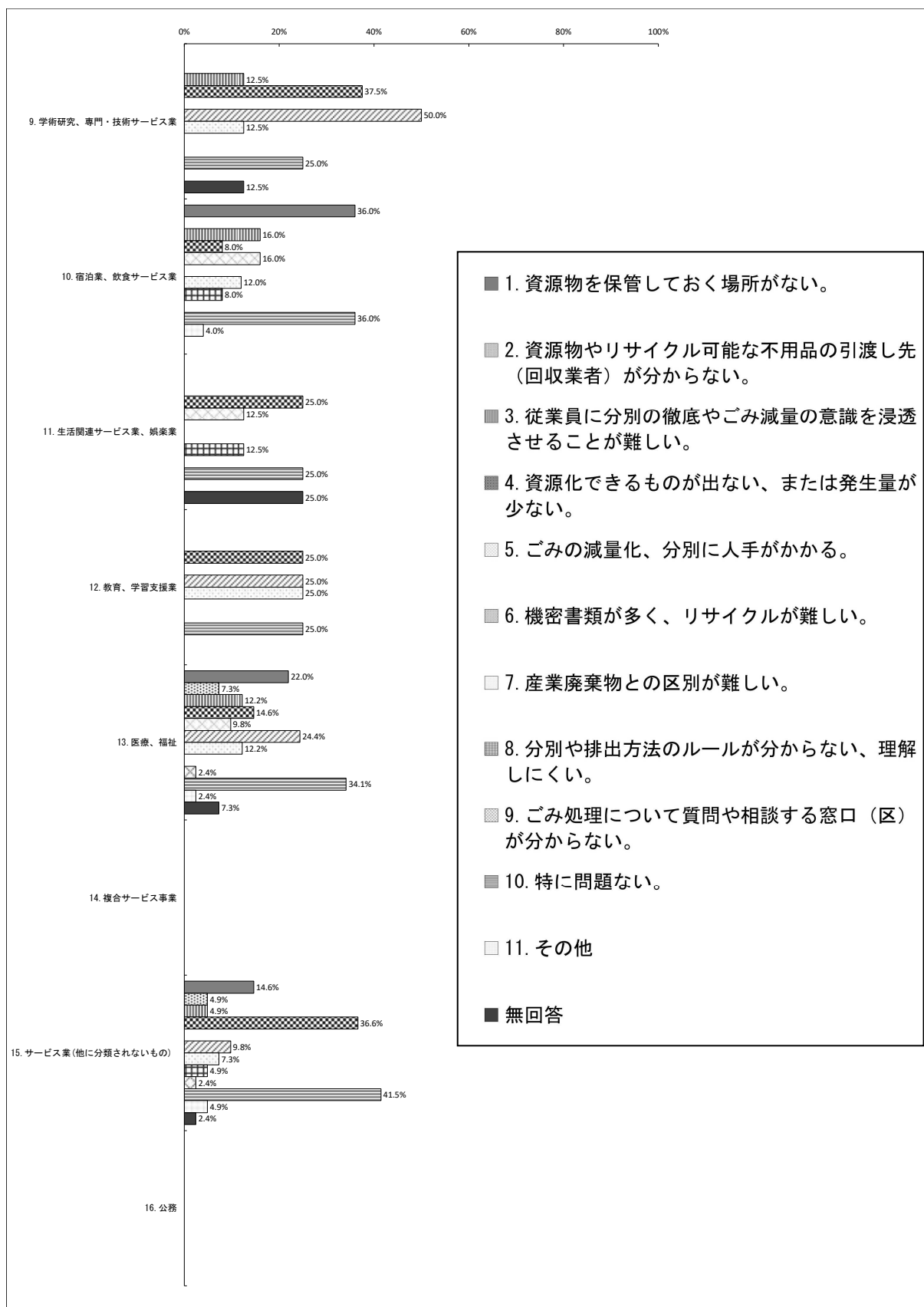


図 3.3.75 (2) ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点（業種別）

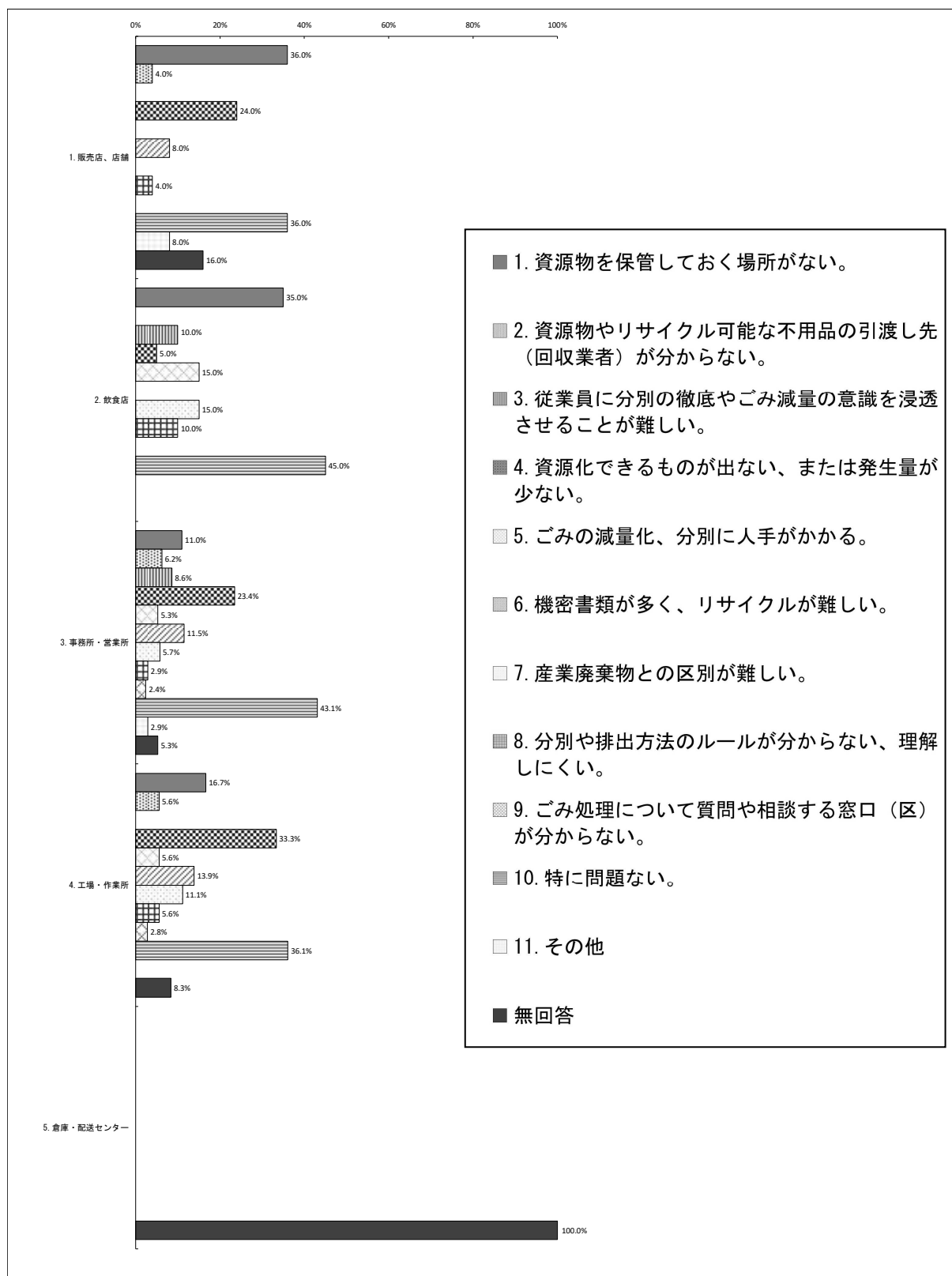


図 3.3.76 (1) ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点（事業形態別）

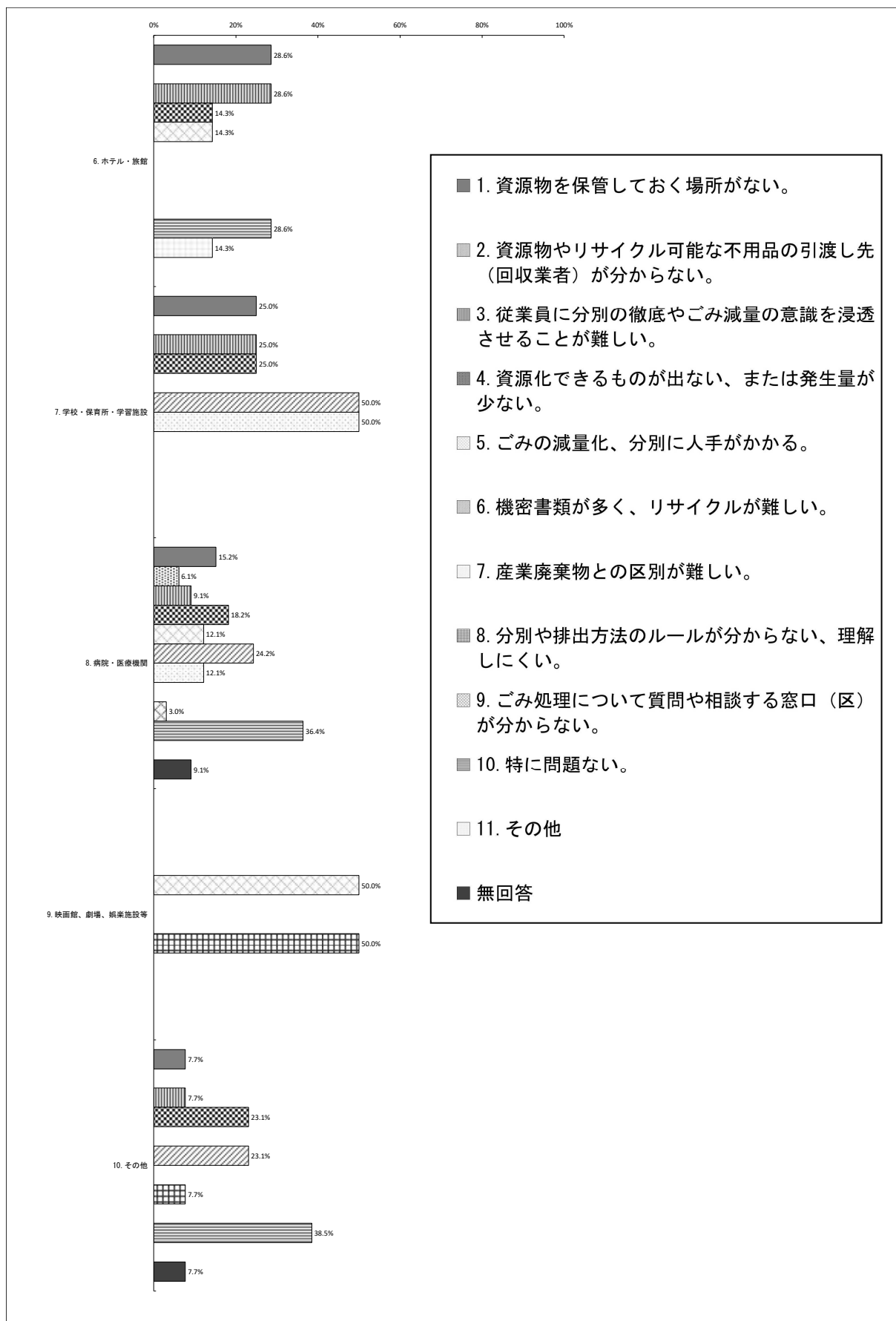


図 3.3.76 (2) ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点（事業形態別）

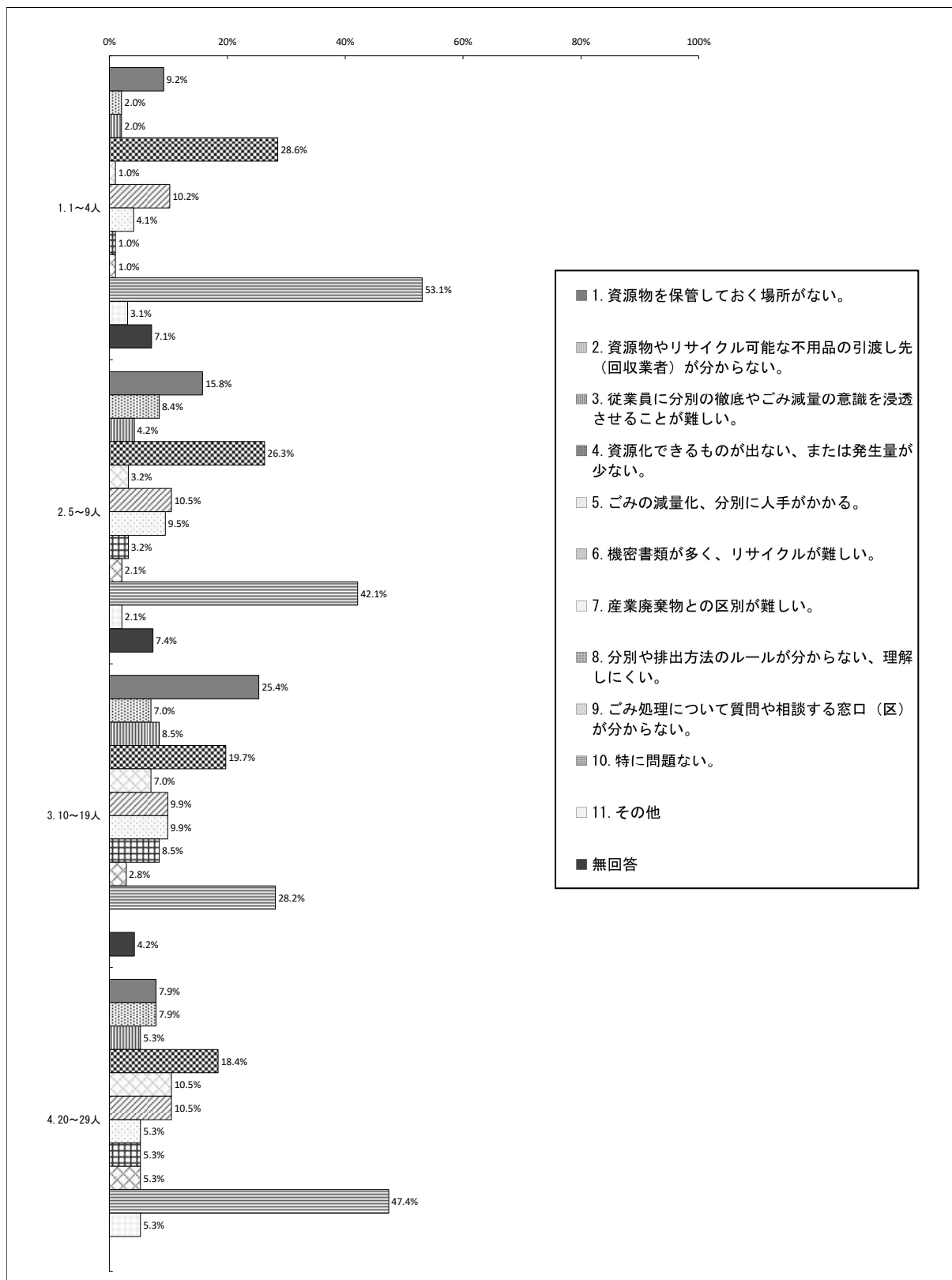


図 3.3.77 (1) ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点（従業員数別）

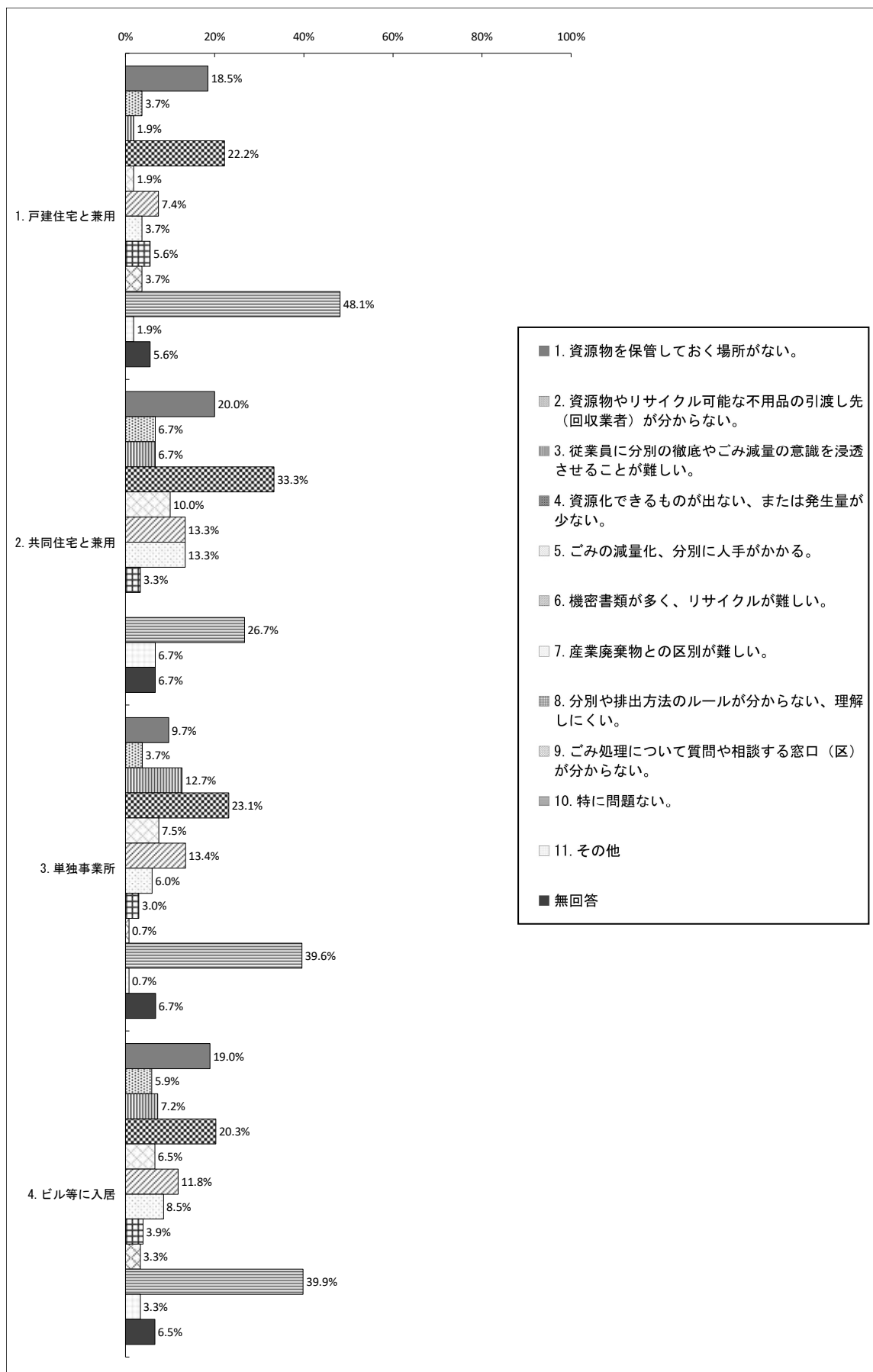


図 3.3.78 ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点（事業所の形態別）

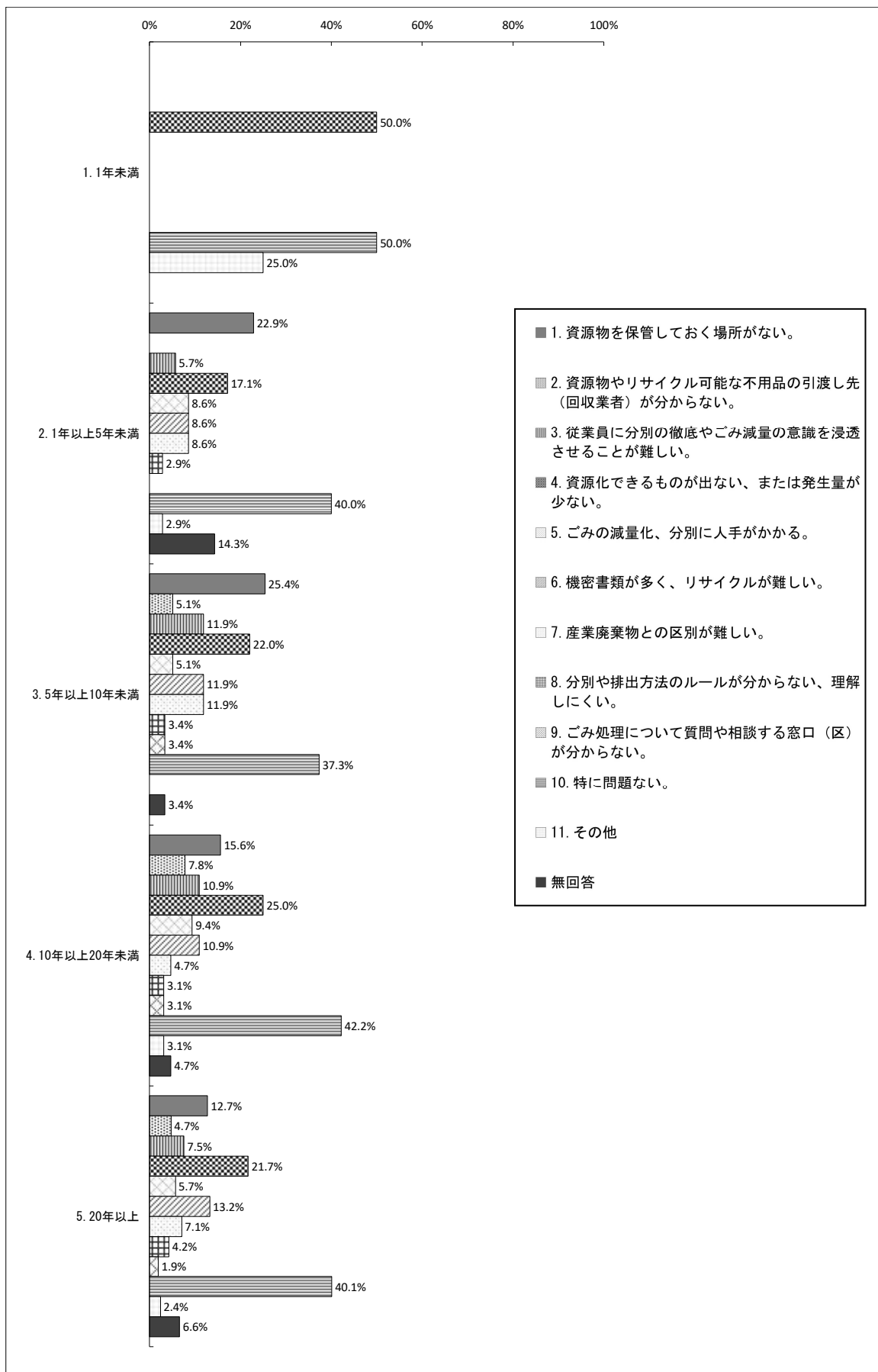


図 3.3.79 ごみの減量や分別に取り組むうえでの問題点（墨田区内での営業年数別）

3.3.14 問13 ごみの減量化、資源化を検討している品目

ごみの減量や分別を検討している品目についてみると、「コピー用紙、OA用紙」が44.7%と最も割合が高く、次いで「雑がみ」が38.4%、「段ボール」が25.7%の順であった。

表 3.3.30 ごみの減量や分別を検討している品目

項目	回答数	割合
1.生ごみ	31	8.2%
2.新聞、雑誌	36	9.5%
3.段ボール	97	25.7%
4.コピー用紙、OA用紙	169	44.7%
5.機密文書	46	12.2%
6.雑がみ	145	38.4%
7.ペットボトル	43	11.4%
8.プラスチック類	37	9.8%
9.缶類	21	5.6%
10.ビン類	20	5.3%
11.不燃ごみ	18	4.8%
12.粗大ごみ	24	6.3%
13.その他	12	3.2%
無回答	55	14.6%
合計	754	-

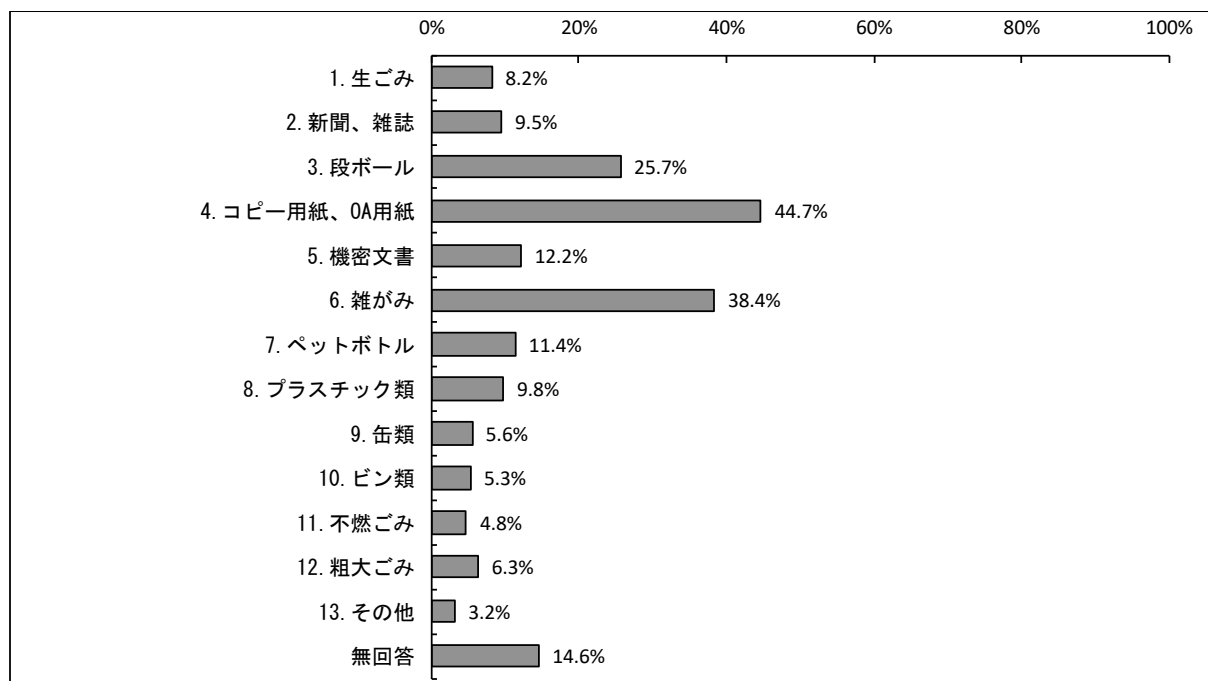


図 3.3.80 ごみの減量や分別を検討している品目

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.81～図 3.3.85 に示す。

従業員数が 100 人未満の事業所について「コピー用紙、OA 用紙」、「雑がみ」、「段ボール」の資源化を検討している傾向がみられる。

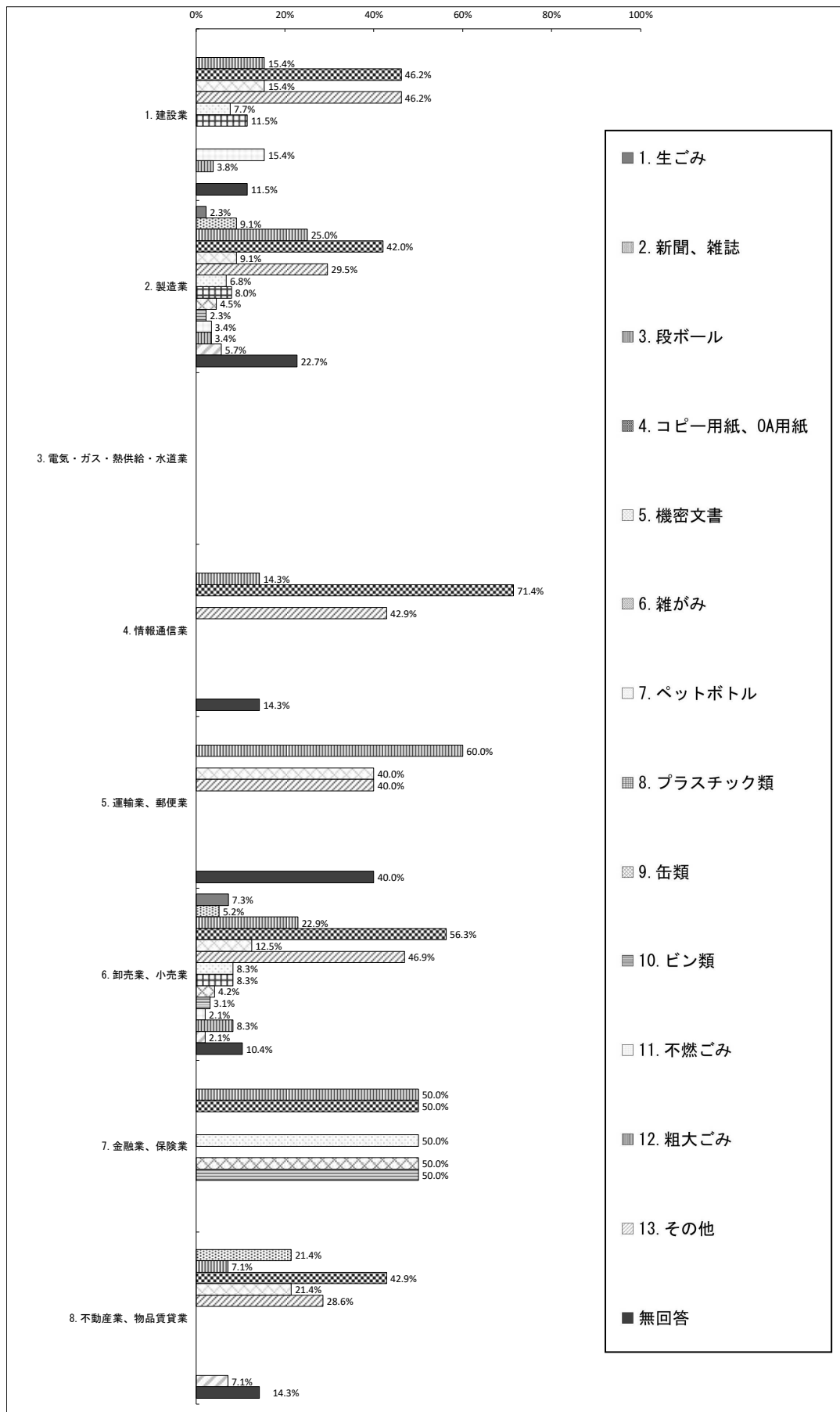


図 3.3.81 (1) ごみの減量や分別を検討している品目（業種別）

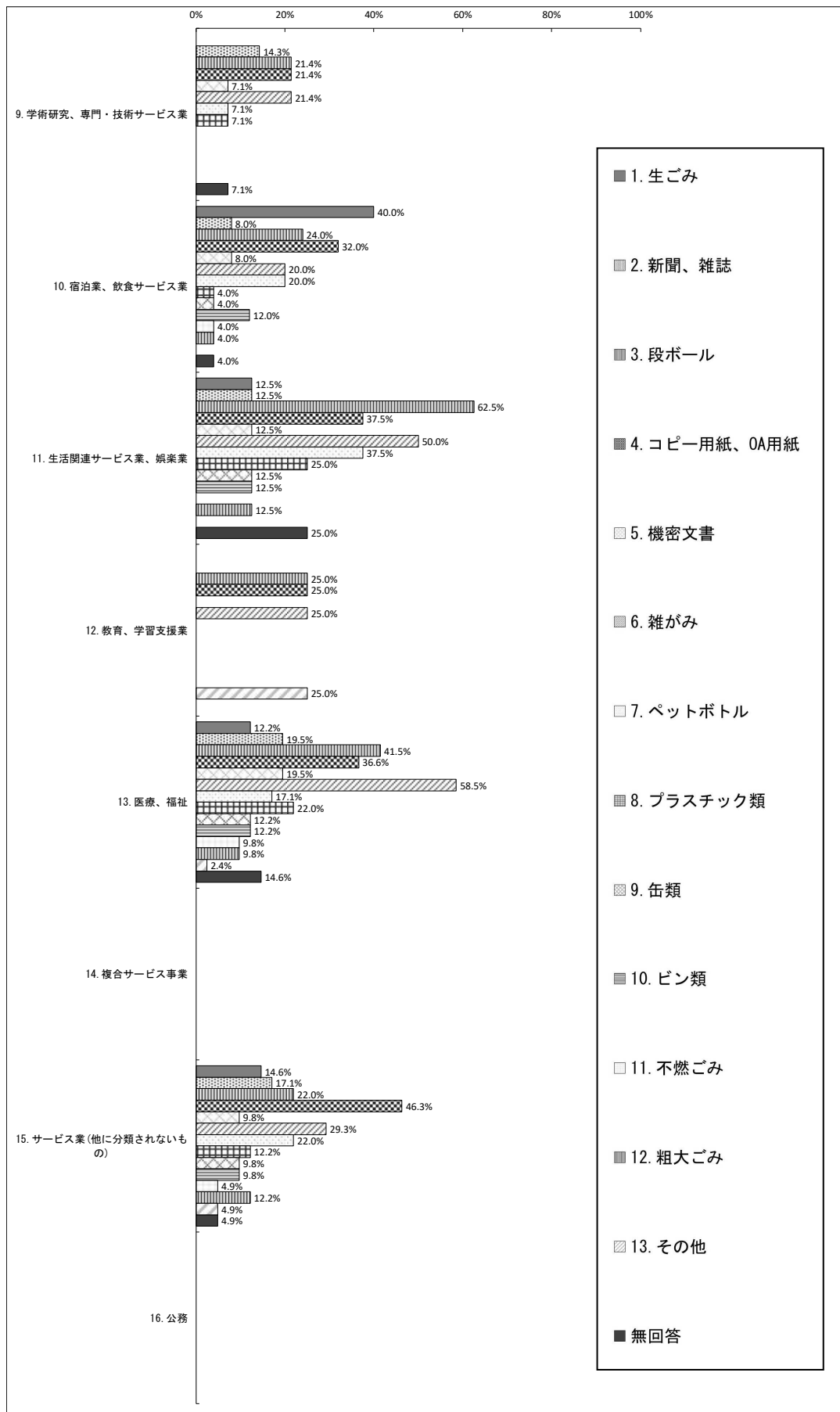


図 3.3.81 (2) ごみの減量や分別を検討している品目（業種別）

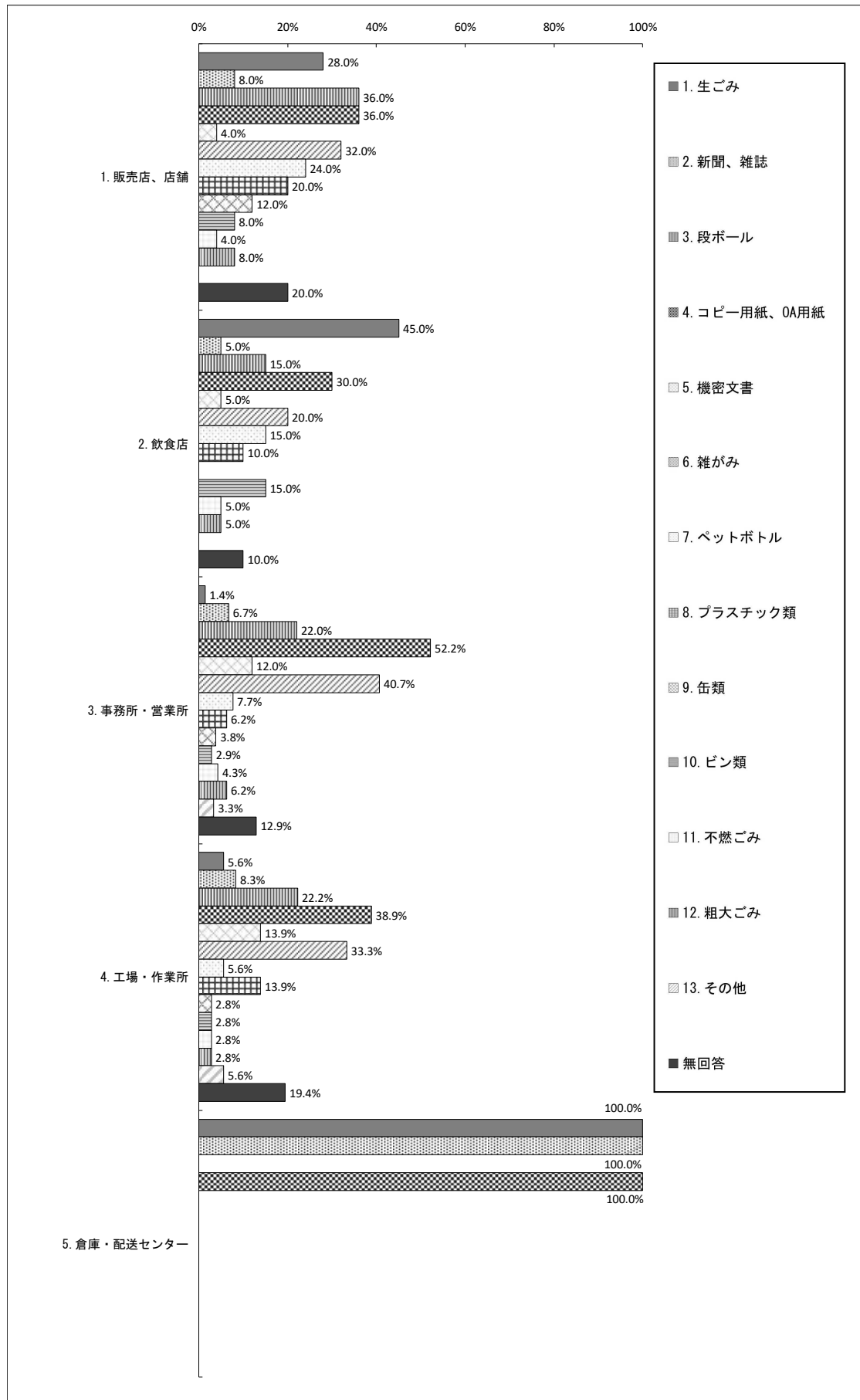


図 3.3.82 (1) ごみの減量や分別を検討している品目 (事業形態別)

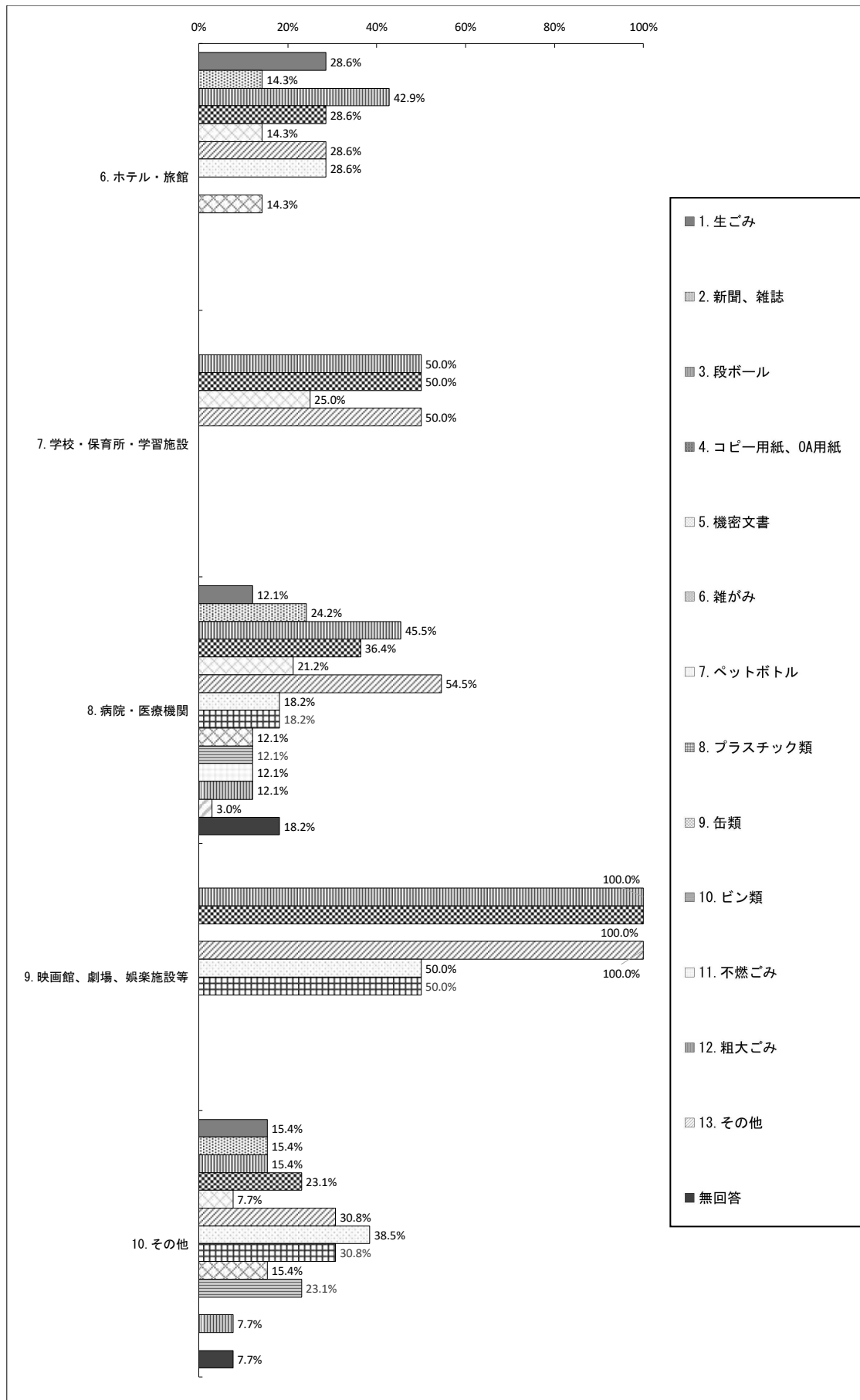


図 3.3.82 (2) ごみの減量や分別を検討している品目 (事業形態別)

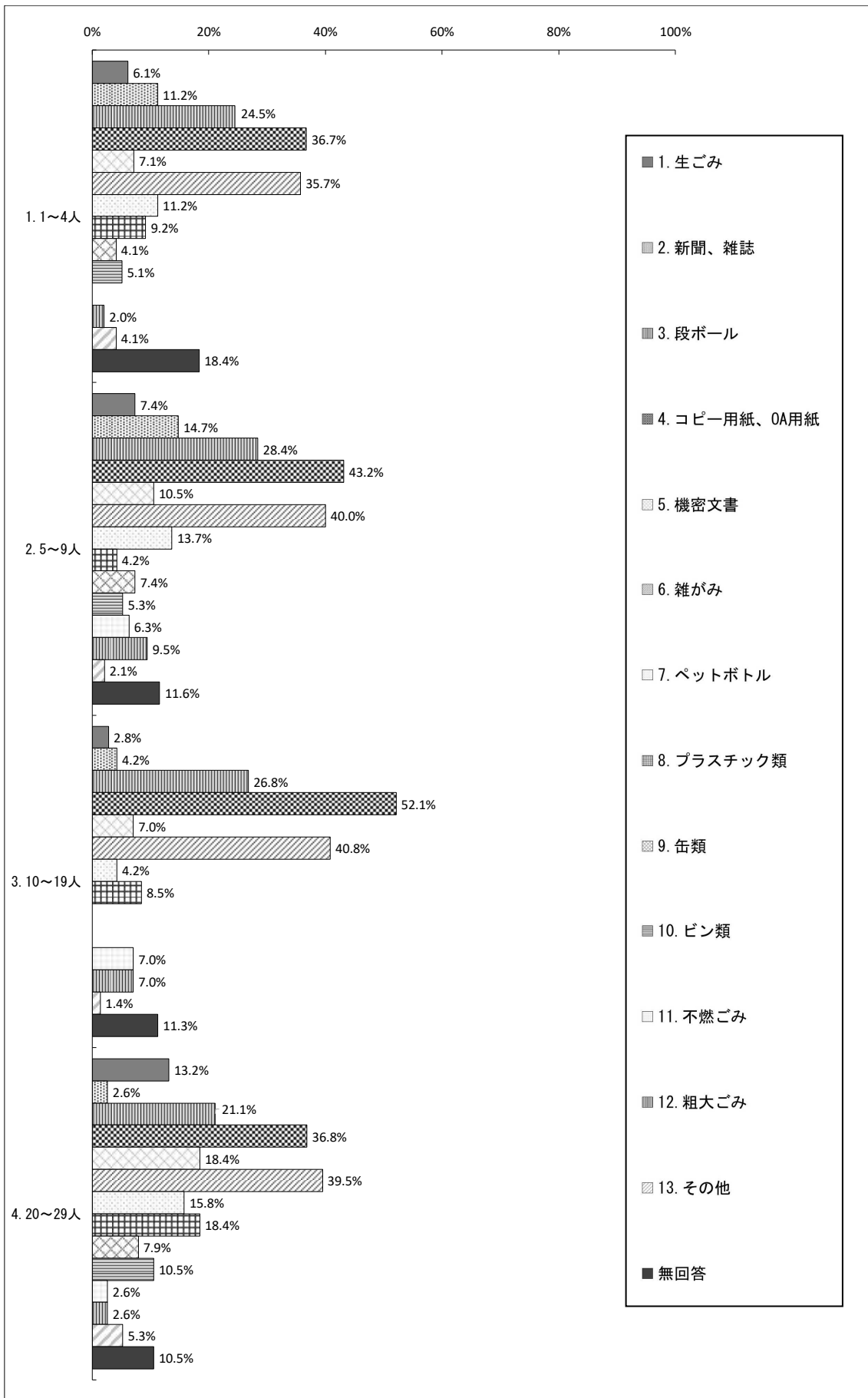


図 3.3.83 (1) ごみの減量や分別を検討している品目 (従業員数別)

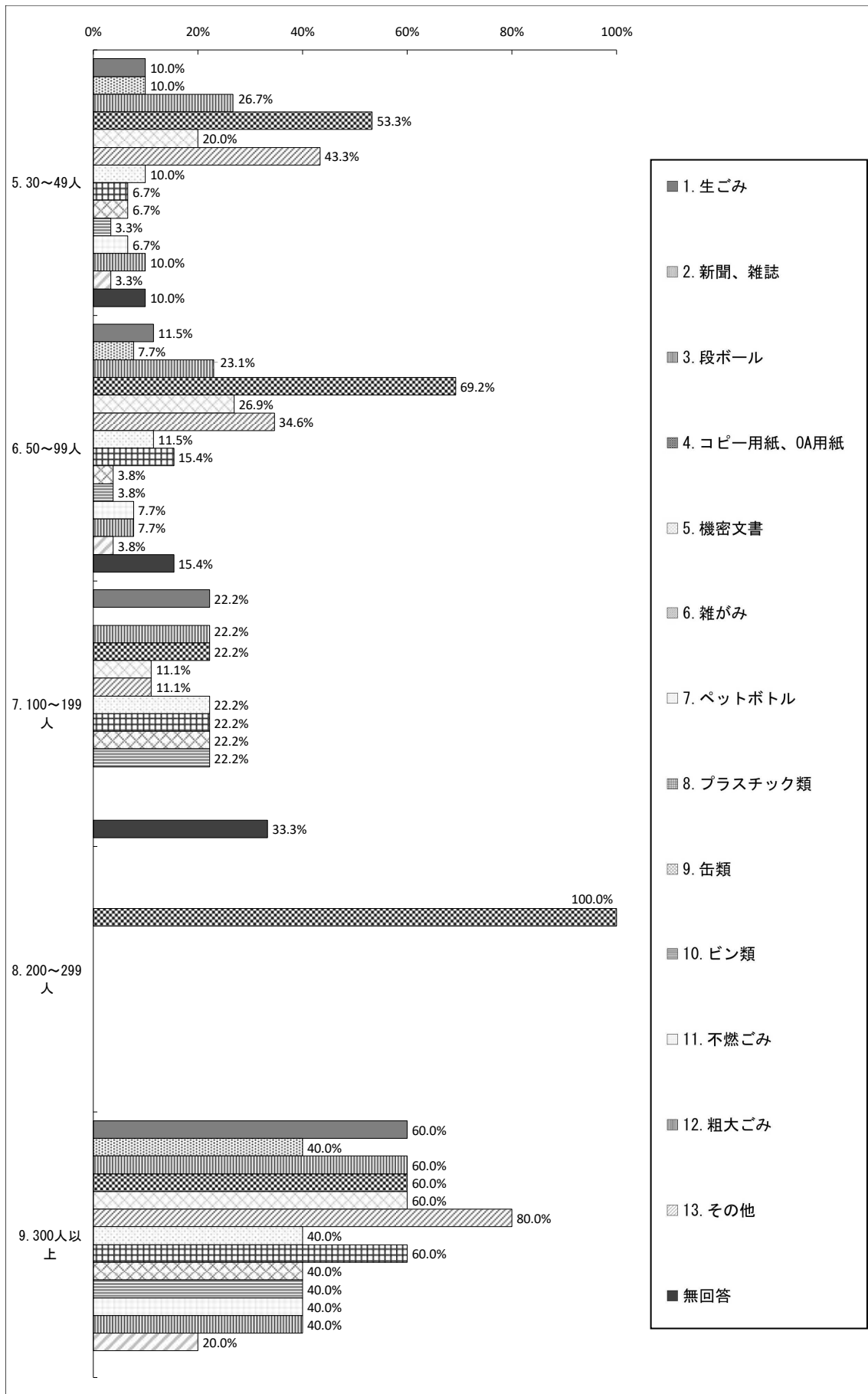


図 3.3.83 (2) ごみの減量や分別を検討している品目 (従業員数別)

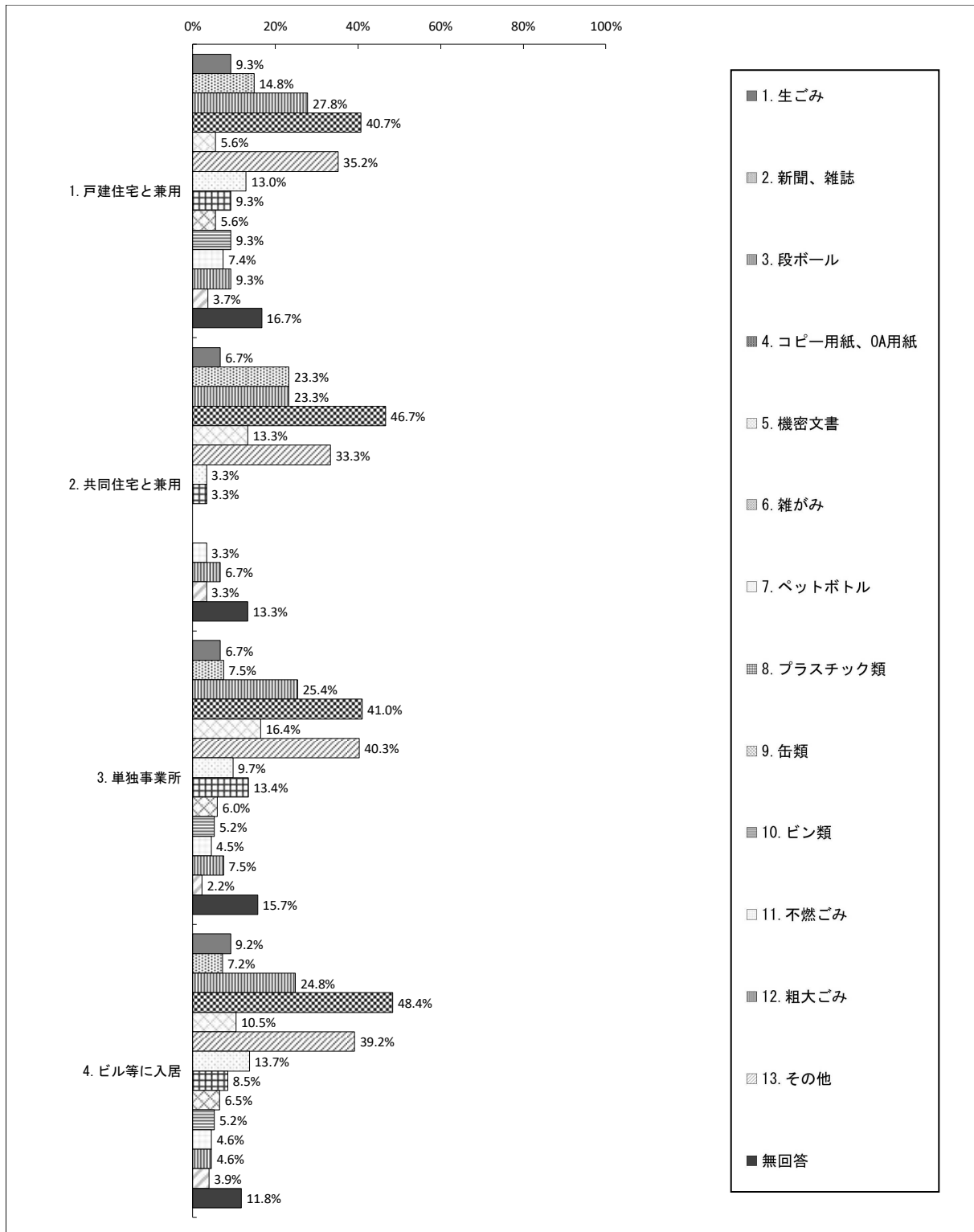


図 3.3.84 ごみの減量や分別を検討している品目（事業所の形態別）

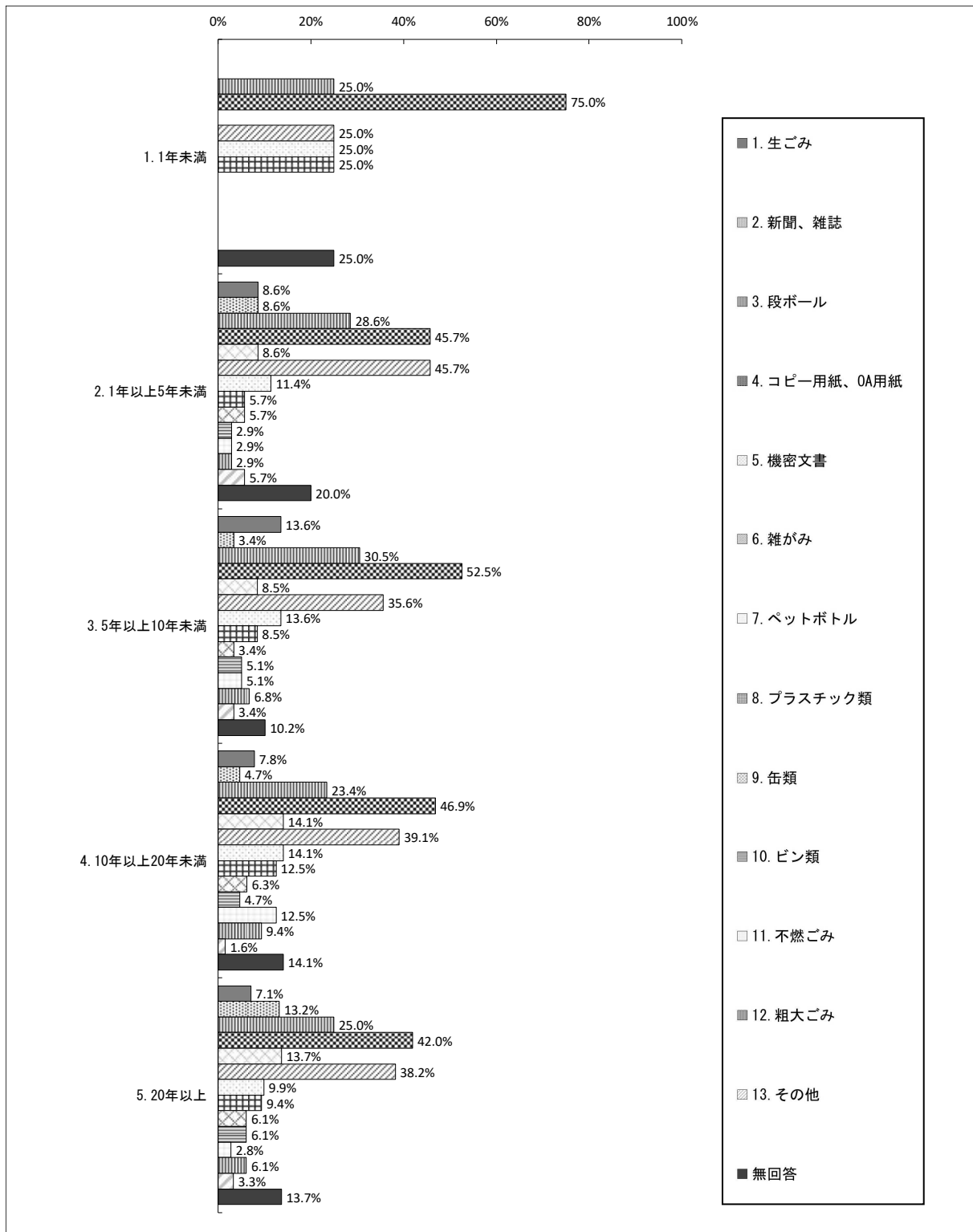


図 3.3.85 ごみの減量や分別を検討している品目（墨田区内での営業年数別）

3.3.15 問14 ごみに関する情報の入手先

ごみに関する情報の入手先についてみると、「区の広報」が25.9%と最も割合が高く、次いで「インターネット」が25.7%、「特になし」が24.1%の順であった。

表 3.3.31 ごみに関する情報の入手先

項目	回答数	割合
1.区の広報	98	25.9%
2.区のホームページ	60	15.9%
3.インターネット	97	25.7%
4.テレビ、ラジオ	30	7.9%
5.新聞、雑誌	23	6.1%
6.収集運搬業者への問い合わせ	45	11.9%
7.同業者や加盟団体等への問い合わせ	13	3.4%
8.区役所への問い合わせ	14	3.7%
9.特になし	91	24.1%
10.その他	19	5.0%
無回答	35	9.3%
合計	525	-

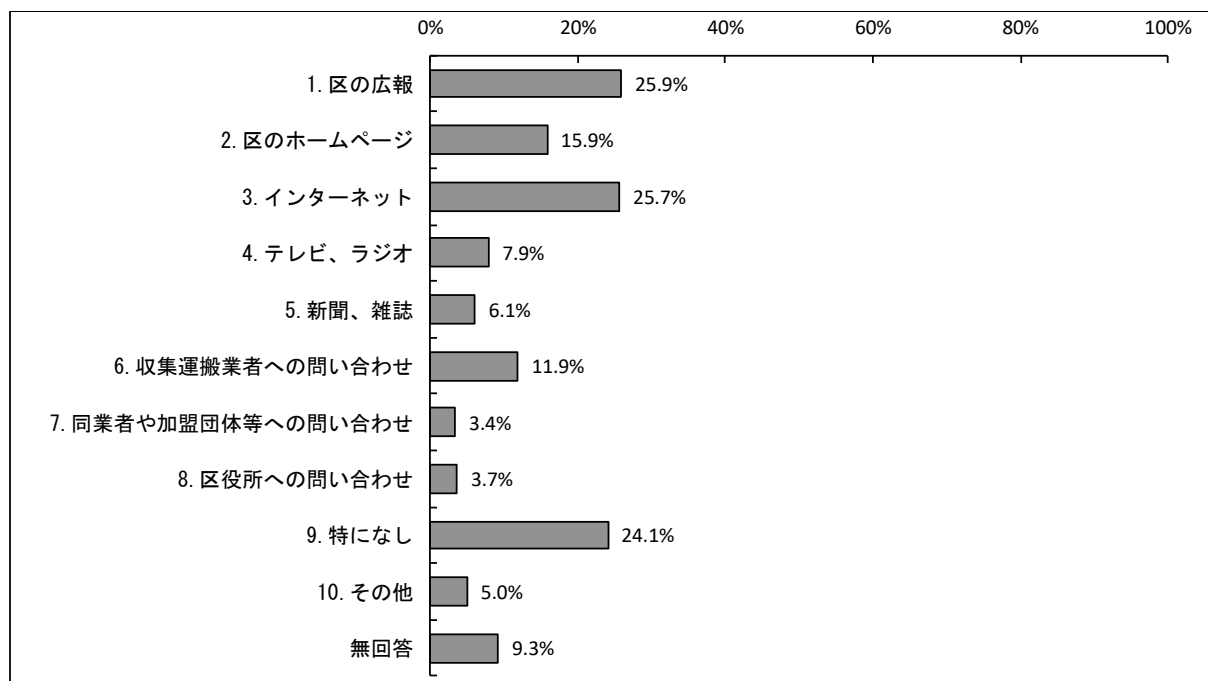


図 3.3.86 ごみに関する情報の入手先

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.87～図 3.3.91 に示す。

事業所の形態が「戸建て住宅と兼用」の事業所では、ごみに関する情報を「区の広報」によって入手している割合が高くなっている。

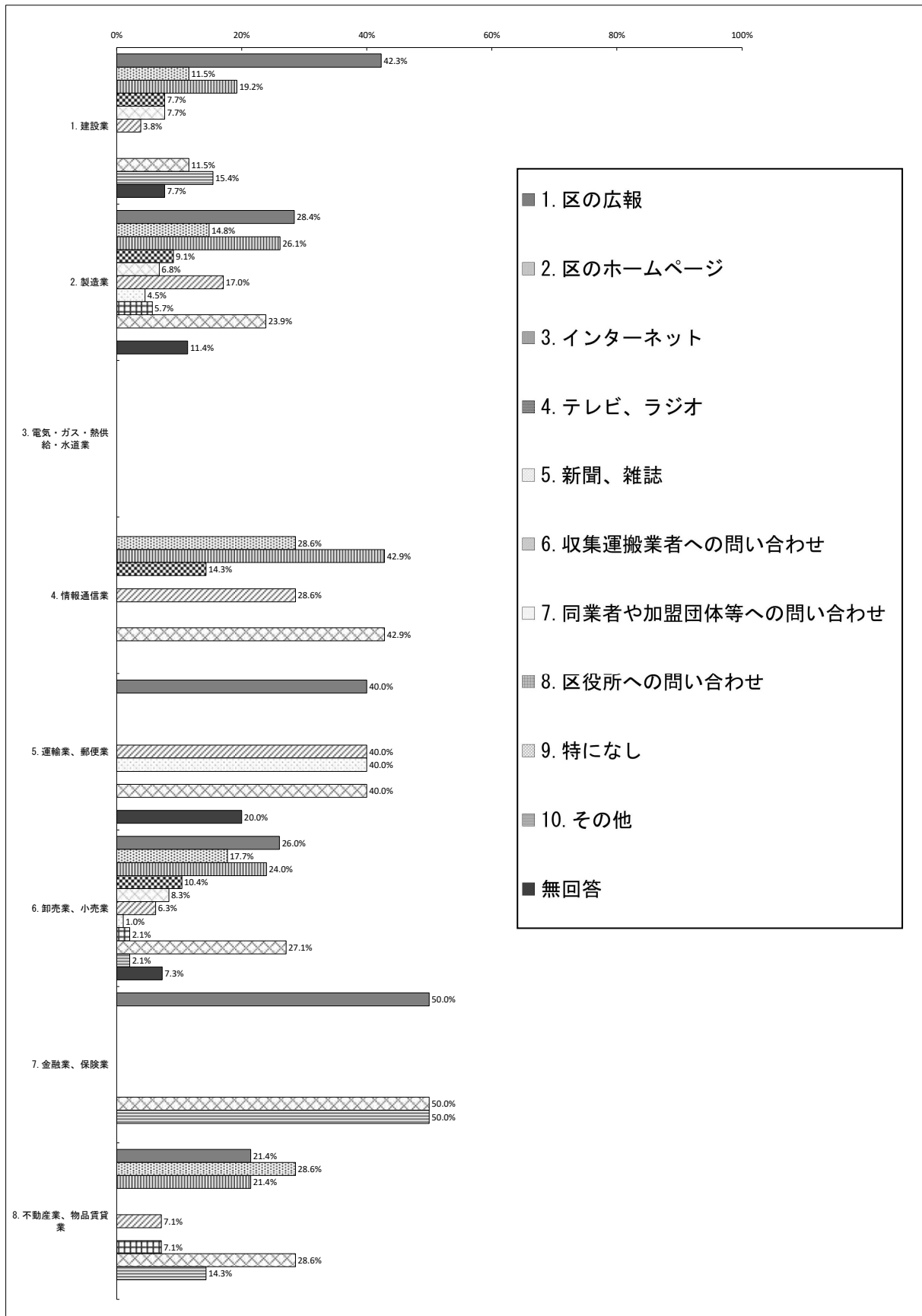


図 3.3.87 (1) ごみに関する情報の入手先 (業種別)

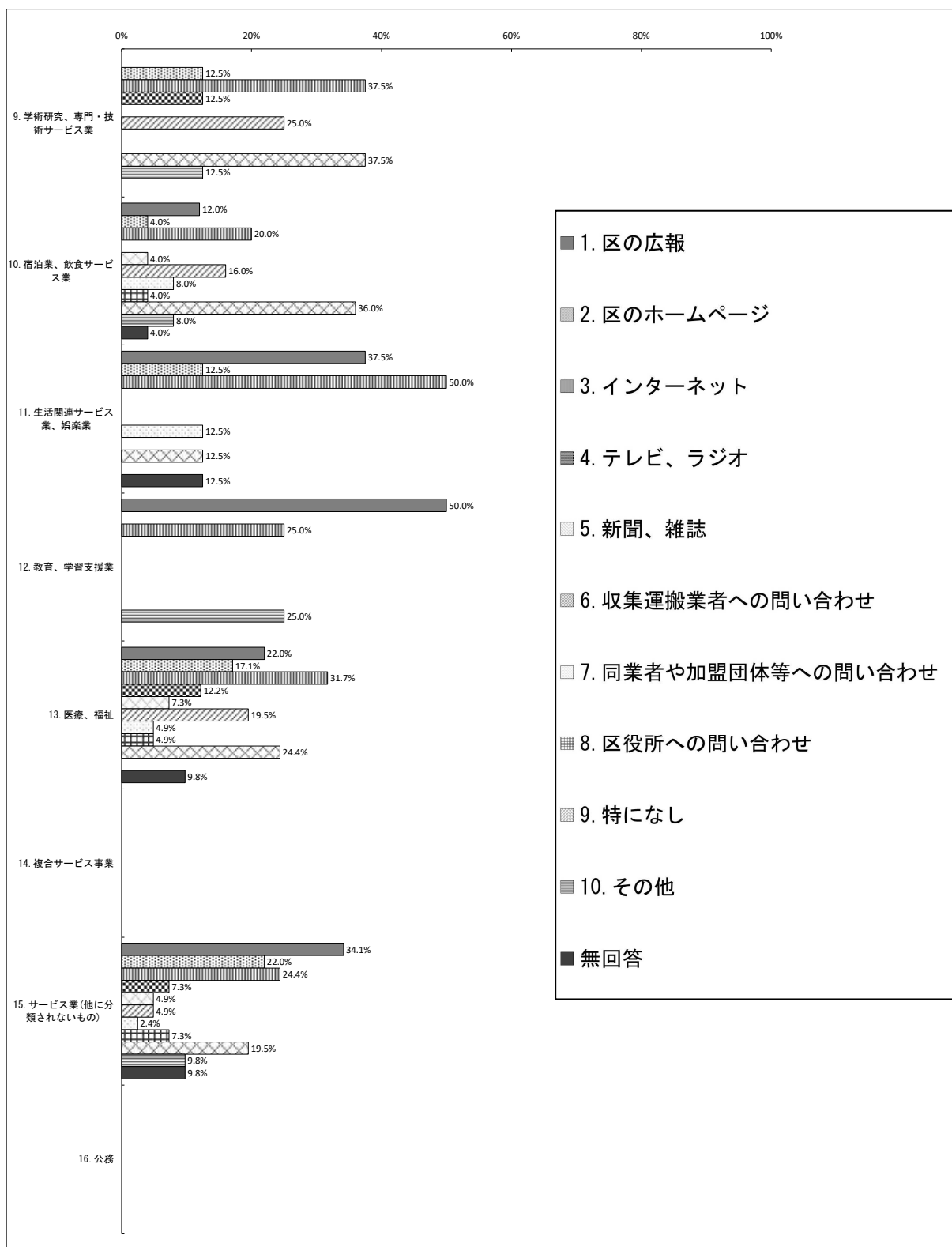


図 3.3.87 (2) ごみに関する情報の入手先 (業種別)

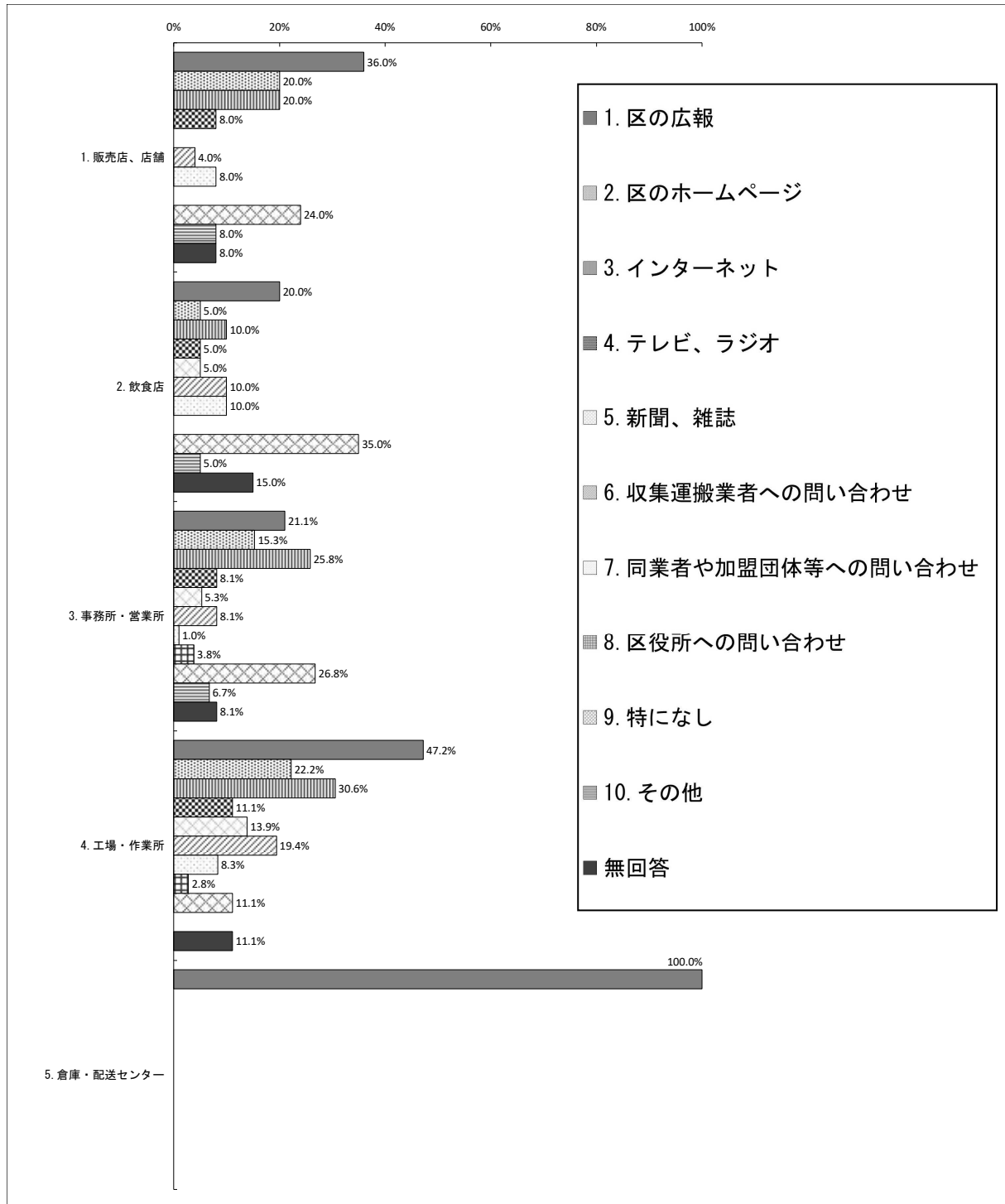


図 3.3.88 (1) ごみに関する情報の入手先 (事業形態別)

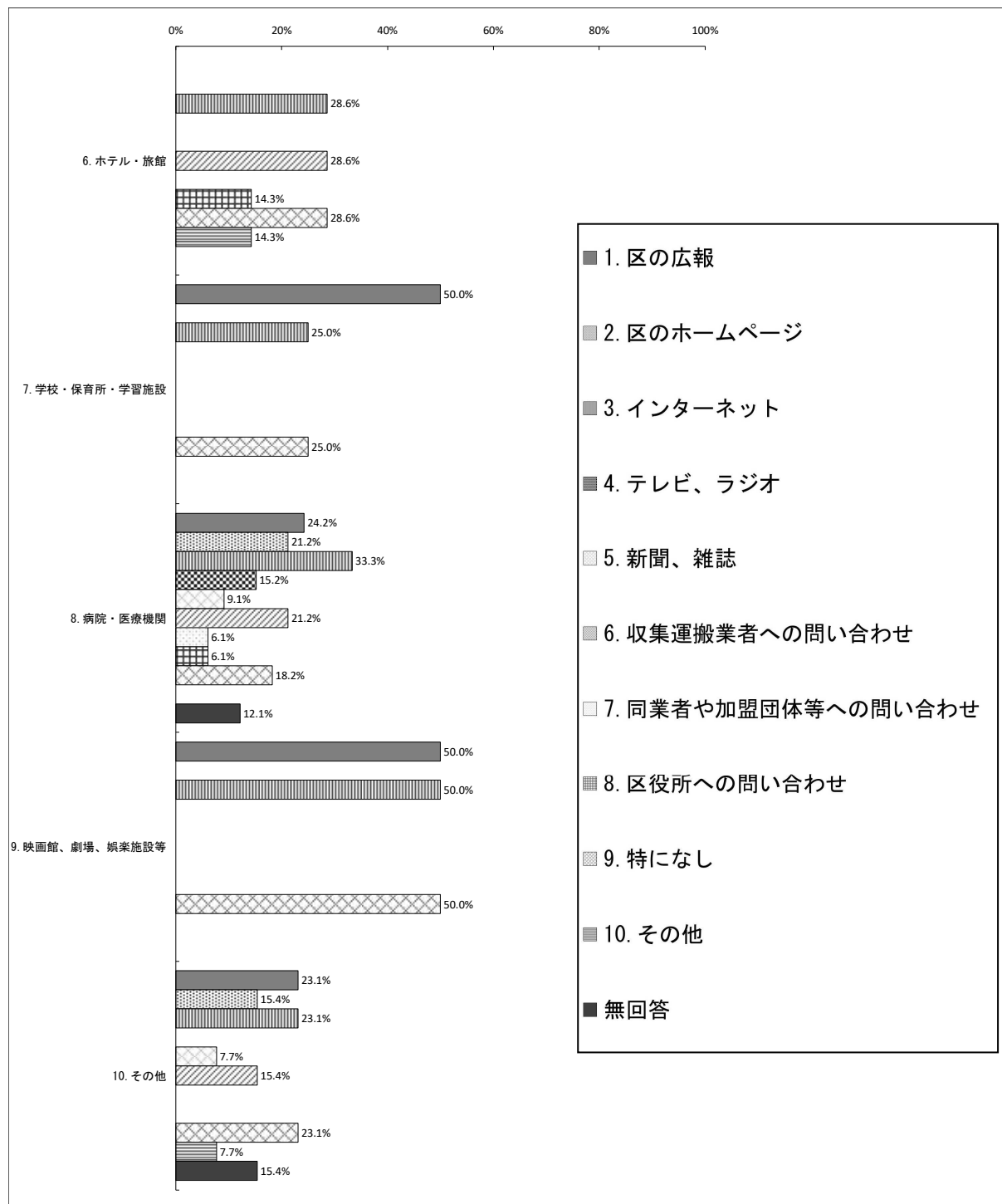


図 3.3.88 (2) ごみに関する情報の入手先 (事業形態別)

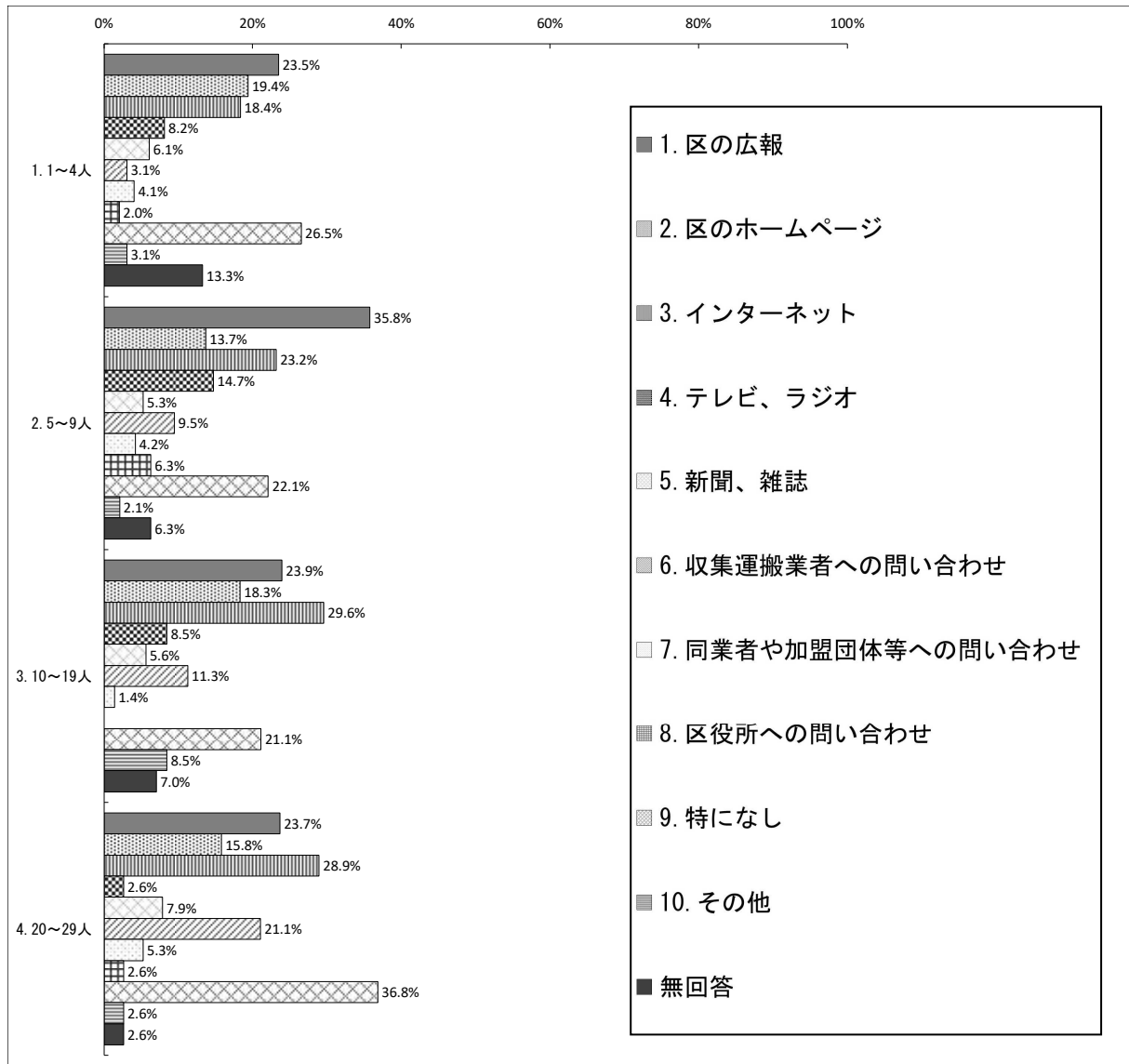


図 3.3.89 (1) ごみに関する情報の入手先 (従業員数別)

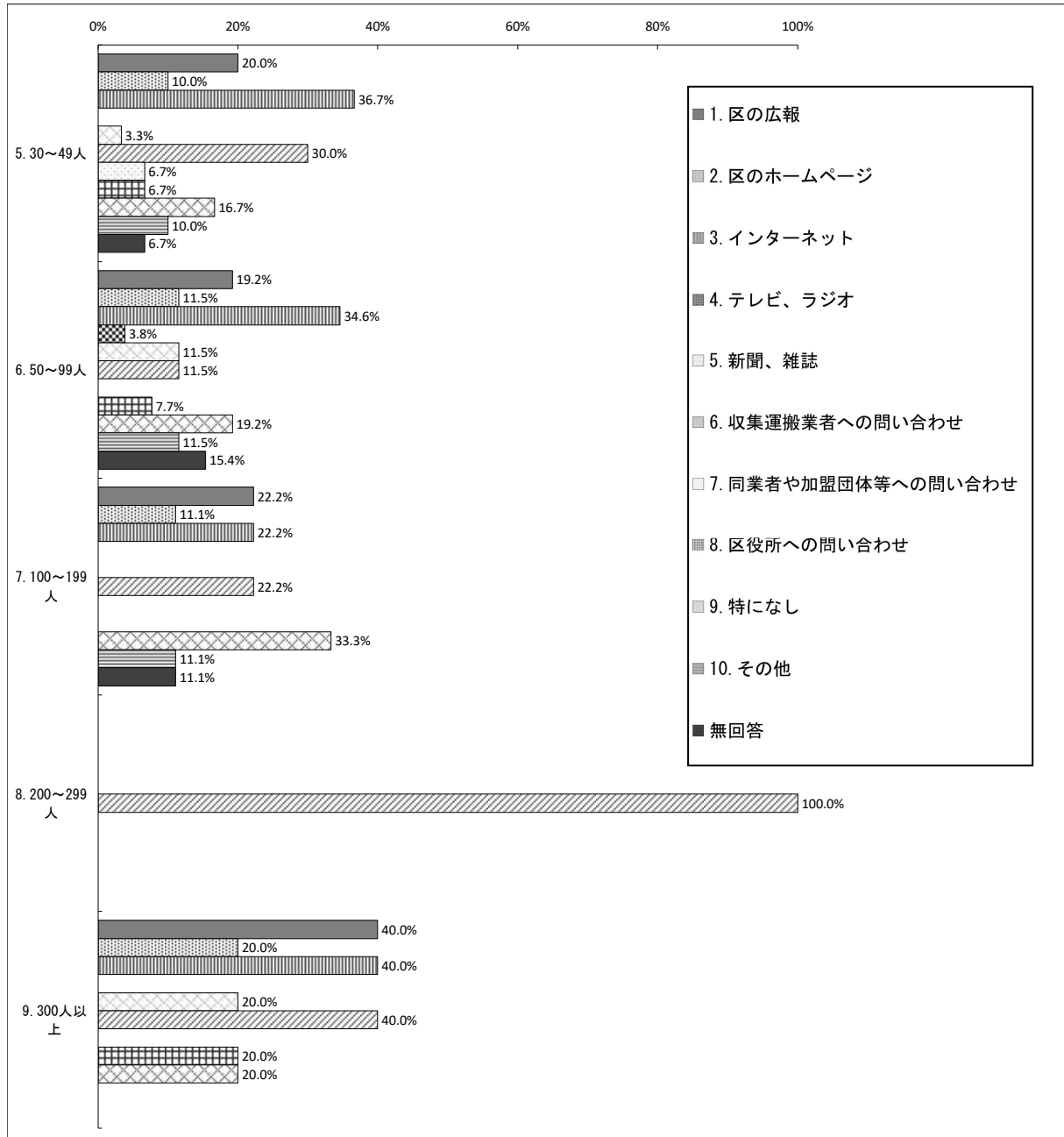


図 3.3.89 (2) ごみに関する情報の入手先 (従業員数別)

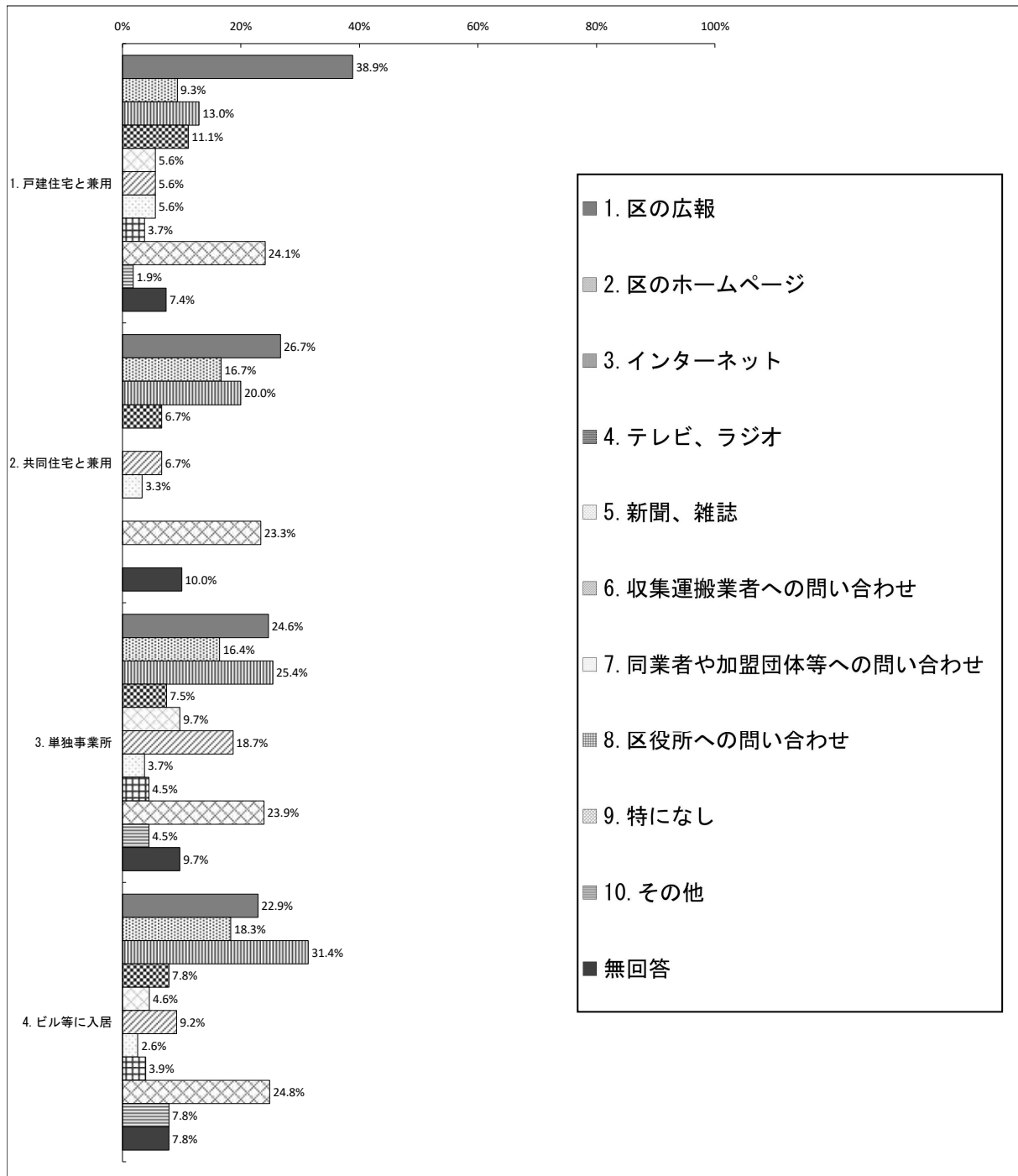


図 3.3.90 ごみに関する情報の入手先（事業所の形態別）

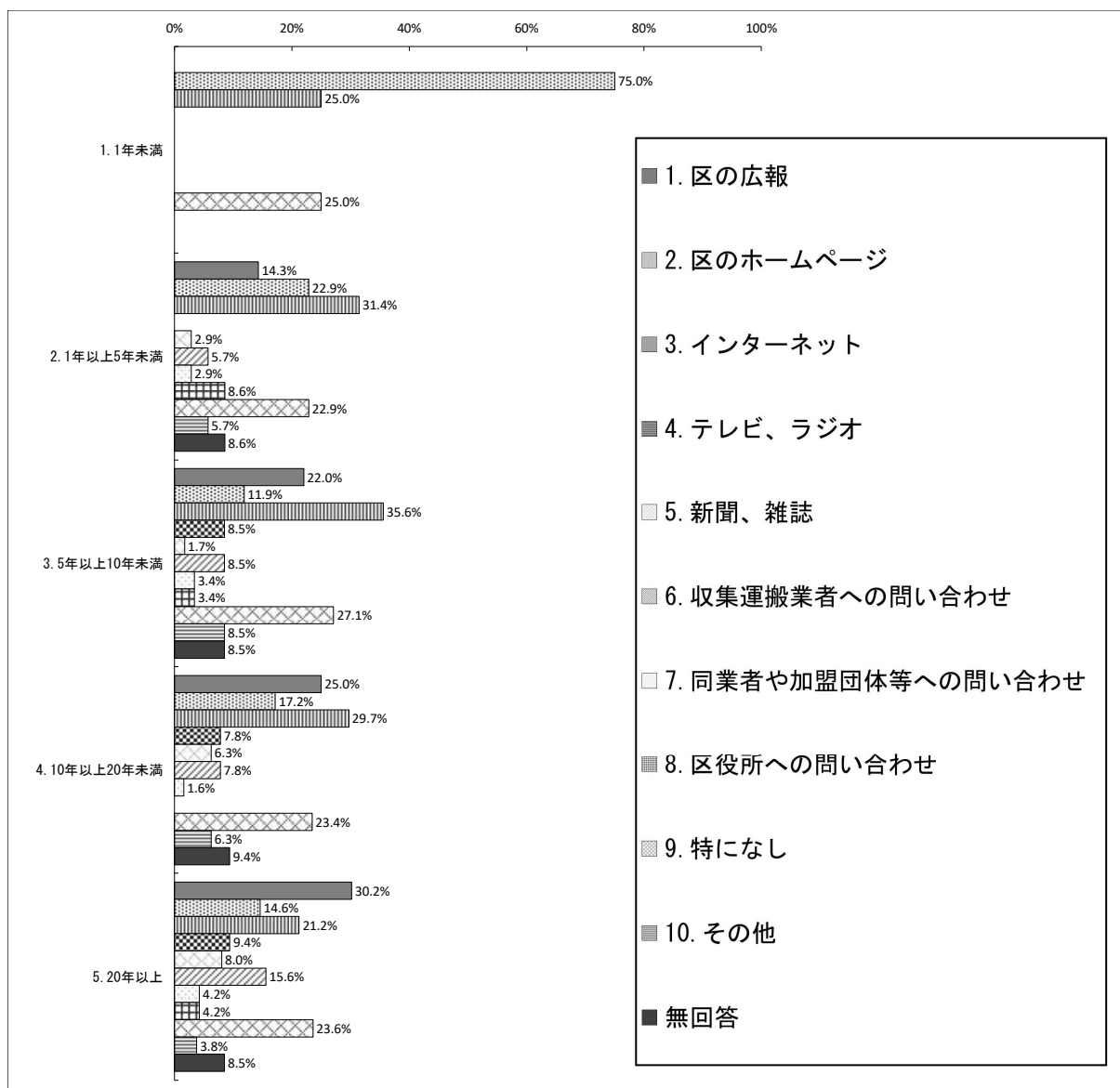


図 3.3.91 ごみに関する情報の入手先（墨田区内での営業年数別）

3.3.16 問15 必要と考えている施策

必要と考えている施策についてみると、「ごみ減量化・資源化マニュアルの提供」が34.9%と最も割合が高く、次いで「ごみ減量化・資源化の事例紹介」が32.5%、「事業者に対するごみの減量・リサイクルの啓発、指導」が28.6%の順であった。

表 3.3.32 必要と考えている施策

項目	回答数	割合
1. 事業者に対するごみの減量・リサイクルの啓発、指導	108	28.6%
2. ごみ減量化・資源化マニュアルの提供	132	34.9%
3. 優良事業所の紹介や表彰	30	7.9%
4. ごみ減量化・資源化の事例紹介	123	32.5%
5. 収集運搬業者、処理業者に関する情報提供	80	21.2%
6. 法令や条例等の規制に関する情報提供	59	15.6%
7. ごみ処理に関する相談窓口や体制の充実	50	13.2%
8. 事業者を対象とした廃棄物の講習会の開催	31	8.2%
9. 罰則制度の強化・徹底	15	4.0%
10. ごみ収集運搬業者の指導強化	20	5.3%
11. 事業系リサイクルシステム（「エコツチャ！」等）の拡充	36	9.5%
12. 資源循環の推進	63	16.7%
13. 社内研修等による従業員の意識向上	41	10.8%
14. その他	11	2.9%
無回答	54	14.3%
合計	853	-

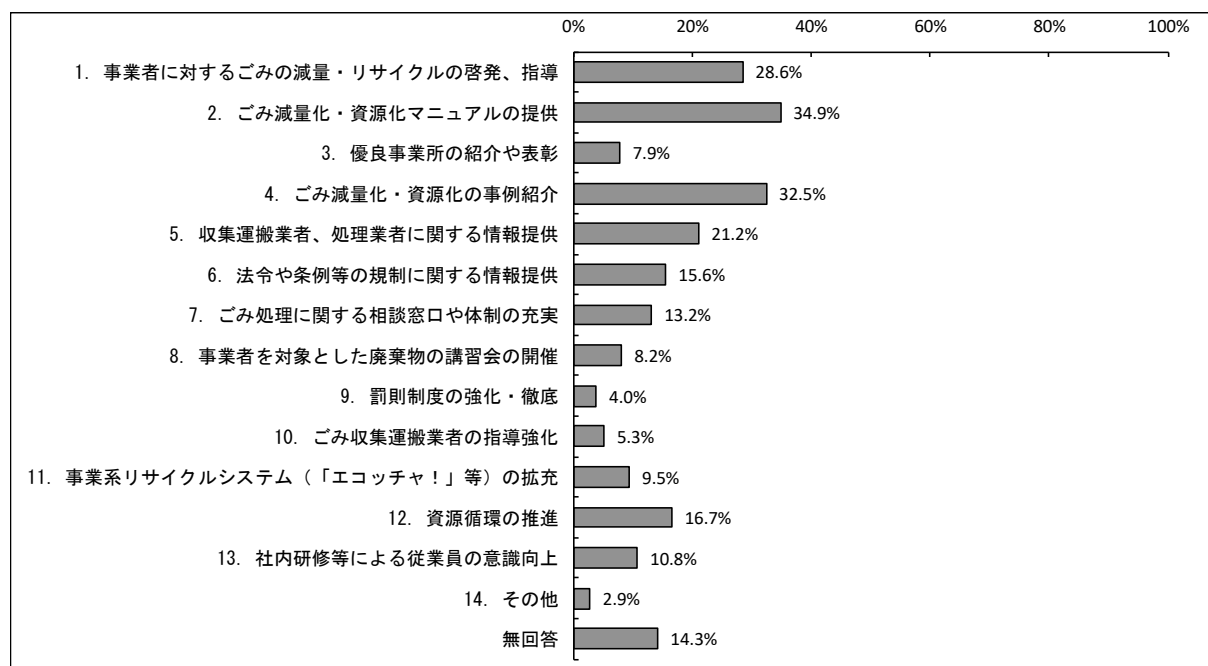


図 3.3.92 必要と考えている施策

【クロス集計結果】

属性別に集計した結果を図 3.3.93～図 3.3.97 に示す。

事業所の属性を問わず、「ごみ減量化・資源化マニュアルの提供」、「ごみ減量化・資源化の事例紹介」、「事業者に対するごみの減量・リサイクルの啓発、指導」の割合が高くなっている。

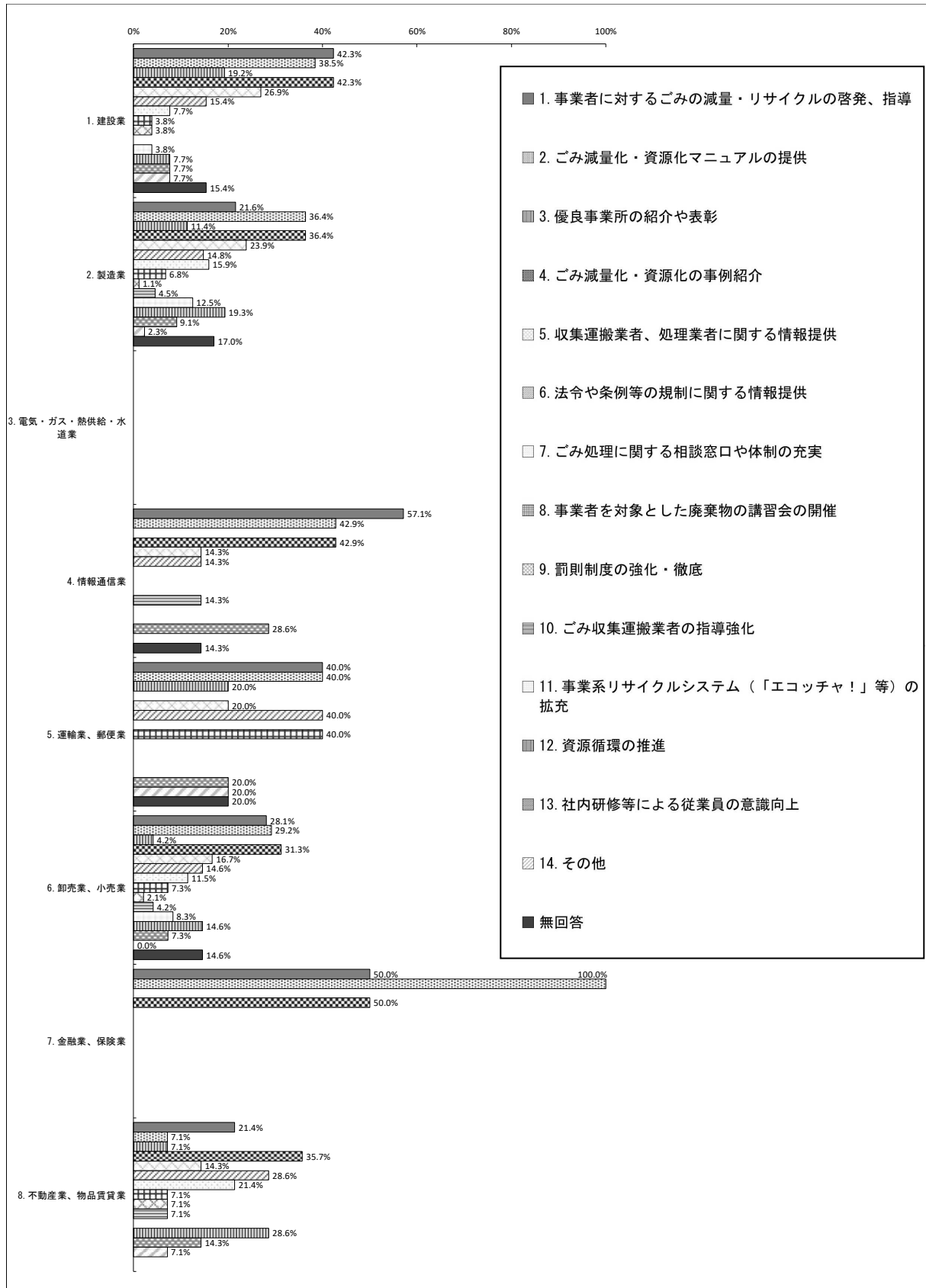


図 3.3.93 (1) 必要と考えている施策（業種別）

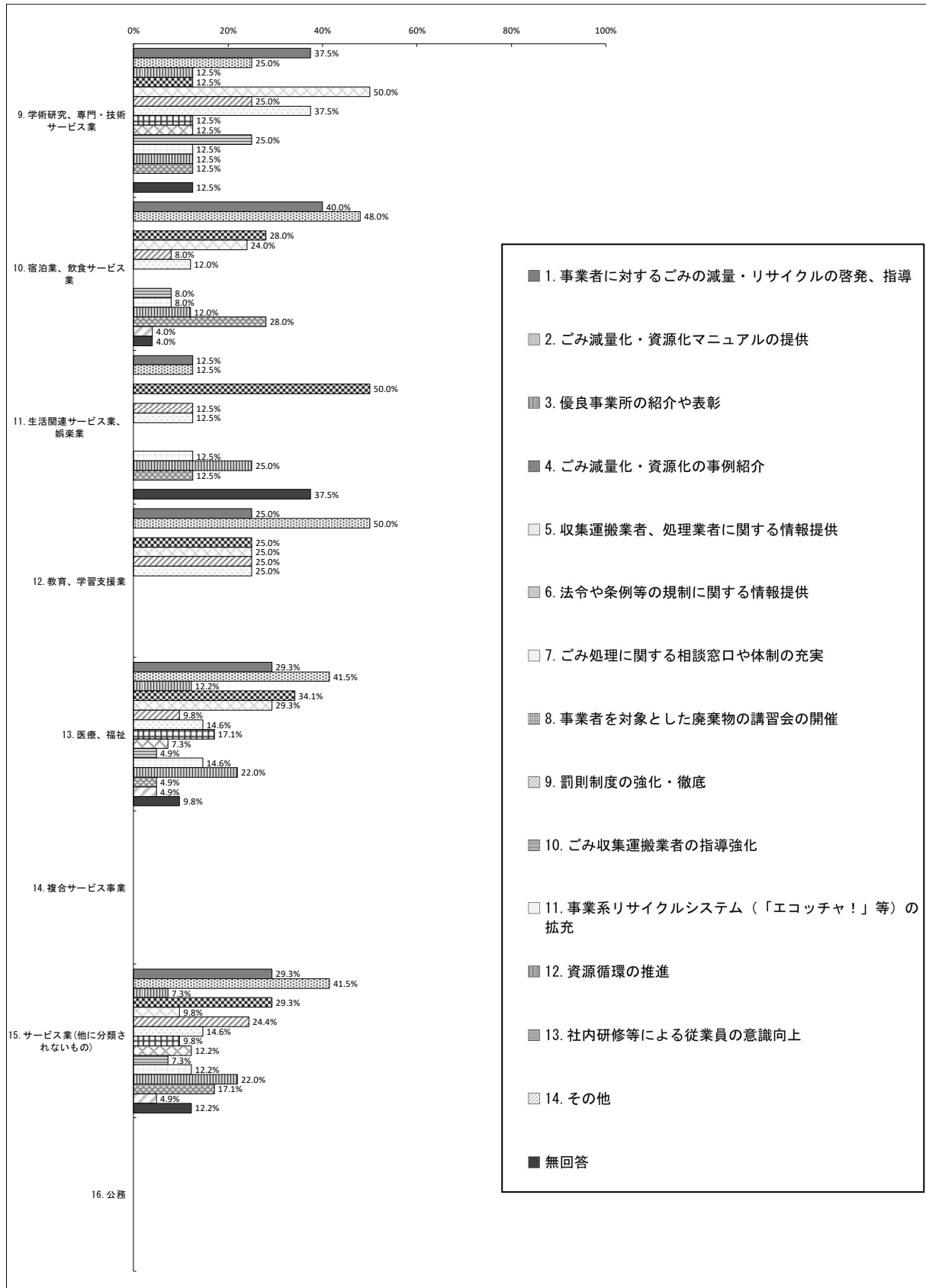


図 3.3.93 (2) 必要と考えている施策（業種別）

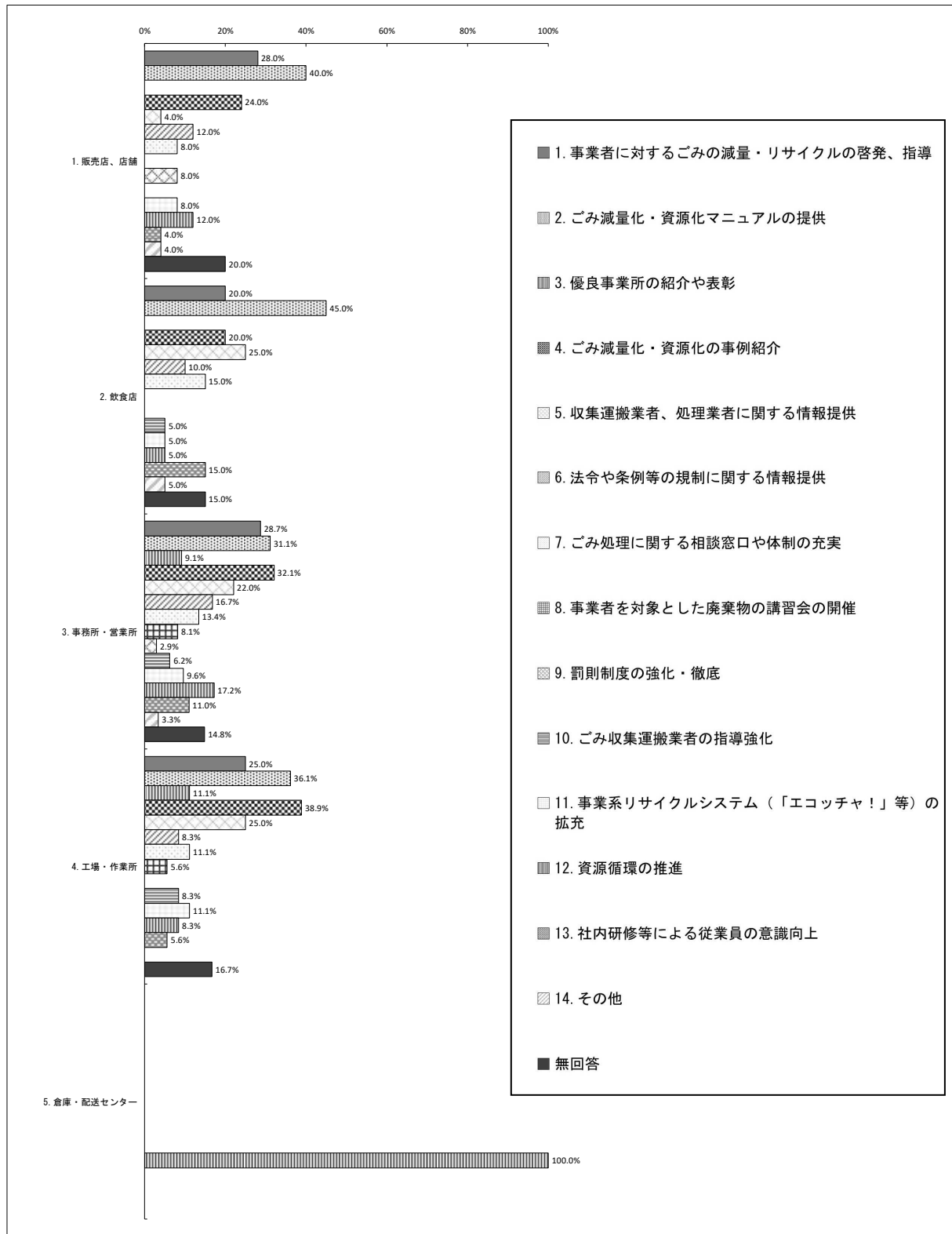


図 3.3.94 (1) 必要と考えている施策（事業形態別）

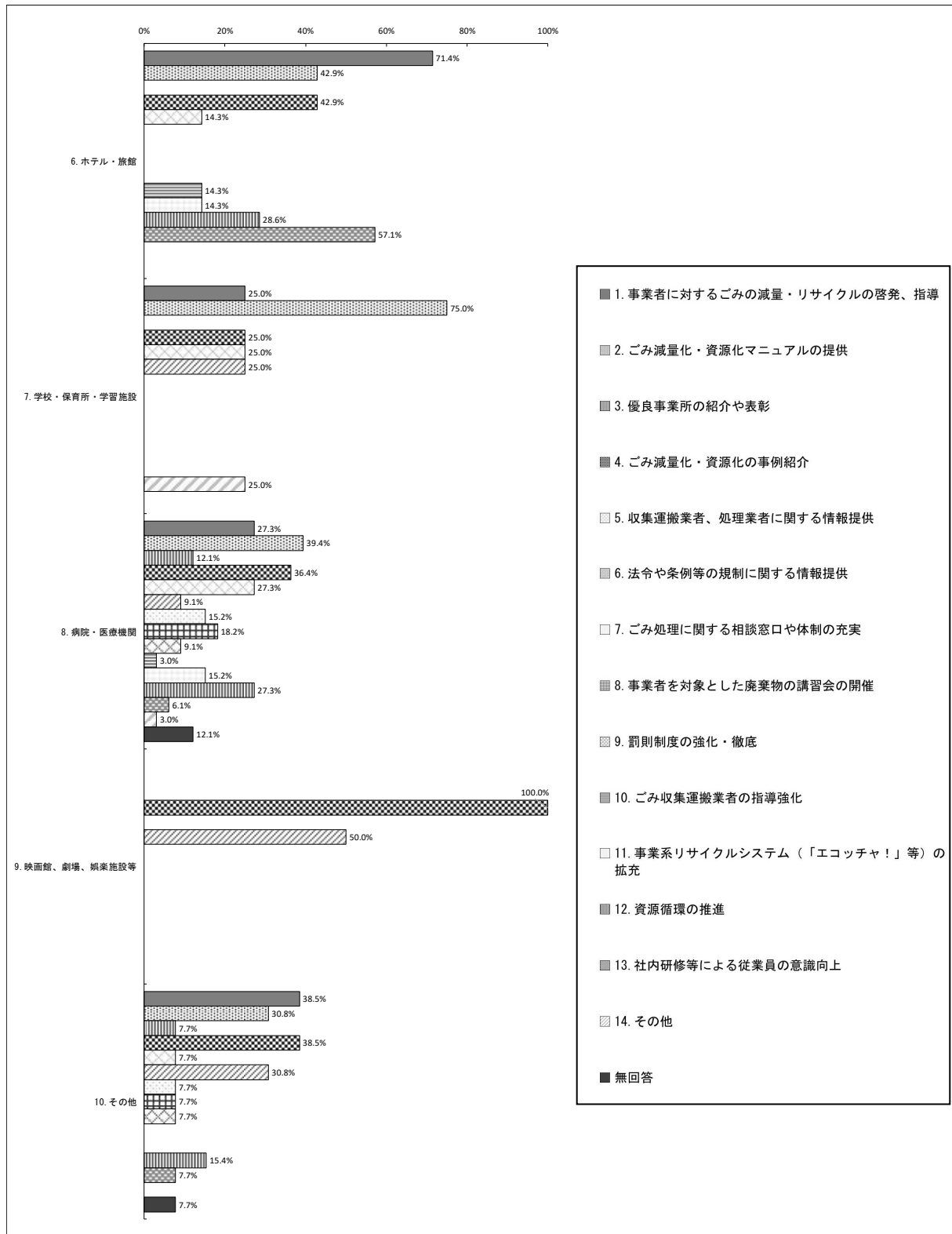


図 3.3.94 (2) 必要と考えている施策（事業形態別）

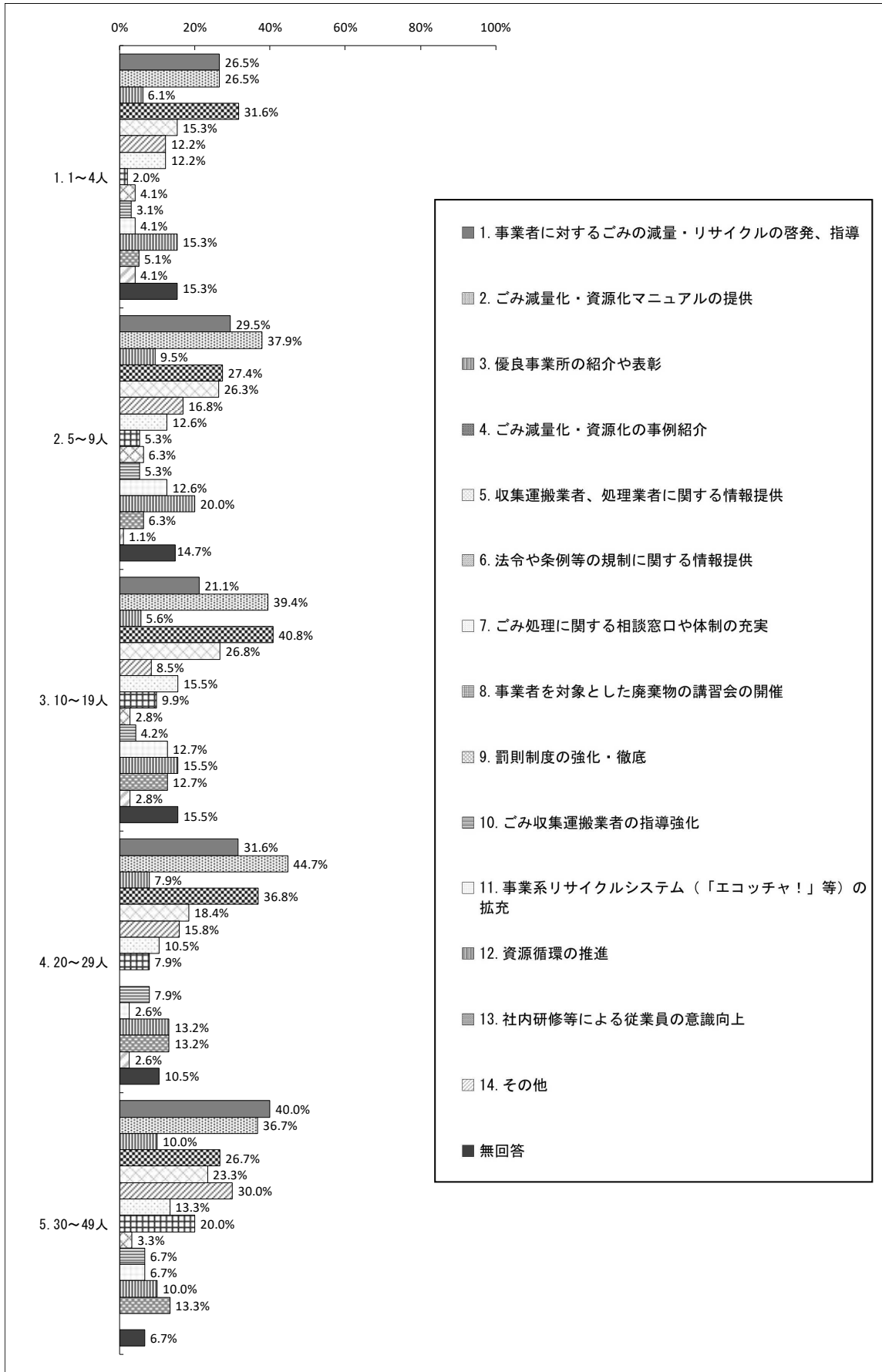


図 3.3.95 (1) 必要と考えている施策（従業員数別）

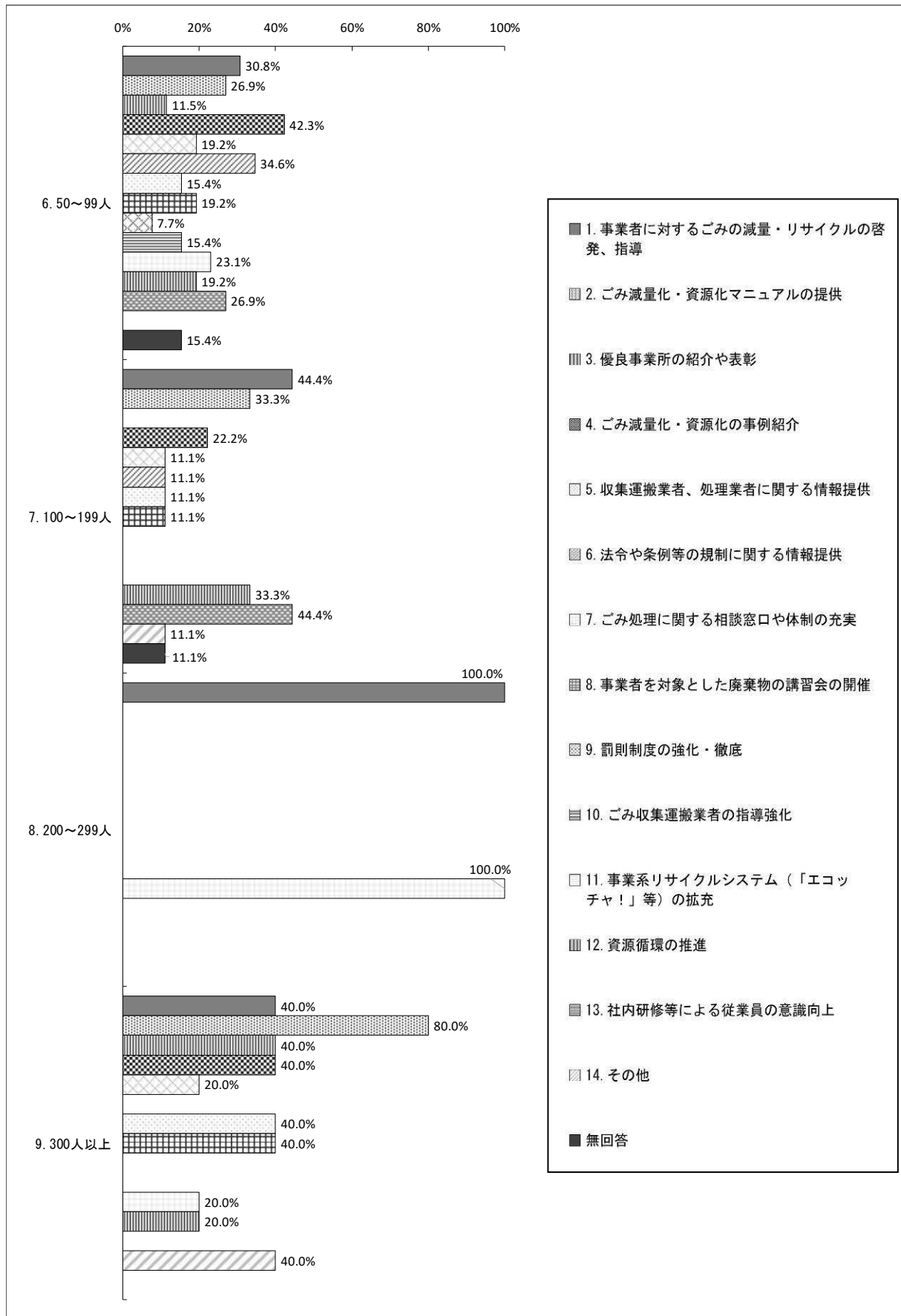


図 3.3.95 (2) 必要と考えている施策（従業員数別）

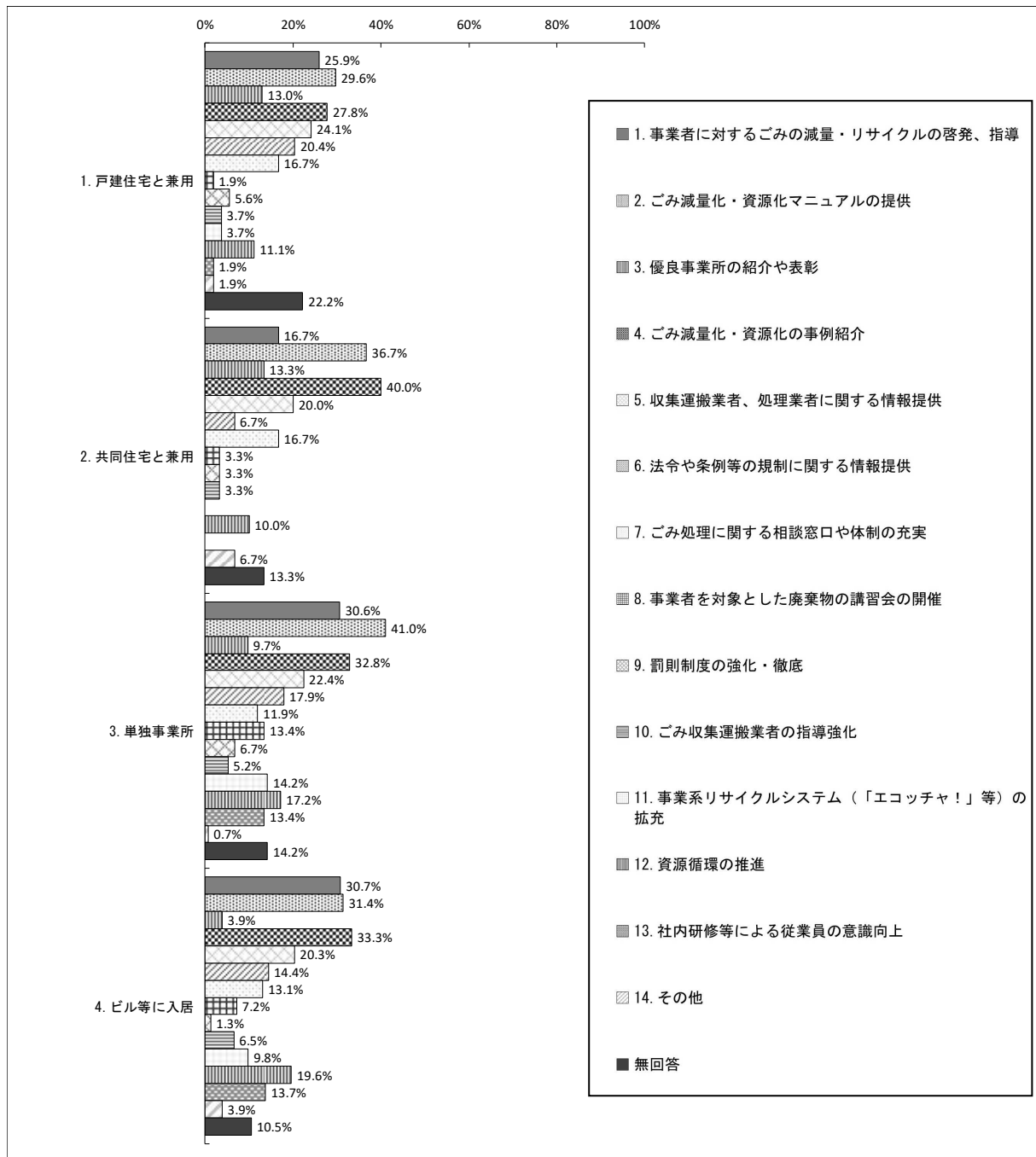


図 3.3.96 必要と考えている施策（事業所の形態別）

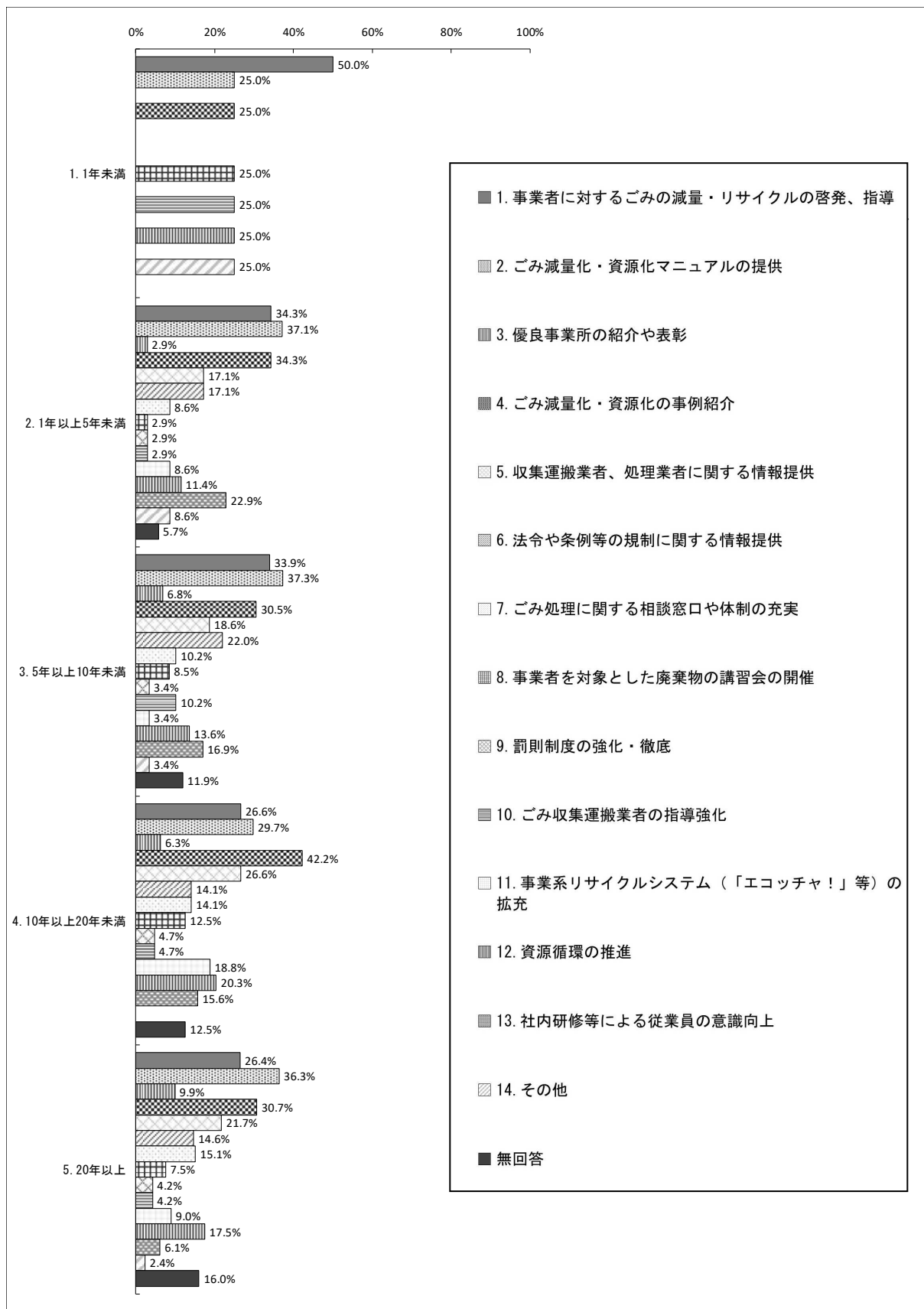


図 3.3.97 必要と考えている施策（墨田区内での営業年数別）

3.3.17 問16 自由意見（抜粋）

自由意見について、以下に示す。

なお、明らかな誤字以外は、基本的に原文のまま掲載している。

- 以前 TV 番組でゴミ収集業者の特集があったが、持ち込まれたゴミを先ず仕分けする所が大変な労力だった様な気がする。再度ゴミ収集業者と十分な打合せの上、一般家庭（事業者含む）はどの様な単位で分別したらいいか再検討するべきではないだろうか。
- 生ゴミに関して、今世の中に生ゴミを有機肥料にする機械があると聞いたことがある。ならば多くの家庭にこの機械を入れてもらったらどうか。ただし導入してもらうにあたりその費用の一部を区が補助する必要があると思う。又、家庭によってその有機肥料を必要、不必要の2つに分かれると思う。不必要な有機肥料は区が買い取ることにする。有機肥料ならこれを一般ユーザーに販売する事が出来ると思うので、区が買い取った有機肥料は、区は転売する事が出来るのではないか。
- ゴミの回収に間に合わない事がある。生ごみは最低週3回位やってほしい。ガス缶等の回収袋も作ってほしい。
- ごみに対する知識があまりなく、研修等あれば参加させて頂きたい。法令や条例などに関してもしっかりと守っていくため。
- ビル管理にゴミ処理を委託しているので、詳しい情報が入りにくい。何かマニュアルの様なものがあると（業種別に）助かります。
- 事務所は皆ある程度きちんとやっていると思う。個人に対しての啓発、指導ももっとすすめてもらいたい。ゴミ減量は個人及び事業所、両方の協力が必要と思います。
- ごみ拾いや、ごみ削減をがんばった法人に何らかのメリットがあると良いと思います。
- リサイクル業者への補助金の拡大。
- いろいろな形で情報提供が必要だと思います。
- 過去のQ&Aやトラブルをどうすればいいのか、事例はほしいと思います。
- 蛍光灯も区により、出し方がさまざま、ある区では資源物で回収、ある区では区の施設で回収と、他のゴミに比べてわかりにくい。保管するにも、安全な場所で置く必要があり難しい側面がある。
- 粗大ごみの事ですが、墨田区の事業用粗大ごみの受け付けがはっきりしません。以前、区の粗大ごみの受け付けに木造の倉庫の処分をお願いしたところ、解体すれば普通ごみで出せるという事でした。それなら事業系粗大ごみは何なんのでしょうか。私の店のような個人経営ですと、高い料金は大変です。よほど大きなものや特別なもの、たくさんあるもの以外は普通の粗大ごみとして受け付けていただきたいと思います。たとえば1つとかは普通の粗大ごみとか基準を決めていただきたいです。もえるごみやもえないごみはシールをはって出しています。一般家庭はないです。
- 資源物を出しても一般の誰かが持って行ってしまう。何とかしてほしい。

3.3.18 問17 包装材、レジ袋等の使用状況（『小売店』『販売店』限定）

小売店、販売店の包装材、レジ袋等の使用状況についてみると、「包装はほとんどしていない。」が50.0%と最も割合が高く、次いで「包装は必要最小限としている。」が32.6%、「ものによっては過剰包装の場合がある。」が13.0%、「過剰包装の場合がある。」が4.3%の順であった。

表 3.3.33 小売店、販売店の包装材、レジ袋等の使用状況

項目	回答数	割合
1.過剰包装の場合がある。	2	4.3%
2.ものによっては過剰包装の場合がある。	6	13.0%
3.包装は必要最小限としている。	15	32.6%
4.包装はほとんどしていない。	23	50.0%
合計	46	100%

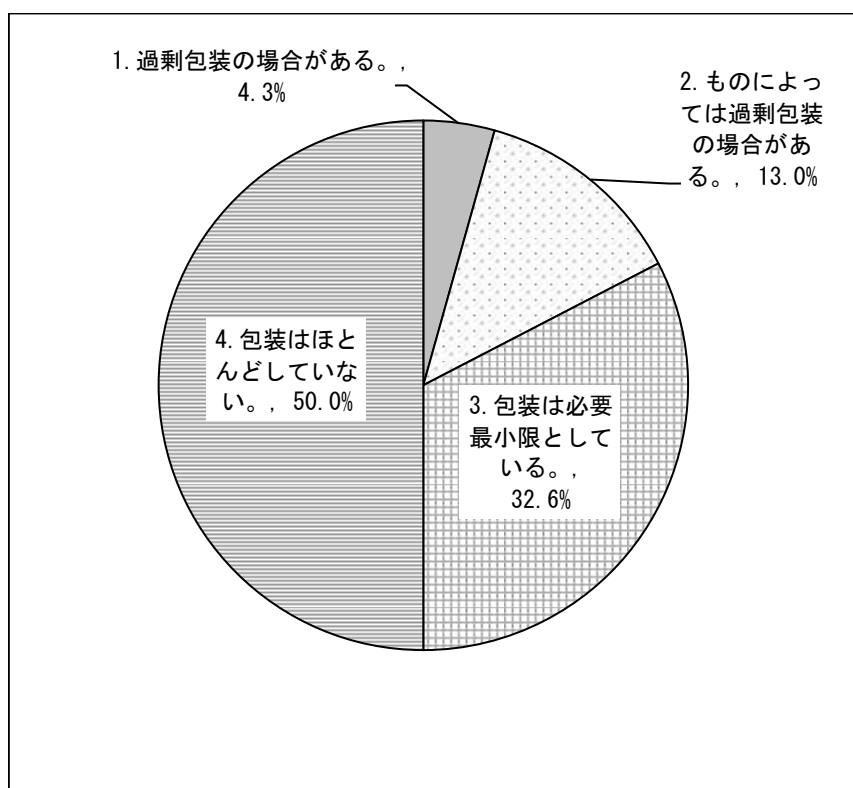


図 3.3.98 小売店、販売店の包装材、レジ袋等の使用状況

3.3.19 問18 ごみの減量やりサイクルの取り組み（『小売店』『販売店』限定）

(1) レジ袋の削減に関する取り組み

小売店、販売店のレジ袋の削減に関する取り組みについてみると、「特に何もしていない。」が65.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が27.5%、「買い物袋を持参した人にサービス（ポイント付与等）する制度を設けている。」が5.0%、「レジ袋を有料にしている。」が2.5%の順であった。

表 3.3.34 小売店、販売店のレジ袋の削減に関する取り組み

項目	回答数	割合
1.レジ袋を有料にしている。	1	2.5%
2.買い物袋を持参した人にサービス（ポイント付与等）する制度を設けている。	2	5.0%
3.特に何もしていない。	26	65.0%
4.その他	11	27.5%
合計	40	-

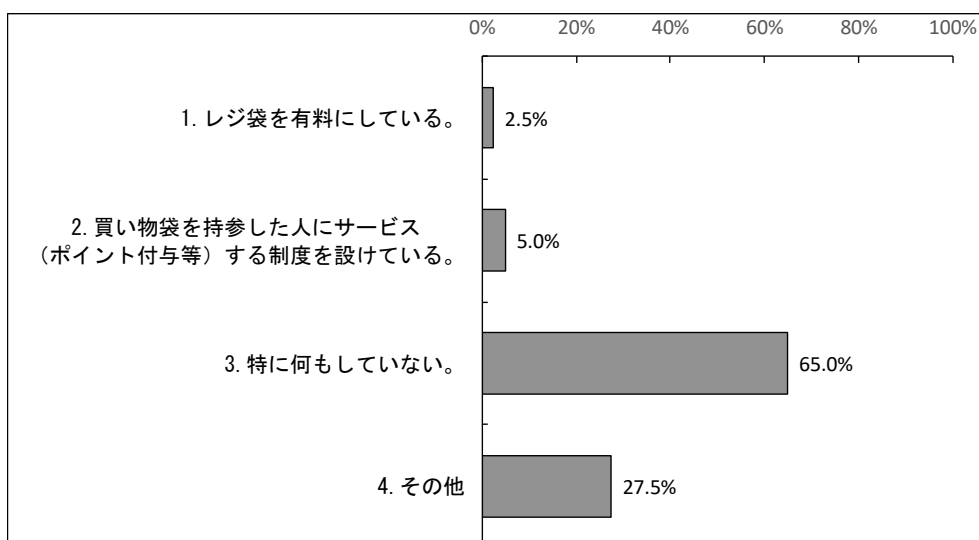


図 3.3.99 小売店、販売店のレジ袋の削減に関する取り組み

(2) 簡易包装

小売店、販売店の簡易包装の実施状況についてみると、「している。」が70.0%、「していない。」及び「その他」が15.0%であった。

なお、「その他」は、「包装は行っていない」という回答であった。

表 3.3.35 小売店、販売店の簡易包装の実施状況

項目	回答数	割合
1.している。	28	70.0%
2.していない。	6	15.0%
3.その他	6	15.0%
合計	40	100%

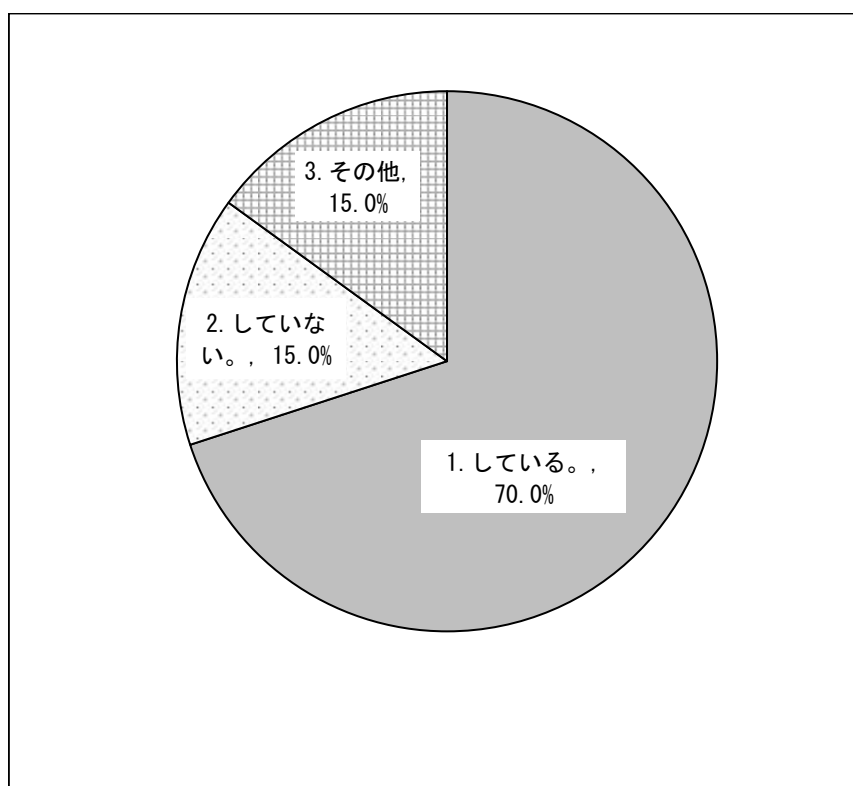


図 3.3.100 販売店の簡易包装の実施状況

(3) 詰め替え製品のある商品等の販売

小売店、販売店の詰め替え製品のある商品等の販売状況についてみると、「販売していない。」が56.1%、「詰め替え製品がある商品を取り扱っていない。」が29.3%、「販売している。」が14.6%の順であった。

表 3.3.36 小売店、販売店の詰め替え製品のある商品等の販売状況

項目	回答数	割合
1.販売している。	6	14.6%
2.販売していない。	23	56.1%
3.詰め替え製品がある商品を取り扱っていない。	12	29.3%
合計	41	100%

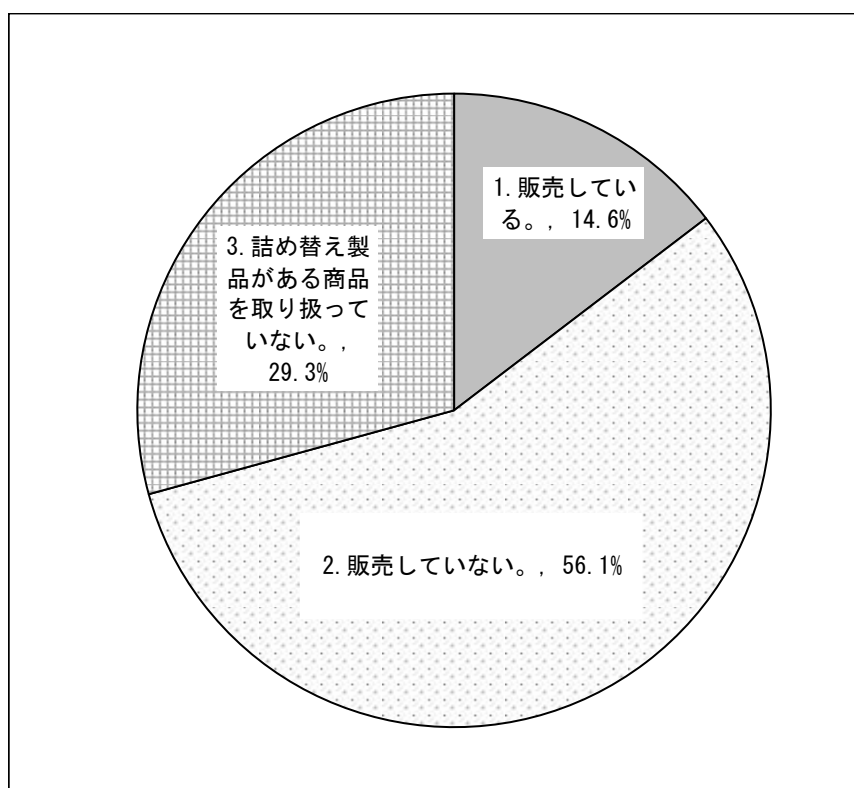


図 3.3.101 小売店、販売店の詰め替え製品のある商品等の販売状況

(4) 資源物回収ボックスの設置

小売店、販売店の資源物回収ボックスの設置状況についてみると、「設置していない」が70.0%、「その他」が25.0%、「ペットボトル」が17.5%、「食品トレー」が5.0%の順であった。

表 3.3.37 小売店、販売店の資源物回収ボックスの設置状況

項目	回答数	割合
1.ペットボトル	7	17.5%
2.食品トレー	2	5.0%
3.牛乳パック	0	0.0%
4.設置していない	28	70.0%
5.その他	10	25.0%
合計	47	-

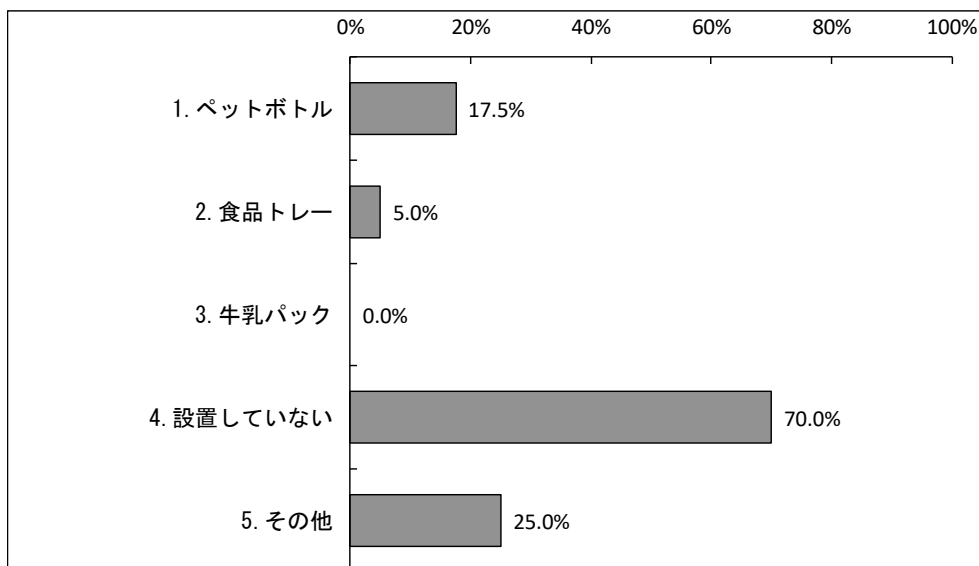


図 3.3.102 小売店、販売店の資源物回収ボックスの設置状況

(5) ごみ減量やリサイクルのために取り組んでいること（自由記入）

小売店、販売店のごみ減量やリサイクルのために取り組んでいることについて、自由記入で得られた回答を以下に示す。

なお、明らかな誤字以外は、基本的に原文のまま掲載している。

- クリーニング袋をお客様にくばって、使用してもらう様にしている。
- 分別をしっかりしている。
- ダンボールゴミのリサイクル。
- 道路に捨てられているペットボトルや缶やビン、タバコの吸い殻等はマメに拾って各々処理しています。
- 食品残さ削減の取組。
- 出た不要な書類の裏側をメモ帳にして使用している。

3.3.20 経年変化

(1) 一般廃棄物収集運搬許可業者に委託していない理由

一般廃棄物収集運搬許可業者に委託していない理由について経年変化をみると、「ほとんどごみが出ないから。」、「区の収集（ごみ集積所）に出しているから。」と回答した割合は低くなっており、「値段が高いから。」、「一般廃棄物処理業者がよく分からないから。」、「自社で清掃工場に運んでいるから。」、「親会社や関連会社が処理しているから。」と回答した割合は高くなっている。

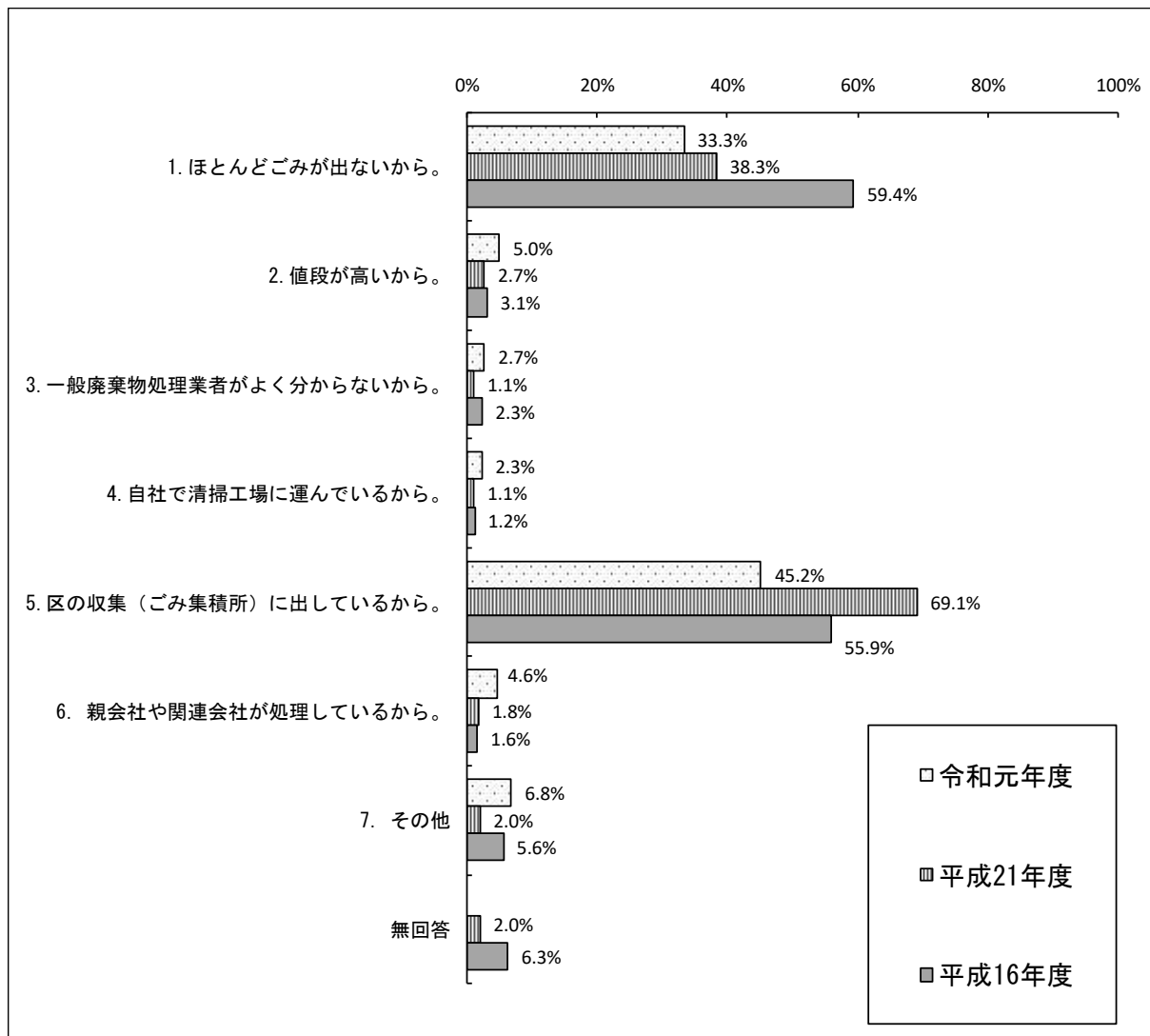


図 3.3.103 一般廃棄物収集運搬許可業者に委託していない理由の経年変化

(2) ごみ排出量の変化に対する認識

ごみ排出量の変化に対する認識について経年変化をみると、「増えている。」、「やや増えている。」と回答した割合は高くなっている。

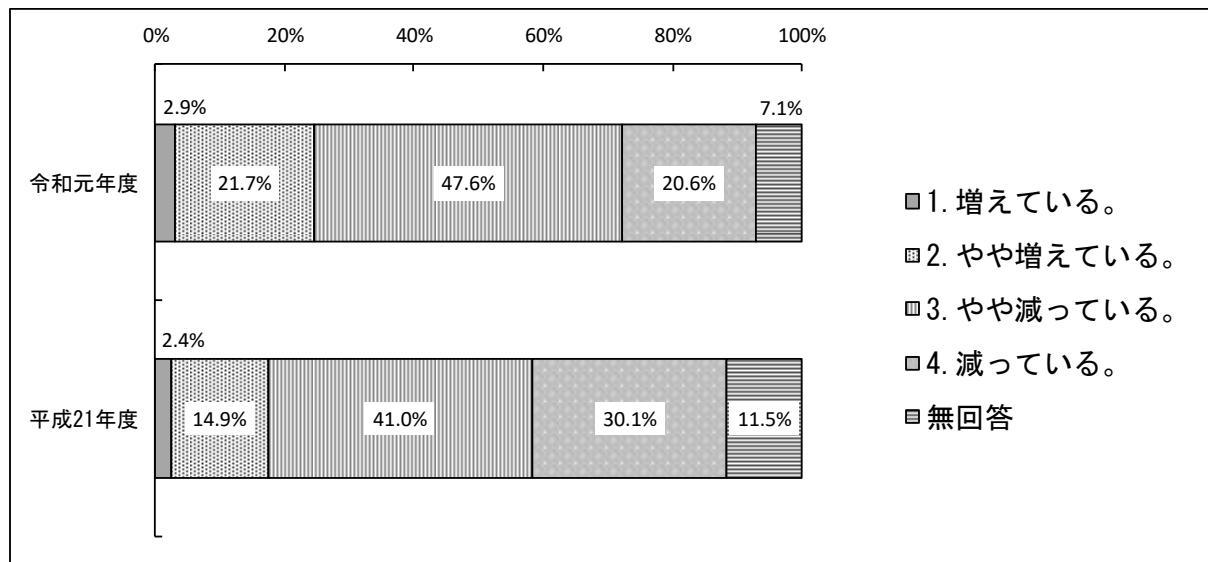


図 3.3.104 ごみ排出量の変化に対する認識についての経年変化

(3) 包装材、レジ袋等の使用状況（『小売店』『販売店』限定）

小売店、販売店の包装材、レジ袋等の使用状況について経年変化をみると、「過剰包装の場合がある。」、「ものによっては過剰包装の場合がある。」と回答した割合は低くなっている。

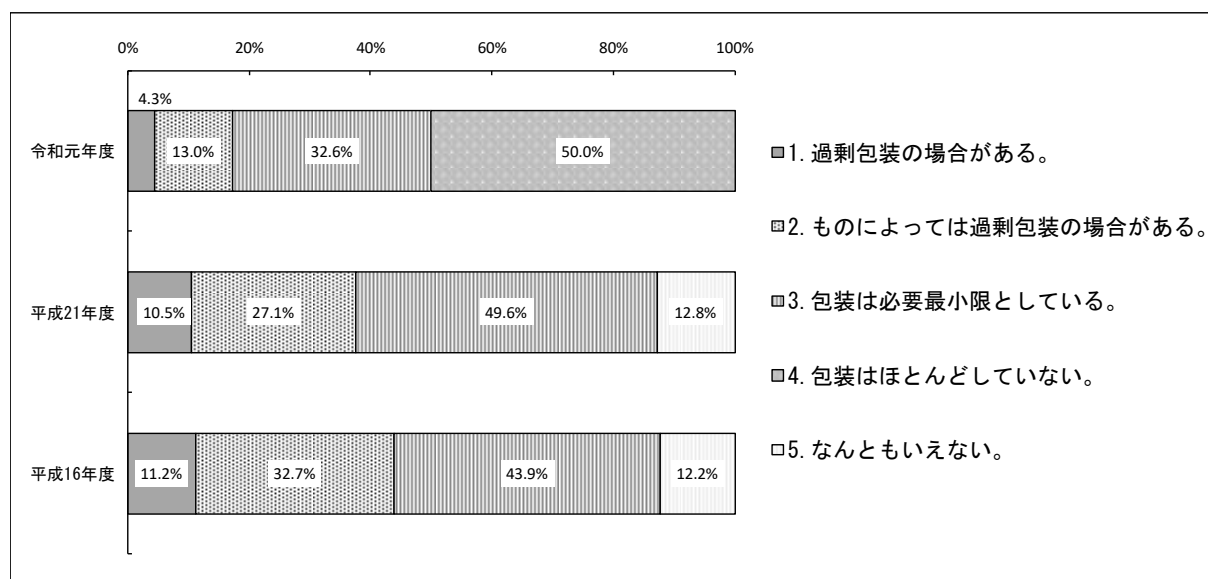


図 3.3.105 小売店、販売店の包装材、レジ袋等の使用状況についての経年変化

(4) ごみの減量やリサイクルの取り組み（『小売店』『販売店』限定）

ア) レジ袋の削減に関する取り組み

小売店、販売店のレジ袋の削減に関する取り組みについて経年変化をみると、大きな変化はみられない。

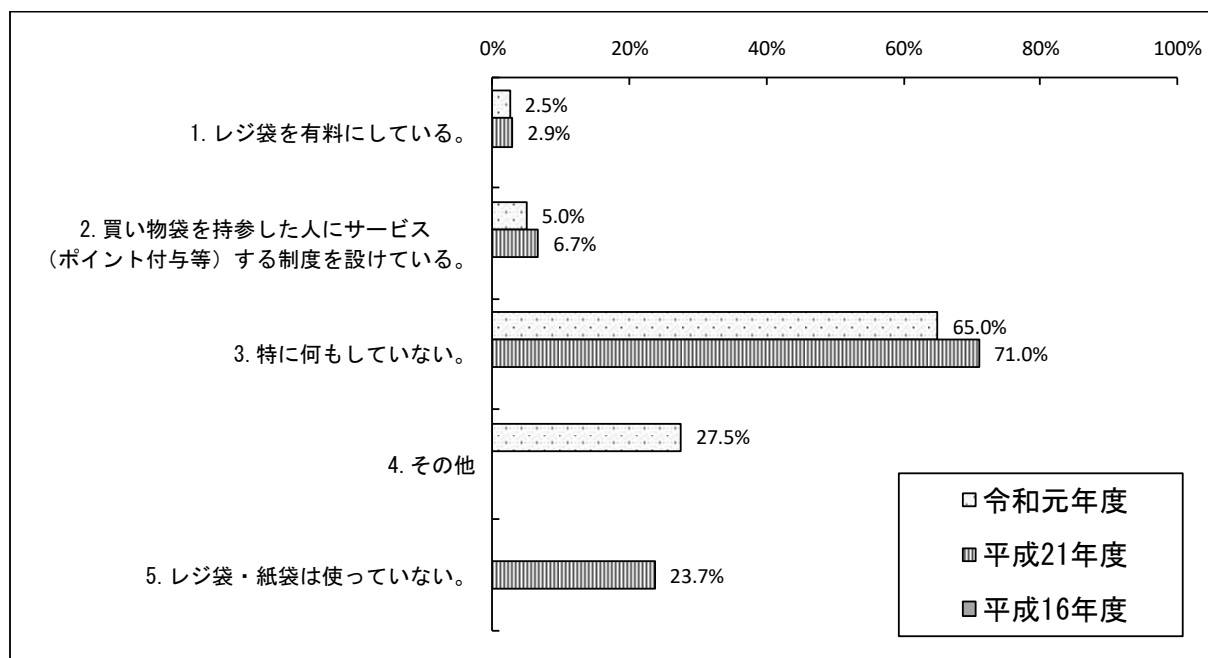


図 3.3.106 小売店、販売店のレジ袋の削減に関する取り組みについての経年変化

イ) 簡易包装

小売店、販売店の簡易包装の実施状況について経年変化をみると、「している。」、「していない。」と回答した割合はともに高くなっている。

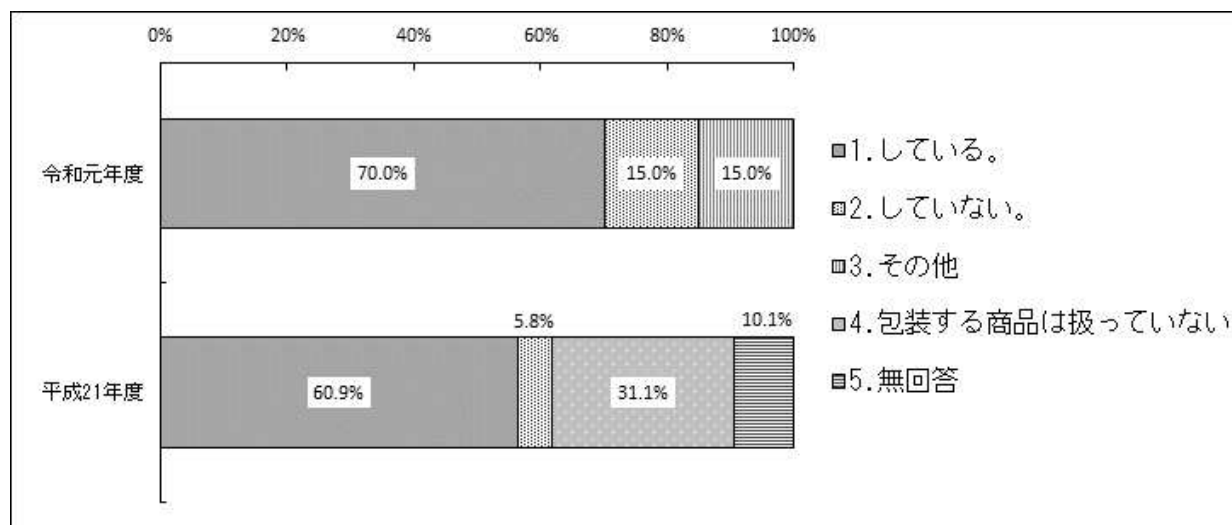


図 3.3.107 小売店、販売店の簡易包装の実施状況についての経年変化

ウ) 詰め替え製品のある商品等の販売

小売店、販売店の詰め替え製品のある商品等の販売状況について経年変化をみると、「販売していない。」と回答した割合が高くなっている。

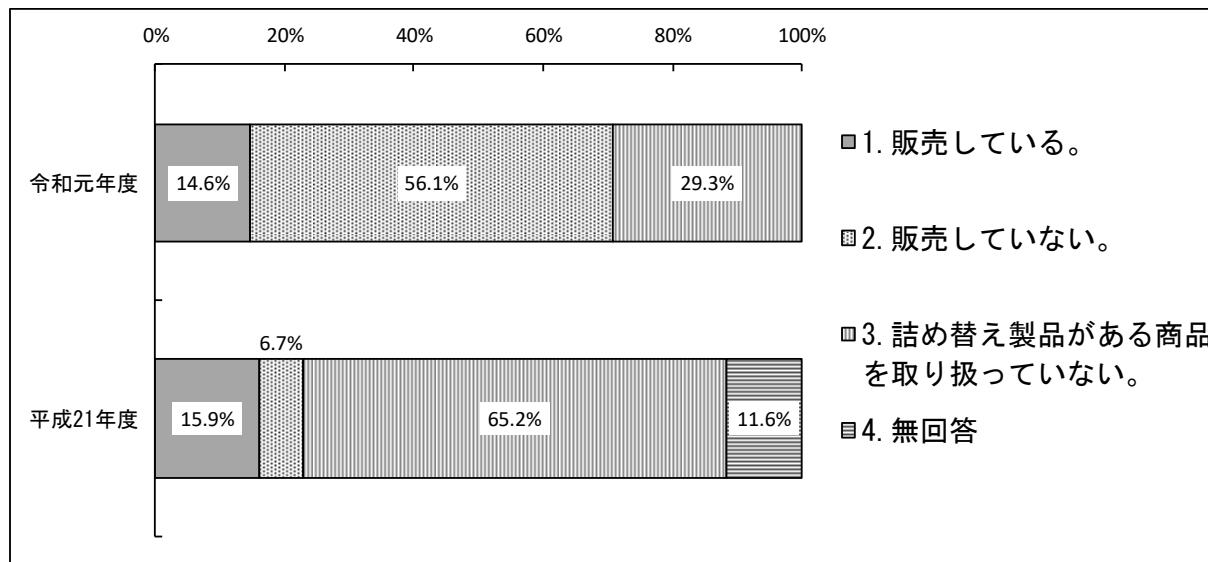


図 3.3.108 小売店、販売店の詰め替え製品のある商品等の販売状況についての経年変化

エ) 資源物回収ボックスの設置

小売店、販売店の資源物回収ボックスの設置状況について経年変化をみると、すべての資源物について設置の割合が低くなっている。

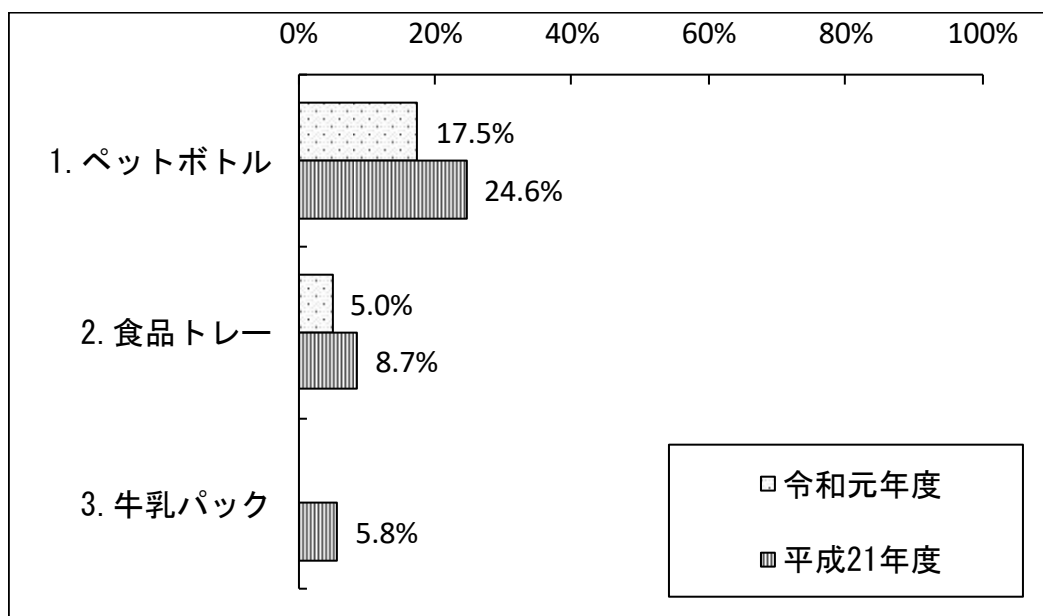


図 3.3.109 小売店、販売店の資源物回収ボックスの設置状況についての経年変化

3.3.21 まとめ

事業所のごみ減量に対する意識調査結果の概要を表 3.3.38～表 3.3.40 に示す。また、特に重要と思われる結果について以下に整理し、調査結果から考えられる状況について考察する。

(1) 事業所の属性について

事業所の属性について、抽出条件を反映して従業員数が 10 人未満、墨田区内での営業年数が 20 年以上の割合が半数以上となっている。経年変化をみると、「販売店、店舗」、「工場、作業所」の割合が低くなり、「事務所・営業所」の割合が高くなっている。また、事業所の形態について、「ビル等に入居」の割合が高くなっている。

(2) ごみ集積所への排出方法について（問 1、問 2）

ごみ集積所への排出有無について、「出している。」と回答した事業所が 60.3%、「出していない。」と回答した事業所が 36.5%であった。

また、住宅併設の事業所の、家庭ごみと事業系ごみの分別状況についてみると、「分別している。」と回答した事業所が 82.5%、「だいたい分別している。」と回答した事業所が 7.5%、「分別していない。」と回答した事業所が 10.0%であった。

以上のことから、住宅併設である事業所の 10.0%が家庭ごみと事業系ごみの分別を行っておらず、今後も適切な指導が必要と考えられる。また、「燃やすごみ」については、ごみ集積所に 1 回に 5 袋以上のごみを排出していると回答している事業所もみられたため、事業系ごみのごみ集積所への排出ルール等も検討していく必要があると考えられる。

(3) 食品ロス削減推進法、廃プラスチックの排出方法の認知度について（問 4、問 8）

食品ロス削減推進法の認知度について、「知っているが内容はよく分からない。」と回答した事業所が 50.5%、「知らない。」と回答した事業所が 31.5%である一方、「十分理解している。」と回答した事業所は 14.3%と低くなっている。食品ロスに関連すると考えられる事業形態が「飲食店」の事業所についてみると、「知っているが内容はよく分からない。」が 80.0%となっており、食品ロス削減推進法の内容については十分に認知されていないことが伺える。

また、廃プラスチックの排出方法について、「知っていた。」が 55.0%、「知らなかった。」が 41.8%であった。業種によってばらつきがみられるが、従業員数が多い事業所及び墨田区での営業年数が長い事業所ほど「知っていた。」の割合が高くなっている。

以上のことから、ごみ処理に関する法の認知度は高いとはいえず、今後も法令順守についての周知や適切な指導が必要と考えられる。

(4) ごみの減量や資源化を検討している品目について（問 13）

「コピー用紙、OA 用紙」が 44.7%と最も割合が高く、次いで「雑がみ」が 38.4%、「段ボール」が 25.7%の順であった。また、従業員数が 100 人未満の事業所が「コピー用紙、OA 用紙」、「雑がみ」、「段ボール」の資源化を検討している傾向がみられる。

以上のことから、「コピー用紙、OA用紙」、「雑がみ」、「段ボール」を含む「紙類」に関しては、資源化の余地がある事業所が存在していると考えられるため、これらの品目を「燃やすごみ」から「資源物」へと排出されるような施策を検討し、周知していく必要があると考えられる。

(5) ごみに関する情報の入手先及び必要と考えている施策について（問14、問15）

ごみに関する情報の入手先について、「区の広報」が25.9%と最も割合が高く、次いで「インターネット」が25.7%、「特になし」が24.1%の順であった。なお、事業所の形態が「戸建て住宅と兼用」の事業所では、ごみに関する情報を「区の広報」によって入手している割合が高くなっている。

また、必要と考えている施策について、「ごみ減量化・資源化マニュアルの提供」が34.9%と最も割合が高く、次いで「ごみ減量化・資源化の事例紹介」が32.5%、「事業者に対するごみの減量・リサイクルの啓発、指導」が28.6%の順であった。事業所の属性を問わず、「ごみ減量化・資源化マニュアルの提供」、「ごみ減量化・資源化の事例紹介」、「事業者に対するごみの減量・リサイクルの啓発、指導」の割合が高くなっている。

以上のことから、事業所は「マニュアル」や「事例紹介」といった、実用的ですぐに活用できる情報を求めているため、墨田区に適した「マニュアル」や「事例紹介」を作成し、これに踏まえて関連法令や区の施策を周知することが効果的であると考えられる。また、現状は、区から事業所への情報提供は「区の広報」、区のホームページを含めた「インターネット」に占める割合が高いことから、「区の広報」、「区のホームページ」に「マニュアル」や「事例紹介」を掲載し、必要に応じて印刷物を事業所に配布することを検討する必要がある。

表 3.3.38 事業所のごみ減量に対する意識調査結果の整理 (1)

項目	調査結果のまとめ
事業所の属性 (経年変化)	<ul style="list-style-type: none"> 事業形態について、「販売店、店舗」、「工場、作業所」の割合が低くなり、「事務所・営業所」の割合が高くなっている。 従業員数について、30人未満の事業所の割合が高くなっている。 事業所の形態について、「ビル等に入居」の割合が高くなっている。 墨田区内での営業年数について、20年以上の割合が半数以上となっている。
ごみ集積所への排出有無	<ul style="list-style-type: none"> ごみ集積所への排出有無について、「出している。」と回答した事業所が60.3%、「出していない。」と回答した事業所が36.5%であった。 従業員が200人以上の事業所で「ごみ集積所へごみを排出している。」と回答した事業所はなかった。 墨田区内での営業年数が1年未満の事業所は、ごみ集積所へごみを排出している割合が低くなっている。
家庭ごみと事業系ごみの分別状況	<ul style="list-style-type: none"> 住宅併設の事業所の、家庭ごみと事業系ごみの分別状況について、「分別している。」と回答した事業所が82.5%、「だいたい分別している。」と回答した事業所が7.5%であった。 一方、「分別していない。」と回答した事業所が10.0%であった。
一般廃棄物収集運搬許可業者に委託していない理由	<ul style="list-style-type: none"> 委託していない理由について、「区の収集(ごみ集積所)に出しているから。」、「ほとんどごみが出ないから。」の2項目で約80%を占めている。 経年変化をみると、「ほとんどごみが出ないから。」、「区の収集(ごみ集積所)に出しているから。」と回答した割合は低くなっており、「値段が高いから。」、「一般廃棄物処理業者がよく分からないから。」、「自社で清掃工場に運んでいるから。」、「親会社や関連会社が処理しているから。」と回答した割合は高くなっている。
食品ロス削減推進法の認知度	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロス削減推進法の認知度について、「知っているが内容はよく分からない。」と回答した事業所が50.5%、「知らない。」と回答した事業所が31.5%であった。一方、「十分理解している。」と回答した事業所は14.3%であった。 食品ロス削減推進法に関連する業種である「卸売業、小売業」や「宿泊業、飲食サービス業」、事業形態が「飲食店」であっても「知らない。」と回答した事業所が多く、食品ロス削減推進法の認知度が低いことが伺える。
食品ロス削減策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロス削減策の実施状況について、「特に実施していない。」、「その他」、「少量(小盛)商品・メニュー提供」の順であった。 「その他」の回答としては、「余分に買い物しない」、「商品の冷凍保存」等が挙げられている。
食品ロス削減策を実施していない理由	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロス削減策を実施していない理由について、「食品ロスが発生しない」と回答した事業所が81.6%と大部分を占めている。

表 3.3.39 事業所のごみ減量に対する意識調査結果の整理 (2)

項目	調査結果のまとめ
ごみの排出・分別状況及び排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・「区のごみ集積所に、燃やすごみとして出している。」が最も高くなっている品目は、「燃やすごみ」、「生ごみ」、「雑がみ」であった。ただし、「生ごみ」については「発生しない。」の割合も高くなっている。 ・「区のごみ集積所に、資源物として出している。」が最も高くなっている品目は、「新聞」、「雑誌」、「段ボール」、「缶」、「びん」、「ペットボトル」であった。ただし、「新聞」、「雑誌」については「発生しない。」の割合も高くなっている。 ・「区のごみ集積所に、燃やさないごみとして出している。」が最も高くなっている品目は、「燃やさないごみ」、「蛍光灯」であった。 ・「紙パック」は「発生しない。」の割合が最も高くなっている。 ・排出量について、1回に出すごみの量(1袋=45L換算)は、すべての品目において「1袋未満」の割合が最も高くなっており、「燃やすごみ」以外の品目で「1袋以上」と回答した事業所の割合は低くなっている。 ・「燃やすごみ」については、ごみ集積所に1回に5袋以上排出していると回答している事業所もみられた。
廃プラスチックの排出方法についての理解度	<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチックの排出方法の理解度について、「知っていた。」が55.0%、「知らなかった。」が41.8%であった。 ・業種によってばらつきがみられるが、従業員数が多い事業所及び墨田区での営業年数が長い事業所ほど「知っていた。」の割合が高くなっている。
ごみ排出量の変化に対する認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ排出量の変化に対する認識について、「やや減っている。」が47.6%と最も割合が高く、次いで「やや増えている。」が21.7%、「減っている。」が20.6%の順であり、「増えている。」と回答した事業所は2.9%であった。経年変化をみると、「増えている。」、「やや増えている。」の割合が高くなっている。 ・全体的に「やや減っている。」、「減っている。」の割合が高くなっているが、業種では「金融業、保険業」、事業形態では「ホテル、旅館」については、「増えている。」、「やや増えている。」の割合が高くなっている。
ごみの減量化、資源化、分別に関する取り組みの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量や分別に関する取り組みの実施状況について、「書類のペーパーレス化に努めている。」、「缶やびんの分別回収箱を設置している。」、「古紙回収箱を設置している。」の順であった。
ごみの減量や資源化に取り組む理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量や分別に取り組む理由について、「ごみを減らすことでコスト削減につながるため。」、「会社の社会的責任を果たすため。」、「法律で定められているため。」の順であった。 ・属性を問わず、「ごみを減らすことでコスト削減につながるため。」が最も大きな理由となっている。
ごみの減量や資源化に取り組むうえでの問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・「特に問題ない。」の割合が39.7%、「資源化できるものが出ない、または発生量が少ない。」の割合が22.2%であった。 ・問題点として挙げられている項目は「資源物を保管しておく場所がない。」、「機密書類が多く、リサイクルが難しい。」、「従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい。」の順であった。 ・事業所の形態が「共同住宅と兼用」である事業所は、他の属性と比較して「特に問題ない。」の割合が低くなっている。
ごみの減量化、資源化を検討している品目	<ul style="list-style-type: none"> ・減量や分別を検討している品目について、「コピー用紙、OA用紙」、「雑がみ」、「段ボール」の順であった。 ・従業員数が100人未満の事業所は、「コピー用紙、OA用紙」、「雑がみ」、「段ボール」の資源化を検討している割合が高くなっている。

表 3.3.40 事業所のごみ減量に対する意識調査結果の整理 (3)

項目	調査結果のまとめ
ごみに関する情報の入手先	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみに関する情報の入手先について、「区の広報」、「インターネット」、「特になし」の順であった。 ・ 事業所の形態が「戸建て住宅と兼用」の事業所は、ごみに関する情報を「区の広報」によって入手している割合が高くなっている。
必要と考えている施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要と考えている施策について、「ごみ減量化・資源化マニュアルの提供」、「ごみ減量化・資源化の事例紹介」、「事業者に対するごみの減量・リサイクルの啓発、指導」の順で、事業所の属性を問わず、割合が高くなっている。
自由意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「区のごみ処理に対する要望・意見」(13件)
包装材、レジ袋等の使用状況（『小売店』『販売店』限定）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包装材、レジ袋等の使用状況について、「包装はほとんどしていない。」が 50.0%と最も高く、次いで「包装は必要最小限としている。」が 32.6%となっている。 ・ 経年変化をみると、「過剰包装の場合がある。」、「ものによっては過剰包装の場合がある。」の割合は低くなっている。
ごみの減量やりサイクルの取り組み（『小売店』『販売店』限定）	<ul style="list-style-type: none"> ・ レジ袋の削減に関する取り組みについてみると、「特に何もしていない。」が 65.0%と最も割合が高く、次いで「その他」、「買い物袋を持参した人にサービス（ポイント付与等）する制度を設けている。」、「レジ袋を有料にしている。」の順であった。 ・ 資源物回収ボックスの設置について、「設置していない」が 70.0%となっており、経年変化をみると、すべての資源物について回収ボックスの設置割合が減少している。 ・ ごみ減量やりサイクルのために取り組んでいることについて、「クリーニング袋の配布」、「分別の徹底」、「食品残さ削減」等が挙げられている。

4. 河川のプラスチックごみ回収調査

4.1 調査概要

4.1.1 調査の目的

河川のプラスチックごみ回収調査は、河川に流れているプラスチックごみを回収し、その組成を確認するとともに、調査結果を公表することで区民に対して河川の環境保全やプラスチックごみ削減を啓発することを目的として実施した。

4.1.2 調査対象河川

北十間川（荒川水系）

4.1.3 調査項目

河川を流れているプラスチックごみを回収し、組成の確認を行った。

なお、調査対象物はプラスチックごみとするが、プラスチック以外のごみについても回収し、大まかな分類、計測を行った。なお、調査時には河川状況（天候、風速、風向、気温、水温、流速（目測））を記録した。

4.1.4 調査期間

調査期間は、2019年10月22日（火）から10月25日（金）までの4日間とした。

4.2 調査方法

4.2.1 河川への網の設置

ロープ、ウキ、錨等を使用して河川に網を設置した。網は、魚類等を誤獲しないように農業用のネットを使用した。また、浮いているごみから水中を流れていくごみまでまんべんなく回収するため、水面から約30cmの高さから川底まで設置した。なお、船舶との接触を回避するため、かんばん等で調査中であることを示すと同時に、船舶から視認されやすい色・大きさのウキを設置した。



図 4.2.1 網の設置状況

4.2.2 ごみの回収及び計量・記録

網の設置の3日後に、網にかかったごみを回収し、分類・計量・写真撮影等を行った。

4.2.3 調査地点

調査地点は、北十間川の東寄り、福神橋から旧中川合流部までの1地点とした。

4.3 調査結果

4.3.1 確認されたごみ

本調査で確認されたごみ（湿重量で 4.7 kg）の組成（湿重量割合）を円グラフに示す。

発達した低気圧と台風 21 号の影響により、強い河川の逆流が発生したため、確認されたごみの大半は 2019 年 10 月 25 日（金）の 1 日間で回収したものであった。

確認されたごみの内訳をみると、草木類（ヨシの枯葉等）が 50.5%と最も多くの割合を占めている。次いでその他不燃物（軽石等）が 36.2%、プラスチック類（レジ袋、プラスチック製品の破片、パック容器等）が 7.3%であった。

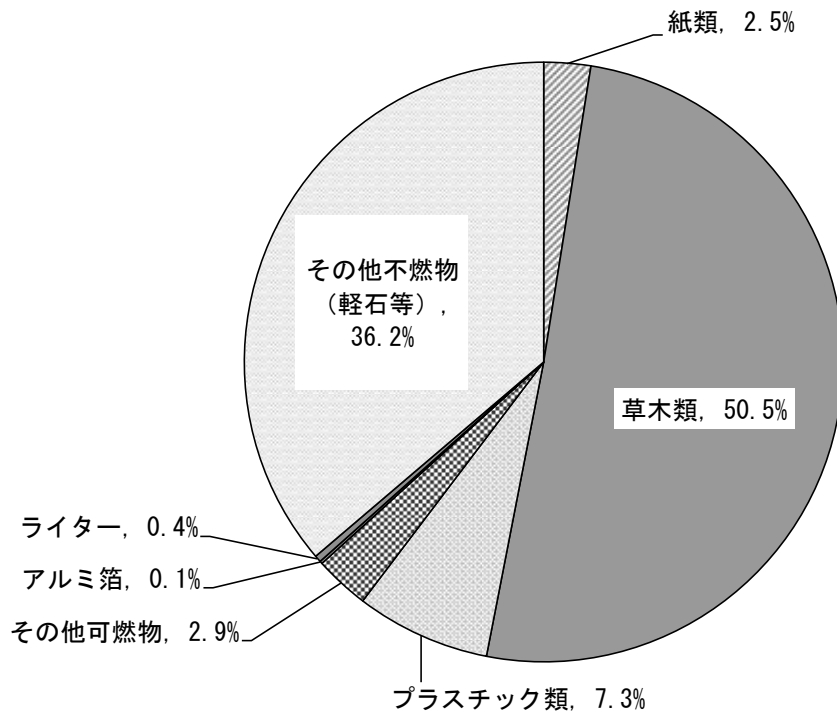


図 4.3.1 確認されたごみの種類（組成）



写真左：確認されたプラスチック類 写真右：ヨシの枯葉等

4.3.2 調査結果からの考察

確認されたプラスチックごみ（湿重量で 345 g）の種類を円グラフに示す。

プラスチックの破片等で構成される「その他プラスチック類」が 34.8%と最も多く、河川の段階から既にプラスチック製品等からマイクロプラスチック^{*}への移行が進行していることが伺える。

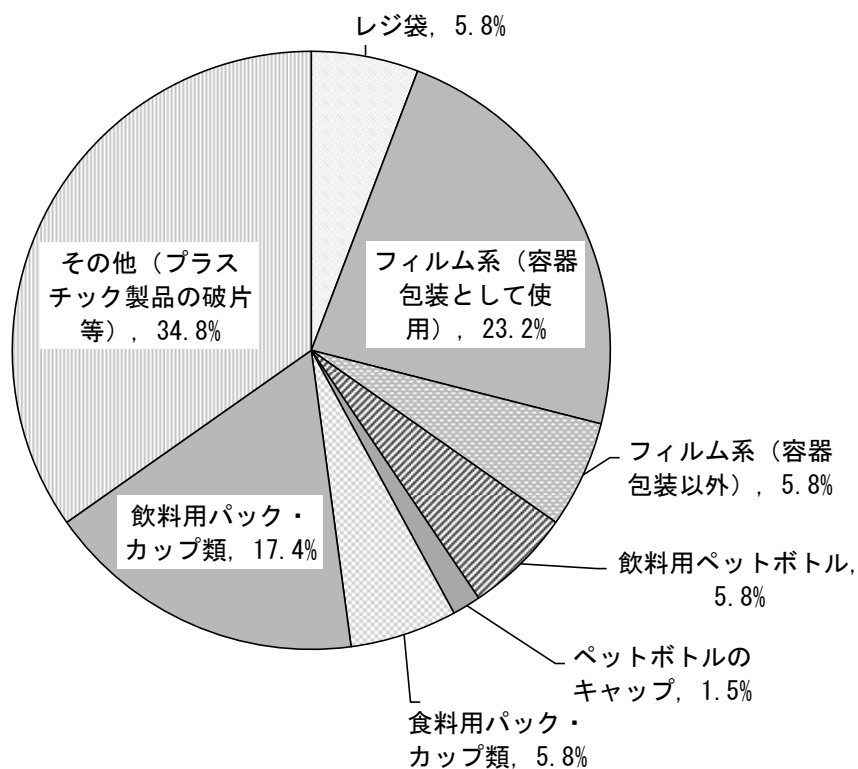


図 4.3.2 確認されたプラスチックごみの種類



写真：プラスチックの破片

マイクロプラスチックとは？

マイクロプラスチックは、海や自然の中に拡散した、大きさが5ミリメートル以下の微小なプラスチック粒子のことで、紫外線や波浪によって微小な断片になったプラスチックや、洗濯排水に含まれる繊維、研磨材として含まれているマイクロビーズ等が含まれます。

近年、マイクロプラスチックによる生態系への悪影響が問題視されており、特にマイクロプラスチックの海洋汚染対策が世界中で進められています。

海のごみの8割が陸地から移動してきたものと考えられていることから、河川を經由して海域に流入するプラスチックも多く存在すると考えられます。しかし、まだ調査等が進んでおらず、不明な点も多いため、今後は環境省の「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」等に則った調査が、日本全国で展開されると考えられます。今回、墨田区ではそれに先駆けて独自の調査を実施しました。